
伊奈町

薬師堂根遺跡

上尾都市計画事業伊奈特定土地地区画整理事業関係

埋蔵文化財発掘調査報告

— III —

1998

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



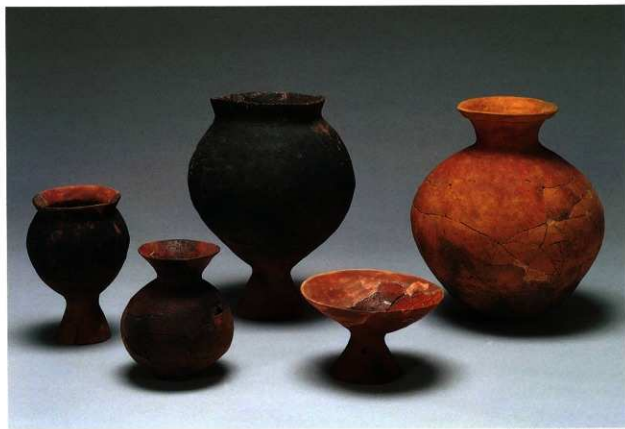
薬師堂根遺跡全景



薬師堂根遺跡B区全景



第22号住居跡出土埋甕



第36号住居跡出土土器

序

埼玉県では伊奈町北部地域において、良質な住宅やハイテクの就業地区を備えたモデルタウンの建設を進めて行くことになりました。自然と融合した地域社会を形成するための基盤づくりを目的として、上尾都市計画事業伊奈特定土地区画整理事業が進められています。

事業計画地内に存在する埋蔵文化財の取り扱いについては、関係機関が慎重に協議してまいりましたが、やむを得ず記録保存の措置を講じることになりました。発掘調査は埼玉県教育庁生涯学習部文化財保護課の調整により、当事業団が埼玉県伊奈新都市建設事務所の委託を受け、発掘調査を実施いたしました。

本書はこれらの遺跡のうち、薬師堂根遺跡の発掘調査の報告書であります。

伊奈町は大宮台地の東縁に位置し、自然が比較的多く残されている地域です。この豊かな環境のもとで営まれた人々の足跡は、遺跡として数多く残されており、ます。

薬師堂根遺跡はこれまでに2回の調査が行われました。その結果、縄文時代早期から近世に至るまでの多くの遺構や遺物が発見されました。

主な調査成果をみますと、弥生時代末から古墳時代初頭では、竪穴住居跡が8軒発見されました。これまでこの事業計画地内では、同時期の集落と方形周溝墓は向原遺跡で確認されていただけでした。向原遺跡と薬師堂根遺跡は谷を隔てて向かい合っており、その関連が注目されます。

中世では多数の掘立柱建物跡と井戸と土壌墓が発見されました。それらは調査区の南半部に、堀で区画された中に集中していました。これらの遺構からは青銅製の鯉口の破片、古銭、陶器、磁器、板碑などが出土しました。調査地点から約100m離れた所には明治4年に廃寺になったという記録の残る薬師堂跡があります。今回の調査によって、文献に残されなかったこの地域の中世を知る一つの手掛かりを得ることができました。

これらの多くの成果をまとめたものが本書であります。埋蔵文化財の保護や学術研究の基礎資料として、また、埋蔵文化財の普及・啓発の資料として広く活用していただければ幸いです。

本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力をいただきました埼玉県教育庁生涯学習部文化財保護課をはじめ、発掘調査から報告書刊行に至るまで御協力いただきました埼玉県伊奈新都市建設事務所、伊奈町教育委員会、並びに地元関係各位に対し深く感謝申し上げます。

平成10年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長 荒井 桂

例言

1. 本書は埼玉県北足立郡伊奈町に所在する、薬師堂根遺跡に関する発掘調査報告書である。遺跡は第1次調査と第2次調査が行われており、その代表番地と発掘調査に対する指示通知は以下の通りである。

第1次調査
北足立郡伊奈町大字小針内宿字薬師堂根980番地
平成7年6月9日付け 教文第2-47号
平成8年4月26日付け 教文第2-27号

第2次調査
北足立郡伊奈町大字小針内宿字薬師堂根882番地
平成7年8月21日付け 教文第2-81号なお、本書では第1次調査をB区、第2次調査をA区として報告する。
2. 遺跡の略称は発掘調査時の遺跡のコード番号である「18-70」を用いている。
3. 発掘調査は、上尾都市計画事業伊奈特定土地区画整理事業に伴うもので、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が調整し、埼玉県伊奈新都市建設事務所の委託により、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 発掘調査の調査期間・担当者は以下の通りである。

第1次調査
平成7年5月1日～平成8年3月29日
橋本勉・石坂俊郎・大谷徹・宮瀧由紀子
平成8年4月1日～平成8年10月31日
橋本勉・宮瀧由紀子

第2次調査
平成7年9月1日～平成7年10月15日
橋本勉・石坂俊郎
5. 報告書作成事業は平成9年度に受託し、平成9年4月1日～平成10年3月31日まで水口由紀子が担当し、実施した。

なお、発掘調査と整理作業の組織は第1章第3節に示した。
6. 遺跡の基準点測量・空中写真測量・空中写真撮影は株式会社中央航業に、巻頭カラー写真・土器展開写真の撮影は小川忠博氏に委託した。また、樹種同定・放射性炭素年代測定は古環境研究所に、人骨の鑑定は株式会社バリノ・サーヴェイに委託した。
7. 出土遺物の整理および挿図の作成は、石器を西井幸雄・上野真由美、縄文土器を金子直行・渡辺清志、その他は水口が行った。
8. 写真撮影は、発掘調査時の遺構撮影は各担当者が行い、遺物撮影は大屋道則と水口が行った。
9. 本書の執筆は第1章第1節を埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課、縄文時代の遺物を金子直行、その他は水口が行った。
10. 本書の編集は当事業団資料部長、同副部長の監修のもとに資料部資料整理第二課の水口が行った。
11. 本書にかかる資料は平成10年度以降、埼玉県埋蔵文化財センターが管理・保管する。
12. 来年度隣接地の調査を行い、同年度中に報告書を刊行する予定である。
13. 本書を作成するにあたり、下記の方々から御教示、御協力を賜った。記して謝意を表します。
伊奈町教育委員会 荒川正夫 井上喜久男
笹森紀己子 成田涼子 橋口定志 林 宏一
藤沢良祐 水本和美 野内秀明 (敬称略)

凡例

1. 本書の遺跡全体図におけるX・Yの座標値は、国土標準平面直角座標第IX系に基づく座標値を示している。また、各遺構図における方位指示は、全て座標北を示している。
2. 例言でも触れたが、本書では第1次調査区をB区、第2次調査区をA区として報告する。
3. グリッドは一辺10mで、A区・B区全体に設定した。その呼称は北西隅の杭を基準とし、西から東へ向かって1～15、北から南へ向かってA～Vと付けた。
4. 遺構図の縮尺は原則として以下のとおりである。
住居跡・・・1/60
掘立柱建物跡・・・1/60
土壌・・・・・・1/60
井戸・・・・・・1/60
遺物出土状態・・・1/30
遺物実測図の縮尺はスケール及び縮尺率をその都度表記して示した。
5. 本書に掲載した挿図に使用されている遺構の略称は以下のとおりである。
S J：住居跡 S B：掘立柱建物跡 F P：炉穴
S C：陥穴 S K：土壌 S E：井戸 S D：溝
S F：炭焼窯 S S：柵列 P：ピット
S X：その他の遺構
6. 本書を刊行するにあたり、調査段階で付けていた遺構番号を変更し、振り替えた。なお、遺構の新旧対象については遺構別の一覧に項目を設けて掲載した。
7. 遺構断面図における水平数値は、海拔高度を示しており、単位はmである。また、土層説明の中の色調は「新版標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1991）に照らし最も近い色相を記した。
8. 本書に掲載した地形図は、建設省国土地理院発行の1/50000の地形図を使用した。
9. 挿図の以下の場合については網をかけて示した。
住居跡の炉跡
炉穴の焼けた部分
掘立柱建物跡の柱痕
遺物の赤彩範囲
10. 遺物観察表の凡例は以下のとおりである。
 - ・法量の単位はcmである。
 - ・法量の（ ）内の数値は遺物の残存率が50%に満たない場合の推定値である。
 - ・高坏の脚径、台付壺の脚台径は底径の欄に示した。
 - ・金属製品・石製品の場合、長さは口径、幅は底径、厚さは器高の欄に示した。
 - ・胎土の略号は以下の内容を示している。
A：石英・白色粒子 B：赤色粒子 C：砂粒
D：小石 E：白色針状物質 F：角閃石
G：雲母 H：片岩
 - ・焼成は次の記号で表記した。
A：たいへん良好 B：良好
C：ややあまい D：あまい
 - ・残存率は%で表記したが、破片土器の場合は図化した部分の残存を示しており、必ずしも土器全体に占める割合ではない。
 - ・備考の土器底部調整は以下の記号で表記した。
A：回転糸切り無調整 B：全面回転ヘラ削り
C：全面手持ちヘラ削り D：静止糸切り無調整
E：モミ丘痕 F：スノコ状丘痕
11. 板碑の銘文中の異体字等は、釈文では新字に改めて記した。

目次

口絵
序
例言
凡例
目次

I 調査の概要	
1. 発掘調査に至る経過	1
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2
3. 発掘調査、整理・報告書刊行の組織	3
II 遺跡の立地と環境	4
III 遺跡の概要	7
IV A区の調査	
1. 調査の概要	10
2. 縄文時代の遺構と遺物	10
(1) 住居跡	10
(2) 土壌	32
(3) その他の遺構	40
(4) グリッド出土遺物	41
3. その他の時代の遺構と遺物	43
(1) 土壌	43
(2) 溝	45
V B区の調査	
1. 調査の概要	46
2. 縄文時代の遺構と遺物	47
(1) 住居跡	47
(2) 炉穴	80
(3) 陥穴	86
(4) 土壌	87
(5) グリッド出土遺物	109
3. 古墳時代初頭の遺構と遺物	124
(1) 住居跡	124
4. 平安時代の遺構と遺物	143
(1) 住居跡	143
(2) 土壌	145
5. 中世以降の遺構と遺物	146
(1) 掘立柱建物跡	146
(2) 井戸	161
(3) 土壌・溝	182
(4) 炭焼窯	288
(5) グリッド出土遺物	289
VI 結語	295
附編	317
I 薬師堂根遺跡の自然科学分析	
1. 薬師堂根遺跡出土木材および炭化材の樹種同定	
2. 薬師堂根遺跡出土炭化材の年代測定	
II 薬師堂根遺跡出土の人骨について	

挿 図 目 次

第1図	埼玉県の地形図	4	第36図	A区縄文時代土壌5)	37
第2図	周辺の遺跡分布図	6	第37図	A区縄文時代土壌出土遺物	38
第3図	遺跡周辺の地形図	8	第38図	SX 1	40
第4図	A区全体図	9	第39図	SX 2	40
第5図	第1号住居跡	11	第40図	A区縄文時代グリッド出土遺物(1)	42
第6図	第1号住居跡出土遺物	11	第41図	A区縄文時代グリッド出土遺物(2)	43
第7図	第2号住居跡	14	第42図	A区古墳時代以降土壌	44
第8図	第2号住居跡出土遺物	14	第43図	A区古墳時代以降土壌出土遺物	44
第9図	第2号住居跡遺物分布図	15	第44図	第52号土壌	45
第10図	第3号住居跡	15	第45図	A区溝	45
第11図	第4号住居跡	16	第46図	B区全体図	46
第12図	第4号住居跡P 5遺物出土状態	17	第47図	第17号住居跡	47
第13図	第4号住居跡遺物分布図(1)	18	第48図	第18号住居跡・第19号住居跡	49
第14図	第4号住居跡出土遺物(1)	18	第49図	第18号住居跡遺物分布図	50
第15図	第4号住居跡遺物分布図(2)	19	第50図	第18号住居跡出土遺物	51
第16図	第4号住居跡出土遺物(2)	20	第51図	第19号住居跡遺物分布図・出土遺物	52
第17図	第5号住居跡	21	第52図	第20号住居跡	53
第18図	第6号住居跡・第7号住居跡	22	第53図	第20号住居跡出土遺物	53
第19図	第6号住居跡遺物分布図・出土遺物	23	第54図	第20号住居跡遺物分布図	54
第20図	第7号住居跡遺物分布図・出土遺物	23	第55図	第21号住居跡～第24号住居跡	55
第21図	第8号住居跡	24	第56図	第21号住居跡遺物分布図(1)	56
第22図	第9号住居跡	24	第57図	第21号住居跡遺物分布図(2)	57
第23図	第10号住居跡・第11号住居跡	25	第58図	第21号住居跡遺物分布図(3)	58
第24図	第12号住居跡	26	第59図	第21号住居跡出土遺物(1)	58
第25図	第13号住居跡	27	第60図	第21号住居跡出土遺物(2)	59
第26図	第13号住居跡遺物分布図・出土遺物	27	第61図	第21号住居跡出土遺物(3)	60
第27図	第14号住居跡	28	第62図	第21号住居跡出土遺物(4)	61
第28図	第14号住居跡遺物分布図・出土遺物	29	第63図	第22号住居跡	62
第29図	第15号住居跡	30	第64図	第22号住居跡埋蔵出土状態	62
第30図	第16号住居跡	31	第65図	第22号住居跡遺物分布図	64
第31図	第16号住居跡出土遺物	31	第66図	第22号住居跡出土遺物	65
第32図	A区縄文時代土壌(1)	33	第67図	第23号住居跡遺物分布図	66
第33図	A区縄文時代土壌(2)	34	第68図	第23号住居跡出土遺物	67
第34図	A区縄文時代土壌(3)	35	第69図	第24号住居跡遺物分布図・出土遺物	67
第35図	A区縄文時代土壌(4)	36	第70図	第25号住居跡	68

第71図	第25号住居跡出土遺物(1)	68	第108図	B区縄文時代土壇出土遺物(8)	106
第72図	第25号住居跡出土遺物(2)	69	第109図	B区縄文時代土壇出土遺物(9)	107
第73図	第25号住居跡遺物分布図	70	第110図	B区縄文時代土壇出土遺物(10)	108
第74図	第26号住居跡	71	第111図	縄文時代グリッド出土石器	111
第75図	第26号住居跡遺物分布図(1)	72	第112図	B区グリッド出土遺物・縄文時代早期(1)~113	
第76図	第26号住居跡遺物分布図(2)	73	第113図	B区グリッド出土遺物・縄文時代早期(2)~114	
第77図	第26号住居跡出土遺物(1)	74	第114図	B区グリッド出土遺物・縄文時代早期(3)~115	
第78図	第26号住居跡出土遺物(2)	75	第115図	B区グリッド出土遺物・縄文時代早期(4)~116	
第79図	第27号住居跡	76	第116図	B区グリッド出土遺物・縄文時代早期(5)~117	
第80図	第27号住居跡遺物分布図	76	第117図	B区グリッド出土遺物・縄文時代早期(6)~118	
第81図	第27号住居跡出土遺物	77	第118図	B区グリッド出土遺物・縄文時代早期(7)~119	
第82図	第28号住居跡	78	第119図	B区グリッド出土遺物・縄文時代早期(8)~120	
第83図	第28号住居跡遺物分布図・出土遺物	78	第120図	B区グリッド出土遺物・縄文時代早期(9)~121	
第84図	第29号住居跡	79	第121図	B区グリッド出土遺物・縄文時代早期(10)~122	
第85図	第29号住居跡出土遺物	79	第122図	B区グリッド出土遺物・縄文時代中期以降(1)~123	
第86図	第29号住居跡遺物分布図・出土遺物	80	第123図	B区グリッド出土遺物・縄文時代中期以降(2)~124	
第87図	B区炉穴(1)	81	第124図	第30号住居跡	125
第88図	B区炉穴(2)	82	第125図	第30号住居跡遺物出土状態	125
第89図	B区炉穴出土遺物(1)	83	第126図	第31号住居跡	126
第90図	第6号炉穴遺物分布図	84	第127図	第31号住居跡出土遺物	126
第91図	B区炉穴出土遺物(2)	85	第128図	第31号住居跡遺物分布図	127
第92図	第1号竈穴	87	第129図	第32号住居跡	128
第93図	B区縄文時代土壇(1)	88	第130図	第32号住居跡出土遺物	128
第94図	B区縄文時代土壇(2)	89	第131図	第33号住居跡	130
第95図	B区縄文時代土壇(3)	90	第132図	第33号住居跡遺物分布図	131
第96図	B区縄文時代土壇(4)	91	第133図	第33号住居跡出土遺物	132
第97図	B区縄文時代土壇(5)	92	第134図	第34号住居跡	134
第98図	B区縄文時代土壇(6)	93	第135図	第34号住居跡遺物分布図・出土遺物	134
第99図	B区縄文時代土壇(7)	94	第136図	第35号住居跡(1)	135
第100図	B区縄文時代土壇(8)	95	第137図	第35号住居跡(2)	136
第101図	B区縄文時代土壇出土遺物(1)	99	第138図	第35号住居跡遺物分布図(1)	137
第102図	B区縄文時代土壇出土遺物(2)	100	第139図	第35号住居跡遺物分布図(2)	138
第103図	B区縄文時代土壇出土遺物(3)	101	第140図	第35号住居跡出土遺物	138
第104図	B区縄文時代土壇出土遺物(4)	102	第141図	第36号住居跡	139
第105図	B区縄文時代土壇出土遺物(5)	103	第142図	第36号住居跡遺物分布図	140
第106図	B区縄文時代土壇出土遺物(6)	104	第143図	第36号住居跡出土遺物	141
第107図	B区縄文時代土壇出土遺物(7)	105	第144図	第37号住居跡	142

第145图 第37号住居跡出土遺物	142	第182图 井戸出土遺物(5)	178
第146图 第38号住居跡	144	第183图 B区土壌・溝平面図(1)の位置	189
第147图 第38号住居跡遺物分布図・出土遺物	144	第184图 B区土壌・溝平面図(1)	190
第148图 平安時代土壌出土遺物	145	第185图 B区土壌・溝平面図(1)(2)土層図	191
第149图 第1号掘立柱建物跡	147	第186图 B区土壌・溝平面図(2)	192
第150图 第2号掘立柱建物跡	148	第187图 B区土壌・溝平面図(3)	193
第151图 第3号掘立柱建物跡	149	第188图 B区土壌・溝平面図(4)	194
第152图 第4号掘立柱建物跡	150	第189图 B区土壌・溝平面図(5)	195
第153图 第5号掘立柱建物跡	151	第190图 B区土壌・溝平面図(6)	196
第154图 第6号掘立柱建物跡	151	第191图 B区土壌・溝平面図(7)	197
第155图 第7号掘立柱建物跡	152	第192图 B区土壌・溝平面図(8)	198
第156图 第8号掘立柱建物跡	153	第193图 B区土壌・溝平面図(9)	199
第157图 第9号掘立柱建物跡	154	第194图 B区土壌・溝平面図(10)	200
第158图 第10号掘立柱建物跡	155	第195图 B区土壌・溝平面図(11)	201
第159图 第11号掘立柱建物跡	155	第196图 B区土壌・溝平面図(12)	202
第160图 第12号掘立柱建物跡	156	第197图 B区土壌・溝平面図(13)	203
第161图 第13号掘立柱建物跡	157	第198图 B区土壌・溝平面図(14)	204
第162图 第14号掘立柱建物跡	158	第199图 B区土壌・溝平面図(15)	205
第163图 第15号掘立柱建物跡	159	第200图 B区土壌・溝平面図(16)	206
第164图 第16号掘立柱建物跡	160	第201图 B区土壌・溝平面図(17)	207
第165图 第17号掘立柱建物跡	161	第202图 B区土壌・溝平面図(17)(18)土層図	208
第166图 第18号掘立柱建物跡	162	第203图 B区土壌・溝平面図(18)	209
第167图 第19号掘立柱建物跡	163	第204图 B区土壌・溝平面図(19)	210
第168图 第20号掘立柱建物跡	164	第205图 B区土壌・溝平面図(19)土層図	211
第169图 第21号掘立柱建物跡	165	第206图 B区土壌・溝平面図(20)	212
第170图 柱穴出土遺物	165	第207图 B区土壌・溝平面図(20)土層図	213
第171图 井戸(1)	167	第208图 B区土壌・溝平面図(21)	214
第172图 井戸(2)	168	第209图 B区土壌・溝平面図(21)土層図	215
第173图 井戸(3)	169	第210图 B区土壌・溝平面図(22)	216
第174图 井戸(4)	170	第211图 B区土壌・溝平面図(23)	217
第175图 井戸(5)	171	第212图 B区土壌・溝平面図(24)	218
第176图 井戸(6)	172	第213图 B区土壌・溝平面図(25)	219
第177图 井戸(7)	173	第214图 B区土壌・溝平面図(26)	220
第178图 井戸出土遺物(1)	174	第215图 B区土壌・溝平面図(26)土層図	221
第179图 井戸出土遺物(2)	175	第216图 B区土壌・溝平面図(27)	222
第180图 井戸出土遺物(3)	176	第217图 B区土壌・溝平面図(28)	223
第181图 井戸出土遺物(4)	177	第218图 B区土壌・溝平面図(29)	224

第219図 B区土壌・溝平面図(29)土層図	225	第250図 土壌出土遺物(1)	256
第220図 B区土壌・溝平面図(30)	226	第251図 土壌出土遺物(2)	257
第221図 B区土壌・溝平面図(31)	227	第252図 土壌出土遺物(3)	258
第222図 B区土壌・溝平面図(32)	228	第253図 土壌出土遺物(4)	259
第223図 B区土壌・溝平面図(33)	229	第254図 土壌出土遺物(5)	260
第224図 B区土壌・溝平面図(34)	230	第255図 土壌出土遺物(6)	261
第225図 B区土壌・溝平面図(35)	231	第256図 溝出土遺物(1)	279
第226図 B区土壌・溝平面図(36)	232	第257図 溝出土遺物(2)	280
第227図 B区土壌・溝平面図(36)土層図	233	第258図 溝出土遺物(3)	281
第228図 B区土壌・溝平面図(37)	234	第259図 溝出土遺物(4)	282
第229図 B区土壌・溝平面図(37)土層図	235	第260図 溝出土遺物(5)	283
第230図 B区土壌・溝平面図(38)	236	第261図 第1号炭焼窯～第3号炭焼窯	288
第231図 B区土壌・溝平面図(38)土層図	237	第262図 B区中世・近世グリッド出土遺物(1)	290
第232図 B区土壌・溝平面図(39)	238	第263図 B区中世・近世グリッド出土遺物(2)	291
第233図 B区土壌・溝平面図(39)土層図	239	第264図 古墳時代初頭の住居跡	295
第234図 B区土壌・溝平面図(40)	240	第265図 出土遺物の編年図(1)	300
第235図 B区土壌・溝平面図(40)土層図	241	第266図 出土遺物の編年図(2)	301
第236図 B区土壌・溝平面図(41)	242	第267図 金属製品出土遺構	302
第237図 B区土壌・溝平面図(42)	243	第268図 銭貨(1)	303
第238図 B区土壌・溝平面図(43)	244	第269図 銭貨(2)	304
第239図 B区土壌・溝平面図(43)土層図	245	第270図 銭貨(3)	305
第240図 B区土壌・溝平面図(44)	246	第271図 銭貨(4)	306
第241図 B区土壌・溝平面図(44)土層図	247	第272図 銭貨(5)	307
第242図 B区土壌・溝平面図(45)	248	第273図 中世に遡る溝	310
第243図 B区土壌・溝平面図(45)土層図	249	第274図 地割に残る溝	311
第244図 B区土壌・溝平面図(46)	250	第275図 井戸	312
第245図 B区土壌・溝平面図(47)	251	第276図 地下式墳と関連遺構	313
第246図 B区土壌・溝平面図(48)	252	第277図 土壌の主軸	314
第247図 B区土壌・溝平面図(49)	253	第278図 土壌の希薄な部分	314
第248図 B区土壌・溝平面図(50)	254	第279図 土壌の規模と土壌群の位置	315
第249図 B区土壌・溝平面図(50)土層図	255		

表 目 次

第1表 A区土壌一覧	39	第17表 B区土壌一覧(9)	273
第2表 B区縄文時代土壌一覧	96	第18表 B区土壌一覧(10)	274
第3表 井戸一覧	179	第19表 B区土壌一覧(11)	275
第4表 井戸出土遺物観察表	180	第20表 B区土壌一覧(12)	276
第5表 土壌出土遺物観察表(1)	261	第21表 B区土壌一覧(13)	277
第6表 土壌出土遺物観察表(2)	262	第22表 B区土壌一覧(14)	278
第7表 土壌出土遺物観察表(3)	263	第23表 溝出土遺物観察表(1)	284
第8表 土壌出土遺物観察表(4)	264	第24表 溝出土遺物観察表(2)	285
第9表 B区土壌一覧(1)	265	第25表 溝出土遺物観察表(3)	286
第10表 B区土壌一覧(2)	266	第26表 溝出土遺物観察表(4)	287
第11表 B区土壌一覧(3)	267	第27表 グリッド出土遺物観察表(1)	292
第12表 B区土壌一覧(4)	268	第28表 グリッド出土遺物観察表(2)	293
第13表 B区土壌一覧(5)	269	第29表 遺構番号新旧対照表	294
第14表 B区土壌一覧(6)	270	第30表 銭種別出土数	307
第15表 B区土壌一覧(7)	271	第31表 銭貨一覧(1)	308
第16表 B区土壌一覧(8)	272	第32表 銭貨一覧(2)	309

写 真 図 版 目 次

図版1 薬師堂根遺跡透景	図版9上 第11号住居跡
図版2 B区全景	下 第12号住居跡
図版3上 A区全景	図版10上 第13号住居跡
下 第1号住居跡	下 第14号住居跡
図版4上 第2号住居跡	図版11上 第15号住居跡
下 第3号住居跡	下 第16号住居跡
図版5上 第4号住居跡	図版12上 第17号住居跡
下 第4号住居跡遺物出土状況	下 第18号住居跡
図版6上 第5号住居跡	図版13上 第19号住居跡
下 第6号住居跡	下 第20号住居跡
図版7上 第7号住居跡	図版14上 第21号住居跡
下 第8号住居跡	下 第22号住居跡
図版8上 第9号住居跡	図版15上 第22号住居跡遺物出土状況
下 第10号住居跡	下 第22号住居跡遺物出土状況

- 図版16上 第21号住居跡～第24号住居跡
下 第25号住居跡
- 図版17上 第26号住居跡
下 第26号住居跡遺物出土状況
- 図版18上 第27号住居跡
下 第28号住居跡
- 図版19上 第29号住居跡
下 第30号住居跡
- 図版20上 第31号住居跡
下 第32号住居跡
- 図版21上 第33号住居跡
下 第34号住居跡
- 図版22上 第34号住居跡遺物出土状況
下 第35号住居跡
- 図版23上 第36号住居跡
下 第36号住居跡遺物出土状況
- 図版24上 第36号住居跡遺物出土状況
下 第36号住居跡遺物出土状況
- 図版25上 第37号住居跡
下 第38号住居跡
- 図版26上 第1号掘立柱建物跡
下 第2号掘立柱建物跡
- 図版27上 第3号掘立柱建物跡
下 第5号掘立柱建物跡
- 図版28上 第18号掘立柱建物跡
下 第9号掘立柱建物跡
- 図版29上 第12号掘立柱建物跡
下 第14号掘立柱建物跡
- 図版30上 第15号掘立柱建物跡
下 第17号掘立柱建物跡
- 図版31上 R-5グリッド ピット3・4柱痕確認
状況
下 T-7グリッド ピット1柱材出土状況
- 図版32上 第12号井戸板磚出土状況
下 第25号井戸と第16号溝跡土層
- 図版33上 第38号井戸
下 第26号井戸遺物出土状況
- 図版34上 第27号井戸・第28号井戸
下 第27号井戸板磚出土状況
- 図版35上 第31号井戸
下 第36号井戸
- 図版36上 第146号土壇
下 第5号炉穴
- 図版37上 第7号炉穴
下 第1号土壇
- 図版38上 第40号土壇・第41号土壇
下 第52号土壇遺物出土状況
- 図版39上 第59号土壇
下 第62号土壇
- 図版40上 第71号土壇遺物出土状況
下 第192号土壇・第193号土壇
- 図版41上 第243号土壇・第244号土壇
下 第243号土壇・第244号土壇遺物出土
状況
- 図版42上 第243号土壇遺物出土状況
下 第244号土壇遺物出土状況
- 図版43上 P-12グリッド遺構確認状況
下 第305号土壇確認状況
- 図版44上 第307号土壇遺物出土状況
下 第313号土壇遺物出土状況
- 図版45上 第315号土壇確認状況
下 第315号土壇遺物出土状況
- 図版46上 第322号土壇板磚出土状況
下 第325号土壇遺物出土状況
- 図版47上 第613号土壇遺物出土状況
下 R-7グリッド遺構検出状況
- 図版48上 R-8グリッド遺構検出状況
下 S-8グリッド付近遺構検出状況
- 図版49上 S-8グリッド遺構検出状況
下 第1号炭焼窯～第3号炭焼窯
- 図版50上 第16号溝土層 (S-4グリッド)
下 第16号溝土層 (R-5グリッド)
- 図版51上 第14号溝銭貨出土状況
下 第14号溝銭貨出土状況

- 図版52 第4号住居跡出土土器
第21号住居跡出土土器
第22号住居跡出土土器
第23号住居跡出土土器
- 図版53 第23号住居跡出土土器
第25号住居跡出土土器
第26号住居跡出土土器
- 図版54 第26号住居跡出土土器
- 図版55 第2号住居跡出土土器
第4号住居跡出土土器
- 図版56 第16号住居跡出土土器
A区グリッド（縄文時代）出土土器
- 図版57 第18号住居跡出土土器
第20号住居跡出土土器
- 図版58 第21号住居跡出土土器
第22号住居跡出土土器
- 図版59 第24号住居跡出土土器
第26号住居跡出土土器
- 図版60 第27号住居跡出土土器
第29号住居跡出土土器
- 図版61 第6号竇穴出土土器
第87号土壇出土土器
- 図版62 第100号土壇出土土器
B区グリッド（縄文時代早期）出土土器
- 図版63 第26号住居跡出土土器
- 図版64 第30号住居跡出土土器
第31号住居跡出土土器
第32号住居跡出土土器
第33号住居跡出土土器
- 図版65 第33号住居跡出土土器
第34号住居跡出土土器
第35号住居跡出土土器
- 図版66 第36号住居跡出土土器
第38号住居跡出土土器
- 図版67 第12号井戸出土土器
第22号井戸出土土器
第25号井戸出土茶臼
- 図版68 第26号井戸出土土器
第39号井戸出土土器
Q-8グリッドピット1
R-8グリッドピット1
第16号溝出土土器
- 図版69 第19号溝出土土器
- 図版70 第19号溝出土土器
第193号土壇出土土器
第244号土壇出土土器
第246号土壇出土土器
第261号土壇出土土器
- 図版71 第305号土壇出土土器
第613号土壇出土土器
第688号土壇出土土器
第792号土壇出土土器
- 図版72 白磁（左：第19号溝 右：P-7グリッド）
瀬戸・美濃産陶器
- 図版73 第12号井戸出土板碑
第322号土壇出土板碑
P-12グリッド出土板碑
第18号井戸出土板碑
第315号土壇出土板碑
- 図版74 第6号井戸出土板碑
第12号井戸出土板碑
第27号井戸出土板碑
P-12グリッド出土板碑

I 調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

埼玉県では、伊奈町北部地域において、職・住・遊・学などが集積した中枢都市圏の形成に寄与するため、21世紀に向けたモデルタウンの建設を進めている。その一環として、乱開発を防止し、また、田園と融和した地域社会の形成を図るための基盤づくりを目的として、上尾都市計画事業伊奈特定土地区画整理事業が計画された。

埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課では、こうした各種開発事業に対応するため、開発部局と事前協議を行い、文化財保護と開発事業との調整を進めているところである。

当事業にかかる埋蔵文化財包蔵地の取扱いについては、伊奈新都市建設事務所長より文化財保護課長あて、昭和63年1月6日付け伊都建第587号で、埋蔵文化財の所在について照会があった。これに対し、文化財保護課では、詳細分布調査を行い、それに基づいて9ヶ所の埋蔵文化財包蔵地の所在を、平成元年6月26日付け教文第444号で回答した。取扱いについては、対象地が広範囲であるため、事業計画と調整を図りながら、別途試掘調査を実施することとした。

平成7・8年度における薬師堂杖遺跡の発掘調査に

ついては、調査実施機関である財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団、伊奈新都市建設事務所、文化財保護課の三者により、調査方法、期間、経費等を中心に協議が行われ、その結果、平成7年度は第1次調査が平成7年5月1日から平成8年3月29日まで、第2次調査が平成7年9月1日から同年10月15日まで、平成8年度は第1次調査の残り部分を平成8年4月1日から同年10月31日の予定で発掘調査が実施されることで協議が整った。

各年度における発掘調査に先立って、埼玉県知事から文化財保護法第57条第3項の規定に基づく発掘通知が、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団からは、同法57条第1項の規定に基づく発掘調査届が提出され、発掘調査が実施された。

なお、調査届に対する指示通知番号は、次の通りである。

平成7年6月9日付け 教分第2-47号

平成7年8月21日付け 教分第2-81号

平成8年4月26日付け 教分第2-27号

(文化財保護課)

2. 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

本書に掲載する発掘調査は第1次調査と第2次調査で、平成7年度から平成8年度にかけて行われた。

第1次調査を開始して約2ヶ月後に北側隣接地の道路工事を急遽始めることになり、遺構の有無の照会が新都市事務所からあった。試掘を実施したところ住居跡が確認されたため、第1次調査を中断して第2次調査を行った。本書では先に調査を終了した第2次調査区をA区として報告することにした。よって、第1次調査区はB区とした。

第1次調査 (B区)

平成7年5月1日～平成8年10月31日まで調査を実施した。ただし、第2次調査が行われた平成7年9月1日～同年10月15日は調査を中断した。

調査面積が7,500㎡と広く、その半分が竹林となっていたため、重機による表土剥ぎに予想以上の時間がかかった。調査区は台地の中央であったが、現況ではこの竹林部分は全体に窪んでいた。表土剥ぎを行ったところ地山のローム土がほとんど無く、すべて遺構の覆土のような状態であった。表土剥ぎが進むにつれて、この部分は大きな堀によって囲まれていること、在地産土器の皿や古瀬戸の縁軸小皿などが出土したことから、中世の遺構群であることが判明した。

調査区の北半分では、現在の地表面から50cm程掘り下げると遺構確認が行えた。遺構は方形のプランで覆土が黒色の住居跡と円形のプランで覆土が地山のローム土に近似した住居跡の二種類があった。覆土の遺物から、前者は弥生時代末から古墳時代初頭の住居跡で、後者は縄文時代の住居跡であることが判明した。

調査は搬入口が調査区の北側にあるため、堀に囲まれた南半分から始めることになり、平成7年度はこの部分の調査を行った。

平成8年度は残りの北半分を行った。縄文時代の遺構覆土は地山と近似しているため確認が難しかった。比較的浅い面で表土剥ぎを止めたため、特に縄文時代

早期の遺構は確認しづらかった。

調査区の北東部分では表土剥ぎの段階で板碑が露出する部分があり、中世墓であることが期待された。P-12グリッド～P-13グリッドでは約30基の土墳墓が確認された。

第2次調査 (A区)

平成7年9月1日～同年10月15日まで調査を実施した。

調査区に隣接して住宅が建っているため、住宅側には防塵ネットを設置した。

調査区は綾瀬川に張り出した台地の縁辺部にあたり、北へ向かって傾斜していた。また、調査区の一部は現在の水田より低く、湧水がひどかった。よって、ポンプにより排水を行いながら調査を行った。遺構覆土は綾瀬川の沖積土のため、水分を含んだ粘質土で掘りづらかった。

調査区全般から縄文時代中期の住居跡が検出された。

(2) 報告書作成

平成9年4月1日～平成10年3月31日まで行った。検出された遺構数が多いため、特に土壌の図面整理に日数を要した。

図面整理は4月から10月まで行った。住居跡出土遺物は遺物台帳で取り上げられていたので、並行して分布図作成を行った。

遺物は4月から7月にかけて遺構ごとに分類して、接合・復元を行った。8月から復元の終わった遺物の実測作業に入った。また、並行して拓本をとったが、縄文時代早期の土器片が多く、土器片両面の拓本をとらなければならないため、予想よりも時間を要した。

10月から本格的に版組みを行い、写真撮影をし、1月には割り付け、原稿執筆を終了した。その後、校正を行い、3月末に本書の印刷を終了した。

3. 調査・整理・報告書刊行の組織

主体者 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

1 発掘調査（平成7年度）

理事長 荒井 桂
副理事長 富田 真也
専務理事 吉川 國男
常務理事兼管理部長 新井 秀直
理事兼調査部長 小川 良祐

〈管理部〉

庶務課長 及川 孝之
主査 市川 有三
主任 長滝 美智子
主事 菊池 久
専門調査員兼経理課長 関野 栄一
主任 江田 和美
主任 福田 昭美
主任 腰塚 雄二

〈調査部〉

調査前部長 高橋 一夫
調査第四課長 酒井 清治
主任調査員 橋本 勉
主任調査員 石坂 俊郎
主任調査員 大谷 徹
調査員 宮瀧 由紀子

2 発掘調査（平成8年度）

理事長 荒井 桂
副理事長 富田 真也
専務理事 吉川 國男
常務理事兼管理部長 稲葉 文夫
理事兼調査部長 小川 良祐

〈管理部〉

庶務課長 依田 透
主査 西沢 信行
主任 長滝 美智子

主任 菊池 久
専門調査員兼経理課長 関野 栄一
主任 江田 和美
主任 福田 昭美
主任 腰塚 雄二

〈調査部〉

調査副部長 高橋 一夫
調査第三課長 村田 健二
主査 橋本 勉
主任調査員 宮瀧 由紀子

3 報告書作成（平成9年度）

理事長 荒井 桂
副理事長 富田 真也
専務理事 塩野 博
常務理事兼管理部長 稲葉 文夫
理事兼調査部長 梅沢 太夫

〈管理部〉

庶務課長 依田 透
主査 西沢 信行
主任 長滝 美智子
主任 腰塚 雄二
主任 関野 栄一
専門調査員兼経理課長 江田 和美
主任 福田 昭美
主任 菊池 久

〈資料部〉

資料部長 谷井 彪
資料部副部長 小久保 徹
資料整理第二課長 村田 健二
主任調査員 水口 由紀子

II 遺跡の立地と環境

薬師堂根遺跡(1)は高崎線桶川駅から東北東へ約4kmの地点にあり、上越新幹線沿いに走る埼玉新都市交通システム・ニューシャトルの終点内宿駅から北東約700mに位置する。

遺跡は大宮台地東縁部の片柳支台に立地し、綾瀬川によって開析された沖積地に臨む。綾瀬川は元荒川の旧河道の一部と思われる部分を流れている。

綾瀬川右岸の伊奈町付近は、綾瀬川に張り出す舌状台地と樹枝状谷が発達している。大半の谷筋は沖積化が進んでおり、台地と低地の比高差は少ない。なだらかな景観を持つ台地が多い。しかし、台地の縁辺部は沖積化の影響で現水田面下に埋もれており、標高約9m以下の遺跡は埋没し、発見されていない可能性が高い。本遺跡と同じ伊奈特定土地区画整理事業に伴い調査された戸崎前遺跡(2)では標高約9m前後の地点で縄文時代後期の良好な集落跡が検出された(金子1997)。

薬師堂根遺跡は台地の中央から縁辺部にかけて展開しており、標高は約10~13mである。A区は台地の縁辺部で、一部は綾瀬川の沖積土に覆われていた。

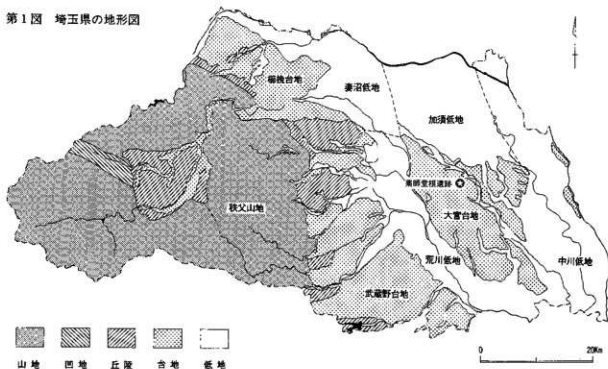
薬師堂根遺跡の周辺は比較的遺跡が多く、谷を挟んで西側には向原遺跡(3)、東側には戸崎前遺跡(2)、南側には原遺跡(6)などがある。この地域は上越・東北新幹線建設や本遺跡と同じ伊奈特定土地区画整理事業などに伴い比較的多くの発掘調査が行われてきた。

旧石器時代の遺跡は戸崎前遺跡(2)、向原遺跡(3)、久保山遺跡(4)、大山遺跡(5)、提灯木山遺跡(3)等で良好な資料が検出されている。

縄文時代の遺跡は多数あり、学史上著名な遺跡も多い。草創期では十二番耕地遺跡(7)で隆起線文系土器、爪形文系土器、多縄文系土器等が出土している。

早期では野島式期の住居跡や炉穴が本遺跡、戸崎前遺跡(2・金子1997)、向原遺跡(3)で発見されている。前期では貝塚が多く、綾瀬川左岸の蓮田市には関山

第1図 埼玉県の地形図



式の標識遺跡である関山貝塚¹¹、黒浜式の標識遺跡である黒浜貝塚群が存在する。この他に築崎貝塚¹²、坂堂貝塚¹³などの前期の貝塚が多い。それに対し、右岸の地域では貝塚は少ない。本区画整理事業に伴う調査でも、関山式期の住居跡が戸崎前遺跡と谷畑遺跡で発見されたが貝塚の形成は行われていなかった。

中期になると遺跡数が増加する。北遺跡⁷は上越新幹線建設に伴い調査され、中期の住居跡が72軒検出された(金子1987)。原遺跡⁶は上越新幹線建設と伊奈特定土地区画整理事業に伴い調査され、中期の住居跡が85軒検出された(村田1997)。この二つの遺跡は本遺跡の周辺地域での拠点的な集落である。この他に戸崎前遺跡(2・金子1997)、大山遺跡(13・谷井他1979、金子1982)、小室天神前遺跡(14・埼玉県立博物館1981)、志久遺跡(15・笹森他1976)、秩父山遺跡¹⁴など数多くの遺跡がある。

後期から晩期の遺跡は数量的に減少傾向にあるが、先にも述べたように綾瀬川の沖積土に埋没して発見されていない遺跡の存在に注意しなければならない。戸崎前遺跡の他に水川神社裏遺跡¹⁵、井沼遺跡(19・安岡1960)、今羽丸山遺跡¹⁶などがある。

弥生時代の遺跡は確認されていない。綾瀬川ではなく、江川の流域では桶川市砂ヶ谷戸遺跡などで発掘例があるが数は少ない。

弥生時代末から古墳時代前期にかけての遺跡は多く発見されている。本遺跡、戸崎前遺跡²、向原遺跡³、大山遺跡¹³、小室天神前遺跡¹⁴、尾山台遺跡¹⁷などである。向原遺跡は上越新幹線建設と本区画整理事業に伴い調査され、約60軒の住居跡が発見された。また、方形周溝墓も発見された。

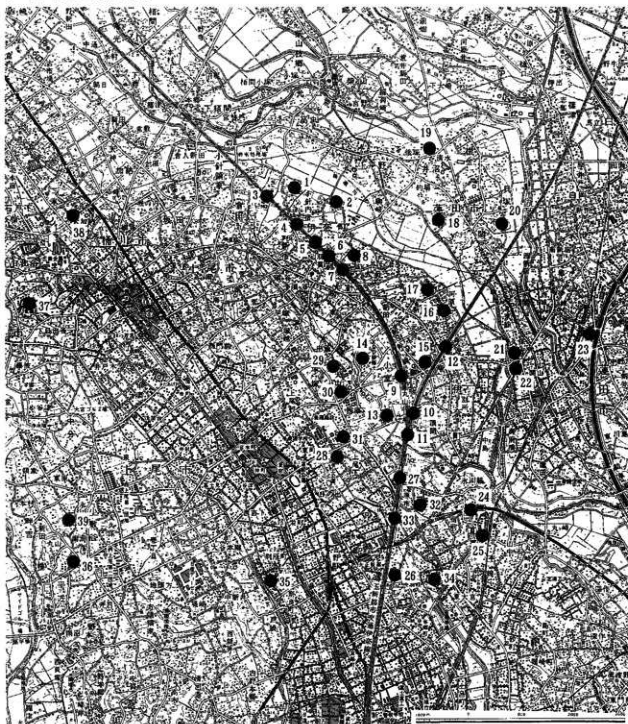
古墳時代後期の遺跡は少なく、この区画整理事業地内では無い。綾瀬川左岸の蓮田市では古墳・集落ともに確認されているが、右岸では大山遺跡で住居跡が9軒発見されているのみである(谷井他1979)。そもそも大宮台地では旧入間川(現在の荒川)沿いに多数の古墳群が形成されており、元荒川沿いと対照的である。

奈良時代・平安時代に入ると遺跡数はまた増加する

傾向になる。ただし、この区画整理事業地内では大規模な集落は無く、本遺跡で1軒、戸崎前遺跡と向原遺跡で数件発見されているのみである。この地域の平安時代を考えると鍵となるのは鉄生産であろう。大山遺跡¹³では大型の精錬炉、椿山遺跡¹⁸では鉄製品の工房が発見されている。

中世以降は文献によると鎌倉時代に入って伊奈荘が置かれた。江戸時代末期に編纂された「新編武蔵国風土記稿」には大針の細田山に古城跡、小針内宿の春日山に陣屋跡、丸山に伊奈熊蔵陣屋があったことが記されている。また、字名として薬師堂根は登場しないが小針内宿村に東光院(桶川の明星院の末寺)の持つ薬師堂があったことが記されている。明治5年から編纂された「武蔵国郡村誌」には薬師堂根という字名があり、古跡の項に「薬師堂跡 竪十五間七分、横十三間八分五厘。面積二百六十坪。村の北方にあり。明治四年十月鹿堂となる。」と記されている。遺跡としては戸崎前遺跡²、相野谷遺跡⁴、伊奈氏屋敷跡¹¹、東町二丁目遺跡¹⁹、在家遺跡¹⁵、西通1遺跡²⁰等がある。戸崎前遺跡では土橋を伴う一辺約70mの堀跡が発見され、堀跡覆土の最下層から在産土器の皿が4枚埋納されていた。皿の形態から堀の時期は薬師堂根遺跡よりも古い13世紀末から14世紀中頃と推定される。相野谷遺跡では多数の柱穴群とともに上向き剣頭文軒平瓦を含む中世瓦が発見されている(金子他1987)。剣頭文は幅広く扁平なので14世紀代のもと思われる。伊奈氏屋敷跡は風土記稿に「伊奈熊蔵陣屋」と記され、伊奈忠次が天正18年に陣屋を構えた場所と言われている。しかし、新幹線建設等による調査で大規模な障子堀が発見されており、陣屋以前に城跡であったことが判明した。障子堀は県内では騎西町騎西城跡、加須市花崎城跡(古屋他1982)で検出されている。東町二丁目遺跡では地下式墳、在家遺跡では土塚墓が検出されている。西通1遺跡では本遺跡と同じような段切り遺構の中から多数の柱穴と土壌が検出されており、極めて似ている。また、遺跡の年代も15世紀～16世紀で本遺跡と同じである。

第2図 周辺の遺跡分布図



- | | | | | | |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 1. 薬師堂根遺跡 | 2. 戸崎前遺跡 | 3. 向原遺跡 | 4. 相野谷遺跡 | 5. 八幡谷遺跡 | 6. 原遺跡・谷畑遺跡 |
| 7. 北遺跡 | 8. 大針貝塚 | 9. 丸山遺跡 | 10. 赤羽遺跡 | 11. 伊奈氏屋敷遺跡 | 12. 久保山遺跡 |
| 13. 大山遺跡 | 14. 小堂天神前遺跡 | 15. 志久遺跡 | 16. 水川神社裏遺跡 | 17. 小貝戸貝塚 | 18. 那崎貝塚 |
| 19. 井沼遺跡 | 20. 綾瀬貝塚 | 21. 関山貝塚 | 22. 坂堂貝塚 | 23. 榊山遺跡 | 24. 秩父山遺跡 |
| 25. 尾山台遺跡 | 26. 今羽丸山遺跡 | 27. 十二番耕地遺跡 | 28. 東町二丁目遺跡 | 29. 平塚水川遺跡 | 30. 谷津下1遺跡 |
| 31. 八番耕地遺跡 | 32. 愛宕山遺跡 | 33. 三番耕地遺跡 | 34. 高台山遺跡 | 35. 奈良瀬戸遺跡 | 36. 在家遺跡 |
| 37. 高井遺跡 | 38. 提灯木山遺跡 | 39. 西通1遺跡 | | | |

III 遺跡の概要

薬師堂根遺跡は綾瀬川に面して北方向に張り出した舌状台地上に立地している。台地の東側と西側には谷が入り、大きさは東西幅約300m、南北長約500mである。標高は10m～13mで、台地の裾部分は粘土質の沖積土で覆われている。

本書で報告する調査区は台地の北半分にあり、A区は低地に傾斜していく台地の縁辺部にあたる。B区は台地の東縁部に近いが台地の平坦部にあたる。

グリッドは両調査区が入るようにあらかじめ設定した。本書でもグリッドの呼称は変更していない。遺構も両調査区で連続した番号を付けていったが、本書をまとめるにあたり、遺構番号は新しく振り替えた。

A区（第2次調査）

調査面積は1,300㎡で、幅約10～13m前後、東西長約95mの細長い調査区である。

標高は10～11mで、なだらかに北へ向かって傾斜している。

検出された遺構は縄文時代中期の住居跡が16軒、土壇が42基、古墳時代初頭の土壇が4基、時期不明の土壇が6基、溝5条である。

縄文時代中期の住居跡は調査区全般から検出されたが、傾斜地のため遺構の残りは悪かった。遺物量も少なかったため、比較的短い調査期間で終了することができた。

B区（第1次調査）

調査面積は計7,500㎡で、平成7年度に3,000㎡、平成8年度に4,500㎡を行った。南北幅約100m、東西幅約100mあり、北西部分と南東部分でくびれている。

A区とB区は約70m離れている。

標高は12～13mで、平坦である。しかし、調査区の南半分は人工的に掘削され、低くなっていた。

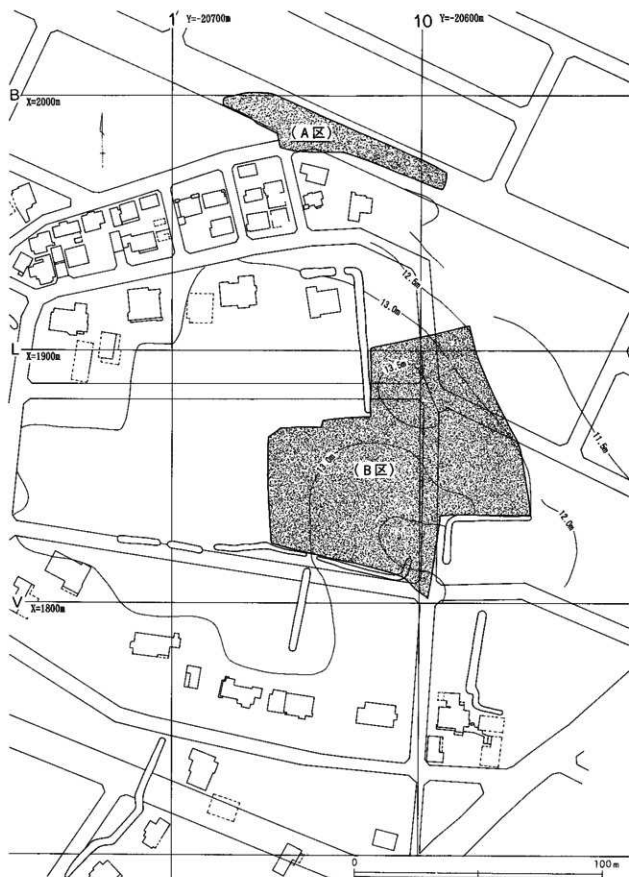
この一段低い部分で堀（SD16）に囲まれた中世の遺構群が密集して検出された。

検出された遺構は、縄文時代早期の住居跡4軒、炉穴11基、縄文時代中期の住居跡9軒、縄文時代の土壇59基、陥穴1基、古墳時代初頭の住居跡8軒、平安時代の住居跡1軒、土壇6基、中世以降の孤立柱建物跡21棟、井戸44基、溝27条、土壇706基、時期不明の炭焼窯3基である。

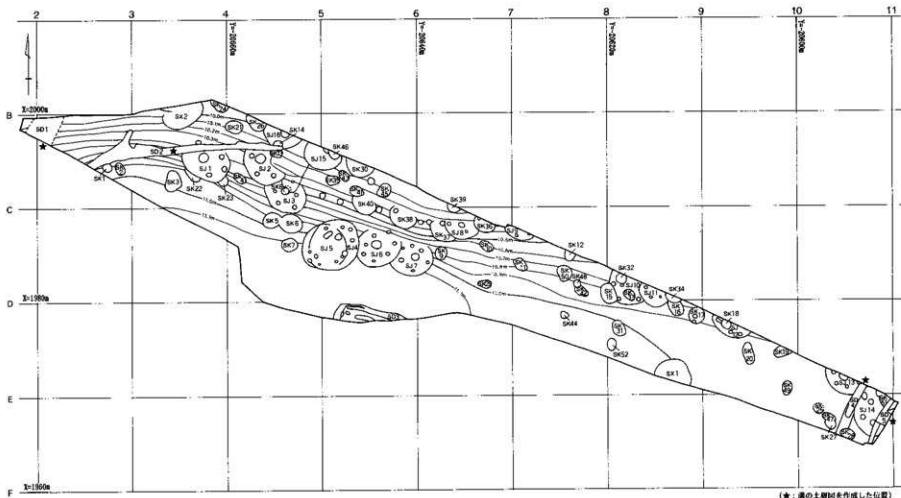
縄文時代と古墳時代初頭の住居跡は分布領域を異にしており、縄文時代は台地の中央から北縁にかけて、古墳時代初頭は台地の東側にある。ただし、A区で古墳時代初頭の土壇が検出されているので、北側へ広がる可能性もある。

中世以降の土壇のうち約514基は堀（SD16）の中にあり、地山のローム土の見える部分が無いほど重複していた。さらに、土壇と重複して孤立柱建物跡のピットがあり、10m×10mのグリッドに100個前後検出された。このように堀の中では遺構の重複が激しく、土層観察を行いながら調査を行ったので、時間を要した。

第3図 遺跡周辺の地形図



第4図 A区全体図



(※: 湖の主観図を作成した位置)

0 20m 1:400

IV A区の調査

1. 調査の概要

A区は薬師堂根遺跡の占拠する台地の北端に位置する。この台地は綾瀬川に張り出しており、調査区の北半部は現在は水田の下になっている。標高は10~11mで、なだらかに北へ向かって傾斜している。よって住居跡の北半分は流されて残っていないものが多かった。また、標高10mあたりからは湧水が激しく、ポンプによる排水を行いながら調査した。

検出された遺構は縄文時代中期の住居跡が16軒、土壇が42基、古墳時代初期の土壇が4基、時期不明の土壇が6基、溝5条である。

縄文時代の住居跡は遺構の残りが悪く、遺物量も少なかった。出土遺物から大半の住居跡は縄文時代中期のものとして推定される。隣接する戸崎前遺跡の調査で指摘されたとおり、この地域の台地の先端部は綾瀬川の沖積土に覆われており、現在の地表面では遺跡であることの確認が困難である(金子1997)。薬師堂根遺跡でも同様な結果が得られた。住居跡のいくつかは調査区域外へと続いている。さらに北の、より標高の低い場所にも集落があったことが推測できる。

今回検出された縄文時代の竪穴住居跡は炉がしっかり焼けたものが少なく、出土遺物も少なかった。本書では住居跡として報告したが、竪穴式遺構も含まれているものと思われる。

古墳時代初期の遺構は竪穴住居跡はなかったが、土壇が3基検出された。土壇は覆土が黒色土で、深いのが特徴である。隣接した向原遺跡では、覆土の上層に群馬県榛名山二ツ岳形成期の火山灰(FA)が含まれていた。今回の調査区の土壇にはこの火山灰は確認されなかった。

溝は5条検出されたが時期を決定する遺物の出土は無く、その性格も不明である。

2. 縄文時代の遺構と遺物

(1) 住居跡

第1号住居跡(第5図・第6図)

B-3・B-4グリッドに位置する。住居跡集地域の西端にある。第2号溝により住居の北側は破壊されていた。第22号土壇・第23号土壇と重複するが、その新旧関係は不明である。

平面形態は東西にやや細長い楕円形を呈するものと思われ、長径は5.14m、深さは0.42mである。床面はあまり硬化していなかった。所々途切れるが、浅い壁溝が巡る。

住居跡のほぼ中央部に炉があり、長径90cmである。炉の底面には赤色化した焼土は無く、礫が数個出土した。

柱穴は5本検出されたが、いずれも浅い。柱穴の深さはP1:10cm、P2:20cm、P3:26cm、P4:10cm、P5:14cmである。すべて主柱穴になるものと思われる。

出土遺物は十数点と少なく、器形が復元できるものはない。4点しか図化できなかった。

1は加曾利E系のキャリバー系深鉢土器の胴部破片で、縦位の沈線間を磨り消す磨消懸垂文が垂下する。地文には不明瞭であるが、複節縄文RLRが縦位に施されている。

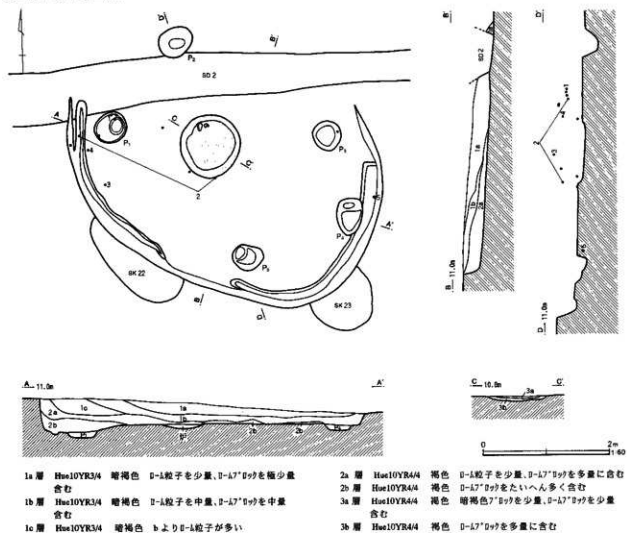
2は胴部が折れるキャリバー形土器の胴部上半部破片で、磨消縄文による横位のモチーフが展開されている。磨消沈線文は3本沈線文間を磨り消すものであるが、地文は充墳縄文で、中央の沈線文は地文施文後に施文されている。

3は底部破片で、推定径6.6cmを測る。2本沈線文間を磨り消す懸垂文が垂下する。

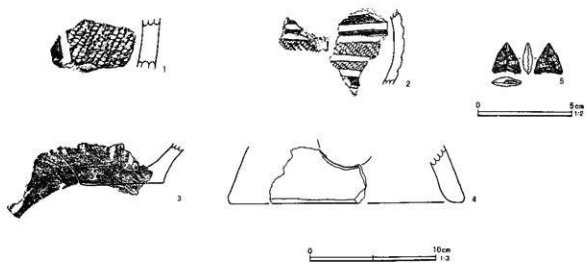
4は円孔の透かしがあく器台であり、小破片であるが、推定の底径は約19cmを測る。

5は石鏃である。石材はチャートで、長さ1.6cm、幅

第5図 第1号住居跡



第6図 第1号住居跡出土遺物



1.6cm、厚さ0.4cm、重さ0.96gである。

以上、中期終末の加曾利EⅢ式に比定されよう。

第2号住居跡（第7図～第9図）

B-4グリッドに位置する。第2号溝跡と攪乱により住居の北側は破壊されていた。第3号住居跡と第13号土壇と重複するが、本住居跡の方が新しい。

平面形態は楕円形を呈し、長径は約5m、深さは0.3mである。床面は平坦で、あまり硬化しておらず、壁溝が巡る。

住居跡の中央からやや北西寄りに炉があり、長径は約90cmである。炉の底面はあまり焼けていなかった。

柱穴は3本検出された。柱穴の深さはP1:20cm、P2:23cm、P3:14cmである。すべて主柱穴になるものと思われる。P1とP3の底面は中央部が一段窪んでおり、柱のあたりと思われる。

出土遺物は数十点と少なく、10点を図化することができた。

1～7は加曾利E系のキャリバー系土器の胴部破片である。1は幅広い磨消懸垂文が垂下し、地文に単節LRが縦位施文される。2、3はやや張る胴部破片で、いずれも磨消懸垂文が垂下する。地文は節が細かく、0段多条の可能性があり、2はRL、3はLRである。4は縄文のみ施文されている破片であるが、磨消懸垂文が施されるものと思われ、地文に単節RLが施文される。5は底部破片で、磨消懸垂文が垂下する。6は幅の狭い磨消懸垂文をやや間隔を狭めて施文するもので、地文に単節LRを縦位施文する。7は懸垂文は見られないが、地文に複節LRLを縦位施文している。

8は頸部で括れ、無文の口縁部が開き、胴部の張る曾利系の深鉢で、無文の口縁部のみ現存しているものと思われるが、無文の鉢の可能性もある。

9は口縁部が開き、胴部が張る曾利系の深鉢で、頸部に交互刺突を施した蛇行隆帯を巡らして区画している。胴部には沈線状の蛇行条線が垂下施文されている。頸部区画隆帯の上に若干沈線文が見えることから、口縁部にも同種の沈線文が施文されていたものと思われる。

る。

10は地文に条線文を施文するキャリバー系深鉢の底部で、推定底径は約6.5cmを測る。

以上、大半が加曾利EⅢ式に比定されよう。

第3号住居跡（第10図）

B-4・C-4グリッドに位置する。第2号住居跡と第8号土壇と重複するが、本住居跡の方が古い。

平面形態は南北に細長い楕円形を呈し、短径は3.94m、深さは0.45mである。床面は平坦で、あまり硬化しておらず、壁溝が巡る。

住居跡のほぼ中央部に炉があり、長径80cmである。炉の底面はあまり焼けていなかった。

柱穴は5本検出されたが、いずれも浅い。柱穴の深さはP1:6cm、P2:10cm、P3:12cm、P4:5cm、P5:8cmである。すべて主柱穴になるものと思われる。

出土遺物は十数点と少なく、1点しか図化することができなかった。

1は細い磨消懸垂文を間隔を狭めて垂下するもので、地文はLRをまばらに充填施文する。

第4号住居跡（第11図～第16図）

C-5グリッドに位置する。第5号住居跡よりも新しく、第6号住居跡よりも古い。

平面形態は円形を呈し、長径は6m、短径は5.2m、深さは0.32mである。床面は平坦で、硬化しており、部分的に壁溝が検出された。

住居跡の南西寄りに炉があり、長径1mである。炉の底面は比較的良く焼けていた。

柱穴は9本検出された。柱穴の深さはP1:36cm、P2:32cm、P3:30cm、P4:30cm、P5:54cm、P6:32cm、P7:26cm、P8:14cm、P9:18cmである。

出土遺物は約400点で、A区の住居跡の中では一番多かった。特に炉の周辺に遺物が集中していた。51点を図化することができた。

1は連弧文は施文されないが連弧文系の土器で、胴部が括れ、口縁部が開く器形を呈する。底部を欠損するがほぼ完形品であり、口径22cm、現存高21cmを測る。口縁部は3本沈線で区画され、沈線文間に円形刺突文がややランダムに施文されており、胴部は2本沈線で区画され、口縁部と同様な刺突文が巡る。胴下半は逆「U」字状の磨消懸垂文が垂下しているが、部分的に磨り消されない部分がある。地文は単節RLを縦位施文する。

2は胴上半部に2段の連弧文を施文する連弧文系土器で、括れない深鉢形を呈する。連弧文は2本対の磨消縄文で2段に施文されており、連弧文からは3本沈線の磨消懸垂文が垂下する。地文は単節RLを縦位施文するが、部分的にLRを施文して羽状効果を出している。推定口径約31cm、現存高27.5cmを測る。

3は口縁部の大形破片から復元した、加曾利E系のキャリパー系土器である。口縁部には栴門区画文を中心とした区画文が隆帯で連結されており、胴部には3本沈線の磨消懸垂文が垂下している。地文は複節RLRで、口縁部から胴部にかけて縦位施文される。推定口径約58cm、現存高18.5cmを測る。4、5は底部破片で4には磨消懸垂文が垂下している。

6～17は加曾利E系のキャリパー系土器の口縁部文様帯破片で、25～37は胴部破片である。7、8、10に見られる様に口縁部の内湾が緩く、渦巻文が栴門区画文化するものが多い。胴部破片は2本沈線間の磨消懸垂文が多いが、29、30は3本沈線間の磨消懸垂文である。地文はRLを主体とするが、33、34、36はLRで、37は燃系Lが施文される。

18～21は連弧文系土器で、磨消縄文による連弧文が施文されている。磨消連弧文は2本沈線の磨消縄文を2本合わせて施文するものが多く、胴部の区画は2本沈線の磨消縄文で行われている。

22は口縁が「く」字状に屈曲する浅鉢で、胴部に渦巻文と区画文で構成される文様帯を持つ。

38～44は地文に多線を施文する曾利系土器で、38は胴部の括れに交互刺突を施した隆帯が巡らされて区画

され、口縁部は2本沈線で区画され交互円形刺突文が施されている。44は指頭押圧が施された隆帯が垂下している。

45～47は無文の口縁部が開く器形のもので、48は両耳壺系の口縁部で、49は無文の浅鉢の口縁部、50は浅鉢の胴部である。

51は窪石の破片である。石材は片岩で、窪みのある面の裏は特に石皿として使用した痕跡はなかった。厚さは3cmで、重さは480gである。

以上、土器の大半は加曾利EⅢ式の古段階に位置付けられよう。

第5号住居跡 (第11図・第17図)

C-4・C-5グリッドに位置する。第4号住居跡と重複するが、本住居跡の方が古い。

平面形態は円形を呈し、径は4.5m、深さは0.2mである。床面は平坦で、壁溝が巡る。

住居跡の中央部からやや西寄りに炉があり、長径は約1.2mである。炉の底面はあまり焼けていなかった。

柱穴は7本検出された。柱穴の深さはP1:41cm、P2:18cm、P3:20cm、P4:46cm、P5:10cm、P6:50cm、P7:12cmである。

出土遺物は住居の大部分が第4号住居跡と重複していたため十数点と少ない。図化できる遺物はなかったが、縄文時代中期に比定される。

第6号住居跡 (第18図・第19図)

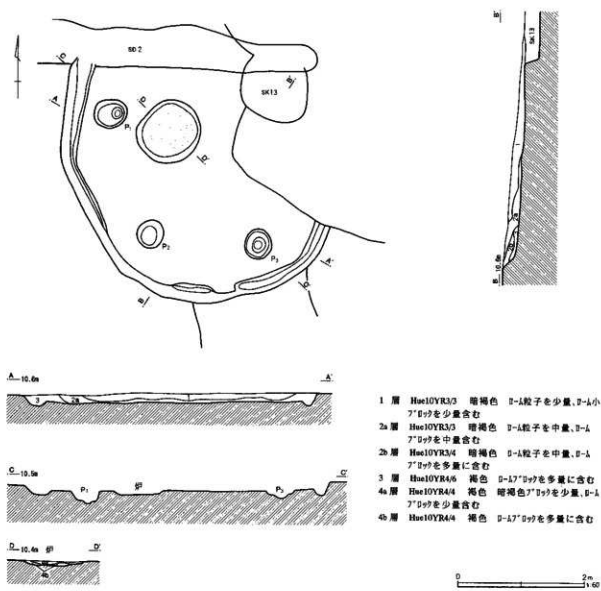
C-5グリッドに位置する。第4号住居跡と第7号住居跡と重複するが、本住居跡の方が新しい。

平面形態は円形を呈し、短径は4.3m、深さは0.3mである。床面は平坦で、あまり硬化しておらず、部分的に壁溝が巡る。

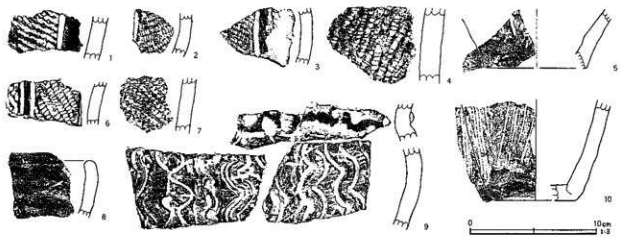
住居跡のほぼ中央部に炉があり、長径は約1mである。炉の底面はあまり焼けていなかった。

柱穴は7本検出された。柱穴の深さはP1:26cm、P2:34cm、P3:11cm、P4:26cm、P5:22cm、P6:18cm、P7:46cmである。すべて主柱穴になる

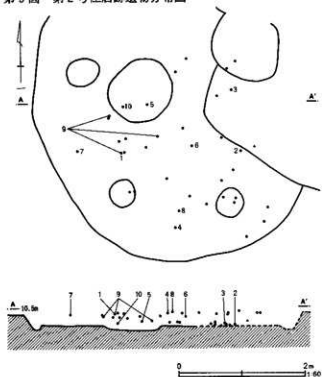
第7図 第2号住居跡



第8図 第2号住居跡出土遺物



第9図 第2号住居跡遺物分布図



ものと思われる。

出土遺物は約60点と少なく、8点を図化することができた。

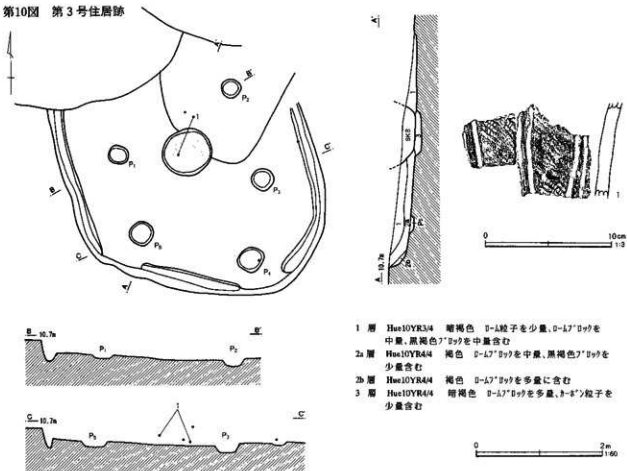
1は連弧文系土器の口縁部破片で、口縁部が3本沈線で区画されており、沈線内に円形刺突文が施文されている。2は内湾する口縁部が開くキャリバー形土器で、文様は施文されていない。地文は単筋RLを口縁部で横位に施文している。

3～6は加曾利E系のキャリバー系土器の胴部破片で、3は地文の縄文のみ施文され、4は磨消懸垂文間に蛇行沈線文が垂下する。5、6は2本沈線間の磨消懸垂文が垂下する。

7は斜位の沈線文が施文されており、8は無文の口縁部が開く器形を呈する。

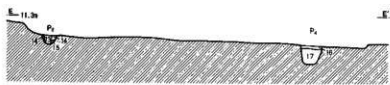
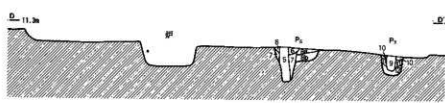
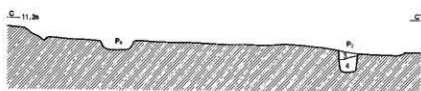
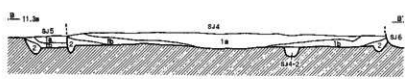
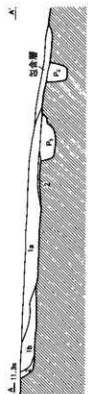
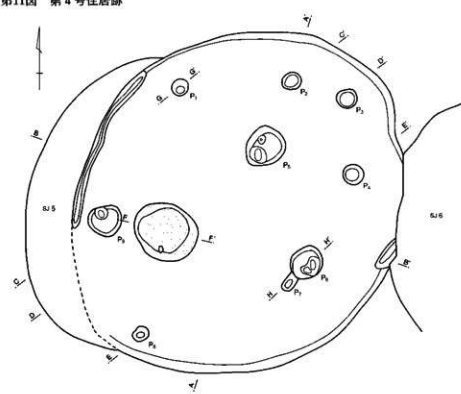
以上、加曾利EⅢ式に比定されるものが多い。

第10図 第3号住居跡



- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-1粒子を少量、0-17°ビツクを中量、黒褐色7°ビツクを中量含む
 2a層 Hue10YR4/4 褐色 0-17°ビツクを中量、黒褐色7°ビツクを少量含む
 2b層 Hue10YR4/4 褐色 0-17°ビツクを多量に含む
 3層 Hue10YR4/4 暗褐色 0-17°ビツクを多量、0-8°粒子を少量含む

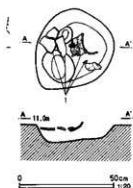
第11圖 第4号住居跡



- S34
- 14層 Hae10YR35 暗褐色 0-4粒子を少量、3-8"粒子を中量含む
 - 15層 Hae10YR35 暗褐色 0-4粒子を少量、3-6小"0"を少量、3-4"粒子を少量含む
- 2層 Hae10YR65 鈍い黄褐色 0-4粒子を少量、0-17"0"を中量含む
- S34 P2
- 3層 Hae10YR34 暗褐色 0-4粒子を中量、0-17"0"を少量含む
 - 4層 Hae10YR44 褐色 0-17"0"を中量含む
- S34 P5
- 5層 Hae10YR35 暗褐色 0-4粒子を中量、3-8"粒子を中量含む
 - 6層 Hae10YR34 暗褐色 0-4粒子を少量、3-8"粒子を少量含む
 - 7層 Hae10YR65 褐色 0-17"0"を中量含む
 - 8a層 Hae10YR44 褐色 0-17"0"を少量含む
 - 8b層 Hae10YR44 褐色 0-17"0"を多量に含む
- S34 P3
- 9層 Hae10YR35 暗褐色 0-4粒子を中量、7-17"0"を中量含む
 - 10層 Hae10YR35 暗褐色 0-4粒子を少量含む
 - 11層 Hae10YR44 褐色 0-17"0"を中量含む
 - 12層 Hae10YR44 褐色 0-17"0"を多量に含む
- S34 P8
- 13層 Hae10YR35 暗褐色 0-4粒子を中量、3-6小"0"を中量、3-8"粒子を少量含む
 - 14層 Hae10YR44 褐色 0-4粒子を中量、0-17"0"を多量に含む
 - 15層 Hae10YR44 褐色 0-17"0"を多量に含む

0 2m 1:60

第12図 第4号住居跡P5遺物出土状態



S34 P4	14層 Hae10YR44 褐色 0-17"0"を少量含む	S34 P1	22層 Hae10YR25 黒褐色 0-1粒子を少量、1-4"粒子を少量含む
17層 Hae10YR45 褐色 0-17"0"を中量含む	S34 P5	23層 Hae10YR46 褐色 0-17"0"を多量に含む	
S34 P1	18層 Hae10YR25 黒褐色 0-1粒子を多量、0-17"0"を中量、焼土粒子を少量、1-4"粒子を中量含む	S34 P6	24層 Hae10YR44 褐色 0-17"0"を少量含む
19層 Hae10YR25 黒褐色 0-17"0"を少量、1-4"粒子を少量含む	24層 Hae10YR44 褐色 0-1粒子を少量、1-7"0"を中量含む	24層 Hae10YR44 褐色 0-1粒子を少量、1-7"0"を中量含む	
20層 Hae10YR34 暗褐色 0-1粒子を中量、0-17"0"を中量、焼土粒子を少量含む	25層 Hae10YR46 褐色 0-17"0"を含む	S34 P7	25層 Hae10YR35 暗褐色 0-1粒子を多量、0-17"0"を多量、1-4"粒子を少量含む
21層 Hae10YR34 暗褐色 0-1粒子を少量、0-17"0"を多量、焼土粒子を中量含む	27層 Hae10YR34 暗褐色 0-1粒子を少量、0-17"0"を少量含む		

第7号住居跡 (第18図・第20図)

C-5・C-6グリッドに位置する。第6号住居跡と重複するが、本住居跡の方が古い。

平面形態は円形を呈し、長径は約4.6mと推定され、深さは0.25mである。床面はほぼ平坦で、あまり硬化しておらず、壁溝が巡る。

住居跡のほぼ中央部に炉があり、長径は85cmである。炉の底面はあまり焼けていなかった。

柱穴は6本検出された。柱穴の深さはP1:12cm、P2:30cm、P3:20cm、P4:12cm、P5:22cm、P6:16cmである。すべて主柱穴になるものと思われる。

出土遺物は約50点と少なく、12点を図化することができた。

1は連弧文系土器の口縁部破片であり、緩く内湾しながら開く器形で、2本沈線によって口縁部が区画されている。地文は単節RLをやや縦位施文する。

2、3は加曾利E系のキャリバー系土器であるが、2は口縁部の内湾が緩く括れの少ない器形である。口縁部文様帯は沈線の渦巻文が施文され、胴部は磨消懸垂文が垂下し、地文は口縁部から胴部にかけて単節RLが縦位施文される。3は口縁部文様帯の区画文部分で、隆帯に沿って沈線文が施文される。

4、5は連弧文系土器で、磨消連弧文が施文されるものである。4は胴部に横位の直線的な磨消縄文を2段施文して区画し、胴部に磨消懸垂文を垂下する。5

は磨消連弧文を弧状に施文する。いずれも地文には単節LRを施文する。

6~11は胴部破片で、6~8は磨消懸垂文を垂下する加曾利E系のキャリバー系土器の胴部破片であり、6は単節LR、7は複節RLR、8は0段多条の可能性のある単節RLを施文する。9~11は条線文を施文する曾利系の胴部破片で、9、10は太い集合沈線文、11は条線文を縦位に施文する。

12は石鏃である。石材はチャートで、長さは2.1cm、幅は1.5cm、厚さは0.2cm、重さは0.48gである。

以上、土器の大半は加曾利EⅢ式段階に比定される。

第8号住居跡 (第21図)

C-6グリッドに位置する。第37号土壇より新しく、第36号土壇・第39号土壇と重複するがその新旧関係は不明である。

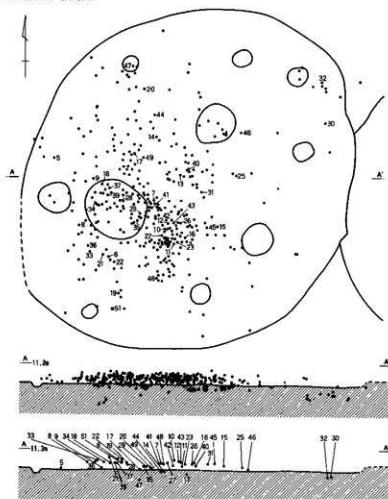
台地の傾斜地に立地するため、住居の北半分は検出できなかった。平面形態は円形を呈すると思われる。径は不明で、深さは0.3mである。床面は平坦で、あまり硬化していなかった。

住居跡のほぼ中央部に炉があり、長径55cmである。炉の底面はあまり焼けていなかった。

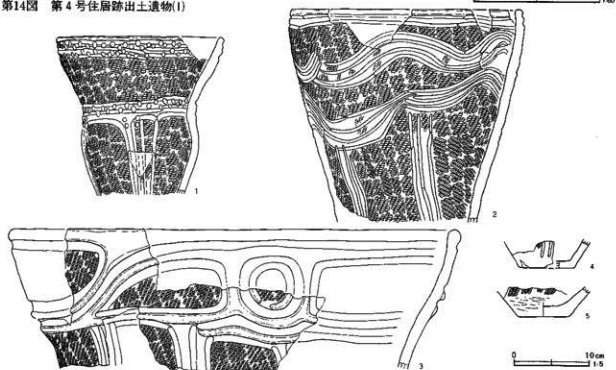
柱穴は2本検出された。柱穴の深さはP1:12cm、P2:26cmである。すべて主柱穴になるものと思われる。

出土遺物は無かった。

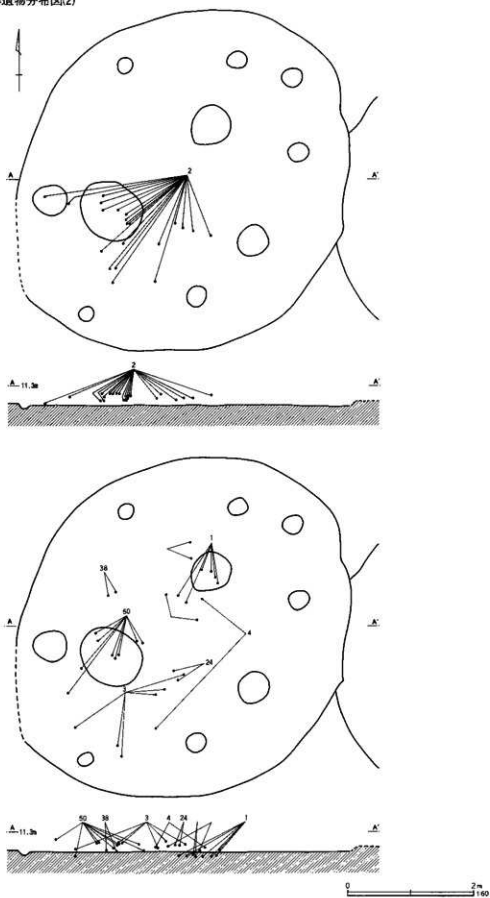
第13图 第4号住居跡遺物分布图(I)



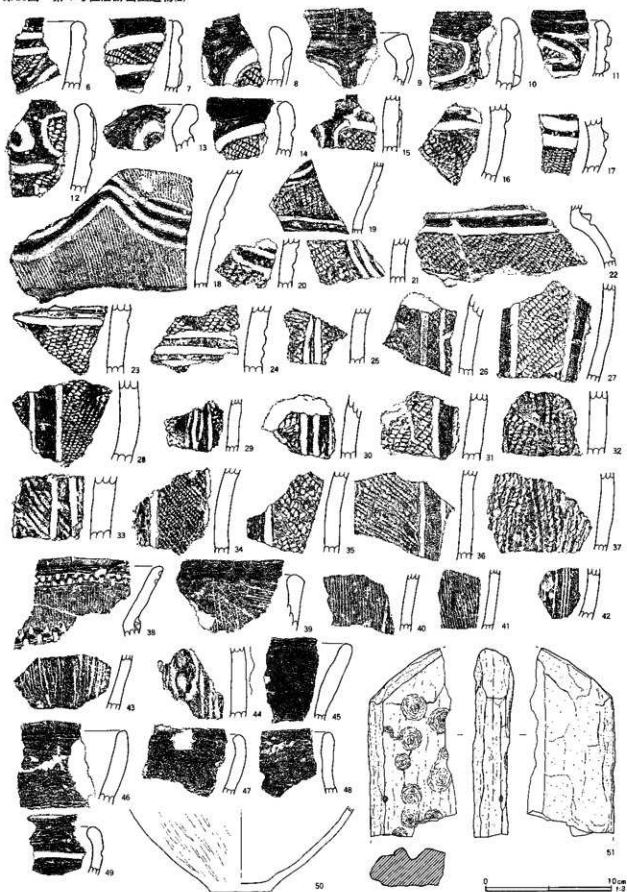
第14图 第4号住居跡出土遺物(I)



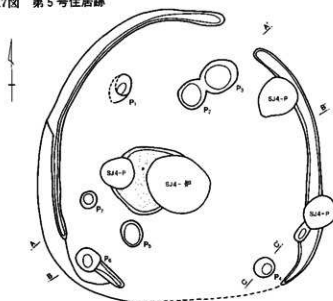
第15图 第4号住居跡遺物分布图(2)



第16図 第4号住居跡出土遺物(2)



第17図 第5号住居跡



- S35 (半圓部は第11層にあり)
- | | | | |
|--------|-----------|-----|-------------------------|
| 1a層 | Hae10YR34 | 暗褐色 | D-1粒子を少量、B-1小7"砂を少量含む |
| 1b層 | Hae10YR34 | 暗褐色 | D-1粒子を中量、B-17"砂を少量含む |
| 2層 | Hae10YR44 | 褐色 | B-17"砂を多量に含む |
| S35 P2 | | | |
| 1層 | Hae10YR20 | 黒褐色 | D-1粒子を多量、B-17"粒子を微量含む |
| 2層 | Hae10YR30 | 暗褐色 | D-1粒子を中量含む |
| 3a層 | Hae10YR44 | 褐色 | D-1粒子を中量、B-17"砂を中量含む |
| 3b層 | Hae10YR44 | 褐色 | B-17"砂を多量に含む |
| S35 P3 | | | |
| 1a層 | Hae10YR20 | 黒褐色 | D-1粒子を少量、B-17"粒子を微量含む |
| 1b層 | Hae10YR20 | 黒褐色 | D-1小7"砂を中量、B-17"粒子を中量含む |
| 2層 | Hae10YR30 | 暗褐色 | D-1粒子を中量、B-17"粒子を少量含む |
| 3a層 | Hae10YR44 | 褐色 | D-1粒子を中量、B-17"砂を多量に含む |
| 3b層 | Hae10YR44 | 褐色 | D-17"砂を多量に含む |



- 点 S35 P4
- | | | | |
|----|-----------|-----|----------------------------------|
| 1層 | Hae10YR30 | 暗褐色 | D-1粒子を中量、B-1小7"砂を中量、B-17"粒子を少量含む |
| 2層 | Hae10YR44 | 褐色 | D-1粒子を少量、B-1小7"砂を少量、B-17"粒子を微量含む |
| 3層 | Hae10YR46 | 褐色 | D-1小7"砂を少量含む |
| 4層 | Hae10YR34 | 暗褐色 | D-1粒子を少量、B-17"砂を中量含む |



第9号住居跡 (第22図)

C-6・C-7グリッドに位置する。住居跡の北半分は調査区域外へ続いており、全体を調査することはできなかった。

平面形態は円形になるものと思われる。床面は平坦で、あまり硬化していなかった。

柱穴は2本検出されたが、いずれも浅い。柱穴の深さはP1: 8cm、P2: 8cmの2本である。

出土遺物は数点と少なく、1点しか図化することができなかった。

1は加曾利E系のキャリパー系土器の胴部破片で、磨消懸垂文が垂下する。地文は太細の撚り合わせによる付加条縄文に類似した単節R.Lを縦位施文するものであるが、沈線文施文、充填施文されている。

第10号住居跡 (第23図)

C-8・D-8グリッドに位置する。第11号住居跡・第15号土壌・第32号土壌・第33号土壌と重複するが、本住居跡の方が古い。

住居跡の北半分は調査区域外へ続いており、全体を調査することはできなかった。平面形態は円形になるものと思われる。床面は平坦で、あまり硬化していなかった。

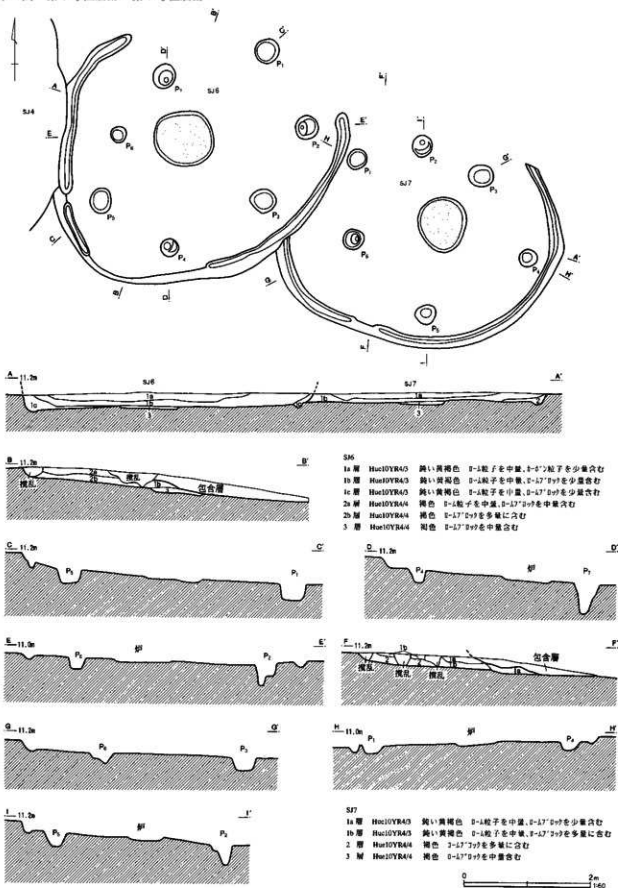
炉は調査区域内では検出されなかった。

柱穴は5本検出され、P1: 8cm、P2: 20cm、P3: 12cm、P4: 19cm、P5: 18cmである。

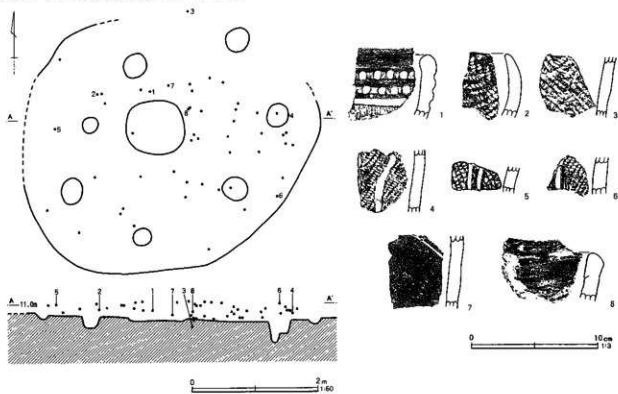
出土遺物は十数点と少なく、5点しか図化することができなかった。

1は加曾利E系のキャリパー系土器で、口縁部が隆

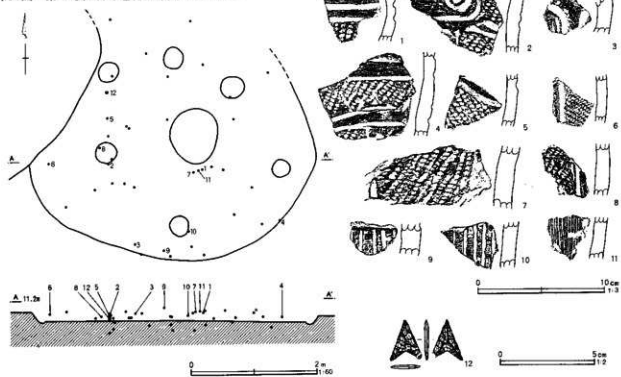
第18図 第6号住居跡・第7号住居跡



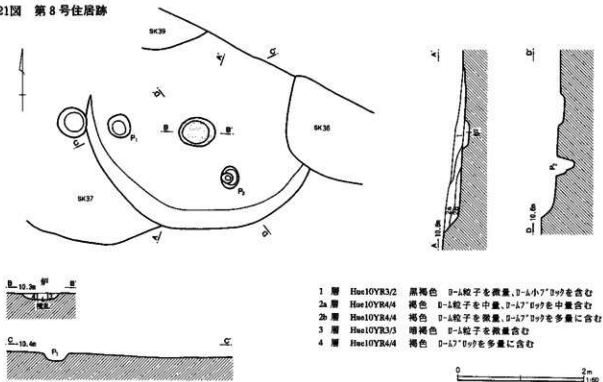
第19图 第6号住居跡遺物分布図・出土遺物



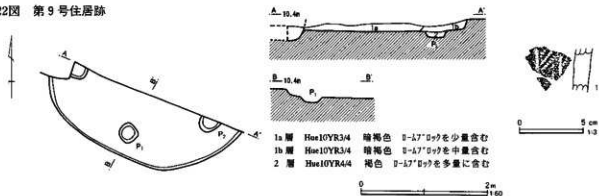
第20图 第7号住居跡遺物分布図・出土遺物



第21図 第8号住居跡



第22図 第9号住居跡



帯で区画されており、隆帯脇には沈線文が施文されている。胴部はやや細い沈線文で区画された磨消懸垂文が垂下している。地文は単節RLを縦位に施文する。

2は連弧文土器の破片と思われる。磨消連弧文が横位に施文されるもので、地文は単節RLを縦位施文する。

3は逆「U」字状の磨消懸垂文が施文されるもので、[U]字状の肩の部分に円形刺突文が2個施されている。地文は単節LRを充満施文する。

4は磨消懸垂文が垂下する加曾利E系土器で、地文には単節RLが充満施文されている。

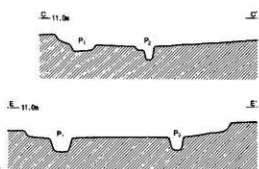
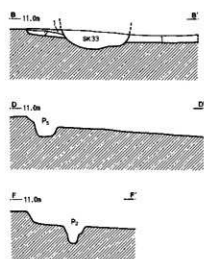
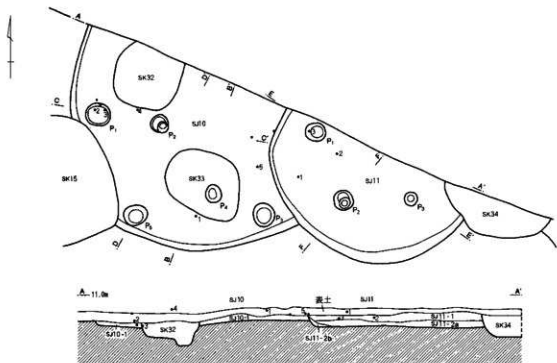
5は条線文が施文されており、厚身であることから曾利系深鉢土器の胴部破片と思われる。

第11号住居跡 (第23図)

C-8・D-8グリッドに位置する。第10号住居跡よりも新しく、第34号土壇よりも古い。

住居跡の北半分は調査区域外へ続いており、全体を

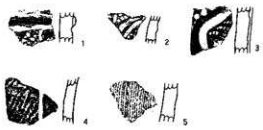
第23図 第10号住居跡・第11号住居跡



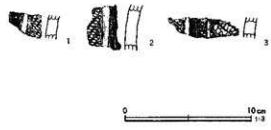
- SJ10
 1層 Hue10YR4/4 褐色 0-1粒子を少量、0-1小7"0"を中量含む
 2層 Hue10YR4/6 褐色 0-1粒子を微量、0-1小7"0"を少量含む
- SJ11
 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-1粒子を少量、3-4"粒子を極少量含む
 2a層 Hue10YR4/4 褐色 0-17"0"を中量、3-4"粒子を極少量含む
 2b層 Hue10YR4/4 褐色 0-17"0"を多量に含む



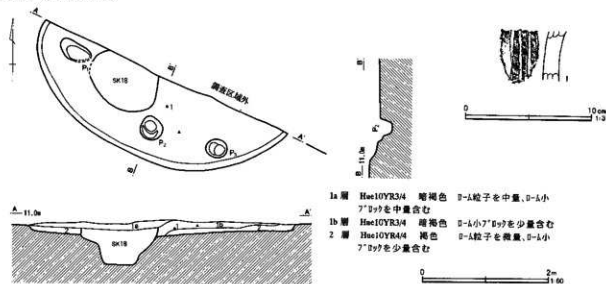
第10号住居跡出土遺物



第11号住居跡出土遺物



第24図 第12号住居跡



調査することはできなかった。平面形態は円形になるものと思われる。床面は平坦で、あまり硬化していなかった。

炉は調査区域内では検出されなかった。

柱穴は3本検出された。柱穴の深さはP 1 : 22cm、P 2 : 26cm、P 3 : 20cmである。

出土遺物は十数点と少なく、3点しか図化することができなかった。

1～3は加曾利E系のキャリパー系土器の胴部破片である。いずれも磨消懸垂文が垂下するもので、1、2は単節RLが、3は単節LRが、沈線施文後充填施文されている。

第12号住居跡 (第24図)

D-9グリッドに位置する。第18号土壇と重複し、本住居跡の方が古い。

住居跡の北半分は調査区域外へ続いている。全体を調査することはできなかった。平面形態は円形になるものと思われる。床面は平坦で、あまり硬化していなかった。

炉は調査区域内では検出されなかった。

柱穴は3本検出された。柱穴の深さはP 1 : 18cm、P 2 : 20cm、P 3 : 30cmの3本である。

遺物は十数点と少なく、1点しか図化することができなかった。

1は深鉢の胴部破片であるが、懸垂文状の沈線文が3本垂下している。胎土、色調等から加曾利E系の土器と思われるが、胴部に縄文が施文されていないことから、曾利系の深鉢の可能性もある。

第13号住居跡 (第25図・第26図)

D-10・E-10グリッドに位置する。第4号溝と重複し、本住居跡の方が古い。

住居跡の北半分は調査区域外へ続いている。全体を調査することはできなかった。平面形態は円形になるものと思われる。床面は平坦で、あまり硬化していなかった。

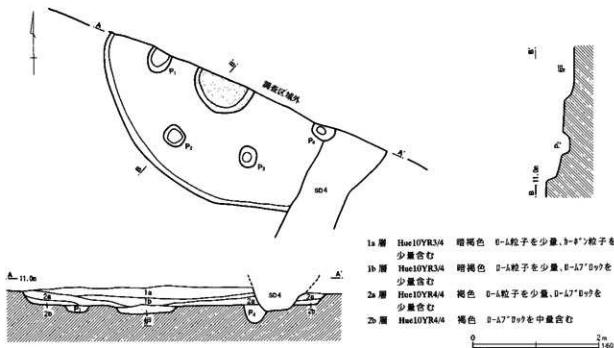
住居跡の中央からやや南寄りに炉があり、径は1mである。炉の底面はあまり焼けていなかった。

柱穴は4本検出された。柱穴の深さはP 1 : 10cm、P 2 : 10cm、P 3 : 21cm、P 4 : 30cmである。

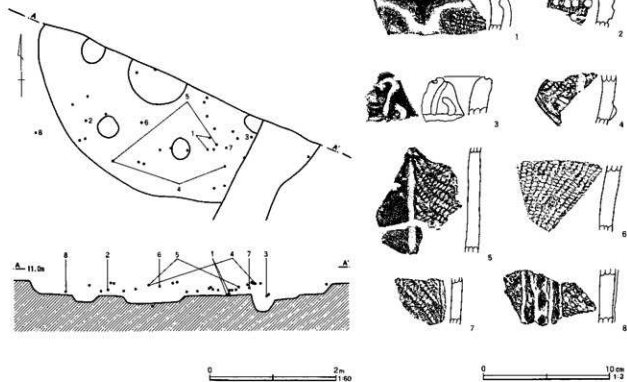
出土遺物は約50点と少なく、8点を図化することができた。

1は加曾利E系のキャリパー系土器の口縁部破片で、口唇から連なる隆帯で区画文が施される。地文は単節RLを横位に施文する。

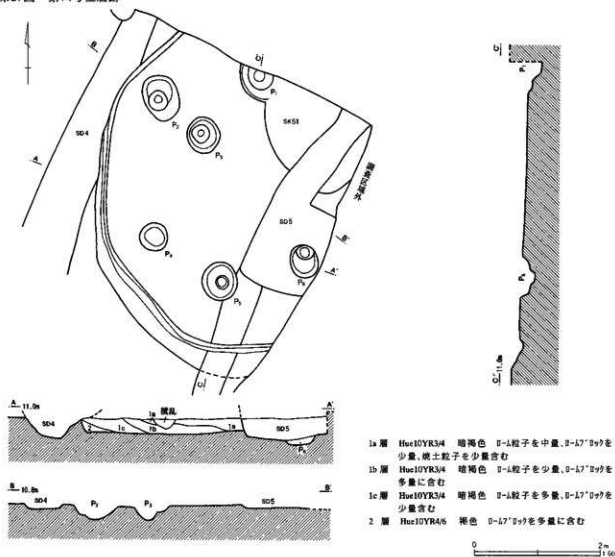
第25图 第13号住居跡



第26图 第13号住居跡遺物分布图・出土遺物



第27図 第14号住居跡



2は口縁部文様帯を持たない土器で、口縁部は2列の刺突文列で区画されている。

3は口縁の山形の把手部分で、先端部裏面からつながる「S」字状沈線文が縦位に施される。

4は口縁部の下端が頸帯で区画されるもので、地文に単筋LRを横位施文する。

5～8は加曾利E系のキャリパー系土器の胴部破片で、5、7は磨消懸垂文が垂下し、8は隆帯懸垂文が垂下する。地文は5、7が単筋LRで、6、8がRLを縦位に施文する。

第14号住居跡 (第27図・第28図)

D-10・E-10グリッドに位置する。第4号溝・第

5号溝よりも古い。第51号土壇との新旧関係は不明である。

住居跡の大半は調査区域外へ続いていると推定され、全体を調査することはできなかった。平面形態は円形になるものと思われる。床面は平坦で、あまり硬化していなかった。

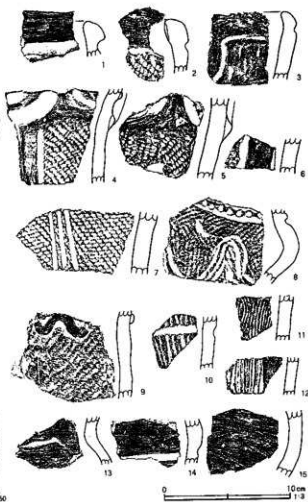
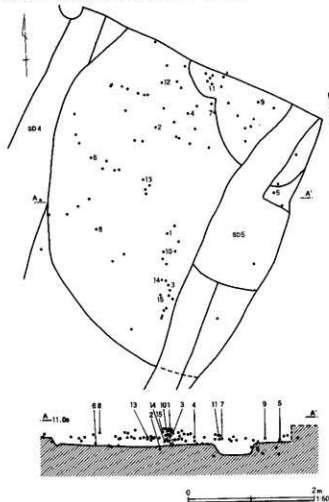
灰土は調査区域内では検出されなかった。

柱穴は6本検出された。柱穴の深さはP1:20cm、P2:22cm、P3:22cm、P4:12cm、P5:20cm、P6:10cmである。

出土遺物は約100点あり、15点を図化することができた。

1～7は加曾利E系のキャリパー系土器で、1～5

第28図 第14号住居跡遺物分布図・出土遺物



は口縁部破片である。1、2は口唇部が肥厚し、やや内湾して開くが、3はほとんど内湾せず、直線的に開く器形を呈する。4は口縁部文様帯の下端部分であるが、渦巻文から連なる沈線文が胴部へと下がり、口縁部の区画が不明瞭になっている。4は磨消懸垂文が垂下し、地文に単節LRを施文する。5も磨消懸垂文の痕跡がかすかにみられ、地文に単節RLを施文している。6、7は胴部破片で、6は2本沈線間の磨消懸垂文が、7は3本沈線懸垂文が垂下する。地文は6が単節RL、7がLRである。

8は連弧文土器で、口縁部が平形の刺突文を施す沈線で区画されており、胴部が強く屈曲する器形を呈する。連弧文は沈線文間を狭めた磨消状を呈しており、地文は単節RLである。

9は胴部を横位の蛇行隆帯で区画する曾利系の土器で、地文に単節RLを縦位施文する。10~12は条線文を施文する曾利系の土器で、10は条線文上に横位の沈線文を施文している。

13~15は無文土器で、13は胴部が壊れて張る器形を呈し、14は浅鉢の口縁部である。

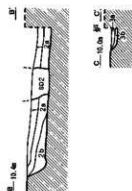
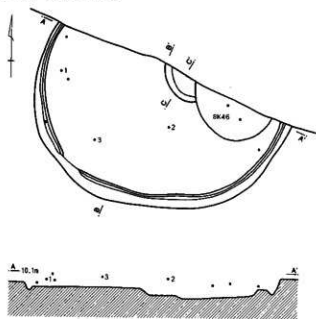
以上、加曾利EⅡ式~Ⅲ式にかけての土器群である。

第15号住居跡 (第29図)

B-4・B-5グリッドに位置する。第46号土壇・第2号溝と重複するが、本住居跡の方が古い。

住居跡の北半分は調査区域外へ続いており、全体を調査することはできなかった。平面形態は円形になるものと思われる。床面は平坦で、あまり硬化していない

第29図 第15号住居跡



- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-1粒子を少量、D-1
7'09'を少量含む
- 2a層 Hue10YR4/4 褐色 D-1粒子を少量、D-1
7'09'を中量含む
- 2b層 Hue10YR4/4 褐色 D-17'09'を少量に含む
- 3a層 Hue10YR4/4 褐色 D-17'09'を少量含む
- 3b層 Hue10YR4/4 褐色 D-17'09'を中量含む

0 2m 1:40

第15号住居跡出土遺物



かった。

住居跡の中央からやや東寄りに炉がある。炉の底面はあまり焼けていなかった。

柱穴は検出されなかった。

出土遺物は十数点と少なく、3点を図化することができた。

1、2は加曾利E系のキャリパー系土器の胴部破片で、磨消懸垂文が埋下する。地文は1が複筋L R L、2が単筋R Lを縦位施文する。

3は沈線区画内に集合沈線文を施文しており、曾利系の土器と思われる。

第16号住居跡 (第30・31図)

B-4グリッドに位置する。第13号土壌・第14号土壌と重複するが、本住居跡の方が古い。

住居跡の北半分は調査区域外へ続いているため、全体を調査することはできなかった。平面形態は円形になる

ものと思われる。床面は平坦で、あまり硬化していなかった。

炉は住居跡のほぼ中央にあるものと思われ、径は85cmである。

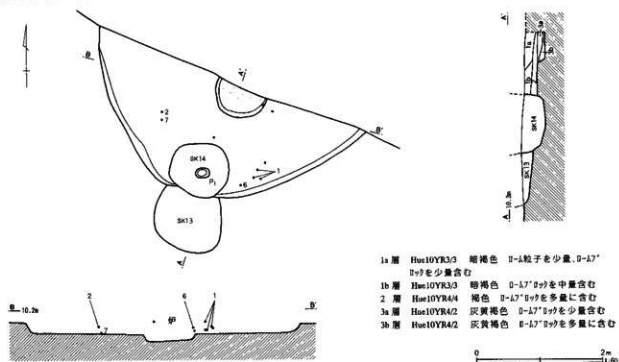
柱穴は検出されなかった。

出土遺物は十数点と少なく、7点を図化した。

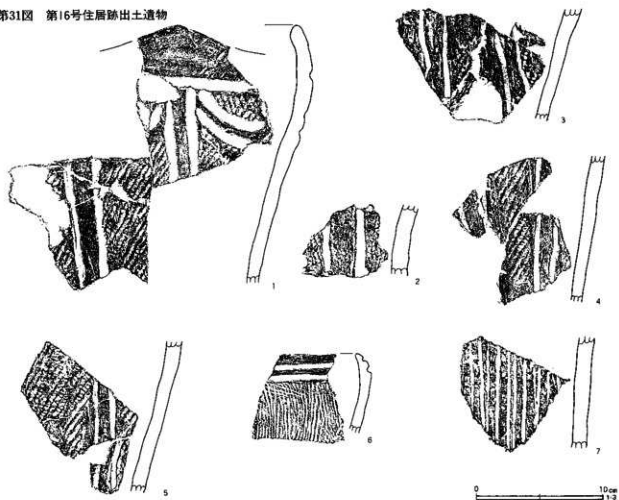
1は加曾利E系の口縁部文様帯をもたない深鉢で、4単位の波状口縁を呈する。沈線文で口縁の無文部が区画され、この区画沈線から磨消懸垂文が垂下する。この懸垂文間には磨消の弧状文が施文されており、口縁部の区画文の様にも見えるが、連弧土器との折衷的な様相を呈しているものと思われる。地文に単筋R Lを充満施文する。3～5は同一個体である。

6は口縁部が内湾しながら開き、胴部で括れる深鉢土器で、口縁部が2本の沈線で区画される。地文に条線が施文されている。7は胴部に間隔の粗い条線を施文する曾利系の土器である。

第30図 第16号住居跡



第31図 第16号住居跡出土遺物



(2) 土壌

A区では推定も含めて縄文時代の土壌は42基検出された。すべて住居跡と同じ縄文時代中期のものと思われる。平面形は楕円形のものが多く、深さは30cm前後の浅いものが多い。平面図・断面図は第32図～第36図に掲載した。規模や位置は第4図と第1表で説明したこととし、文章では土器の説明だけを行う。

第1号土壌出土土器 (第37図)

1、2とも中期の加曾利E系のキャリバー系土器の胴部破片で、1は単節RL、2はLRが施文されている。

第3号土壌出土土器 (第37図)

1、2は早期の条痕文系土器である。胎土に繊維を少量含み、表裏面に条痕文を施文する。

3は中期の加曾利E系土器の胴部破片で、磨消懸垂文が垂下する。地文は単節RLが縦位に充填施文される。

第6号土壌出土土器 (第37図)

1～3は加曾利E系の土器で、1は口縁部文様帯下端部分に当たり、隆帯で区画されている。2は胴部破片で、磨消懸垂文が垂下し、地文に単節RLを縦位施文する。3は無文土器である。

第7号土壌出土土器 (第37図)

1～4は加曾利E系土器で、5は曾利系土器である。1は口縁部に隆帯の区画文が施され、2、3は胴部破片で磨消懸垂文が垂下する。地文は2が単節RLであるが、3は不明瞭である。4は単節RL縄文のみ施され、5は条線文が施される。

第8号土壌出土土器 (第37図)

1～7は加曾利E系土器で、8～10は曾利系の土器である。1は口唇下に沈線文が廻り口縁部の区画文が施され、2は隆帯の渦巻文が施文される。3～6は胴

部破片で、磨消懸垂文が垂下する。地文はすべて単節RLである。7は撚糸L地文上に、2本の沈線文が垂下する。

8はキャリバー系の胴部破片で、磨消懸垂文が垂下するが、地文に条線文が施文されている。9、10は胴部で括れ、口縁部が大きく開く器形を呈し、口唇部内端が突出する。9は口縁部に斜位の集合沈線文を施文するが、10は無文である。

第12号土壌出土土器 (第37図)

1は早期の条痕文系土器で、胎土に繊維を少量含み、表裏面に条痕文を施文する。

第14号土壌出土土器 (第37図)

1は加曾利E系のキャリバー系土器の底部付近の破片で、磨消懸垂文が垂下する。地文は単節RLが、充填施文される。

第15号土壌出土土器 (第37図)

1～5は加曾利E系土器である。1は口縁部破片で、若干内湾して開く口縁部隆帯で区画されている。2～4は胴部破片で、2は磨消懸垂文間に蛇行沈線文が垂下する。3は2本沈線文間の磨消懸垂文が垂下するが、縄文施文部分が狭い。4は縄文のみ施文される破片で、5は無文土器で、浅鉢の可能性もある。

第16号土壌出土土器 (第37図)

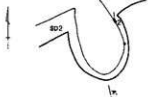
1は加曾利E系と思われるが、連弧文土器の可能性もある。太い沈線で区画され、地文に単節RLを縦位施文する。

第18号土壌出土土器 (第37図)

1・2は加曾利E系の土器と思われる。1は横位の沈線文が施され、2は縄文地文上に3本の沈線文が垂下する。3は曾利系の土器である。条線文が施文される。

第32図 A区縄文時代土壌(1)

第1号土壌



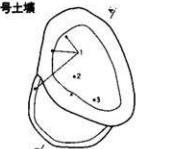
- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-I粒子を少量含む
 2a層 Hue10YR4/4 褐色 D-I粒子を少量含む
 2b層 Hue10YR4/4 褐色 D-I⁷B⁹を中量含む
 2c層 Hue10YR4/4 褐色 D-I⁷B⁹を多量を含む

第2号土壌



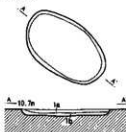
- 1a層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-I粒子を少量、D-I小⁷B⁹を少量含む
 1b層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-I粒子を中量、D-I小⁷B⁹を極少量含む
 2層 Hue10YR4/4 褐色 D-I粒子を多量、D-I⁷B⁹を多量を含む

第3号土壌



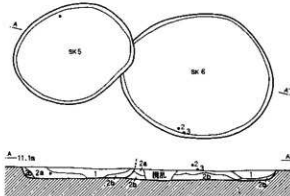
- 1a層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-I粒子を中量、D-I⁷B⁹を少量含む
 1b層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-I粒子を多量、D-I⁷B⁹を中量含む
 2層 Hue10YR4/4 褐色 D-I粒子を中量、D-I⁷B⁹を多量を含む

第4号土壌



- 1a層 Hue7.5YR3/4 暗褐色 D-I粒子を少量、D-I⁷B⁹を少量含む
 1b層 Hue7.5YR3/4 暗褐色 D-I⁷B⁹を多量を含む

第5号土壌・第6号土壌



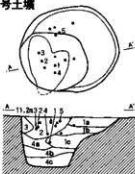
SK5

- 1層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 D-I粒子を多量、D-I小⁷B⁹を中量含む
 2a層 Hue10YR4/4 褐色 D-I粒子を多量、D-I小⁷B⁹を中量、D-I⁷B⁹を少量含む
 2b層 Hue10YR4/4 褐色 D-I粒子を中量、D-I⁷B⁹を多量を含む

SK6

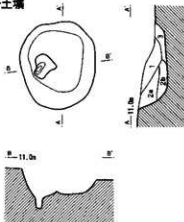
- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-I粒子を少量、D-I⁷B⁹を少量含む
 2a層 Hue10YR4/6 褐色 D-I粒子を少量、D-I小⁷B⁹を少量含む
 2b層 Hue10YR4/6 褐色 D-I⁷B⁹を多量を含む

第7号土壌



- 1a層 Hue10YR4/6 褐色 D-I粒子を多量、D-I⁷粒子を少量、D-I⁷B⁹を少量含む
 1b層 Hue10YR4/6 褐色 D-I粒子を多量、D-I⁷B⁹を中量含む
 1c層 Hue10YR4/6 褐色 D-I粒子を中量、D-I⁷B⁹を多量を含む
 2層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-I粒子を中量、D-I⁷粒子を少量含む
 3層 Hue10YR4/4 褐色 D-I粒子を中量、D-I⁷B⁹を中量含む
 4a層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-I粒子を多量、D-I小⁷B⁹を多量を含む
 4b層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-I小⁷B⁹を少量含む
 4c層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-I⁷B⁹を少量含む

第9号土壌

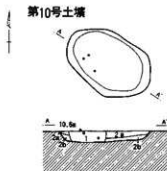


- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-I粒子を少量、D-I小⁷B⁹を少量含む
 2a層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-I粒子を少量、D-I⁷B⁹を多量を含む
 2b層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-I粒子を微量、D-I小⁷B⁹を少量含む
 3層 Hue10YR4/4 褐色 D-I粒子を少量、D-I小⁷B⁹を多量を含む

0 2m 160

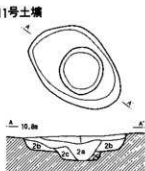
第33图 A区縄文時代土壌(2)

第10号土壌



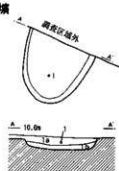
- 1層 Hue10YR2/2 黒褐色 D-17" D⁹を中量含む
 2a層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-1粒子を少量、D-1小7" D⁹を少量含む
 2b層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-17" D⁹を多量に含む

第11号土壌



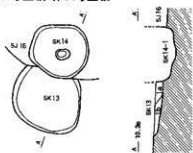
- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-1小7" D⁹を少量含む
 2a層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-1粒子を少量含む
 2b層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-17" D⁹を多量に含む
 2c層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-1小7" D⁹を中量含む

第12号土壌



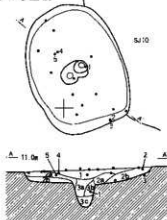
- 1a層 Hue7.5YR4/2 灰褐色 黒色小7" D⁹を少量、黒色粒を少量含む
 1b層 Hue7.5YR4/2 灰褐色 D-1粒子を少量、D-1小7" D⁹を中量含む

第13号土壌 第14号土壌



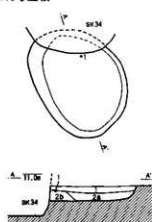
- SK13
 1a層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-17" D⁹を中量含む
 1b層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-17" D⁹を少量含む
 SK14
 1層 Hue10YR2/2 黒褐色 D-1粒子を中量、D-1小7" D⁹を少量含む

第15号土壌



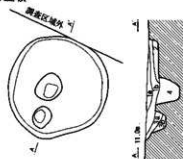
- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-1粒子を多量、D-1小7" D⁹を中量、3-4" 粒子を少量含む
 2a層 Hue10YR4/4 褐色 D-1粒子を少量、D-1小7" D⁹を中量含む
 2b層 Hue10YR4/4 褐色 D-17" D⁹を多量、3-4" 粒子を少量含む
 3a層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-1粒子を中量、3-4" 粒子を少量含む
 3b層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-1粒子を少量、D-17" D⁹を多量に含む
 3c層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-1粒子を少量、D-1小7" D⁹を少量含む

第16号土壌



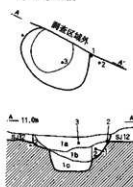
- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-1粒子を中量含む
 2a層 Hue10YR4/4 褐色 D-1粒子を少量含む
 2b層 Hue10YR4/4 褐色 D-17" D⁹を多量に含む

第17号土壌



- 1a層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-1粒子を中量、D-1小7" D⁹を少量含む
 1b層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-1粒子を中量、D-1小7" D⁹を中量含む
 2層 Hue10YR4/6 褐色 D-17" D⁹を多量に含む
 3a層 Hue10YR4/4 褐色 D-17" D⁹を少量含む
 3b層 Hue10YR4/4 褐色 D-17" D⁹を多量に含む
 4層 Hue10YR2/3 黒褐色 D-1粒子を多量、D-1小7" D⁹を多量に含む

第18号土壌

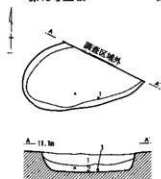


- 1a層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-1粒子を中量、D-1小7" D⁹を多量に含む
 1b層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-1粒子を少量、D-17" D⁹を中量含む
 1c層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-17" D⁹を多量に含む
 2層 Hue10YR4/4 褐色 D-17" D⁹を多量に含む

0 2m 160

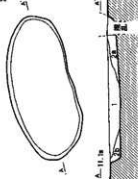
第34図 A区縄文時代土壌(3)

第19号土壌



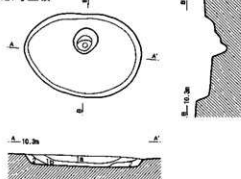
- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-1粒子を
中量含む
2層 Hue10YR4/4 褐色 0-1粒子を
微量、0-17°D₉₇を多量に含む

第20号土壌



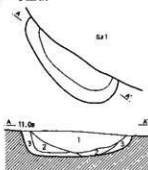
- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-1小7°D₉₇を
多量に含む
2a層 Hue10YR4/4 褐色 0-17°D₉₇を多量
に含む
2b層 Hue10YR4/4 褐色 0-1粒子を多量
に含む

第21号土壌



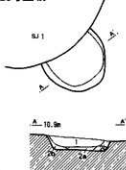
- 1a層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-1粒子を少量、0-1
7°D₉₇を少量含む
1b層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-1粒子を少量、0-1
7°D₉₇を中量含む
2層 Hue10YR4/4 褐色 0-17°D₉₇を多量に含む

第22号土壌



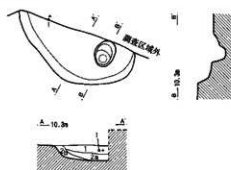
- 1層 Hue10YR2/3 黒褐色 0-1粒子を多量、0-1
7°D₉₇を中量、0-4°粒子を少量含む
2層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-1粒子を少量、0-1
7°D₉₇を中量含む
3層 Hue10YR4/4 褐色 0-1粒子を少量、0-1
7°D₉₇を多量に含む

第23号土壌



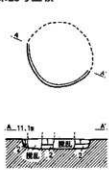
- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-1粒子を
少量、0-17°D₉₇を少量含む
2a層 Hue10YR4/4 褐色 0-1粒子を
少量、0-17°D₉₇を中量含む
2b層 Hue10YR4/4 褐色 0-17°D₉₇を
多量に含む

第24号土壌



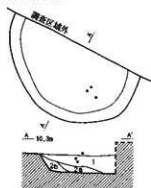
- 1層 Hue7.5YR3/4 暗褐色 0-1粒子を中量、0-1
7°D₉₇を中量含む
2a層 Hue10YR4/4 褐色 0-17°D₉₇を中量含む
2b層 Hue10YR4/4 褐色 0-17°D₉₇を多量に含む

第25号土壌



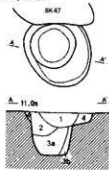
- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色
0-1粒子を中量含む
2層 Hue10YR4/4 褐色
0-17°D₉₇を多量に含む

第26号土壌



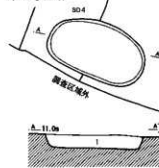
- 1層 Hue7.5YR3/4 暗褐色 0-1粒子を
中量、0-17°D₉₇を中量含む
2a層 Hue10YR4/4 褐色 0-17°D₉₇を
中量含む
2b層 Hue10YR4/4 褐色 0-17°D₉₇を
多量に含む

第27号土壌



- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-1粒子を少量含む
0-1粒子を少量含む
2層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色
0-1小7°D₉₇を中量含む
3a層 Hue10YR2/2 黒褐色
0-1小7°D₉₇を少量含む
3b層 Hue10YR2/2 黒褐色
0-17°D₉₇を中量含む
4層 Hue10YR4/4 褐色
0-17°D₉₇を中量含む

第28号土壌

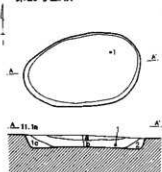


- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-1粒子を
少量、0-1小7°D₉₇を中量、
1-8°粒子を少量含む



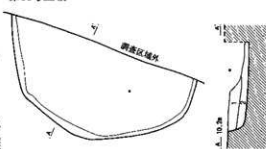
第35図 A区縄文時代土壌(4)

第29号土壌



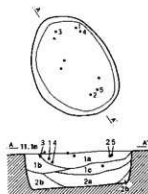
- 1a層 Hue10YR4/4 褐色 D-1粒子を多量、
D-1小7"pを中量含む
1b層 Hue10YR4/4 褐色 D-1粒子を少量、
D-17"pを多量に含む
1c層 Hue10YR4/4 褐色 D-1粒子を少量
含む
2層 Hue10YR4/6 褐色 D-17"pを多量
に含む

第30号土壌



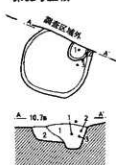
- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-1粒子を多量、
D-17"pを少量含む
2層 Hue10YR4/4 褐色 D-17"pを中量
含む

第31号土壌



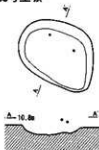
- 1a層 Hue10YR4/4 褐色 D-1粒子を多量、D-1
小7"pを少量含む
1b層 Hue10YR4/4 褐色 D-17"pを多量、D-4"
粒子を微量含む
1c層 Hue10YR4/4 褐色 D-1粒子を少量、D-1
7"pを少量含む
2a層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-17"pを中量含む
2b層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-17"pを多量に含む

第32号土壌

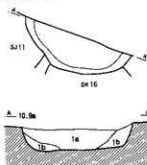


- 1層 Hue10YR2/3 黒褐色
D-1粒子を中量含む
2層 Hue10YR3/3 暗褐色
D-1小7"pを中量含む

第33号土壌

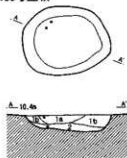


第34号土壌



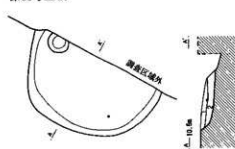
- 1a層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-1粒子を
中量、D-17"pを中量含む
1b層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-17"pを
多量に含む

第35号土壌



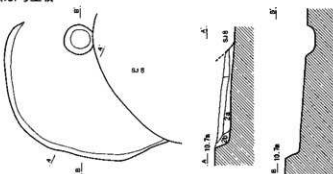
- 1a層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-1粒子を
多量、D-17"pを少量含む
1b層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-1粒子を
少量、D-17"pを中量含む
2層 Hue10YR4/4 褐色 D-17"pを
中量含む

第36号土壌



- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-1粒子を少量含む
2層 Hue10YR4/4 褐色 D-1粒子を少量、D-1
7"pを中量含む

第37号土壌

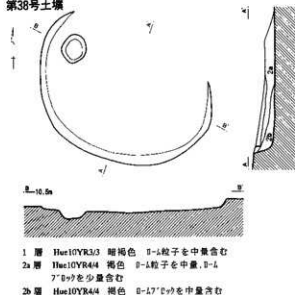


- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-1粒子を中量、D-1
7"pを中量含む
2a層 Hue10YR4/4 褐色 D-17"pを中量含む
2b層 Hue10YR4/4 褐色 D-17"pを多量に含む

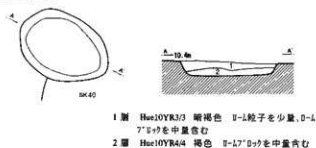


第36図 A区縄文時代土壌(5)

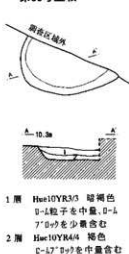
第38号土壌



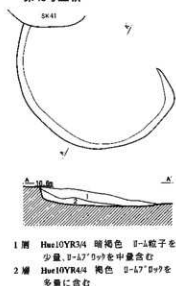
第41号土壌



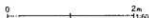
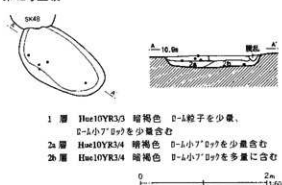
第39号土壌



第40号土壌



第42号土壌



第19号土壌出土土器 (第37図)

1は器壁の薄い、浅鉢の胴部破片である。細かい条線文が施文されている。

第24号土壌出土土器 (第37図)

1は加曾利E系の口縁部文様帯を持たない土器で、口縁が内湾気味に開き、胴部で括れる器形を呈する。口縁は2本の沈線文で区画され、区画沈線から磨消懸垂文が垂下する。地文は単節RLを縦位施文する。

第28号土壌出土土器 (第37図)

1は曾利系の深鉢土器の胴部破片で、条線文が施されている。

第29号土壌出土土器 (第37図)

1は口縁が開きながら内折し、胴部で括れる器形で、口縁部に2本の沈線文が廻らされて区画されている。3本目の区画線は、胴部に垂下する逆「U」字状懸垂文を構成する。地文は単節RLを縦位施文する。

第31号土壌出土土器 (第37図)

1~4は加曾利E系のキャリパー系土器で、1は口縁部の下端部、2~4は磨消懸垂文が施される胴部破片である。地文は2、3が単節RL、4が複節LRLである。

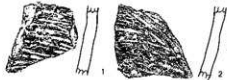
5は隆帯の懸垂文が垂下するが、地文に条線文が施文される。

第37图 A区縄文時代土壇出土遺物

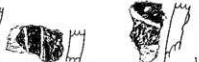
第1号土壇



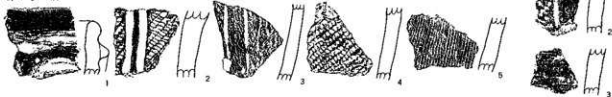
第3号土壇



第6号土壇



第7号土壇



第8号土壇



第12号土壇



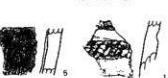
第14号土壇



第15号土壇



第16号土壇



第19号土壇



第18号土壇



第24号土壇



第28号土壇



第29号土壇



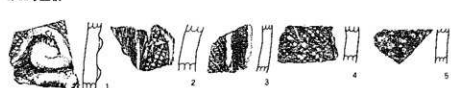
第31号土壇



第32号土壇



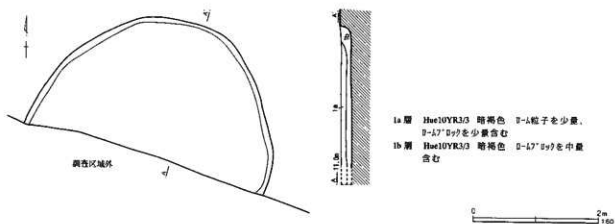
第33号土壇



第1表 A区土壌一覧

土壌番号	旧番号	グリッド	長辺(m)	短辺(m)	深さ(m)	主軸方向	時代
1	1	B-2	-	0.92	0.47	-	縄文
2	2	B-2	1.35	0.95	0.30	N-15'-W	縄文?
3	3	B-3	2.00	1.35	0.46	-	縄文
4	4	B-4	1.43	0.87	0.10	N-52'-W	縄文?
5	5	C-4	1.85	1.50	0.15	-	縄文
6	6	C-4	2.40	2.00	0.16	-	縄文
7	7	C-4	1.60	1.35	0.80	-	縄文
8	8	B-4	0.90	-	0.25	-	縄文
9	9	C-6	1.40	1.20	0.45	-	縄文?
10	10	C-6	1.45	0.95	0.18	N-60'-W	縄文
11	11	C-7	1.60	1.10	0.42	N-41'-W	縄文?
12	12	C-7	-	1.13	0.20	-	縄文
13	51	B-4	1.25	1.10	0.16	-	縄文?
14	50	B-4	0.95	0.85	0.40	-	縄文
15	15	C-7・C-8	2.00	1.50	0.64	N-19'-W	縄文
16	16	D-8	1.80	1.40	0.25	N-31'-W	縄文
17	17	D-8・D-9	1.65	1.55	0.54	-	縄文?
18	18	D-9	1.20	-	0.58	-	縄文
19	19	D-9	-	1.05	0.20	N-74'-E	縄文
20	20	D-9	2.30	1.05	0.18	N-13'-W	縄文?
21	49	B-4	1.85	1.30	0.20	N-85'-W	縄文?
22	22	B-3	1.75	-	0.40	-	縄文?
23	23	B-3・B-4	-	1.00	0.26	-	縄文?
24	48	A-3	2.00	-	0.25	-	縄文
25	25	E-10	1.07	-	0.15	-	縄文?
26	47	B-4	2.30	-	0.30	-	縄文
27	27	E-10	1.15	1.00	0.70	-	縄文?
28	28	E-10	1.58	0.90	0.23	N-70'-W	縄文
29	29	C-6	1.90	1.10	0.25	N-85'-E	縄文
30	44	B-5	3.15	-	0.35	-	縄文
31	31	D-8	1.70	1.28	0.60	N-34'-W	縄文
32	32	C-8	-	1.05	0.35	-	縄文
33	34	C-8	1.35	1.00	0.13	-	縄文
34	33	C-8・D-8	1.75	-	0.45	-	縄文?
35	42	B-5	1.40	1.10	0.26	-	縄文
36	36	C-6	-	2.20	0.35	-	縄文
37	37	C-6	-	-	0.33	-	縄文?
38	38	C-5	2.90	-	0.35	-	縄文?
39	39	B-6・C-6	1.60	-	0.22	-	縄文?
40	40	B-5・C-5	2.60	-	0.33	-	縄文?
41	41	B-5	1.52	1.05	0.25	N-63'-W	縄文?
42	13	C-7	1.50	0.85	0.21	N-56'-W	縄文
43	43	B-5	1.27	0.95	0.24	N-37'-W	中・近世以降
44	30	D-7	0.80	0.70	0.50	-	古墳時代初頭
45	45	B-5	1.30	1.27	0.25	N-53'-E	中・近世以降
46	46	B-5	-	-	-	-	中・近世以降
47	26	E-10	1.40	0.75	0.16	N-72'-W	中・近世以降
48	24	C-7	0.75	0.72	0.21	-	古墳時代初頭
49	21	D-9・E-9	1.40	0.95	0.82	N-4'-E	古墳時代初頭
50	14	C-7	1.60	-	0.35	-	中・近世以降
51	52	E-10	-	-	0.25	-	中・近世以降
52	35	D-8	1.55	1.28	0.85	N-17'-E	古墳時代初頭

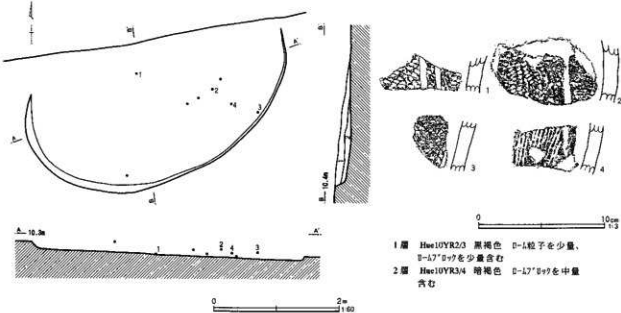
第38図 SX 1



1a 層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-47°を少量、
D-47°を少量含む

1b 層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-47°を中量
含む

第39図 SX 2



1 層 Hue10YR2/3 黒褐色 D-47°を少量、
D-47°を少量含む

2 層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-47°を中量
含む

第32号土壇出土土器 (第37図)

1は横位の2本沈線文間が無文となっている。2は磨消懸垂文が垂下し、単節LRが縦位施文される。3は条線文が施される深鉢土器の胴部破片である。

第33号土壇出土土器 (第37図)

1～5は加尊利E系の土器で、1は口縁部文様帯部分であり、隆帯の渦巻き文が施される。2～4は磨消懸垂文が施される胴部破片で、2は単節RL、3、4はLRが施文される。5は無文土器である。

(3) その他の遺構

SX 1 (第38図)

D-8グリッドに位置する。遺構の南半分は調査区域外へ続いている。平面形態は円形になるものと思われる。炉跡もピットも検出されなかったので、SXとした。遺物は出土しなかった。

SX 2 (第39図)

A-3・B-3グリッドに位置する。遺構の北半分は調査区域外へ続いている。平面形態は楕円形になる

ものと思われる。調査時点では第15号住居跡として調査されたが、炉跡もピットも検出されなかったので、SXとした。

出土遺物は約10点あり、4点を図化することができた。

1～4は加曾利E系のキャリバー系土器で、いずれも胴部破片である。1、2は磨消懸垂文が垂下し、地文に単節RLを施文している。3は地文に単節LRを施文している。4は地文に燃糸Rを施文している。

以上、加曾利EⅡ～Ⅲ式の土器群である。

(4) グリッド出土遺物 (第40図～第41図)

A区出土の縄文土器は、若干早期の土器群を含むが、ほとんどが中期末葉の土器群である。

第I群土器(1)

早期の条痕文系土器群である。平底状を呈する底部破片で、丸底の周辺に隆帯を巡らせて平底状に成形するが、丸い底部がやや突出する。繊維を少量含み、擦痕状の条痕が施される。

第II群土器

中期の土器群を一括する。大半が加曾利EⅡ式終末から、加曾利EⅢ式段階の土器群である。

2～28は加曾利E系のキャリバー系土器で、2～7は口縁部破片である。2は口縁部の湾曲が強いが、沈線文の楕円区画が施され、単節RLが充填施文される。3は口縁の湾曲が緩く、口縁部から続く低隆帯で楕円区画を施す。4は口縁部を区画する上からの沈線文が渦巻文を巻き込み、その胴部に刺突文を2か所に施す。5は口縁部の湾曲が弱く、6、7は口縁部の下端部にあたり、隆帯で区画される。胴部には磨消懸垂文が垂下する。

8～28は胴部破片で、磨消懸垂文が施されるものである。地文は充填手法によるが、無文部分をなぞり返しているものが多い。25は蛇行沈線文が垂下している。地文は20が単節LR、26が複節のLR L、27が複節のRL R、28が多条のRLである他は、みな単節RLである。

29～33は連弧文系土器で、29はやや内湾して開く口縁部に磨消連弧文が施される。30は胴部区画に接して連弧文間の区画文が施される。31は3本沈線のやや乱れた連弧文が施文されている。32、33は地文織文の上に沈線の懸垂文が施文されるものであるが、磨消を伴わないことから、連弧文系土器の懸垂文と思われる。

34～43は口縁部文様帯を持たない土器群で、口縁部が沈線及び刺突文を伴う沈線で区画されるものである。多くは口縁部がやや内湾して開く器形を呈するが、38は内湾の度合いが強く、キャリバー形を呈するものと思われる。35は口縁部の区画線から、磨消懸垂文が垂下しており、43は胴部区画線に刺突文を伴う沈線文が施文されている。この土器群の中には、胴部で区画する連弧文系土器の口縁部が含まれているものと思われる。

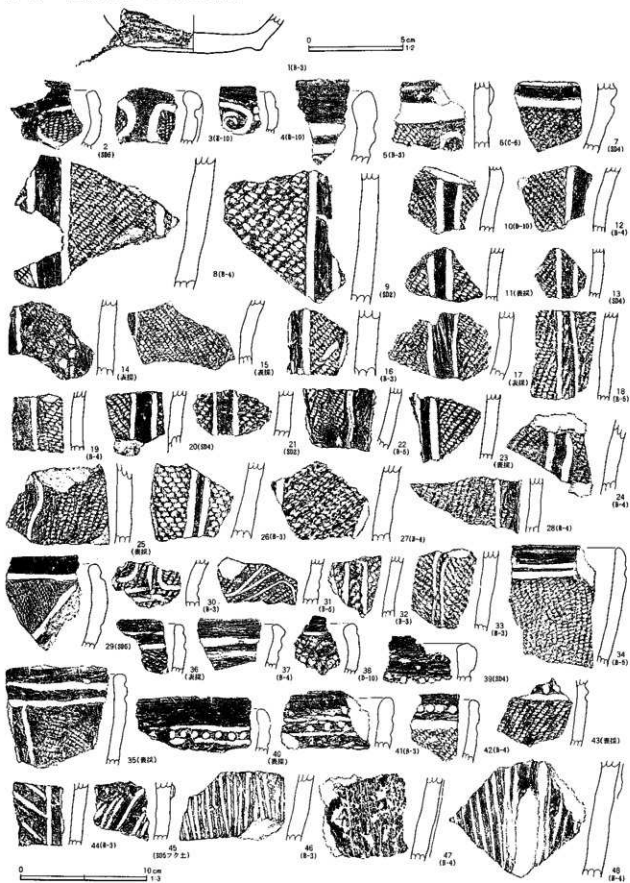
44～50は沈線文が施される曾利系の土器群である。44は沈線懸垂文が垂下するキャリバー系土器の胴部破片で、45は刺突文を施す隆帯で胴部を区画する曾利系の土器で、下半部に斜位の沈線を施す。47、48は胴部に交互の押圧を施す隆帯を垂下するもので、地文に47は細かい条線文を、48は沈線文を施文する。49は内湾しながら開く口縁部から条線文が垂下するもので、50は沈線区画内に沈線文を充填施文する。

51は屈曲する浅鉢の胴部破片で、胴部の文様帯部分に当たり、低隆帯の区画文が施される。52は胴部で括れ、無文の口縁部が開く器形の口縁部破片であり、53は無文の口縁部が沈線文で区画されている。53は後期に入る可能性もある。

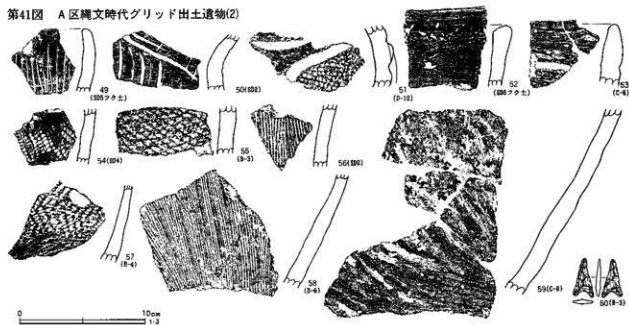
54～58は地文のみ施されている破片で、54、57は単節RL、55は複節LR L、56、58は細かな条線文を施文する。58は浅鉢の胴部で、他は深鉢の胴部破片である。59は無文浅鉢の底部付近の破片である。

60は石籤である。風化が著しく、細かな刻線はよく分からない。石材は安山岩で、長さ3.0cm、幅1.7cm、厚さ0.3cm、重さ1.17gである。

第40図 A区縄文時代グリッド出土遺物(1)



第41図 A区縄文時代グリッド出土遺物(2)



3. その他の時代の遺構と遺物

(1) 土壌

古墳時代以降の土壌は計10基検出された。そのうち時期が確定できるのは4基で、弥生時代末から古墳時代前期と推定される。第44号土壌、第48号土壌、第49号土壌、第52号土壌がそれにあたる。それ以外の6基は時期を確定できる出土遺物はなかった。

第44号土壌 (第42図・第1表)

D-7グリッドに位置する。楕円形を呈し、径約70cmで、深さは約50cmである。

覆土は黒色・黒褐色で、古墳時代前期の土器片が数片出土した。図化できる遺物はなかった。

第48号土壌 (第42図・第43図・第1表)

C-7グリッドに位置する。円形を呈し、径約75cmで、深さは約21cmである。

覆土は黒色で、古墳時代前期の土器片が数点出土した。その中の2点を図化することができた。

1は土師器の台付甕の底部部分である。色調は褐色で、胎土に砂粒と褐色粒子を多く含む。外面はハケ目調整で、煤が付着する。

2は土師器の高環の脚部の破片である。風化が著しく、赤彩されていたかどうかは不明である。環部下端に明瞭な段を持ち、脚部に円形の透孔が3か所にあけられている。色調は赤褐色で、胎土には砂粒を多く含む。外面にかろうじてハケ目調整がみられる。

第49号土壌 (第42図・第1表)

D-9・E-9グリッドに位置する。楕円形を呈し、長径約140cm、短径約75cm、深さ約82cmである。

覆土は黒色・暗褐色で、古墳時代前期の土器片が数片出土した。平面図に出土状態が入っている土器は壺の胴部破片であるが、図化するにはいたらなかった。

第52号土壌 (第43図・第44図・第1表)

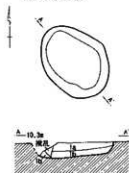
D-8グリッドに位置する。楕円形を呈し、径約155cmで、深さは85cmである。

覆土は黒褐色・暗褐色で、覆土最下層第3b層の上面に炭化層がみられた。古墳時代前期の土器が2個体分と縄文土器片が数点出土した。

1は土師器の壺の胴部破片である。覆土の上層から

第42图 A区古墳時代以降土壌

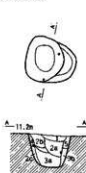
第43号土壌



SK43

- 1層 Hue10YR4/4 褐色 D-1粒子を少量、D-1
7"099を少量含む
2層 Hue10YR4/4 褐色 D-17"099を中量含む

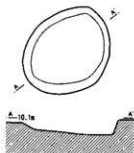
第44号土壌



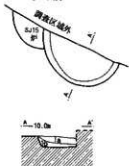
SK44

- 1層 Hue10YR2/1 黒色 D-1粒子を中量、
焼土粒子を少量を含む
2a層 Hue10YR2/2 黒褐色 D-1粒子を少量、
b-4"7"099を中量、焼土粒子を少量
含む
2b層 Hue10YR2/2 黒褐色 D-1小7"099を
少量含む
2c層 Hue10YR2/2 黒褐色 D-1粒子を極
めて少量を含む
3a層 Hue10YR2/1 黒色 D-1粒子を少量、
D-1小7"099を少量、b-4"7"099を少量
含む
3b層 Hue10YR2/1 黒色 D-1粒子を中量、
焼土粒子を少量含む
4層 Hue10YR2/3 黒褐色 D-17"099を
少量を含む
5層 Hue10YR2/3 黒褐色 D-17"099を
少量、b-4"7"099を少量含む

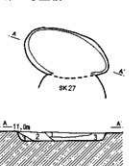
第45号土壌



第46号土壌



第47号土壌



第48号土壌



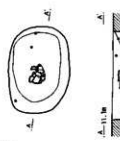
SK46

- 1a層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-1粒子を中量、D-1
7"099を少量含む
1b層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-17"099を中量含む
SK47
1層 Hue10YR2/1 黒色 D-1粒子を少量含む
2層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-17"099を中量含む
3層 Hue10YR4/4 褐色 D-1粒子を少量、D-1
7"099を少量含む
SK48

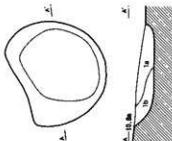
SK48

- 1層 Hue10YR2/1 黒色 D-17"099を中量、灰褐色
土を少量含む

第49号土壌



第50号土壌



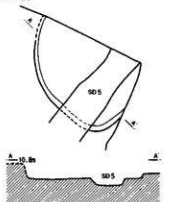
SK49

- 1層 Hue10YR2/1 黒色 灰褐色7"099を少量、
D-17"099を少量含む
2層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-1小7"099を中量
含む
3層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-1粒子を少量
含む

SK50

- 1a層 Hue10YR1.7/1 黒色 灰褐色7"099を
少量含む
1b層 Hue10YR1.7/1 黒色 D-1粒子を少量、
D-1小7"099を中量、灰褐色小7"099を
少量含む

第51号土壌

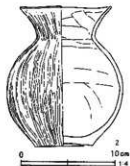


第43图 A区古墳時代以降土壌出土遺物

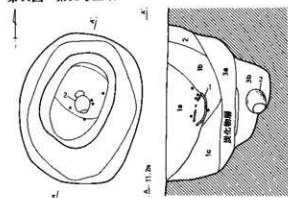
第48号土壌



第52号土壌



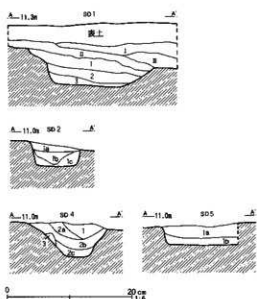
第44図 第52号土塚



- 1a層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-1粒子を多量、焼土粒子を少量含む
- 1b層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-1粒子を少量、焼土粒子を少量含む
- 1c層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-1粒子を多量、0-1小7'0'9'を中量、焼土粒子を少量含む
- 2層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-1粒子を少量含む
- 3a層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-1粒子を中量、0-1小7'0'9'を中量、0-1小7'0'9'粒子を少量含む
- 3b層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-1粒子を中量、炭化物を多量に含む



第45図 A区溝



- SD1
- 1層 Hue10YR2/2 灰褐色 灰褐色土小7'0'9'を多量に含む
 - 2層 Hue10YR2/2 灰褐色 灰褐色土7'0'9', 0-1粒子を少量含む
 - 3層 Hue10YR2/2 黒褐色 灰褐色土7'0'9', 灰褐色土小7'0'9'を中量含む
- SD2
- 1層 Hue10YR2/1 黒色 灰褐色土7'0'9'を多量、0-1小7'0'9'を少量、0-1粒子を多量に含む
 - 2層 Hue10YR2/1 黒色 灰褐色土7'0'9', 0-1小7'0'9'を多量に含む
 - 3層 Hue10YR3/5 暗褐色 0-1粒子を少量含む
- SD4
- 1層 Hue10YR2/2 灰褐色 0-1小7'0'9', 0-1粒子を少量含む
 - 2a層 Hue10YR2/2 灰褐色 0-1小7'0'9'を中量、0-1粒子を少量含む
 - 2b層 Hue10YR2/2 灰褐色 0-1小7'0'9'を中量、0-1小7'0'9'を中量、0-1粒子を少量含む
 - 3層 Hue10YR2/1 黒色 灰褐色土7'0'9'を少量、0-1小7'0'9'を多量に含む
 - 3層 Hue10YR3/2 黒褐色 0-1粒子を少量含む
- SD5
- 1a層 Hue10YR2/5 灰褐色 0-1小7'0'9', 0-1小7'0'9'を少量、0-1粒子を中量含む
 - 1b層 Hue10YR2/5 灰褐色 0-1小7'0'9'を多量、0-1小7'0'9', 0-1粒子を中量含む

出土しており、風化が著しい。胴部下半の破片で、上半部の破片は無かった。色調は淡褐色で、胎土に砂粒と褐色粒子を多く含む。外面はハケ目調整後、丁寧にミガキ調整される。

2は完形の土師器の小型壺である。土塚の底面から横倒しの状態で出土した。色調は淡褐色で、胎土に砂粒と褐色粒子を多く含む。外面はハケ目調整後、丁寧にミガキ調整される。焼成もたいへん良好で、硬質に焼き上がっている。

(2) 溝

溝は計5条検出された。第3号溝を除く4条の土層図を掲載したが、土層図を取った場所は第4図に★印で示した。いずれの溝も時期を確定することはできなかった。

第1号溝は調査区際で土層図を作成しただけで全体を掘るには至らなかった。

第2号溝は第15号住居跡の調査区際の土層に確認されており、調査区域外へ続いている。

V B区の調査

1. 調査の概要

B区は薬師堂根遺跡の占拠する台地の北東部に位置する。台地の平坦面にあたり、標高は約12~13mである。調査区の南半分は人工的に掘削され、低くなっていた。

調査開始当初は、その掘削は近年のもので、遺構は破壊されている可能性を考えた。しかし、表土掘削が進むと、それは堀（SD16）に囲まれた中世の遺構群

であることが判ってきた。

検出された遺構は、縄文時代早期の住居跡4軒、炉穴11基、縄文時代中期の住居跡9軒、縄文時代の土壇59基、陥穴1基、弥生時代末~古墳時代初頭の住居跡9軒、平安時代の住居跡1軒、土壇5基、中世以降の掘立柱建物跡21棟、井戸44基、溝27条、土壇706基、時期不明の炭焼窯3基である。

第46図 B区全体図



中世以降の土壌のうち514基は堀(SD16)の中であり、地山のローム土の見える部分が無いほど重複していた。さらに、土壌と重複して、掘立柱建物跡のピットがあり、調査は難航した。この堀(SD16)は鬼門の方角(北東隅)が直角ではなく、隅切りして造られている。中世の土壌墓と考えられるものは堀の内側のものが長方形なのに対し、堀の外側のものは、楕円形か十字形である。楕円形のものP-12グリッド付近に集中しており、そのうちの1基は炭焼窯と重複しており、土壌墓の方が新しかった。

炭焼窯は発掘を開始した時点で全く予想していなかった。遺構確認時はいくつかの長方形が重なっているようにみえた。遺構の覆土は黒色で良くしまっており、新しい時期の攪乱には見えなかった。覆土には縄文時代早期と古墳時代初頭の土器片がかなり含まれており、古墳時代初頭の住居跡の可能性を考えた。

2. 縄文時代の遺構と遺物

(1) 住居跡

第17号住居跡 (第47図)

O-6・O-7・P-6・P-7グリッドに位置する。第207号土壌よりも古いが、第112号土壌との重複関係は不明である。

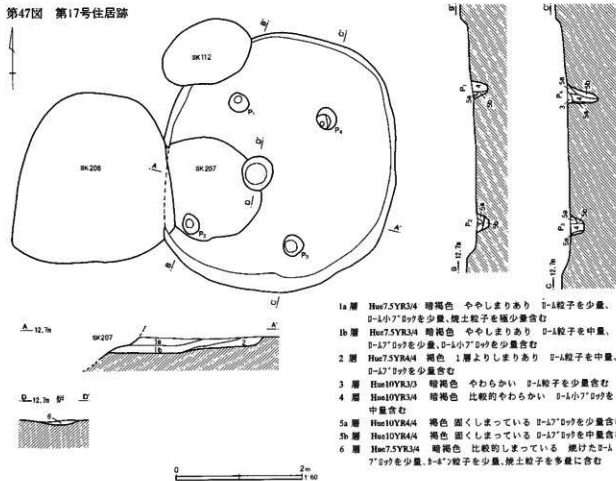
平面形態は円形を呈し、長径は4.1m、短径は3.7m、深さは0.24mである。床面は平坦で、硬化していた。

住居のほぼ中央に炉があり、長径55cmである。炉の底面は比較的良く焼けていた。

柱穴は4本検出された。柱穴の深さはP1:24cm、P2:18cm、P3:22cm、P4:48cmである。すべて主柱穴になるものと思われる。

出土遺物は5片と少なく、縄文時代早期が2点、古

第47図 第17号住居跡



墳時代前期が2点、近世以降の瓦片が1点である。図化できる遺物はなかった。

住居の時期は、確定できないが、住居の平面形態から縄文時代中期としておきたい。

第18号住居跡 (第48～50図)

O-6・O-7グリッドに位置する。第19号住居跡よりも新しく、第4号炉穴・第70号土壇・第71号土壇・第14号溝よりも古い。第69号土壇とも重複するが、その新旧関係は不明である。

平面形態は長方形を呈し、長辺は4.9m、短辺は4.1m、深さは0.20mである。床面は平坦で、比較的硬化していた。

炉跡は検出されなかった。

柱穴は6本検出された。柱穴の深さはP1:20cm、P2:22cm、P3:90cm、P4:70cm、P5:20cm、P6:50cmである。すべて支柱穴になるものと思われる。

出土遺物は約150点出土し、25点を図化することができた。

1は細い隆帯が垂下して文様帯を区画し、隆帯上には横位の刻みが施される。区画内には条痕地文上に、集合沈線文が充填施文される。

2は胴部の屈曲部分に当たり、2帯構成の文様帯と思われ、屈曲部分は無地文で刻みの施される細い隆帯が垂下する。上部の文様帯にはやや太目で斜位の集合沈線文が施文されている。裏面には、粗い条痕文が施される。

3は擦痕状の条痕文上に、2本対の太沈線区画が施され、同種の太い集合沈線文が充填施文される。

7～24は文様のない土器群で、繊維を含み、条痕文が施文されるものである。4は角頭状の口唇部に貝殻背圧痕文が施文される。表裏面とも浅い条痕文を施す。5はやや先細りで内削状の口唇部を呈し、外端から斜めの刻みを施す。表裏面とも横位の条痕を施文する。6は内削状の口縁部が開く器形で、口唇部上に向く方向を変える刻みが施文される。表面に縦位の条痕文が、

裏面に横位の擦痕が施される。7、9、10は丸頭状の口唇部がやや内湾して開く器形で、内外面に条痕文を施文する。8は角頭状の口縁部が直線的に開く器形で、表裏面とも縦位の条痕文を施文する。

11～22は胴部破片で、11～20は表裏面に条痕文を施文するもので、21は表に条痕、裏に擦痕状の整形を施す。22は表裏面とも擦痕状の整形を施す。23、24は底部付近の破片である。

25は石鏃である。石材はガラス質安山岩で、長さ2.6cm、幅1.4cm、厚さ0.3cm、重さ1.12gである。

以上、早期後半の条痕文系土器群で、野島式の新しい段階に比定されよう。

第19号住居跡 (第48・51図)

O-6・O-7グリッドに位置する。第18号住居跡・第4号炉穴よりも古い。第76号土壇とも重複するが、その新旧関係は不明である。

平面形態は長方形を呈し、長辺は5.5m、短辺は3.6m、深さは0.2mである。

炉跡は検出されなかった。

柱穴は4本検出された。柱穴の深さはP1:15cm、P2:16cm、P3:20cm、P4:20cmである。

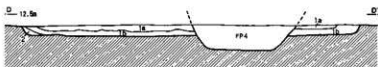
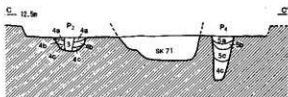
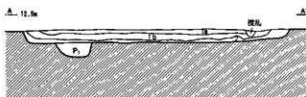
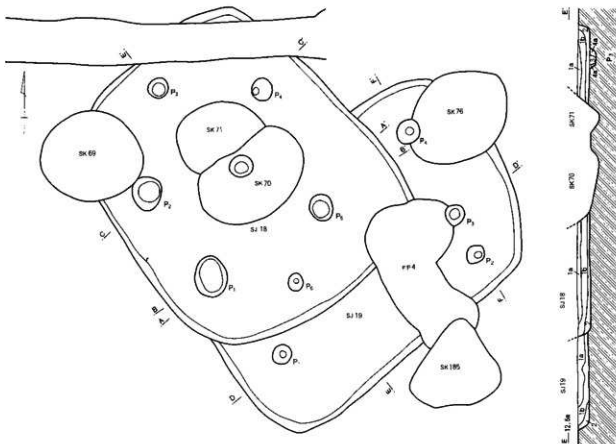
出土遺物は約50点で、7点を図化することができた。

1はやや先細りで角頭状の口縁部が開く器形を呈し、口縁部に細隆起線が巡らされて幅狭な口縁部文様帯が区画される。区画の細隆起線文路には沈線状のなぞりが施され、幅狭な口縁部には縦位の短沈線文が施文される。表面の条痕文はナゲ消されているが、裏面には横位の条痕文が施文されている。胎土には、若干の繊維が含まれている。

2は角頭状の口縁部が直線的に開く器形を呈し、口唇部上には刻みは施されない。表裏面とも、縦位の条痕文が施文される。胎土に少量の繊維を含む。

3～7は条痕文のみ施文される胴部破片で、何れも繊維を少量含む。条痕文は3が表に縦位に、裏に横位、4が表裏面とも横位に、5が表裏面とも縦位に、7が表裏面とも斜位に施され、6は表面のみに縦位の条痕

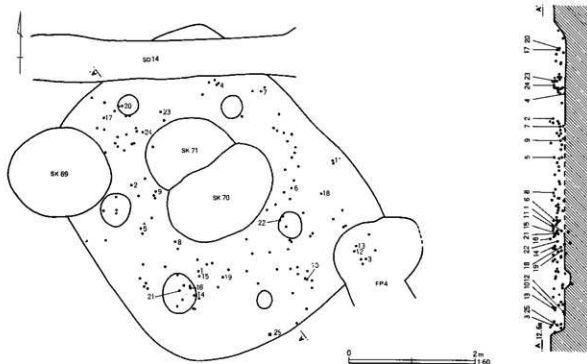
第48図 第18号住居跡・第19号住居跡



- S218
- 1a 層 Hac10YR234 褐色色 固くしまっている 2-1粒 F を少量、2-16"0寸を少量、2-8"0寸を少量含む
 - 1b 層 Hac10YR234 褐色色 固くしまっている 2-1粒 F を少量、2-17"0寸を少量、2-8"0寸を少量含む
 - 2 層 Hac10YR46 褐色 2-17"0寸を少量含む
 - 3 層 Hac10YR44 褐色 2-1粒 F を少量含む
 - 4a 層 Hac10YR46 褐色 固くしまっている 2-1粒 F を少量、2-17"0寸を少量含む
 - 4b 層 Hac10YR46 褐色 固くしまっている 2-1粒 F を少量、2-17"0寸を少量含む
 - 4c 層 Hac10YR46 褐色 固くしまっている 2-17"0寸を少量に含む
 - 5a 層 Hac10YR44 褐色 2-1粒 F を少量含む
 - 5b 層 Hac10YR44 褐色 やわらかい 2-1粒 F を中量、2-16"0寸を少量含む
 - 5c 層 Hac10YR44 褐色 やわらかい 2-17"0寸を中量含む
 - S219
 - 1a 層 Hac10YR44 褐色 2-1粒 F を少量、2-8"0寸を少量含む
 - 1b 層 Hac10YR44 褐色 2-1粒 F を少量、2-17"0寸を少量、2-8"0寸を少量含む
 - 2 層 Hac10YR46 褐色 2-17"0寸を少量含む

0 2m 1:60

第49図 第18号住居跡遺物分布図



文が施されている

以上、早期後半の条痕文系土器群で、野島式のやや古い段階に比定されよう。

第20号住居跡 (第52図～第54図)

P-7・P-8グリッドに位置する。第221号土壌・第9号溝よりも古い。第100号土壌とも重複するが、その新旧関係は不明である。

平面形態は長方形を呈し、長辺は5.14m、短辺は3.3m、深さは0.2mである。

炉跡は検出されなかった。

柱穴は7本検出された。柱穴の深さはP 1 : 22cm、P 2 : 18cm、P 3 : 16cm、P 4 : 30cm、P 5 : 16cm、P 6 : 30cmである。

出土遺物は約80点あり、9点を図化できた。

1は丸頭状の口縁部がやや開く器形を呈し、口唇上には口唇と直交する方向に、丸棒状工具による押圧状の刻みが施される。条痕文は表面に明瞭で、繊維は少量含まれる。

2はやや外削状の口縁部が開く器形を呈し、口唇上

には刻みは施されない。条痕文は表裏面とも横位に施文され、胎土には繊維が少量含まれる。

3～9は条痕文のみ見られる胴部破片で、3、4は表面には粗い条痕文が施され、裏面には擦痕状整形が施される。胎土には若干の繊維が含まれる。5は表裏面に斜位の条痕文が施される。6は表裏面とも明瞭な条痕文は施されず、擦痕状を呈する。7、9は表裏面とも縦位の条痕文が施され、8は表面に横位の擦痕文、裏面に縦位の条痕文が施される。何れも少量の繊維を含む。

以上、早期後半の条痕文系土器群で、野島式の新しい段階に比定されよう。

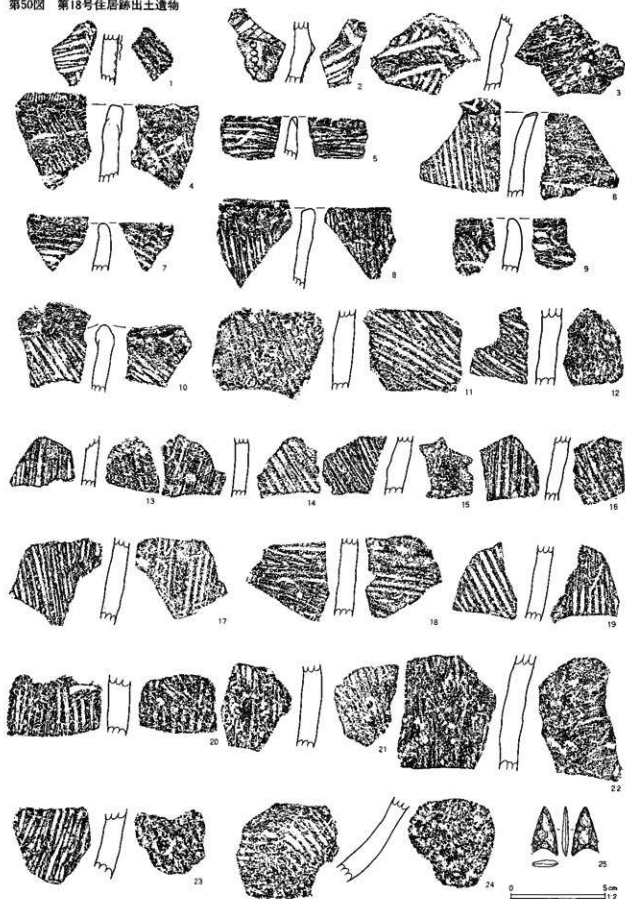
第21号住居跡 (第55図～第62図)

O-7グリッドに位置する。第186号土壌・第187号土壌よりも古く、第22号住居跡・第23号住居跡よりも新しい。

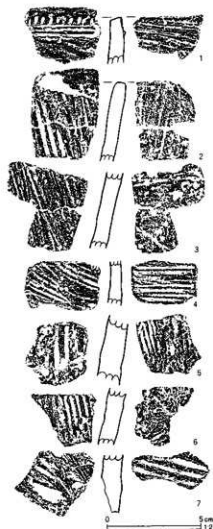
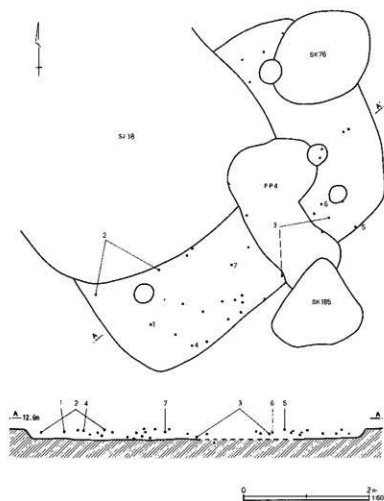
平面形態は円形を呈し、長径は5m、短径は4m、深さは0.3mである。床面は平坦で、硬化していた。

住居のほぼ中央に炉があり、長径1.1mである。炉の

第50图 第18号住居跡出土遺物



第51図 第19号住居跡遺物分布図・出土遺物



底面は比較的良く焼けていた。

柱穴は2本検出された。柱穴の深さはP 1 : 26 cm、P 2 : 48 cmである。

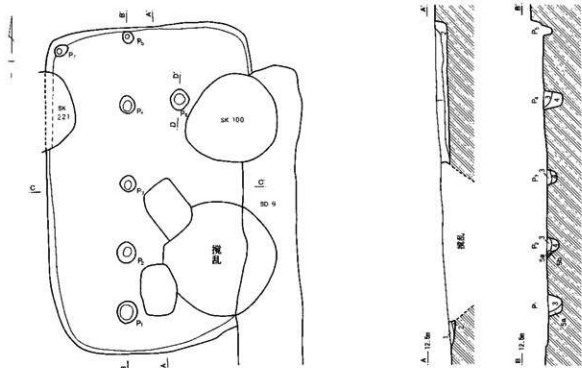
出土遺物は約1200点で、66点を図化した。そのうち大型破片から器形復元されたものが7点ある。

1は加曾利E系のキャリバー系土器で、口縁が内湾して開き、胴部がやや括れる器形を呈する。口縁部文様帯は楕円区画化した渦巻文と、連結される区画文から成る構成で、区画文内には縄文が施文される。胴部は2本沈線間の磨消懸垂文がやや間隔を狭めて、円環状に垂下する。地文は単節RLを、口縁部で横位に、胴部で縦位に施文する。推定口径約40cm、現存高27cmを測る。

2は加曾利E系のキャリバー系土器であるが、口縁部がやや内湾して開き、胴部が括れずに直線的に底部に移行する器形になると思われる。口縁部文様帯は凹線状の渦巻文と連なる区画文で構成され、渦巻文と区画文内には縄文が施文される。地文は単節LRを口縁部で横位に、胴部で縦位に施文する。推定口径約52cm、現存高13cmを測る。

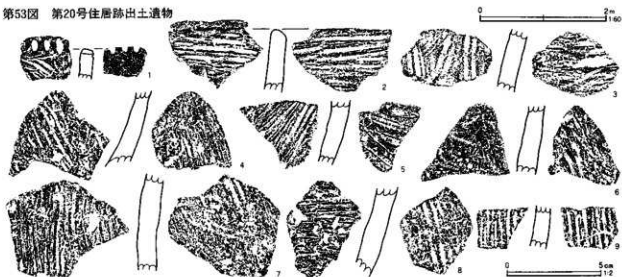
6は口縁部が若干内湾し、胴部がやや括れるキャリバー系の土器で、口縁部文様帯が渦巻文と区画文で構成される。渦巻文は隆帯と凹線文とで集約化され、渦巻文内には縄文は施文されない。胴部には沈線文の懸垂文が垂下する。地文は複節RLRを口縁部から胴部にかけて斜位に施文する。推定口径45cm、現存高12cm

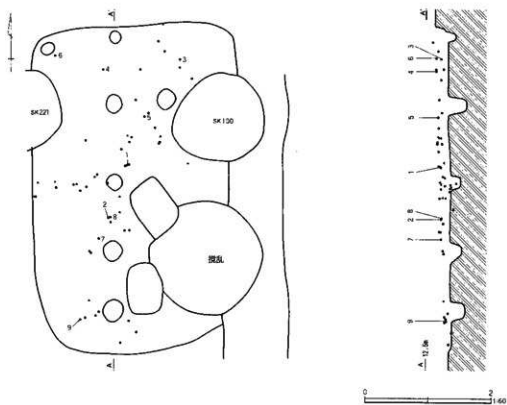
第52図 第20号住居跡



- 1層 Hue10YR4/4 褐色 固くしまっている 0-1粒子を少量、
8-8'粒子を少量含む
- 2層 Hue10YR4/6 褐色 固くしまっている 0-1粒子を少量、0-1
7'0'粒を中量含む
- 3層 Hue10YR4/6 褐色 比較的やわらかい 0-17'0'粒を少量、0-1
小7'0'粒を中量含む
- 4層 Hue10YR4/4 褐色 比較的やわらかい 0-17'0'粒を少量、0-1
小7'0'粒を少量含む
- 5a層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 しまっている 0-1小7'0'粒を少量
含む
- 5b層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 しまっている 0-17'0'粒を中量
含む
- 6a層 Hue10YR3/4 褐色 0-1粒子を少量、0-1小7'0'粒を少量、8-8'
粒子を少量含む
- 6b層 Hue10YR3/4 褐色 0-1小7'0'粒を少量、8-8'粒子を少量含む
- 7a層 Hue10YR4/4 褐色 固くしまっている 0-17'0'粒を少量含む
- 7b層 Hue10YR4/4 褐色 固くしまっている 0-17'0'粒を中量含む

第53図 第20号住居跡出土遺物





を測る。

3は連弧文系土器で、胴部で括れ、内湾する口縁部が強く開く器形を呈する。口縁部は1列の円形刺突文列で区画され、胴部は2本沈線文で区画される。胴上半には太い2本対の沈線文間を無文にする「U」字状文の連結した磨消連弧文が施文され、胴下半には逆「U」字状磨消懸垂文が垂下する。地文は単節LRを縦位施文する。推定口径約28cm、現存高23cmを測る。

4はくびれか弱いか胴部で区画する連弧文系土器で、口縁部が2列の円形刺突文列と沈線文で区画され、胴部が2本の沈線文で区画される。沈線文間は磨り消されている。地文には、燃糸Rを施文する。推定口径約17cm、現存高10cmを測る。

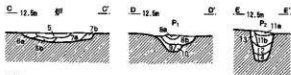
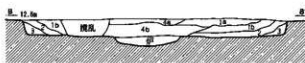
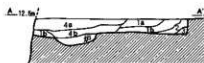
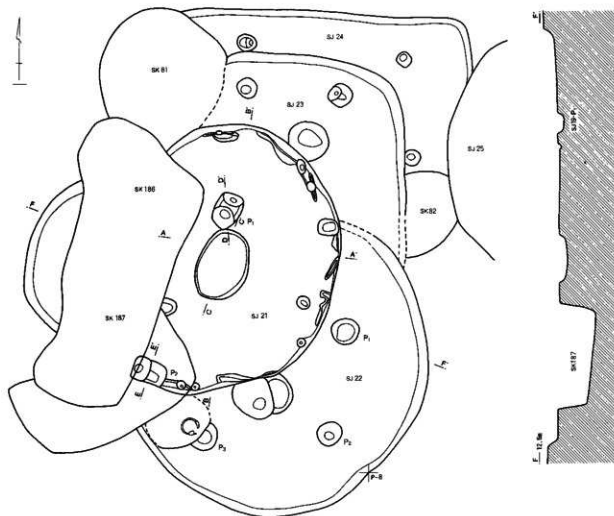
5はキャリバー系土器の底部で、磨消懸垂文が垂下する。底径は6.5cmを測る。

7は無文の浅鉢で、口縁部が沈線部で区画される。推定口径約30cm、現存高8cmを測る。

8～12、14～16、18～23は加曾利E系のキャリバー系土器の口縁部破片である。8、9は波状口縁を呈し、口縁部上端区画沈線の一端が波頂部で下から巻き上がり渦巻文を構成し、もう一端が上から巻き下がり渦巻文を構成する。10は区画文内に沈線文を施文する。14は口縁部が内湾して開き、胴部がやや括れる器形を呈する。口縁部は隆帯による集約された渦巻文と区画文で構成され、胴部に磨消懸垂文が垂下する。地文は単節LRを口縁部で横位に、胴部で縦位に施文する。11は波状口縁で、口縁部がやや内湾する。12は直線的に口縁部が開き、15、16は同一個体と思われる。18～21は口縁部下端区画部分で、18、20の胴部には磨消懸垂文が施文される。22は胴部に3本沈線文間の磨消懸垂文が垂下する。

24は「く」字状に屈曲する浅鉢の胴部破片で、文様帯部分に当たる。25は2本対の低隆帯で渦巻文を区画するもので、壺状かひさご状を呈するものと思われる。

第55図 第21号住居跡～第24号住居跡



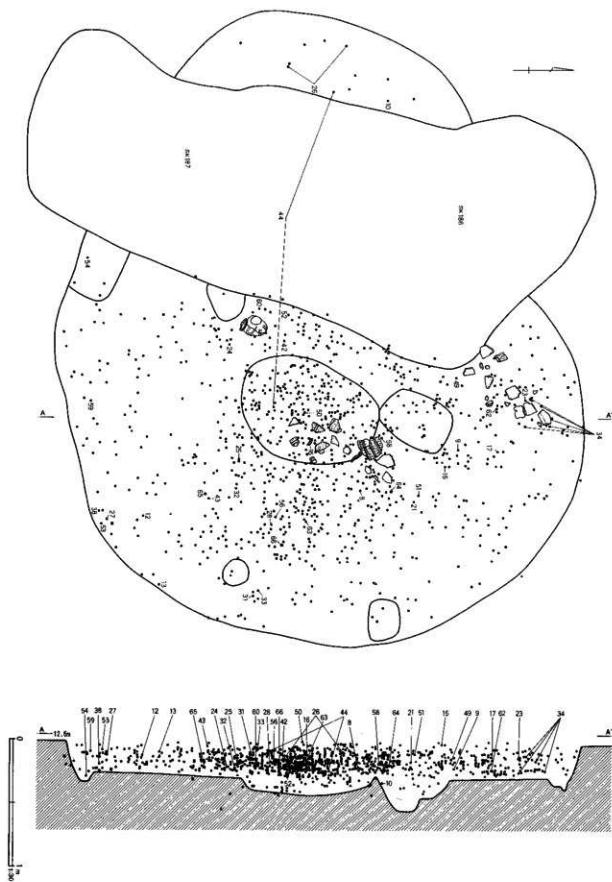
S21

- 1a層 Hae10YR3/4 暗褐色 D-1粒子を中量含む
- 1b層 Hae10YR3/4 暗褐色 D-1粒子を少量、D-1小7"p?を少量含む
- 2層 Hae10YR4/3 鈍い黄褐色 E-1粒子を少量、E-17"p?を少量含む
- 3層 Hae10YR4/4 褐色 E-17"p?を中量含む
- 4a層 Hae10YR2/3 黒褐色 D-1粒子を少量、E-4"粒子を少量、焼土粒子を少量含む
- 4b層 Hae10YR2/3 黒褐色 D-1粒子を少量、E-4"粒子を中量、焼土粒子を少量含む
- 5層 Hae7.5YR2/3 暗褐色 あまりしまりがなくやわらかい E-1粒子を少量、E-17"小p?を少量、焼土粒子を少量含む
- 6a層 Hae5YR4/4 鈍い赤褐色 あまりしまりがなくやわらかい D-1粒子を少量、E-4"粒子を少量、焼土粒子を中量、焼けたE-17"p?を少量含む
- 6b層 Hae5YR4/4 鈍い赤褐色 あまりしまりがなくやわらかい 焼土粒子を少量、焼上7"p?を少量、焼けたE-17"p?を少量含む

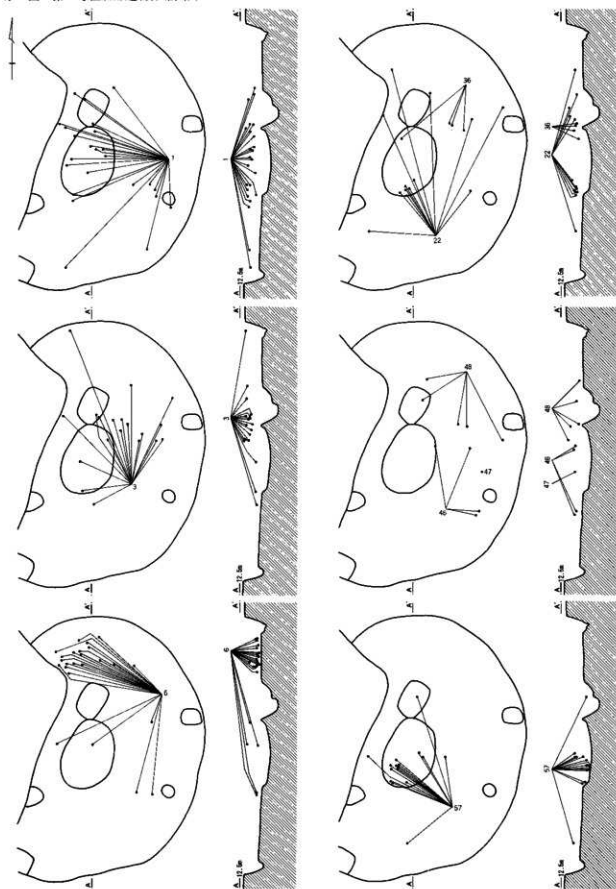
- 7a層 Hae10YR3/4 暗褐色 あまりしまりがなくやわらかい D-1粒子を少量、焼土粒子を少量含む
- 7b層 Hae10YR3/4 暗褐色 あまりしまりがなくやわらかい D-17"p?を中量、焼土粒子を少量含む
- 8a層 Hae10YR3/5 暗褐色 D-1粒子を少量、D-1小7"p?を少量、E-4"粒子を少量含む
- 8b層 Hae10YR3/5 暗褐色 D-1粒子を少量、E-4"粒子を少量含む
- 9層 Hae10YR3/4 暗褐色 E-1粒子を少量、E-17"p?を少量含む
- 10層 Hae10YR4/6 褐色 E-17"p?を少量含む
- 11a層 Hae10YR3/4 暗褐色 比較的やわらかい E-1粒子を少量、E-17"p?を少量含む
- 11b層 Hae10YR3/4 暗褐色 比較的やわらかい E-1粒子を少量、E-4"粒子を少量含む
- 12層 Hae10YR4/3 鈍い黄褐色 比較的やわらかい E-1粒子を少量、E-17"p?を少量含む
- 13層 Hae10YR4/4 褐色 比較的やわらかい E-1粒子を少量、E-4"粒子を少量含む
- 14層 Hae10YR4/6 褐色 比較的やわらかい D-17"p?を少量含む



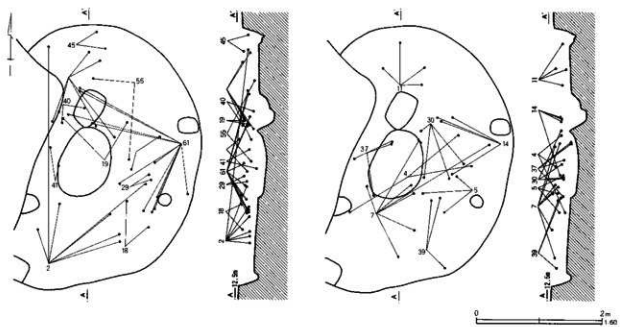
第56図 第21号住居跡遺物分布図(1)



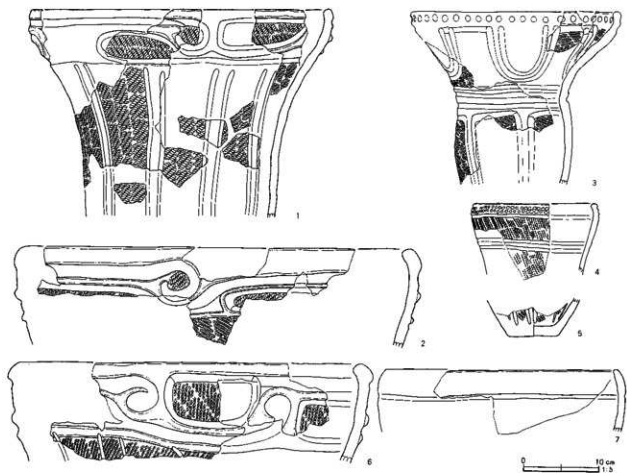
第57图 第21号住居跡遺物分布图(2)



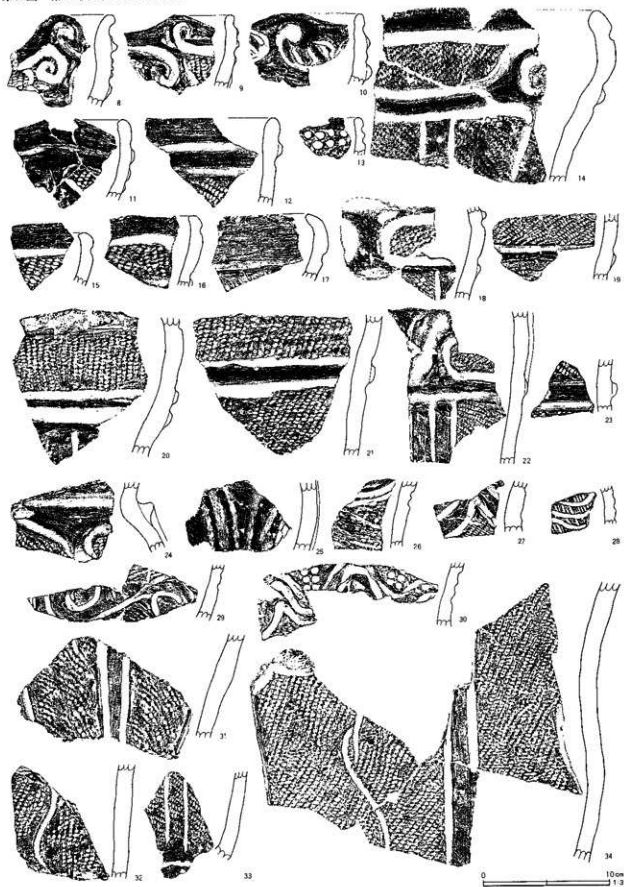
第58图 第21号住居跡遺物分布图(3)



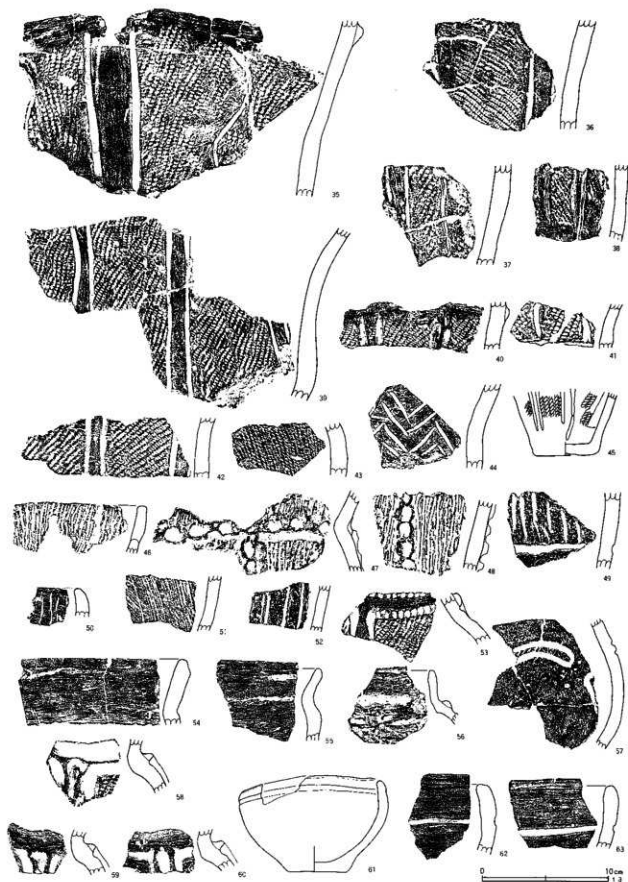
第59图 第21号住居跡出土遺物(1)



第60図 第21号住居跡出土遺物(2)



第61图 第21号住居跡出土遺物(3)



13、26～30は連弧文系土器で、磨消連弧文を中心として崩れた連弧文が多い。13は2列の刺突文列で口縁部が区画され、30は連弧文の間に2列の円形刺突文列が充填施文される。

31～42、45はキャリバー系土器の胴部破片で、磨消懸垂文が施されているものである。磨消懸垂文は2本沈線間を無文にするものが多く、32、34、35は蛇行沈線文も垂下する。45は底部破片である。地文は31、33、38が単筋LR、32、34、35が複筋RLR、36が複筋LRLで、他は単筋RLである。43は地文に燃糸Rのみ施文される。

44、46～52は曾利系の土器である。4は胴部に矢羽根状の沈線文を施文し、46は口縁部から細かい条線文が施文される。47、48は胴部が強く括れる器形を呈し、指頭状の押玉を施す隆帯で胴部を区画し、区画隆帯から同種の隆帯を垂下する。地文には粗い条線が施文される。49は沈線区画内に集合沈線文を施文している。50は内湾する口縁部に粗い条線文が施されており、51は条線が、52は沈線文が施文される。

53、56、58～60は有孔罅付き系の土器で、無文の口縁部が立ち、肩の張る器形を呈する。胴部には隆帯が垂下する。

54、55は頸部で括れ、無文の口縁部が開く器形の深鉢土器で、61～63は沈線で口縁部が区画される無文の浅鉢である。61は小形の浅鉢で、口径12cm、器高8cmを測る。

64は結晶片岩製の打製石斧(重さ138.87g)、65は砂岩製の打製石斧(重さ158.54g)、66は安山岩製の磨石(重さ207.32g)である。

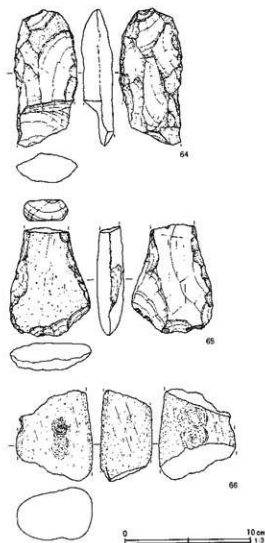
以上、大半が中期終末の加曾利EⅢ式に比定されよう。

第22号住居跡 (第55図・第63図～第66図)

O-7・O-8・P-7グリッドに位置する。第21号住居跡よりも古く、第23号住居跡よりも新しい。

平面形態は円形を呈し、長径は4.8m、深さは0.3mである。床面は平坦で、比較的良く硬化していた。

第62図 第21号住居跡出土遺物(4)



住居跡の中央よりやや南寄りに炉があり、径は65cmである。炉の底面は良く焼けていた。

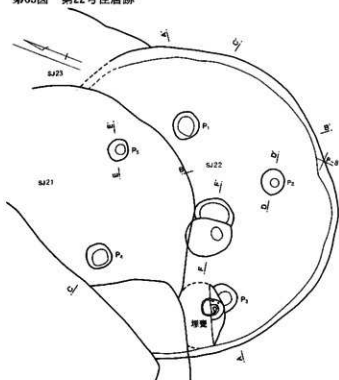
柱穴は5本あり、深さはP1:10cm、P2:32cm、P3:20cm、P4:8cm、P5:20cmである。

出土遺物は約300点あり、25点を図化した。

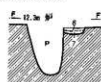
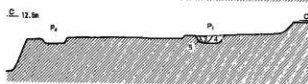
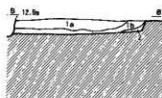
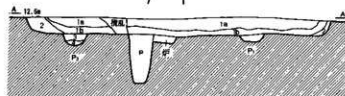
1はほぼ完形の埋壺である。4単位の緩い波状口縁で、口縁部が2列の円形刺突文列で区画される。胴部には口縁部区画の刺突文帯から2本沈線間の間隔が狭い磨消懸垂文が、円環的に垂下している。地文は単筋RLから縦位施文される。口径26cm、現存高27cmを測る。

2～16は加曾利E系のキャリバー系土器で、2～9は口縁部破片である。2～4は湾曲の少ない口縁部が

第63図 第22号住居跡

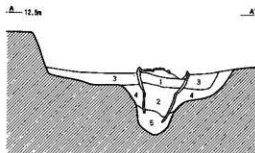
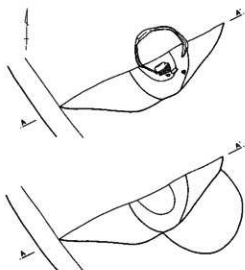


- 1a層 Hae10YR44 褐色 D-1粒子を少量、B-4'粒子を少量含む
- 1b層 Hae10YR44 褐色 D-1粒子を少量、D-17' Dp?を中量含む
- 2層 Hae10YR46 褐色 D-17' Dp?を中量含む
- 3層 Hae10YR34 暗褐色 しまりあり D-1粒子を少量、D-17' Dp?を少量含む
- 4層 Hae10YR46 褐色 しまりやや厚い D-1粒子を多量、D-17' Dp?を多量に含む
- 5層 Hae10YR46 褐色 しまりあり D-17' Dp?を多量に含む
- 6層 Hae10YR46 褐色 しまりやや厚い D-1粒子を多量、D-17' Dp?を多量に含む
- 7層 Hae10YR46 褐色 しまりやや厚い D-1粒子を多量、D-17' Dp?を多量に含む



0 2m 1:80

第64図 第22号住居跡埋出土状態



- 1層 Hae10YR34 暗褐色 しまりあり D-1粒子を極少量、焼土粒子を極少量、B-4'粒子を極少量含む
- 2層 Hae10YR34 暗褐色 しまりあり D-1粒子を少量、D-17' Dp?(3mm)を少量、焼土・B-4'粒子を極少量含む
- 3層 Hae10YR34 暗褐色 しまりあり D-1粒子を極少量、D-17' Dp?(9mm)を極少量、焼土・B-4'粒子を極少量含む
- 4層 Hae10YR34 暗褐色 しまりあり D-1粒子を少量、D-17' Dp?(1cm)を少量、焼土・B-4'粒子を極少量含む
- 5層 Hae10YR43 鈍い黄褐色 しまりあり D-1粒子を少量、D-17' Dp?(1cm)を少量含む

0 1m 1:70

開く器形を呈し、渦巻文と区画文で構成される口縁部文様帯を持つが、4の渦巻文は楕円区画文化している。7は胴部に逆「U」字状懸垂文を施文するもので、口縁部文様帯を持たない可能性がある。8は胴部が丸みを帯びた鉢形土器と思われ、口縁部文様帯はキャリパー系と同様である。胴部には燃糸Rを施文する。17、18も同一破片の可能性ある。

10~16は2本沈線間の磨消懸垂文が施される胴部破片で、13は磨消懸垂文の間隔が不揃いで、16は蛇行沈線文が組み合わされて垂下する。地文は10、12、13が単節LR、11、14~16が複節のLRである。

19は浅鉢の胴部破片で、粗い条線文が施文される。20~22は口縁部が沈線で区画される無文の浅鉢で、区画される口縁部はやや肥厚する。

以上、中期終末の加曾利EⅢ式に比定されよう。

23は磨製石斧で、刃部を若干欠損する。石材は緑色凝灰岩で、長さは10.5cm、幅は4.6cm、厚さは2.5cm、重さは199.21gである。

24は石鏃で、先端部を欠損している。石材は黒曜石で、長さは1.7cm、幅は1.6cm、厚さは0.4cm、重さは0.62cmである。

25は石匙で、基部に抉りを入れて柄を作り出している。石材はチャートで、長さは2.2cm、幅は2.4cm、厚さは0.6cm、重さは2.86gである。

第23号住居跡 (第55図・第67図・第68図)

O-7・O-8グリッドに位置する。第21号住居跡・第22号住居跡・第81号土壇よりも古く、第24号住居跡よりも新しい。第82号土壇とも重複するがその新旧関係は不明である。

平面形態は長方形になるものと思われる。重複遺構に破壊されているため長辺等は不明で、深さは0.24cmである。床面は平坦で、硬化していた。

伊跡は検出されなかった。

柱穴は4本検出された。柱穴の深さはP1:15cm、P2:18cm、P3:52cm、P4:50cmである。

出土遺物は約60点あり、覆土から若干浮いた位置か

ら出土したものが多かった。2個体の大型破片を図化した。

1は強く内湾する口縁部が開き、胴部で括れる器形を呈する。胴部は太くて低い隆帯で区画され、胴上半と下半に粗い半截竹管状の条線文が施文されている。推定口径約26cm、現存高25cmを測る。

2は無文の大型の浅鉢で、幅狭な口縁部が段帯状に区画される。推定口径約42cm、現存高22cmを測る。

以上、中期終末の加曾利EⅢ式期に比定されよう。

第24号住居跡 (第55図・第67図・第69図)

O-7・O-8グリッドに位置する。第23号住居跡・第25号住居跡・第81号土壇よりも古い。第82号土壇とも重複するがその新旧関係は不明である。

平面形態は長方形になるものと思われる。重複遺構に破壊されているため長辺等は不明で、深さは0.12cmである。床面は平坦で、硬化していた。

伊跡は検出されなかった。

柱穴は4本検出された。柱穴の深さはP1:30cm、P2:12cm、P3:12cm、P4:12cmである。

出土遺物は30点と少なく、7点を図化することができた。

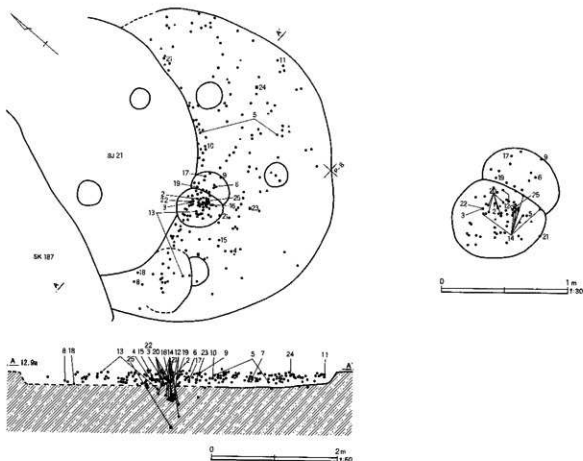
1は角頭状で先細りの口縁部がやや開く器形を呈し、口唇上には刻みは施されない。表面に縦位のやや粗い条痕を施文し、裏面は擦痕状の整形を施す。2~6もほぼ同様に表面に粗い条痕を施文し、裏面に擦痕状の整形を施す。器壁の厚さもほぼ同じことから、同一個体と思われる。胎土には、繊維を少量含む。7はやや器壁が薄く、表裏面とも擦痕状の整形が施される。胎土には、繊維を少量含む

以上、有文土器がないため時期不詳であるが、口唇部や条痕の特徴から、早期条痕文系土器群の野島式期に位置付けられよう。

第25号住居跡 (第70図~第72図)

O-8グリッドに位置する。第9号溝よりも古い。平面形態は円形を呈し、長径は4.3m、短径は4.2

第65図 第22号住居跡遺物分布図



m、深さは0.3mである。床面は平坦で、硬化していた。

住居の中央からやや北東寄りに炉があり、長径は約50cmである。炉の底面は比較的良く焼けていた。

柱穴は4本検出された。柱穴の深さはP 1 : 18cm、P 2 : 10cm、P 3 : 16cm、P 4 : 18cmである。

出土遺物は約350点あり、大型破片から復元されるもの8個体を含め、34点を図化できた。

1は4単位波状口縁のキャリパー系土器で、湾曲の少ない口縁部が開く器形を呈する。口縁部文様帯は渦巻文と区画文の構成が崩れ、重層的に重なる様な構成を採り、口縁部と胴部の区画が不明瞭になっている。地文は単節LRを口縁部で横位に、胴部で縦位に施文する。推定口径約27cm、現存高13cmを測る。

3は口縁部がやや内湾して開く平口縁土器で、口縁部文様帯は下から隆帯が巻き上がる渦巻文と、区画文

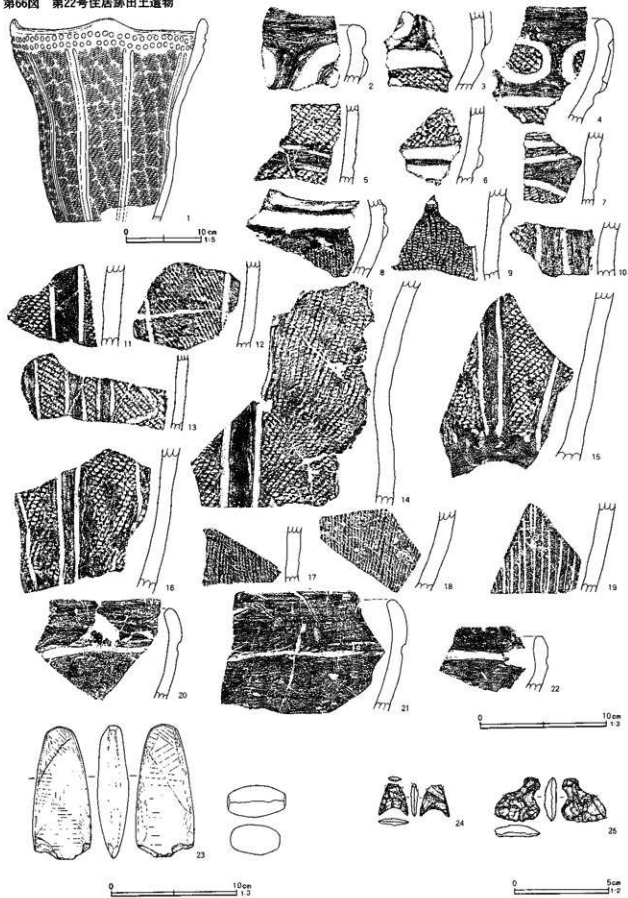
で構成される。口縁部の区画文内には条線文が充填施文される。胴部には磨消懸垂文が垂下するが、3本沈線間の磨消懸垂文も部分的に施文される。地文は単節RLである。推定口径約23cm、現存高21cmを測る。

2は連弧文土器で、胴部が強く括れる器形を呈する。口縁部は沈線文で区画され、幅狭口縁部に2列の円形刺突文列を施文する。連弧文は磨消連弧文で、波形は乱れている。地文は単節LRである。推定口径約21cm、現存高8cmを測る。

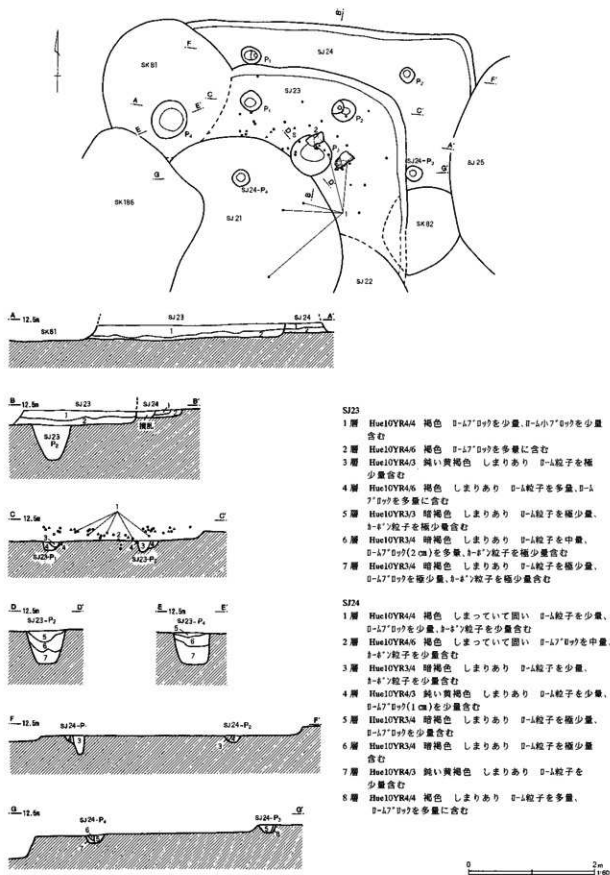
4は曾利系の土器で、口縁部が内湾して開き、本来なら胴部で括れる器形であるが、直線的に底部にまで移行する器形を呈する。胴部に刺突文を施す隆帯を巡らして区画し、同種の隆帯を垂下する。地文は、細かな条線文を施文する。推定口径約23cm、現存高20cmを測る。

5は緩やかな波状口縁で、口縁部がやや内湾して開

第66図 第22号住居跡出土遺物



第67図 第23号住居跡遺物分布図



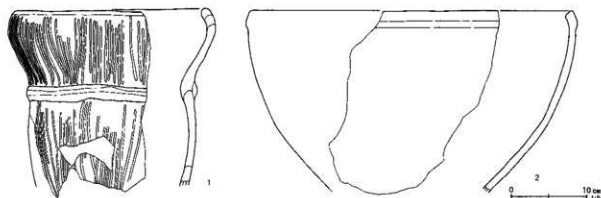
SJ23

- 1層 Hue10YR44 褐色 D-L7°D9°を少量、D-L小7°D9°を少量含む
- 2層 Hue10YR46 褐色 D-L7°D9°を多量に含む
- 3層 Hue10YR43 鈍い黄褐色 しまりあり D-L粒子を極少量含む
- 4層 Hue10YR46 褐色 しまりあり D-L粒子を多量、D-L7°D9°を多量に含む
- 5層 Hue10YR33 暗褐色 しまりあり D-L粒子を極少量、I-8°粒子を極少量含む
- 6層 Hue10YR34 暗褐色 しまりあり D-L粒子を中量、D-L7°D9°(2cm)を多量、I-8°粒子を極少量含む
- 7層 Hue10YR34 暗褐色 しまりあり D-L粒子を極少量、D-L7°D9°を極少量、I-8°粒子を極少量含む

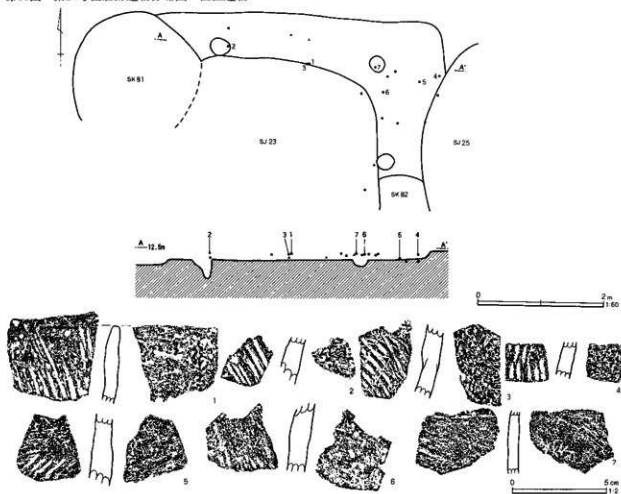
SJ24

- 1層 Hue10YR44 褐色 しまっていて固い D-L粒子を少量、D-L7°D9°を少量、I-8°粒子を少量含む
- 2層 Hue10YR46 褐色 しまっていて固い D-L7°D9°を中量、I-8°粒子を少量含む
- 3層 Hue10YR34 暗褐色 しまりあり D-L粒子を少量、I-8°粒子を少量含む
- 4層 Hue10YR43 鈍い黄褐色 しまりあり D-L粒子を少量、D-L7°D9°(1cm)を少量含む
- 5層 Hue10YR34 暗褐色 しまりあり D-L粒子を極少量、D-L7°D9°を少量含む
- 6層 Hue10YR34 暗褐色 しまりあり D-L粒子を極少量含む
- 7層 Hue10YR43 鈍い黄褐色 しまりあり D-L粒子を少量含む
- 8層 Hue10YR44 褐色 しまりあり D-L粒子を多量、D-L7°D9°を多量に含む

第68図 第23号住居跡出土遺物



第69図 第24号住居跡遺物分布図・出土遺物



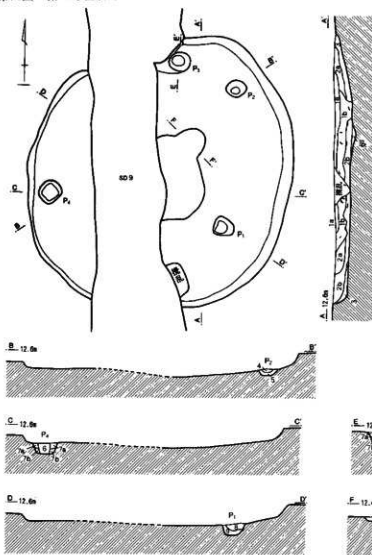
き、胴部で括れる器形を呈する。口縁部と胴部は、2本沈線で区画され、沈線間間は地文が磨り消されている。地文は単筋LRを縦位施文する。推定口径約35cm、現存高14cmを測る。

6は緩く内湾する口縁が開き、胴部で括れる器形を

呈する。口縁部は2列の円形刺突文列で区画され、胴部は2本沈線で区画される。沈線間間は無文となる。地文は細かな条線文を施文する。推定口径約27cm、現存高16cmを測る。

7、8はキャリパー系土器の底部破片で、磨消懸垂

第70図 第25号住居跡



SJ25

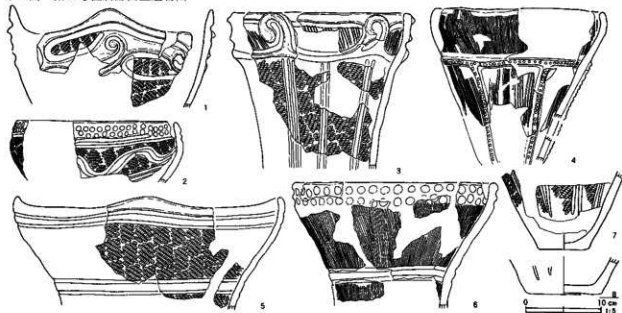
- 1a層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-1粒子を少量、褐色7"097を少量含む
 1b層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-1粒子を少量、1-4"粒子を少量、焼土粒子を極少量含む
 2a層 Hue10YR4/4 褐色 0-1粒子を少量、0-17"097を少量含む
 2b層 Hue10YR4/4 褐色 0-1粒子を少量、0-17"097を少量、1-4"粒子を少量、焼土粒子を極少量含む
 3層 Hue10YR4/6 褐色 0-17"097を中量含む
 SJ25 P2
 4層 Hue10YR3/4 暗褐色 やわらかい 0-1粒子を少量、0-17"097を中量含む
 5層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 0-17"097を中量含む
 SJ25 P3・P4
 6層 Hue10YR4/4 褐色 比較的やわらかい 0-17"097を中量含む
 7a層 Hue10YR4/6 褐色 固くしまっている 0-17"097を中量含む
 7b層 Hue10YR4/6 褐色 固くしまっている 0-17"097を中量含む
 8層 Hue10YR3/4 暗褐色 やわらかい 0-1粒子を少量、0-17"097を中量含む
 9層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 0-17"097を中量含む

SJ25 伊

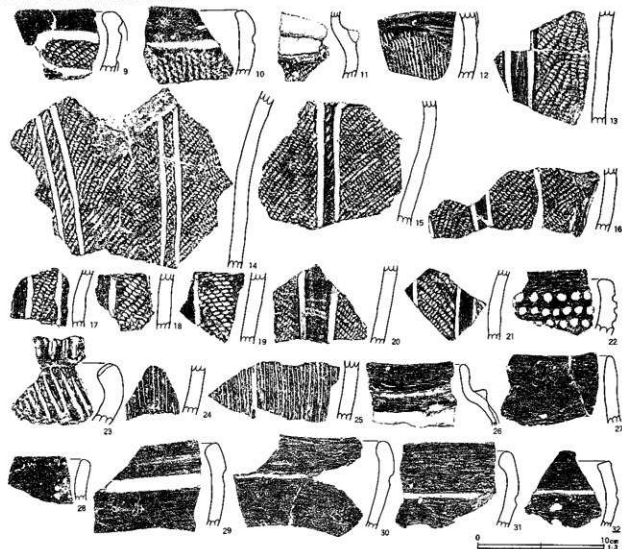
- 10層 Hue10YR4/6 褐色 2"02"010している 0-17"097を少量、1-4"粒子を中量、焼土粒子を少量含む

0 2m 1.80

第71図 第25号住居跡出土遺物(1)



第72図 第25号住居跡出土遺物(2)



文が垂下する。7の地文は単筋R Lで、底径6cm、現存高10cmを測る。

8は地文縄文はみられず、底径は約10cm、現存高5cmを測る。

9～10・12～21は加曾利E系のキャリバー系土器で、9・10は口縁部破片である。9・10・12は湾曲の少ない口縁部が開く器形を呈し、渦巻文と区画文で構成される口縁部文様帯を持つ。13～21は磨消懸垂文が

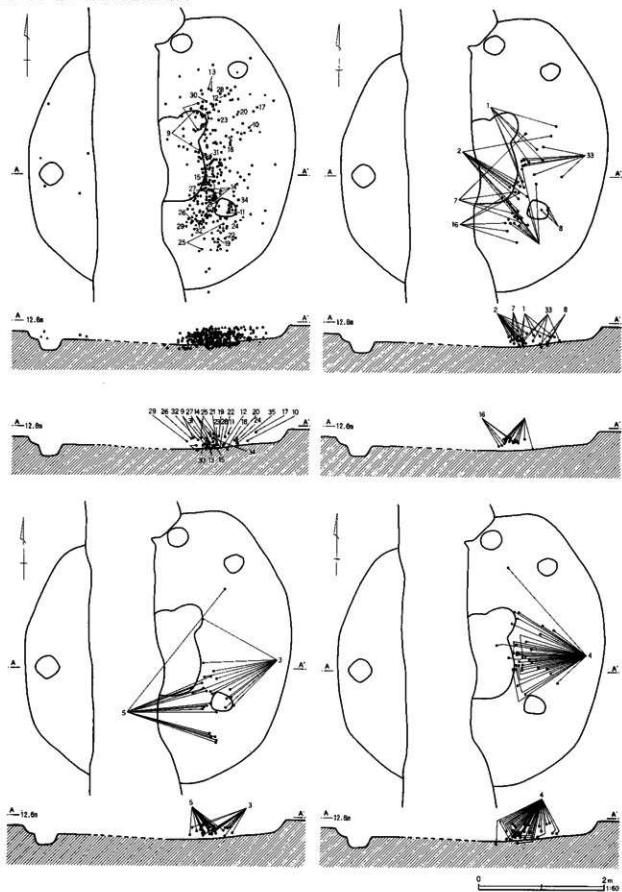
施される胴部破片である。

22は3列の円形刺突文列で区画される口縁部破片である。

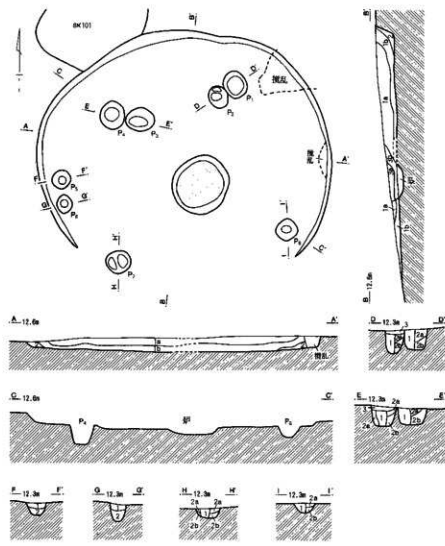
23～25は沈線文の施される管利系の土器である。23は太い沈線で、口唇部にも刻みが入る。24は細かい沈線、25は細かい条線が施文される。

11・26～28は両耳壺になるものと思われる。いずれも口縁部破片である。無文の口縁部が立ち、肩の張る

第73图 第25号住居跡遺物分布图



第74図 第26号住居跡



- SJ26
- 1a層 Hue10YR5/4 暗褐色 0-1粒子を中量、0-1小7"0"を少量、3-4"粒子を少量含む
 - 1b層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-1粒子を多量、0-17"0"を中量、3-4"粒子を少量含む
 - 2層 Hue10YR4/6 褐色 0-17"0"を中量含む
 - 3a層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-1粒子を中量、3-4"粒子を中量、焼土粒子を少量含む
 - 3b層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-1粒子を中量、3-4"粒子を中量、焼土粒子を中量含む
- SJ26 P1,2,3,4,7,8
- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 比較的やわらかい 0-17"0"を少量含む
 - 2a層 Hue10YR5/4 鈍い黄褐色 固くしまっている 0-17"0"を中量含む
 - 2b層 Hue10YR5/4 鈍い黄褐色 固くしまっている 0-17"0"を多量に含む
 - 3層 Hue10YR5/6 黄褐色 粘り床 0-17"0"を中量含む
- SJ26 P5,6
- 1層 Hue10YR4/6 褐色 0-1粒子を少量含む
 - 2層 Hue10YR4/4 褐色 0-17"0"を少量含む

器形を呈するものと思われる。

29～32は浅鉢の口縁部破片である。口縁部が沈線で区画される無文の浅鉢で、29～31は区画される口縁部がやや肥厚する。

33は底部から胴部下半にかけての破片で、浅鉢になるものと思われる。

34は石鎌である。石材は黒曜石で、長さは1.3cm、幅は1.0cm、厚さは0.2cm、重さは0.13gである。

以上、中期終末の加曾利EⅢ式に比定される。

第26号住居跡 (第74図～第78図)

P-8グリッドに位置する。第101号土壌と重複するが、新旧関係は不明である。住居跡の南縁は第16号

溝の影響か、傾斜地のため残っていなかった。

平面形態は円形を呈し、長径は4.7m、深さは0.24mである。床面は比較的平坦で、硬化していた。

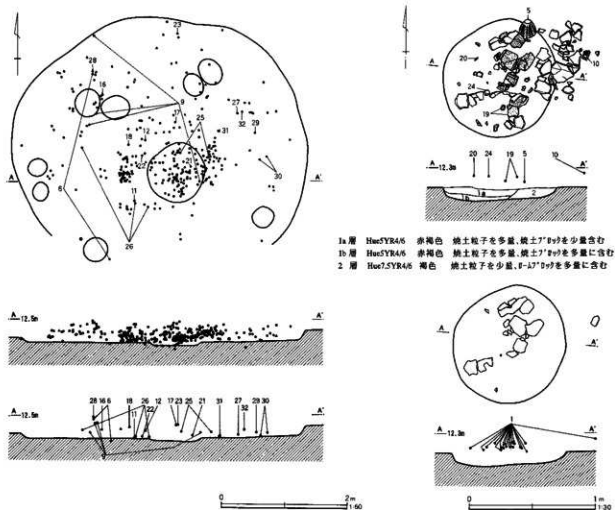
住居のほぼ中央に炉があり、長径は90cmである。炉の底面はたいへん良く焼けていた。

柱穴は8本検出された。柱穴の深さはP1:32cm、P2:36cm、P3:26cm、P4:30cm、P5:20cm、P6:26cm、P7:16cm、P8:16cmである。P1～P6は2つの柱穴が隣接しているため、建て替えによるものかもしれない。

出土遺物は約350点あり、炉の周辺に大型の破片が多かった。

1は4単位の緩い波状口縁で、やや内湾する口縁部

第75図 第26号住居跡遺物分布図(1)



が大きく開く器形を呈する。口縁部は波頂部下に渦巻文を、波状間に区画文を連結するモチーフ構成を採る。胴部は「H」状の磨消懸垂文が3単位に配され、その間に蛇行沈線文が交互に垂下される。口縁部が4単位で、胴部が3単位のため、相互の関連性は見られなくなっている。地文は口縁部から胴部にかけて、単節R Lを縦位施文する。推定口径約30cm、現存高31cmを測る。

3は4単位の波状口縁を呈し、若干内湾する口縁部が開く器形を呈する。口縁部は波頂部下に渦巻文を配する構成で、胴部には幅広の3本沈線間の磨消縄文と蛇行沈線懸垂文を交互に垂下する。地文は単節L Rを、口縁部から胴部にかけて縦位施文する。推定口径約25cm、現存高17cmを測る。

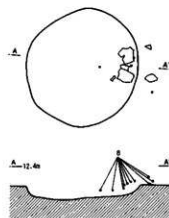
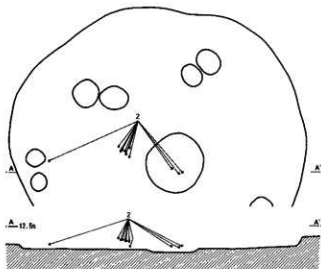
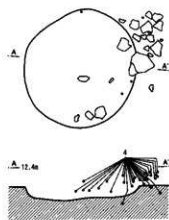
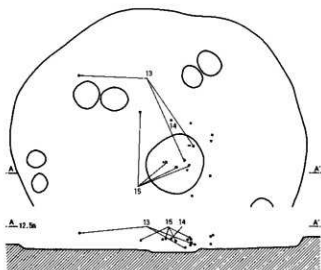
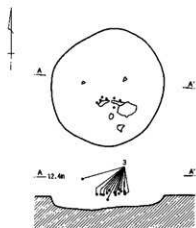
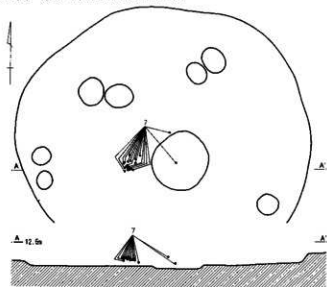
4は強く内湾する口縁部が大きく開き、胴部が窄む

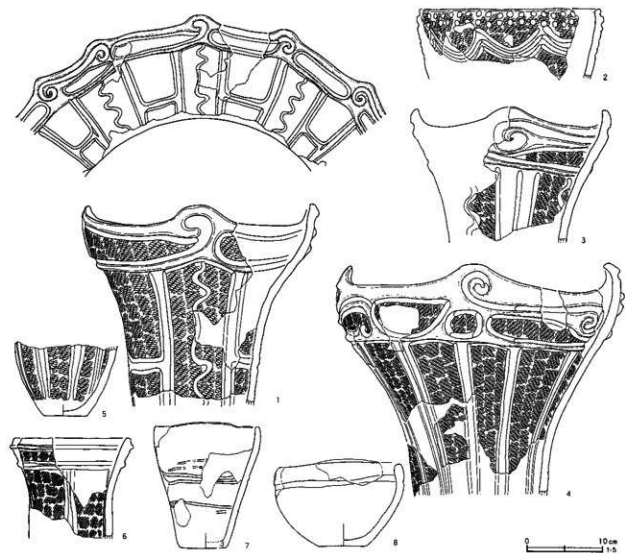
器形を呈する。波頂部下には沈線の渦巻文が配置され、口縁部文様帯には渦巻文と楕円区画文の連結したモチーフが配される。胴部は磨消懸垂文が間隔を狭めて円環状に多く施文されており、部分的に3本沈線間の磨消縄文が垂下する。地文は単節L Rを、口縁部で横位に、胴部で縦位に施文する。推定口径約34cm、現存高30cmを測る。

5は底部で、磨消縄文が垂下する。地文は単節R Lである。底径6cm、現存高9cmを測る。6は口縁部が直線的に開くキャリパー系土器で、口縁部が隆帯で区画され、磨消懸垂文が垂下する。地文は単節R Lを、口縁部から胴部にかけて縦位施文する。

2は連弧文土器である。やや内湾する口縁部が開く器形で、胴部はあまり括れないようである。口縁部は2列の刺突文列で区画され、3本沈線の連弧文が施

第76图 第26号住居跡遺物分布图(2)





文される。地文は単節R Lを縦位施文する。推定口径23cm、現存高9cmを測る。

7は連弧文系土器で、無地文の深鉢形を呈する。胴部が2本沈線で区画され、さらに1段区画されている様である。推定口径約14cm、器高16.5cmを測る。

8は沈線文で口縁部が区画される無文の浅鉢である。推定口径約16cm、底径6cm、器高12cmを測る。

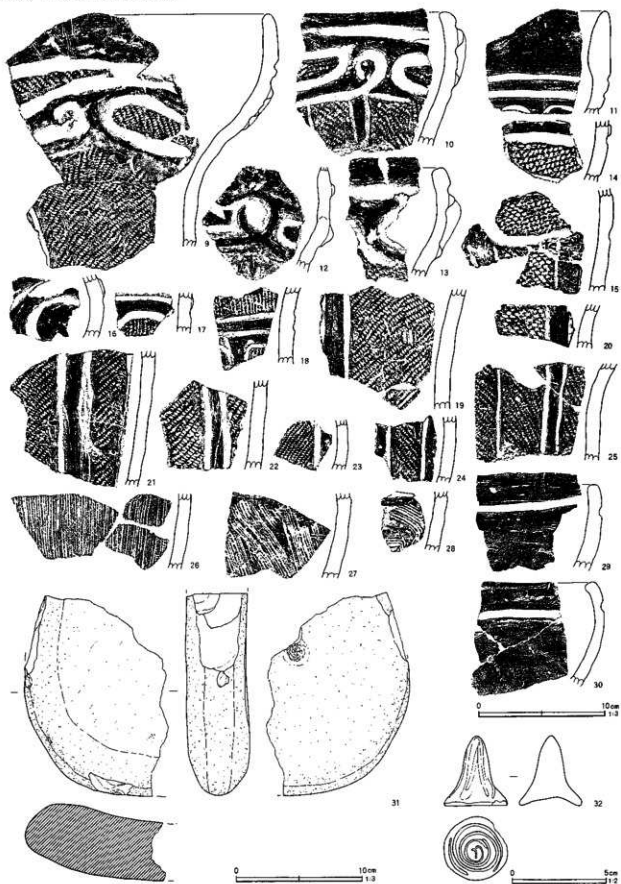
9～16は加曾利E系のキャリパー系土器で、9は連弧文土器の様に口縁部が大きく外反する。波状口縁を呈し、口縁部文様帯は渦巻文と区画文が重層するモチーフとなっている。胴部には磨消懸垂文を垂下させ、地文に単節R Lを口縁部で横位に、胴部で縦位に施文する。10は口縁部文様帯が沈線の渦巻文と区画文から

構成され、胴部に磨消懸垂文が垂下する。11は波状口縁を呈するが、波頂部下には渦巻文を配さない。12、13、16は口縁部に隆帯の渦巻文と区画文が施されるもので、15は沈線の楕円区画文が施される。14、15は地文に複節L R Lを施文する。

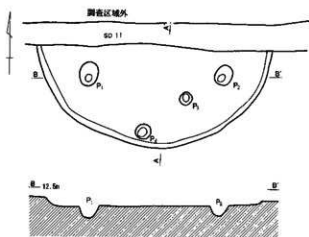
17、18は連弧文系の土器で、地文に燃糸Lを施文し、胴下半に逆「U」字状の磨消懸垂文を垂下する。19～25はキャリパー系土器の胴部破片で、磨消懸垂文が施文されている。地文は19、21～23が単節R L、20が複節L R L、24、25が単節L Rである。

26～28は条線文が施文される、浅鉢の胴部破片と思われる。29、30は沈線で口縁部が区画される無文の浅鉢である。

第78図 第26号住居跡出土遺物(2)



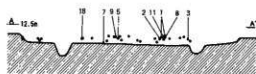
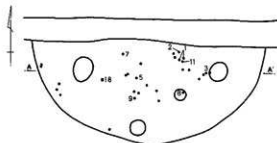
第79図 第27号住居跡



- 1層 Hue10YR5/4 暗褐色 P-17粒子を少量含む
 2a層 Hue10YR4/6 褐色 1層に比べてしまっている P-17粒子を少量、P-17のかけを少量含む
 2b層 Hue10YR4/6 褐色 1層に比べてしまっている P-17のかけを多量に含む



第80図 第27号住居跡遺物分布図



31は石皿の破片である。被熱のため赤褐色化している。裏面には窪みが1か所ある。

32はスタンプ形土製品で、底面に沈線文の渦巻文が見られる。底径3.4cm、高さ3.8cmを測る。

以上、中期終末の加曾利EⅢ式に比定されよう。

第27号住居跡 (第79図～第81図)

N-6・N-7グリッドに位置する。第11号溝よりも古い。住居跡の北半分は調査区域外へ続いている、全体を調査することはできなかった。

平面形態は円形になるものと思われる。残存する部分の長径は3.65m、深さは0.16mである。床面は平坦で、硬化していた。

柱穴は4本検出された。柱穴の深さはP1:18cm、P2:16cm、P3:13cm、P4:16cmである。

炉跡は検出されなかった。

出土遺物は約40点あり、床面近くから出土したものが

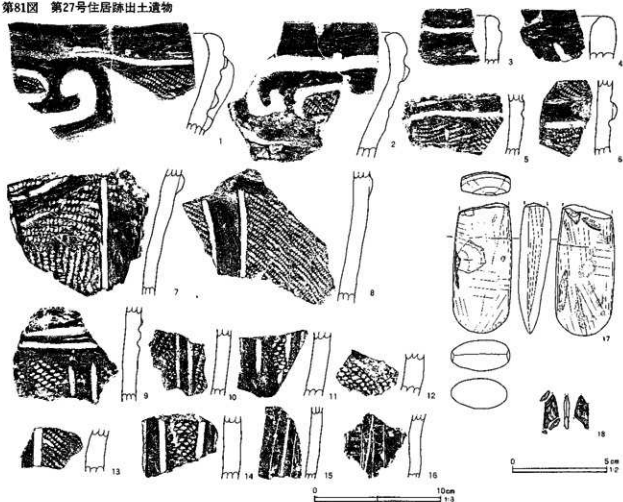
が多かった。

1～14は加曾利E系のキャリバー系土器で、1～9は口縁部破片である。1は口唇部が内湾するが、口縁部は直線的に開く器形を呈する。凹線状沈線の渦巻文と区画文から口縁部が構成され、地文に単節RLを横位施文する。2もほぼ同様な器形を呈し、口縁部文様帯の特徴からも同一個体の可能性が高い。3は口縁部が低隆帯で区画され、あまり湾曲をみない。4は厚い口唇部破片である。5～9は口縁部下端区画部分で、隆帯で区画されているものが多い。7～9は胴部に磨消懸垂文が垂下する。地文は5、8、9が単節LR、6が単節RL、7が複節LRLである。

10～16はキャリバー系土器の胴部破片で、10～14は磨消懸垂文が施されている。地文は10、11、14は単節RL、12は複節LRL、13は単節LRが施文される。15、16は地文に条線文が施文される。

17は磨製石斧である。石材は緑色凝灰岩で、長さは

第81図 第27号住居跡出土遺物



10.3cm、幅は4.6cm、厚さは2.4cm、重さは205.54gである。

18は石鏃である。石材はチャートで、長さは1.7cm、幅は1.0cm、厚さは0.3cm、重さは0.32gである。

以上、中期終末の加曾利EⅢ式に比定されよう。

第28号住居跡 (第82図～第83図)

M-8グリッドに位置する。第153号土壌～第154号土壌と重複するが、本住居跡の方が古い。

平面形態は円形を呈し、長径は4.3m、短径は3.8m、深さは0.14mである。床面は平坦であるが、あまり硬化していなかった。

柱穴と炉跡は検出されなかった。

出土遺物は約20点で、少なかった。

1は交互に刺突が施される隆帯で胴部を区画するも

ので、地文に無節Lが施文されている。

2、3は無文土器である。

時期不詳である。

第29号住居跡 (第84図～第86図)

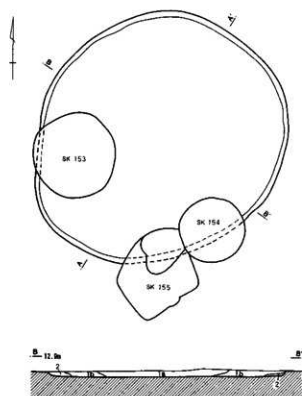
M-8グリッドに位置する。第30号住居跡よりも古い。

平面形態は円形を呈し、長径は3.8m、深さは0.22mである。床面は平坦であるが、あまり硬化していなかった。

住居の中央よりやや北寄りに炉があり、長径は60cmである。

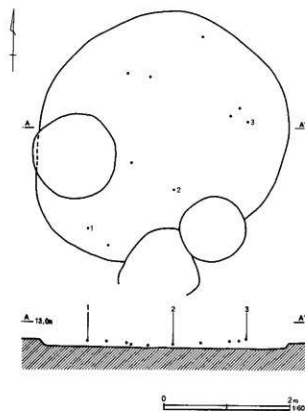
柱穴は8本検出された。柱穴の深さはP1:22cm、P2:20cm、P3:12cm、P4:16cm、P5:14cm、P6:18cm、P7:8cm、P8:30cmである。

第82図 第28号住居跡

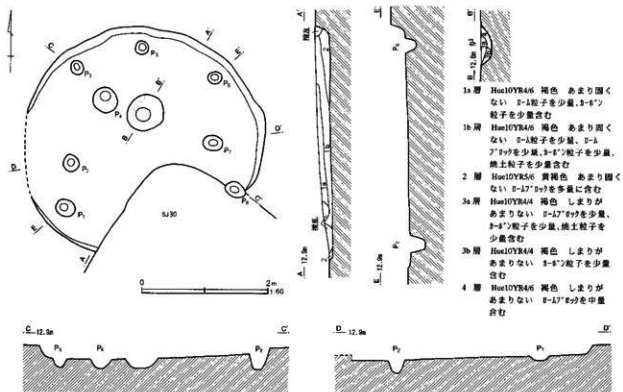


- 1a層 Hw7.5YR4/4 褐色 しまっている
0-1粒子を少量、 $t-t'$ 粒子を少量、
暗褐色 γ Dppを中量含む
- 1b層 Hw7.5YR4/4 褐色 しまっている
 $t-t'$ 粒子を少量、暗褐色 γ Dppを多量に
含む
- 2層 Hw7.5YR4/6 褐色 比較的やわらかい
0-1 γ Dppを少量含む

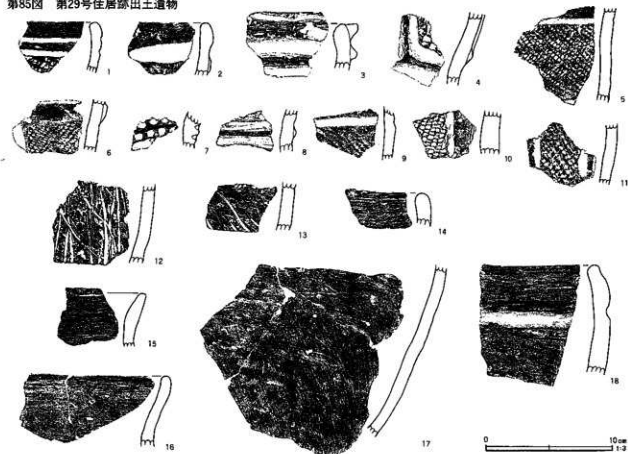
第83図 第28号住居跡遺物分布図・出土遺物



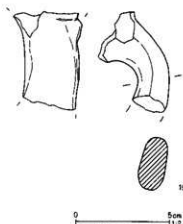
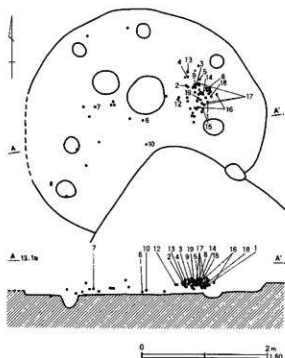
第84図 第29号住居跡



第85図 第29号住居跡出土遺物



第86図 第29号住居跡遺物分布図・出土遺物



出土遺物は約80点あり、床面からやや浮いた高さから出土したものが多かった。

1は内湾する口縁部が開く器形で、口縁部が2本沈線で区画されている。地文には単節LRが縦位施文される。口縁部文様帯を持たない土器で、連弧文土器の可能性もある。3は口縁部に背の高い隆帯を巡らせて口縁部を区画し、4は隆帯の区画内に複節LRを施文する。5、9は胴部が2本沈線で区画され、沈線内は磨り消されている。6は口縁部文様帯下端部で、磨消懸垂文が垂下する。7は刺突文を施す沈線で胴部が区画され、8は断面三角の隆帯で区画されている。10、11はキャリバー系土器での胴部破片で、磨消懸垂文が垂下する。地文は10が単節RL、11が複節LRLである。12、13は粗い条線が施文される。

15、16は頸部で括れ、無文の口縁部が開く器形で、15は両耳壺の口縁部になる可能性もある。14、17、18は無文の浅鉢で、18は口縁部が沈線で区画されている。19は両耳壺の把手部分である。

以上、中期終末の加曾利EⅢ式に比定されよう。

(2) 炉穴

炉穴は計11基検出された。同時期の住居跡が検出されたO-7・P-7グリッド付近に集中するわけではなく、調査区域内から散在して検出された。

第1号炉穴（第87図）

O-9グリッドに位置する。第14号溝よりも古い。長方形を呈し、長辺は1.25m、短辺は0.85m、深さは0.7mである。底面から壁面全体がたいへん良く焼けていた。遺物は十数点出土したが、図化できるものはなかった。

第2号炉穴（第87図）

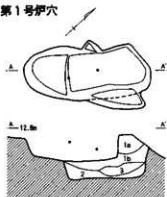
N-12グリッドに位置する。第177号土壌よりも古い。楕円形を呈するものと思われ、短辺は1.1m、深さは0.18mである。底面は硬化する程は焼けていなかった。遺物は出土しなかった。

第3号炉穴（第87図・第89図）

L-9グリッドに位置する。第146号土壌よりも古

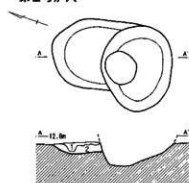
第87図 B区炉穴(1)

第1号炉穴



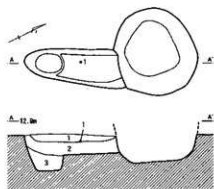
- 1a層 Hue10YR44 褐色 D-17'0''を少量、
 3-4'粒子を少量含む
 1b層 Hue10YR44 褐色 D-1粒子を少量、
 焼土粒子を中量、焼土小7'0''を少
 量含む
 2層 Hue10YR34 暗褐色 D-17'0''を
 中量含む
 3層 Hue5YR46 赤褐色 焼土7'0''を
 多量に含む

第2号炉穴



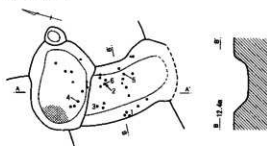
- 1層 Hue10YR34 暗褐色 しまりあり
 焼土粒子を中量、焼土7'0''を少量
 含む
 2層 Hue5YR58 明赤褐色 しまりあり
 焼土7'0''を多量に含む

第3号炉穴



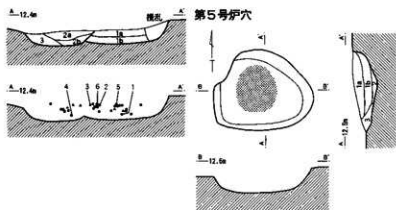
- 1層 Hue10YR46 褐色 固くしまっている D-1粒
 子を少量、D-17'0''を少量、焼土粒子を極少量含む
 2層 Hue10YR34 暗褐色 固くしまっている D-1粒
 子をやや多量、D-17'0''を少量、焼土粒子を中量、
 3-8'粒子を少量含む
 3層 Hue2.5YR48 赤褐色 固くしまっている D-1粒
 子を少量、焼土粒子を多量、焼土7'0''を多量に
 含む

第4号炉穴



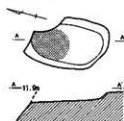
- 1a層 Hue7.5YR34 暗褐色 しまっている D-17'0''を少量、
 3-8'粒子を中量、焼土粒子を少量、焼土7'0''を少量
 含む
 1b層 Hue7.5YR34 暗褐色 しまっている 3-8'粒子を少量、
 焼土粒子を少量含む
 2a層 Hue7.5YR35 暗褐色 しまっている D-1粒子を少量、
 3-8'粒子を中量、焼土粒子を中量含む
 2b層 Hue7.5YR33 暗褐色 しまっている D-1粒子を少量、
 3-8'粒子を少量、焼土粒子を少量含む
 3層 Hue7.5YR44 褐色 しまっている D-17'0''を少量含む

第5号炉穴

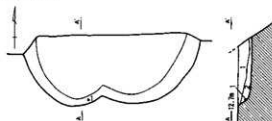


- 1a層 Hue7.5YR44 褐色 しまり粘性あり
 D-1粒子を少量、3-8'粒子を少量、
 焼土粒子を少量含む
 1b層 Hue7.5YR34 暗褐色 しまり粘性あり
 D-1粒子を少量、3-8'粒子を少量、
 焼土粒子を中量含む
 2層 Hue5YR34 暗赤褐色 比較的3'0''を
 送けたD-17'0''を多量、焼土7'0''を
 多量に含む
 3層 Hue10YR44 褐色 あまりしまりなし
 D-17'0''を中量含む

第7号炉穴



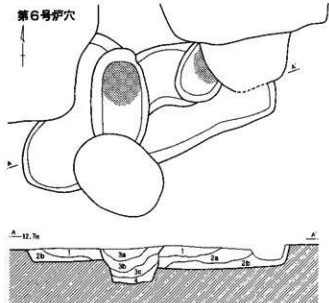
第8号炉穴



- 1層 Hue10YR43 鈍い黄褐色 しまりあり
 D-1粒子を少量、D-17'0''(1cm)を少量、
 焼土粒子(1mm)を少量含む
 2層 Hue10YR43 鈍い黄褐色 しまりあり
 D-1粒子を少量、D-17'0''(1-2cm)を
 少量含む

0 2m 1:60

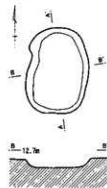
第88図 B区炉穴(2)



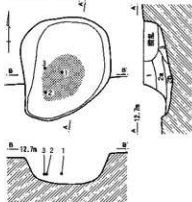
- 1層 Hue75YR3/4 暗褐色 固くしまっている D-L 粒子を少量、D-L7' D99を少量、3-4' 粒子を中量、焼土粒子を少量含む
- 2a層 Hue75YR4/4 褐色 固くしまっている 3-4' 粒子を少量、焼土粒子を少量含む
- 2b層 Hue75YR3/3 褐色 固くしまっている 焼けた D-L7' D99を少量、3-4' 粒子を少量、焼土粒子を少量含む
- 3a層 Hue5YR4/4 鈍い赤褐色 固くしまっている 3-4' 粒子を中量、焼土粒子を中量含む
- 3b層 Hue5YR4/4 鈍い赤褐色 固くしまっている 3-4' 粒子を少量、焼土粒子を少量含む
- 3c層 Hue5YR4/4 鈍い赤褐色 固くしまっている D-L 粒子を少量、3-4' 粒子を中量、焼土粒子を中量含む
- 4層 Hue5YR3/4 暗赤褐色 比較的4' D-L D-L 粒子を少量、焼けた D-L7' D99を中量、3-4' 粒子を少量、焼土粒子を少量、焼土7' D99を中量含む

0 2m 1:60

第9号炉穴



第10号炉穴



FP9

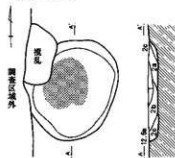
- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり D-L 粒子を極少量、焼土粒子を極少量含む
- 2層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 しまりあり D-L 粒子を少量、D-L7' D99(1-2 cm)を中量、焼土粒子を極少量含む
- 3層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 しまりあり D-L 粒子を少量、D-L7' D99(3 cm)を多量に含む

FP10

- 1層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 D-L 粒子を少量含む
- 2a層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 D-L 粒子を少量、焼土粒子を少量含む
- 2b層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 D-L 粒子を少量、D-L7' D99(1 cm)を少量、焼土粒子を少量、焼土7' D99(1 cm)を中量含む
- 3層 Hue10YR4/4 褐色 D-L 粒子を中量、D-L7' D99(1 cm)を中量含む

0 2m 1:60

第11号炉穴



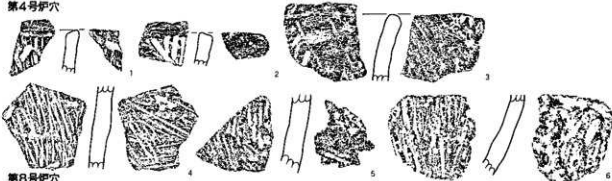
- 1層 Hue75YR4/4 褐色 焼土粒子を少量、焼土小7' D99を少量含む
- 2a層 Hue10YR4/6 褐色 しまりややあり D-L 粒子を少量、焼土粒子を少量含む
- 2b層 Hue10YR4/6 褐色 しまりあり D-L 粒子を少量、D-L小7' D99少量、焼土粒子を少量含む
- 2c層 Hue10YR4/6 褐色 しまりあり D-L 粒子を少量、D-L7' D99を少量含む

第89図 B区炉穴出土遺物(1)

第3号炉穴



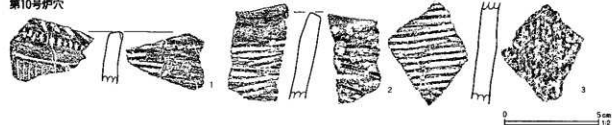
第4号炉穴



第8号炉穴



第10号炉穴



い。形態は不明である。遺物は数点出土した。

1は早期末葉の条痕文系土器で、胎土に繊維を少量含む、表裏面に条痕文を施文する。

第4号炉穴(第87図・第89図)

0-7グリッドに位置する。第185号土壌より古い。第18号住居跡・第19号住居跡とも重複するが、新旧関係は不明である。不整形で、長辺は2.36m、深さは0.25mである。底面は硬化する程は焼けていなかった。遺物は十数点出土した。

1は内前状の口縁部が緩く開く器形を呈し、粗い集合沈線文が浅く施文される。裏面には縦位の条痕文が施文される。2はやや外削状で角頭状の口縁部が開き、太沈線の区画内に、同種の集合沈線文を充填施文する。裏面は擦痕状整形である。3はやや外削状の口縁部が外反気味に開き、擦痕状整形の上に2本対の細沈線区画を施し、区画内に集合太沈線文を充填施文する。裏

面も擦痕状整形である。4-6は表裏面に条痕文が施文される胴部破片で、6は底部に近い破片である。何れも胎土には、繊維を少量含む。野鳥式に比定されよう。

第5号炉穴(第87図)

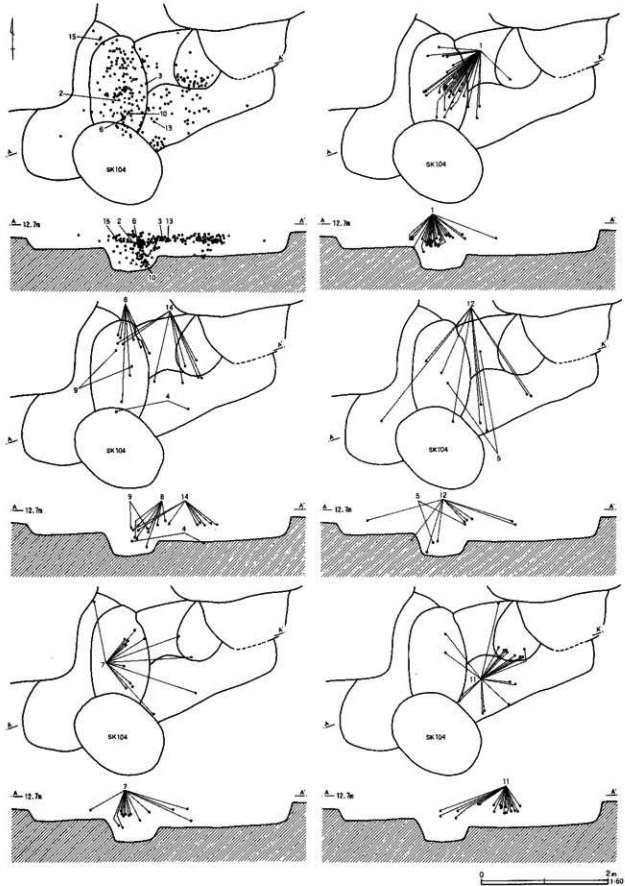
P-9グリッドに位置する。第243号土壌よりも古い。楕円形を呈し、長径は1.55m、深さは0.35mである。底面は良く焼けて硬化していた。遺物は数点しか出土しなかった。

第6号炉穴(第88図・第90図・第91図)

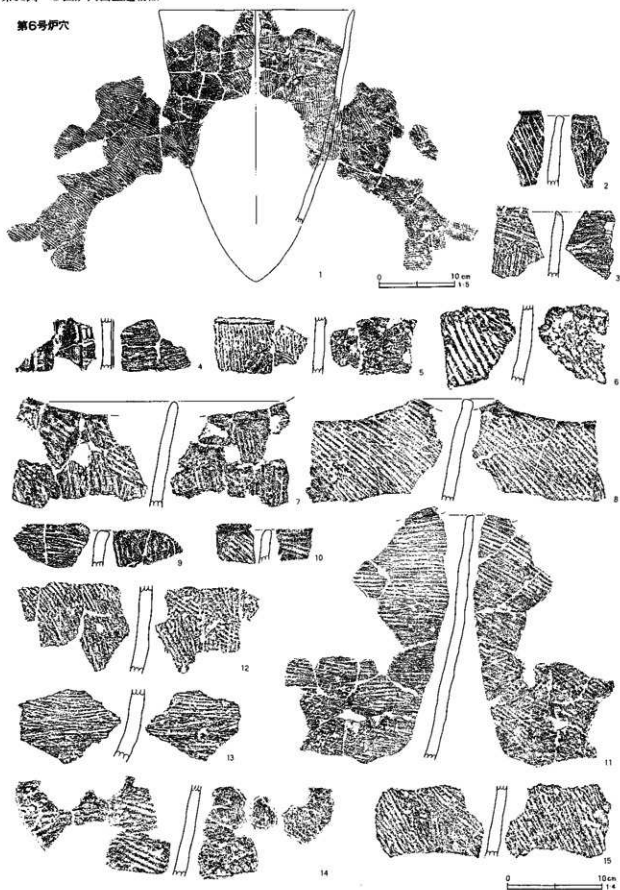
P-9・P10グリッドに位置する。第104号土壌・第255号土壌・第256号土壌よりも古い。不整形で、同じ場所で何回か炉穴を構築した結果と思われる。遺物は約100点あり、炉穴では一番多かった。

1は器形復元のできる大型破片で、文様は施文され

第90图 第6号炉穴遗物分布图



第6号炉穴



ていない。先細りの丸頭状口縁がほぼ直線的に開く器形で、表裏面に条痕文を施文する。条痕文は口縁部付近で横位に、胴部で縦位に施文されている。胎土にやや多めの繊維を含んでいる。

2は先細りする角頭状口縁部が開く器形で、集合細沈線文が斜位に施文される。裏面は擦痕状の整形である。3はやや薄手で外翻状の口縁部が開く器形で、口唇部には上から切り込む様な刻みが施される。表面は横位から縦位の、裏面は横位の条痕文が施される。4は細隆起線が縦横の区画を施すもので、地文の条痕文は磨り消されている。裏面は横位の擦痕状の整形が施される。5は横位の細隆起線で区画し、集合細沈線文が縦位に施文される。裏面は擦痕状の整形である。6は表面に太沈線文とも条痕文とも判断のつかない沈線文が施文され、裏面は擦痕状の整形である。

7、8、9、11は波状口縁を呈し、表裏面に条痕文を施文するものである。7は口唇部が丸頭状を呈するが、他は角頭状である。8、9の波頂部はやや肥厚する。10は平縁と思われる。12～15は表裏面に条痕文を施文するもので、13、15は細かな条痕文である。何れも胎土に繊維を含んでいる。野島式に比定されよう。

第7号炉穴 (第87図)

Q-8グリッドに位置する。第234号土塊・第625号土塊・第16号溝よりも古い。底面の被熱面が検出されたのみで形態は不明である。出土遺物もなかった。

第8号炉穴 (第87図・第89図)

O-8グリッドに位置する。第14号溝よりも古い。第83号土塊との新旧関係は不明である。底面は硬化する程には被熱していなかった。遺物は数点出土した。

1は条痕文系土器で、表面に斜位の条痕を施文し、裏面に擦痕状の整形を施す。胎土に少量の繊維を含む。

第9号炉穴 (第88図)

M-12グリッドに位置する。楕円形を呈し、長径は1.35m、深さは0.15mである。遺物は数点出土した

が、図化できる遺物はなかった。

第10号炉穴 (第89図・第90図)

O-8グリッドに位置する。第14号溝よりも古い。不整形を呈し、長径は1.6m、深さは0.5mである。遺物は十数点出土した。

1は緩やかな波状口縁で、やや内削状の口縁部が外反して開く器形を呈する。口唇状には斜位の刻みが、口唇外端部には連続した細かな刻みが施される。口唇下にやや間隔を開けて細沈線を巡らせて区画し、区画内には集合細沈線文を充填施文する。表面は条痕が磨り消されているが、裏面には横位の条痕文が施文されている。2は緩やかな波状口縁で、角頭状口縁部が開く器形を呈する。内外面に横位の条痕文を施文する。3は表面に横位の条痕を施文し、裏面に擦痕状の整形を施す。何れも、胎土に少量の繊維を含む。野島式に比定される。

第11号炉穴 (第88図)

P-3グリッドに位置する。楕円形を呈し、長径は1.58m、深さは0.2mである。調査時点では縄文時代第1号土塊としたが、底面が被熱していたので炉穴として報告する。遺物は数点しか出土せず、図化できる遺物もなかった。

(3) 陥穴

第1号陥穴 (第92図)

Q-4・Q-5グリッドに位置する。第355号土塊、第16号溝よりも古い。長方形を呈し、長辺は1.55m、短辺は0.65m、深さは1.17mである。底面中央にピットが1つが穿たれていた。

遺構確認時には第1層が黒色土で、古墳時代初頭の土師器片が含まれていたため、その時代の土塊と考え調査を開始した。しかし、黒色土を掘りあげても地山はなかなか出ず、形態や深さから陥穴であることが判った。2層～5層では遺物は出土しなかった。

(4) 土壌

縄文時代の土壌は計59基検出された。縄文時代の住居跡の周辺に多く分布する。ただし、調査区南半は中世の遺構により前平されているため、土壌があったとしても破壊されて残っていないものと思われる。

縄文時代の土壌は古墳時代以降の土壌と覆土が異なり、地山のローム土に近似した色調で、しまっていた。よって、調査時点で他の時代の土壌と区別し、縄文時代の土壌のみで番号を付け、略称もSKJとした。

土壌の位置や大きさは第2表にまとめ、ここでは出土土器についてのみ説明を加えた。土壌からは縄文時代早期と中期の土器が出土しているが、土壌の時期を決定するには至らなかった。

第53号土壌 (第93図・第101図)

1は口縁部文様帯を持たないキャリバー形土器で、沈線で口縁部を区画し、区画沈線から磨消懸垂文が垂下する。2は加曾利E系のキャリバー系土器の胴部破片で、2本沈線の磨消縄文が垂下する。地文に複節LR Lを施文する。3は底部破片で、磨消懸垂文が底部まで垂下する。地文は単節RLである。4は無文の浅鉢の胴部破片である。以上、加曾利EⅢ式に比定されよう。

第54号土壌 (第93図・第101図)

1～3は条痕文土器で、1はやや細かな条痕文が施文され、2、3は粗い条痕文が施文される。何れも胎土に少量の繊維を含む。

4、5は中期の破片である。4は連弧文土器で、5はキャリバー系土器の胴部破片であり、磨消懸垂文が垂下する。

第55号土壌 (第93図・第102図)

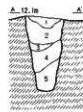
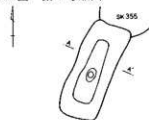
1は器形復元のできる大型破片で、4単位の突起を持つ緩い波状口縁土器である。角頭状の口縁部が開き、胴部が緩く括れる器形を呈し、表裏面に明瞭な条痕文を施文する。胎土に繊維を含む。2、3、7、9は波

状口縁で、内削状の口縁部が開く器形を呈する。2、3、7は口唇外端部に細かな刻みが施され、9は刻みを施さない。2、3は同一個体で、表面に条痕を、裏面に擦痕状の整形を施す。8は平縁土器で、押圧状の刻みが施され、口縁が小波状を呈する。表裏面とも横位の条痕文を施す。4～6、10～16は表裏面に条痕文を施す胴部破片で、6は底部に近い破片である。何れも、胎土に少量の繊維を含む。野島式でも、新しい段階に比定されよう。

第58号土壌 (第93図・第101図)

1、2は角頭状の口縁部が開く器形で、1は口唇部に丸棒状工具による刻みが連続して施される。2は斜めの刻みが施される。いずれも、表裏面に横位の条痕文を施文し、胎土に繊維を含む。3～8は表裏面に条痕文を施文する破片で、条痕は粗いものが多い。9は底部破片で、乳房状を呈する。尖底の角度は鈍い。何れも繊維を含む。野島式に比定されるものと思われる。

第92図 第1号陥穴

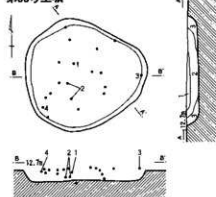


第1号陥穴

- | | | | | |
|----|-----------|------|---------|--------------------|
| 1層 | Hu10YR2/1 | 黒色 | しまりやや弱い | 0-1粒(2mm)を少量含む |
| 2層 | Hu10YR4/6 | 褐色 | しまりあり | 0-17°09'(3cm)を少量含む |
| 3層 | Hu10YR4/6 | 褐色 | しまりあり | 0-1粒(3mm)を少量に含む |
| 4層 | Hu10YR5/6 | 黄褐色 | しまりあり | 0-17°09'(1cm)からなる |
| 5層 | Hu10YR5/2 | 灰黄褐色 | しまりあり | (1cm)の7°09'からなる |

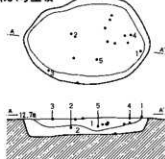
第93図 B区縄文時代土壇(1)

第53号土壇



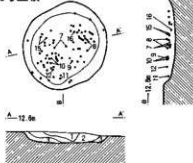
- 1層 Hue7.5YR44 褐色 しまりあり D-I粒子を中量含む
 2層 Hue7.5YR34 暗褐色 しまりあり D-I粒子を中量、3-4°粒子を少量含む
 3層 Hue7.5YR46 褐色 しまりあり D-I7°D9°を少量含む

第54号土壇

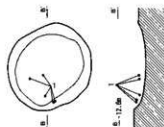


- 1層 Hue7.5YR34 暗褐色 しまりあり D-I粒子を少量、3-4°粒子を少量含む
 2層 Hue10YR46 褐色 しまりあり D-I7°D9°を少量含む

第55号土壇



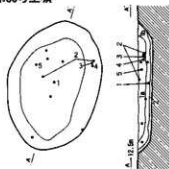
- 1層 Hue10YR34 暗褐色 しまりあり D-I粒子を少量、3-4°粒子を中量、焼土粒子を少量含む
 2層 Hue10YR30 暗褐色 しまりあり 3-4°粒子を多量、焼土粒子を少量含む
 3層 Hue10YR46 褐色 しまりあり D-I7°D9°を少量、3-4°粒子を少量含む



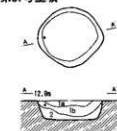
第56号土壇

- 1層 Hue10YR34 暗褐色 固くしまっている D-I粒子を少量、3-4°粒子を少量含む
 2a層 Hue10YR44 褐色 固くしまっている D-I7°D9°を中量含む
 2b層 Hue10YR44 褐色 固くしまっている D-I7°D9°を多量に含む

第60号土壇

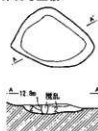


第57号土壇



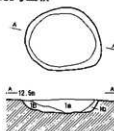
- 14層 Hue10YR34 暗褐色 D-I粒子を少量、D-I7°D9°を少量含む
 15層 Hue10YR34 暗褐色 D-I粒子を中量、D-I7°D9°を中量含む
 2層 Hue10YR44 褐色 D-I7°D9°を多量に含む

第58号土壇



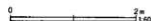
- 1層 Hue10YR46 褐色 しまりあり D-I粒子を多量、焼土粒子を多量に含む
 2層 Hue10YR46 褐色 しまりあり D-I粒子を多量、D-I7°D9°を少量含む

第59号土壇



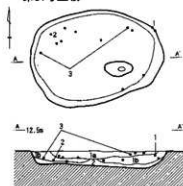
- 1a層 Hue7.5YR46 褐色 しまりあり D-I粒子を少量含む
 1b層 Hue7.5YR46 褐色 しまりあり D-I7°D9°を少量含む

- 1a層 Hue10YR44 褐色 しまりあり D-I粒子を少量含む
 1b層 Hue10YR44 褐色 しまりあり D-I7°D9°を少量含む
 2層 Hue10YR46 褐色 しまりあり D-I7°D9°を中量含む



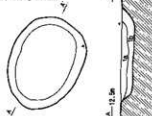
第94図 B区縄文時代土壌(2)

第61号土壌



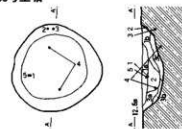
- 1a 層 Hae7.5YR4/4 褐色 しまりあり D-I 粒子を少量、D-I小7°D₉₇を少量含む
 1b 層 Hae7.5YR4/4 褐色 しまりあり 大形のD-I7°D₉₇を中量含む
 2 層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり D-I 7°D₉₇を多量に含む

第62号土壌



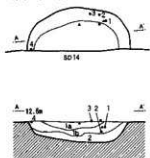
- 1a 層 Hae10YR4/4 褐色 しまりあり D-I 粒子を少量、焼土粒子を少量含む
 1b 層 Hae10YR4/4 褐色 しまりあり D-I 粒子を少量、D-I7°D₉₇を少量に含む

第63号土壌



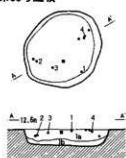
- 1a 層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり D-I 粒子を少量、D-I小7°D₉₇を極少量含む
 1b 層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり D-I 粒子を少量、D-I小7°D₉₇を少量含む
 2 層 Hae10YR3/3 暗褐色 しまりあり D-I 粒子を少量、D-I小7°D₉₇を少量含む
 3a 層 Hae10YR4/4 褐色 しまりなし D-I 粒子を少量、D-I7°D₉₇を少量含む
 3b 層 Hae10YR4/4 褐色 しまりなし D-I 粒子を少量、D-I小7°D₉₇を中量含む
 3c 層 Hae10YR4/4 褐色 しまりなし D-I 粒子を少量、D-I小7°D₉₇を多量に含む

第64号土壌



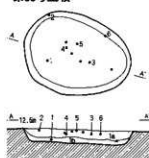
- 1a 層 Hae10YR4/4 褐色 固くしまっている D-I7°D₉₇を少量、D-I小7°D₉₇を少量含む
 1b 層 Hae10YR4/4 褐色 固くしまっている D-I7°D₉₇を中量、D-I小7°D₉₇を少量含む
 2 層 Hae10YR4/6 褐色 固くしまっている D-I7°D₉₇を多量に含む

第65号土壌

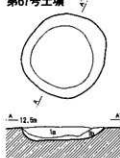


- SK65・SK66
 1a 層 Hae10YR4/4 褐色 固くしまっている D-I 粒子を少量、D-I7°D₉₇を少量含む
 1b 層 Hae10YR4/4 褐色 固くしまっている D-I 粒子を少量、D-I7°D₉₇を中量、D-I小7°D₉₇を少量含む

第66号土壌

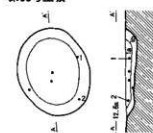


第67号土壌



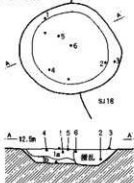
- 1a 層 Hae10YR4/4 褐色 しまりあり D-I 粒子を少量、焼土粒子を少量含む
 1b 層 Hae10YR4/4 褐色 しまりあり D-I 粒子を少量、D-I7°D₉₇を少量含む

第68号土壌



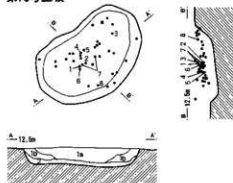
- 1a 層 Hae10YR4/4 褐色 しまりあり D-I 粒子を少量、焼土粒子を少量含む
 1b 層 Hae10YR4/4 褐色 しまりあり D-I 粒子を少量、D-I7°D₉₇を少量含む

第69号土壌



- 1a 層 Hae10YR4/4 褐色 D-I 粒子を少量含む
 1b 層 Hae10YR4/6 褐色 D-I 粒子を少量、D-I小7°D₉₇を少量含む

第70号土壌

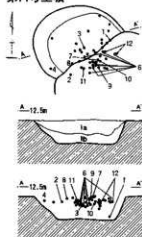


- 1a 層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり D-I 粒子を少量含む
 1b 層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり D-I 粒子を少量、D-I小7°D₉₇を少量含む
 2 層 Hae10YR4/4 褐色 しまりあり D-I7°D₉₇を中量、D-I小7°D₉₇を少量含む

0 2m 1:40

第95図 B区縄文時代土壌(3)

第71号土壌



SK71

1a層 Hue10YR4/6 褐色 固くしまっている 0-4粒子を少量、0-17°Dppを少量含む

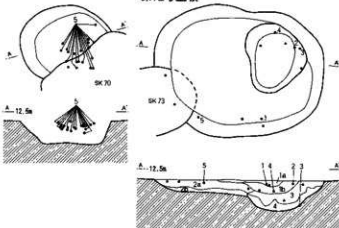
SK72

1a層 Hue10YR4/6 褐色 固くしまっている 0-4小7°Dppを少量、焼土小7°Dppを少量含む

1b層 Hue10YR4/6 褐色 固くしまっている 0-4小7°Dppを中量、0-17°Dppを少量、焼土小7°Dppを少量含む

2a層 Hue10YR4/4 褐色 固くしまっている 0-4粒子を少量、0-4小7°Dppを少量含む

第72号土壌



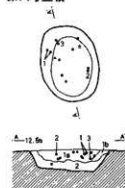
1b層 Hue10YR4/4 褐色 固くしまっている 0-47°Dppを多量、0-4小7°Dppを少量含む

2b層 Hue10YR4/4 褐色 固くしまっている 0-4粒子を少量、0-4小7°Dppを少量、0-17°Dppを少量含む

3層 Hue10YR3/4 暗褐色 固くしまっている 0-4粒子を少量、0-4小7°Dppを少量含む

4層 Hue10YR4/3 鈍い青褐色 固くしまっている 0-17°Dppを多量に含む

第74号土壌



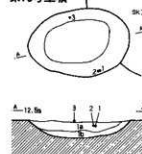
SK74

1a層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-4粒子を少量、0-47°Dppを中量、焼土粒子を少量含む

1b層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-4粒子を少量、0-47°Dppを多量に含む

2層 Hue10YR4/6 褐色 しまりあり 0-4粒子を多量、0-47°Dppを多量に含む

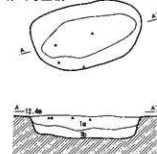
第73号土壌



1a層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり 0-4粒子を少量、焼土粒子を少量含む

1b層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり 0-4粒子を少量、0-17°Dppを少量含む

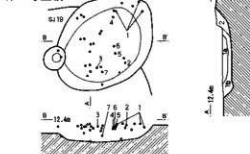
第75号土壌



1a層 Hue10YR4/4 褐色 固くしまっている 0-4粒子を少量、0-17°Dppを中量含む

1b層 Hue10YR4/4 褐色 固くしまっている 0-4粒子を少量、0-17°Dppを中量、0-4小7°Dppを少量含む

第76号土壌

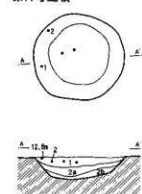


1a層 Hue10YR3/4 暗褐色 固くしまっている 0-4粒子を少量、0-47°Dppを少量含む

1b層 Hue10YR3/4 暗褐色 固くしまっている 0-4粒子を少量、0-17°Dppを中量含む

2層 Hue10YR4/4 褐色 固くしまっている 0-4粒子を少量、0-17°Dppを少量含む

第77号土壌



SK77

1層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり 0-4粒子を少量、焼土粒子を少量含む

2a層 Hue10YR4/6 褐色 しまりあり 0-4粒子を少量、0-17°Dppを少量含む

2b層 Hue10YR4/6 褐色 しまりあり 0-4粒子を少量、0-17°Dppを中量含む

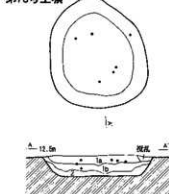
SK78

1a層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-4粒子を少量、0-4小7°Dppを少量含む

1b層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-4粒子を中量、0-4小7°Dppを中量、0-17°Dppを少量含む

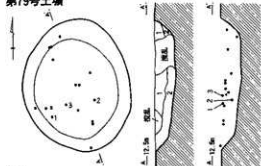
2層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり 0-17°Dppを多量に含む

第78号土壌



第96図 B区縄文時代土壌(4)

第79号土壌



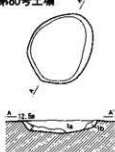
SK79

- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 固くしまっている D-1粒子を少量、D-1小7"砂粒を少量含む
 2層 Hue10YR6 褐色 固くしまっている D-17"砂粒を多量、D-1小7"砂粒を少量含む

SK80

- 1a層 Hue10YR4/4 褐色 固くしまっている D-1粒子を少量、D-17"砂粒を少量含む
 1b層 Hue10YR4/4 褐色 固くしまっている D-1粒子を少量、D-17"砂粒を中量含む
 2層 Hue10YR6 褐色 D-17"砂粒を多量、D-1小7"砂粒を少量含む

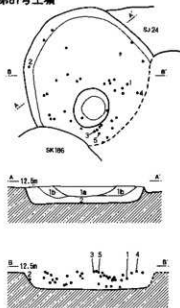
第80号土壌



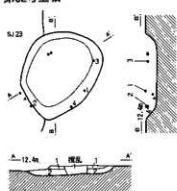
SK81

- 1a層 Hue10YR4/4 褐色 固くしまっている D-1粒子を中量、D-1小7"砂粒を少量、3-4"粒子を少量含む
 1b層 Hue10YR4/4 褐色 固くしまっている D-1粒子を中量、D-17"砂粒を中量含む
 2層 Hue10YR6 褐色 固くしまっている D-17"砂粒を多量に含む

第81号土壌

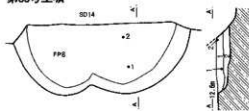


第82号土壌



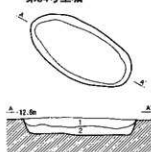
- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり D-1粒子を極少量含む
 2層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり D-1粒子を少量含む

第83号土壌



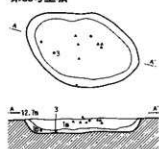
- 1層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 しまりあり D-1粒子を少量、D-17"砂粒(1cm)を少量含む
 2層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 しまりあり D-1粒子を少量、D-17"砂粒(1cm)を中量含む

第84号土壌



- 1層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり D-1粒子を中量、D-17"砂粒(1cm)を少量含む
 2層 Hue10YR6 褐色 しまりあり D-17"砂粒(1-2cm)を多量に含む

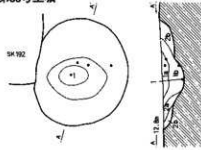
第85号土壌



SK85

- 1a層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり D-1粒子を少量、D-17"砂粒を少量含む
 1b層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり D-17"砂粒を少量含む

第86号土壌



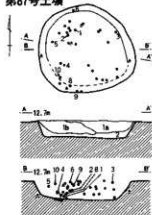
SK86

- 1a層 Hue10YR3/4 暗褐色 比較的柔らかい D-1粒子を中量、含む
 1b層 Hue10YR3/4 暗褐色 比較的柔らかい D-1粒子を中量、D-17"砂粒を少量含む
 2a層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり D-1粒子を少量、D-17"砂粒を少量含む
 2b層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり D-17"砂粒を中量含む

0 2m 1:50

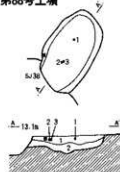
第97図 B区縄文時代土壇(5)

第87号土壇



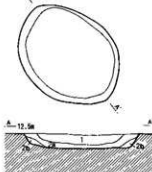
- 1a層 Hae10YR34 暗褐色 しまりあり D-I粒子を少量含む
 1b層 Hae10YR34 暗褐色 しまりあり D-I粒子を中量、D-I 7°D97を中量含む
 2層 Hae10YR44 褐色 しまりあり D-I7°D97を中量含む

第88号土壇



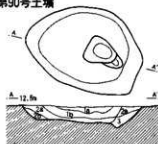
- 1層 Hae10YR34 暗褐色 しまりあり D-I粒子を少量含む
 2層 Hae10YR44 暗褐色 しまりあり D-I粒子を多量に含む

第89号土壇



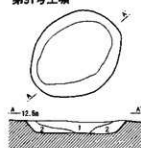
- 1層 Hae10YR44 褐色 しまりあり D-I粒子を少量含む
 2a層 Hae10YR46 褐色 しまりあり D-I粒子を少量、D-I 7°D97を極少量含む
 2b層 Hae10YR46 褐色 しまりあり D-I7°D97を少量含む

第90号土壇



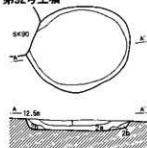
- 1a層 Hae10YR34 暗褐色 しまりややあり D-I粒子を少量含む
 1b層 Hae10YR34 暗褐色 しまりややあり D-I粒子を少量、D-I小7°D97を少量含む
 2a層 Hae10YR44 褐色 しまりややあり D-I粒子を少量、D-I 7°D97を少量含む
 2b層 Hae10YR44 褐色 しまりややあり D-I粒子を少量、D-I7°D97を中量含む
 3層 Hae10YR46 褐色 しまりややあり D-I粒子を少量、D-I7°D97を中量含む

第91号土壇



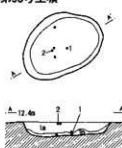
- 1層 Hae10YR44 褐色 D-I粒子を少量含む
 2層 Hae10YR46 褐色 D-I 7°D97を極少量含む

第92号土壇



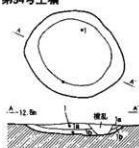
- 1層 Hae10YR44 褐色 しまりあり D-I粒子を少量含む
 2a層 Hae10YR46 褐色 しまりあり D-I粒子を少量、D-I 7°D97を極少量含む
 2b層 Hae10YR46 褐色 しまりあり D-I7°D97を少量含む

第93号土壇



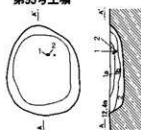
- 1a層 Hae10YR44 褐色 固くしまっている D-I粒子を少量、D-I 小7°D97を少量含む
 1b層 Hae10YR44 褐色 固くしまっている D-I粒子を少量、D-I 小7°D97を中量含む

第94号土壇



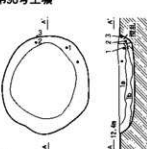
- 1a層 Hae10YR44 褐色 しまりあり D-I粒子を少量、焼土粒子を少量、D-I7°D97を少量含む
 1b層 Hae10YR44 褐色 しまりあり D-I粒子を少量、D-I7°D97を中量含む

第95号土壇



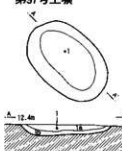
- SK95
 1a層 Hae10YR46 褐色 しまりあり D-I粒子を少量、D-I 小7°D97を少量含む
 1b層 Hae10YR46 褐色 しまりあり D-I粒子を少量、D-I 小7°D97を中量含む
 2層 Hae10YR54 鈍い褐色 しまりあり D-I7°D97を中量含む

第96号土壇



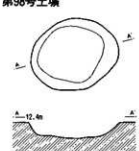
- Hae10YR46 褐色 しまりあり D-I粒子を少量、D-I小7°D97を少量含む
 Hae10YR46 褐色 しまりあり D-I粒子を少量、D-I小7°D97を中量、D-I7°D97を少量含む
 2層 Hae10YR54 鈍い黄褐色 しまりあり D-I7°D97を中量含む

第97号土壇



- SK97
 1a層 Hae10YR44 褐色 しまりあり D-I粒子を少量、焼土粒子を少量含む
 1b層 Hae10YR44 褐色 しまりあり D-I7°D97を少量含む

第98号土壇

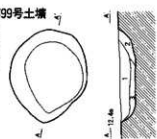


- Hae10YR44 褐色 しまりあり D-I粒子を少量、D-I7°D97を少量含む



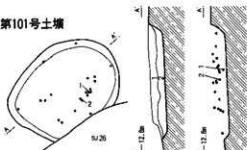
第98図 B区縄文時代土壌(6)

第99号土壌



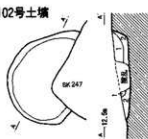
- 1層 Hue10YR4/4 褐色 2.3 に比べて柔らかい 0-1粒子を少量、0-1小7"を少量含む
 2層 Hue10YR3/4 褐色 しまりあり 0-1粒子を少量、0-1小7"を少量含む
 3層 Hue10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1 7"を少量を含む

第101号土壌



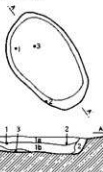
- 1層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 しまりありを少量、0-17"を少量含む 0-1粒子
 2層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 しまりありを少量、0-17"を少量含む(1-2 cm) 0-1粒子

第102号土壌



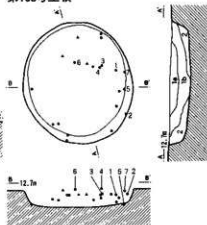
- 1層 Hue7.5YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒子を少量、0-17"を少量含む
 2層 Hue10YR4/6 褐色 しまりなし 0-17"を少量を含む

第105号土壌



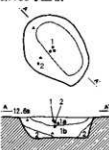
- 1a層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒子を少量含む
 1b層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒子を少量、0-17"を少量含む
 2層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり 0-1 7"を少量含む

第106号土壌



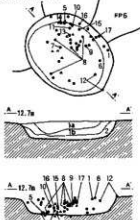
- 1a層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1 7"を少量含む
 1b層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1 7"を少量含む
 2層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり 0-1 7"を少量含む

第103号土壌



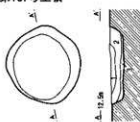
- 1a層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-1粒子を少量、0-1 7"を少量含む
 1b層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-1粒子を少量、0-1 7"を少量含む
 2層 Hue10YR4/4 褐色 0-17"を少量含む

第104号土壌



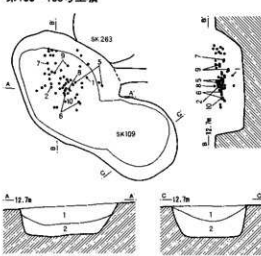
- 1a層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-1粒子を少量、0-17"粒子を少量含む
 1b層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-17"を少量含む、0-1 小7"を少量含む
 2層 Hue10YR4/4 褐色 0-17"を少量含む

第107号土壌



- 1層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 しまりあり 0-1粒子を少量含む
 2層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒子を少量、0-17"粒子を少量含む
 3層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり 0-1粒子を少量含む

第108・109号土壌



SK108

- 1層 Hue10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1 粒子(3 mm)を少量、0-17"粒子を少量、黄土粒子を少量含む
 2層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 しまりあり 0-1粒子(5 mm)を少量含む

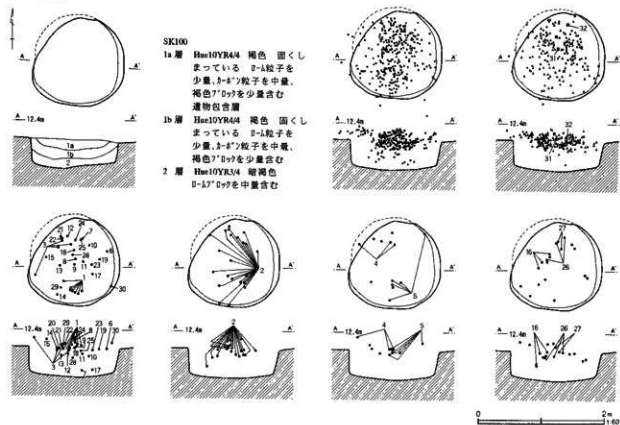
SK109

- 1層 Hue10YR4/4 褐色 SK108-1層より暗い 0-1粒子(3 mm)を少量含む
 2層 Hue10YR4/4 褐色 SK108-2層より暗い 0-1粒子(5 mm)を少量含む



第99図 B区縄文時代土壌(7)

第100号土壌



第60号土壌 (第93図・第103図)

- 1は早期の条痕文系土器で、表裏面に横位の条痕を施文する。胎土に、少量の繊維を含む。
- 2～6は中期のキャリバー系土器の胴部破片であり、磨消懸垂文が垂下する。何れも地文は、単節LRの縦位施文で、6は3本沈線の磨消懸垂文である。

第61号土壌 (第94図・第103図)

- 1は早期の条痕文系土器で、表面に条痕を、裏面に擦痕状の整形を施す。胎土に少量の繊維を含む。
- 2～4は沈線文が施文されるもので、中期の曾利系の破片と思われるが、後期の可能性もある。

第63号土壌 (第94図・第103図)

- 1～5は早期の条痕文系土器で、1～3は表裏面に条痕文を施文し、4、5は表裏面とも擦痕状整形である。何れも胎土に繊維を含む。

第64号土壌 (第94図・第103図)

- 1は先細りの角頭状口縁部が外反しながら開く器形で、口唇上に刻みは見られない。表面は横位の条痕を、裏面は斜位の条痕文を施す。胎土に繊維を少量含む。
- 3～4は表裏面に条痕文が施される胴部破片である。何れも胎土に繊維を含む。

第65号土壌 (第94図・第103図)

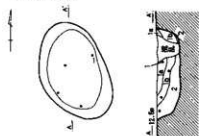
- 1～3は早期の条痕文系土器で、表裏面に条痕文を施文し、胎土に繊維を含む。
- 4は中期の無文土器で、浅鉢の胴部破片と思われる。

第66号土壌 (第94図・第103図)

- 1は細隆起線が縦位に垂下して区画し、斜位の集合沈線文が充填施文される。裏面には条痕が縦位に施文される。胎土に少量の繊維を含む。
- 2～5は表裏面に条痕文を施文する胴部破片である。

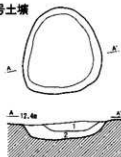
第100図 B区縄文時代土壇(8)

第110号土壇



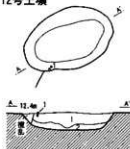
- 1a層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり D-1
 粒子を少量、
 D-1小ア'D'を少量含む
 1b層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり D-1
 粒子を中量、D-1小ア'D'を中量含む
 2層 Hae10YR4/4 褐色 しまりあり D-1
 ア'D'を中量、D-1小ア'D'を中量含む

第111号土壇

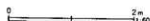


- 1層 Hae10YR4/4 暗褐色 しまりあり
 D-1粒子を少量、D-1小ア'D'を少量
 含む
 2層 Hae10YR4/4 褐色 しまりあり
 D-1ア'D'を中量、D-1小ア'D'を中量
 含む

第112号土壇



- 1層 Hae10YR4/4 褐色 しまりあり D-1
 粒子を少量、D-1ア'D'を少量含む
 2層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり D-1
 ア'D'を中量、D-1小ア'D'を少量含む



4は表面に粗い条痕文を、裏面に細かな条痕文を施文する。6は裏面に擦痕状の整形が施される。何れも、胎土に繊維を含む。

第68号土壇 (第94図・第103図)

1、2は早期の条痕文系土器である。1は表面に縦位の、裏面に横位の条痕文を施文し、2は表面に縦位の条痕文を、裏面に擦痕状の整形を施す。何れも胎土に繊維を少量含む。

第69号土壇 (第94図・第104図)

1は角頭状の口縁部がやや外反しながら開き、口唇部に細かい刻みが施される。口縁部は区画されず、口唇直下から太沈線の斜位の区画が施され、縦位の集合太沈線文が充填施文される。裏面は擦痕状の整形である。2は刻みの施される太い隆帯が垂下して文様帯を分割し、集合太沈線文が充填施文される。裏面は擦痕状の整形である。何れも、胎土に繊維を含む。

3～6は表裏面に条痕文が施される胴部破片で、6は底部に近い破片である。何れも胎土に繊維を含む。

以上、野島式に比定されよう。

第70号土壇 (第94図・第104図)

1は連弧文土器で、磨消連弧文から磨消懸垂文が垂

下する。2、3はキャリパー系土器の口縁部下端破片で、2は隆帯の区画文下に磨消懸垂文が垂下する。3は口縁部の区画線からやや間隔を置いて磨消懸垂文が垂下する。4～7は磨消懸垂文が垂下する胴部破片で、地文は4～6が単節RL、7がLRである。8は条線文が施文される胴部破片で、浅鉢の胴部破片の可能性もある。

以上、中期の加曾利EⅢ式に比定される。

第71号土壇 (第95図・第104図)

1～4は早期の条痕文系土器である。1は波状口縁で、やや内削状の口縁部が開く器形を呈し、表裏面に横位の条痕文を施文する。2は太沈線の細かな区画内に、同種の太沈線文を充填施文する。裏面は縦位の条痕文が施される。3は表面が擦痕で、裏面に縦位の条痕整形である。4は表面が横位の、裏面に縦位の条痕が施文される。何れも繊維を少量含む。

5～12は中期終末の土器群である。5は加曾利E系のキャリパー系土器で、口縁部が緩く内湾して開き、胴部が括れる器形を呈する。口縁部文様帯は渦巻文と区画文から構成され、胴部は2本沈線の磨消懸垂文が垂下される。地文は単節RLを、口縁部から胴部にかけて縦位施文する。推定口径約29cm、現存高13cmを測る。9、10もキャリパー系土器の口縁部破片で、11、

第2表 B区縄文時代土壌一覧

土壌番号	旧番号	グリッド	長辺(m)	短辺(m)	深さ(m)	遺物有無
053	74	L-8	1.94	1.80	0.20	○
054	67	L-8	2.00	1.40	0.30	○
055	66	K-11	1.38	1.30	0.18	○
056	59	N-8	1.60	1.20	0.32	-
057	58	N-9	1.04	0.94	0.30	○
058	65	N-13	1.24	0.84	0.14	○
059	07	O-4	1.24	1.00	0.21	-
060	06	O-4	2.06	1.46	0.23	○
061	08	O-5	2.12	1.46	0.26	○
062	11	O-5	1.50	1.14	0.20	○
063	12	O-6	1.44	1.36	0.34	○
064	10	O-6	1.64	-	0.32	○
065	29	O-6	1.36	1.14	0.26	○
066	30	O-6	1.74	1.20	0.22	○
067	13	O-6	1.40	1.30	0.22	-
068	14	O-6	1.40	1.14	0.18	○
069	24	O-6	1.62	1.44	0.26	○
070	34	O-6	1.86	1.14	0.28	○
071	25	O-6	1.34	-	0.36	○
072	16	O-6	2.74	2.04	0.48	○
073	15	O-6	1.60	1.06	0.28	○
074	32	O-6	1.24	0.90	0.34	○
075	31	O-7	1.76	1.00	0.36	○
076	60	O-7	1.78	1.36	0.30	○
077	27	O-7	1.42	1.38	0.34	○
078	28	O-7	1.77	1.50	0.32	○
079	26	O-7	2.08	1.74	0.32	○
080	33	N-7	-	0.98	0.20	-
081	62	O-7	-	2.16	0.26	○
082	61	O-8	1.42	1.16	0.16	○
083	77	O-8	-	-	0.20	○
084	75	O-8	1.76	0.90	0.24	-
085	55	O-8	1.88	1.20	0.22	○
086	54	O-9	1.70	1.46	0.36	○
087	56	O-8	1.60	1.40	0.28	○
088	63	O-11	-	0.80	0.30	○
089	05	P-4	1.84	1.36	0.24	-
090	02	P-4	1.88	1.20	0.34	-
091	04	P-4	1.57	1.18	0.18	-
092	03	P-4	1.68	1.32	0.18	-
093	23	P-6・P-7	1.36	0.94	0.22	○
094	20	P-5	1.62	1.34	0.18	○
095	09	O-6・P-6	1.42	1.16	0.21	○
096	17	P-6	1.54	1.40	0.26	○
097	19	P-6	1.44	0.94	0.18	○
098	32	P-6	1.40	1.12	0.26	-
099	21	P-6	1.46	1.22	0.28	-
100	57	P-8	1.54	1.48	0.45	○
101	76	P-8	-	1.34	0.26	○
102	68	P-9	1.58	1.20	0.28	-
103	51	P-9	1.22	0.94	0.32	○
104	49	P-10	1.50	1.14	0.30	○
105	48	P-10・Q-10	1.66	1.00	0.28	○
106	47	P-10・Q-10	1.94	1.72	0.34	○
107	64	P-11	1.24	1.20	0.22	-
108	71	Q-11	-	1.44	0.52	○
109	72	Q-11	-	1.22	0.50	-
110	46	Q-10	1.60	1.04	0.38	○
111	45	Q-10・R-10	1.36	1.20	0.28	-
112	22	O-6・P-6	1.46	0.94	0.27	○

12は磨消懸垂文が垂下する胴部破片である。8は底部破片である。地文は8が単節LR、9、10が単節RL、11、12が複節LRLである。

7は口縁が開き、胴部で括れる器形で、胴部を刺突文列の伴う隆帯で区画する。地文は無節Lをやや間隔を開けるように縦線施文する。

6は口縁部が屈曲して開き、胴部が強く括れて窄まる器形の無文土器である。

以上、中期終末の加曾利EⅢ式段階に比定されよう。

第72号土壙 (第95図・第104図)

1、2は早期の条痕文系土器である。1は角頭状の口唇部に貝殻背任痕文が施されており、表裏面に横位の条痕文を施文している。2は胴部破片で、表裏面とも斜位の条痕文が施文される。何れも、胎土に繊維を含む。

3～5は中期終末の加曾利E系土器群である。3は肥厚する口縁部で、太い沈線文で口縁部が区画される。4、5は胴部破片で磨消懸垂文が垂下する。

第73号土壙 (第95図・第105図)

1、2は早期の条痕文系土器である。明瞭な条痕文は施文されないが、擦痕状の整形で、胎土に繊維を含む。

3は中期の加曾利E系土器の胴部破片で、磨消懸垂文が垂下する。地文は単節LRである。

第74号土壙 (第95図・第105図)

1～3は早期の条痕文系土器の胴部破片である。1は表裏面に横位の条痕文を施文し、2、3は表面に縦位の条痕文を、裏面に擦痕状の整形を施している。何れも胎土に繊維を含んでいる。

第78号土壙 (第95図・第105図)

1は連弧文系土器の胴部破片で、括れる胴部が上下に刺突文を施す隆帯で区画され、胴下半には逆「U」字状磨消懸垂文が垂下する。地文は単節LRである。

4も連弧文系土器の胴部と思われ、沈線文間を無文にする2本沈線で胴部が区画される。地文は単節LRである。

2、3、5はキャリバー系土器の胴部破片で、磨消懸垂文が垂下する。3は蛇行沈線文も施文される。地文は、2が単節RL、3、5がLRである。

何れも、加曾利EⅢ式段階に比定されよう。

第77号土壙 (第95図・第105図)

1、2は早期の条痕文系土器の胴部破片である。表裏面に条痕文を施文し、胎土に繊維を含む。

第78号土壙 (第95図・第105図)

1は表裏面に条痕文が施文される条痕文土器で、胎土に少量の繊維を含む。

第79号土壙 (第96図・第105図)

1～3は中期末の土器群で、1は加曾利E系でキャリバー系土器の口縁部下端破片である。地文に複節LRLRを施文する。2は胴部破片で、3本沈線の磨消懸垂文が垂下する。3は無文土器で、浅鉢の胴部破片と思われる。以上、加曾利EⅢ式段階に比定されよう。

第81号土壙 (第96図・第105図)

1、2、4、5は加曾利E系土器で、キャリバー系土器の口縁部破片である。1は口唇部の無文部分が広く、凹線文で口縁部が区画され、2は緩やかな波状口縁を呈し、隆帯の渦巻文が施文されている。4は口縁部下端区画が沈線文で行われ、磨消懸垂文が垂下する。地文は単節LRである。

3は連弧文土器で、磨消連弧文から磨消懸垂文が垂下する構成をとる。地文は単節RLを縦線施文する。

第82号土壙 (第96図・第105図)

1は丸頭状の口縁部がやや外反する器形で、口唇外端部に刻みが施される。表面に横位の条痕を施すが、裏面は器面が荒れている。2～4も表面に条痕文、裏

面に擦痕状の整形を施しており、同一個体と思われる。何れも胎土に繊維を少量含む。

第83号土壟 (第96図・第105図)

1は先細りの丸頭状口縁が外反する器形を呈し、表裏面に横位の条痕文を施文する。2は表裏面とも擦痕状整形を施し、繊維を少量含む。

第85号土壟 (第96図・第106図)

1、2は中期の加曾利E系土器の口縁部破片で、1は降帯の渦巻文が施される。2は沈線文で口縁部が区画される無文の浅鉢である。

3、4は早期の条痕文系土器群で、表裏面とも擦痕状の整形が施される。胎土には繊維が少量含まれる。

第86号土壟 (第96図・第106図)

1は早期の条痕文系土器で、刻みの施される太い隆帯が垂下して文様帯を区画し、裏面に斜位の条痕を施文する。胎土は少量の繊維を含む。

第87号土壟 (第97図・第106図)

1～7は早期の条痕文系土器で、9～10は中期の土器群である。

1、2は波状口縁を呈し、太沈線文区画内に太沈線文を充填施文するものである。1は口縁部に沿って沈線文が施文され、波頂部下に梯子状沈線を垂下して文様帯を区画する。波頂部はつまみ出された様に、前後方向に肥厚する。2は口唇部直下から区画文が施され、口唇上には刻みが施される。3は平縁で、角頭状の口縁部が開く器形で、太沈線区画内に集合太沈線文が異方向に施文される。6は刻みの施される隆起線が垂下して文様帯を分割し、太沈線区画内に集合太沈線文を充填施文する。裏面は擦痕状整形が施される。7は胴部が屈曲する器形で、太沈線区画内に、集合太沈線文を施文する。裏面は擦痕状整形である。4は表裏面に擦痕状整形が施され、5は条痕整形である。何れも繊維を含む。野島式の新しい段階に比定されよう。

8は加曾利E系でキャリパー系土器の口縁部破片である。口縁部文様帯の下部が低隆帯で区画され、磨消懸垂文が垂下する。9は胴部破片で磨消懸垂文が施文される。地文は8が単節LR、9がLRである。10は条線文が施文される浅鉢の胴部破片である。

第88号土壟 (第97図・第106図)

1は波状口縁を呈し、角頭状の口縁部が開く器形で、口唇部に斜位の刻みが施される。口縁部は沈線文が幅狭に区画され、短沈線文が異方向に施文されている。表裏面とも、明瞭な条痕文が施文されている。2は粗い条痕文が施文され、3は太沈線文が異方向に施文されている。何れも、胎土に繊維を少量含む。

第89号土壟 (第97図・第106図)

1は早期の条痕文系土器で、太沈線文の区画と充填文が施文される。裏面には条痕文が施文され、胎土に繊維を含む。

2は中期の加曾利E系土器で、磨消懸垂文が垂下する。地文は単節LRを縦位施文する。

第94号土壟 (第97図・第106図)

1はやや波を打つが平縁で、先細りの角頭状口縁が開く器形である。表裏面とも条痕文を施文し、繊維を少量含む。

第95号土壟 (第97図・第106図)

1、2は早期の条痕文系土器で、表裏面に条痕を施文し、胎土に繊維を少量含む。

第96号土壟 (第97図・第106図)

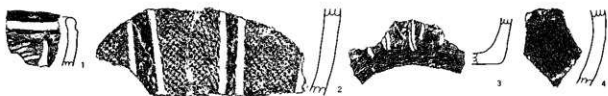
1～3は早期の条痕文系土器で、1、2は表裏面に条痕文を施文し、3は裏面に擦痕状整形を施す。何れも、胎土に繊維を含む。

第97号土壟 (第97図・第107図)

1は角頭状口縁が外反する器形で、口唇上に刻みは

第101图 B区縄文時代土埴出土遺物(I)

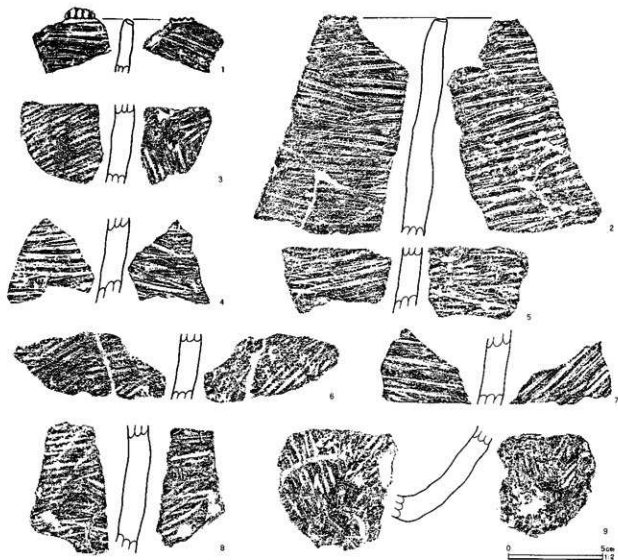
第53号土埴



第54号土埴

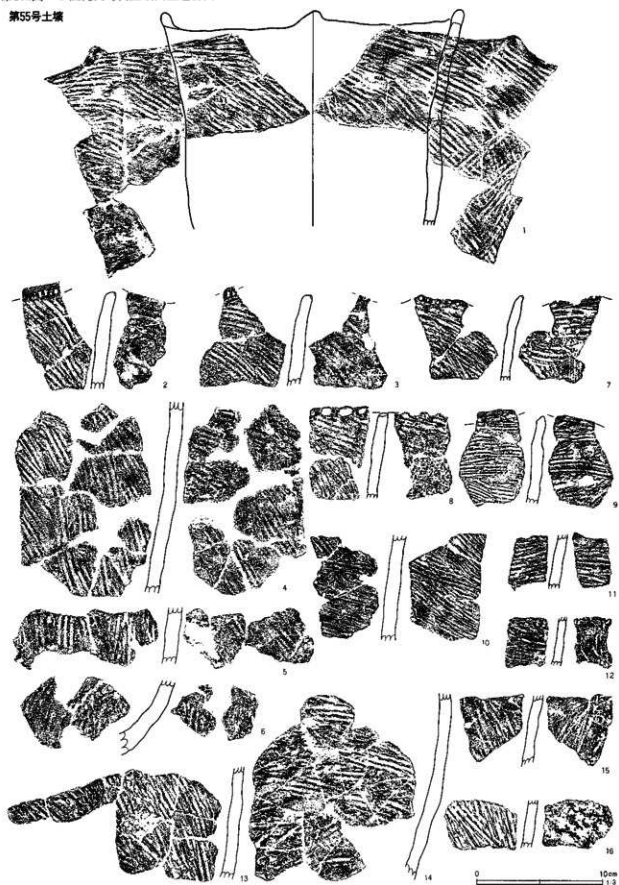


第58号土埴



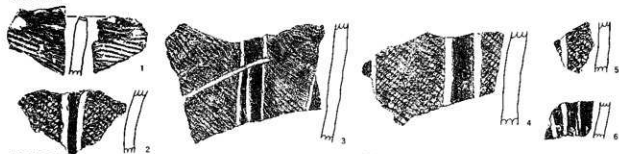
第102図 B区縄文時代土壇出土遺物(2)

第55号土壇



第103图 B区縄文時代土埴出土遺物(3)

第60号土埴



第61号土埴



第63号土埴



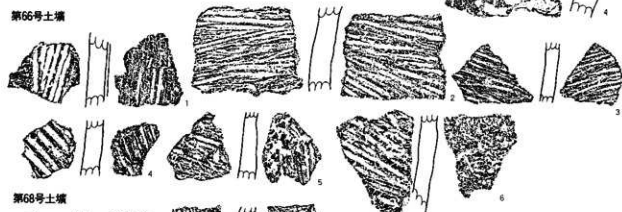
第64号土埴



第65号土埴



第66号土埴

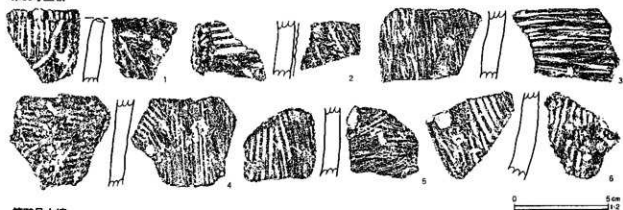


第68号土埴

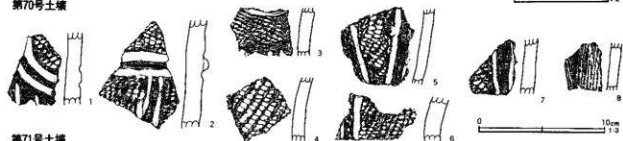


第104团 B区縄文時代土埴出土遺物(4)

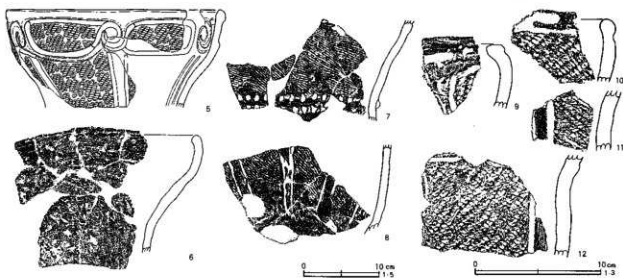
第69号土埴



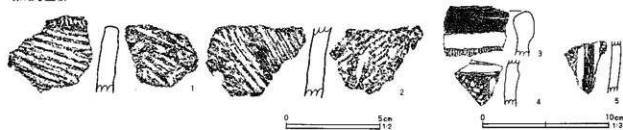
第70号土埴



第71号土埴



第72号土埴

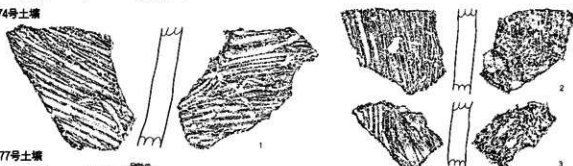


第105图 B区縄文時代土壇出土遺物(5)

第73号土壇



第74号土壇



第77号土壇

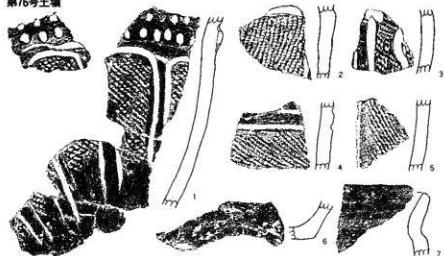


第78号土壇

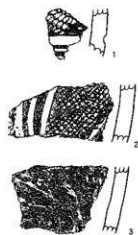


0 5cm
1/2

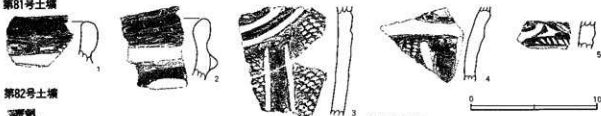
第76号土壇



第79号土壇



第81号土壇



第82号土壇



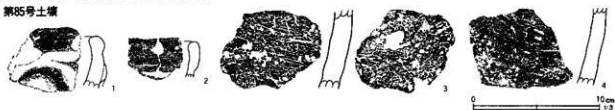
第83号土壇



0 5cm
1/2

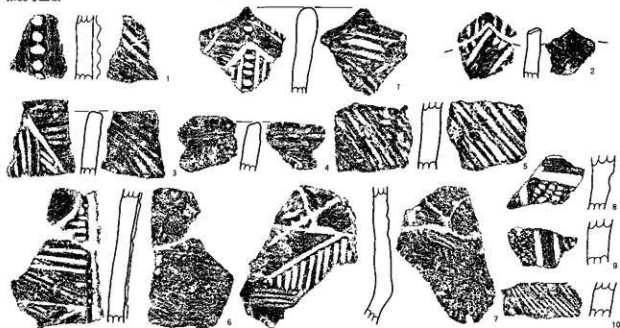
第106图 B区縄文時代土埴出土遺物(6)

第85号土埴

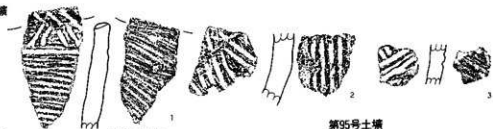


第86号土埴

第87号土埴



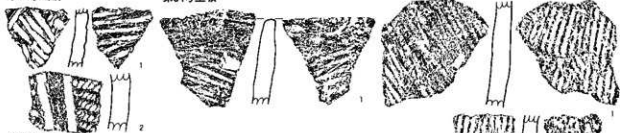
第88号土埴



第93号土埴

第94号土埴

第95号土埴



第96号土埴

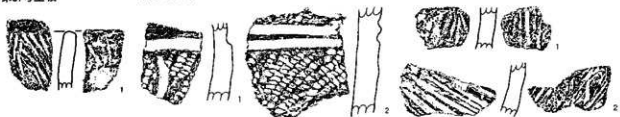


第107图 B区縄文時代土壇出土遺物(7)

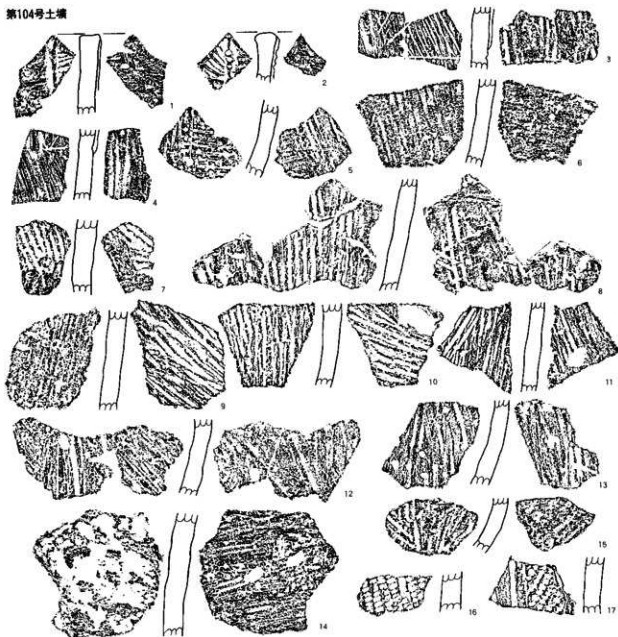
第97号土壇

第101号土壇

第103号土壇

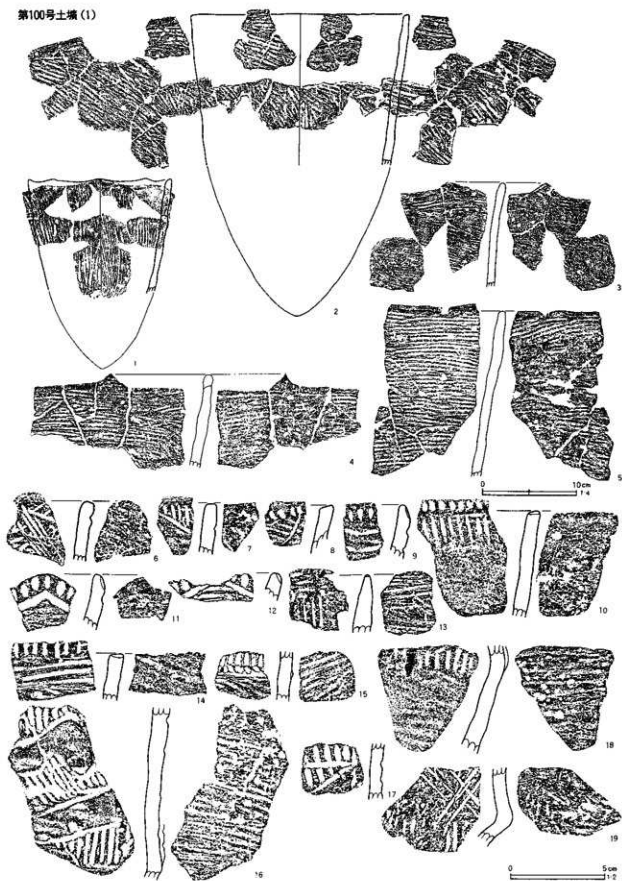


第104号土壇



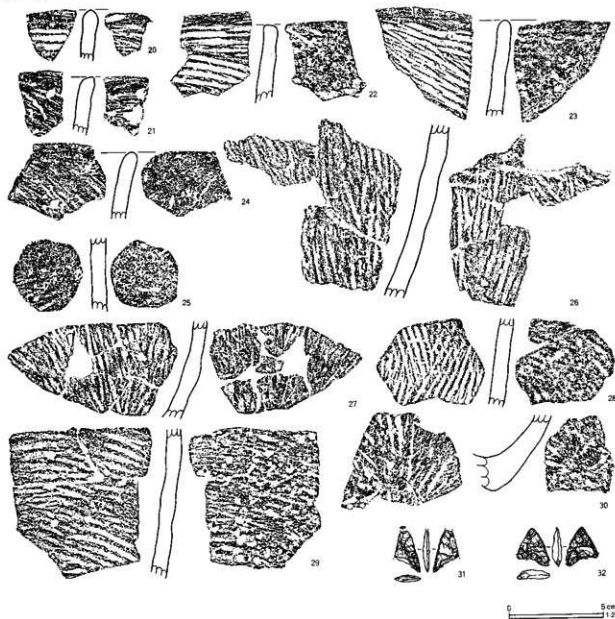
第108图 B区縄文時代土壙出土遺物(8)

第100号土壙(1)



第109図 B区縄文時代土坑出土遺物(9)

第100号土坑(2)



施されない。表裏面とも縦位の条痕が施され、胎土に繊維を含む。

第100号土坑(第99図・第108図・第109図)

全て早期の条痕文系土器群であるが、器形復元される大型破片が2個体出土した。

1は6単位の緩い波状口縁で、やや内削状の口縁部が開く器形を呈する。表裏面に縦位の条痕文を施文し、推定口径約15cm、現存高13cmを測る。2は角頭状の口

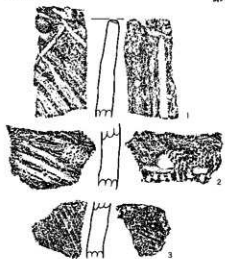
縁部が直線的に開く器形を呈するが、胴部が若干括れる。表裏面とも横位から縦位の条痕文が施文される。何れも、繊維を少量含む。

3、は山形の突起を持つ緩い波状口縁土器で、突起はつまみ出されて前後に肥厚する。4は3の同一個体と思われ、両者とも内削状の口唇部で、表裏面に横位の条痕文を施文する。

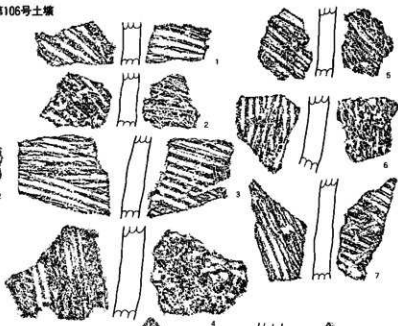
6～19は有文土器で、6、11、12は幅狭の口縁部が沈線で区画され、短沈線が施文される。11は口唇部の

第110岡 B区縄文時代土壌出土遺物(0)

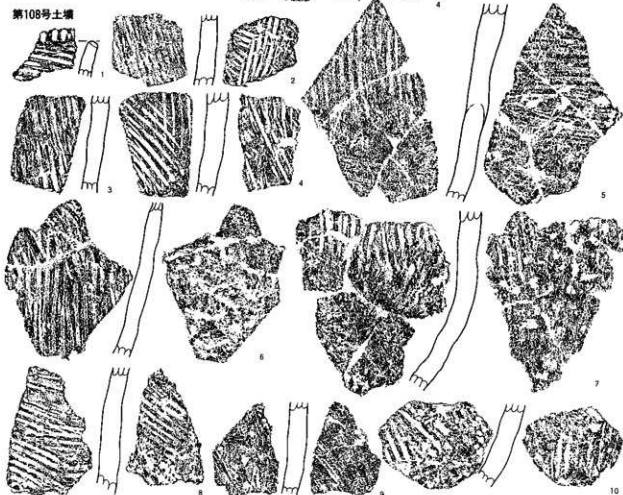
第105号土壌



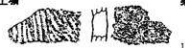
第106号土壌



第108号土壌



第110号土壌



第112号土壌



刻みが短沈線を兼ねている。他は口唇直下から区画が施され、7、8は細沈線区画内に太沈線を充填施文しており、10、17は太沈線文が使用されている。15は刻みの施される隆起線で区画され、集合太沈線文が施文される。

16、18、19は胴部の屈曲部分にあたり、16、18は屈曲部分まで隆帯が垂下して文様帯を分割している。16は区画沈線が曲線的に施文される部分があり、19は屈曲度合いが強い。

20~29は条痕文のみ施文される無文土器で、22~24は裏面擦痕状の整形である。30は底部破片で、乳房状を呈し、尖底の角度は鈍い。

何れも胎土に繊維を含み、野島式の新しい段階に比定されよう。

第101号土壺 (第98図・第107図)

1、2は中期の加曾利E系土器で、1は口縁部下端区画から蛇行懸垂文が垂下する。2は2本沈線で胴部を区画している。地文は両者とも単節RLを縦位施文している。

第103号土壺 (第98図・第107図)

1、2は早期の条痕文系土器で、表裏面に条痕文を施文し、胎土に繊維を含む。

第104号土壺 (第98図・第107図)

1~15は早期の条痕文系土器で、16、17は中期の土器群である。

1、2は波状口縁を呈し、波頂部が前後に肥厚する。波頂部から隆起線が垂下し、2は3個対の刻みが施される。区画内には集合沈線が施文されている。両者とも、裏面は擦痕状整形である。3、4は同一個体で、細沈線で胴部が分帯され、区画部分まで隆帯が垂下して胴部を分割する。条痕地文上に集合細沈線文を施文する。5~15は条痕文のみ施文される破片で、何れも繊維を含んでいる。

16、17は加曾利E系でキャリバー系土器の胴部破片

であり、17は磨消懸垂文が垂下する。地文は単節RLを縦位施文する。

第105号土壺 (第98図・第110図)

1は角頭状の口縁部が開く器形を呈し、口唇部に斜位の刻みを施している。表裏面とも粗い条痕文を施文し、繊維を少量含む。2は表裏面とも条痕文が施され、3は擦痕状整形である。何れも繊維を少量含む。

第106号土壺 (第98図・第110図)

1~7は早期の条痕文系土器で、表裏面に条痕文を施文する。条痕は粗いものが目立ち、4の裏面は擦痕状の整形である。何れも胎土に繊維を少量含む。

第108号土壺 (第98図・第110図)

1は角頭状の口縁部が外反する器形で、口唇部には丸棒状工具による刻みが施される。2~10は胴部破片で、2~5、8は明瞭な条痕文が表裏面に施文され、6、7は裏面に擦痕状整形である。9は表裏面とも擦痕状整形で、10は底部付近の破片である。何れも胎土に繊維を少量含む。

第110号土壺 (第100図・第110図)

1は早期の条痕文系土器で、表面に縦位の条痕文を施文し、裏面は擦痕状の整形を施している。胎土に繊維を少量含む。

第112号土壺 (第100図・第110図)

1は早期の条痕文系土器であるが、表裏面とも粗い擦痕状の整形を施している。胎土に繊維を少量含む。

(5) グリッド出土遺物

他の時代の遺構や遺構確認時に出土した遺物をグリッド出土遺物とした。石器から説明を加えたい(第111図)。

1は縦長剣片で、旧石器時代のもと思われる。石材はチャートで、長さ6.1cm、幅1.9cm、厚さ0.7cm、重

さ10.5gある。

2は尖頭器で、縄文時代草創期のもと思われる。

石材は黒色頁岩で、長さ5.8cm、幅1.7cm、厚さ0.7cm、重さ10.4gである。風化が著しく、細かな剝離までは判らない。

3は石鏃である。無茎で、基部には袈りが入る。石材は黒曜石で、長さ2.0cm、幅1.4cm、厚さ0.4cm、重さ0.79gである。

4は石鏃で、風化している。無茎で、基部には袈りが入る。石材は黒曜石で、長さ1.9cm、幅1.6cm、厚さ0.5cm、重さ1.08gである。

5は有茎の石鏃である。石材はチャートで、長さ3.8cm、幅1.5cm、厚さ0.4cm、重さ2.60gである。

6はスクレーパーである。石材はチャートで、長さ3.4cm、幅4.4cm、厚さ1.2cm、重さ16.14gである。

7はスクレーパーで、一部欠損する。石材はガラス質安山岩で、長さ4.7cm、幅6.2cm、厚さ1.5cm、重さ37.76gである。

8は剝片をスクレーパーとして使用したものである。石材はホルンフェルスで、長さ5.8cm、幅6.8cm、厚さ2.0cm、重さ72.5gである。

9は礫石で、一部欠損する。被熱のため赤色化している。磨面は表が2面、右側面が1面、裏が1面ある。石材は閃緑岩で、幅5.3cm、厚さ3.7cm、重さ179.7gである。

10は打製石斧である。平坦な装着側に自然面が残りに、剝離調整は表面側のみ行われている。刃部に最大幅があり、基部と刃部の間に袈りは入らない。厚みのある石器である。石材はホルンフェルスで、長さ10.1cm、幅6.3cm、厚さ3.4cm、重さ175.92gである。

11は剝片をスクレーパーとして使用したものである。表面に大きく一次剝離面、裏面に自然面が残る。石材はホルンフェルスで、長さ7.2cm、幅9.1cm、厚さ1.9cm、重さ130.08gである。

12～15は打製石斧である。12・13は両側縁に大きく袈りの入る分銅形のものである。12は表面・裏面ともに自然面は残らない。石材は結晶片岩で、長さ11.8

cm、幅6.6cm、厚さ1.9cm、重さ156.30gである。13は裏面に大きく自然面が残る。石材はホルンフェルスで、長さ12.1cm、幅8.3cm、厚さ2.1cm、重さ227.21gである。14は刃部を欠損するが壊形になるものと思われる。表面に自然面が大きく残る。石材はホルンフェルスで、長さ7.1cm、幅6.1cm、厚さ1.6cm、重さ69.47gである。15は基部を欠損するが大型である。裏面には所々自然面が残りに、側縁に袈りが入る。石材はホルンフェルスで、長さ16.3cm、幅10.2cm、厚さ3.6cm、重さ669.10gである。

グリッドからは多量の早期の土器が出土しており、ここにあげた石器の中で10・11・13はそれらに伴う可能性が高いものと思われる。

土器は早期と中期の土器群が主体的に出土しており、それぞれを群に分けて、説明を加えていく。

第1群土器 (第112図～第10図)

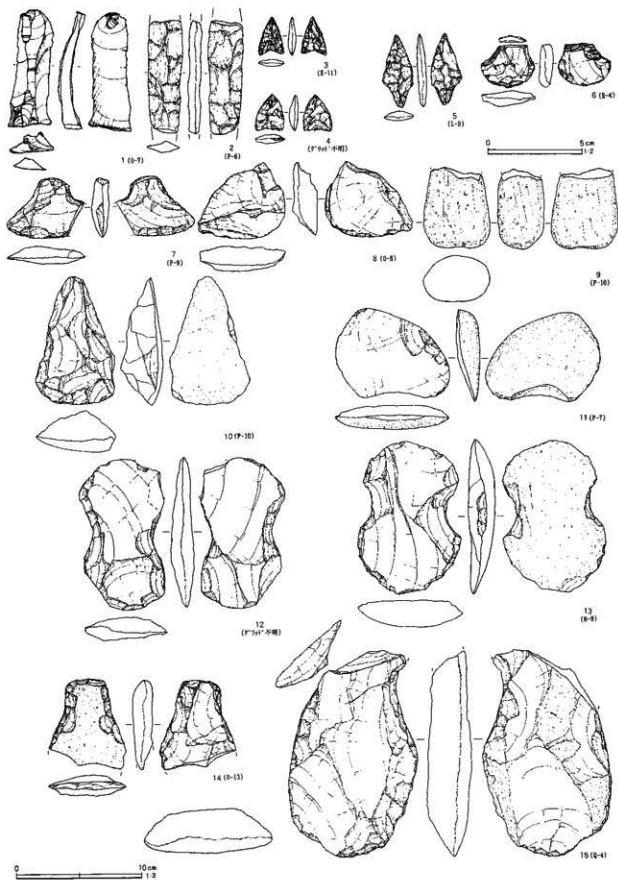
早期の条痕文系土器群を一括する。器面に条痕文を施し、胎土に繊維を含むのを特徴とする。

1～14は細隆起線で区画し、集合沈線文を充填施文するものである。1、4は口縁部に若干無文部を設けて細隆起線区画を施すもので、1の口唇部には内外両端部に細かい刻みが施される。2は口唇直下から細隆起線を垂下し、5、6は集合沈線文を施文している。3、9は波状口縁で、波頂部から細隆起線が垂下する。区画する細隆起線には10、13の様に刻みが施されるものがあり、充填施文される沈線文は太いものが多い。

15～20は刻みの施される太い隆帯が、波頂部から垂下するものである。刻みは全体に施されるものと、19の様に部分的なものがある。16は波頂部下が平縁状に区画され、何本かの隆帯が垂下し、隆帯上には等間隔に円形の刺突文が施され、鶴が島台式の構成に近くなる。

21～32は胴部の屈曲部分にあたる破片で、隆帯及び細隆起線の区画内に集合沈線を充填施文するものである。21～23、27は同一個体と思われ、刻みの施される太い隆帯が垂下して文様帯を分割し、さらに細隆起線

第111図 縄文時代グリッド出土石器



で幾何学的なモチーフを区画する。細線起線には3個対の刻みが施され、21のように部分的に曲線状となり鶴が島台式に近い構成となる。条痕文は表裏面とも明瞭に施されており、文様効果をもたらしている。屈曲の度合いから、文様帯がI帯とII帯構成があると思われる。

33~38は口縁部に、沈線文で幅狭な文様帯を区画し、短沈線文を施文するものである。33は平行沈線文で区画し、他は単沈線で区画する。35は押印状の短沈線が施文される。36~38は同一個体で、波状口縁を呈するが、口唇外端部の刻みが充塞沈線文を兼ねている。

30~80は沈線文区画内に集合沈線文を施文するもので、区画にはバラエティーが認められる。区画線が曲線的なものはあまりなく、40、42、78~80は区画線の一部が曲線化するが、77は円形のモチーフが施文されている。沈線文が施文されるものに関しては、区画線状に刺突や刻みのアクセントは見られない。

55~57は山形の波状口縁で、波頂部がつままれて前後に肥厚しており、沈線文が垂下する。

区画を施す沈線文は細沈線文がほとんどなく、やや太目の沈線文が使用されている。特に、66~76は太沈線文を施文しているものといえる。

81~87は胴部の屈曲部の破片で、81は細沈線区画内に集合太沈線文を充塞施文する。85~87は格子目文を施文する。

88~94は口唇部に貝殻背圧痕が施文されるもので、口唇部は89、92は内削状を呈するが、大半は角頭状を呈する。92、94は波状口縁を呈し、93は貝殻背圧痕が強く施文され、小波状口縁を呈している。

95~123は口唇部に刻みを施すもので、95、101、103、108、109の様に口唇部に対して斜位に施すものと、98、100、102、107の様に直交して施文されるものがある。また、99、110、111の様に方向を変えて施文するものもある。114~116は上から深く押圧するもので、口縁部が小波状を呈する程である。117~123は内削状の口唇部の外端部に細かな刻みを入れるもので、特徴的な手法である。

124~162は口唇部に刻みの施されない土器群で、124~127は先細りする丸頭状口縁部が開く器形で、128は口唇部が丸頭状を呈する。129~137は口唇部が角頭状を呈し、138~143は内削状を呈し、144~159はおおよそ丸頭状を呈するものである。160~162は波状口縁の波頂部がつまみ出されて前後方向に肥厚するもので、波底部分では内削状の口唇部を呈する。

163~225は胴部破片で、163~216は表裏面に明瞭な条痕を施文するものである。条痕文には163~170の様に

細かいものもあり、粗く施文されるものもある。217~220は表面に条痕を施文し、裏面に擦痕状の整形を施すもので、221~225は表裏面とも擦痕状の整形が施されている。

227~233は底部破片で、230~232は平底である。他は乳房状の尖底で、その角度は鈍角である。

以上、条痕文系土器群は大半が野鳥式に比定されるが、新旧の要素を持ち合わせることから、最古段階は見られないにしても、古段階と新段階の土器群が含まれていると言える。

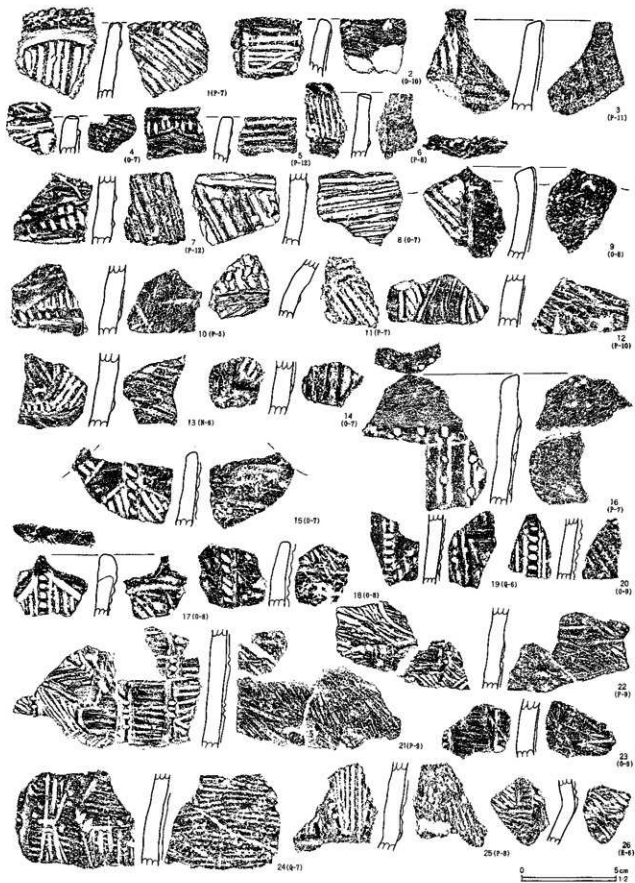
第II群土器（第122図~第123図）

中期及びそれ以降の土器群を一括する。

1~50は中期終末の加曾利EⅢ式段階の土器群である。1~25は加曾利E系のキャリバー系土器である。1~11は口縁部文様帯部分で、渦巻文と区画文から構成されるがモチーフは集約化されている。9~11は口縁部文様帯下端区画の破片で、胴部に磨消懸垂文が垂下する。12~25は磨消懸垂文が垂下する胴部破片で、大半は2本沈線の磨消であるが、21は3本沈線の磨消懸垂文である。24は地文に条線文を施文している。

26~28は連弧文土器で、26は円形の刺突文を伴う2本沈線で口縁部が区画される。28は胴下半に逆「U」字状磨消懸垂文が垂下する。29~35は口縁部文様帯を持たないキャリバー形土器で、胴部に区画線があれば連弧文系土器となる。29~31は2本沈線文で口縁部が区画され、32~34は沈線文と円形刺突文で区画され

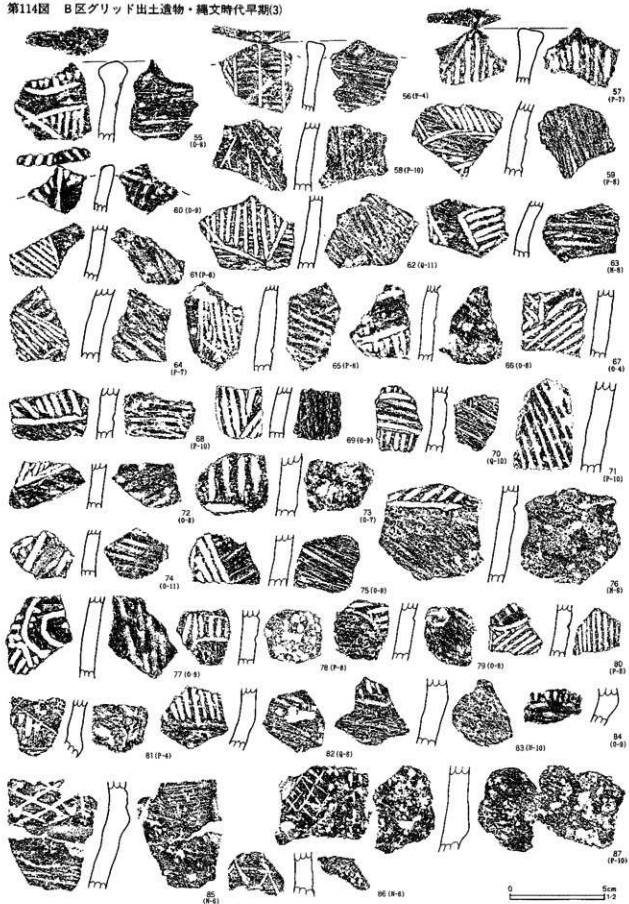
第112図 B区グリッド出土遺物・縄文時代早期(1)



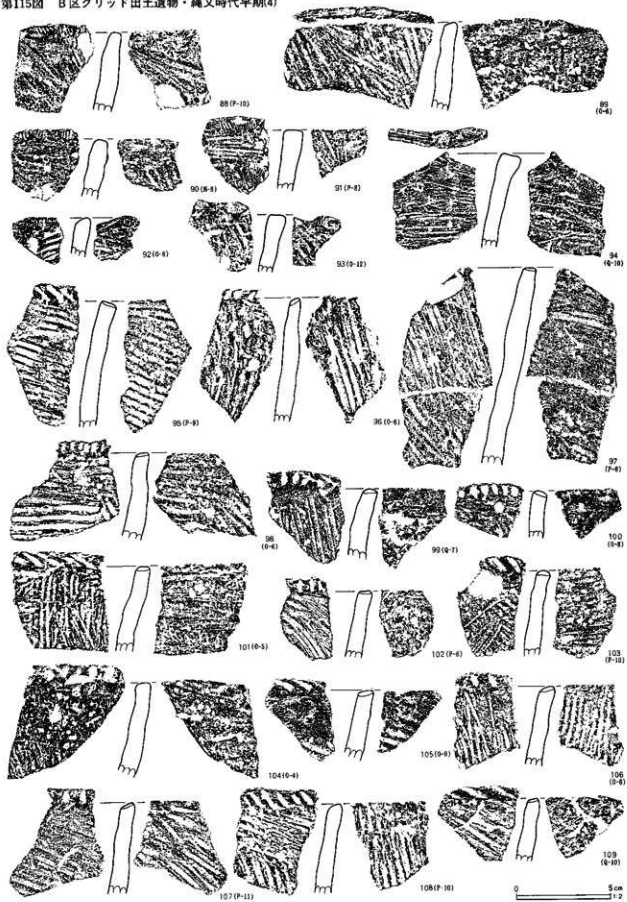
第113図 B区グリッド出土遺物・縄文時代早期(2)



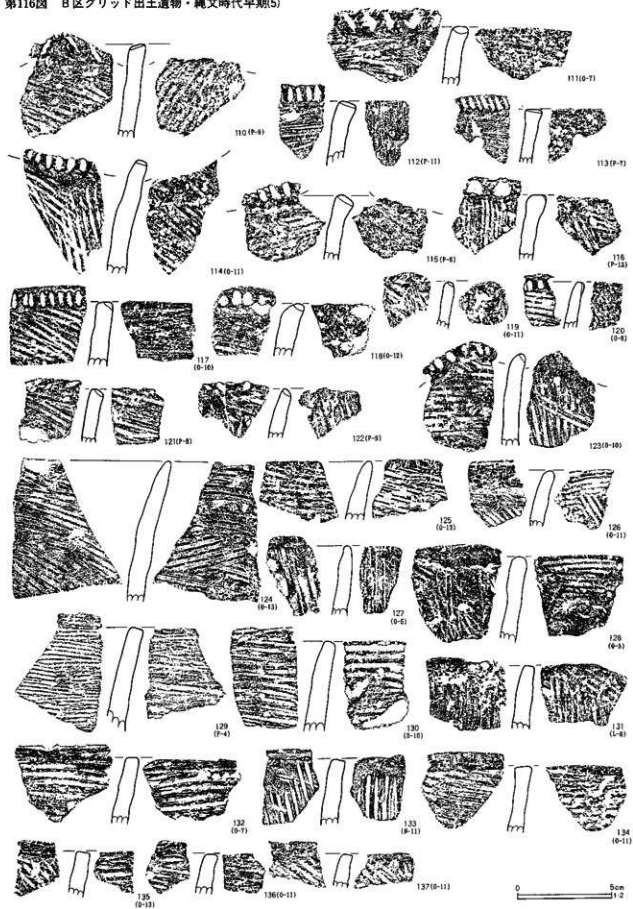
第114図 B区グリッド出土遺物・縄文時代早期(3)



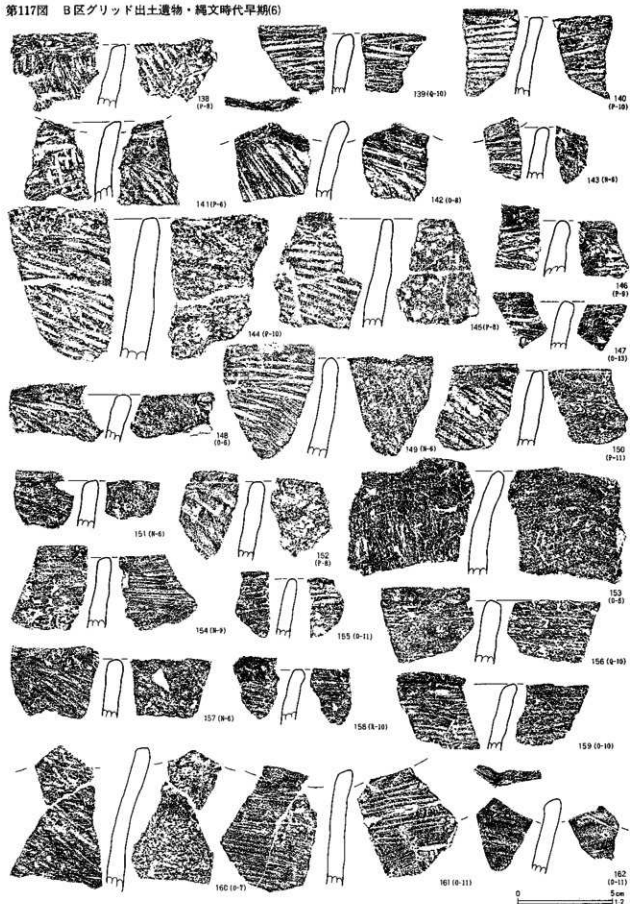
第115図 B区グリッド出土遺物・縄文時代早期(4)



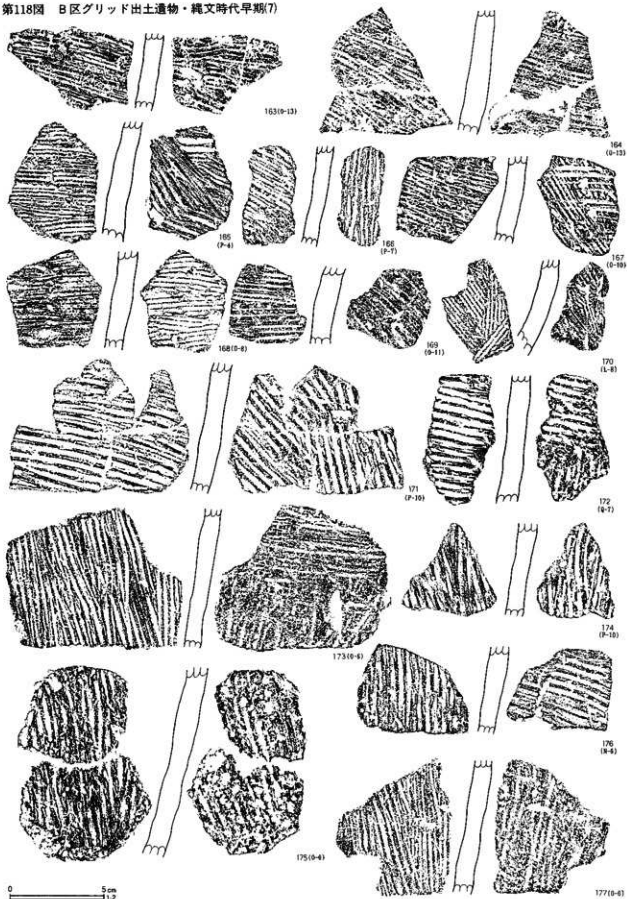
第116図 B区グリッド出土遺物・縄文時代早期(5)



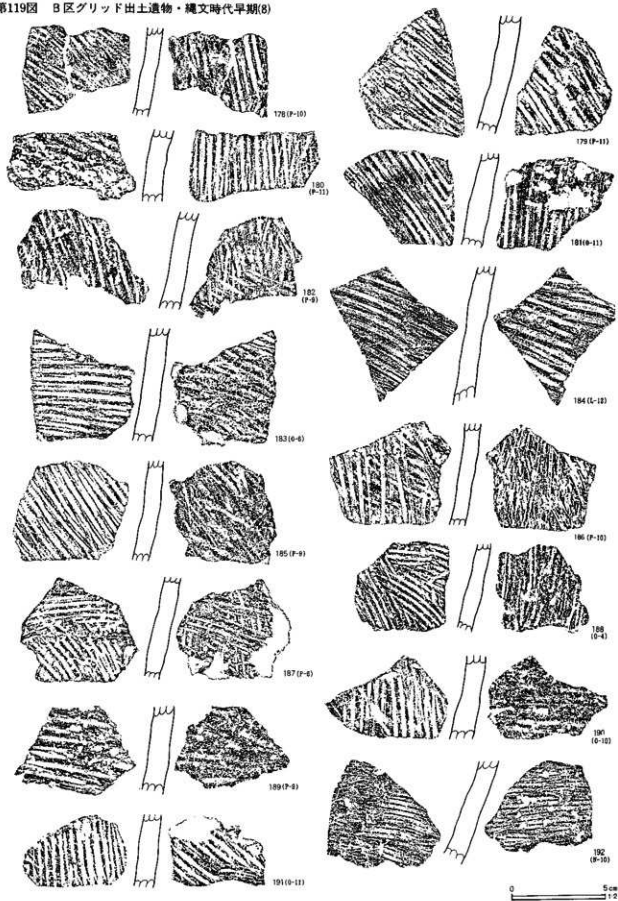
第117図 B区グリッド出土遺物・縄文時代早期(6)



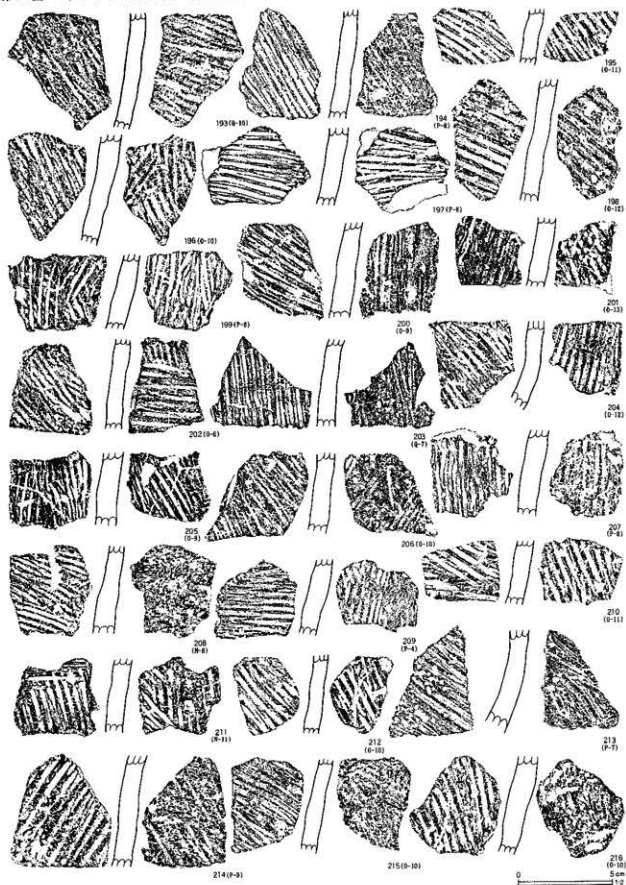
第118図 B区グリッド出土遺物・縄文時代早期(7)



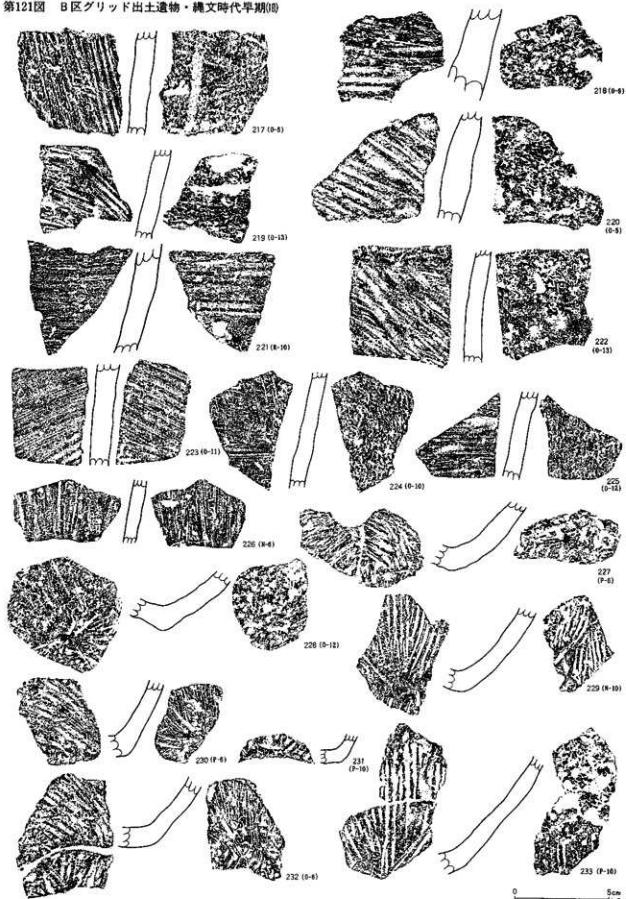
第119図 B区グリッド出土遺物・縄文時代早期(8)



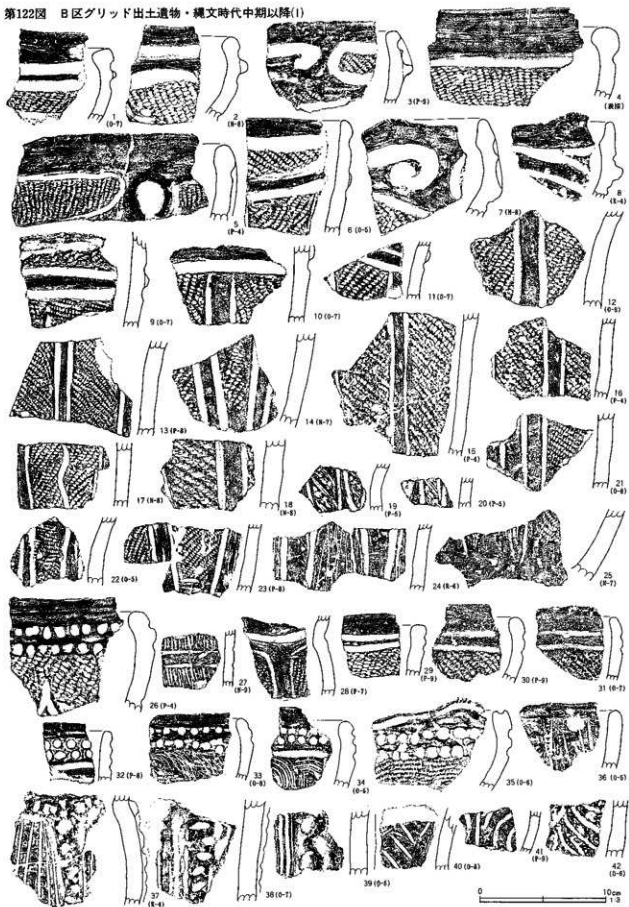
第120図 B区グリッド出土遺物・縄文時代早期(9)



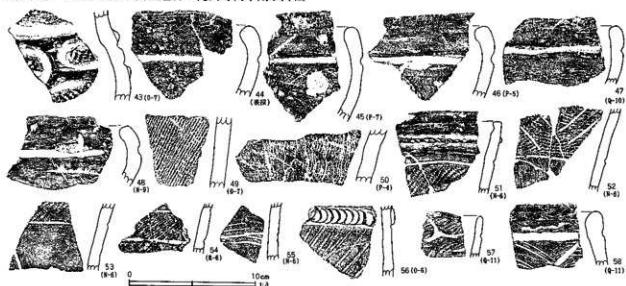
第121図 B区グリッド出土遺物・縄文時代早期(II)



第122図 B区グリッド出土遺物・縄文時代中期以降(1)



第123図 B区グリッド出土遺物・縄文時代中期以降(2)



る。35は2列の円形刺突文列で波状の口縁部が区画され、口唇上に溝状に沈線文が巡らされている。

37～42は曾利系の土器群で、37～39は口縁部が開き、胴部に括れる器形の深鉢で、押圧の施された隆帯を区画及び懸垂文に使用し、地文に条線文を施文するものである。40～42は綾杉状の沈線文を施文する。

43は両耳壺系の胴部破片で、肩部の文様帯に円形区画と楕円区画のモチーフが施文される。

44～48は口縁部が沈線文で区画される無文の浅鉢で、口縁部はやや肥厚するものが多い。49は燃糸L

文、50は蛇行条線文が施される浅鉢の胴部破片と思われる。

51～55は後期の堀之内Ⅱ式土器である。口縁部が直線的に開く深鉢形土器で、隆帯で口縁部を区画し、胴部に三角形を基本にした磨消縄文の大柄モチーフが描かれている。

56は後期安行系土器の粗製土器で、57、58は晩期安行系土器である。57はやや開く口縁部に三叉文を施文する安行3a式土器である。

3. 古墳時代初頭の遺構と遺物

(1) 住居跡

第30号住居跡 (第124図・第125図)

M-8・N-8グリッドに位置する。第29号住居跡よりも新しく、第10号溝よりも古い。

平面形態は方形を呈し、長辺は3.6m、短辺は3.3m、深さは0.20m、主軸はN-57-Eである。床面は平坦で、硬化していた。

住居の中央より北西に炉があり、長径は58cmである。柱穴は検出されなかった。

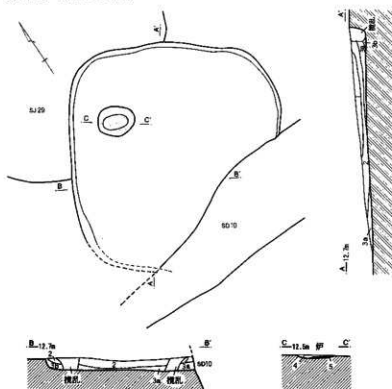
出土遺物は十数点と少なかったが、炉の周辺からほ

ぼ完形の台付壺が2個体出土した。

1・2とも小型の台付壺である。「く」の字状口縁部で、胴部上位に最大径を持つ。口縁部にキザミがあり、胴部にはハケ目は残らない。口縁部内面は斜めのナデ、口縁部外面は縦位のナデが施される。胴部外面は上半部が横位のナデ、下半部は縦位のヘラ削りが加えられる。全体に煤が付着しており、被熱により器表面が剝離した部分もある。

1は口径は14.1cm、脚台径は9.1cm、器高は20.4cmで

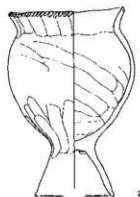
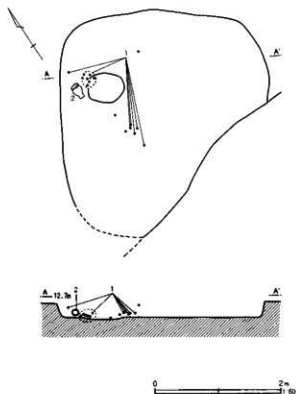
第124図 第30号住居跡



- 1 層 Hue7.5YR3/4 暗褐色 しまりあり
0-L粒子を少量、0-A7°097を中量含む
- 2 層 Hue7.5YR3/2 黒褐色 しまりあり
0-L粒子を多量、0-A7°097を少量、
焼土粒子を少量含む
- 3a 層 Hue7.5YR3/3 暗褐色 しまりあり
0-L粒子を中量、0-A7°097を多量、
0-S°粒子を少量含む
- 3b 層 Hue7.5YR3/3 暗褐色 比較的やわらかい
0-A7°097を多量に含む
- 4 層 Hue5YR3/4 暗赤褐色 0-S°粒子を少量、
焼土粒子を多量に含む
- 5 層 Hue5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒子を多量、
焼土7°097を中量、焼けた0-Lを少量含む

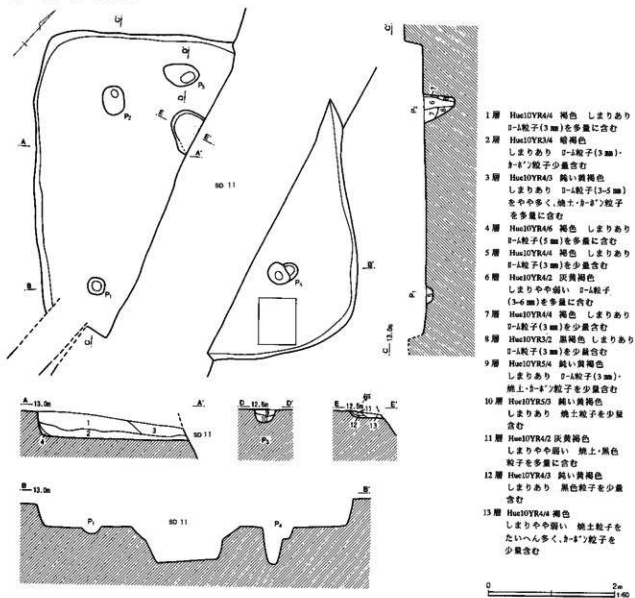
0 2m 1:60

第125図 第30号住居跡遺物出土状態

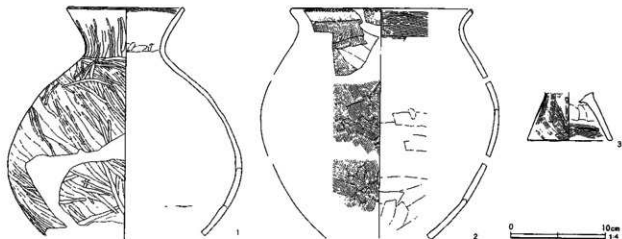


0 10cm 1:4

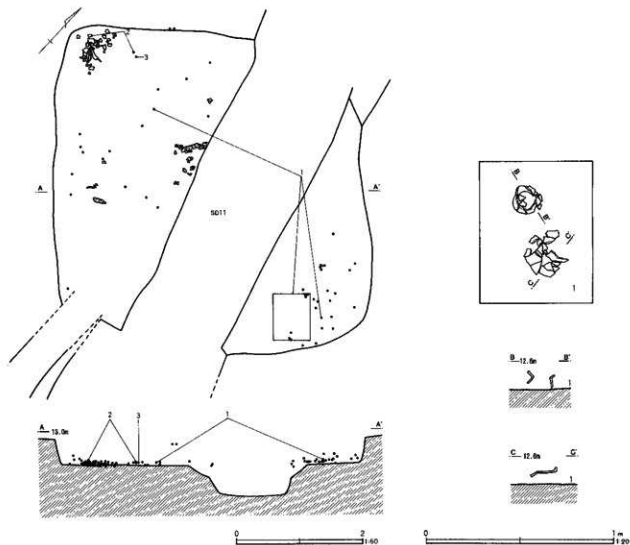
第126図 第31号住居跡



第127図 第31号住居跡出土土物



第128図 第31号住居跡遺物分布図



ある。色調は褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒・角閃石が少量含まれる。

2は口径は12.3cm、脚台径は8.4cm、器高は19.3cmである。色調は褐色で、胎土には褐色粒子が多く、砂粒が少量含まれる。

第31号住居跡 (第126図～第128図)

N-10・O-10グリッドに位置する。第11号溝よりも古い。

平面形態は方形を呈し、長辺は5.0m、深さは0.4で、主軸はN-42°-Wである。床面は平坦で、硬化していた。

住居の中央より北寄りに炉が検出されたが、第11号

溝により半分は破壊されていた。炉の底面はよく焼けていた。

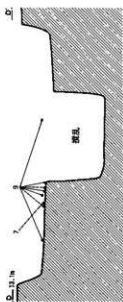
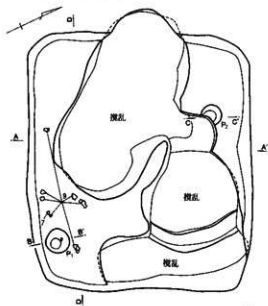
柱穴は4本検出された。柱穴の深さはP1:10cm、P2:50cm、P3:20cm、P4:60cmである。

住居中央の床面近くから炭化材がまとまって出土した。また、覆土の3層は焼土とカーボン粒子を多量に含んでいた。

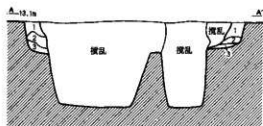
出土遺物は約50点あり、床面近くから多く出土した。

1は中型の甕である。単口縁で、口縁部はほぼ直線的に開く。胴部下半に最大径を持ち、下膨れの器形になるものと思われる。外面は丁寧なミガキ調整で、わずかにハケ目が残る。内面は器表面の剝離が著しい。

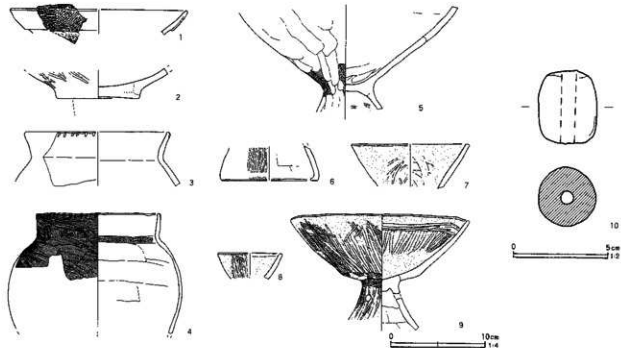
第129図 第32号住居跡



- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり
0-1粒子を少量、焼土粒子を少量、
黒色粒子を少量含む
- 2層 Hue10YR3/0 暗褐色 しまりあり
0-1粒子を少量、0-17°D₉₉を少量、
焼土粒子を中量、0-2°粒子を少量含む
- 3層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり
0-17°D₉₉を多量、焼土粒子を微量含む
- 4層 Hue10YR2/0 黒褐色 しまりあり
0-1粒子を少量、焼土粒子を少量、
0-4°粒子を少量含む
- 5層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 しまりあり
0-1粒子を中量、0-17°D₉₉を中量含む
- 6層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり
0-1粒子を少量、0-17°D₉₉を少量、
黒色粒子を微量含む
- 7層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり
0-1粒子を中量、0-17°D₉₉を多量に含む
- 8層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり
0-1粒子を少量含む



第130図 第32号住居跡出土遺物



口径は12.1cmで、胴部最大径は24.7cmである。色調は褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が多く含まれる。口縁部は完存するが、胴部は約50%の残存である。

2は台付甕である。「く」の字状口縁部で、胴部中に最大径を持つ。口縁部にキザミがあり、胴部はハケ目調整である。口径は19.0cmで、胴部最大径は25.1cmである。色調は褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が少量含まれる。口縁部は50%、胴部は20%の残存である。

3は台付甕の台部である。外面は縦位と斜めのハケ目調整される。色調は褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が少量含まれる。胴部との接合部分で割かれた破片で、25%の残存である。

第32号住居跡 (第129図・第130図)

N-11・O-11グリッドに位置する。近代の地下室によって住居の大半を破壊されていた。

平面形態は方形を呈し、長辺は4.1m、短辺3.6m、深さは0.5mで、炉跡は検出されなかったので主軸は不明である。床面は平坦で、硬化していた。

柱穴は2本検出された。柱穴の深さはP1:24cm、P2:14cmである。

遺物は約30点と少なかつたが、床面近くから出土したものが多かった。地下室の覆土から出土した破片も本住居跡に伴うものとして報告した。

1は複合口縁の壺である。口縁部の折り返し部にはハケ目調整後、単筋LRの縄文が施文される。口縁部の小破片で、推定口径18.5cmになる。色調は褐色で、胎土には褐色粒子・小石が含まれる。

2は壺の底部である。胴部外面はミガキ調整され、底部外面はヘラ削りのままである。70%の残存で、底径は8.7cmである。色調は褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が少量含まれる。

3～6は台付甕である。3は「く」の字状口縁部で、口縁部にキザミがある。胴部は剥離が著しく、調整は観察できない。15%の残存で、推定口径は15cmである。色調は明褐色で、胎土には砂粒・小石が多量に含

まれる。4は直立する口縁部で、キザミがある。口縁部から胴部はハケ目調整で、ハケ目は細かい。約70%残存し、口径は13cmである。色調は褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が多量に含まれる。5は胴部下半から台部にかけての破片で、約30%残存する。胴部下半はハケ目調整後、薄く粘土を被せながらヘラナデ調整される。色調は褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が多量に含まれる。6は台部の破片で、約20%残存する。外面は縦位のハケ目調整される。色調は褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が多量に含まれる。

7は中型の壺である。口縁部は直線的に開く。外面は粗いミガキ調整で、内外面ともに赤彩される。約20%の残存で、推定口径は12.2cmである。色調は暗褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が多量に含まれる。

8は小型の壺である。口縁部はやや丸味をもって直線的に開く。外面はミガキ調整で、内外面ともに赤彩される。約25%の残存で、推定口径は6.6cmである。色調は暗褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が少量含まれる。

9は高坏である。脚部下半を欠損するが、残りの部分はほぼ完存する。坏部下端に明瞭な段を持ち、脚部に透孔が3か所ある。内外面ともハケ目調整後、ミガキ調整を加えている。赤彩の痕跡はわずかである。口径は19cmである。色調は褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が多量に含まれる。

10は完形の円柱状で土製品、土鍾と思われる。長さ3.8cm、厚さ3.1cmで、重さは38.87gである。

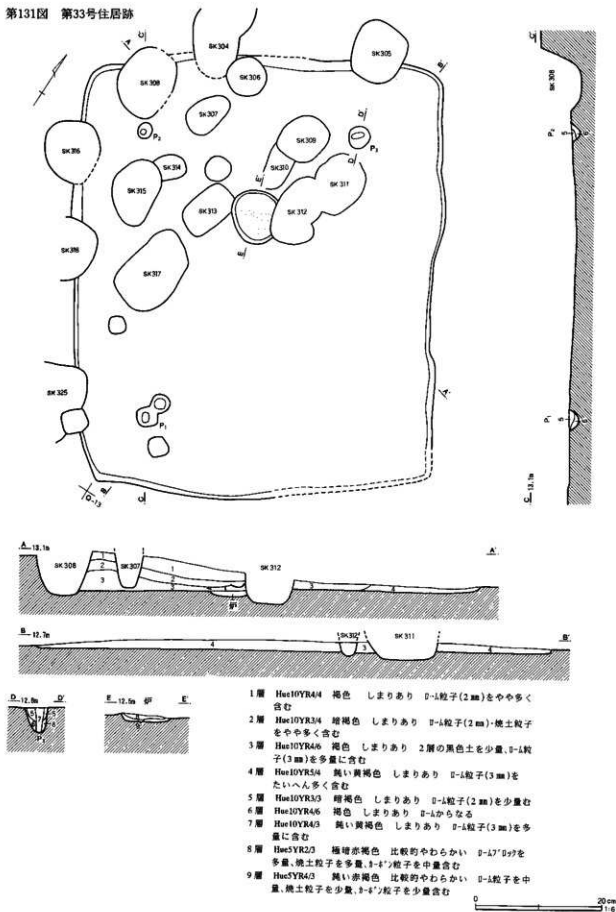
第33号住居跡 (第131図・第132図)

P-12・P-13グリッドに位置する。中世の土壌墓群と重複しており、第304号土壌～第318号土壌・第325号土壌よりも古い。また、住居の南東部分には木の根があり、壁は破壊されていた。

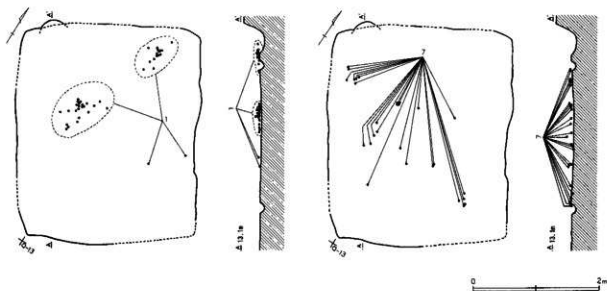
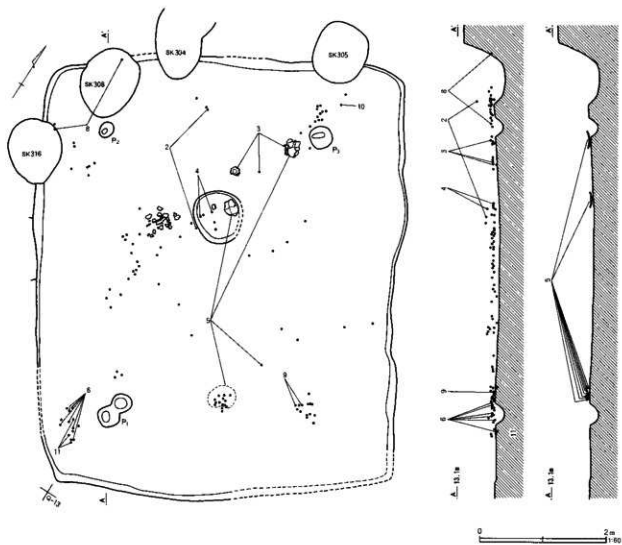
平面形態は長方形を呈する。長辺は7m、短辺は5.7m、深さは0.6mで、主軸はN-30°-Wである。

住居の中央よりやや北寄りに炉があり、長径は82cmである。炉の底面は良く焼けていた。

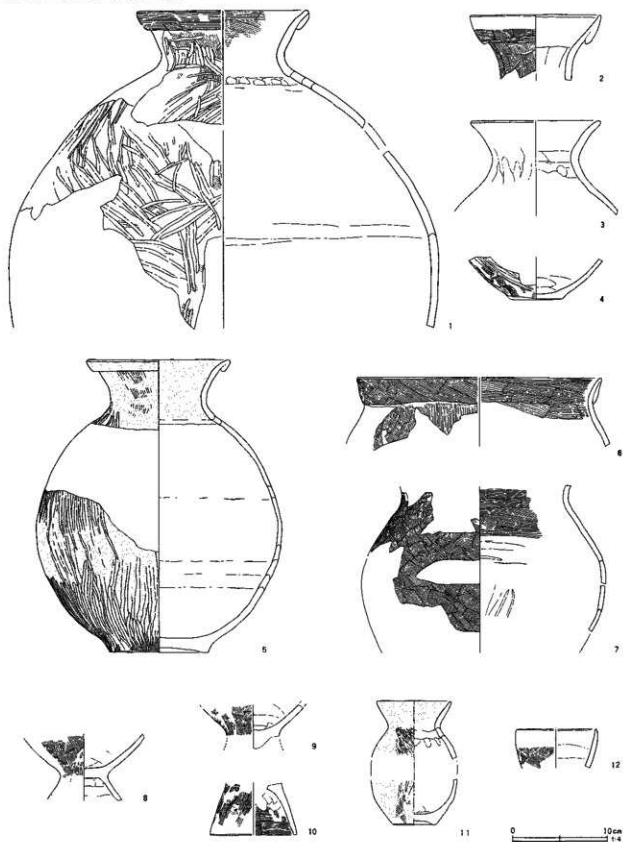
第131図 第33号住居跡



第132图 第33号住居跡遺物分布图



第133图 第33号住居跡出土遺物



柱穴は3本検出された。柱穴の深さはP1:14cm、P2:14cm、P3:40cmである。

遺物は約200点出土し、床面近くから多く出土した。

1～5は壺である。1は大型で、複合口縁である。外面はハケ目調整後、ミガキ調整される。口縁部は完存するが、胴部は約30%の残存である。色調は褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が多量に含まれる。2は中型で、複合口縁である。外面はハケ目調整される。60%の残存で、口径は13.6cmである。色調は褐色で、胎土には砂粒がわずかに含まれる。3は中型で、単口縁である。器表面の剝離が著しいが、ナデ調整と思われる。ほぼ完存で、口径は13.5cmである。色調は褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が少量含まれる。4は底部破片で、60%残存する。底径は5.5cmである。ハケ目調整後、ミガキ調整が加えられる。色調は明褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が多量に含まれる。5は中型で、複合口縁である。胴部中に最大径を持つ。外面はハケ目調整後、ミガキ調整される。器表面の剝離が著しく、ハケ目が露呈している部分もある。口縁部から胴部外面は赤彩される。口縁部は70%、胴部は70%残存する。口径は7.6cm、底径は5.3cm、器高は15.4cmである。色調は褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が多量に含まれる。

6～10は台付壺である。6は複合口縁部で、ハケ目調整される。30%の残存で、推定口径は25.6cmである。色調は褐色で、胎土には褐色粒子が少量含まれる。7は口縁部を欠損し、胴部は50%残存する。外面はハケ目調整される。色調は褐色で、胎土には褐色粒子と砂粒が多量に含まれる。8・9は胴部下半から台部にかけての破片で、約30%残存する。外面はハケ目調整される。色調は褐色で、胎土には褐色粒子と砂粒が多量に含まれる。10は台部の破片で、25%残存する。外面は粗いハケ目調整後、細かいハケ目調整される。色調は褐色で、胎土には褐色粒子と砂粒が少量含まれる。

11は単口縁の小型壺である。外面はハケ目調整後ミガキ調整され、赤彩される。口縁部破片と胴部破片との接点はない。約50%残存し、底部外面は剝離してい

る。口径は8cm、底径は4.2cm、器高は13cmである。色調は褐色で、胎土には褐色粒子と砂粒が少量含まれる。

12は単口縁の小型壺である。斜めのハケ目調整後口縁部上半は横ナデされる。約25%残存し、推定口径は8.3cmである。色調は褐色で、胎土には褐色粒子と砂粒が少量含まれる。

第34号住居跡 (第134図・第135図)

O-13・P-13・P-14グリッドに位置する。

平面形態は方形を呈し、長辺は3.6m、短辺は3.5m、深さは0.16mで、主軸はN-33°-Eである。

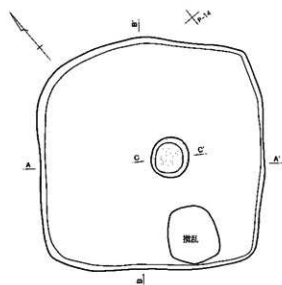
住居のほぼ中央に炉があり、長径は62cmである。炉の底面は比較的良く焼けていた。ピットは検出されなかった。

浅い住居跡であったが、出土遺物は約50点あった。

1は小型の壺で、胴部上半と下半は接合しない。外面はハケ目調整後、丁寧にナデ調整される。胴部下端から底部外面はヘラ削り調整される。約30%残存し、推定口径は7.5cm、底径3.7cmである。色調は明褐色で、胎土には褐色粒子が多量に含まれる。

2～4は高坏である。2は口縁部が内彎気味に開き、坏部下端に稜を持たない。口縁部が約25%欠損するのみで、あとは完存する。口唇部は平坦に面取りしている。ハケ目調整後ミガキ調整される。器表面は一部剝離しており、赤彩の痕跡はあるがほとんど残っていない。口径は15.6cm、脚台径は8.5cm、器高は11cmである。色調は褐色で、胎土には砂粒が少量含まれる。3は床面から少し浮いて、横倒しの状態で出土した。口縁部を約30%欠損するのみで、あとは完存する。口縁部は内彎気味に開き、坏部下端に稜を持つ。口唇部は平坦に面取りすることを意識しているが、丸味を帯びる。丁寧にミガキ調整され、ハケ目は残らない。口径は18.2cm、脚台径9cm、器高は16.5cmである。色調は褐色で、胎土には砂粒がわずかに含まれる。4は口縁部の小破片である。口縁部は直線的に開き、坏部の下端に稜を持つ。器表面は剝離が著しく、ミガキ調整がわずかに観察できる。色調は赤褐色で、胎土には砂粒

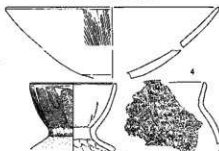
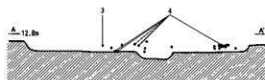
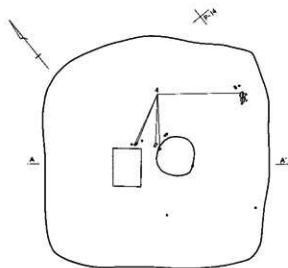
第134図 第34号住居跡



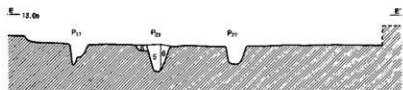
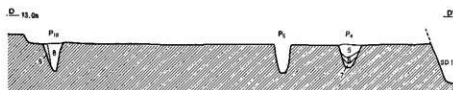
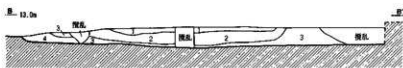
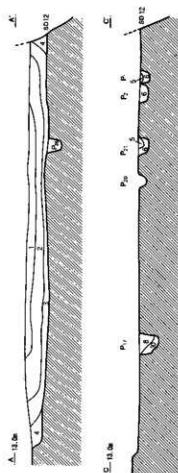
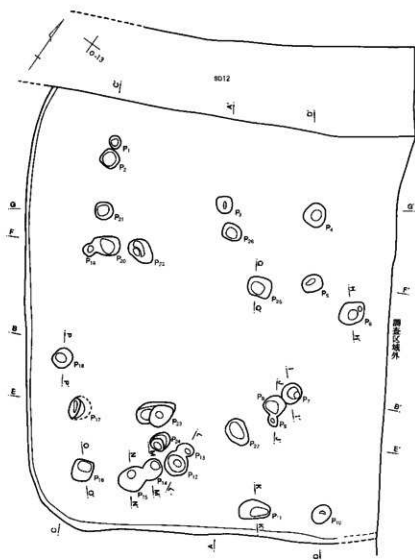
- 1層 Hue10YR2/3 黒褐色 しまりあり D-1&2粒子 (2mm)を少量、D-17°D9°(1cm)を数個含む
- 2層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり D-1&2粒子 (2-3mm)を少量、D-17°D9°(1-1.5cm)を少量含む
- 3層 Hue10YR3/5 暗褐色 しまりあり D-1&2粒子 (2-3mm)を少量、D-17°D9°(1cm)を少量含む
- 4層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり 焼土粒子を少量、3-4°粒子を少量含む
- 5層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり 焼けたD-17°D9°を中量、焼土粒子を数個含む



第135図 第34号住居跡遺物分布図・出土遺物



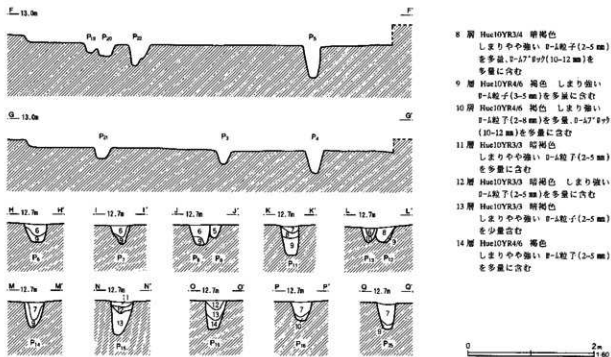
第136図 第35号住居跡(I)



- 1層 Hse10YR34 暗褐色 しまり強い
E-I粒(2-5mm)をやや多く含む
- 2層 Hse10YR20 黒褐色 しまり強い
D-I粒(1-2mm)を少量含む
- 3層 Hse10YR40 鈍い黄褐色
しまり強い E-I粒(2-5mm)を
多量に含む
- 4層 Hse10YR43 鈍い黄褐色
しまり強い D-I粒(2-5mm)を
多量に含む
- 5層 Hse10YR40 鈍い黄褐色
しまり強い E-I粒(2-5mm)を
やや多く含む
- 6層 Hse10YR30 暗褐色
しまりやや強い D-I粒(2-5mm)
をやや多く、E-I?粒(10mm)を
少量含む
- 7層 Hse10YR34 暗褐色
しまりやや強い D-I粒(2-5mm)
をやや多く、E-I?粒(10mm)を
少量含む



第137図 第35号住居跡(2)



をやや多く含む。

5は小型壺の口縁部破片である。口縁部はやや内彎気味に開く。約50%残存し、口径は9cmである。外面はハケ目調整後、胴部はミガキ調整が加えられる。また、外面は赤彩される。色調は明褐色で、胎土には褐色粒子が多量に含まれる。

6は台付壺の口縁部小破片である。口縁部にはキザミは無く、ハケ目調整される。色調は褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が多量に含まれる。

第35号住居跡 (第136図～第140図)

N-13・O-13グリッドに位置する。第12号溝により住居の北辺を破壊される。また、住居の東辺は調査区域外へ続いているため、全体を調査することはできなかった。

平面形態は長方形を呈し、深さは0.34cmである。床面は平坦で、やや軟弱であった。炉跡は検出されなかったため主軸方向は不明である。

柱穴は計27本検出されたが、すべてが住居に確実に

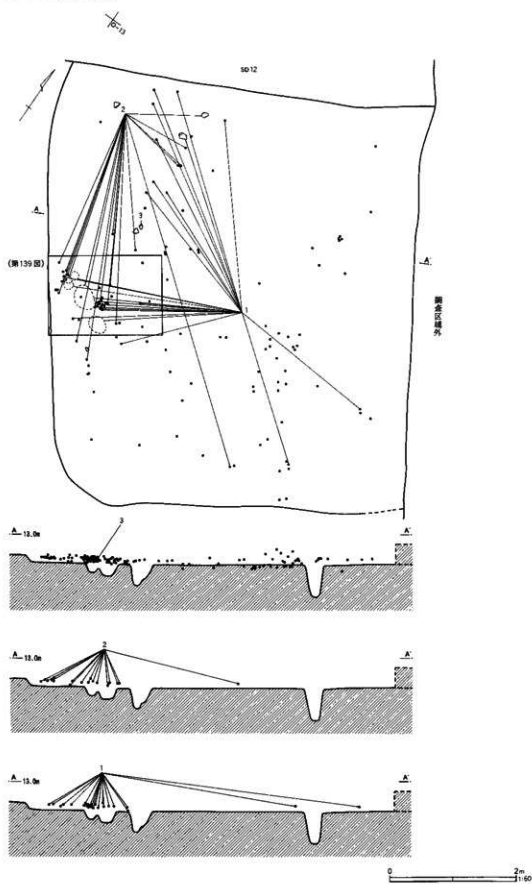
伴う確証はない。

柱穴の深さはP1:14cm、P2:14cm、P3:20cm、P4:36cm、P5:46cm、P6:28cm、P7:30cm、P8:32cm、P9:20cm、P10:46cm、P11:44cm、P12:24cm、P13:22cm、P14:40cm、P15:52cm、P16:46cm、P17:32cm、P18:30cm、P19:14cm、P20:12cm、P21:16cm、P22:32cm、P23:42cm、P24:28cm、P25:40cm、P26:22cm、P27:28cmである。

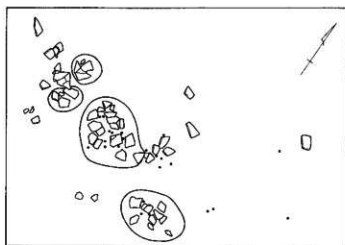
出土遺物は約50点あり、同一個体が散在して出土した。

1～3は台付壺で、外面はハケ目調整される。1は直立気味の口縁部で、キザミがある。最大径は胴部上半にあり、胴部下半が長い。約70%残存し、ゆがみが著しい。色調は茶褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が多量に含まれる。2は「く」の字状口縁部で、キザミがある。最大径は胴部上半にある。約50%残存し、口径は18cm、台径は10.6cm、器高は30.6cmである。色調は淡褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が多量に含まれ

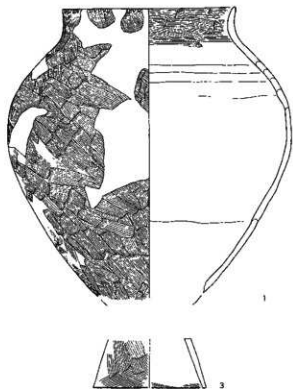
第138图 第35号住居跡遺物分布图(1)



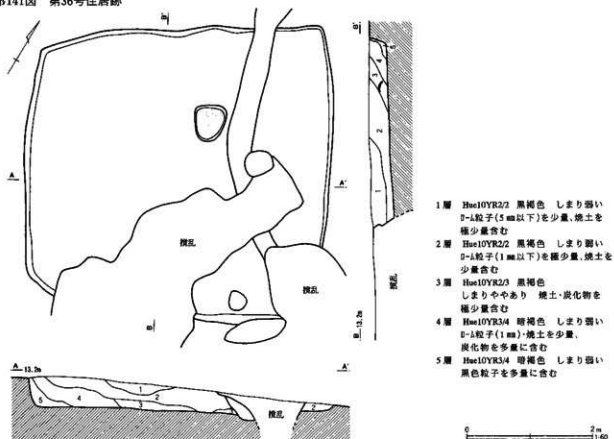
第139图 第35号住居跡遺物分布图(2)



第140图 第35号住居跡出土遺物



第141図 第36号住居跡



- 1層 Hae10YR2/2 黒褐色 しまり強い
D-1粒子(5mm以下)を少量、焼土を
極少量含む
- 2層 Hae10YR2/2 黒褐色 しまり弱い
D-1粒子(1mm以下)を極少量、焼土を
少量含む
- 3層 Hae10YR2/3 黒褐色
しまりややあり 焼土・炭化物を
極少量含む
- 4層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまり強い
D-1粒子(1mm)・焼土を少量、
炭化物を多量に含む
- 5層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまり強い
黒色粒子を多量に含む

0 2m 40

る。3は上部の破片で、約30%残存する。色調は褐色で、胎土には褐色粒子が多量に含まれる。

第36号住居跡 (第141図～第143図)

O-12グリッドに位置する。第10号溝よりも古く、擾乱によって住居の南半分が破壊されていた。

平面形態は方形を呈し、長辺は4.9m、深さは0.4m、主軸はN-30°-Wである。床面は平坦で、硬化していた。

住居の中央よりやや北寄りに炉があり、粘土板戸である。住居に伴う柱穴は検出されなかった。

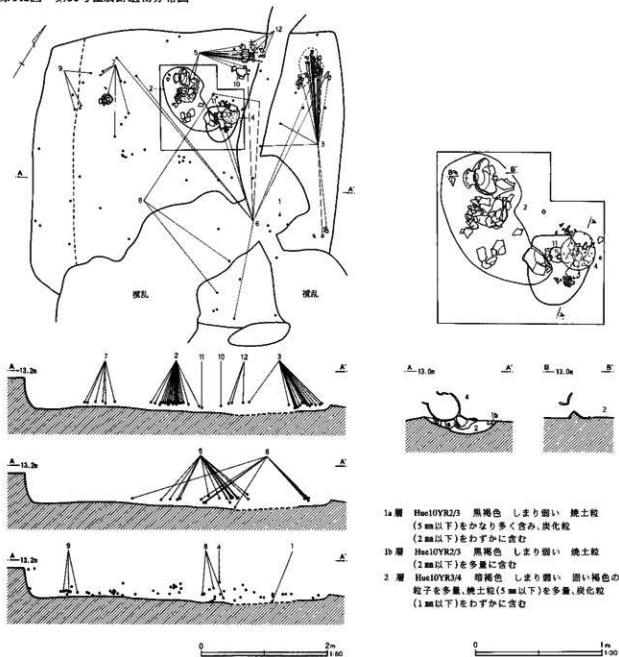
出土遺物は約300点あり、この時期の住居跡では一番多く、また完形に近いものが多い。

1・2は複合口縁の中型の甕である。1は直線的に開く口縁部破片で、約30%残存する。口径は約12.6cmである。外面はハケ目調整後、ミガキ調整される。色調は明褐色で、胎土には砂粒が多量に含まれる。2は炉の北西近くで、つぶれたような状態で出土した。ほぼ完形で、口径は15.8cm、底径は9.8cm、器高は33cmで

ある。胴部外面はハケ目調整後、ミガキ調整される。内面には粘土紐の跡が時々残る。色調は明褐色で、胎土には褐色粒子が多量に含まれる。

3～6は台付甕の破片である。3は「く」の字状口縁で、キザミがある。約40%残存し、推定口径は17.3cmである。ハケ目には2種類あり、細かいハケ目調整後、さらに粗いハケ目調整を加えている。色調は茶褐色で、胎土には褐色粒子が多量に含まれる。4は「く」の字状口縁で、キザミがある。炉にかけられていたものが横倒しになった状態で出土し、ほぼ完形である。口径は17.8cm、台径は10.8cm、器高は33.5cmである。色調は褐色で、胎土には褐色粒子が多量に含まれる。5は「く」の字状口縁で、キザミは無い。口縁部と台部をそれぞれ25%欠損する他は完存する。口径は12.2cm、台径は8.4cm、器高は21.5cmである。胴部外面はハケ目調整されるが、台部外面は不定方向のナデ調整される。色調は褐色で、胎土には褐色粒子が少量含まれる。6は胴部下半から台部の破片で、胴部を一部欠損

第142図 第36号住居跡遺物分布図



- 1a層 Hae10YR2/3 黒褐色 しまり強い 焼土粒 (5mm以下)をかなり多く含み、炭化粒 (2mm以下)をわずかに含む
- 1b層 Hae10YR2/3 黒褐色 しまり強い 焼土粒 (2mm以下)を多量に含む
- 2層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまり強い 強い褐色の粒子を多量、焼土粒(5mm以下)を多量、炭化粒 (1mm以下)をわずかに含む

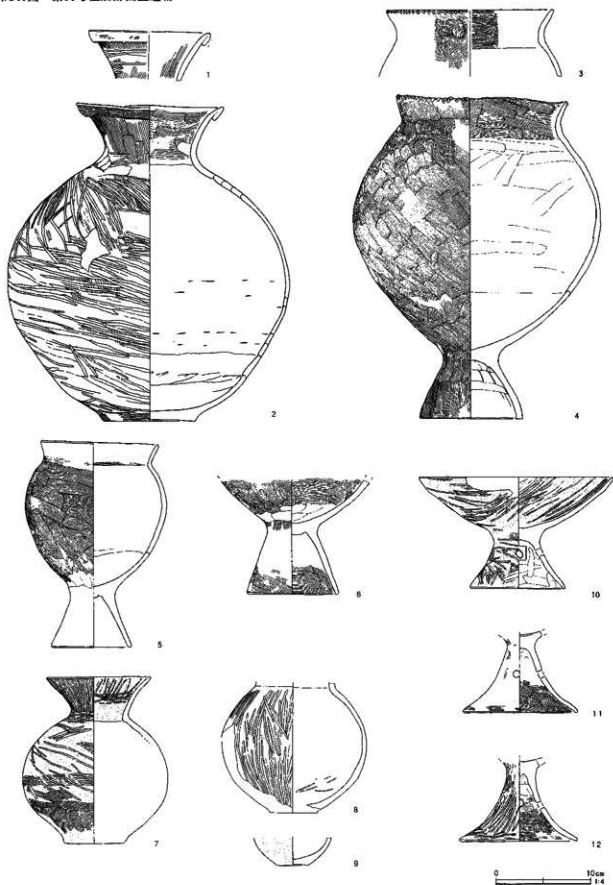
する他は完存する。色調は褐色で、胎土には褐色粒子が多量に含まれる。

7～9は小型の壺である。7は単口縁で、口縁部は強く外側に開く。口縁部から胴部は20%、底部は70%欠損する他は完存する。口径は10.7cm、底径は6cm、器高は17.5cmである。ハケ目調整後、ミガキ調整され、赤彩される。色調は褐色で、胎土には褐色粒子が多量に含まれる。8は口縁部と底部を欠損し、胴部は約50%残存する。外面はハケ目調整後、ミガキ調整さ

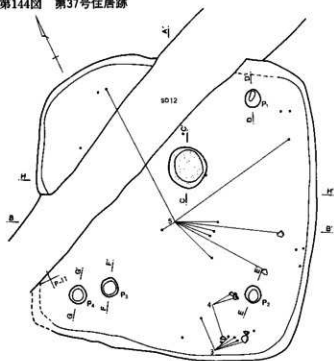
れる。色調は褐色で、胎土には褐色粒子が少量含まれる。9は底部破片で、60%残存する。底径は3cmである。外面はハケ目調整後、ヘラナデされ、赤彩される。また底部はヘラ削りされる。色調は黒褐色で、胎土には褐色粒子が多量に含まれる。

10～12は高坏である。10は脚部に透孔が3か所ある。口縁部上半を約50%欠損する他は完存する。口径は20.4cm、脚台径は10cm、器高は11.7cmである。ハケ目調整後、ミガキ調整され、赤彩される。色調は褐色

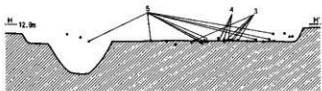
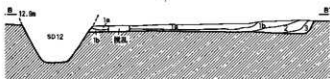
第143图 第36号住居跡出土遺物



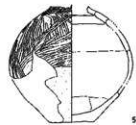
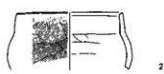
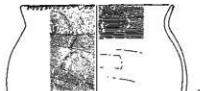
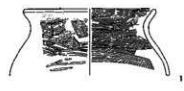
第144図 第37号住居跡



- 14層 Huc10YR3/4 暗褐色 比較的やわらかい D-1粒子を少量、D-47°粒子を極少量含む
- 13層 Huc10YR3/4 暗褐色 比較的やわらかい D-1粒子を中量、D-47°を少量含む
- 2層 Huc10YR4/4 褐色 比較的やわらかい D-1粒子を少量、D-4小7°を少量含む
- 3層 Huc10YR4/0 褐色 比較的やわらかい D-47°を多量を含む
- 4層 Huc10YR4/3 鈍い黄褐色 しまりや中強い 焼土(5mm)をたいへん多く含む
- 5層 Huc10YR4/4 褐色 しまりあり 焼土(2mm)を少量含む
- 6層 Huc10YR4/2 灰黄褐色 しまりや弱い D-1粒子(3mm)を少量含む
- 7層 Huc10YR4/4 褐色 しまりや弱い D-1粒子(5mm)をやや多く含む
- 8層 Huc10YR4/3 鈍い黄褐色 しまりあり D-1粒子(5mm)を少量含む
- 9層 Huc10YR3/2 黒褐色 しまりあり D-1粒子(3mm)を少量含む
- 10層 Huc10YR4/3 鈍い黄褐色 しまりあり D-1粒子(3mm)をやや多く含む
- 11層 Huc10YR4/3 鈍い黄褐色 しまりや弱い D-1粒子(5mm)・黒色粒子をやや多く含む
- 12層 Huc10YR4/6 褐色 しまりあり D-1粒子(5mm)を多量を含む
- 13層 Huc10YR4/4 褐色 しまりあり D-1粒子(3mm)を少量含む



第145図 第37号住居跡出土遺物



で、胎土には褐色粒子が多量に含まれる。11は炉から正位の状態出土した。脚部に透孔が3か所あり、完形で脚台径は12cmである。器表面の剝離が著しく、外面の調整方法は観察できない。色調は明褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が少量含まれる。12は脚部に透孔が3か所あり、完形で脚台径は12.3cmである。ハケ目調整後、ミガキ調整され、赤彩される。色調は明褐色で、胎土には褐色粒子が少量含まれる。

第37号住居跡 (第144図・第145図)

O-11・P-10・P-11グリッドに位置する。第12号溝よりも古い。

平面形態は方形を呈し、長辺は4.7m、短辺は4.5m、深さは0.14m、主軸はN-29°-Eである。床面は平坦で、硬化していた。

住居の中央よりやや北寄りに炉があり、径は62cmである。炉の底面は良く焼けていた。

柱穴は4本検出された。柱穴の深さはP1:28cm、P2:10cm、P3:16cm、P4:26cmである。

4. 平安時代の遺構と遺物

(1) 住居跡

第38号住居跡 (第146図・第147図)

O-10・O-11グリッドに位置する。第88号土壇よりも新しい。また、第11号溝によりカマドがあったと思われる住居跡の西辺を破壊される。

平面形態は長方形で、短辺は3.2mで、深さは0.3mである。一部途切れるが、壁溝が巡る。

柱穴は3本検出された。柱穴の深さはP1:22cm、P2:12cm、P3:28cmである。

遺物は約40点出土した。

1~4は須恵器の坏である。1は口縁部破片で、推定口径は11.2cmである。色調は灰色で、胎土には白色針状物質を多量に含む。2は口縁部破片で、推定口径は12.3cmである。色調は灰色で、胎土には白色針状物質を多量に含む。3は完形で、口径は11.5cm、底径は

遺物は約50点あり、床面近くから出土したものが多かった。

1は小型の壺になるものと思われる。「く」の字状口縁で、キザミは無い。25%残存し、推定口径は13.5cmである。外面はハケ目調整後、ミガキ調整される。色調は褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が少量含まれる。

2は小型の壺になるものと思われる。25%残存し、推定口径は11cmである。色調は褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が多量に含まれる。

3・4は台付壺である。3は「く」の字状口縁で、キザミがある。約20%残存し、推定口径は16cmである。色調は褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が少量含まれる。4は台部の破片で、ほぼ完形である。台径は11cmである。色調は褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が少量含まれる。

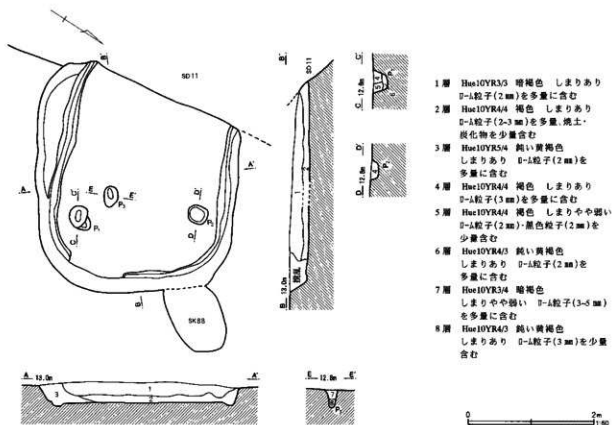
5は小型の壺である。口縁部は欠損し、胴部は70%残存する。底径は4.6cmである。ハケ目調整後、ミガキ調整され、赤彩される。色調は褐色で、胎土には褐色粒子・砂粒が多量に含まれる。

6cm、器高は3.2cmである。底部は回転糸切り無調整である。口縁部には油炎痕が見られ、器表面は内外面ともになめらかである。色調は白灰色で、胎土には白色針状物質を多量に含む。4は底部破片で、底径は6.3cmである。底部は回転糸切り無調整で、「×」印のへら記号がある。色調は灰色で、胎土には白色針状物質を多量に含む。

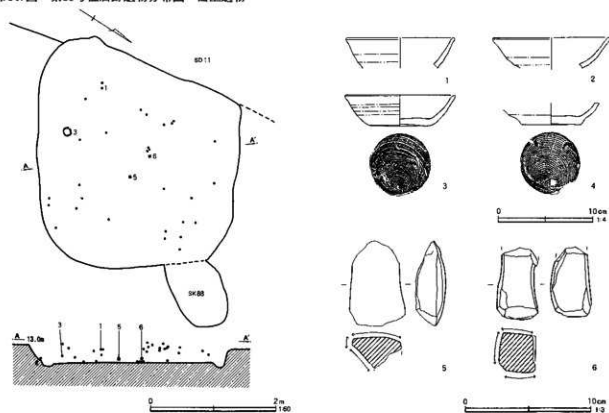
5・6は砥石である。5は砂岩製で、中砥か荒砥になるものと思われる。重さは70.89gである。6は凝灰岩製で、仕上げ砥になるものと思われる。重さは80.01gである。

出土物から9世紀後半と考えられる。

第146図 第38号住居跡



第147図 第38号住居跡遺物分布図・出土遺物



(2) 土墳

平安時代の土墳と思われるものは、第129号土墳・第130号土墳・第131号土墳・第173号土墳・第261号土墳・第284号土墳の6基ある。

遺構平面図は第5章の中世以降の土墳・溝平面図にあり、ここでは遺物実測図のみ掲載した。

第129号土墳 (第148図・第186図)

K-9・L-9グリッドに位置する。円形を呈し、長径は1.2m、深さは0.13mである。出土遺物は図化した坏1点だけである。1は土師質土器の坏である。25%残存し、推定口径13.9cmである。色調は明褐色で、胎土には砂粒が少量含まれる。

第130号土墳 (第148図・第186図)

K-9・L-9グリッドに位置する。円形を呈し、長径は1.75m、深さは0.58mである。出土遺物は土師質土器坏3点、土師器甕12点で、いずれも破片である。1は土師質土器の坏である。口縁部の小破片で、推定口径12.4cmである。色調は明褐色で、胎土には砂粒が少量含まれる。2は土師器の甕である。25%残存する。胴部外面はヘラ削り成形後、頸部付近を指頭調整する。色調は褐色で、胎土には砂粒が多量に含まれる。

第131号土墳 (第148図・第186図)

K-9・L-9グリッドに位置する。楕円形を呈し、短径は0.55mである。出土遺物は土師器甕の破片が2点である。1は土師器の甕で、台状底部の形態である。25%残存し、推定底径は7.9cmである。外面は縦位のヘラ削り成形である。色調は明褐色で、胎土には砂粒・角閃石が多量に含まれる。

第173号土墳 (第192図)

N-11グリッドに位置する。楕円形を呈し、長径は0.9m、短径は0.58m、深さは0.14mである。出土遺物は須恵器甕の破片が1点、礎が1点である。

第261号土墳 (第148図・第210図)

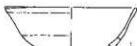
P-11グリッドに位置する。不整形で、長径は3.45mある。土師器甕が1点、つぶれた状態で出土した。1は武蔵型の土師器甕で、口縁部は「く」の字形である。胴部上半と下半の破片は接合しない。50%残存し、口径は22.6cm、底径は5.7cmである。胴部上半は横位のヘラ削り成形で、胴部下半は縦位のヘラ削り成形である。色調は赤褐色で、胎土には砂粒が多量に含まれる。

第284号土墳 (第213図)

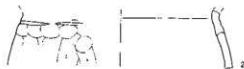
Q-13グリッドに位置する。楕円形を呈し、長径は1.13m、短径0.62m、深さは0.62mである。出土遺物は内面黒色処理した土師質土器坏1点、礎2点である。

第148図 平安時代土墳出土遺物

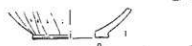
第129号土墳



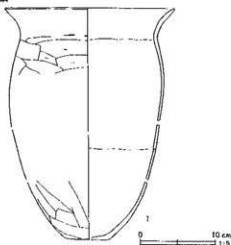
第130号土墳



第131号土墳



第261号土墳



5. 中世以降の遺構と遺物

(1) 掘立柱建物跡

第16号溝で囲まれた中では多数の柱穴が検出された。柱穴の数は10m×10mグリッド内に多い場所で100～200個あった。一列に並ぶ柱穴列は多数あったが、土壌や井戸により破壊された柱穴もあり、建物跡として復元できたのは21棟だけである。確認できなかった建物跡が多数あったと推測される。

土壌と柱穴が重複していた場合は、柱穴のみを先に確認することは困難であった。土層図作製時に柱穴を確認したり、完掘後に土壌底面で柱穴を確認する場合が多かった。よって、柱穴の柱痕は地山から遺構確認面の場合しかつかめることができなかった。

柱穴の掘り方はほとんどが方形であった。柱痕も方形のものが多かった(写真図版31参照)。柱痕のまわりはローム質の粘質土で硬くつき固められていた。また、T-7グリッドで柱材が残っていた柱穴が1つあった(第228図・写真図版31)。柱材については樹種同定を行い、結果は附編に収録した。

この節での遺構平面図は重複する遺構を加えると、掘立柱建物跡がわかりにくくなるため、あえて建物跡のみの図面にした。第3節の土壌・溝の図にも掘立柱建物跡の平面図を入れたので、重複する遺構との関係については第3節の図を参照されたい。遺構断面図には重複する遺構も加えたので、凹凸が著しい図になっている。

第1号掘立柱建物跡(第149図・第242図)

S-8グリッドに位置する。第8号掘立柱建物跡・第789号土壌・第790号土壌・第781号土壌等と重複する。P7は第789号土壌・第790号土壌よりも新しいことが土層観察で確認された(第243図)。その他の重複する遺構との新旧関係は不明である。

規模は梁行2間(3.0m)×桁行3間(4.6m)の東西棟の建物跡である。柱間はやや不規則で、梁行2.2m、桁行2～2.5mである。建物の主軸はN-83° -Wであ

る。

柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが25～50cmある。柱穴の1辺は23～40cm前後ある。

出土遺物は無かった。

第2号掘立柱建物跡(第150・第238図)

R-9グリッドに位置する。第709号土壌・第711号土壌・第714号土壌・第720号土壌・第723号土壌・第740号土壌等と重複するが、新旧関係は不明である。

規模は梁行2間(4.0m)×桁行3間(5.9m)の南北棟の建物跡である。柱間是不規則で、梁行は1.2～2.2m、桁行は2.6～3.3mである。建物の主軸はN-0°で、ほぼ磁北を向いている。

柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが40～60cmある。柱穴の大きさは1辺30cm前後ある。桁行でP2とP8がずれており揃わない。P1・P2・P3・P9・P11で柱穴が重複しているので建て替えがあった可能性がある。

出土遺物は無かった。

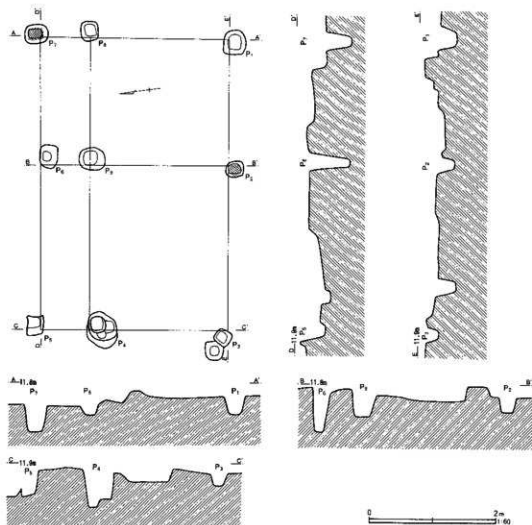
第3号掘立柱建物跡(第151図・第230図)

R-7グリッドに位置する。第541号土壌・第544号土壌・第545号土壌・第549号土壌・第552号土壌等と重複する。その中で、P5は第544号土壌・第552号土壌よりも古く、P10は第537号土壌・第538号土壌よりも新しいことが土層観察で確認された。その他の遺構との新旧関係は不明である。

規模は梁行4間(3.4m)×桁行3間(4.4m)の南北棟の建物跡である。柱間是不規則で、梁行は1.0～2.4m、桁行は1.1～1.9mである。建物の主軸はN-2° -Eで、ほぼ磁北を向いている。

柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが25～50cmある。柱穴の大きさは1辺40cm前後ある。桁行の西側で柱穴が2本検出できなかった。

第149図 第1号掘立柱建物跡



出土遺物は無かった。

行の西側で柱穴が1本検出できなかった。
出土遺物は無かった。

第4号掘立柱建物跡 (第152図・第232図)

Q-7・R-7グリッドに位置する。第574号土壌・第583号土壌・第587号土壌・第590号土壌等と重複する。その中で、P6は第587号土壌よりも新しいことが土層観察で確認された。その他の遺構との新旧関係は不明である。P5と重複する溝は本遺構に伴う可能性もある。

規模は梁行2間(4.4m)×桁行3間(6.0m)の東西棟の建物跡である。柱間は梁行1.9m、桁行2.0mである。建物の主軸はN-87-Eである。

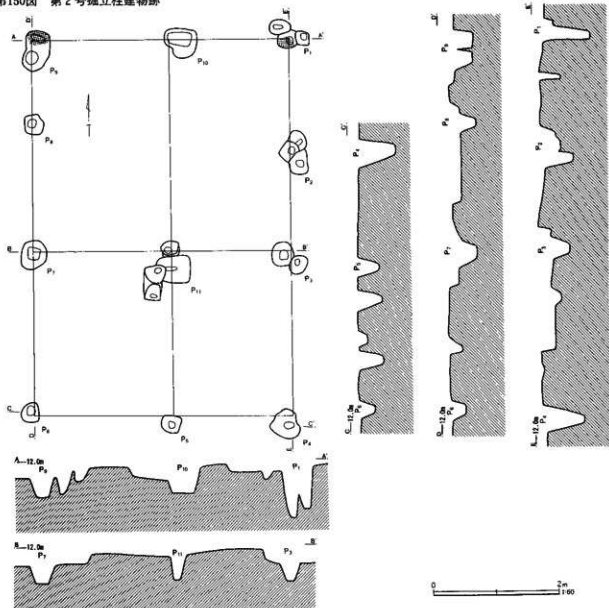
柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが30~70cmある。柱穴の大きさは1辺30cm前後ある。梁

第5号掘立柱建物跡 (第153図・第222図)

R-5・R-6グリッドに位置する。第371号土壌・第373号土壌・第362号土壌・第425号土壌等と重複する。その中で、P1は第371号土壌よりも新しく、P2は373号土壌よりも新しいことが土層観察で確認された。その他の遺構との新旧関係は不明である。

規模は梁行2間(2.8m)×桁行2間(5.1m)の東西棟の建物跡である。柱穴の規模に比べると建物規模が小さいので、建物の一部の可能性ある。柱間是不規則で、梁行は1.3~1.5m、桁行は2.4~2.7mである。建物の主軸はN-89-Eである。

第150図 第2号掘立柱建物跡



柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが30~70cmある。柱穴の1辺は50cm前後あり、大きい。出土遺物は無かった。

第6号掘立柱建物跡 (第154図・第228図・第230図)

S-6・S-7グリッドに位置する。第483号土壌・第484号土壌・第503号土壌等と重複するが、新旧関係は不明である。

規模は梁行2間(3.4m)×桁行3間(5.1m)の南北棟の建物跡である。桁行西側で、柱穴が2本確認できなかった。柱間はやや不規則で、梁行は1.68~1.72

m、桁行は1.4~2.0mである。建物の主軸はN-2°-Eで、ほぼ磁北を向いている。

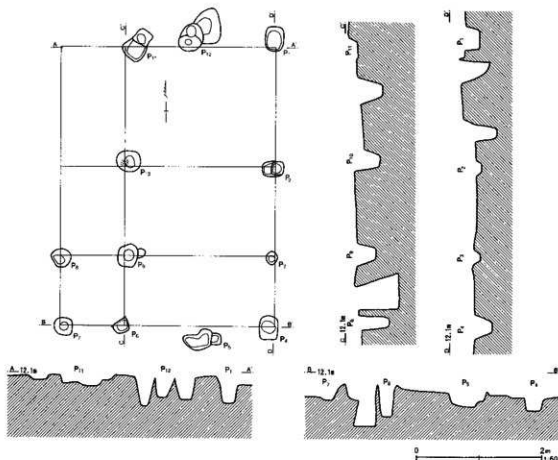
柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが50~70cmある。柱穴の1辺は30cm前後ある。出土遺物は無かった。

第7号掘立柱建物跡 (第155図・第228図・第230図)

S-7・R-7グリッドに位置する。第489号土壌・第492号土壌・第548号土壌等と重複するが、新旧関係は不明である。

規模は梁行1間(4.0m)×桁行4間(7.5m)の南北

第151図 第3号掘立柱建物跡



棟の建物跡である。梁行北側で、やや内側に入る位置に柱穴が1本あるので、梁行2間の可能性が高い。柱間はやや不規則で、桁行は1.9m前後ある。建物の主軸はN-5°-Eで、ほぼ磁北を向いている。

柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが20~60cmある。柱穴の1辺は30cm前後ある。

出土遺物は無かった。

第8号掘立柱建物跡 (第156図・第242図)

S-8グリッドに位置する。第1号掘立柱建物跡・第769号土壌・第784号土壌・第789号土壌等と重複するが、新旧関係は不明である。

規模は梁行2間(3.0m)×桁行3間(5.9m)の東西棟の建物跡である。南東隅の柱穴は確認できなかった。柱間はやや不規則で、梁行は1.5m、桁行は1.7~2.2mである。建物の主軸はN-83°-Wである。

柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが30~90cmある。柱穴の1辺は30cm前後ある。

出土遺物は無かった。

第9号掘立柱建物跡 (第157図・第238図・第240図)

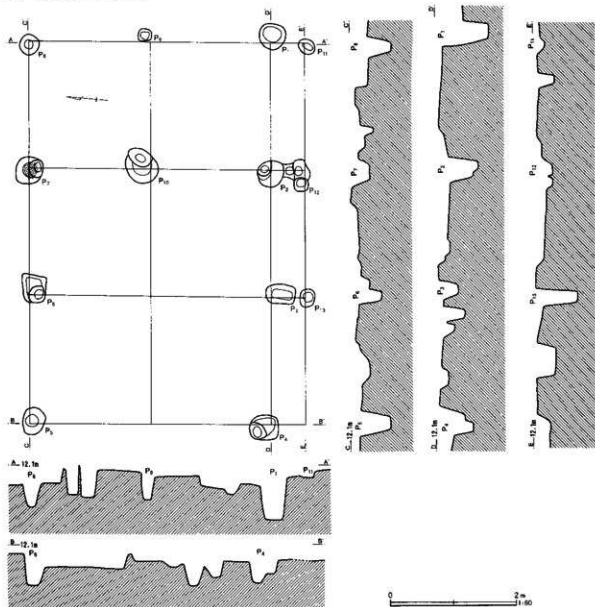
R-9グリッドに位置する。第737号土壌・第740号土壌・第751号土壌等と重複するが、新旧関係は不明である。

規模は梁行2間(4.5m)×桁行3間(5.0m)の東西棟の建物跡である。北東隅の柱穴は確認できなかった。柱間はやや不規則で、梁行は2.2~2.3m、桁行は1.4~2.0m前後ある。建物の主軸はN-85°-Wである。

柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが30~60cmある。柱穴の1辺は25~40cmある。

出土遺物は無かった。

第152図 第4号掘立柱建物跡



第10号掘立柱建物跡 (第158図・第238図)

R-9グリッドに位置する。第740号土壇・第743号土壇等と重複するが、新旧関係は不明である。

規模は梁行2間(3.3m)×桁行3間(4.8m)の東西棟の建物跡である。北西隅の柱穴は確認できなかった。柱間は梁行1.65m、桁行1.6m前後である。建物の主軸はN-87-Eである。

柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが25~50cmある。柱穴の1辺は23~40cmある。

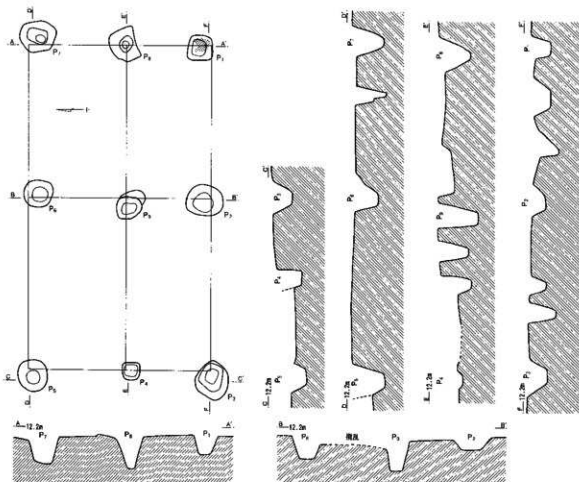
出土遺物は無かった。

第11号掘立柱建物跡 (第159図・第238図)

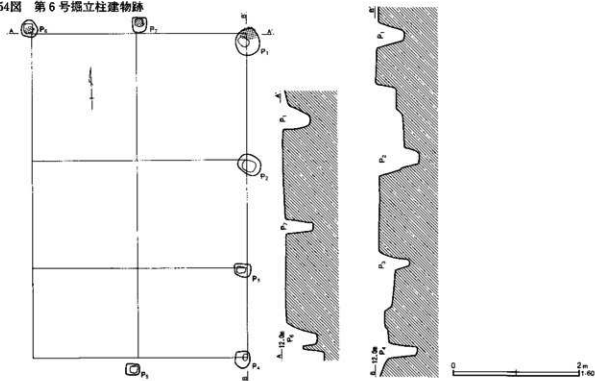
Q-9・R-9グリッドに位置する。第711号土壇・第715号土壇等と重複するが、新旧関係は不明である。

規模は梁行1間(3.2m)×桁行3間(5.3m)の東西棟の建物跡である。梁行は2間になるものと思われるが土壇と重複しているため柱穴は検出できなかった。また、北東隅の柱穴は確認できなかった。柱間はやや不規則で、桁行1.7~1.8mである。建物の主軸はN-88'-Wである。

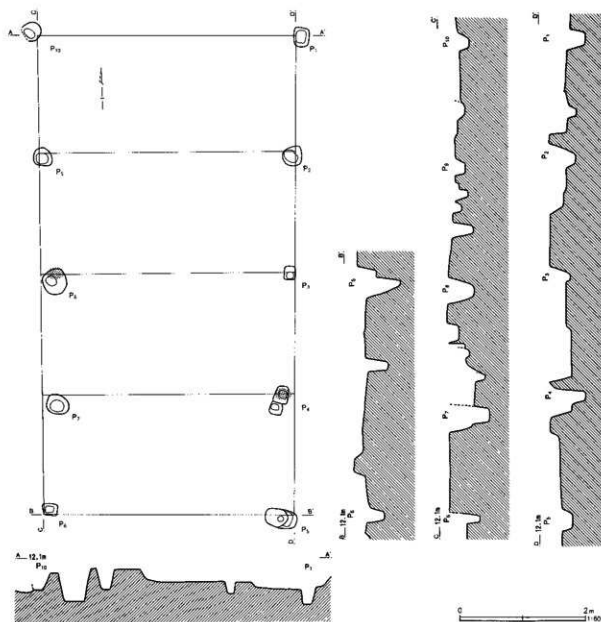
第153图 第5号掘立柱建物跡



第154图 第6号掘立柱建物跡



第155図 第7号掘立柱建物跡



柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが25~50cmある。柱穴の1辺は20~90cmある。

出土遺物は無かった。

第12号掘立柱建物跡 (第160図・第238図)

R-8・R-9グリッドに位置する。第710号土壇・第711号土壇・第735号土壇等と重複する。その中で、P6は第710号土壇よりも新しいことが土層観察で確認された。その他の遺構との新旧関係は不明である。

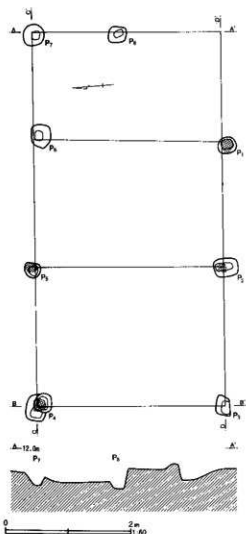
規模は梁行1間(3.6m)×桁行3間(6.9m)の東西棟

の建物跡である。梁行は2間になるものと思われるが土壇と重複しているため柱穴は検出できなかった。南西隅の柱穴も確認できなかった。柱間はやや不規則で、桁行は2.4m前後である。建物の主軸はN-88°-Eである。

柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが70~80cmある。柱穴の1辺は25~35cmある。P1・P2・P3・P4・P6・P7で柱穴が重複しているの、建て替えがあった可能性がある。

出土遺物は無かった。

第156図 第8号掘立柱建物跡



第13号掘立柱建物跡 (第161図・第234図・第237図)

Q-8・Q-9グリッドに位置する。第238号土壇・第643号土壇・第696号土壇等と重複するが、新旧関係は不明である。

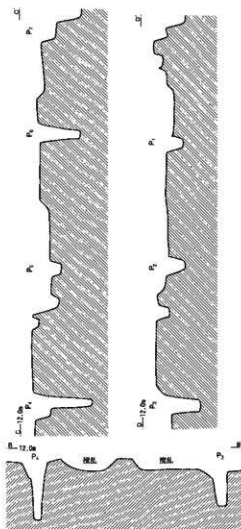
規模は梁行2間(3.6m)×桁行3間(6.5m)の東西棟の建物跡である。柱間は梁行1.8m、桁行2.1m前後である。建物の軸はN-78°-Eである。

柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが25~80cmある。柱穴の1辺は25~45cmある。

出土遺物は無かった。

第14号掘立柱建物跡 (第162図・第234図)

Q-8・R-8グリッドに位置する。第643号土壇・第684号土壇等と重複する。その中でP11は第648号土



壇よりも古いことが土層観察で確認された。その他の重複する遺構との新旧関係は不明である。

規模は梁行2間(5.1m)×桁行3間(7.0m)の南北東の建物跡である。桁行の東側で柱穴が1本検出できなかった。柱間はやや不規則で、梁行2.4~2.6m、桁行2.0~2.5m前後である。建物の軸はN-1°-Eで、ほぼ磁北を向いている。

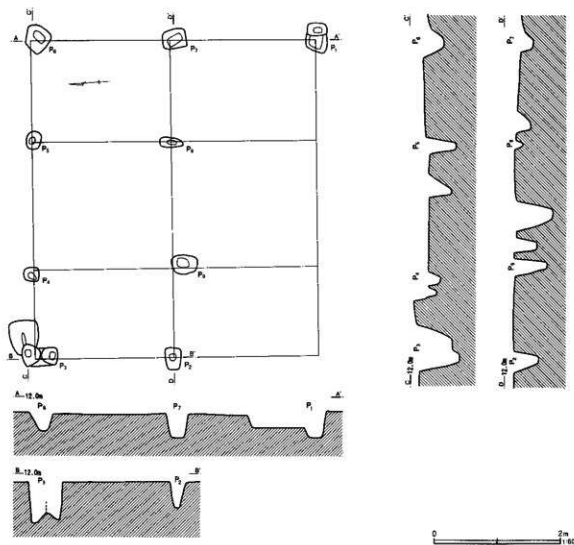
柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが45~60cmある。柱穴の1辺は25~50cm前後ある。

出土遺物は無かった。

第15号掘立柱建物跡 (第163図・第230図・第232図)

Q-7・R-7グリッドに位置する。第537号土壇・第574号土壇・第586号土壇・第587号土壇等と重複す

第157図 第9号掘立柱建物跡



る。その中で、P5は第537号土壌よりも新しく、P10は第586号土壌・第587号土壌よりも新しいことが土層観察で確認された。その他の遺構との新旧関係は不明である。

規模は梁行2間(4.0m)×桁行3間(7.4m)の南北棟の建物跡である。柱間は梁行2.0m、桁行2.2~2.6m前後である。建物の主軸はN-5°-Wである。

柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが25~50cmある。柱穴の1辺は23~40cmある。

出土遺物は無かった。

土壌等と重複するが、新旧関係は不明である。

規模は梁行2間(3.5m)×桁行3間(5m)の東西棟の建物跡である。梁行の南側で1本、桁行の東側で2本、柱穴を検出することができなかった。柱間は梁行1.75m、桁行1.5~1.8mである。建物の主軸はN-90°-Eである。

柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが30~60cmある。柱穴の1辺は30~40cmある。

P2から磁石が1点(第170図7)、P4より開元通宝が1点(第270図)出土した。

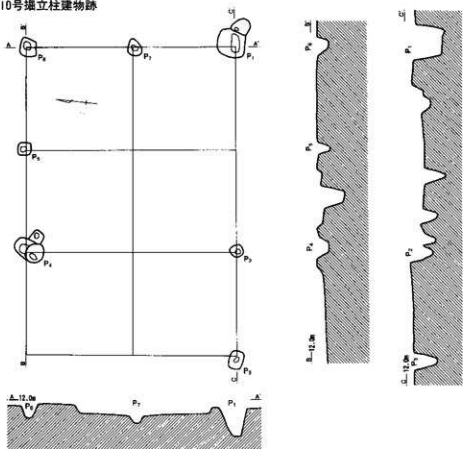
第16号掘立柱建物跡(第164図・第230図)

R-7グリッドに位置する。第530号土壌・第537号

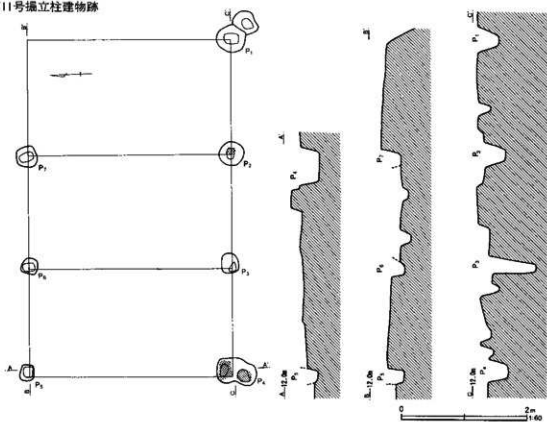
第17号掘立柱建物跡(第165図・第236図)

R-8グリッドに位置する。第658号土壌・第666号

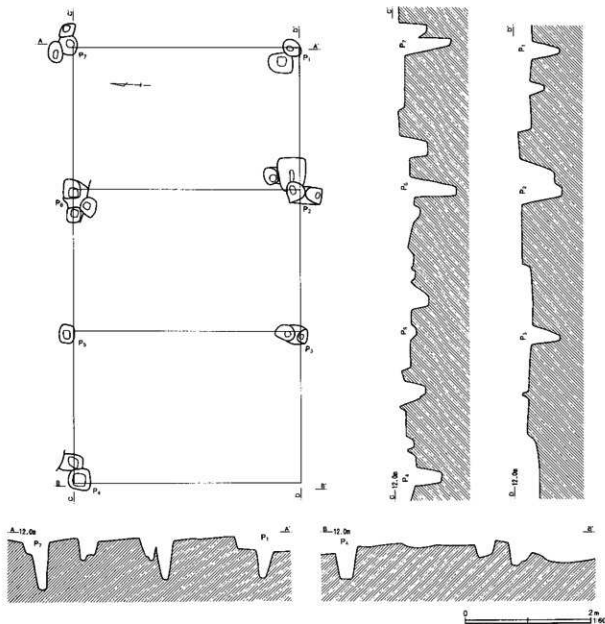
第158图 第10号掘立柱建物跡



第159图 第11号掘立柱建物跡



第160図 第12号掘立柱建物跡



土壌・第672号土壌等と重複するが、新旧関係は不明である。

規模は梁行2間(3.3m)×桁行3間(4.7m)の南北棟の建物跡である。柱間はやや不規則で、梁行1.6~1.7m、桁行1.5~1.8mである。梁行の北側・南側とも真中の柱穴が検出できなかった。建物の主軸はN-2°-Eで、ほぼ磁北を向いている。

柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが15~60cmある。柱穴の1辺は25~35cmある。

出土遺物は無かった。

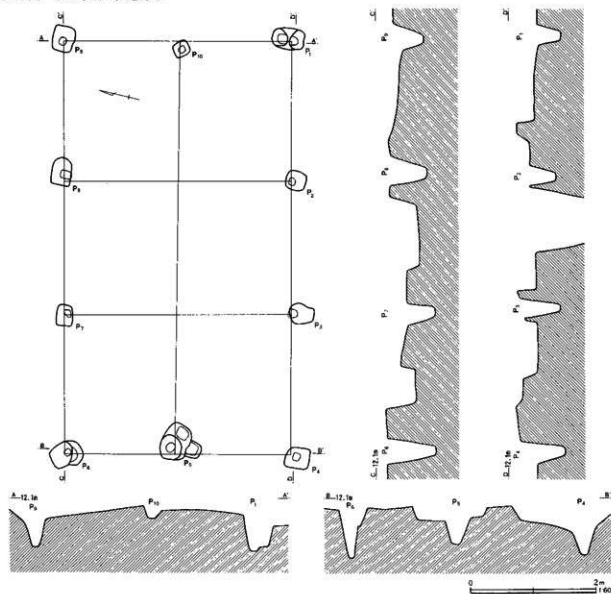
第18号掘立柱建物跡 (第166図・第222図・第223図)

Q-5・Q-6・R-5・R-6グリッドに位置する。第388号土壌・第390号土壌・第422号土壌等と重複する。その中で、P3は第422号土壌よりも新しいことが土層観察で確認された。その他の遺構との新旧関係は不明である。

規模は梁行2間(3.7m)×桁行2間(5.9m)の南北棟の建物跡である。柱間は梁行1.9m、桁行2.9m前後である。建物の主軸はN-5°-Wである。

柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが20

第161図 第13号掘立柱建物跡



～65cmある。柱穴の1辺は20～40cmある。
出土遺物は無かった。

第19号掘立柱建物跡 (第167図・第222図・第224図・第226図)

Q-6・R-5・R-6グリッドに位置する。第373号土壇・第374号土壇・第377号土壇・第425号土壇等と重複するが、新旧関係は不明である。

規模は梁行1間(5.5m)×桁行3間(7.1m)の東西棟の建物跡である。梁行は2間になるものと思われるが、土壇と重複しているため柱穴は検出できなかった。

桁行南側に一列の柱列があるので、庇か縁になるものと思われる。北側では重複する土壇があり、柱列は検出できなかった。柱間は桁行2.3～2.5mである。建物の主軸はN-83°-Eである。

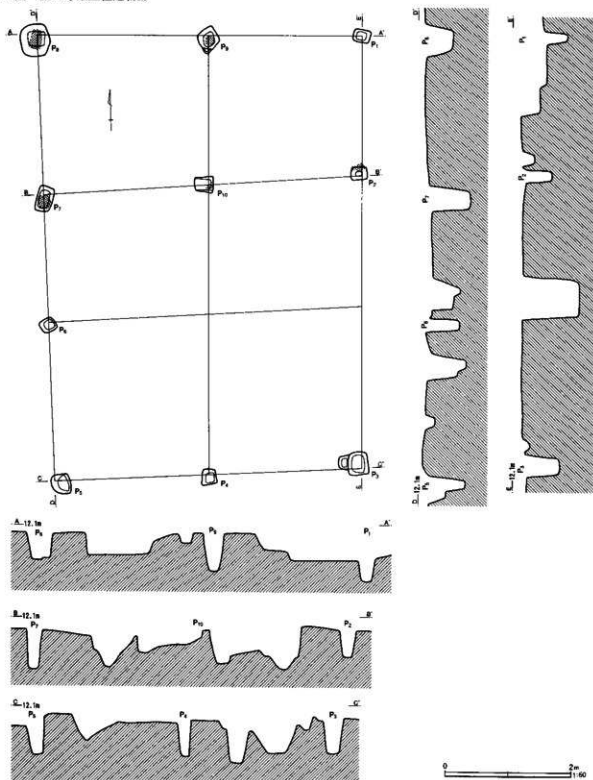
柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが70cm前後ある。柱穴の1辺は30～50cm前後ある。

P1から在地産土器の皿が1点出土した(第170図3)。

第20号掘立柱建物跡 (第168図・第184図・第189図)

L-8・M-8グリッドに位置する。第53号土壇

第162図 第14号掘立柱建物跡



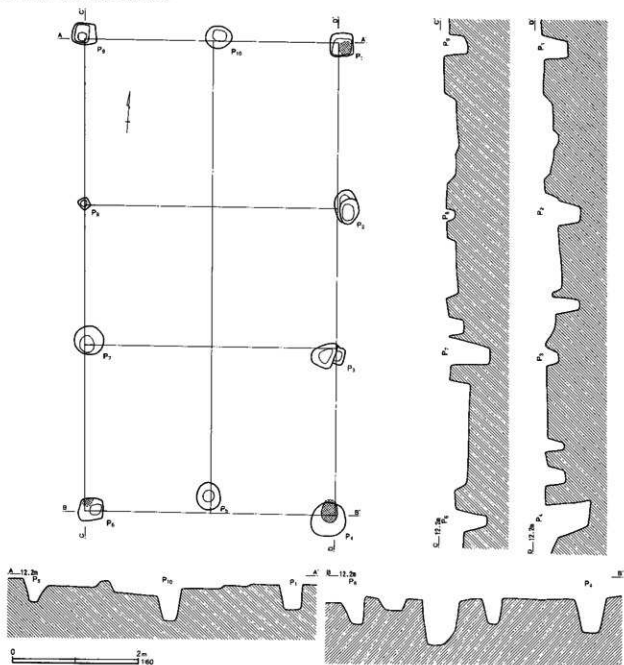
・第54号土壇と重複するが、本掘立柱建物跡の方が新しい。

規模は梁行2間(5.0m)×桁行3間(6.0m)の南北棟の建物跡である。柱間は梁行2.5m、桁行2.3~3.7m

である。建物の主軸は $N-0^\circ$ で、ほぼ磁北を向いている。

柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが25~85cmある。柱穴の1辺は20~35cmある。

第163図 第15号掘立柱建物跡



出土遺物は無かった。

第21号掘立柱建物跡 (第169図・第240図)

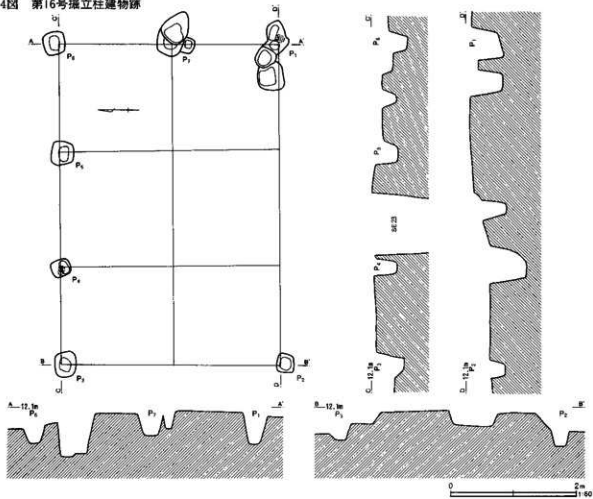
S-8・S-9グリッドに位置する。第791号土壇・第20号溝等と重複するが、新旧関係は不明である。規模は梁行2間(4.2m)×桁行2間(3.7m)の南北棟の建物跡である。柱間は梁行2.0~2.2m、桁行1.7~2.0mである。建物の主軸はN-3°-Eで、ほぼ磁北を

向いている。

柱穴の掘り方は方形で、深さはまちまちであるが25~40cmある。柱穴の1辺は30~45cmある。

出土遺物は無かった。

第164図 第16号掘立柱建物跡



柱穴出土遺物 (第170図)

1はQ-8グリッドP1(第234図)から出土した在地産皿である。胎土に砂粒を少量含み、焼成は良好で、明褐色を呈する。底部は回転糸切り無調整である。口縁部をわずかに欠損する。口径は10cm、底径は3.7cm、器高は3cmである。

2はQ-8グリッドP2(第234図)から出土した瀬戸・美濃産の挟み皿である。口縁部に灰釉が施釉される。焼成は良好、素地の色調は褐白色で、釉は淡緑色を呈する。残存率は10%で、推定口径は12.5cmである。瀬戸・美濃大窯第1段階頃の製品で、生産地では1500年前後の年代が与えられている。

3は第19号掘立柱建物跡のP1(第167図)から出土した在地産皿である。胎土はきめ細かく、焼成は良好で、褐色を呈する。残存率は30%で、推定口径は10.6cm、底径は5.7cm、器高は3cmである。

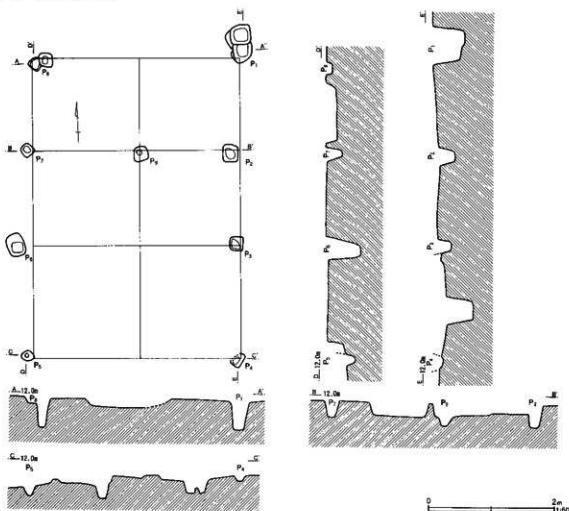
4はQ-9グリッドP1(第237図)から出土した在地産焙烙である。胎土に砂粒と角閃石を少量含み、焼成は良好で、褐色を呈する。口縁部の小破片である。

5はR-5グリッドP2(第222図)から出土した在地産皿である。胎土に砂粒を少量含み、焼成は良好で、茶褐色を呈する。底部は回転糸切り無調整で、ムシロ状の圧痕がある。残存率は25%で、推定底径は5.7cmである。内面には煤が付着する。

6はR-8グリッドP1(第238図)から出土した在地産皿である。胎土はきめ細かく、焼成は良好で、淡褐色を呈する。底部は回転糸切り無調整で、口縁部を30%欠損する。口径は6.7cm、底径は4.2cm、器高は1.1~1.6cmである

7は第16号掘立柱建物跡のP2(第164図)から出土した砥石である。凝灰岩製で、一端を欠損する。幅は2.4cm、厚さは1.8cm、重さは76.6gである。

第165図 第17号掘立柱建物跡



8はR-8グリッドP2(第236図)から出土した在地産皿である。胎土に砂粒と赤色粒子を少量含み、焼成は良好で、褐色を呈する。底部は回転糸切り無調整である。残存率は70%で、底径は5.3cmである。

9はR-7グリッドP4(第232図)から出土した在地産鉢である。胎土に砂粒と片岩を少量含み、焼成はやや甘く、暗褐色を呈する。口縁部の小破片である。

(2) 井戸

井戸は計46基検出され、その中の40基は第15・16号溝の内側にあった。

第5号井戸・第6号井戸・第7号井戸・第25号井戸・第26号井戸・第27号井戸・第28号井戸・第31号井戸・第32号井戸・第33号井戸・第34号井戸・第46号井戸は第16号溝と重複するが、いずれも井戸の方が溝よりも古かった。

第23号井戸・第39号井戸は掘立柱建物跡の柱穴と重

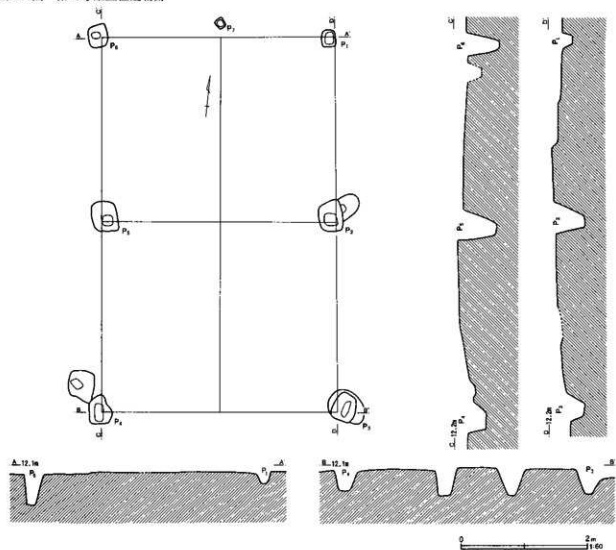
複するが、いずれも井戸の方が柱穴よりも古かった。また、土壇と重複する場合も井戸の方が古かった。

このように、全体的な傾向としては井戸は他の遺構よりも古いといえることができる。

井戸の形態はすべて素掘り、石組みのものは無かった。また、井戸枠が残っていたものも無かった。

現在は標高10.3m前後で水が湧き始める。今回は湧水点まで掘り下げているものを井戸として報告するこ

第166図 第18号掘立柱建物跡



とした。この他に土壌として報告した中で、円形で深い形態のものは天水を溜める溜井のような施設の可能性がある。第245号土壌・第617号土壌・第677号土壌・第763号土壌・第764号土壌などがそれにあたる。

平面形態は円形または楕円形のものも多く、断面形態は漏斗形または筒形のものが多い。

井戸の個々の大きさについては第3表の井戸一覽に代え、ここでは出土遺物について説明する。

第5号井戸 (第178図)

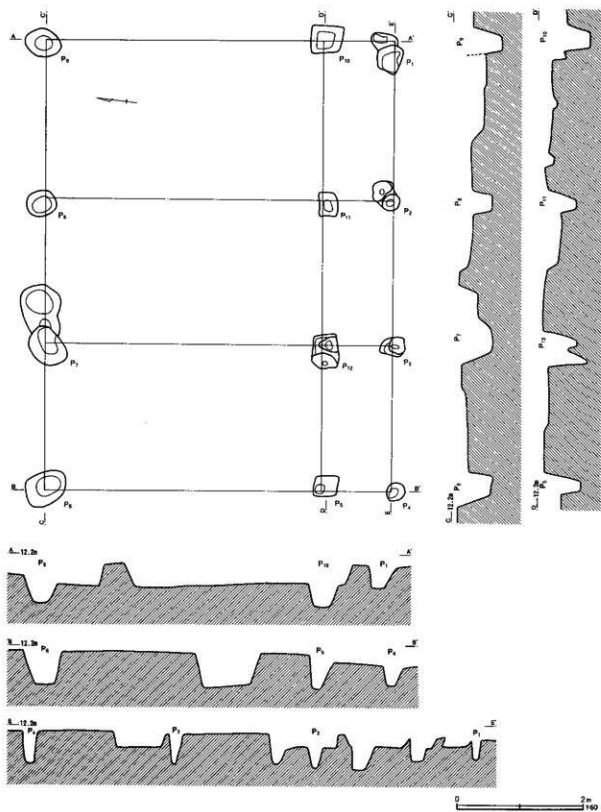
1は瀬戸・美濃産播鉢の小破片である。2は在地産鉢の口縁部破片である。外面は指頭整形で、内面には

15条一単位の播目がある。3は在地産鍋の口縁部破片である。焙烙になる可能性もある。4は板碑の基部に近い部分の破片である。区画する条線がある。5は茶臼の下臼の破片である。下臼で、粉になった粉砕物を受ける皿の部分にあたる。石材は砂岩で、表面は滑らかな仕上がりとなっている。本遺跡出土の茶臼は安山岩製のものが多く、砂岩製の破片だけであった。6は砥石で、下端を欠損する。凝灰岩製で、中砥か仕上げ砥になるものと思われる。

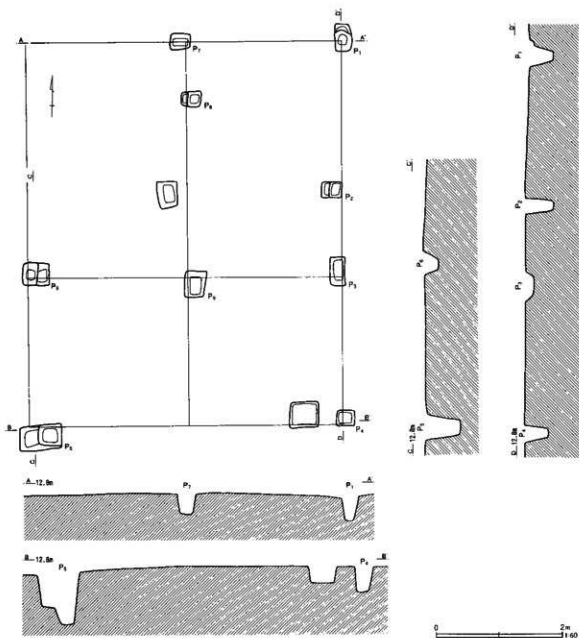
第6号井戸 (第178図)

1は板碑である。主尊は「キリク」で、右下に「サ」

第167图 第19号掘立柱建物跡



第168図 第20号掘立柱建物跡



がある。光明真言と紀年があり、年号の一字目は欠損するが干支から嘉暦元年と推測できる。銘文の彫りは深い。2は砥石で、下端を欠損する。凝灰岩製で、中砥か仕上げ砥になるものと思われる。

第10号井戸 (第178図)

1は瀬戸・美濃産壺の胴部破片である。内外面に灰軸が施軸される。よって、器種は口径の狭い瓶子ではなく、口径の広い四耳壺になる可能性が高い。2は砥

石の破片で、上端および下端を欠損する。凝灰岩製で、中砥か仕上げ砥になるものと思われる。

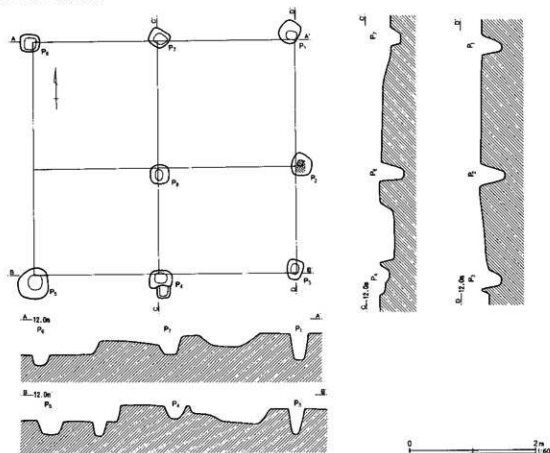
第11号井戸 (第178図)

1は板碑の破片である。蓮座と「曆カ」が彫られている。

第12号井戸 (第179図)

1は在地産皿である。完形で、口縁部に油炎痕があ

第169図 第21号掘立柱建物跡

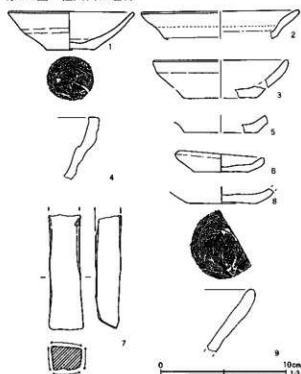


る。口径7cm、底径3.8cm、器高2.3cmで、小形である。2は在地産鉢の口縁部破片である。揃目がわずかに残る。3は板碑の破片である。主尊は「キリク」で、月輪に囲まれている。二条線は線彫りで浅い。4は板碑で、完存する。基部から三分の一の程の部分で切断されており、割れ口の断面は平坦である。上半部は第12号井戸から出土し、下半部は第5号井戸から出土した。主尊は「キリク」で、「永徳三年(1383)五月八日」と彫られている。5は板碑の破片で、基部を欠損する。主尊は「バン」で、「延文三年(1358)四月日」と彫られている。主尊の彫りは深いが、紀年銘の彫りは細くて浅い。また、二条線は彫られていない。

第14号井戸 (第179図)

1は砥石の破片である。石材は片岩で、中砥になるものと思われる。使用面は四面ある。

第170図 柱穴出土遺物



第16号井戸 (第179図)

1は玉状の土製品で、竿秤の鍾になるものと思われる。胎土は片岩を含み、摺目の無い在地産鉢に近似する。金具を付ける穴は貫通していない。

第18号井戸 (第180図)

1は茶臼の上臼の破片である。石材は安山岩である。2は板碑の破片である。下半分を欠損する。阿弥陀三尊になるものと思われる。

第22号井戸 (第180図)

1は在地産皿の底部破片である。底部は回転糸切り無調整である。2は刀子の破片である。3は茶臼の下臼の破片である。石材は安山岩で、すり合わせ部には目がある。欠損部分があるのははっきりしないが、目は六分画か八分画になるものと思われる。目は周縁に達しており、すり減っている。底部の挟りは摺鉢状に窪んでいる。

第25号井戸 (第180図)

1は在地産皿である。底部は回転糸切り無調整である。2は在地産焙烙の小破片である。3は在地産鉢である。摺目は6条一単位で、体部の摺目は交差するように付けられている。底部はヘラナデ調整される。4は在地産焙烙である。耳は三か所があり、耳の下端は底部に付かない形態である。

第26号井戸 (第181図)

1は在地産鉢である。体部外面は指頭調整で、内面には摺目が入る。摺目は1本ずつの沈線で、不規則である。底部は回転糸切り無調整である。同一個体と思われる破片で、漆によって破損部分を補修したものがあつた。2は在地産鉢である。口縁部近くに1か所焼成後にあけられた孔がある。底部は回転糸切り無調整である。3は在地産土釜である。片方の把手は欠損するが、孔をあけて引き続き使用されていたようである。胴部中位には沈線が一周する。

第27号井戸 (第181図)

1は瀬戸・美濃産壺の底部破片である。外面には鉄釉が施釉される。2は板碑で、上半部を欠損する。紀年銘の他に観無量寿経と板碑造立の主旨が彫られている。紀年は応安二年(1369)一月十三日である。3は板碑で上と下を欠損する。阿弥陀三尊で、両脇に梵字で光明真言が配される。4は板碑で上端部を欠損する。主尊は「キリク」で、両脇に梵字で光明真言が配される。干支は己亥であるが、紀年は欠損して不明である。5は板碑で上と下を欠損する。蓮座と紀年銘が彫られている。紀年は元応三年(1321)六月である。2～5の銘文は主尊を除いた部分の彫りは比較的浅く、葉研彫りにはならない。

第29号井戸 (第180図)

1は在地産皿の底部破片である。底部は回転糸切り無調整である。2は瀬戸・美濃産摺鉢の口縁部破片である。摺目は6条一単位である。口縁部は玉縁状になるので、瀬戸・美濃産深段踏末か大窯初期と思われる。

第30号井戸 (第180図)

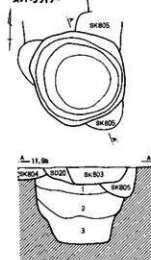
1は在地産皿の底部破片である。底部は回転糸切り無調整である。2は山茶碗の底部破片である。底部は分厚く、高台壘付きにはモミ圧痕がある。胎土は瀬美半島産の製品に近い。底部と高台の形態から12世紀末頃のものと思われる。3は砥石で下端を欠損する。凝灰岩製で、中砥か仕上げ砥になるものと思われる。

第31号井戸 (第182図)

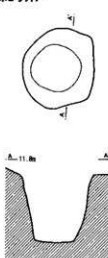
1は板碑で、下半を欠損する。主尊は「キリク」で、年号は風化しており判読できない。二条線は彫りが浅く、比較的新しい年代のものと思われる。2は茶臼の上臼の破片である。石材は安山岩である。直径は15.8cm、高さは10.1cmある。芯棒の穴はくぼみの中央部にあり、供給口を兼ねている。すり合わせ部はすり減っており、すり目は浅い。3は茶臼の下臼の破片である。受け皿の付く形態で、石材は安山岩である。す

第171图 井戸(1)

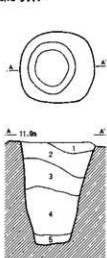
第1号井戸



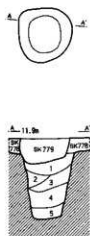
第2号井戸



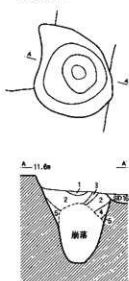
第3号井戸



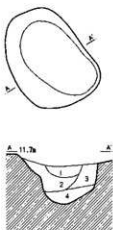
第4号井戸



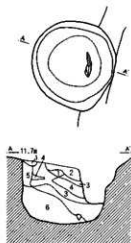
第5号井戸



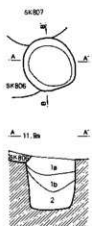
第6号井戸



第7号井戸



第8号井戸



SE1

- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-17°D₉(1cm以下)を中量、3-4°/粒子(2mm以下)を微量含む
- 2層 Hue10YR2/3 黒褐色 0-17°D₉(7cm以下)を多量、黒褐色土7°D₉(10cm以下)を多量に含む
- 3層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-17°D₉(7cm以下)を極多量、黒褐色土7°D₉(5cm)を中量含む

SE3

- 1層 Hue10YR2/3 黒褐色 0-17°D₉(3cm以下)を少量含む
- 2層 Hue10YR2/3 黒褐色 0-17°D₉(3cm以下)を中量含む
- 3層 Hue10YR2/3 黒褐色 0-17°D₉(5cm以下)を多量、黒褐色土7°D₉(2cm以下)を中量、褐色土7°D₉(5cm以下)を少量、3-4°/粒子(3mm以下)を微量含む
- 4層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-17°D₉(3cm以下)を多量、黒褐色土7°D₉(2cm以下)を多量に含む
- 5層 Hue10YR4/4 褐色 0-17°D₉(5cm以下)を多量に含む

SE4

- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-17°D₉(1cm以下)を多量、3-4°/粒子(3mm以下)を微量含む
- 2層 Hue10YR4/4 褐色 0-17°D₉(2cm以下)を多量、黒褐色土7°D₉(2cm以下)を中量含む
- 3層 Hue10YR2/3 黒褐色 0-17°D₉(5cm以下)を中量、黒褐色土7°D₉(2cm以下)を少量、3-4°/粒子(3mm以下)を微量含む
- 4層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-17°D₉(1.5cm以下)を少量、黒褐色土7°D₉(3mm以下)を少量含む
- 5層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-17°D₉(3cm以下)を中量含む

SE5

- 1層 Hue10YR4/1 褐色 0-17°D₉をわずかに含む
- 2層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 0-17°D₉(2cm以下)を少量含む
- 3層 Hue10YR4/1 褐色 0-17°D₉(5mm以下)を少量含む
- 4層 Hue10YR3/2 黒褐色 0-17°D₉(5mm以下)を少量含む
- 5層 Hue10YR3/1 黒褐色 0-17°D₉(5mm以下)を少量含む

SE6

- 1層 Hue10YR4/2 灰黄褐色 0-17°D₉(5cm以下)を多量に含む
- 2層 Hue10YR4/2 灰黄褐色 0-17°D₉(1cm以下)を少量含む
- 3層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 0-17°D₉(5mm以下)を中量含む
- 4層 HueN 3/0 暗灰色 0-17°D₉(1cm以下)を少量含む

SE7

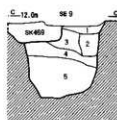
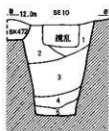
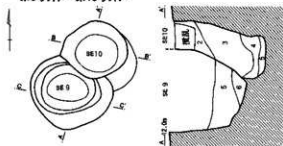
- 1層 Hue10YR4/2
- 2層 Hue10YR3/2 黒褐色 0-17°D₉(5mm以下)を中量含む
- 3層 Hue2.5Y4/4 粉-7°褐色 0-17°D₉(3cm以下)を多量に含む
- 4層 Hue10YR3/1 黒褐色 0-17°D₉(1cm以下)を多量に含む
- 5層 Hue10YR4/2 灰黄褐色 0-17°D₉(5mm以下)を多量に含む
- 6層 Hue2.5Y4/4 粉-7°褐色 0-17°D₉(5cm以下)からなる

SE8

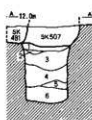
- 1a層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-17°D₉(1cm以下)を少量、3-4°/粒子(1mm以下)を微量含む
- 1b層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-17°D₉(3cm以下)を少量、3-4°/粒子(5mm以下)を微量含む
- 2層 Hue10YR2/3 黒褐色 0-17°D₉(1cm以下)を少量、3-4°/粒子(2cm以下)を微量含む

第172図 井戸(2)

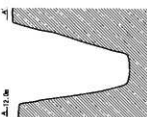
第9号井戸・第10号井戸



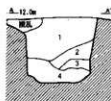
第11号井戸



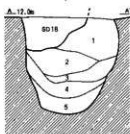
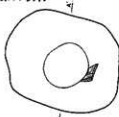
第12号井戸



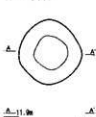
第13号井戸



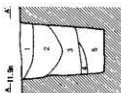
第14号井戸



第15号井戸



第16号井戸



SE9

- 1層 Hae10YR2/3 黒褐色 0-1粒(5m以下)を中量含む
- 2層 Hae10YR2/2 黒褐色 0-17°0'p(3.5cm以下)を少量、3-4°>粒子(1cm以下)を微量含む
- 3層 Hae10YR2/2 黒褐色 0-17°0'p(4cm以下)と黒褐色土7°0'p(4cm以下)からなる
- 4層 Hae7.5YR5/2 灰褐色 0-17°0'p(5cm以下)を多量を含む
- 5層 Hae7.5YR5/2 灰褐色 0-17°0'p(2cm以下)を中量、黒褐色土を少量含む
- 6層 Hae10YR2/2 黒褐色 0-17°0'p(1cm以下)を中量含む

SE10

- 1層 Hae10YR3/2 黒褐色 0-17°0'p(1cm以下)を少量、3-4°>粒子(1cm以下)を微量含む
- 2層 Hae10YR3/2 黒褐色 0-17°0'p(2.5cm以下)をやや多量を含む 少し粘りあり
- 3層 Hae10YR2/2 黒褐色 0-17°0'p(3cm以下)を中量、3-4°>粒子(3mm以下)を微量含む
- 4層 Hae10YR2/2 黒褐色 0-1粒を少量含む
- 5層 Hae10YR4/4 褐色 0-1粒(5m以下)を中量含む

SE11

- 1層 Hae10YR2/3 黒褐色 0-1粒(5m以下)を少量含む
- 2層 Hae10YR3/2 暗褐色 0-1粒(5m以下)を少量、3-4°>粒子(3mm以下)を多量、黄土粒子を微量含む
- 3層 Hae10YR3/2 暗褐色 0-17°0'p(3cm以下)を多量、3-4°>粒子(3mm以下)を微量含む
- 4層 Hae10YR3/2 黒褐色 0-17°0'p(2cm以下)を少量含む
- 5層 Hae10YR3/2 黒褐色 0-17°0'p(1.5cm以下)を多量を含む
- 6層 Hae10YR3/2 黒褐色 0-17°0'p(1.5cm以下)を少量、3-4°>粒子(3mm以下)を少量含む

SE13

- 1層 Hae10YR2/2 黒褐色 0-17°0'p(8cm以下)を多量、黒褐色土7°0'p(1.5cm以下)を少量含む
- 2層 Hae10YR2/2 黒褐色 0-17°0'p(2cm以下)を少量含む
- 3層 Hae10YR2/2 黒褐色 0-17°0'p(3cm以下)を含む
- 4層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17°0'p(1cm以下)を少量、黒褐色土を少量含む

SE14

- 1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-1粒を中量、0-17°0'p(1.5cm以下)を微量、3-4°>粒子(5m以下)を微量、白色粘土(1cm以下)を微量含む
- 2層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-1粒(3mm以下)を多量、黒褐色土7°0'p(5cm以下)を少量、黄土7°0'p(1cm以下)を少量含む
- 3層 Hae10YR2/3 黒褐色 0-1粒を中量、0-17°0'p(1cm以下)を少量含む
- 4層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-1粒(3mm以下)を少量含む
- 5層 Hae10YR4/4 褐色 0-1粒(5m以下)を中量含む

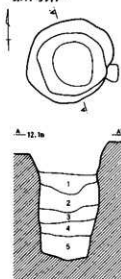
SE16

- 1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17°0'p(1cm以下)を中量含む
- 2層 Hae10YR2/3 黒褐色 0-17°0'p(2.5cm以下)を中量含む
- 3層 Hae10YR2/3 黒褐色 0-1粒を少量含む
- 4層 Hae10YR3/1 黒褐色 粘質土
- 5層 Hae10YR4/4 褐色 0-1粒(5m以下)を中量含む

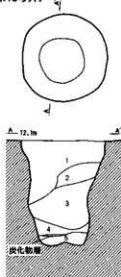


第173図 井戸(3)

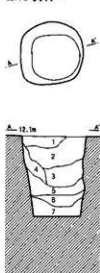
第17号井戸



第18号井戸



第19号井戸



SE17

- 1層 Hue10YR3/2 黒褐色 D-17'D₉9(5cm)を多量に含む
- 2層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-17'D₉9(2cm以下)を少量、3-4'粒子(1cm以下)を少量含む
- 3層 Hue10YR2/2 黒褐色 D-17'D₉9(3cm以下)を中量、黒色土粒子(2mm以下)を少量含む
- 4層 Hue10YR2/3 黒褐色 D-17'D₉9(2cm以下)を少量、3-4'粒子(2mm以下)を微量含む
- 5層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-17'D₉9(2cm以下)を中量含む

SE18

- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-17'D₉9(2cm以下)を中量、3-4'粒子(5mm以下)を少量含む
- 2層 Hue10YR4/4 褐色 D-17'D₉9(5cm以下)を中量、3-4'粒子(5mm以下)を少量含む
- 3層 Hue10YR4/4 褐色 D-17'D₉9(5cm以下)を多量、酸化色土を中量含む
- 4層 Hue10YR3/2 黒褐色 含有物なし
- 5層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-18粒子を中量含む
鉄分を多量に含む

SE19

- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-17'D₉9(1cm以下)を中量、3-4'粒子(5mm以下)を少量、焼土粒子(1mm)を微量含む
- 2層 Hue10YR3/4 暗褐色 D-18粒子(3mm以下)を少量、3-4'粒子(5mm以下)を少量含む
- 3層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-17'D₉9(4cm以下)を中量、3-4'粒子(2cm以下)を微量含む
- 4層 Hue10YR4/6 褐色 D-18粒子からなる
- 5層 Hue10YR2/3 黒褐色 D-17'D₉9(3cm以下)を中量含む
- 6層 Hue10YR4/4 褐色 3-4'粒子(5mm以下)を微量含む
- 7層 Hue10YR3/2 黒褐色 D-18粒子を少量、3-4'粒子(3mm以下)を少量含む

SE20

- 1層 Hue10YR2/3 黒褐色 D-17'D₉9(1.5cm以下)を少量、3-4'粒子(5mm以下)を少量含む
- 2層 Hue10YR2/3 黒褐色 D-17'D₉9(5cm)を多量、3-4'粒子(3mm以下)を少量含む
- 3層 Hue10YR2/2 黒褐色 D-17'D₉9(5cm以下)を中量、3-4'粒子(2cm以下)を中量含む

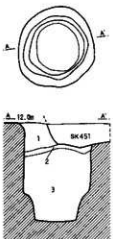
SE21

- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-18粒子(3mm以下)を少量含む
- 2層 Hue10YR2/2 黒褐色 D-17'D₉9(5cm以下)を少量、3-4'粒子(3mm以下)を微量含む

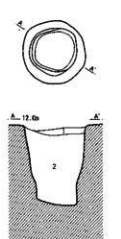
SE23

- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 D-18粒子(5mm以下)を中量、黒褐色土粒子(3mm)を少量含む
- 2層 Hue10YR2/2 黒褐色 D-17'D₉9(8cm以下)を多量に含む
- 3層 Hue10YR2/3 黒褐色 D-17'D₉9(1cm以下)を少量含む
- 4層 Hue10YR2/2 黒褐色 D-17'D₉9(5cm以下)を中量含む
- 5層 Hue10YR2/2 黒褐色 D-18粒子(5mm以下)を少量含む

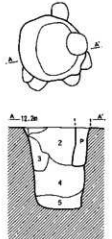
第20号井戸



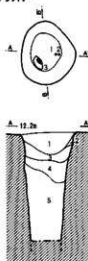
第21号井戸



第23号井戸



第22号井戸



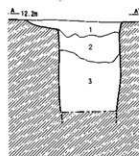
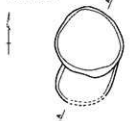
SE22

- 1層 Hue10YR3/2 黒褐色 しまりやや弱い D-18粒子(2mm)を少量、焼土を少量含む
- 2層 Hue10YR4/6 褐色 しまりやや弱い D-18粒子(2mm)をやや多く含む
- 3層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 しまりあり D-18粒子(2mm)をやや多く含む
- 4層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり D-18粒子(3mm)を多量に含む
- 5層 Hue10YR5/6 黄褐色 しまりあり D-18再堆積層

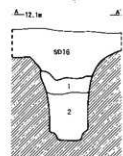


第174図 井戸(4)

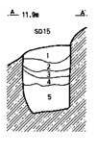
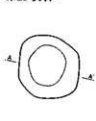
第24号井戸



第25号井戸



第26号井戸



SE24

- 1層 Hue10YR4/6 暗褐色 しまりやや弱い 0-17" Dφ (1-3 cm) をやや多く、焼土をわずかに含む
- 2層 Hue10YR5/6 黄褐色 しまりあり 0-17" Dφ (1-5 cm) かなる 同7" Dφ (3 cm) をわずかに含む
- 3層 Hue10YR5/8 黄褐色 しまり強い
2層より明るい 0-17" Dφ (3-6 cm) かなる

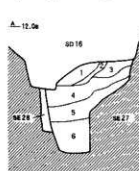
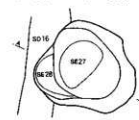
SE25

- 1層 Hue10YR5/1 褐色 しまり悪い 0-14" 粒子を少量含む 沙質
- 2層 HueN 4/0 灰色 しまりなし 0-17" Dφ (1 cm) を中量含む 沙質

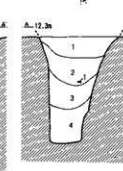
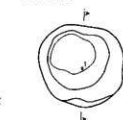
SE26

- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-14" 粒子(3-5 mm)を多量に含む
- 2層 Hue10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-14" 粒子(3-5 mm)をわずかに含む
- 3層 Hue10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-17" Dφ (1-2 cm) を多量に含む
- 4層 Hue10YR3/1 黒褐色 しまりあり
3層より灰色がかかる 0-14" 粒子(3 mm)をわずかに含む
- 5層 Hue10YR3/1 黒褐色 しまりあり 0-17" Dφ (1-5 cm) をやや多く含む

第27号井戸

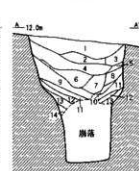
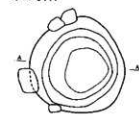


第28号井戸



第29号井戸

第30号井戸



SE27

- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 しまりあり 0-14" 粒子(3 mm)を少量含む
- 2層 Hue10YR3/3 暗褐色 しまりあり 0-14" 粒子(3 mm)をたいへん多く含む
- 3層 Hue10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-14" 粒子(2 mm)をやや多く含む
- 4層 Hue10YR3/1 黒褐色 しまりあり 0-17" Dφ (1-5 cm) をわずかに含む
- 5層 Hue10YR2/1 黒色 しまりあり 鉄分を多く含む
- 6層 Hue10YR3/2 暗褐色 しまりあり 0-17" Dφ (1-3 cm) を多量に含む

SE29

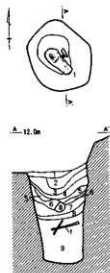
- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 しまりあり 0-14" 粒子(3 mm)を多量、0-17" Dφ (1 cm) を少量含む
- 2層 Hue10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-14" 粒子(3-5 mm)をやや多く含む
- 3層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-14" 粒子(3-5 mm)を多量に含む
- 4層 Hue10YR3/1 黒褐色 しまりあり 0-14" 粒子(3-5 mm)をたいへん多く含む

SE30

- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-14" 粒子(1 mm以下)を中量、0-17" Dφ (3 cm以下)を少量、黒褐色土7" Dφ (3 cm以下)を中量、0-4" 粒子(5 mm以下)を微量、焼土粒子(3 mm以下)を微量含む
- 2層 Hue10YR2/3 黒褐色 0-14" 粒子(3 mm以下)を中量、0-17" Dφ (1.5 cm)を微量、0-4" 粒子(3 mm以下)を微量含む
- 3層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-14" 粒子(1 mm以下)を中量含む
- 4層 Hue10YR2/3 黒褐色 0-14" 粒子(1 mm以下)を少量、0-17" Dφ (2 cm以下)を微量含む
- 5層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-14" 粒子(1 mm)を少量、0-4" 粒子(3 mm以下)を微量含む
- 6層 Hue10YR2/3 黒褐色 0-17" Dφ (1.5 cm以下)を中量、0-4" 粒子(3 mm以下)を微量含む
- 7層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-14" 粒子(5 mm以下)を中量、0-17" Dφ (5 cm)を微量、0-4" 粒子(3 mm以下)を微量含む
- 8層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-17" Dφ (1 cm以下)を少量、黒褐色土7" Dφ (5 cm以下)を少量含む
- 9層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-14" 粒子(1 mm以下)を中量、0-17" Dφ (1.5 cm以下)を中量、黒褐色土7" Dφ (1 cm以下)を少量含む
- 10層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-14" 粒子(1 mm以下)を多量、黒褐色土7" Dφ (1.5 cm以下)を少量含む
- 11層 Hue10YR4/6 褐色 0-14" 粒子を多量、暗褐色土7" Dφ (3 cm以下)を少量含む
- 12層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-14" 粒子を少量、0-17" Dφ (2 cm)を少量含む
- 13層 Hue10YR4/6 褐色 0-14" 粒子を多量、暗褐色土を少量含む
- 14層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-14" 粒子を少量、0-17" Dφ (1 cm以下)を少量含む

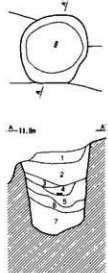


第31号井戸



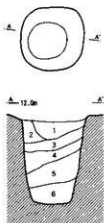
- SE31
- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりなし 0-1粒(5mm以下)を少量含む
 - 2層 Hue10YR2/3 黒褐色 0-1粒(3mm)を少量、0-4粒(1mm以下)を中量含む
 - 3層 Hue10YR4/4 褐色 0-1粒(子)を多量、0-4 γ 0 γ (2cm)を微量、黒褐色土を少量含む
 - 4層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-1 γ 0 γ (1cm以下)を少量、黒褐色土 γ 0 γ (3cm)を中量含む
 - 5層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-1粒(子)(1mm以下)を中量、黒褐色土粒(子)(1mm以下)を少量含む
 - 6層 Hue10YR2/3 黒褐色 0-1粒(子)(1mm以下)を中量含む
 - 7層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-1粒(子)(5mm以下)を少量、0-1粒(子)(1mm以下)を中量含む
 - 8層 Hue10YR2/3 黒褐色 0-1粒(子)(1mm以下)を少量含む
 - 9層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-1粒(子)(1mm以下)を多量、黒褐色土粒(子)(1mm以下)を中量含む

第32号井戸



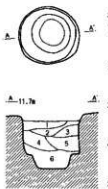
- SE32
- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-1粒(子)(3mm以下)を中量、0-1 γ 0 γ (1.5cm)を微量、0-4 γ 0 γ 粒(子)(2mm以下)を微量含む
 - 2層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-1粒(子)(3mm以下)を中量含む
 - 3層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-1粒(子)(3mm以下)を中量、0-4 γ 0 γ 粒(子)(3mm以下)を微量含む
 - 4層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-1 γ 0 γ (5cm)を中量含む
 - 5層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-1 γ 0 γ (3cm)を中量、黒褐色土 γ 0 γ (3cm)を少量含む
 - 6層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-1 γ 0 γ (2cm)を中量、0-1粒(子)(1mm以下)を中量含む
 - 7層 Hue10YR2/3 黒褐色 0-1粒(子)(5mm以下)を中量、0-1 γ 0 γ (5cm)を少量、黒褐色土 γ 0 γ (5cm)を中量含む

第33号井戸



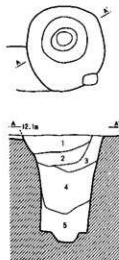
- SE33
- 1層 Hue10YR2/3 黒褐色 0-1粒(子)(3mm以下)を多量、0-1 γ 0 γ (4cm)を少量、0-4 γ 0 γ 粒(子)(3mm)を微量含む
 - 2層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-1 γ 0 γ (3cm)を少量、暗褐色土 γ 0 γ (3cm)を少量含む
 - 3層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-1粒(子)(3mm以下)を中量、0-1 γ 0 γ (2cm)を中量含む
 - 4層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-1粒(子)(3mm以下)を少量、0-1 γ 0 γ (3.5cm)を少量含む
 - 5層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-1 γ 0 γ (5cm以下)を多量、暗褐色土 γ 0 γ (3cm以下)を中量含む
 - 6層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-1 γ 0 γ (1.5cm以下)を中量、暗褐色土 γ 0 γ (5cm以下)を多量を含む

第34号井戸



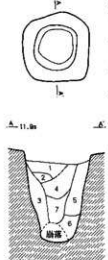
- SE34
- 1層 Hue10YR6 褐色 しまりあり 0-1 γ 0 γ (5cm以上)を多量、黒褐色土 γ 0 γ (2cm)を少量含む
 - 2層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり 0-1 γ 0 γ (3cm)を多量、黒褐色土 γ 0 γ (1.5cm)を少量含む
 - 3層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり 0-1 γ 0 γ (3cm)を中量、黒褐色土 γ 0 γ (3cm以下)を中量含む
 - 4層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり 0-1 γ 0 γ (2-5cm)を多量、黒褐色土 γ 0 γ (3cm以下)を少量含む
 - 5層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-1 γ 0 γ (2cm以下)を中量、黒褐色土 γ 0 γ (1-3cm)を中量含む
 - 6層 Hue10YR4/4 褐色 ややしまりあり 0-1 γ 0 γ (5cm)を中量含む

第35号井戸



- SE35
- 1層 Hue10YR4/4 暗褐色 0-1粒(子)(3mm以下)を中量、暗褐色土粒(子)(3mm以下)を微量、0-4 γ 0 γ 粒(子)(2mm以下)を少量含む
 - 2層 Hue10YR3/4 暗褐色 ややしまりあり 0-1粒(子)(3mm以下)を中量、0-1 γ 0 γ (1.5-4cm)を中量、0-4 γ 0 γ 粒(子)(3mm以下)を少量含む
 - 3層 Hue10YR4/4 暗褐色 0-1粒(子)(2mm以下)を中量含む
 - 4層 Hue10YR2/3 黒褐色 0-1粒(子)(1mm以下)を中量、0-1 γ 0 γ (3cm)を少量、0-4 γ 0 γ 粒(子)(2mm以下)を微量含む
 - 5層 Hue10YR4/4 暗褐色 0-1粒(子)(1mm以下)を多量、0-1 γ 0 γ (3cm)を多量を含む

第36号井戸

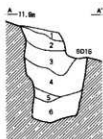
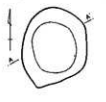


- SE36
- 1層 Hue10YR3/2 黒褐色 0-1 γ 0 γ (3cm)を少量含む
 - 2層 Hue10YR3/2 黒褐色 0-1 γ 0 γ (3-5cm)を多量を含む
 - 3層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-1 γ 0 γ (1cm)を少量、0-1粒(子)を中量含む
 - 4層 Hue10YR1/2 黒色 0-1 γ 0 γ (1cm)を少量、0-1粒(子)を中量含む
 - 5層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-1 γ 0 γ (1cm)を少量、0-1粒(子)を中量含む 3層に似る
 - 6層 Hue10YR2/1 黒色 0-1 γ 0 γ (1-2cm)を中量含む
 - 7層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-1 γ 0 γ (0.5-1cm)を中量、0-1粒(子)を中量含む

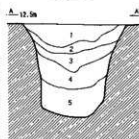
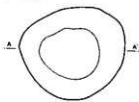


第176図 井戸(6)

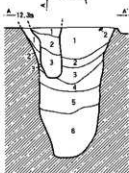
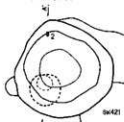
第37号井戸



第38号井戸



第39号井戸



SE37

- 1層 Hue10YR4/2 灰青色 0-1粒子を中量含む
- 2層 Hue10YR3/2 黒褐色 0-17°Dp(0.5-1cm)を多量、0-1粒子を多量に含む
- 3層 Hue10YR3/3 黒褐色 0-17°Dp(2-3cm)からなる
- 4層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-17°Dp(1-30cm)からなる
- 5層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-17°Dp(1cm)を少量含む

SE38

- 1層 Hue10YR3/2 黒褐色 しまりあり 0-1粒(3-5mm)を少量、焼土粒子を少量含む
- 2層 Hue10YR3/3 暗褐色 しまりなし 0-17°Dp(5cm)を多量、黄灰色粘土粒子を少量含む
- 3層 Hue10YR3/3 暗褐色 しまりなし 0-1粒(3-5mm)を少量、0-4°粒子を少量含む
- 4層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 しまりなし 0-17°Dp(3-5cm)を多量、黄灰色粘土粒子を少量含む
- 5層 Hue10YR4/6 褐色 しまりなし 0-1土と黒土との互層 比較的短期間の埋没か?

SE39

- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒(3-5mm)をわずかに含む
- 2層 Hue10YR3/3 暗褐色 しまりあり 0-1粒(3mm)を少量、0-17°Dp(1-3cm)をわずかに含む
- 3層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 しまりあり 0-1粒(3mm)をたいへん多く、0-17°Dp(1-3cm)を多量に含む
- 4層 Hue10YR3/3 暗褐色 しまりあり 0-1粒(3-6mm)をやや多く含む
- 5層 Hue10YR3/2 黒褐色 しまりあり 0-1粒(3-5mm)をたいへん多く含む
- 6層 Hue10YR3/3 暗褐色 しまりあり 0-1粒(3-5mm)をわずかに含む

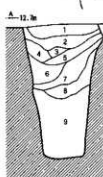
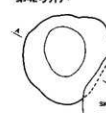
SE42

- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 しまりあり 0-1粒子を極少量、0-17°Dpを少量含む
- 2層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒子を少量、0-17°Dpを少量含む
- 3層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒子を中量、0-17°Dpを中量含む
- 4層 Hue10YR3/3 暗褐色 しまりあり 0-1粒子を極少量含む
- 5層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり 0-1粒子を多量、0-17°Dpを多量に含む
- 6層 Hue10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-1粒子を極少量、0-4°片を少量含む
- 7層 Hue10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-1粒子を極少量、0-17°Dpを少量含む
- 8層 Hue10YR2/2 黒褐色 しまりあり 0-1粒子を極少量、0-17°Dpを極少量含む
- 9層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 しまりあり 0-17°Dpを多量、やや水分を含む

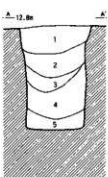
第40号井戸



第42号井戸



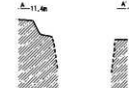
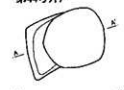
第43号井戸



第41号井戸



第44号井戸



SE43

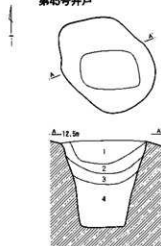
- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 固くしまっている 0-1粒(2-5mm)を多量、焼土粒子を極少量含む
- 2層 Hue10YR2/2 黒褐色 固くしまっている 0-1粒(2mm)を少量含む
- 3層 Hue10YR2/3 黒褐色 固くしまっている 0-1粒(2-5mm)をやや多く含む

- 4層 Hue10YR2/2 黒褐色 しまりあり (水分を含みしまっている) 0-1粒(2-5mm)をやや多く、0-17°Dp(1cm)を少量含む
- 5層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり (水分を含みしまっている) 0-1粒(3-5mm)をやや多く、0-17°Dp(1-6cm)を多量に含む

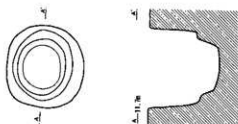


第177図 井戸(7)

第45号井戸



第46号井戸

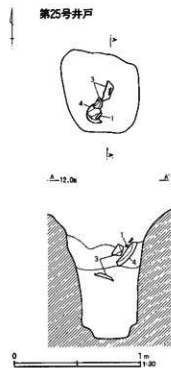


SE45

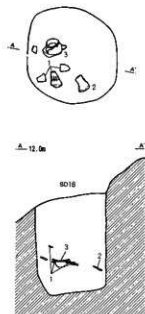
- 1層 Hue10YR3/3 暗褐色 0-17"0寸、黒褐色土を含む
 2層 Hue10YR2/2 黒褐色 0-1粒土を含む
 3層 Hue10YR4/4 褐色 黒褐色土の7"0寸を少量含む
 4層 Hue10YR2/1 黒色 0-17"0寸をわずかに含む



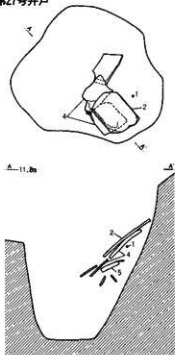
第25号井戸



第26号井戸



第27号井戸



り合わせ部は平坦で、直径は16.4cmある。すり目が付くが、周縁には達していない。底部の挟りは摺鉢状に窪んでいる。4は石臼の上臼の破片で、石材は安山岩である。直径は31.6cm、高さは18.7cmある。芯棒は貫通しておらず、供給口は別にあるものと思われる。すり合わせ部のすり目はすり減っている。5は石臼の上臼の破片で、石材は安山岩である。直径は約34cmあり、上縁部は欠損する。芯棒が中央にあり、供給口は別にあるものと思われる。

第35号井戸 (第182区)

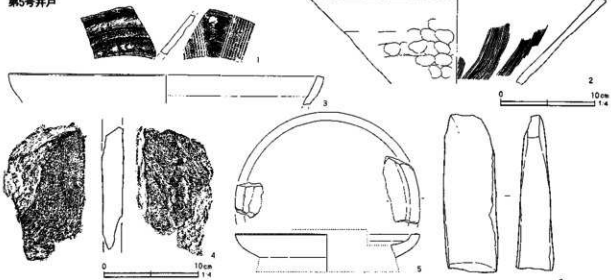
1は在地産鉢の小破片である。摺目は7条一単位で、外面は指頭調整である。外面には煤が付着する。2は在地産鍋の口縁部破片である。推定口径は33.6cmである。

第39号井戸 (第182区)

1は在地産皿である。口縁部が「ハ」の字状に開き、底部は回転糸切り無調整である。口径は11.4cm、底

第178团 井戸出土遺物(1)

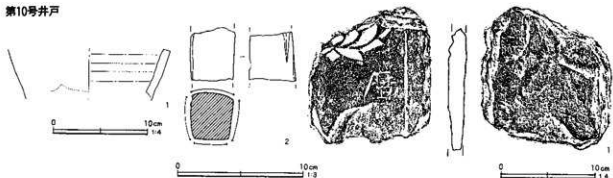
第5号井戸



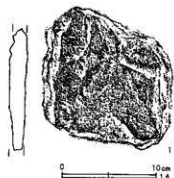
第6号井戸



第10号井戸

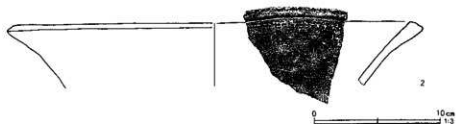


第11号井戸



第179回 井戸出土遺物(2)

第12号井戸



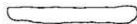
3



4



5



第14号井戸



6

第16号井戸

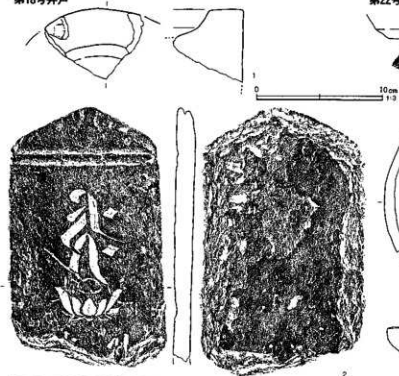


7

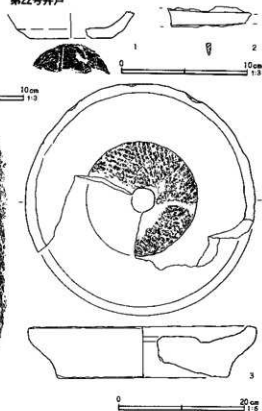


第180团 井戸出土遺物(3)

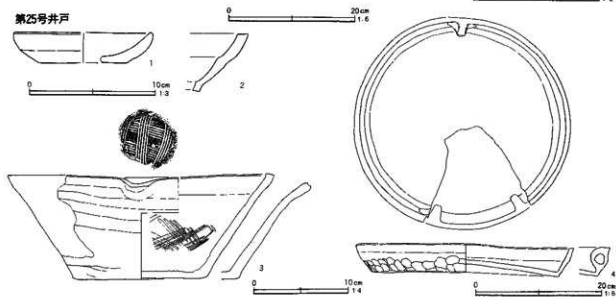
第18号井戸



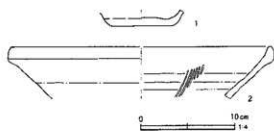
第22号井戸



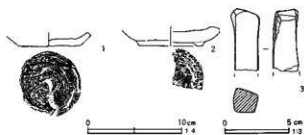
第25号井戸



第29号井戸

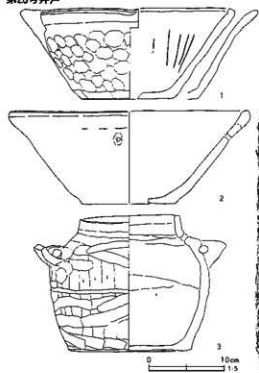


第30号井戸

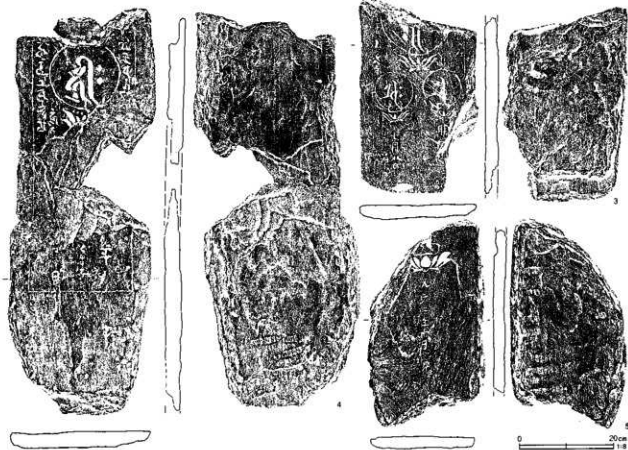


第181図 井戸出土遺物(4)

第26号井戸

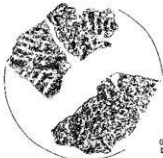
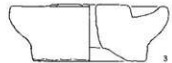
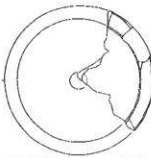
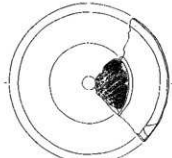
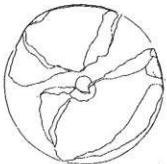
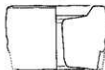
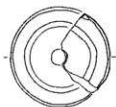
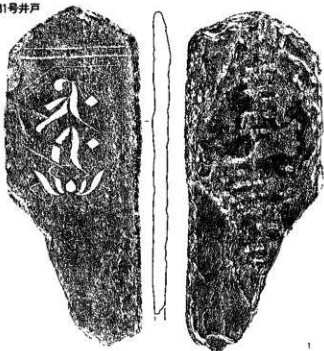


第27号井戸

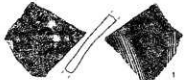


第182図 井戸出土遺物(5)

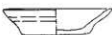
第31号井戸



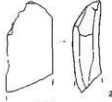
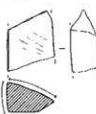
第35号井戸



第39号井戸



第42号井戸



第3表 井戸一覧

番号	旧番号	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	主な出土遺物
SE1	SE1	T-8・T-9	-	1.35	1.14	在地産(皿2、鍋1)
SE2	SE2	T-8	1.28	1.14	1.02	曲物底1
SE3	SE3	S-8	1.16	-	1.61	
SE4	SE4	S-8	-	0.72	1.04	
SE5	SE5	S-9・S-10	1.63	1.20	1.18	在地産(皿1、鉢3、鍋2)、板碑5、茶臼1、瀬戸・美濃産燗鉢、砥石2
SE6	SE6	R-9・R-10	1.66	1.20	0.60	在地産皿1、砥石1、板碑1
SE7	SE7	S-9	1.33	-	0.98	
SE8	SE8	T-9	0.76	-	0.82	
SE9	SE9	S-7・T-7	1.31	-	1.13	在地産鉢1、瀬戸・美濃産壺2、同安窯系青磁1
SE10	SE10	S-7・T-7	1.23	0.90	1.42	在地産(皿9、鉢5、鍋10)、常滑産壺1、砥石2、磨製石杵1 瀬戸・美濃産(壺1、天目茶碗1、灰釉小皿1、燗鉢1)、板碑10
SE11	SE11	S-6・S-7	0.72	-	0.90	板碑1
SE12	SE12	S-6	1.37	-	1.88	在地産(皿1、鉢1)、常滑産壺1、板碑3
SE13	SE13	S-6	1.22	1.12	1.02	在地産皿3、粘土塊2
SE14	SE14	T-6	1.92	1.50	1.53	在地産鉢2、砥石1
SE15	SE15	S-6	0.97	-	1.96	
SE16	SE16	S-9	0.92	-	1.34	土製平秤の鏝1
SE17	SE17	S-6	1.44	1.24	1.86	在地産皿1
SE18	SE18	S-6	1.38	-	1.64	茶臼1、板碑1
SE19	SE19	R-6・S-6	1.00	0.88	1.26	
SE20	SE20	S-6	1.32	1.22	1.53	在地産鉢1、石臼1
SE21	SE21	S-6	1.04	-	1.20	
SE22	SE22	R-4	1.00	0.86	1.74	在地産皿3、板碑2、茶臼1、刀子1
SE23	SE23	R-7	1.26	1.04	1.30	
SE24	SE24	S-4	0.95	-	1.50	
SE25	SE25	P-8・Q-8	1.00	0.80	1.08	在地産(皿1、鉢1、鍋・焙烙9)、板碑1
SE26	SE26	S-4	0.75	-	1.04	在地産(皿2、鉢6、土釜5)、板碑1、石臼1
SE27	SE27	Q-5	1.50	1.34	1.50	在地産(皿3、鉢1、鍋1)、常滑産壺1、瀬戸・美濃産壺1、板碑2、石臼1
SE28	SE28	Q-5	-	-	0.68	
SE29	SE29	Q-6	1.26	-	1.68	在地産(皿4、鍋2)、板碑3、曲物底1、瀬戸・美濃産(燗鉢1、天目茶碗1)
SE30	SE30	R-9	-	-	1.96	在地産皿1、常滑産壺1、山茶碗1、須磨器2、砥石1
SE31	SE31	P-6	1.14	0.94	1.90	在地産鍋1、板碑3、茶臼4
SE32	SE32	P-6	1.06	-	1.48	在地産鉢1、石臼1、桃?の糠1
SE33	SE33	P-6	0.98	-	1.42	
SE34	SE34	Q-8	0.90	-	0.88	
SE35	SE35	Q-8	1.30	1.22	1.68	在地産(鉢1、鍋4)、板碑7
SE36	SE36	Q-8	1.05	-	1.26	
SE37	SE37	Q-9	1.28	1.06	1.45	
SE38	SE38	N-6	1.66	1.42	1.46	糠3
SE39	SE39	Q-6	2.24	1.56	2.04	在地産皿3、板碑11、燗4
SE40	SE40	Q-7	1.74	1.32	1.20	
SE41	SE41	O-12	0.86	-	1.62	
SE42	SE42	L-9	1.17	-	2.12	砥石2、糠1
SE43	SE43	Q-12	1.1	-	1.64	
SE44	SE44	Q-9	1.26	0.88	-	
SE45	SE1	R-12	1.70	1.26	1.38	
SE46	なし	T-9	1.25	-	1.12	

径は7.2cm、器高は2.7cmである。2は板碑の破片である。蓮座と月輪に囲まれた「サ」の部分である。阿弥陀三尊になるものと思われる。梵字の彫りは深く、薬研彫りになるので、比較的古い段階の板碑になるものと思われる。

第42号井戸(第182図)

1は砥石の破片で、上端および下端を欠損する。凝灰岩製で、中砥か仕上げ砥になるものと思われる。2は砥石の破片で、下半を欠損する。凝灰岩製で、中砥か仕上げ砥になるものと思われる。

第4表 井戸出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存	備考
SE5-1	陶器	播鉢	-	-	-	-	B	淡褐	-	瀬戸・美濃産 鉄軸
SE5-2	在地産土器	鉢	(29.2)	-	-	C	B	灰白	20	播目15条-単位
SE5-3	在地産土器	鍋	(32.7)	-	-	C F	B	褐	10	
SE5-4	石製品	板碑	-	-	2.2	-	-	-	-	
SE5-5	石製品	茶臼	(39.6)	-	-	-	-	-	10	下臼の受け皿部 砂岩
SE5-6	石製品	砥石	(12.3)	4.2	2.9	-	-	-	-	凝灰岩 241.40g
SE6-1	石製品	板碑	-	27.0	2.8	-	-	-	-	
SE6-2	石製品	砥石	(11.2)	3.0	-	-	-	-	-	凝灰岩 154.29g
SE10-1	陶器	四耳煮?	-	-	-	-	B	褐灰	30	瀬戸 灰軸 内面も施釉
SE10-2	石製品	砥石	-	3.5	3.6	-	-	-	-	凝灰岩 84.26g
SE11-1	石製品	板碑	-	-	1.6	-	-	-	-	
SE12-1	在地産土器	皿	7.0	3.8	2.3	B C	B	明褐	100	口唇部に油灰痕あり 底部調整A
SE12-2	在地産土器	鉢	(30.9)	-	-	C	B	褐	10	播目あり
SE12-3	石製品	板碑	-	-	2.0	-	-	-	-	
SE12-4	石製品	板碑	70.4	19.4	2.0	-	-	-	-	
SE12-5	石製品	板碑	-	23.0	2.0	-	-	-	-	
SE14-1	石製品	砥石	-	-	1.2	-	-	-	-	中砥 片岩 101.58g
SE16-1	土製品	平秤の踵	4.7	-	4.5	C D H	B	褐~暗褐	90	79.47g
SE18-1	石製品	茶臼	(18.0)	-	-	-	-	-	15	上臼 安山岩
SE18-2	石製品	板碑	-	24.0	3.0	-	-	-	-	
SE22-1	在地産土器	皿	-	6.4	-	B	B	淡褐	35	底部調整A
SE22-2	鉄製品	刀子	-	1.0	0.3	-	-	-	-	
SE22-3	石製品	茶臼	36.4	26.7	8.0	-	-	-	60	下臼 安山岩
SE25-1	在地産土器	皿	10.8	7.0	2.4	F	B	褐	50	底部調整A
SE25-2	在地産土器	焙烙	-	-	4.8	C F	B	褐	-	
SE25-3	在地産土器	鉢	27.4	13.0	10.7	C F	B	褐	50	
SE25-4	在地産土器	焙烙	34.4	29.6	4.3	C	B	暗褐~褐	80	
SE26-1	在地産土器	鉢	(28.0)	(11.2)	(12.0)	C D	C	灰褐	35	播目は1本ずつの沈線 底部調整A
SE26-2	在地産土器	鉢	(31.7)	(12.2)	(12.3)	D H	B	暗灰	20	底部調整A 焼成後穿孔あり
SE26-3	在地産土器	土釜	12.0	16.4	18.0	C D H	B	灰褐	90	底部内面に炭化物付着
SE27-1	陶器	壺	-	12.1	-	-	B	褐	50	瀬戸・美濃産 鉄軸 底部調整B
SE27-2	石製品	板碑	-	34.5	4.0	-	-	-	-	
SE27-3	石製品	板碑	-	24.6	2.8	-	-	-	-	
SE27-4	石製品	板碑	-	30.0	3.6	-	-	-	-	
SE27-5	石製品	板碑	-	24.0	2.2	-	-	-	-	
SE29-1	在地産土器	皿	-	6.5	-	C F	B	赤褐	70	底部調整A
SE29-2	陶器	播鉢	(27.2)	-	-	-	B	褐	20	瀬戸・美濃産 鉄軸 播目6条-単位
SE30-1	在地産土器	皿	-	6.6	-	-	B	明褐	100	底部調整A
SE30-2	陶器	山茶碗	-	6.6	-	-	B	灰	25	瀬尾地方産? 底部調整B E
SE30-3	石製品	砥石	-	1.8	1.8	-	-	-	-	凝灰岩 29.20g
SE31-1	石製品	板碑	-	21.6	2.2	-	-	-	-	
SE31-2	石製品	茶臼	(15.8)	-	10.1	-	-	-	35	上臼 安山岩
SE31-3	石製品	茶臼	(33.9)	(24.4)	12.0	-	-	-	35	下臼 安山岩
SE31-4	石製品	石臼	(31.6)	(31.3)	18.7	-	-	-	25	上臼 安山岩
SE31-5	石製品	石臼	(34.0)	-	-	-	-	-	40	上臼 安山岩
SE35-1	在地産土器	鉢	-	-	-	C	B	灰	-	播目7条-単位 外面に煤付着
SE35-2	在地産土器	鍋	33.6	-	-	C	B	暗赤褐	-	
SE39-1	在地産土器	皿	11.4	7.2	2.7	B C	B	褐	50	底部調整A
SE39-2	石製品	板碑	-	-	2.2	-	-	-	-	
SE42-1	石製品	砥石	-	3.8	1.8	-	-	-	-	凝灰岩 42.16g
SE42-2	石製品	砥石	-	3.6	1.8	-	-	-	-	凝灰岩 62.42g

(井戸出土板碑釈文)

<p>第6号井戸-1</p> <p>キリク</p> <p>(月 輪) (蓮 座)</p> <p>サ (月輪)</p> <p>(光明真言) 嘉曆元年 丙 (一三二六) 十月日 刀 (寅)</p> <p>修 逆</p>	<p>第11号井戸-1</p> <p>(蓮 座)</p> <p>〔曆カ〕</p>	<p>第12号井戸-4</p> <p>キリク</p> <p>(蓮 座)</p> <p>(一三三三) 永徳三年 五月 八日</p>	<p>第12号井戸-5</p> <p>バン</p> <p>(蓮 座)</p> <p>(一三三八) 延文三年四月日</p>
<p>第27号井戸-2</p> <p>光明通照 十方世界 〔為〕〔故男カ〕 現世安穩後生 (一三六九) 己 一月十三日結束等 応安二年 酉</p> <p>〔極カ〕業乃至法界平等利益也 念仏衆生 擧取不捨</p> <p>白 敬</p>	<p>第27号井戸-3</p> <p>(光明真言) キリク</p> <p>(月 輪) (蓮 座)</p> <p>サ</p> <p>(光明真言) サク</p> <p>(月 輪) (蓮 座)</p> <p>明 □</p> <p>七月八日 禪尼日</p>	<p>第27号井戸-4</p> <p>(光明真言) キリク</p> <p>(月 輪) (蓮 座)</p> <p>〔等カ〕年 文己 月日 子</p>	<p>第31号井戸-1</p> <p>キリク</p> <p>(蓮 座)</p> <p>□ □ □ (二カ)</p>
		<p>第27号井戸-5</p> <p>(蓮 座)</p> <p>(一三三二) 元応三年六月</p>	<p>第39号井戸-2</p> <p>(蓮 座)</p> <p>サ (月 輪)</p>

(3) 土壌・溝

中世以降の土壌は705基、溝は27条検出された。土壌のうち514基は第15号溝・第16号溝の内側にあった。土壌と溝は重複が著しいので、個別に平面図を掲載せず、調査区を区別する形にした。また、土壌の平面図は遺構の深さではなく、新旧関係が解るように、新しい遺構の輪郭を優先した。

土壌 (第183図～第255図、第5表～第22表)

個々の土壌の位置や大きさ等については第5表～第22表にまとめた。土壌群の形態や分類については結語でくわしく述べることとし、ここでは出土遺物について説明していきたい。

第113号土壌 1は肥前産磁器の染付碗である。

第157号土壌 1は瀬戸・美濃産陶器の皿で、大窯第1段階か第2段階の時期の製品である。

第174号土壌 1は土錘である。2は在地産鉢の破片である。外面には木口状工具痕があり、内面の播目は9条一単位である。

第185号土壌 1は在地産鉢の口縁部破片である。

第186号土壌 1は常滑産甕の胴部破片を砥石として再利用したものである。外面には押印文がある。

第192号土壌 1は在地産鉢の胴部破片である。内面には播目がある。2は砥石で、下端を欠損する。3は在地産鉢の口縁部破片である。焙烙になる可能性もある。

第193号土壌 1は土錘である。2は常滑産甕である。緑帯は頸部に接するがまだ隙間がある。胴部外面はナゲ調整で、押印文は見られない。赤羽・中野編年の9型式期(15世紀前半)に相当すると思われる。

第206号土壌 1は板碑片で、蓮座・「サ」・光明真言が彫られている。2は板碑片で、キリークが両面に彫られている。

第220号土壌 1は在地産皿である。底部は回転糸切り無調整である。

第226号土壌 1は竿秤の權になるものと思われる。凝灰岩製で、重さは64.7gある。

第227号土壌 1は在地産鉢の胴部破片である。外面には木口状工具痕があり、内面の播目は11条一単位である。

第243号土壌 1は在地産土釜の胴部破片である。退化した鈔か巡る。2は在地産鉢の口縁部破片である。3は常滑産と思われる陶器甕の胴部下端の破片である。砥石として再利用している。4は古瀬戸の胴部破片である。壺か瓶子である。内面のロクロ目が強いので古瀬戸でも後期段階の製品と思われる。被熱しており、第11号溝(N-10グリッド)出土の破片と接合した。5は在地産鉢の口縁部破片である。外面は細かい木口状工具痕があり、内面の播目は6条一単位である。口縁部の断面は四角く、平らである。6は常滑産甕の口縁部破片である。緑帯は頸部に接するがまだ隙間がある。胴部外面はナゲ調整で、押印文は見られない。赤羽・中野編年の9型式期(15世紀前半)に相当すると思われる。同一個体と思われる胴部破片がある(写真図版42)。この破片は漆で補修した痕がある。破片の接合部に漆をしみ込ませた幅約1.5cmの布をあてて補修している。7は板碑の小破片である。梵字が彫られる。8は平瓦の破片である。凹面・凸面ともにミガキ調整される。9は石臼の白臼の破片で、芯棒と供給口の部分である。10は銭貨で、「咸平元寶」である(第268図)。11は土錘である。これらの遺物は覆土中から散在して出土した破片で、この土壌に伴う副葬品とは考え

られない(第207図)。

第244号土壺 1は在地産鉢の破片である。同じ土壺出土の壺(2)の蓋として出土した。また、第243号土壺出土の破片と接合した。外面は指頭調整で、内面に撞目は無い。底部は静止糸切り無調整である。2は完形の在地産壺である。土壺の底面をさらに10cm程掘り、壺の胴部下半は埋められていた(第207図)。中には土が詰まっていたが、骨片は残っていないかった。外面は丁寧なミガキ調整で、その下に所々木口状工具痕が残る。底部は回転糸切り無調整である。

第245号土壺 1は在地産鉢の片口部分の口縁部破片である。撞目が見られる。2は砥石で上端および下端を欠損する。凝灰岩製で、中砥か仕上げ砥になるものと思われる。3～5は土錘である。

第246号土壺 1・2は古瀬戸の縁袖小皿である。底部は回転糸切り無調整で、口縁部のみに灰釉が漬け掛けられる。古瀬戸後期IIIかIV期(15世紀前半)の製品である。3は古瀬戸の尊式花瓶の底部破片である。底部は回転糸切り無調整である。灰釉が施される。古瀬戸後期IIかIII(15世紀前半)の製品である。4～6は在地産鉢である。これらは覆土上層～中層から出土したので、この土壺に伴う副葬品とは考えられない(第207図)。

第255号土壺 1は在地産土釜の胴部破片である。退化した鐙が巡る。2は砥石で、上端と下端を欠損する。凝灰岩製で、小型である。

第258号土壺 1・2は在地産皿である。1は底部回転糸切り後一部ヘラ削り調整、2は回転糸切り後無調整である。3は土錘である。

第259号土壺 1は在地産鍋の口縁部破片である。焙烙になる可能性もある。2は常滑産壺の破片を砥石と

して再利用したものである。3は磨石と思われる。

第265号土壺 1は常滑産壺の胴部破片である。

第280号土壺 1は砥石で、上端と下端を欠損する。片岩製で、荒砥になるものと思われる。

第295号土壺 1は瀬戸・美濃産皿である。口縁部に鉄釉が漬け掛けされる。

第300号土壺 1は常滑産壺の口縁部破片である。断面N字状の口縁部形態である。赤羽・中野編年6 a～6 b型式期(13世紀後半)の製品である。

第301号土壺 1は常滑産壺の底部破片である。底部は砂が付着している。2は常滑産壺の胴部破片である。破片の1辺を砥石として再利用している。

第305号土壺 1～3は在地産皿で、副葬品と思われる。4は丸瓦の破片である。凹面に糸切り痕と布目庄痕があり、凸面はヘラナデ調整される。5は銭貨で、「永楽通寶」である(第268図)。

第307号土壺 1は板碑の基部である。「日」と、その両側に梵字が彫られている。

第310号土壺 1は頭を欠損する鉄釘である。

第313号土壺 1は瀬戸・美濃産狭み皿の口縁部破片である。灰釉が漬け掛けされる。大窯第1段階(15世紀末)の製品である。2は丸瓦の破片である。

第314号土壺 1は平瓦の破片で、両面に糸切り痕が残る。また、凹面には布目庄痕もある。

第315号土壺 1は平瓦の破片で、両面に離れ砂が付着する。2は丸瓦の破片である。凹面に糸切り痕と布

目瓦痕があり、凸面はヘラナデ調整される。3は板碑の基部である。厚みがあり、しっかりしている。

第317号土壌 1は古瀬戸の平碗の底部破片である。底部は回転ヘラ削り調整されるが、高台は歪んでいる。内面は灰釉が施釉される。古瀬戸後期Ⅴ期（15世紀後半）頃の製品である。

第322号土壌 1は板碑で、基部を欠損する。表を上にして覆土層から出土した。阿弥陀三尊（キリーク・サク・サ）の周囲に光明真言を配する。キリークは月輪に囲まれる。また、「永正十三年（1516） 正本禪門 四月九日」と紀年・戒名が彫られる。

第326号土壌 1は在地産皿の底部破片である。

第329号土壌 1は在地産皿の底部破片である。底部は回転糸切り無調整である。

第331号土壌 1は在地産皿の口縁部破片である。2は陶器甕の胴部破片である。産地は不明である。

第333号土壌 1は在地産鉢の口縁部破片である。外面は指頭整形される。2は在地産皿である。

第344号土壌 1は在地産鉢の口縁部破片である。外面は木口状工具痕があり、内面は摺目がある。2は陶器甕の胴部破片である。

第348号土壌 1は木製容器の破片である。

第372号土壌 1は木製容器の破片で、炭化している。

第400号土壌 1は在地産皿の底部破片である。底部は回転糸切り無調整である。2は在地産鍋の口縁部破片である。焙烙になる可能性もある。口唇部は平坦で、やや外側に張り出す。

第401号土壌 1は在地産焙烙である。2は瀬戸・美濃産播鉢である。全面に鉄釉が施釉される。

第405号土壌 1は在地産皿の底部破片である。

第417号土壌 1は在地産皿の底部破片である。底部は回転糸切り無調整である。

第428号土壌 1は在地産皿で、底部の中央に径8mmの穴が焼成前にあけられている。

第431号土壌 1は瀬戸・美濃産皿で、灰釉を全面施釉する。底部破片は第16号溝（P-5グリッド）から出土した。2次的に被熱を受けている。

第438号土壌 1は在地産皿の底部破片である。2は在地産焙烙の口縁部破片である。

第443号土壌 1は在地産皿の底部破片である。2は在地産鍋の口縁部破片で、焙烙になる可能性もある。

第449号土壌 1は在地産焙烙の口縁部破片である。

第450号土壌 1は在地産鉢の胴部破片である。摺目は2段あり、上段は波状の摺目で、その下に交差する摺目が付けられる。

第474号土壌 1は在地産皿の底部破片である。

第478号土壌 1は在地産皿の底部破片である。底部は回転糸切り無調整である。

第481号土壌 1～2は在地産皿である。3は炭化した木製容器の破片である。4は石臼の上臼の破片である。すり合わせ部の目ははっきり観察できる。

第488号土壌 1は大型の磁石である。

第501号土壌 1は在地産皿の底部破片である。

第502号土壌 1は刀子の刃部の破片である。

第503号土壌 1は在地産焙格の口縁部破片である。

第507号土壌 1は在地産皿の口縁部破片である。

第508号土壌 1は在地産焙格の口縁部破片である。

第514号土壌 1は平瓦の小破片で、凹面は燻し焼成される。

第515号土壌 1は磁器の碗で、白磁になる可能性がある。2は在地産鉢の胴部破片である。

第517号土壌 1は瀬戸・美濃産摺鉢の口縁部破片である。鉄軸が施軸される。

第520号土壌 1は炭化した木製容器の破片である。

第527号土壌 1は在地産焙格の口縁部破片である。

第548・549号土壌 1は在地産皿である。2は絹雲母片岩製の砥石である。下半を欠損する。

第570号土壌 1は在地産皿の底部破片である。

第575号土壌 1・2は在地産皿である。

第580号土壌 1は在地産焙格の口縁部破片である。耳は底部に付かない形態である。

第582号土壌 1は石臼の上臼である。推定径は24.2cmで、挽木孔は方形で、飾りは無い。2は絹雲母片岩製の砥石である。4面使用している。

第610号土壌 1は在地産鍋の口縁部破片である。焙格になる可能性もある。

第613号土壌 1は完形の在地産皿である。底部は回転糸切り無調整後、スノコ状の圧痕が付く。口縁部には煤が付着する。土壌底面からやや浮いた場所から口縁部を下にして出土した(写真図版47)。

第617号土壌 1は炭化した木製容器の破片である。2は下半を欠損した砥石の破片である。

第619号土壌 1は在地産皿の底部破片である。

第646号土壌 1は在地産皿の底部破片である。底部は風化が著しく、調整は観察できない。

第649号土壌 1は在地産皿の口縁部破片である。

第651号土壌 1は在地産鉢の底部破片である。

第663号土壌 1は瀬戸・美濃産小壺の口縁部破片である。鉄軸が施軸される。

第680号土壌 1は在地産皿の底部破片である。

第685号土壌 1は青銅製品の破片である。細い凸線が1本あるが、器種は不明である。

第688号土壌 1・2は在地産皿である。

第694号土壌 1は在地産皿の底部破片である。

第700号土壌 1は凝灰岩製の砥石の破片である。

第701号土壌 1は瀬戸・美濃産小皿で、口縁部に鉄軸が濱け掛けされる。

第737号土壌 1は鉄釘である。

第739号土壌 1は在地産皿の底部破片である。2は凝灰岩製の砥石の破片である。

第743号土壌 1は凝灰岩製の砥石の破片である。

第747号土壌 1は青銅製の鋸口の破片である。推定径22cmである。周縁に2本の凸線が巡る。

第751号土壌 1は在地産香炉の口縁部破片である。入れ子になった菱形の押印が1段巡る。

第766号土壌 1は在地産鍋の口縁部破片である。2は凝灰岩製の砥石の破片で、下半を欠損する。

第767号土壌 1は在地産皿の底部破片である。

第768号土壌・第769号土壌 1は磨石と思われる。

第792号土壌 1は古瀬戸の緑釉小皿である。底部は回転糸切り無調整で、口縁部に灰釉が塗り掛けられる。古瀬戸後期Ⅲ期かⅣ期（15世紀前半）の製品であると思われる。

第793号土壌 1は瀬戸・美濃産播鉢の底部破片である。底部は回転糸切り無調整である。

第797号土壌 1は凝灰岩製の砥石である。

第807号土壌 1は在地産皿で、口縁部に油炎痕がある。底部は回転糸切り無調整である。

第810号土壌 1は板碑の破片である。銘文があるが、部分のため詳細は不明である。

第812号土壌 1は在地産皿である。2は在地産鉢で

ある。外面には木口状工具痕が残る。3は在地産焙烙になるものと思われる。

第813号土壌 1・2は在地産鉢の底部破片である。3は大型の砥石である。凝灰岩製で、被熱している。

溝(第183図～第279図、第256図～第260図、第23表～第26表)

溝は27条検出された。この中で確実に中世に遡るものは第14号溝、第15号溝、第16号溝、第19号溝、第20号溝、第23号溝、第24号溝、第25号溝、第27号溝である。この他の溝の確実な時期は解らない。

第6号溝

K-8・K-9・L-10・M-10グリッドに位置する(第184図～第187図・第191図)。第9号溝・第10号溝との新旧関係は不明で、時期も特定できなかった。北側の上場は調査区域外にかかっているため溝の幅は不明で、深さは約0.6mである。南北方向の軸はN-15°-Wで、やや西にふれる。遺物は十数点と少なく、1点を図化した(第256図)。1は瀬戸・美濃産菊花皿で、長石釉が施釉される。

第7号溝

K-10・L-10・M-10グリッドに位置する(第187図・第191図)。第10号溝との新旧関係は不明で、溝の時期も特定できなかった。幅は約0.5mで、深さは約0.2mと浅い。南北方向の軸はN-15°-Wで、やや西にふれる。遺物は十数点と少なく、図化できる遺物も無かった。

第8号溝

L-8・M-9グリッドに位置する(第184図～第186図・第190図)。第119号土壌・第161号土壌・第162号土壌よりも古いが、時期は特定できなかった。幅は約0.42mで、深さは約0.25mと浅い。南北方向の軸はN-5°-Wで、やや西にふれる。遺物は十数点と少な

く、図化できる遺物も無かった。

第9号溝

L-8グリッドからQ-8グリッドへ南北方向にのび、Q-8グリッドで直角に折れて第16号溝と重複する(第204図・第205図・第246図)。発掘調査時点ではこの重複部分を第16号溝の新・旧として捉えた。しかし、今回報告書を作製するにあたり、現在の地籍図の地割りと比較し、第16号溝(新)は第9号溝とした(第274図)。よって、今回第16号溝として報告した遺物の中には第9号溝の遺物が含まれている可能性が高い。第14号溝・第16号溝よりは新しいが、その他の重複する溝との新旧関係は不明である。幅約1.6mで、深さは約0.7mある。L-8グリッドからN-8グリッドにかけては南北方向の軸がN-15-Wで、O-8グリッドからP-8グリッドにかけては南北方向の軸は磁北をとる。遺物はさほど多くなかったが、近代の陶磁器も出土しており、現在の地籍図の地割りと合致するので溝の時期は近代としておきたい。図化できた遺物は3点あった(第256図)。1は石製碗で、背面を砥石として再利用している。2・3は平瓦で、良く焼し焼成される。残瓦の一部になる可能性もある。

第10号溝

N-8-N-12-O-12グリッドに位置する(第189図～第193図)。第12号溝よりは古いが、その他の重複する遺構との新旧関係は不明である。幅は約1.5mで、深さは約0.5mある。O-12グリッド付近になると幅約0.4m、深さ約0.2mで、規模が小さくなる。遺物はほとんど出土せず、溝の時期も特定できなかった。

第11号溝

N-8-N-10-O-10-P-10-Q-10-R-10グリッドに位置する(第191図・第196図・第248図)。第12号溝よりは古いが、その他の重複する遺構との新旧関係は不明である。溝の時期は特定できなかった。幅は約2.25mで、深さは約1.3mある。N-10グリッド

で直角に折れて南下し、南北方向の軸はN-15-Wである。遺物は約50点出土し、平安時代の土師器・須恵器、中世の在産皿・鉢、近世の灰釉徳利などがあった。図化できた遺物は12点あった(第256図)。1は須恵器壺の底部破片である。胎土には白色針状物質が含まれるので南比企窯跡群の製品である。2・3は在産皿の底部破片である。4～7は在産鉢の破片で、5を除き摺目がある。4の外縁は木口状工具痕が残る。5の外縁は指頭調整である。8は瀬戸・美濃産皿で、所々に鉄軸が付着する。口縁部だけに鉄軸が施軸される皿と思われる。9・10は常滑産の壺の胴部破片である。10は割れ口の2辺を砥石として再利用している。11・12は瓦である。凹凸面ともにミガキ調整される。

第12号溝

P-10-O-11-O-12-N-13グリッドに位置する(第208図)。重複するすべての遺構よりも新しいので、溝の時期は近代が現代と思われる。幅は約1.1m、深さは約0.5mである。遺物はほとんど出土せず、図化できる遺物も無かった。

第13号溝

O-5グリッドに位置する(第195図)。第14号溝との新旧関係は不明で、溝の時期も特定できなかった。幅は約0.55mで、深さは約0.5mある。遺物は十数点と少なく、3点を図化することができた(第256図)。1は在産皿である。内面に漆のような物質が付着している。2は在産鉢である。3は在産鍋である。第621号土塊出土破片と接合した。

第14号溝

O-3グリッドからO-9グリッドにかけて東西方向にのび、O-10グリッドで直角に折れて南下する(第194図～第198図・第248図)。規模は幅0.75mで、深さは0.3mとさほど大きくはない。この溝のO-4グリッドでは鉄貨が一括埋納されていた(第194図)。鉄貨は全部で18枚あり、詳細は第32表にまとめた。一番古

いものは景德元寶で、一番新しいものは永樂通寶であった。また、この地点から約8m離れた調査区際でも銭貨が1枚出土した（遺存状態が悪く、銭種は不明）。銭貨が出土しているため、第14号溝は中世に遡る溝と思われる。遺物は約50点出土し、21点を図化することができた。1～18はO-4グリッドで出土した銭貨である。銭種等については第32表にまとめた。銭貨は約15cm四方の中に散在しており、さし銭であったかは判らない。19は在地産鉢である。口縁部外面は木口状工具によるナデ調整で、体部外面は指頭調整である。20は常滑産壺の胴部破片で、割れ口の1辺を砥石として再利用している。21は平瓦である。

第15号溝

S-4・R-4・Q-4・P-5～P-7グリッドに位置する（第199図～第204図・第216図～第220図）。第16号溝の外側にあり、Q-4グリッドからは第16号溝に沿っている。第16号溝よりも古い。幅は約0.9m、深さは約0.5mで規模は小さい。断面形態は箱薬研になっており、R-4グリッドの第330号土壌付近で底が残っており、土構状の施設になる可能性もある。P-7グリッドから東は第9号溝・第16号溝に破壊されて残っていない。遺物は約30点あり、5点を図化することができた（第256図）。1・2は在地産鉢の口縁部破片である。2は在地産鍋の口縁部破片である。3は陶器の胴部破片で、割れ口の1辺を砥石として再利用している。4は凝灰岩製の砥石である。5は板碑である。光明真言等の部分と思われる。

第16号溝

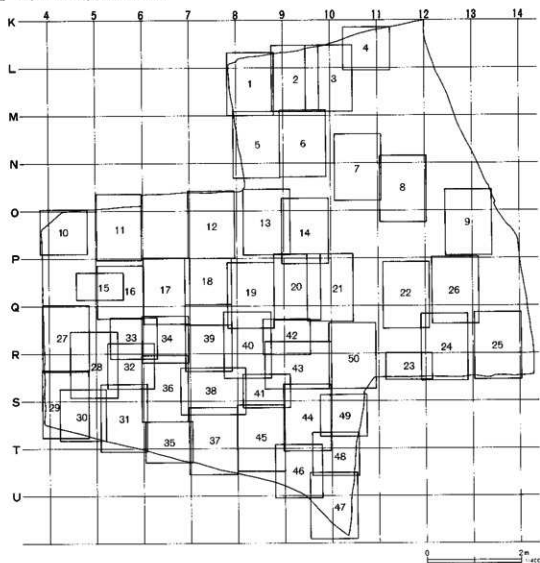
S-4・R-5・Q-5・P-5～P-8・Q-9・R-10・S-10・T-9グリッドに位置する（第200図～第208図・第217図～第220図・第240図・第244図～第248図）。断面形態は箱薬研で、幅約3m、深さ約1.1mである。規模が大きく、溝というよりは堀である。第16号溝は鬼門にあたる部分が隅切りされており、方形ではない。南辺は調査区域外になり、検出できなかつ

た。調査区南辺の囲堀沿いは細長く窪地になっているので第16号溝の南辺はこの囲堀沿いにある。そうならば、第18号溝と第26号溝が第16号溝の南辺になる可能性が高い。南北方向の一辺は約40m、東西方向の一辺は約53mある。南北方向は約10度、東にふれている。調査区域内で土橋や橋などの出入り口の施設は検出されなかった。調査区域外の溝の南辺にあるものと思われる。遺物は約400点出土し、平安時代の土師器・須恵器、中世の在地産皿・鉢、近世の瀬戸・美濃産陶磁器などがあつた。溝の時期は中世に遡るが、近世の遺物が出土しているため、18世紀頃まで上部は凹地になっていたものと思われる。図化できた遺物は73点あつた（第257図～第259図）。1～4は在地産皿である。5～18は在地産鉢である。5～8は口唇部が丸いので摺目はないと思われる。9は解らないが、10～18は摺目がある。19～26は在地産焙烙である。器高は4.6～7.2cmのものがある。27～33は陶器摺鉢である。32は常滑産で、壺壺系の「片口鉢II類」と呼ばれているものである。その他は瀬戸・美濃産である。34・35は同一個体の陶器壺で、瀬美産と思われる。36・37は青磁である。36は龍泉窯系の碗で、37は同安窯系の皿である。38は常滑産壺の胴部破片である。39は瀬戸・美濃産扶み皿である。大家第1段罎頭（16世紀初頭）の製品である。40は青磁碗になるものと思われるが、産地は不明である。高台皿付き以外は施釉される。41は瀬戸・美濃産の皿で、見込みに菊花の押印がある。全体に灰釉が施釉される。大窯2～3段罎頭（16世紀中頃）の製品である。42～44は瀬戸・美濃産の天目茶碗である。45は瀬戸・美濃産のミニチュア壺で、ままごと道具になるものと思われる。外面には緑釉が施釉される。46は瀬戸・美濃産の皿である。口縁部内外面と見込み中心部（窪んだ部分）に長石釉が施釉される。17世紀前半頃の製品と思われる。47は瀬戸・美濃産の筒茶碗で、鉄釉と灰釉が掛け分けられている。18世紀後半以降の製品と思われる。48・49は瀬戸・美濃産の碗で、灰釉が施釉される。18世紀後半以降の製品と思われる。50は瀬戸・美濃産磁器の染付碗である。19世紀代

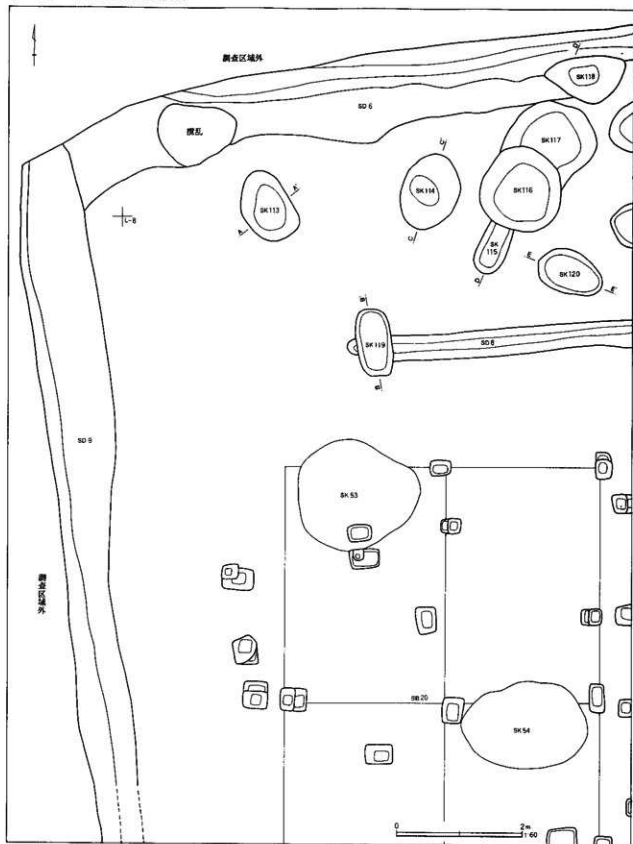
の製品と思われる。51は在地産の暖房具である。1辺約24cmの正方形で、4本の脚が付く。火鉢や掘り炬燵のヒイレとして使用したものである。外面は櫛状工具の指突によって文様が付けられている。燻し焼成され、器表面は黒色である。近世以降のものと思われる。52は軒平瓦で、「掛かりの瓦」の形態である。15世紀代になるものと思われる。53は椀瓦の軒先部である。左巻きの三巴文で、そのまわりに珠文が8個めぐる。近世のものと思われる。54～57・60～62は磁石である。54・60は結晶片岩製、55～57・61・62は凝灰岩製である。

58・59は石製硯の破片である。63は鉄製品であるが用途は不明である。X線で2か所に紙止めが確認された。64～66は釘である。断面は方形である。67は刀子の破片である。68は板碑である。「キリク（蓮座）」の下に、「(建武カ)」の年号の両脇に光明真言が記されている。69～73は石臼である。すべて上臼で、71は径が小さいので茶臼になる可能性もある。73の挽木孔は方形で、飾りは無い。74・75は寛永通寶である(第272図)。「寶」の字から古寛永銭ではなく、新寛永銭である。

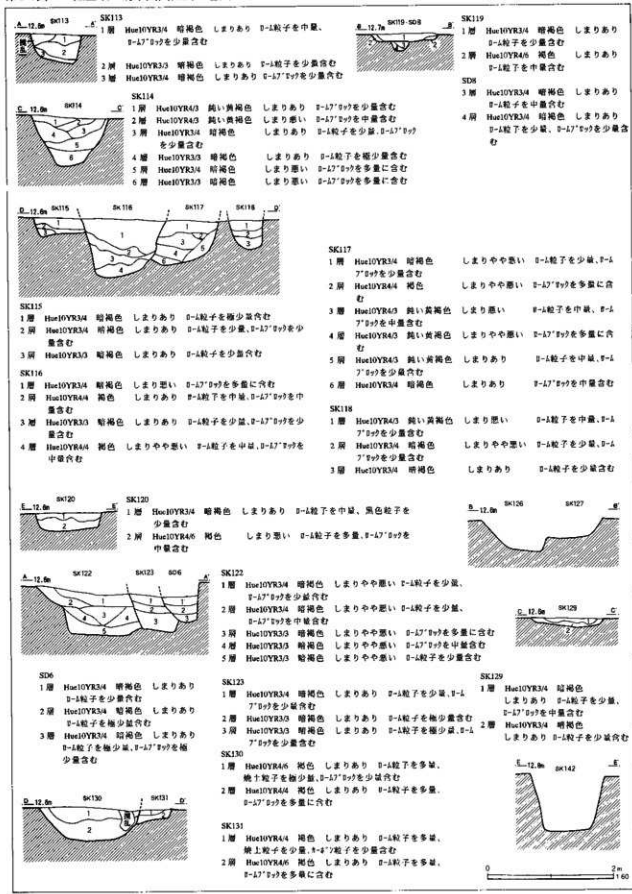
第183図 B区土壌・溝平面図の位置



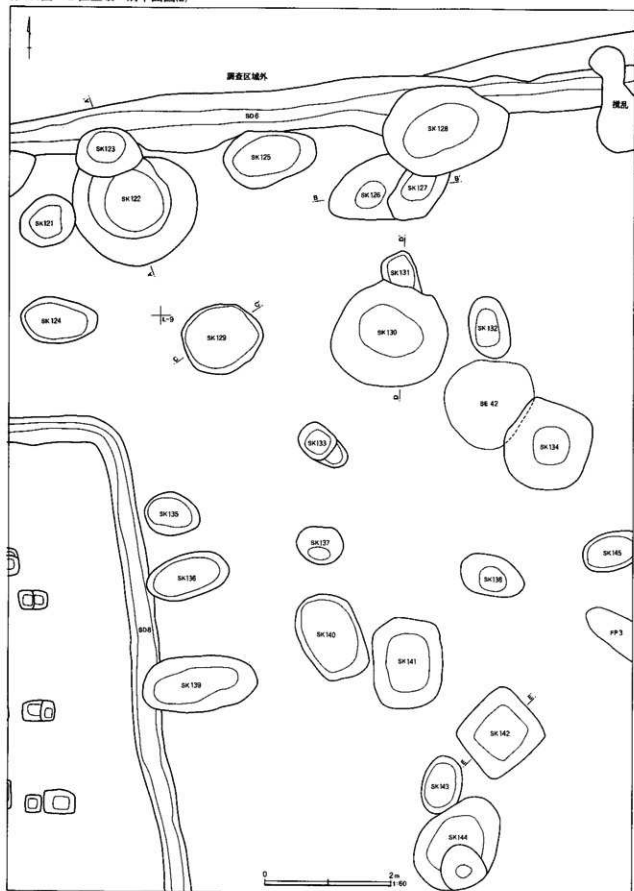
第184图 B区土壤·清平面图(1)



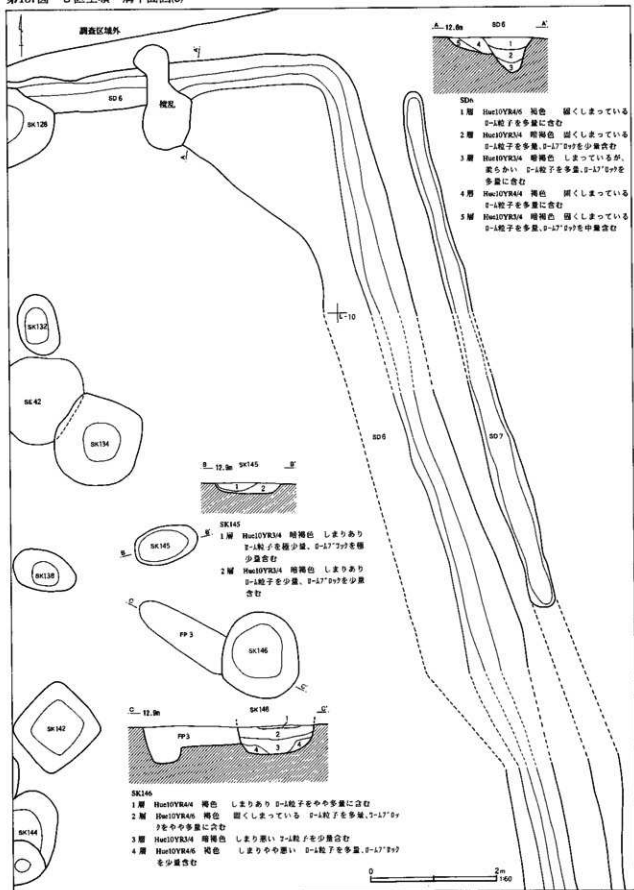
第185図 B区土壌・溝平面図(IX)2土層図

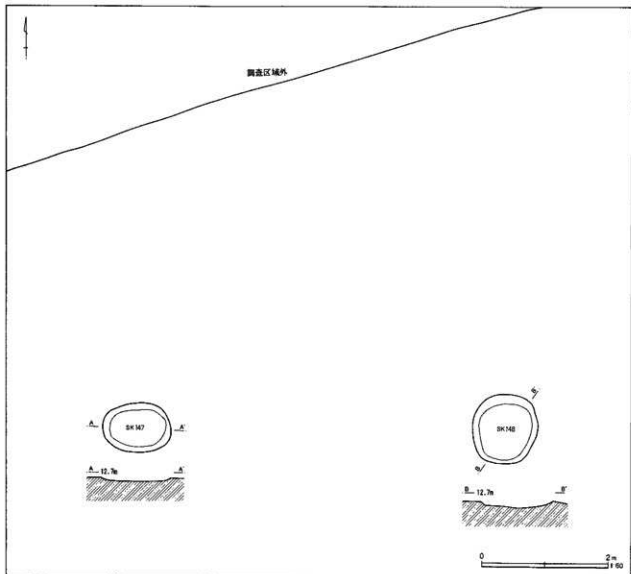


第186图 B区土壤·清平面图(2)

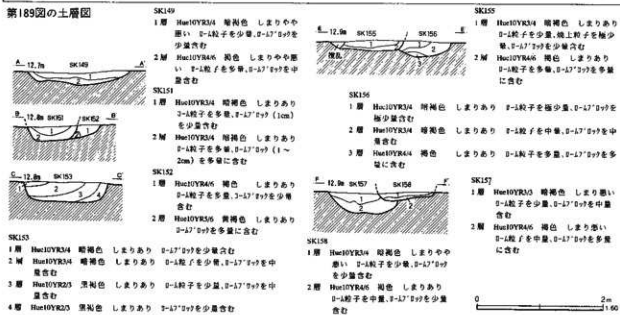


第187図 B区土墳・溝平面図(3)

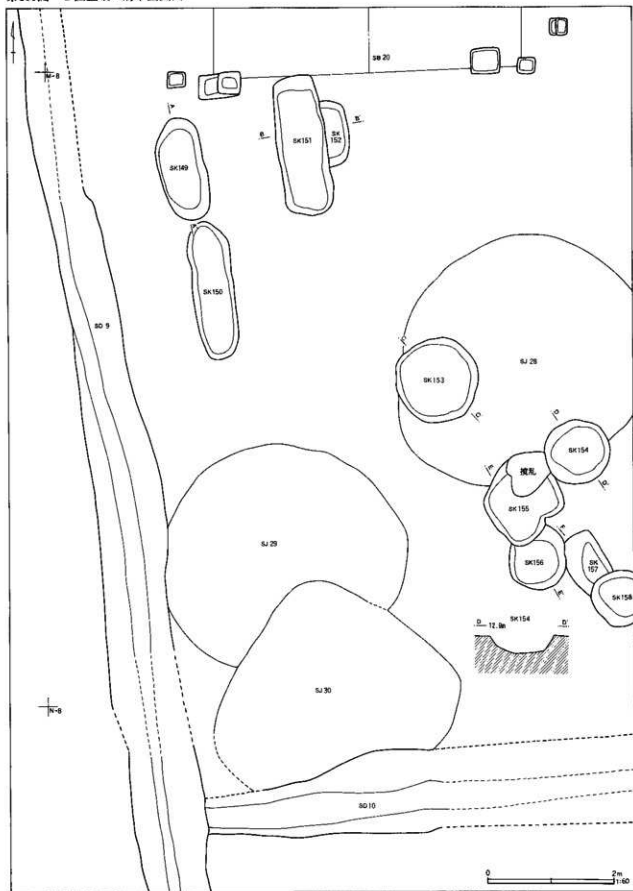




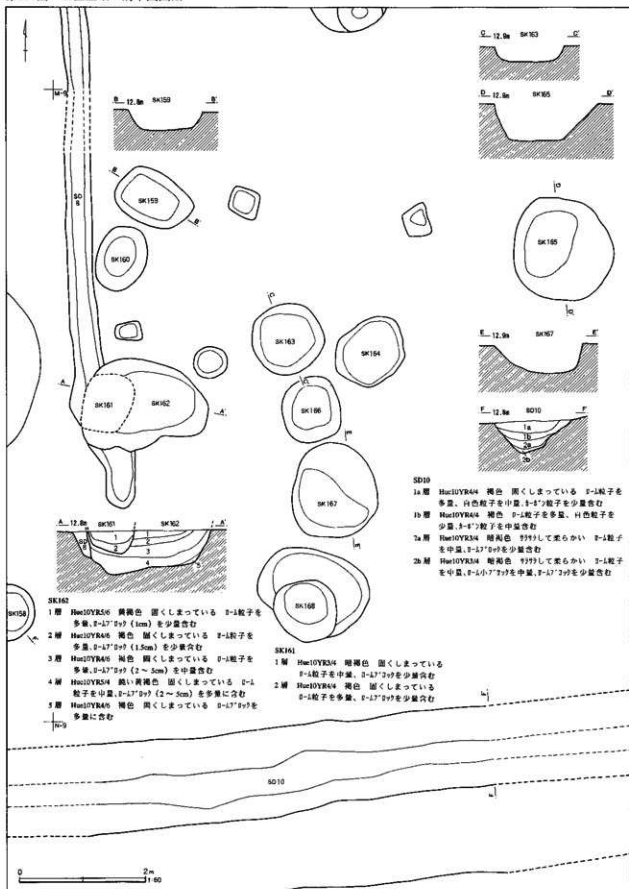
第189図の土層図



第189图 B区土壤・溝平面图(5)



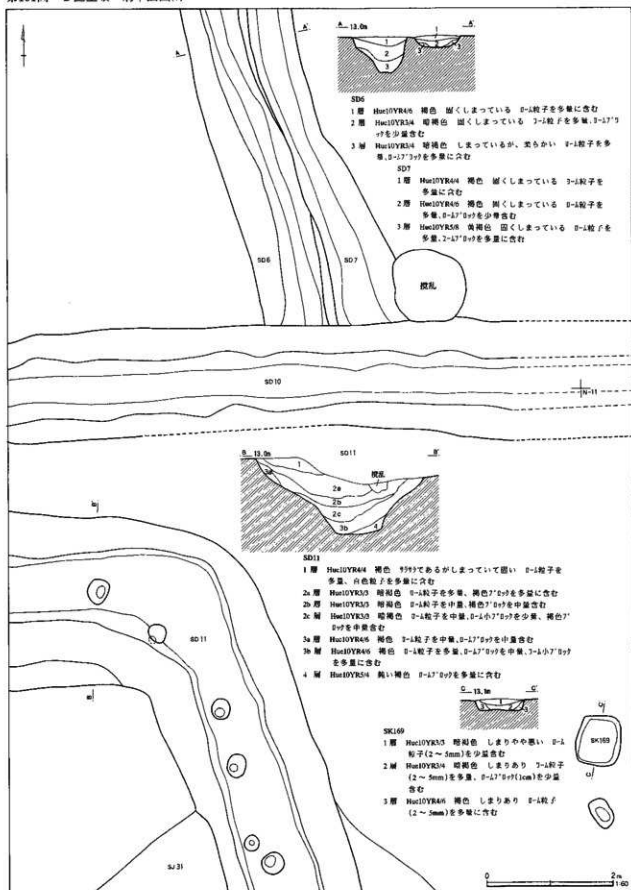
第190図 B区土墳・溝平面図(6)



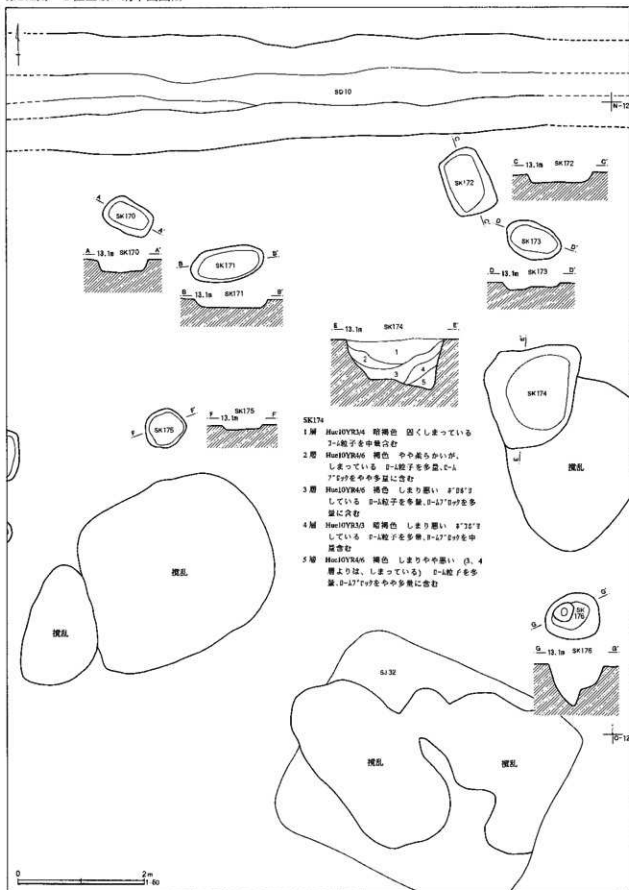
- SD10
 1a層 Hae10YR44 褐色 固くしまっている 0-1粒子を多量、白色粒子を中量、赤-黒?粒子を少量含む
 1b層 Hae10YR44 褐色 0-1粒子を多量、白色粒子を少量、赤-黒?粒子を中量含む
 2a層 Hae10YR34 緑褐色 9?9?して柔らかい 0-1粒子を中量、0-1?0?を少量含む
 2b層 Hae10YR34 緑褐色 9?9?して柔らかい 0-1粒子を中量、0-1小?7?を中量、0-1?2?を少量含む

- SK162
 1層 Hae10YR56 黄褐色 固くしまっている 0-1粒子を多量、0-1?2? (1cm) を少量含む
 2層 Hae10YR46 褐色 固くしまっている 0-1粒子を多量、0-1?2? (1.5cm) を少量含む
 3層 Hae10YR46 褐色 固くしまっている 0-1粒子を多量、0-1?2? (2~5cm) を中量含む
 4層 Hae10YR54 鈍い黄褐色 固くしまっている 0-1粒子を中量、0-1?2? (2~5cm) を多量を含む
 5層 Hae10YR46 褐色 固くしまっている 0-1?2?を多量を含む

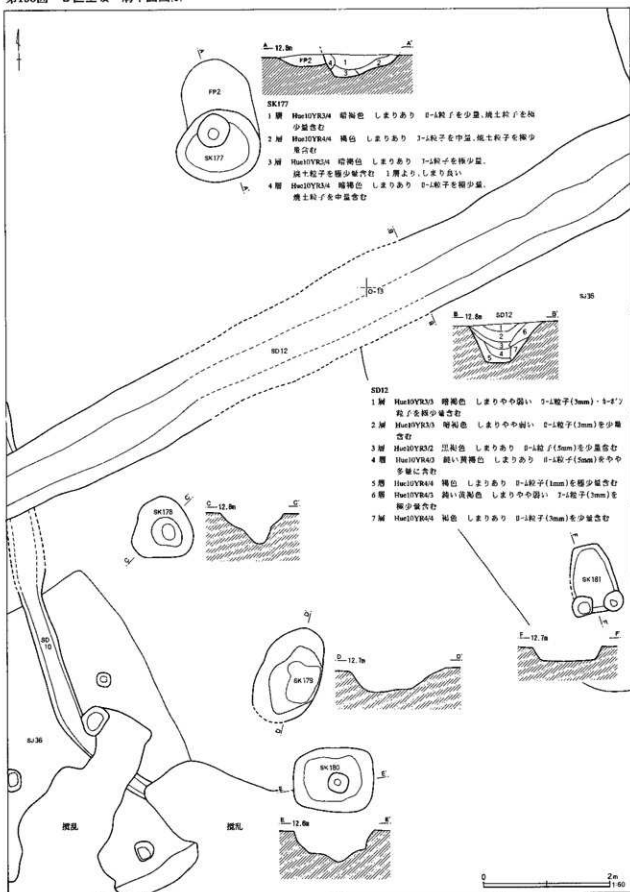
- SK161
 1層 Hae10YR34 緑褐色 固くしまっている 0-1粒子を中量、0-1?2?を少量含む
 2層 Hae10YR44 褐色 固くしまっている 0-1粒子を多量、0-1?2?を少量含む

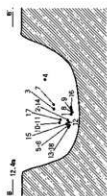
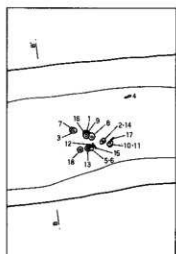
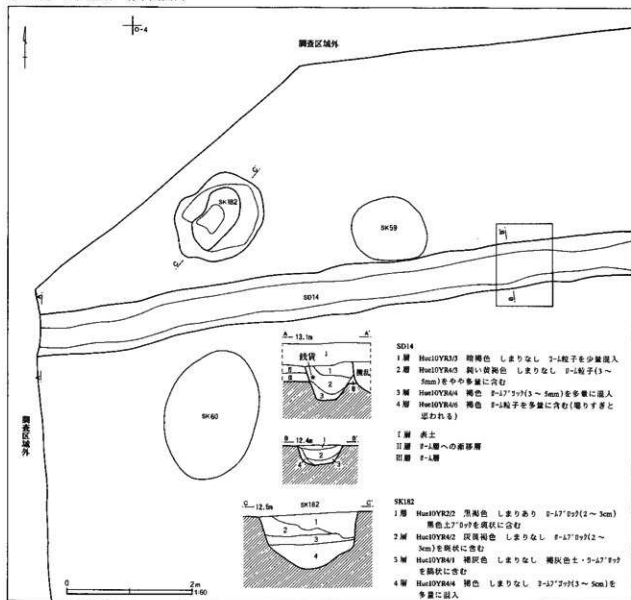


第192図 B区土壤・溝平面図(8)



第193図 B区土壤・溝平面図(9)

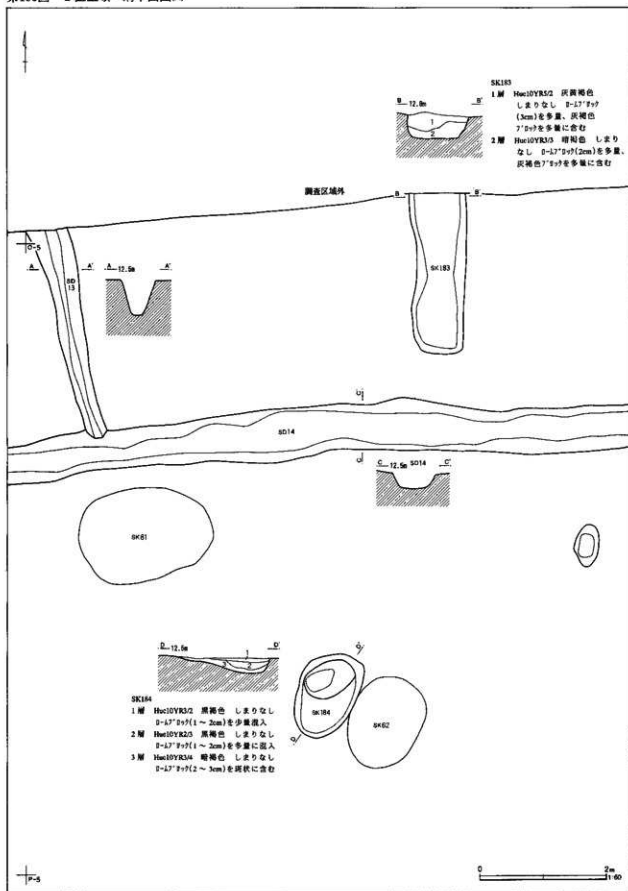




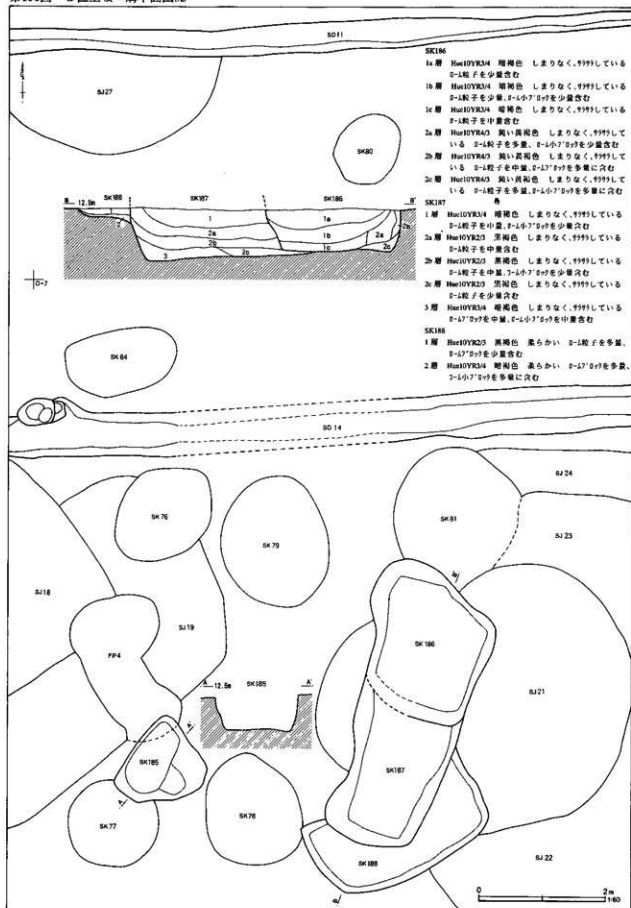
- | | |
|--------|---------|
| 1 草種元室 | 10 草種元室 |
| 2 雑草元室 | 11 草種元室 |
| 3 天竺元室 | 12 天竺元室 |
| 4 天竺元室 | 13 天竺元室 |
| 5 草種元室 | 14 草種元室 |
| 6 草種元室 | 15 草種元室 |
| 7 草種元室 | 16 草種元室 |
| 8 草種元室 | 17 草種元室 |
| 9 草種元室 | 18 草種元室 |

0 1m 1/20

第195図 B区土壌・溝平面図(1)

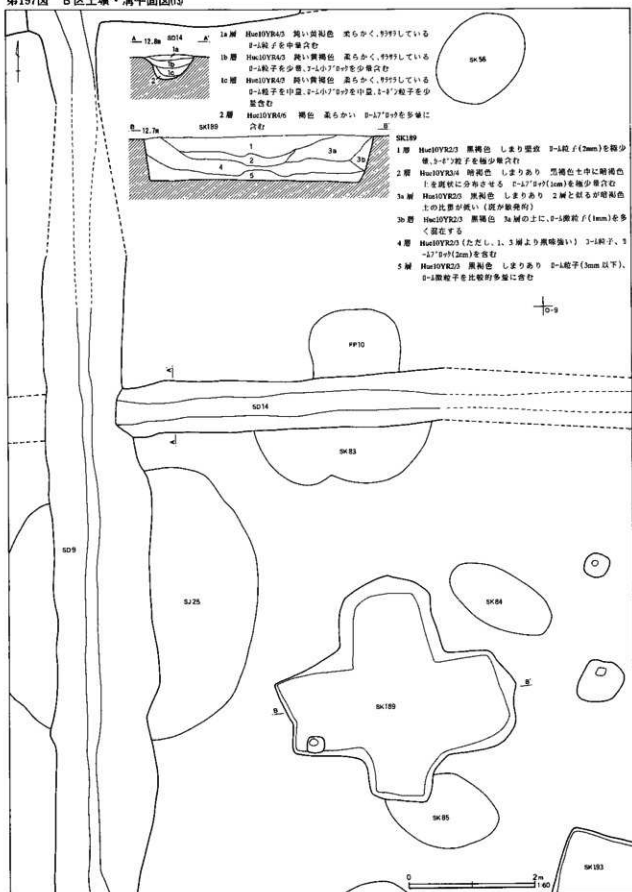


第196図 B区土壌・溝平面図(2)

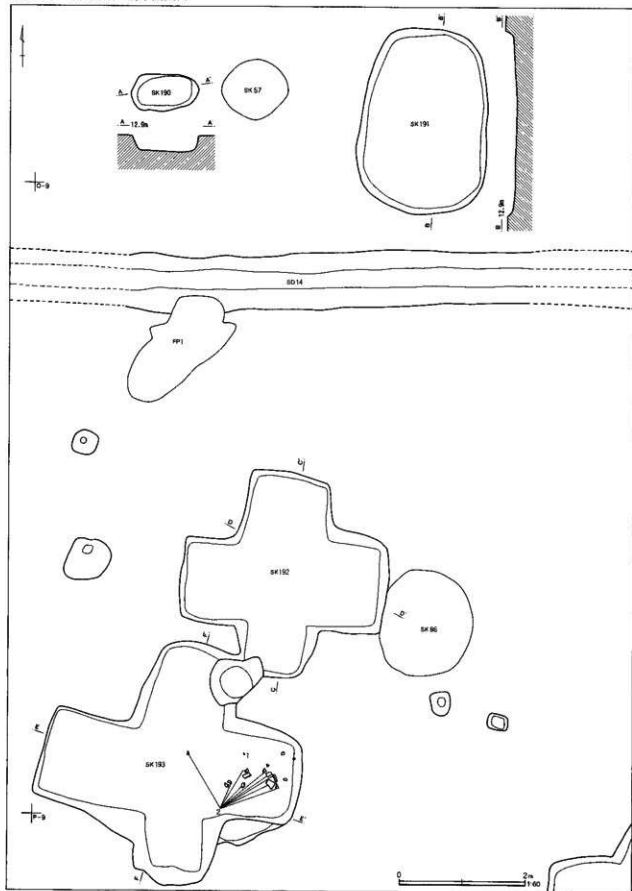


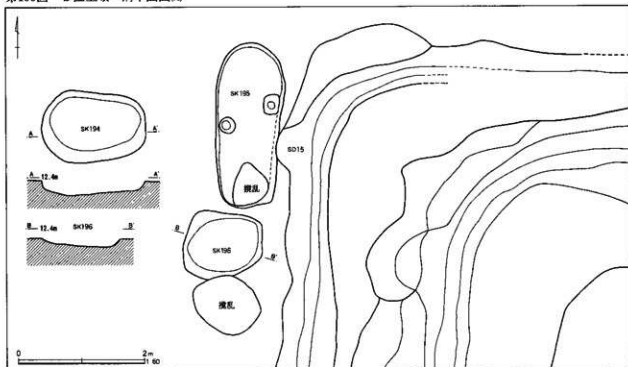
- SK186
- 1a層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりなく、9999している
D-1粒子を少量含む
 - 1b層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりなく、9999している
D-1粒子を少量、D-1小7 D-9を少量含む
 - 2a層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりなく、9999している
D-1粒子を少量含む
 - 2b層 Hae10YR4/3 黄い灰褐色 しまりなく、9999している
D-1粒子を多量、D-1小7 D-9を少量含む
 - 2c層 Hae10YR4/3 黄い灰褐色 しまりなく、9999している
D-1粒子を中量、D-17 D-9を少量含む
 - 2d層 Hae10YR4/3 黄い灰褐色 しまりなく、9999している
D-1粒子を多量、D-1小7 D-9を少量含む
- SK187
- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりなく、9999している
D-1粒子を中量、D-1小7 D-9を少量含む
 - 2a層 Hae10YR2/3 黒褐色 しまりなく、9999している
D-1粒子を中量、D-17 D-9を少量含む
 - 2b層 Hae10YR2/3 黒褐色 しまりなく、9999している
D-1粒子を少量含む
 - 3層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりなく、9999している
D-17 D-9を中量、D-1小7 D-9を少量含む
- SK188
- 1層 Hae10YR2/3 黒褐色 表らかい D-1粒子を多量、
D-17 D-9を少量含む
 - 2層 Hae10YR3/4 暗褐色 表らかい D-17 D-9を多量、
D-1小7 D-9を少量含む

第197図 B区土壌・溝平面図(13)

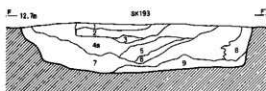
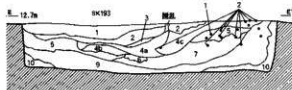
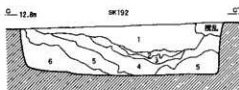


第198图 B区土坑·清平面图④





第199図の土層図



SK192

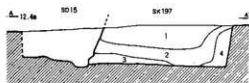
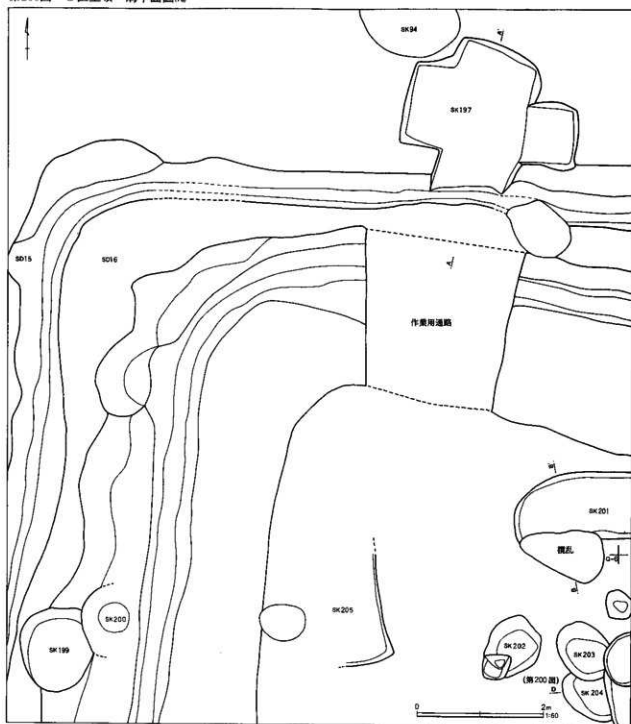
- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒子、0-4°粒子、粘土粒子を少量含む
- 2層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 黒褐色土が斑状に分布 1層よりやや粘りがある
- 3層 Hae10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-4°粒子を少量、0-1粒子(2~3mm)を比較的多量に含む
- 4層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-17°0分(1cm)を少量、0-1粒子を多量に含む
- 5層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-17°0分を少量、0-1粒子を微量含む 暗褐色土が斑状に分布する
- 6層 Hae10YR3/3 暗褐色 しまり弱い 0-17°0分を少量、0-1粒子を多量に含む

SK193

- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりややあり 0-1粒子と黒褐色土7°0分(1cm)が局所的に分布
- 2層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 黒色土と暗褐色土が薄い層状をなして変化する
- 3層 Hae10YR2/3 暗褐色 しまり弱い
- 4層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりややあり 0-1粒子を微量含む
- 4層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1粒子を粘多量に含む
- 4層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 黒色土と暗褐色土が薄い層状をなして変化する
- 5層 Hae10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-17°0分(1~3cm)が斑状に分布
- 6層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-17°0分と0-1粒子が主体をなす
- 7層 Hae10YR2/3 暗褐色 しまりあり 0-1微粒子と褐色土7°0分が斑状に分布
- 8層 Hae10YR4/6 褐色 しまり弱い 0-1微粒子(1mm以下)主体
- 9層 Hae10YR2/2 暗褐色 しまり強い 黒褐色土が主体 0-1粒子(2~3mm)を微量含む
- 10層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1微粒子が主体



第200図 B区土壌・溝平面図(1)



SK201

1層 Huc10YR3/1 黒褐色 しまりあり 0-1粒子(3-5mm)を少量含む

SK197

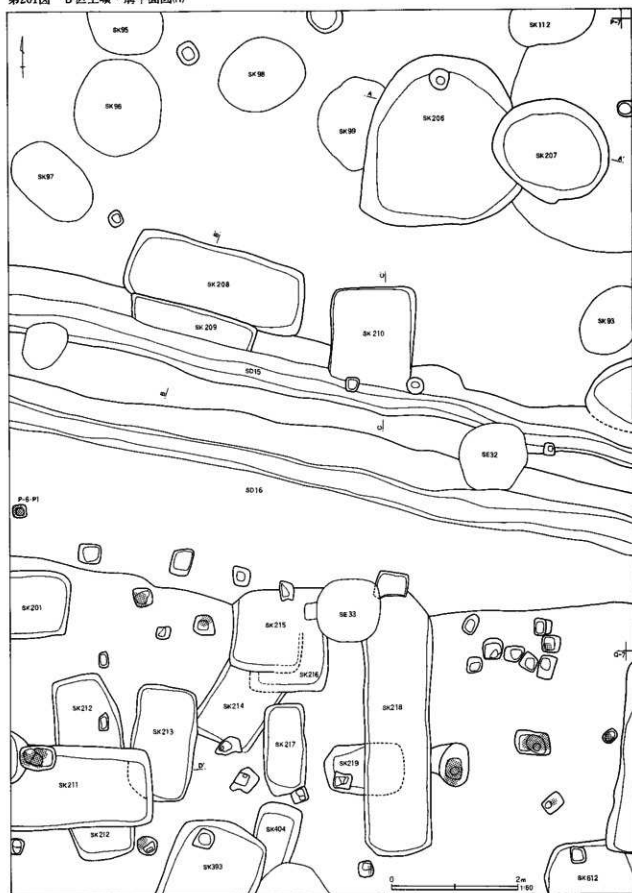
1層 Huc10YR2/5 黒褐色 しまりあり 0-1粒子・粘土粒子を若干, 0-1% 粒子を比較的多く含む

2層 Huc10YR2/2 黒褐色 しまりあり 黒色上主体 粘土粒子・0-1°粒子を若干含む

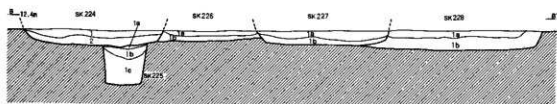
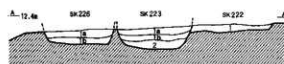
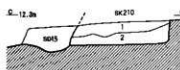
3層 Huc10YR2/3 黒褐色 しまりややあり 0-1粒子・0-1度粒子(1mm以下)からなる

4層 Huc10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒子をやや含む

第201图 B区土壤・清平面图①

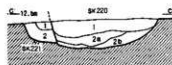


第202図 B区土壌・清平面図(別)土層図



- SK224
1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1粒子を少量、0-1小7"0を少量、0-17"0を少量含む
2層 Hae10YR3/0 暗褐色 0-1小7"0を多量、0-17"0を多量、0-180子を多量、粘土粒子を少量含む

- SK225
1a層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1小7"0を少量、0-17"0を少量、黒色7"0を中量含む
1b層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1粒子を多量、0-1小7"0を中量、0-17"0を少量含む
1c層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1粒子を中量、0-1小7"0を中量、0-17"0を中量含む



- SK220
1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまり強い 0-1粒子を多量、0-1小7"0を多量に含む
2a層 Hae10YR4/0 鈍い黄褐色 しまり強い 0-1小7"0を多量、0-17"0を中量含む
2b層 Hae10YR4/5 鈍い黄褐色 しまり強い 0-1小7"0を多量、0-17"0を多量に含む
- SK221
1層 Hae10YR3/0 暗褐色 0-1粒子を多量、0-1小7"0を少量含む
2層 Hae10YR4/4 暗褐色 0-1小7"0を多量、0-17"0を多量に含む

- SK206
1層 Hae10YR4/2 灰黄褐色 しまりあり 0-1粒子(3-5mm)を少量含む
2層 Hae10YR4/0 鈍い黄褐色 しまりあり 0-1粒子(3-5mm)を少量含む
3層 Hae10YR3/0 暗褐色 しまりあり 0-17"0を多量に含む

- SK207
1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりなし 0-17"0を多量に含む
2層 Hae10YR4/4 褐色 しまりあり 0-17"0を多量に含む
- SK208
1層 Hae10YR3/0 暗褐色 しまりなし 0-1粒子(3-5mm)を少量含む
2層 Hae10YR3/0 黒褐色 しまりなし 0-1粒子(3-5mm)を少量、粘土粒子を少量含む

- SK209
1層 Hae10YR4/4 褐色 しまりあり 0-1粒子(3-5mm)を多量に含む
2層 Hae10YR3/2 原褐色 しまりなし 0-1粒子(3-5mm)を多量に含む
3層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりなし 0-17"0を多量に含む
- SK210
1層 Hae10YR4/4 褐色 しまりあり 0-17"0を多量に含む
2層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-17"0を多量に含む

- SK204
1層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒子(3-6mm)を少量含む
2層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-17"0を少量含む

- SK211
1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒子(3-6mm)-0-17"0を多量に含む
2層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-17"0を少量含む
3層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-17"0を多量に含む
- SK213
1層 Hae10YR4/0 鈍い黄褐色 しまりあり 0-1粒子(3-6mm)を多量、0-17"0を少量含む
2層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒子(3-6mm)を多量、0-17"0を少量含む

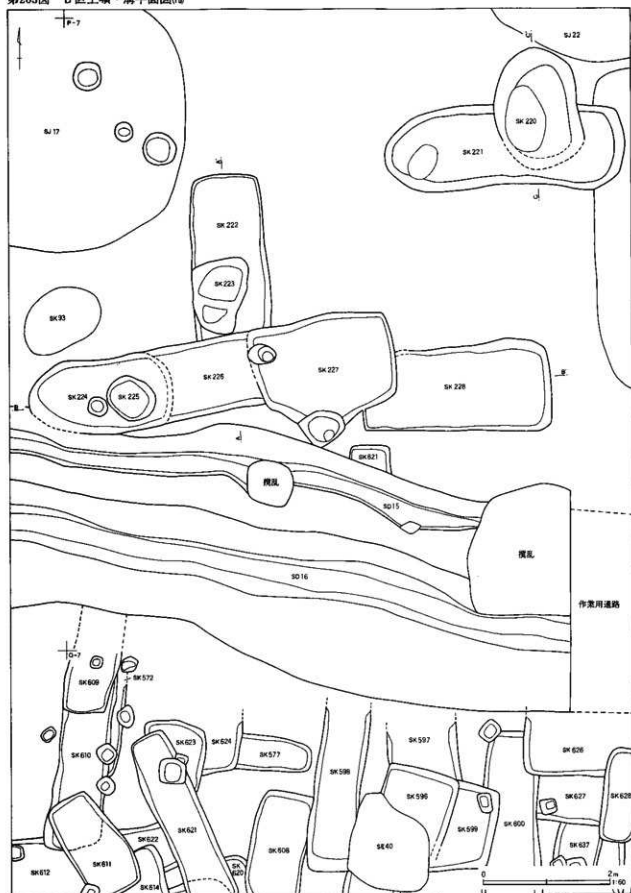
- SK222
1層 Hae10YR3/0 暗褐色 0-17"0を中量、黒色7"0を少量、粘土粒子を少量、粘土7"0を少量含む

- SK223
1a層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1粒子を多量、0-17"0を少量含む
1b層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1粒子を多量、0-17"0を少量含む
2層 Hae10YR4/6 褐色 0-17"0を多量に含む

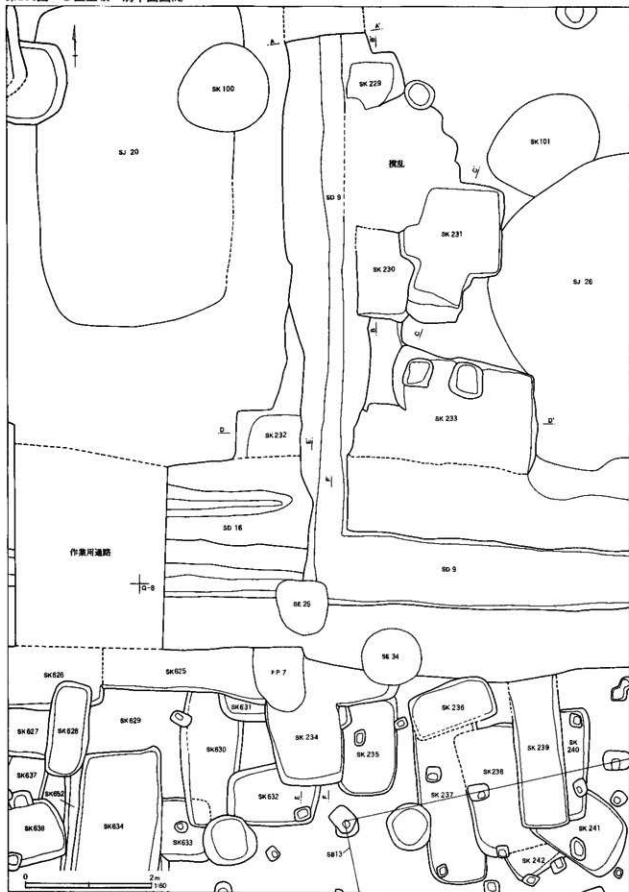
- SK225
1a層 Hae10YR2/5 原褐色 0-1粒子を少量、0-17"0を少量含む
1b層 Hae10YR2/5 原褐色 0-1粒子を少量、0-17"0を少量含む
- SK227
1a層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1小7"0を少量含む
1b層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0を中量含む
- SK226
1a層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1小7"0を少量、0-17"0を少量含む
1b層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1粒子を中量、0-1小7"0を中量、0-17"0を中量、黒色7"0を中量含む



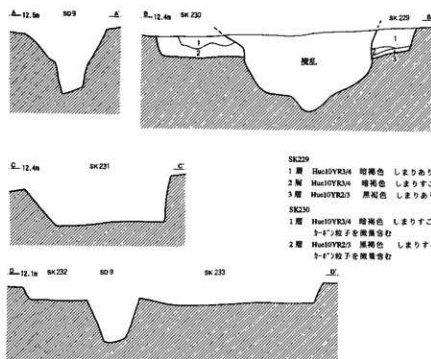
第203图 B区土壕・溝平面图①



第204图 B区土坑·沟平面图(19)



第205図 B区土壌・溝平面図(19土層図)



SK229

- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒粒子 (1mm以下) を顕量含む
 2層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりすごく強い 0-1粒粒子を顕量含む
 3層 Hue10YR2/2 黒褐色 しまりあり 0-4.7mmφ (1cm) を顕量含む

SK230

- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりすごく強い 0-1粒粒子 (5mm以下) を顕量、
 3-8φ粒子を顕量含む
 2層 Hue10YR2/2 黒褐色 しまりすごく強い 0-1粒粒子、0-4.7mmφ (2cm)、
 3-8φ粒子を顕量含む

SD9

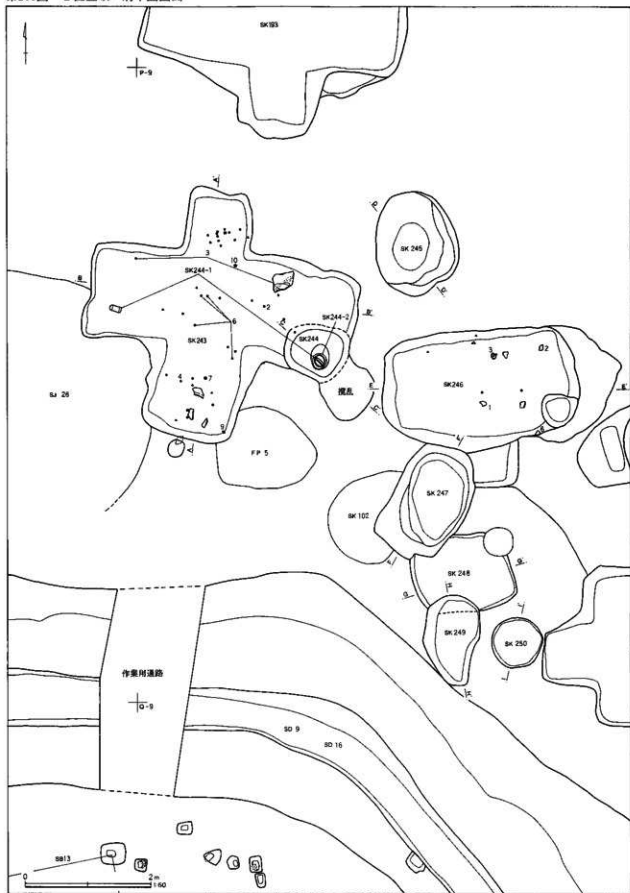
- 1層 Hue10YR4/3 鈍い黄褐色 0-1粒粒子を中量含む
 2層 Hue10YR4/2 暗褐色 0-4.7mmφ (3~5cm) を少量含む
 3層 Hue10YR4/2 灰黄褐色 0-1粒粒子を少量含む
 4層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-1粒粒子を少量含む
 5層 Hue10YR3/4 暗褐色 やや砂質 0-1粒粒子を少量、褐色
 粒子を多量に含む
 6層 Hue10YR4/2 灰黄褐色 ややしまっている やや砂質
 0-1粒粒子を多量に含む
 7層 Hue10YR3/3 暗褐色 しまりあり 0-1粒粒子を中量含む
 8層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-4.7mmφ (1cm) を少量含む
 9層 Hue10YR3/2 黒褐色 しまっている 0-1粒粒子 (3mm)
 を少量含む
 10層 Hue10YR3/2 黒褐色 0-1粒粒子を少量、黒褐色上7φφ
 (1~3cm) を中量含む
 11層 Hue10YR3/2 黒褐色 しまっている 0-1粒粒子を中量含む
 12層 Hue10YR4/1 褐色 よくしまっている 0-4.7mmφ (1cm)
 を中量含む
 13層 Hue10YR4/2 灰黄褐色 やや砂質 褐色粒子をまばらに
 含む
 14層 Hue10YR4/1 赤灰色 しまりゆるい 砂質 褐色粒子を
 多量に含む
 15層 Hue10YR4/1 赤灰色 しまりゆるい やや砂質 褐色
 粒子をまばらに含む

SD16

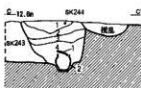
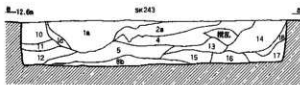
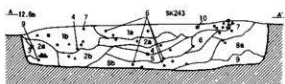
- 1層 Hue10YR4/1 褐色 しまりややゆるい 0-1粒粒子を中量
 含む
 2層 Hue10YR4/1 褐色 しまっている 0-1粒粒子を少量含む
 3層 Hue10YR4/1 褐色 しまっている 0-1粒粒子を少量含む
 4層 Hue10YR4/1 褐色 やや砂質 褐色粒子を中量含む
 5層 Hue10YR4/1 褐色 しまりややゆるい 0-1粒粒子を中量
 含む
 6層 Hue10YR4/1 褐色 しまりややゆるい 0-1粒粒子を少量
 含む
 7層 Hue10YR4/1 褐色 0-1粒粒子を中量含む
 8層 Hue10YR4/1 褐色 7φφになって固まっている
 9層 Hue10YR4/1 褐色 やや砂質 褐色粒子を中量、0-1粒
 粒子を少量含む
 10層 Hue10YR5/1 褐色 砂質 0-1粒粒子を少量含む 水風の
 痕跡か?



第206图 B区土壤·溝平面図(00)

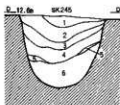


第207図 B区土壌・溝平面図20土層図



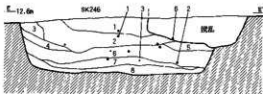
SK244

- 1層 Hae10YR25 黒褐色 しまり強い
- 2層 Hae10YR34 暗褐色 しまり強い 焼土粒子を少量、 $0-17^{\circ}09'$ (1cm)を少量含む
- 3層 Hae10YR34 暗褐色 2層より黒い しまり強い $0-1$ 粒子(23mm)を少量含む
- 4層 Hae10YR34 暗褐色 上の方は黄色い しまり強い $0-1$ 粒子を他層より多く含む



SK245

- 1層 Hae10YR4/4 褐色 しまりやや弱い $0-17^{\circ}09'$ (2cm)を少量含む
- 2層 Hae10YR4/4 褐色 しまりやや弱い $0-17^{\circ}09'$ (1~3cm)を多量に含む
- 3層 Hae10YR34 暗褐色 しまりあり $0-1$ 粒子(5mm)を多量、 $0-17^{\circ}09'$ (1cm)を少量含む
- 4層 Hae10YR34 暗褐色 しまりあり $0-1$ 粒子(5mm)、 $0-17^{\circ}09'$ (1~4cm)を多量に含む
- 5層 Hae10YR25 黒褐色 しまりあり $0-1$ 粒子(5mm)を少量含む
- 6層 Hae10YR36 黄褐色 しまりあり $0-17^{\circ}09'$ (2cm)からなる

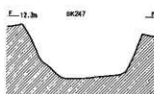


SK250

- 1層 Hae10YR25 黒褐色 しまりあり $0-1$ 粒子、 $0-17^{\circ}09'$ (1~2cm)を少量、焼土粒子、 $0-17^{\circ}09'$ 粒子、 $0-1$ 微粒子(1mm)を比較的多量に含む
- 2層 Hae10YR25 黒褐色 ただし1層よりやや黒い しまりあり $0-1$ 粒子、焼土粒子、 $0-17^{\circ}09'$ 粒子を少量含む

SK243

- 14層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 焼土粒子(2mm)、 $0-17^{\circ}09'$ (1cm)を少量含む
- 15層 Hae10YR3/4 暗褐色 14層より焼土粒子の含有量が若干多くなり、 $0-17^{\circ}09'$ 粒子を少量含む
- 16層 $0-17^{\circ}09'$ が全体を占める
- 17層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり $0-1$ 粒子(5mm)を比較的多量に含む
- 20層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり $0-1$ 粒子(5mm)を比較的多量に含む 焼土粒子、 $0-17^{\circ}09'$ 粒子を少量含む
- 3層 堆山の最層土 $0-1$ 微粒子、 $0-17^{\circ}09'$ を含む
- 4層 Hae10YR3/4 暗褐色 ただし、他の層より黄色味が強い $0-17^{\circ}09'$ を多く含む
- 5層 Hae10YR22 黒褐色 しまり強い 全層で最も黒い 焼土粒子を少量含む
- 6層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり $0-1$ 粒子(1mm)を現状に分布する
- 7層 Hae10YR25 黒褐色 しまりあり $0-1$ 粒子(12mm)を少量、 $0-17^{\circ}09'$ 粒子を少量含む
- 44層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり $0-1$ 微粒子(1mm)を現状に分布 焼土粒子、 $0-17^{\circ}09'$ 粒子を少量含む
- 50層 Hae10YR25 暗褐色 $0-1$ 微粒子の現状分布がなく、代わりに $0-1$ 粒子(5mm)を比較的多量に混入する
- 9層 Hae10YR25 黒褐色 しまりや層で最も強い 焼土粒子を少量含む
- 10層 Hae10YR25 黒褐色 しまりあり $0-1$ 粒子を多量に含む
- 11層 Hae10YR25 黒褐色 $0-17^{\circ}09'$ (1cm)を少量含む
- 12層 Hae10YR25 黒褐色 $0-1$ 粒子を比較的多量、 $0-17^{\circ}09'$ (2cm)を少量含む
- 13層 Hae10YR25 黒褐色 しまり強い $0-1$ 微粒子を比較的多量、 $0-17^{\circ}09'$ (1cm)を少量含む
- 14層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 強い暗褐色粒子(1.2mm)が混入するため、全体的にボソボソしている $0-1$ 粒子を多量、 $0-17^{\circ}09'$ (2cm)を少量含む
- 15層 Hae10YR25 黒褐色 ただし13層よりやや黒い しまりあり $0-1$ 微粒子(1mm)が散発的に混入して見られる $0-17^{\circ}09'$ (1cm)を少量含む
- 16層 Hae10YR25 黒褐色 しまりあり $0-1$ 粒子(5mm)を少量含む
- 17層 Hae10YR25 黒褐色 しまり強い 焼土粒子を少量、 $0-1$ 粒子を少量、 $0-17^{\circ}09'$ を少量含む
- 18層 Hae10YR25 黒褐色 しまり強い 強い暗褐色粒子を含む 焼土粒子を少量含む

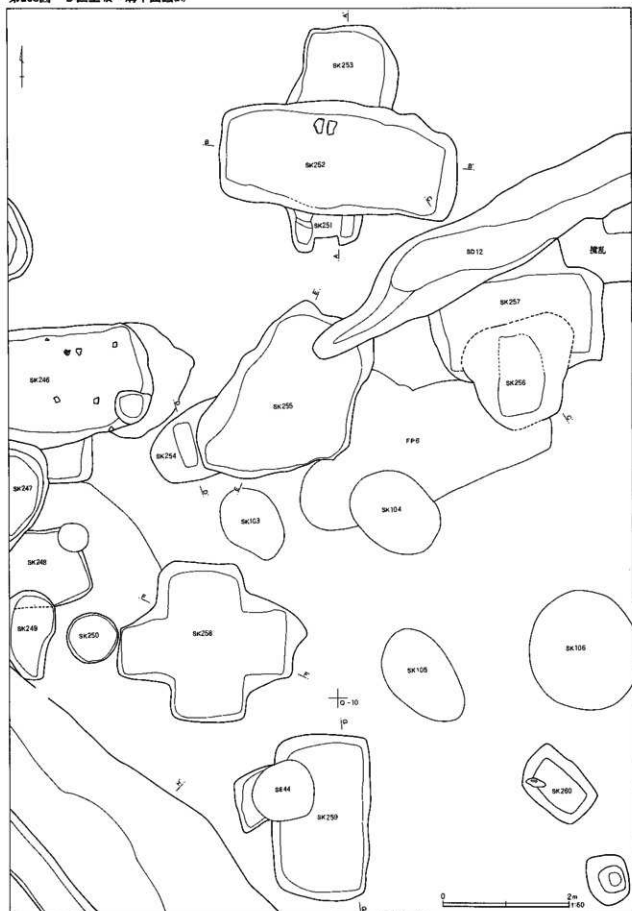


SK246

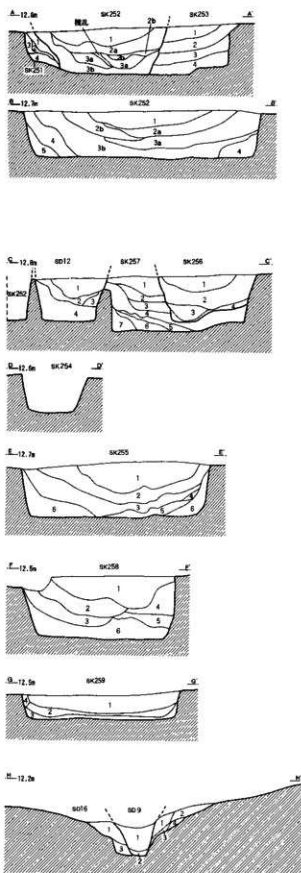
- 1層 Hae10YR25 黒褐色 しまりあり $0-1$ 粒子(12mm)を少量、 $0-17^{\circ}09'$ 粒子、焼土粒子を少量含む
- 2層 Hae10YR25 黒褐色 ただし1層より強い しまりあり $0-1$ 粒子(5mm)を少量、焼土粒子を少量含む
- 3層 Hae10YR35 暗褐色 しまりあり $0-1$ 粒子(2mm)を比較的多量に含む
- 4層 Hae10YR25 黒褐色 2層とほとんど同じ ただし、黒褐色土を2層よりやや多く含む
- 5層 Hae10YR22 黒褐色 しまり強い
- 6層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりややあり $0-1$ 粒子を多量、 $0-17^{\circ}09'$ を少量含む
- 7層 Hae10YR3/4 暗褐色 全層中層を明るく しまりややあり 焼土粒子を比較的多く含む
- 8層 Hae10YR25 黒褐色 しまりあり



第208图 B区土壤·海平面图②



第209図 B区土壌・溝平面図(2)土層図



SK251

- 1層 Hue10YR4/4 褐色 しまりすこく強い
- 2層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり
- 3層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり ただし2層より黄色っぽい
- 4層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりすこく強い 粘土粒子を含む

SK252

- 1層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり 黒色粒子を微量含む
- 2層 Hue10YR4/6 褐色 しまりあり 黒色粒子を微量含む
- 2層 Hue10YR4/6 褐色 1と2aの間に層
- 3層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒子を含む 0-1'粒子を少量含む
- 3層 Hue10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-1粒子を含む 0-1'粒子を少量含む
- 4層 Hue10YR2/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒子を少量、0-1'粒子を微量含む
- 5層 Hue10YR2/3 黒褐色 しまりややあり 0-1粒子を含む 0-1'粒子を微量含む

SK256

- 1層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり 粘土粒子少量含む 砂質
- 2層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 粘土粒子、0-1'粒子を少量含む 砂質
- 3層 Hue10YR2/3 黒褐色 しまりあり 粘土粒子、0-1粒子を少量含む 砂質
- 4層 Hue10YR1/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒子 (1mm) が半分以上を占める 黒色粒子を多量に含む

SK257

- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 粘土粒子 (5mm) を少量含む
- 2層 Hue10YR2/5 黒褐色 しまりあり 0-1粒子 (2.5mm)、粘土粒子を少量含む
- 3層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり
- 4層 Hue10YR2/5 黒褐色 しまりあり 0-1粒子 (5mm) を少量含む
- 5層 Hue10YR2/5 暗褐色 しまりあり 0-1'粒子 (1cm) を少量含む 0-1'粒子 (1mm) を含む やや粘質
- 6層 Hue10YR2/5 黒褐色 しまりあり 0-1粒子 (5mm) を含む
- 7層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりやや強い 黒色土? 0-1' (1cm) を少量含む

SK258

- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒子が比較的多い
- 2層 Hue10YR4/6 褐色 しまりややあり 0-1'粒子 (1mm以下) 主体
- 3層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1'粒子を少量、0-1' (1.5cm) を比較的少量に含む
- 4層 Hue10YR2/5 暗褐色 しまりあり 0-1粒子を少量、粘土粒子を少量含む

SK255

- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 粘土粒子、0-1粒子 (5mm)、0-1'粒子 (2.5mm) を少量含む
- 2層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1'粒子 (1mm) をやや多量、0-1' (1.5cm) を少量含む
- 3層 Hue10YR2/3 黒褐色 しまりやや強い (1、2層より強い) 0-1粒子 (2.5mm) を少量含む
- 4層 4層と6層の粘土層
- 5層 Hue10YR4/6 褐色 しまり弱い 0-1'粒子が全体を占める
- 6層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまり強い 暗褐色の粒子が全体を占める

SK258

- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒子 (1 ~ 2.5mm)、粘土粒子、0-1'粒子を少量含む 粘質
- 2層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1'粒子 (1mm) を比較的多く含む 粘土粒子、0-1'粒子を少量含む 粘質
- 3層 Hue10YR2/3 暗褐色 しまり強い 粘土、0-1'粒子を少量含む 粘質
- 4層 Hue10YR4/6 褐色 しまり強い 0-1'粒子 (1mm) を主体とする 粘質
- 5層 Hue10YR2/3 黒褐色 しまり強い 粘土、0-1'粒子を少量含む 粘質
- 6層 Hue10YR4/6 褐色 しまり強い 0-1'粒子を少量含む

SK259

- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりやや強い 0-1粒子 (5mm) を少量含む
- 2層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりやや強い 0-1' (1.5cm) を少量含む 1層より強い
- 3層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり 0-1'粒子 (1mm) を多量に含む
- 4層 Hue10YR4/4 褐色 しまりやや強い 0-1'粒子 (1mm) を多量に含む 3層より明るい

SK259

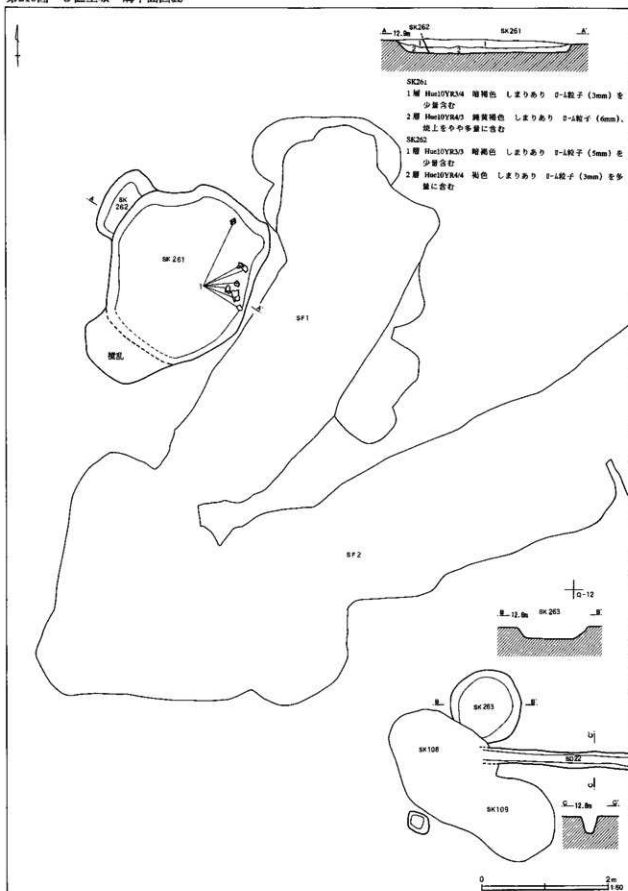
- 1層 Hue10YR3/5 暗褐色 0-1' (1.5cm) を少量含む
- 2層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-1' (1.5cm) を少量含む
- 3層 Hue10YR3/5 暗褐色 0-1' (1.5cm) を多量に含む
- 4層 Hue10YR3/4 暗褐色 0-1' (1.5cm) を多量に含む

SK259

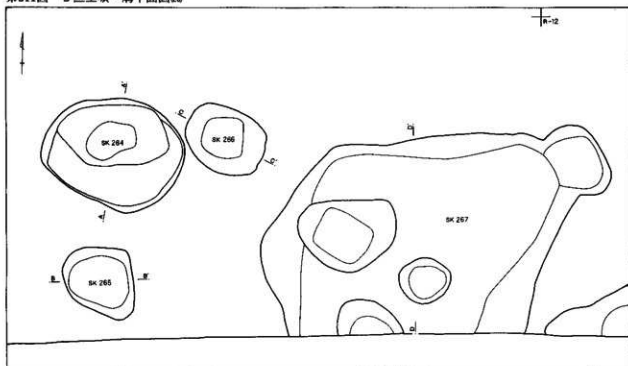
- 1層 Hue10YR3/2 黒褐色 0-1'粒子を微量含む
- 2層 Hue10YR3/2 黒褐色 0-1' (1.5cm) を少量含む



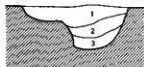
第210図 B区土壌・溝平面図(2)



第211図 B区土壌・溝平面図②



A-12.0m SK 264 A



SK264

- 1層 Huc10YR2/3 黒褐色 0-4"粒子を少量、0-17"0"を含む
- 2層 Huc10YR3/4 暗褐色 0-17"0"を含む 灰褐色土粒子を少量含む
- 3層 Huc10YR2/3 黒褐色 中々強い 0-17"0"を少量含む

B-12.0m SK 265 B



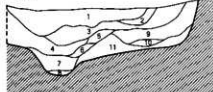
SK265

- 1層 Huc10YR2/3 黒褐色 0-4"粒子を少量、0-17"0"を含む
- 2層 Huc10YR4/4 褐色 ざらざらした土質

C-12.0m SK 266 C



D-12.0m SK 267 D

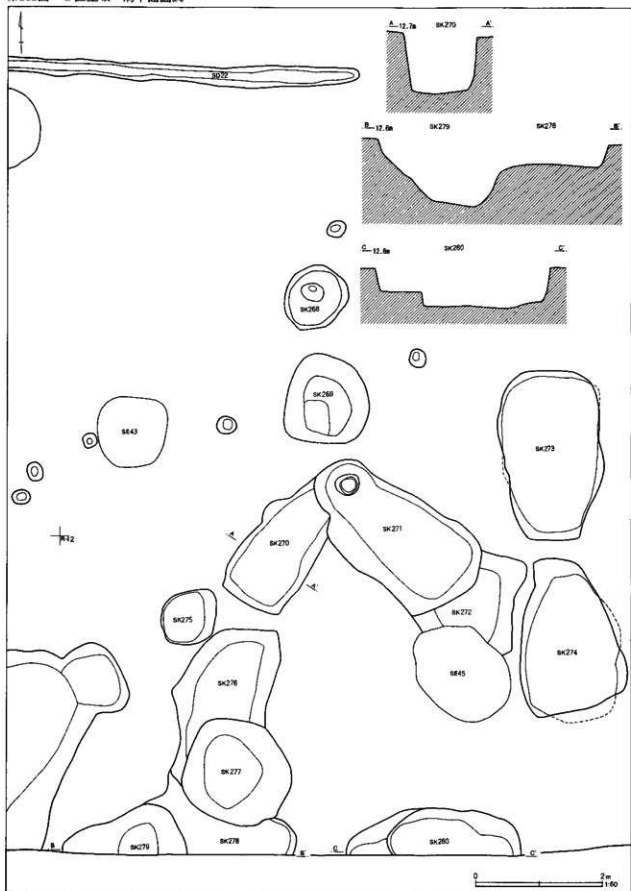


SK267

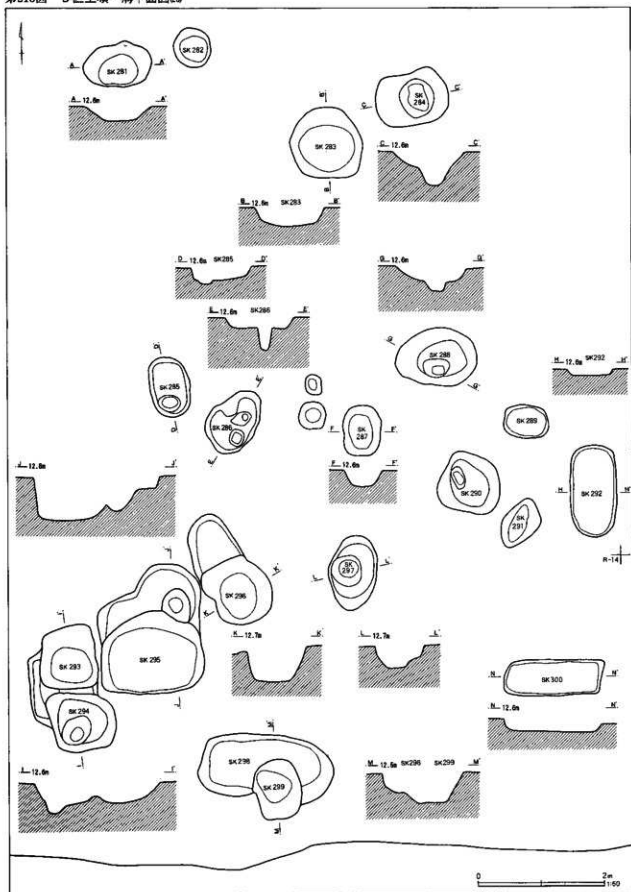
- 1層 Huc10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (5cm) を極多量に含む
- 2層 Huc10YR2/2 黒褐色 0-1"粒子を少量含む
- 3層 Huc10YR2/3 黒褐色 0-17"0" (5cm) を多量に含む
- 4層 Huc10YR2/2 黒褐色 0-17"0" (2cm) を少量含む
- 5層 Huc10YR3/3 暗褐色 含有物なし
- 6層 Huc10YR4/4 褐色 暗褐色土を少量含む
- 7層 Huc10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (2cm) を含む
- 8層 Huc10YR4/4 褐色 含有物なし
- 9層 Huc10YR3/3 暗褐色 0-1"粒子を含む 灰褐色土粒子を少量含む
- 10層 Huc10YR3/4 暗褐色 ややしまりあり 0-1"粒子を多量に含む
- 11層 Huc10YR3/4 暗褐色 しまり強い 0-17"0" (5cm)、暗褐色土7"0" (5cm) を多量に含む



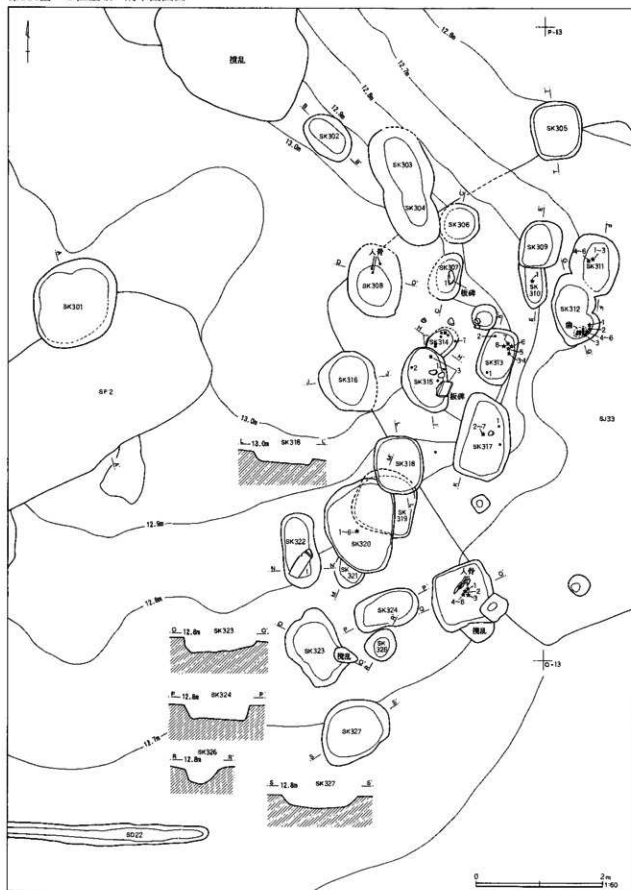
第212团 B区土壕·海平面图②



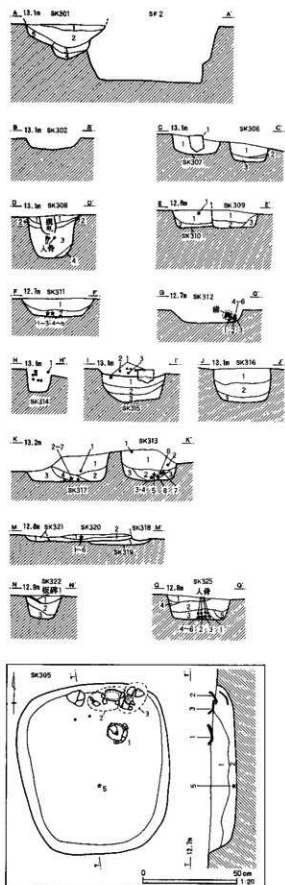
第213图 B区土壤・海平面图②



第214图 B区土壤·清平面图②

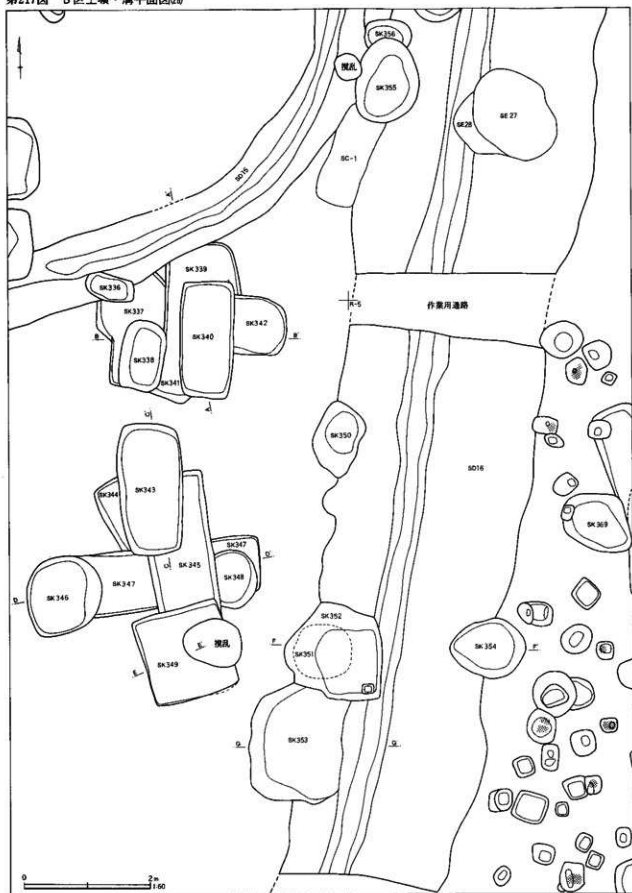


第215図 B区土壌・溝平面図②土層図

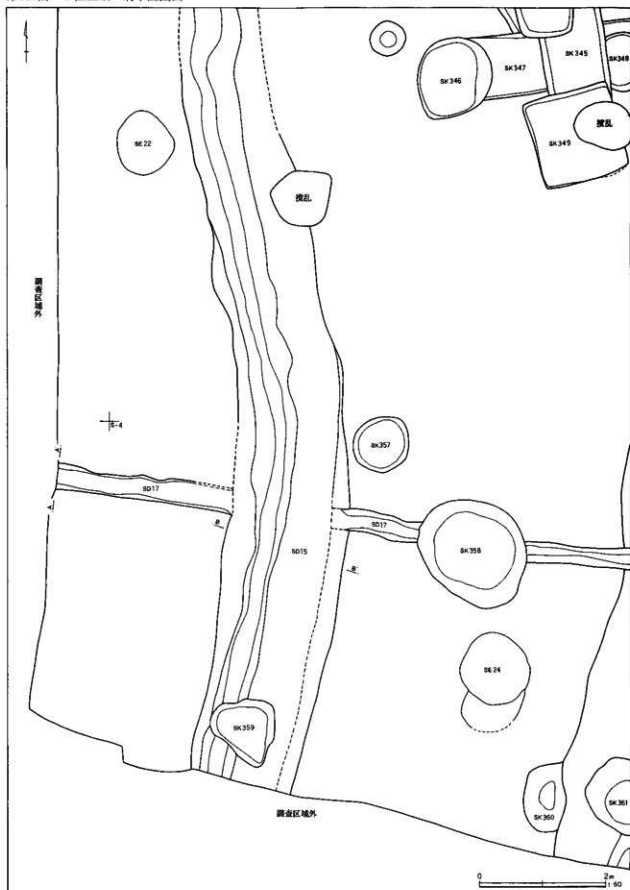


- SK301
 1層 Hae10YR4/4 暗色 しまりあり 0-1mmを多量に含む
 2層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1mmを多量に含む
 3層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1mmを多量に含む
 4層 Hae10YR4/5 黄褐色 しまりあり 0-1mmを多量に含む
 5層 Hae10YR3/6 黄褐色 しまりあり 0-1mmを多量に含む
- SK306
 1層 Hae10YR5/5 黄褐色 しまりやや強い 0-17mm(1~2cm)を多量に含む
 2層 Hae10YR5/5 暗黄褐色 しまりあり 0-1mm(5mm)を多量に含む
 3層 Hae10YR4/4 暗色 しまりあり 0-1mm(3mm)をわずかに含む
- SK307
 1層 Hae10YR4/4 暗色 しまりやや強い 0-1mm(3mm)を少量含む
- SK308
 1層 Hae10YR4/4 暗色 しまりあり 0-17mm(5~10mm)を少量含む
 2層 Hae10YR4/4 暗色 しまりあり 0-17mm(5~10mm)を多量に含む
 3層 Hae10YR4/5 暗黄褐色 しまりあり 0-1mm(5mm)を多量に含む
 4層 Hae10YR4/6 暗色 しまりあり 0-1mm(5mm)からなる
- SK309
 1層 Hae10YR4/4 暗色 しまりやや強い 0-1mm(3mm)をやや多量に含む
 2層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりやや強い 0-1mm(3mm)を多量に含む
 3層 Hae10YR4/6 暗色 しまりあり 0-1mm(2mm)を多量に含む
- SK310
 1層 Hae10YR4/4 暗色 しまりやや強い 0-1mm(2mm)をSK721層より多量に含む
 2層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり SK721層より強い 0-1mm(3mm)を多量に含む
- SK311
 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりやや強い 0-1mm(3mm)をやや多量に含む
 2層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりやや強い 0-1mm(3mm)をやや多量に含む
- SK315
 1層 Hae10YR3/5 暗褐色 しまりあり 0-1mm(3mm)を多量に含む
 2層 Hae10YR2/5 黄褐色 しまりあり 0-1mm(3mm)を少量含む
 3層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1mm(2mm)をやや多量に含む
- SK316
 1層 Hae10YR4/4 暗色 しまりあり 0-1mm(2mm)を多量に含む
 2層 Hae10YR4/4 暗色 しまりあり 0-1mm(2mm)を少量含む
 3層 Hae10YR4/5 黄褐色 しまりあり 0-1mm(3mm)を多量に含む
- SK313・317(土層共通)
 1層 Hae10YR4/4 暗色 しまりやや強い 0-17mm(1cm)を多量に含む
 2層 Hae10YR4/4 暗色 しまりあり 0-1mm(5mm)を少量含む
 3層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1mm(2cm)を少量含む
 4層 Hae10YR5/5 黄褐色 しまりあり 0-17mm(1cm)を多量に含む
- SK319
 1層 Hae10YR3/5 暗褐色 しまりあり 0-1mm(3mm)を少量含む
- SK320
 1層 Hae10YR4/4 暗色 しまりあり 0-1mm(3mm)を少量含む
 2層 Hae10YR4/6 暗色 しまりあり 0-1mm(3mm)を多量に含む
- SK321
 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1mm(5mm)を少量含む
- SK322
 1層 Hae10YR4/3 黄褐色 しまりたいへん強い 0-1mm(2mm)を多量に含む
 2層 Hae10YR4/5 黄褐色 しまりあり 0-1mm(5mm)、灰色粒子(3mm)を多量に含む
 3層 Hae10YR4/4 暗色 しまりあり 0-1mm(5mm)を多量に含む
- SK325
 1層 Hae10YR4/4 暗色 しまりあり 0-1mm(3mm)を少量含む
 2層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1mm(2mm)をやや多量に含む
 3層 Hae10YR4/5 暗黄褐色 しまりあり 0-1mm(2mm)を少量含む
 4層 Hae10YR5/6 黄褐色 しまりあり 0-17mm(1cm)を多量に含む
 5層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1mm(5mm)を少量含む 2層より強い
- SK326
 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりやや強い 0-1mm(3mm)を少量含む
 2層 Hae10YR4/4 暗色 しまりあり 0-1mm(2mm)を多量に含む

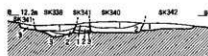
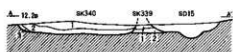
第217图 B区土壕·清平面图②



第218图 B区土坑·沟平面图②



第219図 B区土壌・溝平面図(20区土層図)

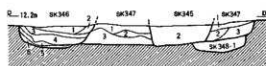
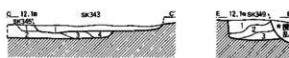
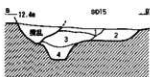
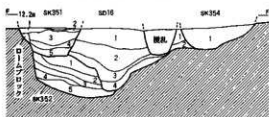
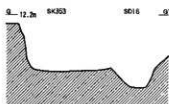


- SK340
 1層 Hae10YR2/2 黒褐色 しまりあり 0-1粒(2mm)を少量含む
 2層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒(2mm)を多量に含む
 3層 Hae10YR5/6 黄褐色 しまりあり 0-1粒(3mm)からなる
- SK339
 1層 Hae10YR2/1 黒褐色 しまりあり 0-1粒(2mm)を多量に含む
 2層 Hae10YR4/0 鈍い黄褐色 しまりあり 0-1粒(2mm)を極多量に含む

- SK338
 1層 Hae10YR4/4 褐色 しまりやや弱い 0-1粒(2mm)を少量含む
 2層 Hae10YR3/5 暗褐色 しまりあり 0-1粒(5mm)を少量、0-1粒(2mm)を多量に含む
 3層 Hae10YR5/4 鈍い黄褐色 しまりあり 0-1粒(3mm)を多量に含む

- SK341
 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒(3mm)を少量含む
 2層 Hae10YR5/5 暗褐色 しまりあり 0-1粒からなる
 3層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-17°9'9"(2cm)からなる

- SK342
 1層 Hae10YR4/4 褐色 しまりやや弱い 0-17°9'9"(1cm)を多量に含む



- SK343
 1層 Hae10YR4/3 暗褐色 しまりあり 0-1粒(2mm)を少量含む
- SK345
 1層 Hae10YR4/0 鈍い黄褐色 しまりあり 0-1粒(3mm)を少量含む
 2層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒(2mm)を少量含む
 3層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒(1cm)を多量に含む
 4層 Hae10YR4/0 鈍い黄褐色 しまりあり 0-1粒(3mm), 0-17°9'9"粒を多量に含む

- SK346
 1層 Hae10YR2/2 黒褐色 しまりやや弱い 0-17°9'9"(1cm)を多量に含む
 2層 Hae10YR2/2 黒褐色 しまりやや弱い 0-1粒(2mm)を少量含む
 3層 Hae10YR4/4 褐色 しまり弱い 0-17°9'9"(1-3cm)からなる
 4層 Hae10YR4/4 褐色 しまり弱い 0-17°9'9"(1cm)を多量に含む
 5層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまり弱い 0-17°9'9"(1cm)を多量に含む
 6層 Hae10YR4/6 褐色 しまり弱い 0-17°9'9"(2cm)からなる

- SK347
 1層 Hae10YR3/3 暗褐色 しまりあり 0-1粒(3mm)を少量含む
 2層 Hae10YR4/5 鈍い黄褐色 しまりあり 0-1粒(2mm)をやや多量含む
 3層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒(2mm)を多量、0-17°9'9"(2-5cm)を少量含む

- SK348
 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまり弱い 0-17°9'9"(1-3cm)を多量に含む
- SK349
 1層 Hae10YR5/5 黄褐色 しまりやや弱い 0-1粒(3mm)を多量に含む
 2層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒(3mm)を多量に含む
 3層 Hae10YR4/0 鈍い黄褐色 しまりあり 0-1粒(3mm)をやや多量含む

- SK351
 1層 Hae10YR2/2 黒褐色 しまりやや弱い 0-1粒(0-5mm)を少量含む
 2層 Hae10YR2/2 黒褐色 しまりあり 0-1粒(3mm)を多量に含む
 3層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-17°9'9"(1cm)を多量に含む
 4層 Hae10YR2/1 黒褐色 しまりあり 0-17°9'9"(1cm)を少量含む
 5層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-17°9'9"(2cm)を少量含む

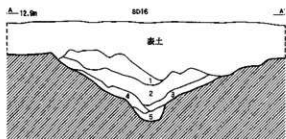
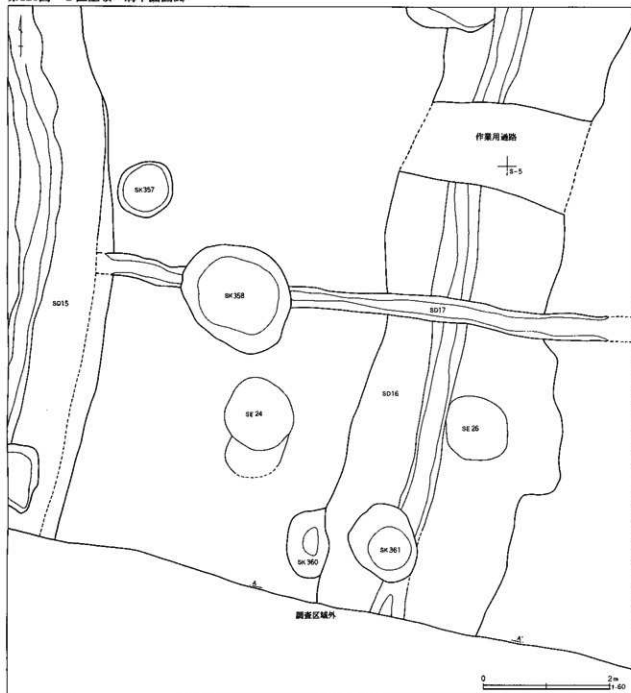
- SK352
 1層 Hae10YR4/1 暗褐色 しまりやや弱い 0-17°9'9"(1-2cm)を極多量含む
 2層 Hae10YR4/1 暗褐色 しまりあり 0-17°9'9"(1-3cm)を少量含む
 3層 Hae10YR4/1 暗褐色 しまりあり 0-17°9'9"(1-3cm)を多量に含む
 4層 Hae10YR4/1 暗褐色 しまりあり 0-17°9'9"(1-2cm)を極多量含む
 5層 Hae10YR4/1 暗褐色 しまりあり 0-17°9'9"(1-3cm)を極多量含む

- SK354
 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりやや弱い 0-17°9'9"(1-3cm)を多量に含む
- SD16
 1層 Hae10YR4/4 褐色 しまりやや弱い 0-1粒(3mm)をやや多量含む
 2層 Hae10YR4/4 褐色 しまりやや弱い 0-1粒(3mm)を多量に含む
 3層 Hae10YR4/6 褐色 しまりやや弱い 0-1粒(3mm)を多量、0-17°9'9"(2-3cm)を少量含む
 4層 Hae10YR3/1 暗褐色 しまりあり 0-1粒(3mm)を多量に含む

- SD15
 1層 Hae10YR4/2 灰黄褐色 しまりあり 0-1粒(3mm)を少量含む
 2層 Hae10YR4/4 褐色 しまりあり 0-1粒(3mm)を多量に含む
 3層 Hae10YR4/2 灰黄褐色 しまりあり 0-1粒(3mm)を多量に含む
 4層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒(2mm)を少量含む
- SD17
 1層 Hae10YR4/4 褐色 しまり弱い 0-1粒(2mm)を少量含む



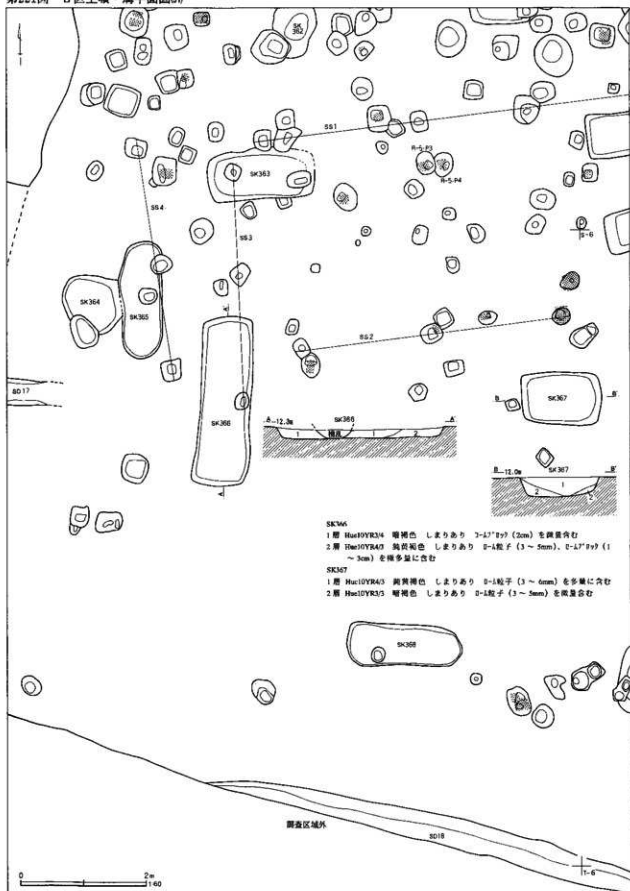
第220図 B区土壌・溝平面図③



SD16

- 1層 Hae10YR4/4 褐色 しまりやや細かい 3-4粒子(3mm)をやや多く含む
- 2層 Hae10YR4/4 褐色 しまりやや細かい 8-14粒子(3mm)を多量に含む
- 3層 Hae10YR3/3 暗褐色 しまりやや細かい 3-4粒子(2-3mm)をたいへん多く含む
- 4層 Hae10YR5/6 黄褐色 しまりあり 0-17²20²(1cm)を多量に含む
- 5層 Hae10YR4/3 鈍い黄褐色 しまりあり 0-4粒子(2mm)を少量含む

第221図 B区土壌・溝平面図(1)



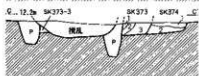
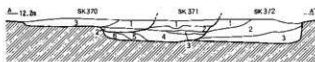
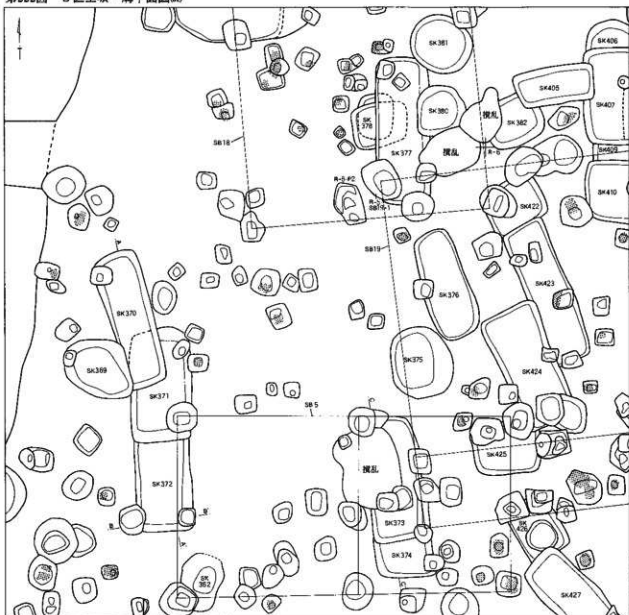
SK366

- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 3-4.7 ϕ (2cm) を調査含む
 2層 Hae10YR4/5 暗灰褐色 しまりあり 0-4 ϕ F (3-5mm)、0-4.7 ϕ (1-3cm) を検出量を含む

SK367

- 1層 Hae10YR4/5 暗灰褐色 しまりあり 0-1 ϕ (3-4mm) を多量に含む
 2層 Hae10YR3/5 暗褐色 しまりあり 0-1 ϕ (3-5mm) を検出量含む

第222図 B区土壌・溝平面図00



SK373

- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりや中弱い 2-4粒子(3mm)をわずかに含む
- 2層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりや中弱い 2-4粒子(3-5mm)を少量含む
- 3層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりや中弱い 2-4粒子(3-5mm)をたいへん多く含む

SK374

- 1層 Hue10YR4/6 褐色 しまりあり 2-4粒子(3mm)を少量含む
- 2層 Hue10YR4/6 褐色 しまりあり 2-4粒子(3mm)-2-17°の砂(1-2cm)を多量に含む

SK379

- 1層 Hue10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-1粒子(8mm)-塊7.7°の(0.8-2cm)を少量含む
- 2層 Hue10YR2/3 黒褐色 しまりあり 2-17°の砂(1-3cm)を少量含む
- 3層 Hue10YR5/6 黄褐色 しまりあり 2-17°の砂(1-2cm)からなる

SK371

- 1層 Hue10YR3/2 黒褐色 しまりあり 2-4粒子(2mm)をわずかに含む
- 2層 Hue10YR3/2 黒褐色 しまりあり 0-17°の砂(1-2cm)をたいへん多く含む

SK375

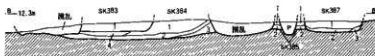
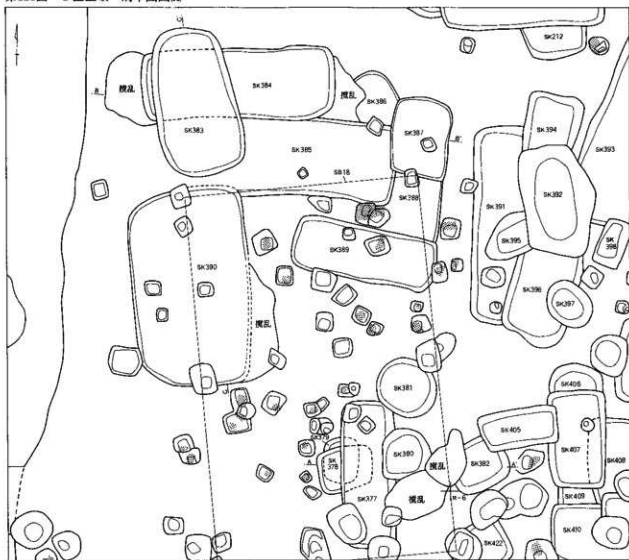
- 3層 Hue10YR3/1 黒褐色 しまりあり 2-4粒子(5mm)を少量含む
- 4層 Hue10YR3/2 黒褐色 しまりや中弱い 0-17°の砂(1cm)を多量に含む
- 5層 Hue10YR3/2 黒褐色 しまりや中弱い 4層より2-17°の砂(1cm)を多く含む

SK376

- 6層 Hue10YR2/1 黒色 しまりあり 2-17°の砂(1-5cm)をわずかに含む

SK372

- 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-17°の砂(1cm)をわずかに含む
- 2層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-17°の砂(1-2cm)を中々多く含む
- 3層 Hue10YR4/6 褐色 しまりあり 2-17°の砂(1-2cm)を多量に含む

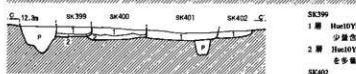
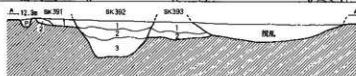
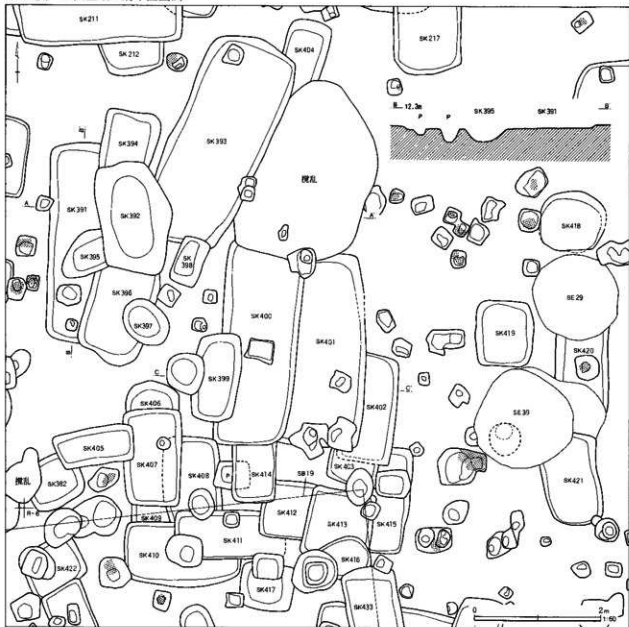


0 2m 1/60

- SK377
 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-17"0" (3-2 cm) を極多量に含む
 2層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1"粒 (2-3 mm) を多量に含む
- SK378
 1層 Hue10YR4/4 褐色 しまりあり 0-1"粒 (2 mm) を多量、0-17"0" (2 cm) を無量含む
 2層 Hue10YR4/3 黄い黄褐色 しまりあり 0-1"粒 (3 mm) を多量、0-4"粒 (2 mm) を多量に含む
 3層 Hue10YR5/4 黄い黄褐色 しまりあり 0-17"0" (1 cm) を少量含む
- SK383
 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1"粒 (2 mm) を多量、0-17"0" (1 cm) - 粘土粒子 (3 mm) をわずかに含む
- SK390
 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1"粒 (3 mm) を少量含む
 2層 Hue10YR4/4 褐色 0-1"粒 (3 mm) - 0-17"0" (1 cm) を多量に含む

- SK382
 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1"粒 (3-5 mm) を少量含む
 2層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1"粒 (3 mm) を多量、0-17"0" (1 cm) を少量含む
- SK384
 1層 Hue10YR2/3 灰褐色 しまりあり 0-1"粒 (3 mm) を少量含む
 2層 Hue10YR2/3 灰褐色 しまりあり 0-1"粒 (3 mm) を中少量、0-17"0" (1-2 cm) を無量含む
 3層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1"粒 (3-9 mm) を極多量に含む
 4層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-17"0" (1-2 cm) を極多量に含む
- SK385
 1層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1"粒 (2-4 mm) を中少量に含む
 2層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1"粒 (3 mm) - 0-4"粒 (3 mm) を多量、0-17"0" (1 cm) を無量含む
 3層 Hue10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1"粒 (2 mm) を極多量に含む
- SK387
 1層 Hue10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1"粒 (5 mm) を無量含む
 2層 Hue10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1"粒 (2 mm) - 0-17"0" (1 cm) を中少量に含む
 3層 Hue10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1"粒 (3 mm) を極多量に含む

第224図 B区土壌・溝平面図04



- SK391
 1層 Hst10YR3/3 暗褐色 しまりあり 0-I粒(3mm)を少量含む
 2層 Hst10YR4/0 鈍い黄褐色 しまりあり 0-I粒(5mm)を少量含む
- SK392
 1層 Hst10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-I粒(3mm)-0-8'粒(3mm)を少量含む
 2層 Hst10YR4/6 褐色 しまりあり 0-I'0v(1cm)を多量に含む
 3層 Hst10YR4/6 褐色 しまりあり 0-I粒(3-5mm)-0-17'0v(1-3cm)を中々多量に含む

- SK393
 1層 Hst10YR3/3 暗褐色 しまりあり 0-I粒(3mm)-0-8'粒(3mm)-0-8'粒(3mm)-0-8'粒(3mm)を多量に含む
 2層 Hst10YR3/3 暗褐色 しまりあり 0-I粒(5mm)-0-8'粒(5mm)を少量含む

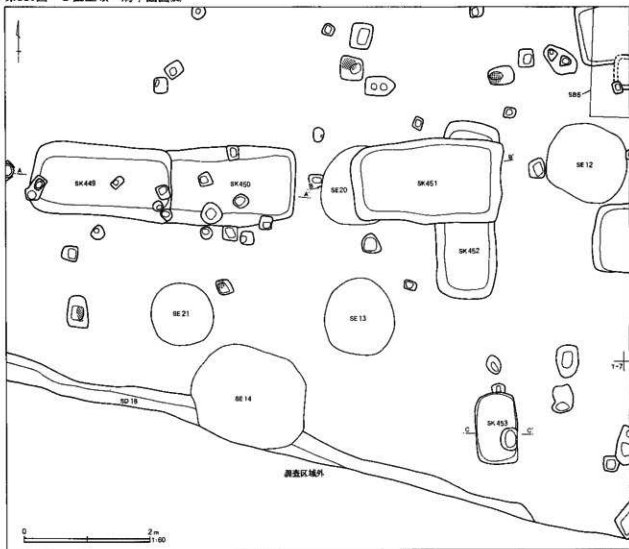
- SK399
 1層 Hst10YR2/3 暗褐色 しまりあり 0-I粒(3-5mm)-0-8'粒(3mm)を少量含む
 2層 Hst10YR3/3 暗褐色 しまりあり 0-I粒(3-5mm)-褐色粒(3-5mm)を多量に含む

- SK402
 1層 Hst10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-I粒(3mm)-0-8'粒(3mm)を中々多量に含む

- SK401
 1層 Hst10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-I粒(2mm)-0-17'0v(1cm)を少量含む

- SK400
 1層 Hst10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-I粒(3-5mm)を少量含む
 2層 Hst10YR4/0 鈍い黄褐色 しまりあり 0-I粒(3mm)をわずかに含む

第225图 B区土壤·海平面图(3)



SK449

1層 Hae10YR2/3 暗褐色 0-17"0" (1cm) を少量含む

SK450

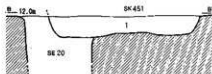
1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (2cm) を少量、炭化物 (5cm) を少量含む

2層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"2" (2cm) を中量、炭化物 (5cm) を少量含む

3層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (2cm) を少量含む

SK451

1層 Hae10YR2/3 暗褐色 0-17"0" (2cm) を中量、炭化物 (5cm) を少量含む



SK453

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (3cm) を少量含む

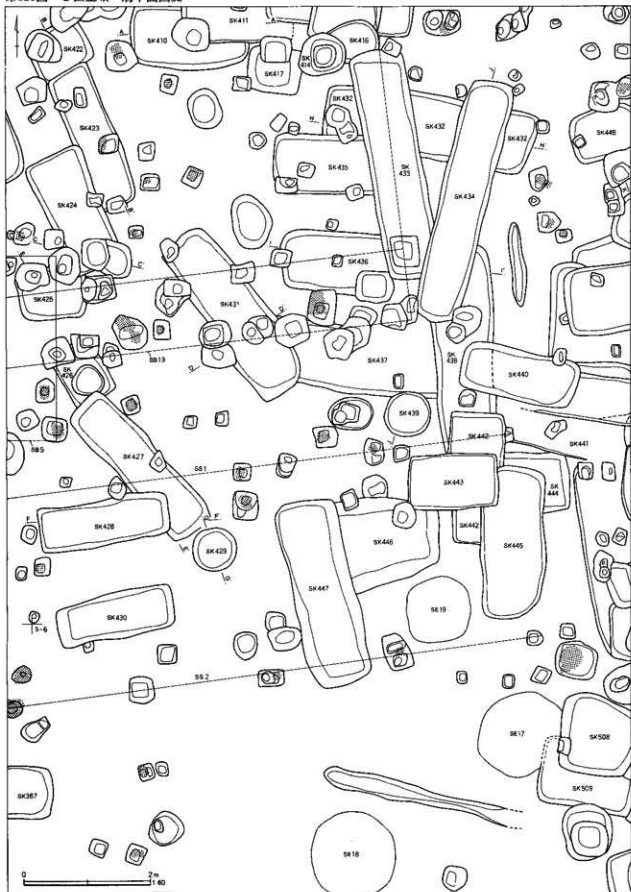
2層 Hae10YR4/4 褐色 0-17"0" (3cm) を多量に含む

3層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (2cm) を中量含む

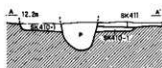
4層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0" (2cm) を少量含む



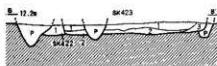
第226图 B区土坑·海平面图③



第227図 B区土壌・溝平面図の土層図

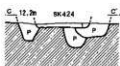


- SK410
 1層 Hae10YR5/6 黄褐色 しまりあり 0-1粒(3mm)を少量、炭化物を少量含む
 SK411
 1層 Hae10YR6/6 褐色 しまりやや弱い 0-1.7粒(1cm)を中や多量を含む



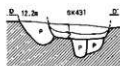
- SK422
 1層 Hae10YR3/3 暗褐色 しまりあり 0-1粒(4mm)、0-1.7粒(2cm)を少量含む

- SK423
 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒(3~8mm)を多量、炭土、0-4粒(3mm)を少量含む
 2層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒(3mm)を少量含む
 3層 Hae10YR4/3 鈍黄褐色 しまりあり 0-1粒(5mm)、0-1.7粒(1cm)を中や多量を含む



- SK424
 1層 Hae10YR3/1 黒褐色 しまりあり 0-1粒(2mm)、0-4粒(3mm)を少量含む

- SK421
 1層 Hae10YR4/5 暗褐色 しまりややあり 0-1.7粒(1cm)、0-1粒(2mm)、粘土2.7粒(4cm)を含む
 2層 Hae10YR4/5 暗褐色 しまりややあり 0-1.7粒(5cm)、0-1粒(2mm)、粘土2.7粒(4cm)を含む



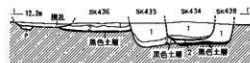
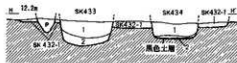
- SK425
 1層 Hae10YR3/2 赤褐色 しまりあり 0-1粒(3~4粒)を少量含む

- SK426
 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒(2mm)、炭化物、粘土粒F(3mm)を中や多量を含む
 2層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒(3~5mm)を中や多量を含む



- SK427
 1層 Hae10YR6/6 褐色 しまりあり 0-1粒(3mm)を少量含む
 2層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1.7粒(1~2cm)を多量を含む
 3層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1.7粒(1~2cm)を少量含む

- SK428
 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1.7粒(1~2cm)を少量含む
 2層 Hae10YR6/6 褐色 しまりあり 0-1粒(5mm)を多量を含む
 3層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1.7粒(1~2cm)を多量を含む



- SK432
 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1.7粒(1~4cm)を多量を含む

- SK433
 1層 Hae10YR4/3 暗褐色 しまりなし 0-1粒(2mm)、0-1.7粒(2cm)を中量含む
 2層 Hae10YR4/3 暗褐色 しまりなし 0-1粒(2mm)、炭化物、0-1.7粒(3mm)を中量含む

- SK434
 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒(2mm)、0-1.7粒(1cm)、炭化物を少量含む
 2層 Hae10YR4/4 褐色 しまりあり 0-1粒(3~5mm)を多量を含む
 3層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒(3~5mm)、0-1.7粒(1~2cm)を中や多量を含む
 4層 Hae10YR4/4 褐色 しまりあり 0-1.7粒(1~3cm)を少量含む

- SK436
 1層 Hae10YR3/2 黒褐色 しまりあり 0-1粒(3mm)を少量含む
 2層 Hae10YR4/2 灰黄褐色 しまりあり 0-1.7粒(1cm)を多量を含む

- SK437
 1層 Hae10YR4/5 鈍黄褐色 しまりやや弱い 0-1粒(3~6mm)を多量を含む

- SK438
 1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-1.7粒(3cm)を中量、炭化物を少量、黒褐色土2.7粒(1cm)を少量含む

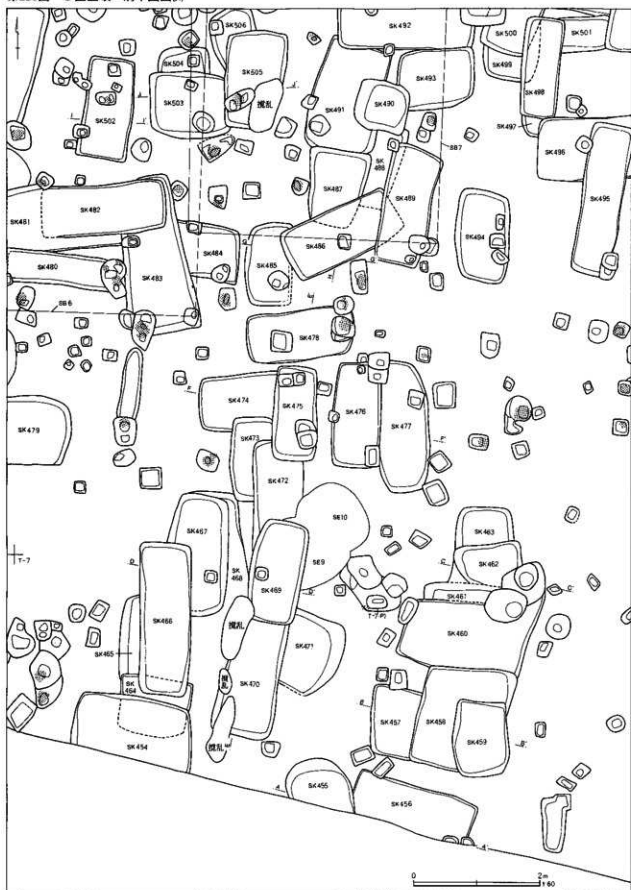
- SK439
 1層 Hae10YR3/2 赤褐色 しまりやや弱い 0-1.7粒(1cm)、0-1粒(4mm)を多量を含む



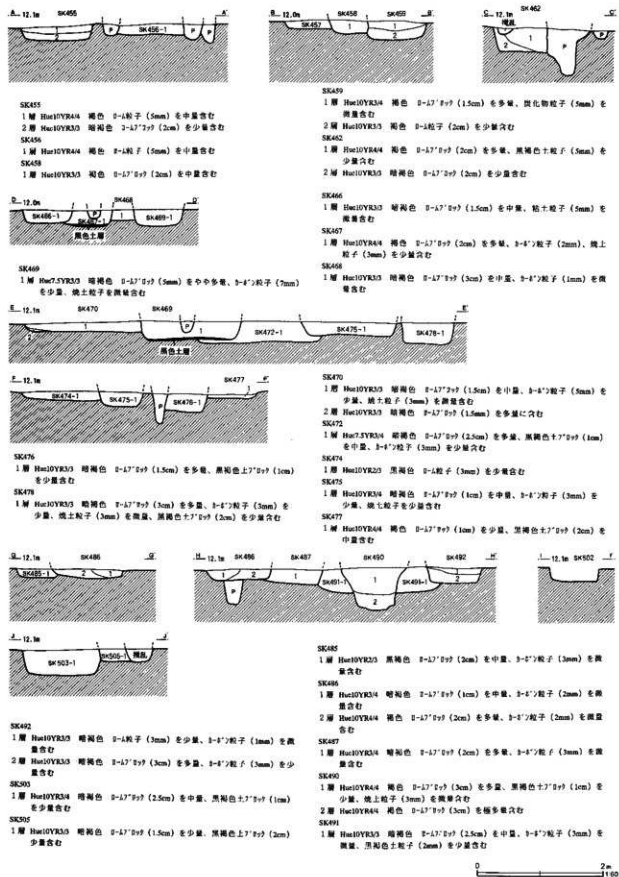
- SK445
 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1.7粒(1cm)を中量、炭化物(3mm)を少量含む



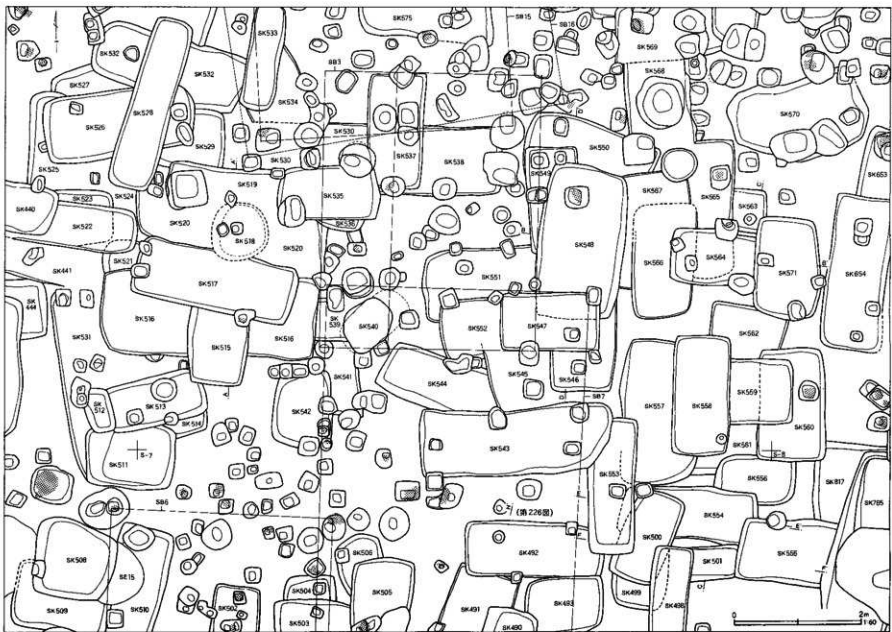
第228图 B区土壤·清平面图①



第229图 B区土壤·溝平面図(功土层圖)



第230图 日区土壤、浮游动物图例





SK501

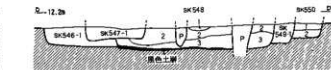
1層 Hae10YR4/2 灰黄褐色 0-4粒子を少量含む

SK515

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17°2分 (2.5cm) 中量、黒褐色土の粘土 (2.5cm) 少量、炭化物 (5cm) を少量含む

SK517

1層 Hae10YR2/3 黒褐色 0-17°2分 (5cm)、炭化物 (5cm) を少量含む



SK518

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17°2分 (10cm) 中量、炭化物 (5cm) を少量含む

SK519

1層 Hae10YR2/3 黒褐色 0-17°2分 (5cm) を少量含む

SK546

1層 Hae10YR3/2 黒褐色 0-1粒子を中量、0-17°2分 (1cm) を少量含む

SK547

1層 Hae10YR4/3 鈍黄褐色 しまりゆい 0-1粒子、0-17°2分 (2~3cm) を多量に含む

SK548

1層 Hae10YR2/1 灰色 0-1粒子を少量、白色粘土粒子を少量含む

2層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-1粒子を多量、0-17°2分 (1cm) を少量含む

3層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-1粒子を中量、0-17°2分 (1cm) を少量含む

SK549

1層 Hae10YR4/2 灰黄褐色 しまりゆい 0-1粒子を多量に含む

2層 Hae10YR4/3 鈍黄褐色 0-1粒子を中量、0-17°2分 (1cm) を少量含む

SK530

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-1粒子を多量、0-17°2分 (5cm) を中量含む

2層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-1粒子を中量、0-17°2分 (1~2cm) を少量含む

SK534

1層 Hae10YR3/2 黒褐色 しまっている 0-1粒子を中量含む

2層 Hae10YR4/3 鈍黄褐色 0-1粒子、0-17°2分 (1cm) を多量に含む

3層 Hae10YR3/2 黒褐色 0-1粒子を中量含む

SK535

1層 Hae10YR4/2 灰黄褐色 0-1粒子を中量含む

SK539

1層 Hae10YR3/2 黒褐色 0-1粒子、0-17°2分 (1cm) を中量含む

SK541

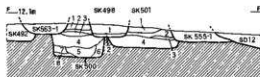
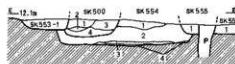
1層 Hae10YR4/2 灰黄褐色 0-1粒子を少量含む 東西に長い連続の断面

SK542

1層 Hae10YR3/1 黒褐色 0-1粒子を多量、0-17°2分 (5cm) を中量、黒色土粒子を中量含む

SK543

1層 Hae10YR3/2 黒褐色 0-1粒子を多量、0-17°2分 (2cm) を少量含む



SK549

1層 Hae10YR3/2 黒褐色 0-1粒子を少量、0-17°2分 (2cm) を少量含む

2層 Hae10YR3/2 黒褐色 しまっている 0-1粒子を少量含む

SK550

1層 Hae10YR2/1 灰色 0-1粒子を少量、0-17°2分 (1cm) を少量含む

2層 Hae10YR3/2 黒褐色 しまっている 0-1粒子を少量含む

3層 Hae10YR3/2 黒褐色 0-1粒子を中量、0-17°2分 (1cm) を少量含む

4層 Hae10YR2/2 黒褐色 0-1粒子を中量、0-17°2分 (1cm) を少量含む

5層 Hae10YR2/1 灰色 0-1粒子を中量、0-17°2分 (1~2cm) を少量含む

6層 Hae10YR2/1 灰色 0-1粒子を少量、0-17°2分 (1cm) を少量含む

7層 Hae10YR2/2 黒褐色 0-17°2分 (2~3cm) を多量含む

8層 Hae10YR2/2 黒褐色 0-1粒子、0-17°2分 (1~2cm) を多量に含む

SK501

1層 Hae10YR4/2 灰黄褐色 0-1粒子を少量含む

2層 Hae10YR3/1 黒褐色 0-1粒子 (5mm) を少量、0-17°2分 (2cm) を少量含む

3層 Hae10YR5/5 黄褐色 0-1粒子、0-17°2分主体

4層 Hae10YR4/2 灰黄褐色 しまっている 0-1粒子を中量含む

SK533

1層 Hae10YR3/2 黒褐色 0-1粒子を少量、0-17°2分 (5cm) を少量含む

SK554

1層 Hae10YR3/2 黒褐色 しまっている 0-1粒子を中量含む

2層 Hae10YR4/3 鈍黄褐色 しまっている 0-1粒子、0-17°2分 (1cm) を多量含む

3層 Hae10YR3/2 黒褐色 0-1粒子を中量含む

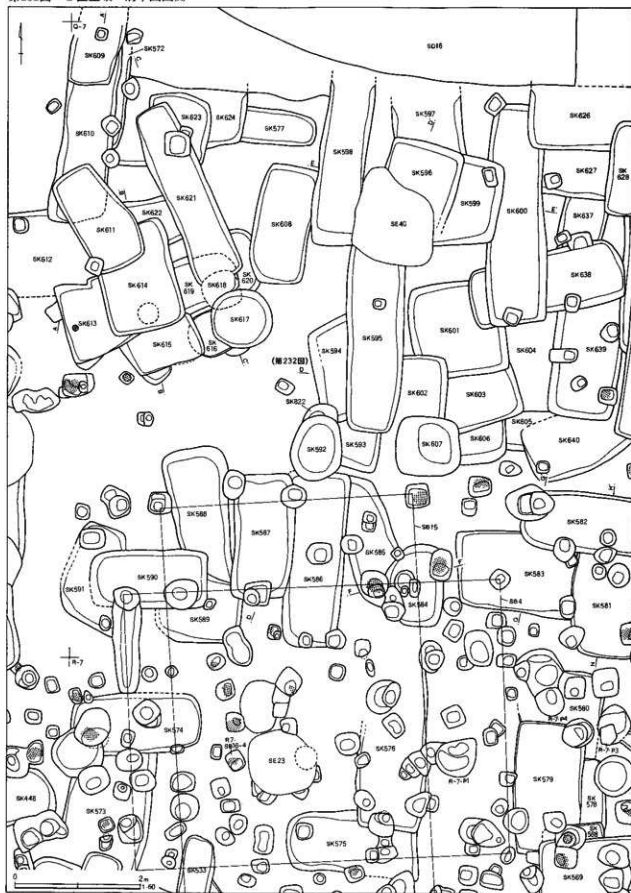
4層 Hae10YR2/1 灰色 0-17°2分 (5cm) を少量含む

SK555

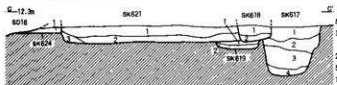
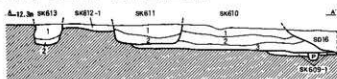
1層 Hae10YR4/2 灰黄褐色 0-1粒子を多量、0-17°2分 (2cm) を少量含む

0 20cm
1:6

第232图 B区土壤·清平面图③

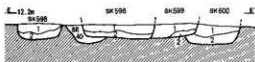
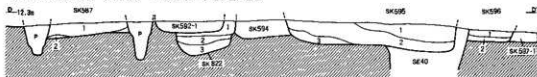


第233図 B区土壌・溝平面図(砂土層図)



- SK609
1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-17"0"9 (1~2cm) を多量に含む
- SK610
1層 Hae10YR3/2 黒褐色 しまりあり 0-1粒 (3~5mm), 0-4"7"粒 (3mm) を少量含む
2層 Hae10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-1粒 (3~5mm), 0-17"0"9 (1cm), 腐化物を多量に含む
3層 Hae10YR4/5 鈍黄褐色 0-1粒 (3mm) を微量含む
- SK611
1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒 (3~5mm) を多量, 0-17"7"9 (1cm) を微量, 0-4"7"粒 (5mm) を少量含む
2層 Hae10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-1粒 (3~5mm), 中や多量に含む
- SK612
1層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒 (3mm), 0-4"7"粒 (3mm) を少量含む
- SK613
1層 Hae10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-1粒 (3mm) を少量含む
2層 Hae10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-1粒 (3mm), 0-17"0"9 (1cm) を少量含む

- SK614
1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒 (3mm) を微量含む
2層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒 (5mm) を少量含む
3層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒 (5mm) を多量に含む

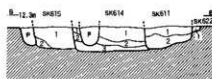


- SK597
1層 Hae10YR3/1 黒褐色 しまりあり 0-1粒 (3~5mm) を少量含む
2層 Hae10YR3/1 黒褐色 しまりあり 0-17"0"9 (1cm) を中や多量に含む
- SK598
1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒 (3~8mm) を少量含む
- SK599
1層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒 (3~6mm), 0-17"0"9 (1cm) を多量に含む

- SK595
1層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒 (5mm), 0-17"0"9 (1cm) を少量含む
2層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒 (5mm), 0-17"0"9 (1~5cm) を多量に含む
3層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒 (5mm), 0-17"0"9 (1cm) を少量含む

- SK596
1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒 (0~6mm) を多量, 0-17"0"9 (1cm) を少量含む
2層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒 (0~8mm) を少量含む
- SK597
1層 Hae10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-1粒 (3~5mm) を中や多量に含む

- SK598
1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒 (3~6mm) を多量に含む
2層 Hae10YR3/2 黒褐色 しまりあり 0-1粒 (3~5mm) を少量含む

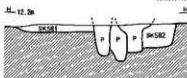
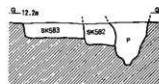
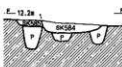


- SK615
1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒 (3mm), 0-4"7"粒 (3mm) を中や多量に含む
2層 Hae10YR4/4 褐色 しまりあり 0-1粒 (5~8mm) を多量に含む
- SK617
1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりや中強い 0-1粒 (5mm) を中や多量, 0-8"7"粒 (3mm), 0-17"0"9 (1cm) を少量含む
2層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりや中強い 0-1粒 (3~8mm) を多量, 0-8"7"粒 (3mm) を少量含む
3層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒 (3~8mm) を多量に含む
4層 Hae10YR4/4 褐色 しまりあり 0-17"0"9 (1~2cm) からなる
- SK618
1層 Hae10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-1粒 (3mm) を少量含む
2層 Hae10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-1粒 (3mm) を少量含む
- SK619
1層 Hae10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-1粒 (3mm) を少量含む
2層 Hae10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-1粒 (3mm) を中や多量に含む
- SK621
1層 Hae10YR2/3 暗褐色 しまりあり 0-1粒 (3mm) を少量, 0-17"0"9 (1cm) を微量含む
2層 Hae10YR3/5 暗褐色 しまりあり 0-1粒 (5mm) を少量含む
3層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒 (5mm) を多量に含む
- SK622
1層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒 (3~5mm) を中や多量に含む

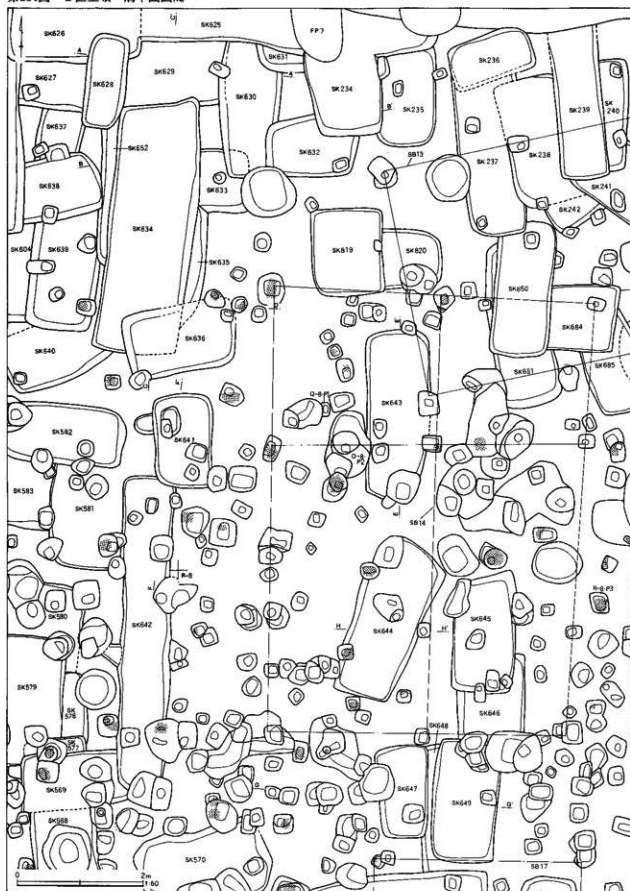
- SK624
1層 Hae10YR2/3 黒褐色 しまりや中強い 0-1粒 (3mm), 0-4"7"粒 (3mm), 鉄土粒 (2mm) を多量に含む

- SK599
1層 Hae10YR3/3 暗褐色 しまりあり 0-1粒 (5mm), 0-17"0"9 (1cm) を少量含む
2層 Hae10YR3/3 暗褐色 しまりあり 0-17"0"9 (1~2cm) を中や多量に含む

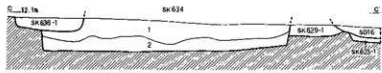
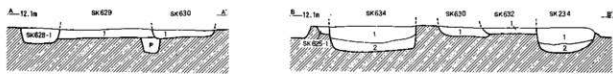
- SK600
1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒 (5mm) を中や多量に含む
2層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒 (3mm) を少量含む
- SK622
1層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒 (0~6mm), 0-17"0"9 (1cm) を多量に含む
2層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒 (0~8mm) を多量に含む
3層 Hae10YR4/6 褐色 しまりや中強い 0-17"0"9 (1~2cm) を多量に含む



第234图 B区土坑·清平面图(4)

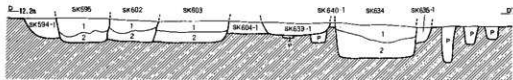


第235図 B区土壌・溝平面図(40土層図)



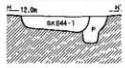
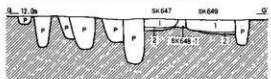
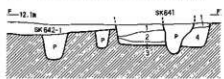
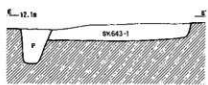
- SK234
 1層 Hae10YR3/1 黒褐色 しまりあり 0-1粒(子) (3mm), 0-17° θ (1cm) を調査含む
 2層 Hae10YR3/1 黒褐色 しまりあり 0-1粒(子) (3~8mm) を多量に含む
 SK635
 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒(子) (3~8mm) を多量に含む
 SK628
 1層 Hae10YR4/2 灰黄褐色 しまりあり 0-1粒(子) (3~5mm), 炭化物粒(子) (3mm) を少量含む
 SK629
 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒(子) (3~5mm) を多量, 炭化物を少量含む

- SK630
 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒(子) (3~5mm), 炭化物を少量含む
 SK632
 1層 Hae10YR3/2 黒褐色 しまりあり 0-1粒(子) (3mm) を調査含む
 SK636
 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1粒(子) (3mm), 0-17° θ (1cm) を多量に含む
 SK632
 1層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒(子) (5mm) を少量含む



- SK594
 1層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒(子) (3~6mm), 0-17° θ (1cm) を多量に含む
 SK595
 1層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒(子) (5mm), 0-17° θ (1cm) を少量含む
 2層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒(子) (5mm), 0-17° θ (1~5cm) を多量に含む
 3層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒(子) (5mm), 0-17° θ (1cm) を少量含む
 SK602
 1層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒(子) (3~6mm) を調査含む
 2層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-17° θ (1cm) を多量に含む

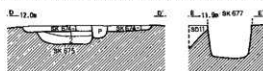
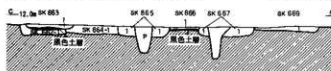
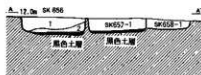
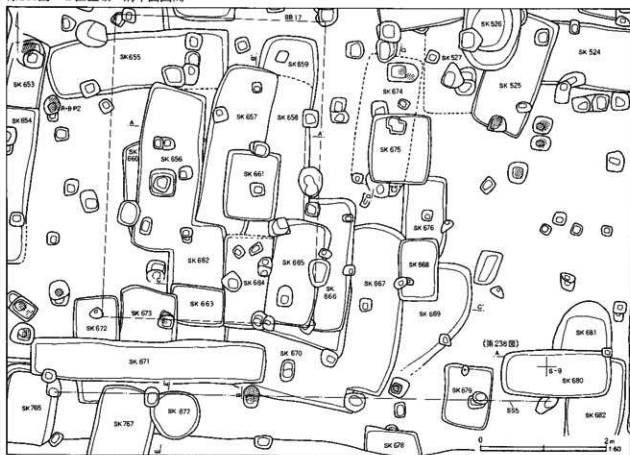
- SK603
 1層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒(子) (3mm) を調査含む
 2層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1粒(子) (3~5mm) を少量含む
 SK634
 1層 Hae10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-1粒(子) (3~8mm) を多量に含む
 2層 Hae10YR2/3 黒褐色 しまりあり 0-1粒(子) (3~8mm), 0-17° θ (1cm) を多量に含む
 SK635
 1層 Hae10YR4/4 褐色 しまりあり 0-1粒(子) (3mm), 0-17° θ (1cm) を多量に含む
 SK639
 1層 Hae10YR4/5 鈍黄褐色 しまりあり 0-1粒(子) (3mm) を多量, 炭化物を少量含む



- SK640
 1層 Hae10YR4/5 鈍黄褐色 しまりあり 0-1粒(子) (3mm) をやや多量に含む
 SK641
 1層 Hae10YR3/2 黒褐色 2-1粒(子)を中量, 0-17° θ (5cm) を少量含む
 2層 Hae10YR3/3 暗褐色 ややしまっている 0-1粒(子)を多量, 0-17° θ (1~3cm) 多量含む
 3層 Hae10YR3/2 黒褐色 0-1粒(子)を多量, 0-17° θ (1~3cm) 多量含む
 4層 Hae10YR3/2 黒褐色 0-1粒(子)を多量, 0-17° θ (1cm) 中量, 黄色17° θ (1cm) を少量含む
 SK642
 1層 Hae10YR3/2 黒褐色 0-1粒(子)を少量, 0-17° θ (1cm) 中量, 0-17° θ (5~7cm) を少量含む
 SK643
 1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17° θ (3cm) を中量, 黒褐色土(2cm) を少量含む
 SK644
 1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17° θ (1~3cm), 0-17° θ (3mm) を少量, 0-1粒(子) (3mm) を中量, 褐色土粒(子) (3mm) を調査含む
 SK647
 1層 Hae10YR4/4 暗褐色 0-17° θ (1.5cm) を少量, 0-17° θ (3mm) を少量含む
 2層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-1粒(子) (3mm) を中量, 0-17° θ (3mm) を調査含む
 SK648
 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17° θ (1cm) を中量, 黒褐色土17° θ (1cm) を中量含む
 SK649
 1層 Hae10YR2/3 黒褐色 0-17° θ (1.5~2cm) を少量, 0-1粒(子) (3mm) を多量に含む
 2層 Hae10YR2/2 黒褐色 やや粗りあり 0-1粒(子) (1mm) を少量含む



第236图 B区土坑・沟平面图(4)



SK656

- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1粒(5mm)を多量、黒褐色土粒子(3mm)を中量含む
- 2層 Hae10YR4/4 褐色 中々しまりあり、P-47°0' (1.5cm)を多量、黒褐色土?°0' (1.5cm)を中量含む

SK657

- 1層 Hae10YR3/0 暗褐色 P-47°0' (1cm)を多量、黒褐色土粒子(5mm)を少量含む

SK658

- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1粒(3mm)を多量、黒褐色土粒子(3mm)を少量、P-47°0' (1.5cm)を少量含む

SK661

- 1層 Hae10YR3/0 暗褐色 P-47°0' (1cm)を中量含む
- SK662
- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 P-1粒(1~5mm)を中量含む

SK663

- 2層 Hae10YR3/0 暗褐色 0-1粒(7mm)を少量含む

SK664

- 1層 Hae10YR2/0 暗褐色 P-1粒(5mm)を中量、P-17°0' (3cm)を少量、黒褐色土粒子(3mm)を中量含む

SK665

- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1粒(5mm)を多量を含む

SK666

- 1層 Hae10YR2/4 暗褐色 0-1粒(5mm)を少量含む
- 2層 Hae10YR2/0 黒褐色 0-1粒(1mm)を少量含む

SK667

- 1層 Hae10YR4/4 褐色 P-47°0' (1.5cm)を多量、黒褐色土粒子(2mm)を少量含む

SK669

- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 P-1粒(3mm)を少量含む

SK670

- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1粒(2mm)を少量含む

SK671

- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 P-47°0' (1.5cm)を中量含む

SK674

- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 P-47°0' (1.5cm)を少量、0-1粒(3mm)を中量含む

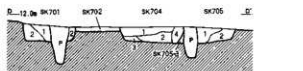
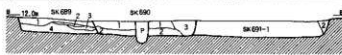
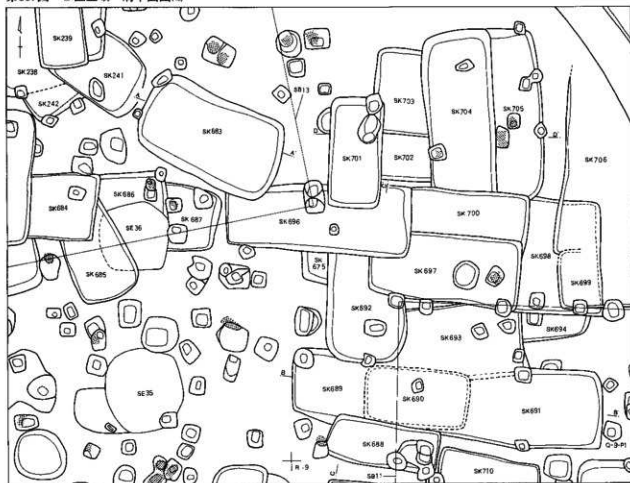
SK675

- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17°0' (1.5cm)を多量を含む

SK676

- 2層 Hae10YR2/0 黒褐色 P-1粒(3mm)を多量、P-47°0' (2mm)を少量、黒褐色土粒子(1mm)を中量含む

第237図 B区土埧・清平面図④



SK688
1層 Hus10YR3/2 黒褐色 しまりや中ゆるい 0-1粒子を中量、0-17° θ (1 ~ 2cm) を中量含む

SK689
1層 Hus10YR3/2 黒褐色 0-1粒子(5mm)を少量含む
2層 Hus10YR3/2 黒褐色 しまり強い 0-1粒子を中量、0-17° θ (1cm)を少量含む

3層 Hus10YR3/1 黒褐色 しまり強い 0-1粒子を中量、0-17° θ (1cm)を少量含む
4層 Hus10YR3/1 黒褐色 しまりあり 0-1粒子を中量、0-17° θ (1cm)を少量含む

SK690
1層 Hus10YR3/2 黒褐色 0-1粒子を少量含む
2層 Hus10YR3/1 黒褐色 0-1粒子を少量、0-17° θ (1 ~ 2cm)を少量含む
3層 Hus10YR3/2 黒褐色 しまりや中ゆるい 0-1粒子(5mm)を中量、0-17° θ (1cm)を少量含む

SK691
1層 Hus10YR3/2 灰褐色 しまりや中ゆるい 0-1粒子(5mm)を中量、0-17° θ (1 ~ 2cm)を少量含む
2層 Hus10YR3/2 黒褐色 しまりや中ゆるい 0-1粒子を中量、0-17° θ (1cm)を少量含む

SK692
1層 Hus10YR3/2 黒褐色 しまりあり 0-1粒子を多量、0-17° θ (1 ~ 4cm)を中量含む

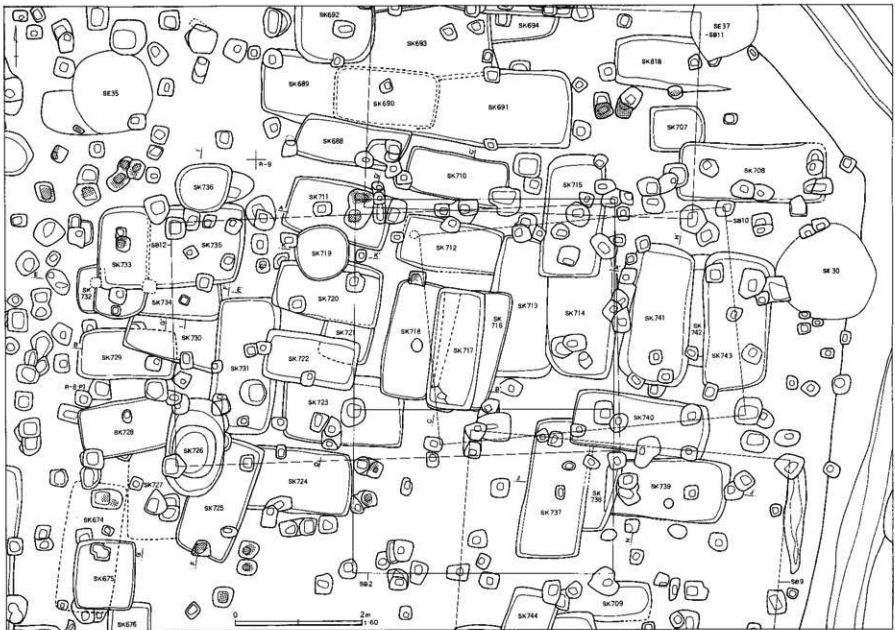
SK695
1層 Hus10YR3/2 黒褐色 0-1粒子を多量、0-17° θ (1cm)を少量含む
SK697
1層 Hus10YR4/2 灰黄褐色 0-1粒子を中量、0-17° θ (1cm)を少量含む
2層 Hus10YR3/3 暗褐色 黒色粒子を含む
3層 Hus10YR3/2 黒褐色 しまりあり 0-1粒子を多量、0-17° θ (1 ~ 2cm)を中量含む

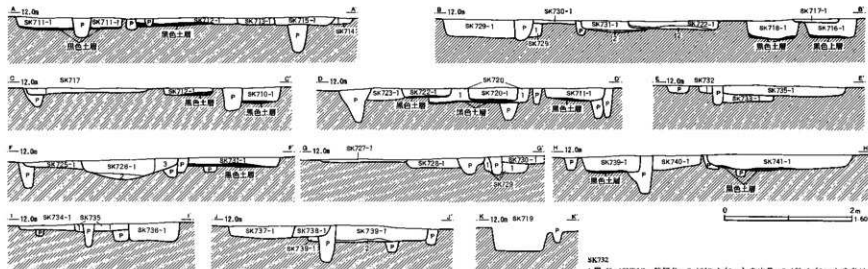
SK701
1層 Hus10YR3/2 灰褐色 0-1粒子を中量、0-17° θ (1 ~ 2cm)を少量含む
2層 Hus10YR3/1 黒褐色 0-1粒子(5mm)、0-17° θ (1cm)を中量含む

SK704
1層 Hus10YR4/5 黄黄褐色 0-1粒子、0-17° θ (1 ~ 3cm)を中量含む
2層 Hus10YR3/3 暗褐色 0-1粒子を中量、0-17° θ (2 ~ 5cm)を多量に含む

3層 Hus10YR3/2 黒褐色 しまりゆるい 0-1粒子を中量、0-17° θ (1 ~ 2cm)を少量含む
4層 Hus10YR3/2 黒褐色 0-1粒子を中量含む

SK705
1層 Hus10YR4/2 灰黄褐色 0-1粒子(5mm)を多量、0-17° θ (1cm)を中量含む
2層 Hus10YR3/3 暗褐色 0-1粒子(5mm)を中量、0-17° θ (1cm)を少量含む
3層 Hus10YR3/1 灰褐色 0-1粒子を中量、0-17° θ (1cm)を中量含む





SK711

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 ややしりあり 0-17"0" (1cm) を中量、黒褐色土粒子 (5mm) を中量、炭化物質 f (2mm) を少量含む

SK712

1層 Hae10YR4/4 褐色 0-17"0" (2cm) を少量、0-1粒子 (1mm) を多量に含む

SK713

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0" (1cm) を少量、0-1粒子 (1mm) を中量、0-4"0"粒子 (1mm) を微量含む

SK715

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1粒子 (1mm) を少量、焼土粒子 (1mm) を微量、0-4"0"粒子 (2mm) を微量含む

SK716

1層 Hae10YR2/3 黒褐色 0-17"0" (5cm) を少量、0-17"0" (2cm) を極多量に含む

2層 Hae10YR2/3 黒褐色 ややしりあり 0-1粒子 (1mm) を少量含む

SK717

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1粒子 (1mm) を中量、焼土粒子 (1mm) を少量含む

SK718

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0" (5cm) を極多量、黒褐色土7"0" (1.5cm) を中量含む

SK720

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 ややしりあり 0-17"0" (2cm) を極多量、黒褐色土7"0" (1cm) を中量含む

SK721

1層 Hae10YR4/4 褐色 0-17"0" (2cm) を中量、黒褐色土7"0" (1.5cm) を中量含む

SK722

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1粒子 (5mm) を少量、0-1粒子 (1mm) を多量、0-4"0"粒子 (3mm) を微量含む

SK723

1層 Hae10YR4/4 褐色 0-17"0" (1.5cm) を多量、黒褐色土7"0" (1cm) を中量含む

SK725

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0" (1cm) を中量含む

SK726

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (2-4cm) を中量、0-1粒子 (3mm) を多量に含む

SK727

2層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-1粒子 (3mm) を少量含む

SK728

3層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-1粒子 (5mm) を多量、0-4"0"粒子 (2mm) を微量含む

SK729

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1粒子 (3mm) を少量、焼土粒子 (1mm) を微量含む

SK728

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0" (1cm) を多量、黒褐色土粒子 (3mm) を中量含む

SK729

1層 Hae10YR4/4 褐色 ややしりあり 0-17"0" (1-3cm) を極多量、焼土粒子 (5mm) を少量、黒褐色土7"0" (2cm) を中量含む

SK730

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (1.5cm) を中量、焼土粒子 (2mm) を微量含む

SK731

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (5cm) を中量、0-4"0"粒子 (5mm) を微量含む

SK732

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (2cm) を中量、0-1粒子 (5mm) を多量、焼土粒子 (1mm) を微量、黒褐色土7"0" (1cm) を少量含む

SK733

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0" (2cm) を少量、0-1粒子 (3mm) を中量、黒褐色土7"0" (1cm) を少量含む

SK734

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-1粒子 (3mm) を中量、0-4"0"粒子 (3mm) を微量含む

SK735

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0" (2cm) を中量含む

SK736

1層 Hae10YR4/4 褐色 0-17"0" (2cm) を多量、0-4"0"粒子 (5mm) を微量、黒褐色土粒子 (5mm) を少量含む

SK737

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0" (1.5cm) を中量、黒褐色土7"0" (1cm) を少量、焼土粒子 (5mm) を少量、炭化物質 f (3mm) を中量、0-4"0"粒子 (2mm) を少量含む

SK738

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1粒子 (5mm) を多量、黒褐色土粒子 (5mm) を少量含む

SK739

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0" (1.5cm) を少量、0-1粒子 (3mm) を多量、黒褐色土粒子 (5mm) を少量含む

SK740

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0" (1cm) を多量、黒褐色土粒子 (5mm) を微量、焼土粒子 (5mm) を微量含む

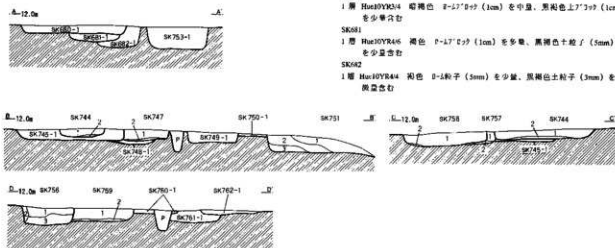
SK741

1層 Hae10YR4/4 褐色 0-17"0" (2.5cm) を多量、黒褐色土粒子 (3mm) を微量、焼土粒子 (5mm) を少量、0-4"0"粒子 (3mm) を少量含む

第240图 B区土壤·清平面图(40)



第241図 B区土壌・溝平面図(40土層図)



SK744

- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1粒 f (1mm) を多量、黒褐色土粒子 (1mm) を少量含む
- 2層 Hae10YR2/3 黒褐色 0-1粒 f (1mm) を多量、3-4' 粒子 (3mm) を少量含む

SK745

- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 ややしまりなし 0-17' 0" (2cm) を多量、黒褐色土 7' 0" (2.5cm) を少量含む

SK747

- 1層 Hae10YR2/3 黒褐色 0-17' 0" (1.5cm) を少量、0-1粒 f (2mm) を中量、3-4' 粒子 (2mm) を微量含む
- 2層 Hae10YR2/2 黒褐色 やや粘りあり 0-1粒 f (5mm) を少量、焼土粒 (1mm) を微量含む

SK748

- 1層 Hae10YR3/5 暗褐色 0-1粒 f (7mm) を多量、3-4' 粒子 (2mm) を少量含む

SK749

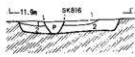
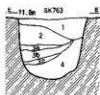
- 1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-1粒 f (5mm) を少量、0-1粒 f (1mm) を中量含む

SK750

- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1粒 f (3mm) を中量含む

SK751

- 1層 Hae10YR3/5 暗褐色 0-17' 0" (2cm) を少量、0-1粒 f (1mm) を中量含む
- 2層 Hae10YR3/5 暗褐色 0-1粒 f (5mm) を中量、黒褐色土粒子 (5mm) を少量含む
- 3層 Hae10YR2/3 黒褐色 0-1粒 f (7mm) を少量、黒褐色土 7' 0" (1cm) を微量含む



SK680

- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17' 0" (1cm) を中量、黒褐色土 7' 0" (1cm) を少量含む

SK681

- 1層 Hae10YR4/6 褐色 0-17' 0" (1cm) を多量、黒褐色土粒 f (5mm) を少量含む

SK682

- 1層 Hae10YR4/4 褐色 0-1粒 f (5mm) を少量、黒褐色土粒子 (3mm) を微量含む

SK733

- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1粒 f (1mm)、0-17' 0" (3cm) を多量、黒褐色土粒子 (2mm) を微量含む

SK756

- 1層 Hae10YR4/4 褐色 0-17' 0" (3cm) を中量含む
- 2層 Hae10YR4/4 褐色 0-17' 0" (4cm) を中量含む
- 3層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17' 0" (3cm) を中量含む

SK757

- 1層 Hae10YR3/5 暗褐色 0-1粒 f (5mm) を多量に含む

SK758

- 1層 Hae10YR3/5 暗褐色 0-17' 0" (2.5cm)、黒褐色土粒子 (5mm) を中量含む

SK759

- 2層 Hae10YR2/3 黒褐色 やや粘りあり 0-1粒 f (5mm) を少量含む

SK759

- 1層 Hae10YR3/5 暗褐色 0-17' 0" (4cm) を中量、黒褐色土 7' 0" (1cm) を少量含む

SK760

- 2層 Hae10YR3/1 黒褐色 0-17' 0" (2cm) を中量含む

SK760

- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-1粒 f (5mm) を中量、3-4' 粒子 (3mm) を少量含む

SK761

- 1層 Hae10YR3/5 暗褐色 0-17' 0" (2cm) を多量、黒褐色土粒子 (2mm) を中量含む

SK762

- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17' 0" (1cm) を少量、焼土粒 f (2mm) を微量、0-1粒 f (1mm) を多量に含む

SK763

- 1層 Hae10YR2/2 黒褐色 0-1粒 f (5mm) を中量含む
- 2層 Hae10YR3/4 褐色 0-17' 0" を中量、黒褐色土を少量含む

SK764

- 3a層 Hae10YR3/5 暗褐色 0-17' 0" を中量、黒褐色土を多量に含む
- 3b層 Hae10YR3/5 暗褐色 0-17' 0" を中量含む
- 4層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17' 0" を中量含む

SK764

- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17' 0"、灰褐色土を中量含む
- 2層 Hae10YR4/6 褐色 0-17' 0" を多量、灰褐色土を少量含む

SK764

- 3層 Hae10YR3/4 暗褐色 暗褐色 7' 0" を多量、灰褐色土を少量含む
- 4層 Hae10YR4/4 褐色 0-17' 0" を多量に含む
- 5層 Hae10YR3/5 暗褐色 暗褐色 7' 0" を多量に含む

SK764

- 6層 Hae10YR4/6 褐色 0-17' 0" を少量含む

SK815

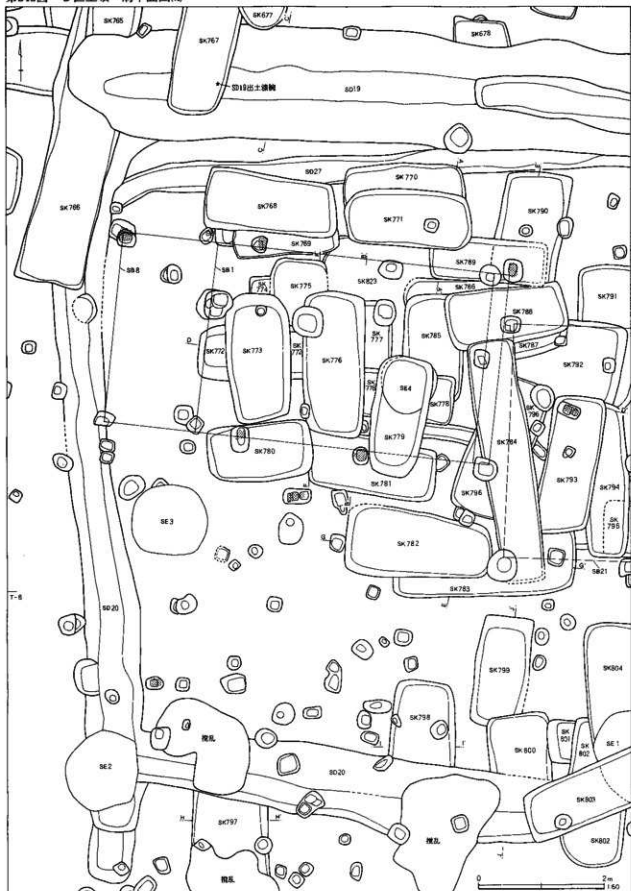
- 1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17' 0" (3cm) を中量含む

SK816

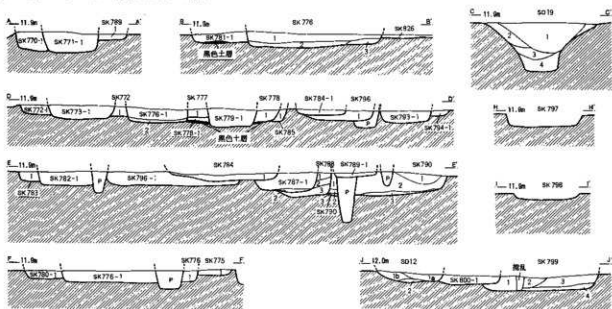
- 1層 Hae10YR3/5 暗褐色 0-1粒 f (5mm) を中量、焼土粒 f を微量含む
- 2層 Hae10YR3/5 暗褐色 0-17' 0" (2.5cm) を多量、焼土粒 f を微量含む



第242图 B区土壤·海平面图(49)



第243图 B区土壤·横断面图(4)土层图



SK770

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (1cm) 老多量に含む

SK771

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0" (3cm) 老多量に含む

SK772

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-14"0" (5mm) 老多量、3-4"0" (2mm) 老少量、粘土粒子を少量含む

SK773

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (2cm) 老中量、黒褐色土粒子 (2mm) 老少量含む

SK775

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-14"0" (5mm) 老中量を含む

SK776

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0" (2.5cm) 老中量、3-4"0" (3mm)、粘土粒子を少量含む

2層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-14"0" (5mm) 老中量を含む

3層 Hae10YR2/3 黒褐色 0-14"0" (5mm) 老中量、粘土粒子を少量含む

SK777

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-14"0" (5mm) 老少量、3-4"0" (2mm) 老少量を含む

SK779

1層 Hae10YR2/2 黒褐色 0-17"0" (1.5cm) 老少量、3-4"0" (2mm) 老少量を含む

SK793

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (2cm) 老中量、3-4"0" (5mm) 老少量を含む

SK790

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (2cm) 老少量を含む

SK781

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (2cm) 老多量、3-4"0" (5mm) 老少量を含む

SK782

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0" (4cm) 老中量を含む

SK783

1層 Hae10YR4/4 褐色 0-17"0" (2cm) 老中量を含む

SK784

1層 Hae10YR2/3 黒褐色 0-17"0" (1cm) 老少量を含む

SK785

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (2cm) 老多量に含む

0



SK787

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0" (1.5cm) 老中量、3-4"0" (3mm) 老少量、粘土粒子を少量含む

2層 Hae10YR2/2 黒褐色 0-14"0" (3mm) 老中量、3-4"0" (2mm)、粘土粒子を少量含む

SK788

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-14"0" (5mm) 老多量、3-4"0" (5mm) 老少量を含む

2層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0" (2cm) 老多量、粘土粒子 (2mm) 老少量を含む

3層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (2cm) 老中量、3-4"0" (3mm) 老少量を含む

SK790

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-14"0" (5mm) 老少量、3-4"0" (3mm) 老少量を含む

SK790

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (2cm) 老中量を含む

2層 Hae10YR4/4 褐色 0-17"0" (3cm) 老少量を含む

3層 Hae10YR2/2 黒褐色 0-17"0" (2cm) 老少量を含む

SK793

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0" (3cm) 老多量に含む

SK794

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (1.5cm) 老多量、炭化物粒子 (7mm) 老少量を含む

SK795

1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-14"0" (5mm) 老少量を含む

2層 Hae10YR4/4 褐色 0-17"0" (2cm) 老多量、3-4"0" (5mm) 老少量を含む

SK796

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0" (1cm) 老多量に含む

2層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (2cm) 老中量を含む

SK799

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0" (4cm) 老少量を含む

2層 Hae10YR2/4 暗褐色 0-17"0" (1cm) 老少量を含む

3層 Hae10YR4/4 褐色 0-17"0" (4cm) の層

4層 Hae10YR2/4 暗褐色 0-17"0" (1cm) 老少量を含む

SK800

1層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-14"0" (5mm) 老多量、0-17"0" (2cm) 老中量、黒色土粒子 (5mm) 老少量を含む

SD12

1a層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0" (1cm) 老中量、2-14"0" 老中量を含む

1b層 Hae10YR3/4 暗褐色 0-17"0" (2cm) 老少量、2-14"0" 老中量を含む

2層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (5mm) 老少量、黒色土を少量含む

SD19

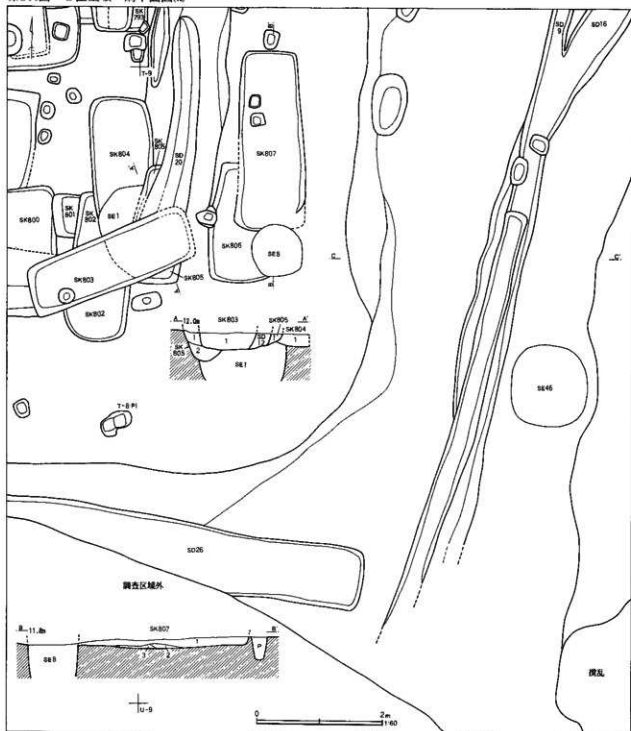
1層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (5cm) と暗褐色土の土

2層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (1cm) 老少量を含む

3層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-17"0" (1.5cm) 老多量に含む

4層 Hae10YR3/2 黒褐色 0-17"0" (1cm) 老少量を含む

第244图 B区土壤·清平面图(45)

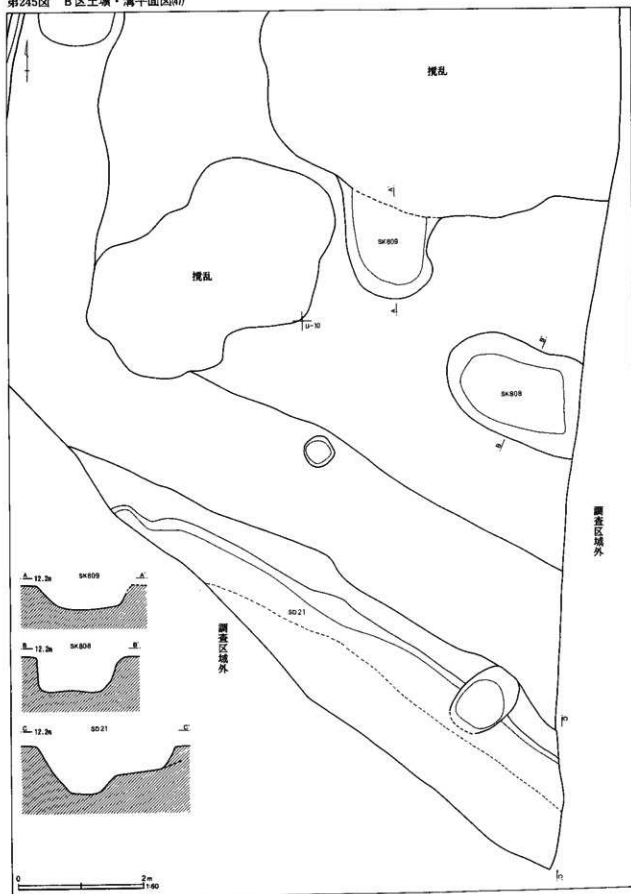


C-12.0m

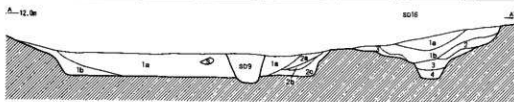
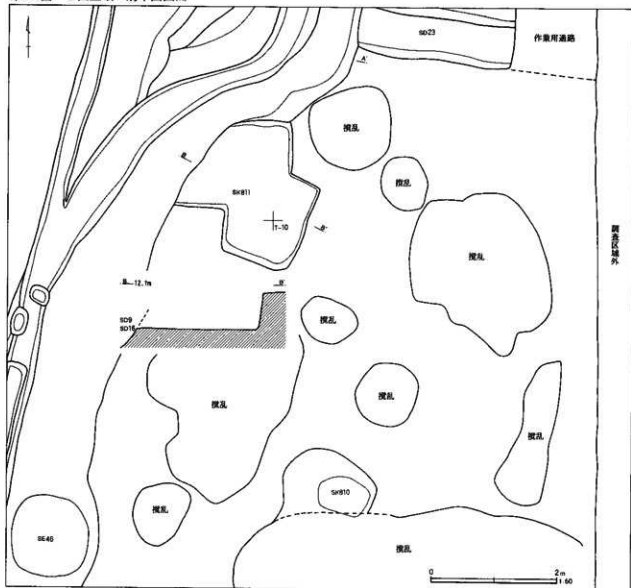


- SK803
 1層 Hae10YK3/3 暗褐色 0-1粒子を少量、0-1'粒子(5mm)を調査穴付
 SK804
 1層 Hae10YK3/4 暗褐色 0-17'0v7(2cm)を少量、0-5'粒子(5mm)少量を含む
 SK805
 1層 Hae10YK3/3 暗褐色 0-1粒子(5mm)を少量含む
 2層 Hae10YK3/4 暗褐色 0-17'0v7(2cm)を少量を含む
 SK807
 1層 Hae10YK3/3 暗褐色 0-1粒子(5mm)を少量、0-1'粒子(5mm)少量を含む
 2層 Hae10YK3/2 黄褐色 0-1粒子(5mm)を少量含む
 3層 Hae10YK3/3 暗褐色 0-1粒子(5mm)を少量含む

第245图 B区土壤·溝平面图(47)



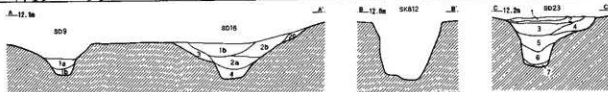
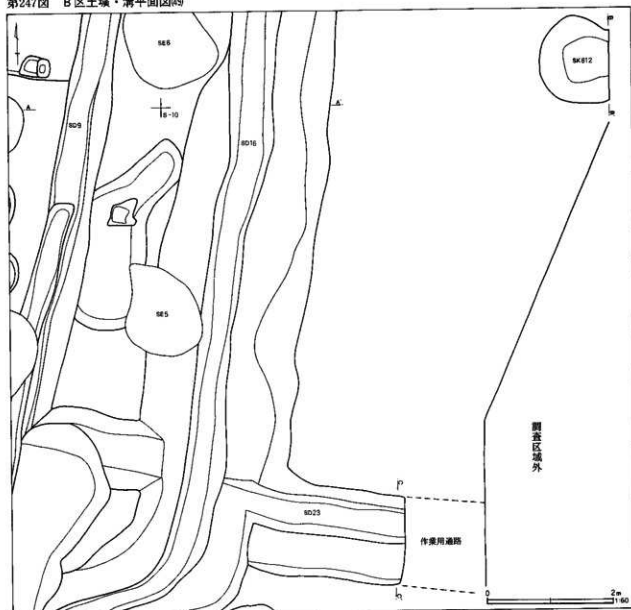
第246図 B区土壌・溝平面図(40)



SD16

- 1a 層 Huc10YK20 黒褐色 0-4粒子を少量含む
- 1b 層 Huc10YK20 黒褐色 0-4粒子を多量、0-17°s?を少量含む
- 2a 層 Huc10YB44 褐色 0-17°s?を多量に含む
- 3a 層 Huc10YR30 暗褐色 0-17°s?を少量含む
- 4a 層 Huc10YR30 黒褐色 0-1粒子を少量含む
- S-9グリッド埋藏土
- 1a 層 Huc10YR20 黒褐色 0-4粒子を中量、0-17°粒子を微量含む
- 1b 層 Huc10YR20 黒褐色 0-17°s?を中量含む
- 2a 層 Huc10YR30 暗褐色 0-4粒子を多量、0-17°s?を少量含む
- 2b 層 Huc10YR30 暗褐色 灰色土を多量、0-17°s?を少量含む
- 2c 層 Huc10YR30 暗褐色 0-3粒子を多量に含む

第247図 B区土壌・清平面図(49)



SD9

1a 層 Hae10YR3/2 黒褐色 0-1.0*0.7を中量含む

1b 層 Hae10YR3/2 黒褐色 0-1.0粒子を少量含む

SD16

1b 層 Hae10YR2/3 黒褐色 0-1.0粒子を多量、0-1.7*0.7を少量含む

2a 層 Hae10YR4/4 褐色 0-1.7*0.7を多量を含む

2b 層 Hae10YR4/4 褐色 0-1.7*0.7を多量を含む

3 層 Hae10YR4/4 褐色 0-1.6*1.0を少量含む

2 層 Hae10YR3/3 暗褐色 0-1.7*1.0を少量含む

4 層 Hae10YR3/2 黒褐色 0-1.0粒子を少量含む

SD23

1 層 Hae10YR3/1 黒褐色 しまり強い 0-1.0粒子(3mm)、黒色粒子(5mm)

階上を多量に含む

2 層 Hae10YR4/3 黄褐色 しまり強い 0-1.0粒子(5~8mm)をやや多量に

含む

3 層 Hae10YR3/4 暗褐色 しまりあり 0-1.0粒子(3mm)を多量に含む

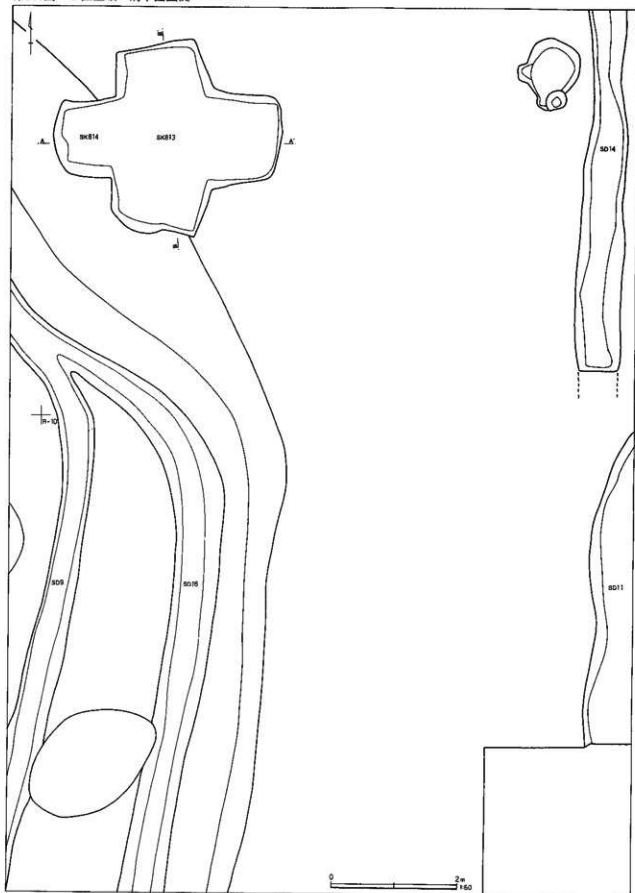
4 層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1.7*0.7(1cm)を少量含む

5 層 Hae10YR3/3 暗褐色 しまりあり 0-1.0粒子(3mm)を多量に含む

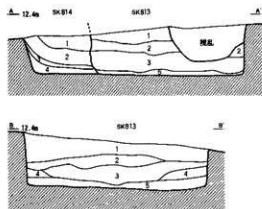
6 層 Hae10YR4/6 褐色 しまりあり 0-1.0粒子(3mm)を多量に含む

7 層 Hae10YR3/2 黒褐色 しまりあり 0-1.0粒子(3mm)を多量に含む

第248图 B区土壤·海平面区50



第249図 B区土壌・溝平面図(50土層図)



SKB13

- 1層 Huc10YR3/3 暗褐色 固くしまっている 0-1粒子 (2~5mm) を少量含む
- 2層 Huc10YR4/4 褐色 固くしまっている 0-1粒 f (2~5mm) を少量、0-17°0' (1cm) を少量含む
- 3層 Huc10YR2/2 黒褐色 固くしまっている 0-1粒子 (2~5mm) を少量、0-47°0' (1cm) を極少量含む
- 4層 Huc10YR4/4 暗褐色 固くしまっている 0-1粒子 (2~5mm)、0-47°0' (1~2cm) をともにやや多量に含む
- 5層 Huc10YR4/5 褐色 固くしまっている 0-1粒子 (2~8mm)、0-47°0' (1cm) をともに多量に含む

SKB14

- 1層 Huc10YR4/4 褐色 しまりあり 0-1粒子 (2~5mm) を少量含む
- 2層 Huc10YR4/4 褐色 しまりあり 0-1粒子 (2~3mm) を少量、0-17°0' (1cm) を少量含む
- 3層 Huc10YR3/4 暗褐色 固くしまっている 0-1粒子 (3~7mm) を少量含む
- 4層 Huc10YR4/6 褐色 固くしまっている 0-1粒子 (2~3mm)、0-37°0' (1cm) を少量に含む



第17号溝

S-3~S-5グリッドに位置し、東西方向にのびる(第218図~第220図)。第15号溝・16号溝よりも新しいが、時期は特定できなかった。幅約0.4m、深さは約0.35mある。S-6グリッドの方向へ続くと思われるが検出することはできなかった。遺物は数点と少なく、1点を図化することができた(第256図)。1は在地産の獣面飾り、火舎等の把手になるものと思われる。

第18号溝

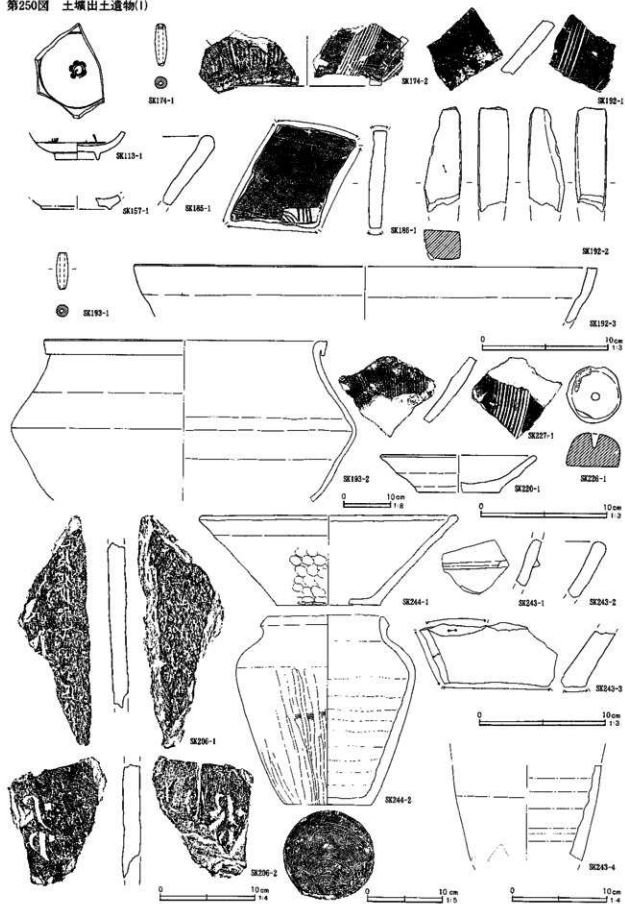
S-5~T-6グリッドに位置し、東西方向にのびる(第221図・第225図)。前述したように第16号溝の南辺になる可能性がある。溝北側の縁を検出しただけなので、幅や深さは不明である。遺物は数点と少なく、1点を図化することができた(第256図)。1は在地産鉢の口縁部破片である。

第19号溝

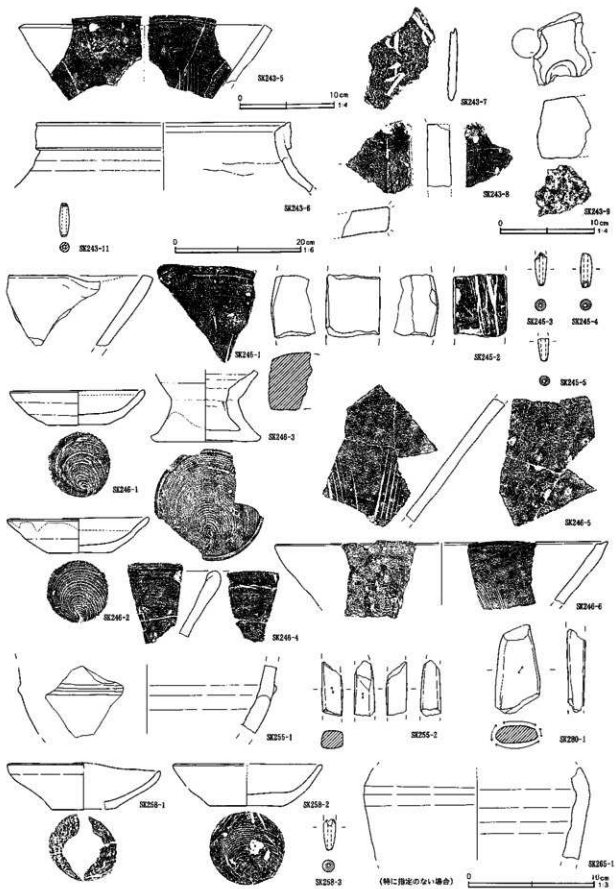
S-8・S-9に位置し、東西方向にのびる(第240図~第243図)。第23号溝も同一の溝である可能性がある。第27号溝よりも新しい。断面形態は箱塚研で、幅約1.8m、深さ約0.8mある。土層から最低1回は掘り直されていることが観察できた(第243図)。遺物は約200点出土し、在地産皿(約60点)と板碑(約50点)が

多く出土した。その中の38点を図化することができた(第259図・第260図)。1~16は在地産皿で、大小の2種類がある。17は白磁の小皿で、貫軸の隙間に黒い煤がしみ込んでいる。高台は数か所欠りが入る。18・19・21は在地産鉢である。いずれも楕目が入り、18・21の楕目は直線と波線が組み合わされている。19は外面は粗い木口状工具によるナデ調整で、口縁部に焼成後の穿孔がある。18・21の胎土や焼成は在地産焙烙に近似している。20は常滑産壺の胴部破片で、割れ口の3辺を磁石として再利用している。22は在地産土鍋の把手部分である。23・24・26は在地産焙烙である。23は焼成後の穿孔が2か所あるが、貫通していない。26は底部を除きほぼ完存する。耳は3か所に付き、耳の下端は底部には付かない。25は瀬戸・美濃産溜鉢の口縁部破片である。鉄軸が施軸される。27は・28は石白の上白である。28の挽木孔は方形で、飾りは無い。29・30は凝灰岩製の磁石である。31~38は板碑の破片である。31は板碑の上半部で、二条線とキリークと光明真言が彫られている。銘文の彫りは深く、葉研彫りになっている。32は主尊部分で、キリークと蓮座が彫られている。銘文の彫りは深く、葉研彫りになっている。33は紀年部分で、「応永廿(1413~)」と彫られている。34は板碑の上半部で、キリークが彫られる。二条線は無い。35は主尊部分で、キリークが彫られる。36

第250図 土壙出土遺物(1)

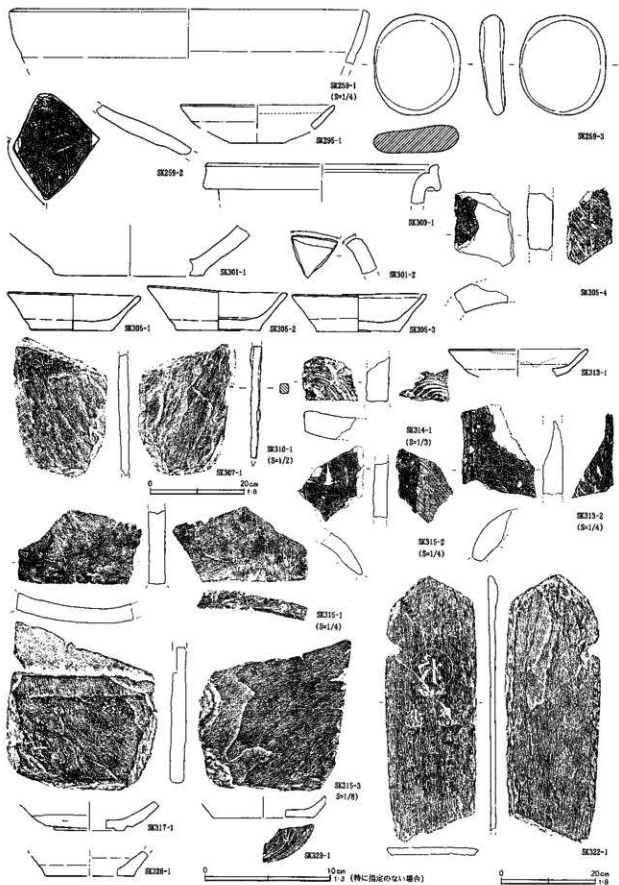


第251図 土坑出土遺物(2)

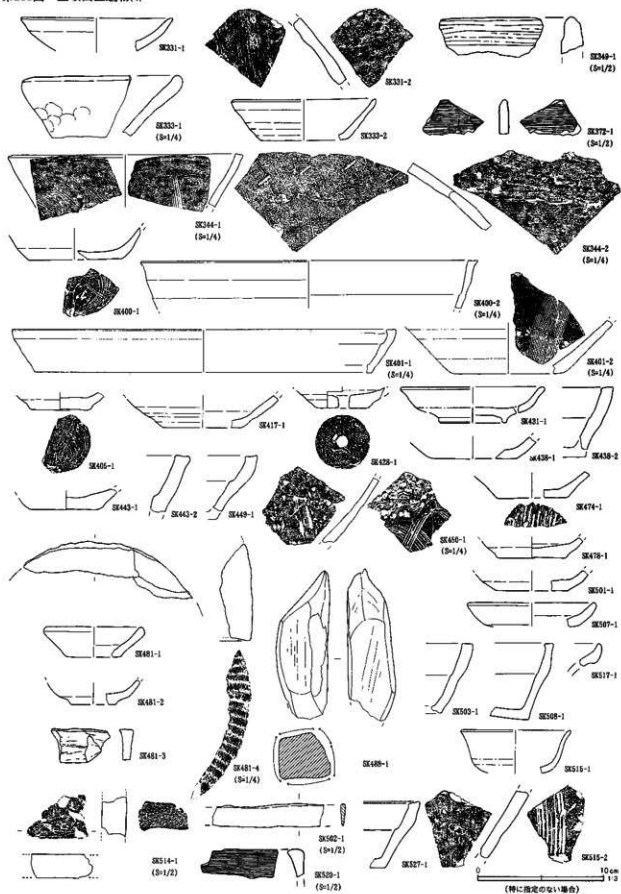


(特に指定のない場合)

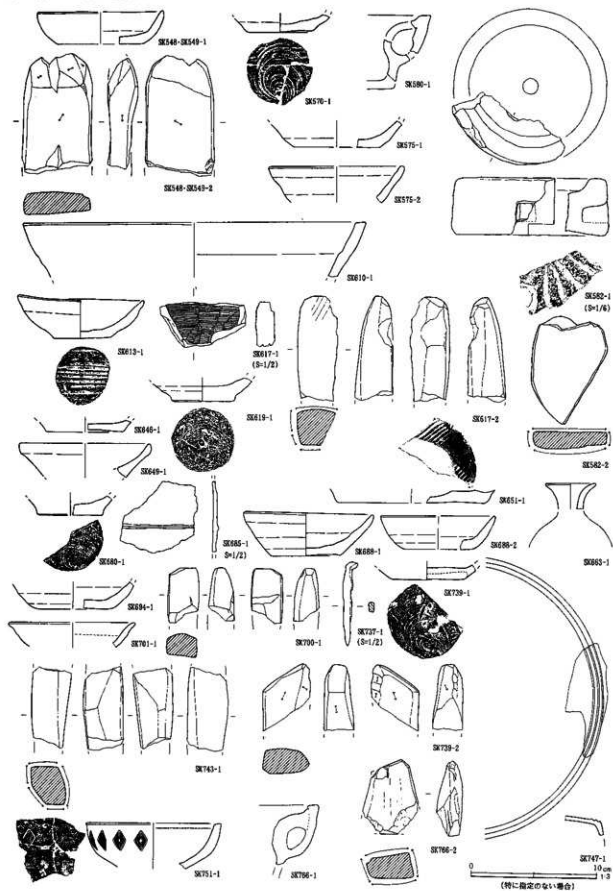
第252図 土壌出土遺物(3)



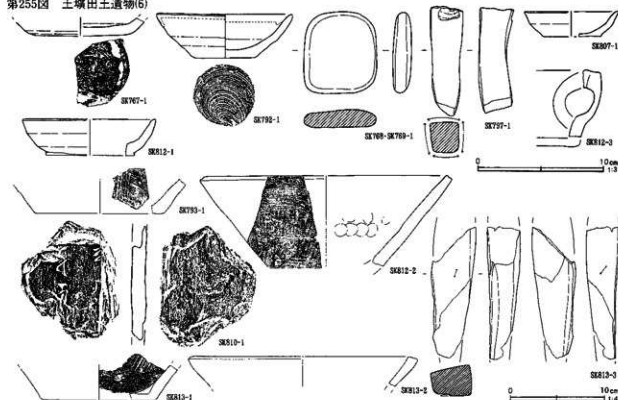
第253図 土壌出土遺物(4)



第254図 土壇出土遺物(5)



第255図 土壌出土遺物(6)



第5表 土壌出土遺物観察表(1)

番号	種類	器種	口径	底径	器高	胎土	焼色	色調	残存	備考
S K 113-1	磁器	染付碗	—	3.4	—	—	B	白	90	肥前産
S K 157-1	陶器	皿	—	(5.4)	—	—	B	白	25	瀬戸・美濃産 灰釉
S K 174-1	土製品	土鉢	3.2	0.9	0.9	—	B	褐	100	2.00 g
S K 174-2	在地産土器	鉢	—	(11.6)	—	C	B	褐	20	摺目9条一単位
S K 185-1	在地産土器	鉢	—	—	—	C D H	B	灰	—	—
S K 186-1	陶器	壺	—	—	—	A	B	灰白	—	常滑産 押印文あり 磁石として利用
S K 192-1	在地産土器	鉢	—	—	—	C F	B	褐	—	摺目あり
S K 192-2	石製品	砥石	—	2.4	2.2	—	—	—	—	凝灰岩 70.40 g
S K 192-3	在地産土器	鍋	(37.0)	—	—	C F	B	褐	—	—
S K 193-1	土製品	土鉢	2.9	0.9	0.9	—	—	褐	100	1.80 g
S K 193-2	陶器	壺	(60.0)	—	—	A	B	灰褐	17	常滑産
S K 206-1	石製品	板碑	—	—	1.8	—	—	—	—	—
S K 206-2	石製品	板碑	—	—	1.8	—	—	—	—	表裏に梵字あり
S K 220-1	在地産土器	皿	(12.0)	(6.4)	(2.9)	—	B	褐	25	肥前産 藍A
S K 226-1	石製品	おもり	4.1	—	2.6	—	—	—	100	凝灰岩 64.70 g
S K 227-1	在地産土器	鉢	—	—	—	C	B	灰褐	—	摺目11条一単位
S K 243-1	在地産土器	土釜	—	—	—	C D	B	褐	—	外面に煤が付着
S K 243-2	在地産土器	鉢	—	—	—	C D	C	褐灰	—	—
S K 243-3	陶器	壺	—	—	—	A	B	灰	—	常滑産? 磁石として利用 (3ヶ所)
S K 243-4	陶器	瓶子	—	—	—	—	B	灰褐	—	古瀬戸 灰釉 被熱?
S K 243-5	在地産土器	鉢	(25.6)	—	—	C	B	灰	15	摺目6条一単位
S K 243-6	陶器	壺	(40.6)	—	—	A	B	褐	30	常滑産 漆接合した同一個体の 胴部破片あり (図版42)
S K 243-7	石製品	板碑	—	—	0.8	—	—	—	—	—
S K 243-8	瓦	平瓦	—	—	1.9	A	B	褐	—	凹凸面とも丁寧なミガキ調整
S K 243-9	石製品	石臼	—	—	—	—	—	—	—	上白 安山岩
S K 243-11	土製品	土鉢	2.6	0.8	0.7	—	B	褐	100	1.15 g

第6表 土壌出土遺物観察表(2)

番号	種類	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存	備考
SK244-1	在地産土器	鉢	34.1	13.9	12.0	CDH	B	灰褐	25	底部調整D SK243出土破片と接合
SK244-2	在地産土器	鉢	15.3	11.4	25.1	CF	B	褐灰	100	底部調整A 外面は丁寧なミガキ調整
SK245-1	在地産土器	鉢	—	—	—	C	B	褐	—	顔目あり
SK245-2	石製品	砥石	—	4.0	4.4	—	—	—	—	凝灰岩 一面に線刻あり 98.30g
SK245-3	土製品	土罐	—	0.8	0.9	—	B	褐	—	1.40g
SK245-4	土製品	土罐	2.7	0.9	0.8	—	B	褐	100	1.40g
SK245-5	土製品	土罐	—	0.8	0.8	—	B	褐	—	0.80g
SK246-1	陶器	線軸小皿	10.7	5.0	2.7	—	B	灰白	—	古瀬戸 灰軸 底部調整A 油炎痕あり
SK246-2	陶器	線軸小皿	11.2	5.0	2.7	—	B	灰白	—	古瀬戸 灰軸 底部調整A
SK246-3	陶器	尊式花瓶	—	8.1	—	—	B	灰白	100	古瀬戸 灰軸 底部調整A 被熱している
SK246-4	在地産土器	鉢	—	—	—	DH	B	灰褐	—	
SK246-5	在地産土器	鉢	—	—	—	C	B	灰	—	顔目6条一単位
SK246-6	在地産土器	鉢	(26.3)	—	—	C	B	褐	—	細かい顔目あり
SK255-1	在地産土器	土釜	—	—	—	CD	B	明褐	—	外面に煤が付着
SK255-2	石製品	砥石	—	1.7	1.4	—	—	—	—	凝灰岩 13.40g
SK258-1	在地産土器	皿	12.0	5.1	3.6	CF	B	明褐	90	歪んでいる 底部調整Aの後一部ヘラ 削り調整
SK258-2	在地産土器	皿	11.6	5.8	3.3	—	B	褐	70	底部調整A
SK258-3	土製品	土罐	—	0.9	0.8	—	B	褐	—	1.40g
SK259-1	在地産土器	鉢	(38.0)	—	—	C	B	褐	—	
SK259-2	陶器	壺	—	—	—	C	B	灰	—	常滑産 砥石として利用
SK259-3	石製品	磨石?	7.9	6.8	1.8	—	—	—	100	被熱している 170.30g
SK265-1	陶器	壺	—	—	—	B	灰	15	常滑産	
SK280-1	石製品	砥石	—	3.5	1.4	—	—	—	—	荒砥? 片岩 50.30g
SK295-1	陶器	小皿	(12.2)	—	—	—	灰	—	—	瀬戸・美濃産 鉄軸
SK300-1	陶器	壺	(18.2)	—	—	C	B	灰	15	常滑産
SK301-1	陶器	壺	—	(12.0)	—	AC	B	灰白	20	常滑産 砂痕
SK301-2	陶器	壺	—	—	—	A	B	白	—	常滑産 砥石として利用
SK305-1	在地産土器	皿	10.4	6.2	2.9	B	B	淡褐	75	底部調整A
SK305-2	在地産土器	皿	11.0	6.6	3.1	—	B	褐	70	底部調整A
SK305-3	在地産土器	皿	10.5	6.1	3.0	—	B	淡褐	75	底部調整A
SK305-4	瓦	丸瓦	—	—	2.0	A	B	白灰	—	凹面に糸切り痕と布目圧痕あり 凸面はヘラナデ調整
SK307-1	石製品	板碑	—	20.0	2.2	—	—	—	—	
SK310-1	鉄製品	釘	—	0.5	—	—	—	—	—	
SK313-1	陶器	小皿	(11.0)	—	—	B	淡褐	20	瀬戸・美濃産 灰軸	
SK313-2	瓦	丸瓦	—	—	2.1	AC	B	褐	—	凹面に糸切り痕と布目圧痕あり 凸面はヘラナデ調整
SK314-1	瓦	平瓦	—	—	1.8	A	B	白灰	—	凹面に糸切り痕と布目圧痕あり 凸面にも糸切り痕あり
SK315-1	瓦	平瓦	—	—	1.8	—	—	—	—	凹凸面ともに離れ砂が付着
SK315-2	瓦	丸瓦	—	—	1.5	A	B	白灰	—	凹面に糸切り痕と布目圧痕あり 凸面はヘラナデ調整
SK315-3	石製品	板碑	—	32.0	3.2	—	—	—	—	
SK317-1	陶器	平碗	—	(5.5)	—	—	B	灰	25	古瀬戸 灰軸 底部調整B
SK322-1	石製品	板碑	—	19.4	1.2	—	—	—	—	
SK326-1	在地産土器	皿	—	(7.1)	—	—	B	褐	17	
SK329-1	在地産土器	皿	—	(8.0)	—	—	B	褐	25	底部調整A
SK331-1	在地産土器	皿	(11.8)	—	—	C	B	暗褐	17	
SK331-2	陶器	壺	—	—	—	A	B	灰	—	産地不明

第7表 土壌出土遺物観察表(3)

番号	種類	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存	備考
S K 333-1	在地産土器	鉢	(30.6)	—	—	C D H	B	灰褐	—	爆付着
S K 333-2	在地産土器	皿	(11.2)	(7.0)	(3.2)	—	B	淡褐	15	底部調整A
S K 344-1	在地産土器	鉢	(25.0)	—	—	C F	B	褐	15	摺目あり
S K 344-2	陶器	甕	—	—	—	A	B	白灰	—	常滑産
S K 349-1	木製品	容器	—	—	—	—	—	—	—	—
S K 372-1	木製品	容器	—	—	—	—	—	—	—	炭化している
S K 400-1	在地産土器	皿	—	(7.4)	—	B	B	明褐	25	底部調整A
S K 400-2	在地産土器	鍋	(35.6)	—	—	C	B	茶褐	—	—
S K 401-1	在地産土器	鍋	(40.1)	(35.8)	(4.5)	C	B	褐	—	—
S K 401-2	陶器	摺鉢	—	(11.9)	—	—	B	灰褐	20	瀬戸・美濃産 鉄軸 摺目21条一単位 底部調整A
S K 405-1	在地産土器	皿	—	4.3	—	C	B	褐	70	底部調整A
S K 417-1	在地産土器	皿	—	(6.2)	—	—	B	淡褐	25	底部調整A
S K 428-1	在地産土器	皿	—	4.2	—	C F	B	褐	100	底部調整A 焼成前に穿孔
S K 431-1	陶器	小皿	(11.2)	(5.4)	(2.8)	—	B	白	25	瀬戸・美濃産 灰釉を全面施釉
S K 438-1	在地産土器	皿	—	(6.6)	—	—	B	暗褐	25	—
S K 438-2	在地産土器	鍋	(34.0)	—	—	C	B	褐	—	—
S K 443-1	在地産土器	皿	—	5.3	—	C	B	褐	50	底部調整A
S K 443-2	在地産土器	鍋	—	—	—	C	B	暗灰	—	—
S K 449-1	在地産土器	鍋	—	—	—	C F	B	褐	—	—
S K 450-1	在地産土器	鉢	—	—	—	C F	B	暗褐	—	摺目5条一単位、7条一単位2種あり
S K 474-1	在地産土器	皿	—	(5.4)	—	C F	B	褐	25	底部調整D
S K 478-1	在地産土器	皿	—	(5.2)	—	—	B	褐	25	底部調整A
S K 481-1	在地産土器	皿	(7.2)	(4.4)	(2.4)	F	B	明褐	25	底部調整A
S K 481-2	在地産土器	皿	—	(3.5)	—	—	B	明褐	35	—
S K 481-3	木製品	容器	—	—	—	—	—	—	—	炭化している
S K 481-4	石製品	石臼	(24.0)	—	—	—	—	—	—	上白 安山岩
S K 488-1	石製品	砥石	—	4.1	3.5	—	—	—	—	凝灰岩 208.92g
S K 501-1	在地産土器	皿	—	(5.8)	—	—	B	明褐	25	底部調整A
S K 502-1	鉄製品	刀子	—	1.2	0.2	—	—	—	—	—
S K 503-1	在地産土器	鍋	—	—	—	C F	B	褐	—	—
S K 507-1	在地産土器	皿	(10.1)	—	—	—	B	淡褐	25	—
S K 508-1	在地産土器	鍋	—	—	—	C F	B	褐	—	—
S K 514-1	瓦	平瓦	—	—	2.0	A	C	灰	—	凹面は横し焼成される
S K 515-1	白磁?	碗	(8.4)	—	—	—	B	白	25	—
S K 515-2	在地産土器	摺鉢	—	—	—	C	B	褐	—	摺目8条一単位
S K 517-1	陶器	摺鉢	—	—	—	—	B	白灰	—	瀬戸・美濃産 鉄軸
S K 520-1	木製品	容器	—	—	—	—	—	—	—	炭化している
S K 527-1	在地産土器	鍋	(42.8)	(37.4)	5.2	C F	B	暗褐	—	—
S K 548・ S K 549-1	在地産土器	皿	(9.9)	(6.8)	(2.5)	—	B	明褐	35	底部調整A
S K 548・ S K 549-2	石製品	砥石	—	55.5	1.7	—	—	—	—	荒砥? 網罟母片岩 173.40g
S K 570-1	在地産土器	皿	—	5.3	—	—	B	褐	100	底部調整A
S K 575-1	在地産土器	皿	—	(6.8)	—	—	B	褐	25	底部調整A
S K 575-2	在地産土器	皿	(10.5)	—	—	—	B	明褐	17	—
S K 580-1	在地産土器	鍋	—	—	—	C	B	褐	—	—
S K 582-1	石製品	石臼	—	—	—	—	—	—	33	上白 安山岩
S K 582-2	石製品	砥石	8.4	6.0	1.7	—	—	—	—	網罟母片岩 被熱? 84.50g
S K 610-1	在地産土器	鍋	(27.1)	—	—	C	B	褐	—	—
S K 613-1	在地産土器	皿	9.9	4.5	3.4	C F	B	褐	90	底部調整A 爆付着
S K 617-1	木製品	容器	—	—	—	—	—	—	—	炭化している

第8表 土壇出土遺物観察表(4)

番号	種類	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存	備考
S K617-2	石製品	砥石	—	3.2	2.8	—	—	—	—	凝灰岩 96.10g
S K619-1	在地産土器	皿	—	4.6	—	C F	B	褐	100	底部調整A
S K646-1	在地産土器	皿	—	6.0	—	C	B	明褐	50	
S K649-1	在地産土器	皿	(10.2)	—	—	—	B	茶褐	20	
S K651-1	在地産土器	鉢	—	(11.7)	—	C F	B	明褐	25	底部調整C
S K663-1	陶器	小壺	4.0	—	—	—	B	褐	—	瀬戸・美濃産 鉄釉
S K680-1	在地産土器	皿	—	5.1	—	—	B	淡褐	50	底部調整A
S K685-1	青銅製品	不明	—	—	—	—	—	—	—	
S K688-1	在地産土器	皿	10.1	5.4	3.4	—	B	淡褐	50	底部調整A
S K688-2	在地産土器	皿	(8.9)	(5.5)	(2.6)	—	B	明褐	20	底部調整A
S K694-1	在地産土器	皿	—	(5.9)	—	—	B	褐	33	底部調整A
S K700-1	石製品	砥石	—	2.5	1.8	—	—	—	—	凝灰岩 24.70g
S K701-1	陶器	小皿	10.0	—	—	—	B	褐灰	—	瀬戸・美濃産 鉄釉
S K737-1	鉄製品	釘	4.4	0.4	0.5	—	—	—	100	
S K739-1	在地産土器	皿	—	5.9	—	—	B	褐	75	底部調整A
S K739-2	石製品	砥石	—	3.8	2.0	—	—	—	—	凝灰岩 46.80g
S K743-1	石製品	砥石	—	3.1	3.0	—	—	—	—	凝灰岩 75.20g
S K747-1	青銅製品	銅口	(23.0)	—	—	—	—	—	—	
S K751-1	在地産土器	香炉	(10.5)	—	—	D H	B	黒	20	外面に菱形の押印あり
S K766-1	在地産土器	網	—	—	—	C	B	褐	—	
S K766-2	石製品	砥石	—	4.5	2.0	—	—	—	—	凝灰岩 59.49g
S K767-1	在地産土器	皿	—	(7.3)	—	—	B	褐	25	底部調整A
S K768・ S K769-1	石製品	磨石?	6.4	5.8	1.3	—	—	—	100	83.30g
S K792-1	陶器	縁軸小皿	10.8	4.8	3.5	—	B	灰白	100	古瀬戸 ¹⁾ 底部調整A
S K793-1	陶器	縁鉢	—	(13.6)	—	—	B	褐	10	瀬戸・美濃産 鉄釉 底部調整A
S K797-1	石製品	砥石	8.6	2.6	2.3	—	—	—	100	凝灰岩 85.80g
S K807-1	在地産土器	皿	(7.3)	(4.7)	(2.0)	—	B	淡褐	25	底部調整A 油炎痕あり
S K810-1	石製品	板碑	—	—	1.6	—	—	—	—	
S K812-1	在地産土器	皿	10.4	7.0	2.9	—	B	褐	20	内面に煤が付着 底部調整A
S K812-2	在地産土器	鉢	(25.6)	—	—	C	B	灰褐	15	
S K812-3	在地産土器	焙烙	—	—	—	C	B	褐灰	—	
S K813-1	在地産土器	鉢	—	(11.9)	—	C	B	明褐	—	撞目5条一単位 底部調整C
S K813-2	在地産土器	鉢	(22.7)	—	—	C	B	明褐	—	
S K813-3	石製品	砥石	—	4.5	3.3	—	—	—	—	凝灰岩 被熱している 197.60g

は喝の部分で、「仏衆」と彫られている。「観無量寿経」の「念仏衆生」の一部である。37は紀年部分で、「□(禅門カ)・月十一日・・・□□」と彫られている。38は主尊部分で、キリークと思われる。この他に図化できなかったが、★印の地点で、1層下層から漆碗の破片が1点出土した(第242図)。木質部は腐食して残っておらず、漆部分が皮膜状になって出土した。内面は朱漆で、外面は黒漆と思われる。

第20号溝

S-8・S-9・T-9グリッドに位置する(第240図～第244図)。第19号溝・第27号溝と合わせて、1辺約11mの方形区画を形成している。重複する井戸や土壇よりも新しい。幅は約0.9m、深さは約0.25mである。遺物は約30点あり、4点を図化することができた(第259図)。1・2は在地産皿の底部破片である。3は在地産網の口縁部破片である。4は在地産鉢の体部破片である。内面には交差する撞目がある。

第9表 B区土壌一覽(1)

新番号	旧番号	グリッド	長辺	短辺	深さ	主軸方向	主な出土遺物(数字は破片数)
113	800	K-8・L-8	1.17	0.97	0.44	-	磁器染付罐1
114	813	K-8・L-8	1.23	0.90	0.76	-	
115	811	L-8	0.47	-	0.33	N-70°-W	
116	810	K-8	1.30	-	0.93	-	
117	809	K-8	1.28	-	0.69	-	
118	878	K-8	1.10	0.77	0.45	N-20°-W	
119	802	L-8	1.05	0.55	0.11	N-3°-W	在地産皿1
120	801	L-8	1.04	0.58	0.27	-	
121	814	K-8	0.92	0.77	0.22	-	
122	836	K-8	1.97	-	0.65	-	
123	859	K-8	0.99	0.54	0.53	-	
124	803	K-8・L-8	1.20	0.70	0.28	N-82°-W	在地産皿1
125	858	K-9	1.44	0.81	0.27	-	
126	876	K-9	0.98	-	0.47	N-9°-E	
127	838	K-9	-	0.70	0.34	-	在地産皿4
128	857	K-9	2.00	1.41	0.74	-	
129	806	K-9・L-9	1.20	1.08	0.13	-	土師質土器環1
130	815	K-9・L-9	1.75	1.57	0.58	-	土師質土器環3、土師器壺12
131	816	K-9	-	0.55	0.22	-	土師器2
132	827	K-9・L-9	0.99	0.62	0.19	N-12°-W	
133	812	L-9	0.87	0.52	0.27	N-54°-W	
134	826	L-9	1.48	-	0.63	-	
135	804	L-8・L-9	0.88	0.68	0.26	-	在地産(皿1、罎1)
136	805	L-8・L-9	1.32	0.59	0.31	N-78°-E	
137	854	L-9	0.73	0.58	0.22	-	
138	849	L-9	1.04	0.53	0.27	-	
139	877	L-8・L-9	1.82	0.88	0.43	N-78°-E	在地産皿1、板碑2、石鏝1、鉄滓1
140	853	L-9	1.43	0.97	0.21	N-35°-W	在地産皿1、須恵器環1
141	847	L-9	1.43	1.10	0.24	N-10°-W	在地産罎1
142	855	L-9	1.44	1.35	0.89	-	罎1、鉄滓2
143	850	L-9	0.94	0.61	0.15	-	
144	851	L-9	1.59	1.15	1.04	-	
145	851	L-9	1.03	0.58	0.16	-	
146	852	L-9	1.34	1.15	0.45	-	
147	807	K-10	1.08	0.80	0.06	N-90°-E	在地産鉢1
148	808	K-11	1.11	1.04	0.08	-	在地産鉢1、罎1
149	818	M-8	1.62	0.74	0.17	N-7°-W	
150	819	M-8	2.18	0.65	0.13	N-8°-W	
151	817	M-8	2.21	0.78	0.24	N-6°-W	罎1
152	825	M-8	1.00	-	0.20	N-5°-W	
153	828	M-8	1.30	-	0.31	-	
154	829	M-8	1.04	-	0.31	-	
155	831	M-8	1.09	-	0.16	-	
156	832	M-8	1.01	-	0.25	-	
157	820	M-8	-	0.63	0.31	-	瀬戸・美濃産灰釉皿1
158	823	M-8	0.88	-	0.11	-	
159	834	M-9	1.17	0.85	0.32	N-58°-W	
160	821	M-9	1.04	0.77	0.40	N-30°-E	
161	835	M-9	1.40	-	0.36	-	
162	833	M-9	-	1.36	0.67	-	
163	844	M-9	1.14	-	0.25	-	
164	837	M-9	1.14	-	0.19	-	

第10表 B区土壌一覽(2)

新番号	旧番号	グリッド	長辺	短辺	深さ	主軸方向	主な出土遺物(数字は破片数)
165	839	M-9	1.69	1.59	0.57	-	
166	843	M-9	1.04	-	0.29	-	
167	842	M-9	1.49	-	0.46	-	
168	840・841	M-9	1.72	-	0.30	-	
169	881	N-11	0.79	0.69	0.18	N-9'-E	
170	882	N-11	0.67	0.55	0.18	N-56'-W	
171	883	N-11	0.53	0.18	0.13	N-79'-E	
172	769	N-11	1.04	0.73	0.19	N-29'-W	
173	884	N-11	0.90	0.58	0.14	N-63'-W	須恵器壺1、礫1
174	773	N-11	1.90	1.51	0.80	-	在地産鉢1、板碑1、木炭11、礫2、土師1
175	774	N-11	0.85	-	0.07	-	礫1
176	775	N-11	0.90	0.75	0.67	-	礫1
177	751	N-12	1.35	1.13	0.35	N-80'-E	
178	706	O-12	-	1.00	0.48	-	
179	707	O-12	1.58	0.97	0.39	-	
180	708	O-12	1.28	1.04	0.50	-	
181	701	O-13	1.08	0.86	0.22	N-15'-W	
182	653	O-4	1.58	1.15	0.87	-	在地産(皿1、鍋1)、礫1
183	650	N-5・O-5	-	0.86	0.41	N-0'	礫1
184	651	O-5	1.44	0.97	0.17	-	
185	663	O-7	1.40	1.22	0.58	N-37'-E	在地産鉢1
186	666	O-7	2.10	1.75	0.77	N-16'-E	常滑産壺4、礫4、黒曜石1
187	649	O-7	-	1.68	0.83	N-16'-E	
188	667	O-7	2.75	-	0.18	N-67'-E	
189	748	O-8	3.80	1.55	0.75	-	在地産鉢1、常滑産壺1、錢貨1、礫9
190	880	N-9	1.07	0.54	0.26	-	
191	879	N-9・O-9	2.93	2.00	0.13	N-5'-E	礫1
192	770	O-9	3.29	1.35	0.82	-	在地産(鉢1、鍋2)、常滑産壺3、須恵器3、礫7、糠刈口2、石臼1、伊壁1、砥石1
193	747	O-9・P-9	4.10	1.55	0.80	-	在地産鍋2、常滑産壺22、礫16、土師1、粘土塊1
194	652	P-4	1.63	1.10	0.23	N-90'-E	
195	657	P-4・P-5	2.59	1.03	0.11	N-4'-E	
196	656	P-4	1.30	1.04	0.12	-	鉢型?1、土壁?6
197	785	P-5	2.80	1.25	0.65	-	
198	341	Q-4・Q-5	-	-	0.36	-	
199	346	Q-5	1.28	1.13	0.12	-	
200	343	Q-5	1.10	0.92	0.08	-	在地産皿1、板碑1
201	479	P-5・P-6	2.77	1.03	0.20	N-90'-E	在地産(鉢3、鍋1)、須恵器2、礫2、黒曜石1
202	463	Q-5	0.90	0.85	0.18	-	
203	464	Q-5	0.88	0.75	0.22	-	
204	466	Q-5	-	-	-	-	在地産(皿1、鍋2)、礫1、土師器1
205	なし	P-5・Q-5	-	-	0.05	N-12'-W	
206	655	P-6	2.78	-	0.30	-	板碑2、石臼1、礫1
207	654	P-6	1.85	1.53	0.21	-	常滑産壺1、礫1
208	659	P-6	2.90	-	0.19	N-74'-W	瀬戸・美濃産(圓鉢1、鉄胎壺1)、板碑1、礫2
209	660	P-6	1.98	-	0.28	N-74'-W	錢貨1
210	658	P-6	-	1.33	0.37	N-0'	
211	467	Q-5・Q-6	2.70	1.30	0.17	N-90'-E	
212	468	Q-6	2.90	1.10	0.12	N-11'-W	在地産皿1、磁器1、
213	469	Q-6	1.80	1.00	0.27	N-8'-E	
214	478	Q-6	-	1.00	0.30	N-31'-E	
215	480	P-6・Q-6	-	1.13	0.36	N-0'	

第11表 B区土壌一覽(3)

新番号	旧番号	グリッド	長辺	短辺	深さ	主軸方向	主な出土遺物(数字は破片数)
216	479	P-6・Q-6	-	1.23	0.24	N-0°	
217	481	Q-6	1.42	0.66	0.27	N-0°	
218	462	Q-6・P-6	-	1.00	0.37	N-0°	
219	461	Q-6	1.26	0.82	0.10	N-90°-E	
220	647・649	P-7	-	1.30	0.47	-	在地産皿1、板碑1、礫1
221	648	P-7	3.75	1.32	0.33	N-90°-E	礫1、黒曜石1
222	642	P-7	-	1.22	0.21	N-7°-W	
223	643	P-7	1.22	0.76	0.35	-	
224	640	P-6・P-7	2.26	1.16	0.25	N-80°-E	
225	641	P-7	0.78	0.63	0.62	-	
226	644	P-7	-	1.16	0.30	N-90°-W	竿秤の石製權1
227	645	P-7	2.12	1.74	0.24	-	在地産(鉢1、鍋1)、粘土塊1
228	646	P-7	2.96	1.32	0.31	N-90°-E	
229	742	P-8	-	-	0.47	N-10°-W	
230	741	P-8	-	-	0.34	-	黒曜石1
231	740	P-8	2.30	1.65	0.83	N-20°-E	
233	763	P-8	-	-	0.45	-	礫1
232	なし	P-8	-	-	0.13	N-0°	
234	637	Q-8	-	1.10	0.41	N-18°-W	
235	602	Q-8	1.53	0.87	0.16	N-0°	
236	605	Q-8	1.34	0.70	0.11	N-72°-E	
237	597	Q-8	-	0.93	0.26	N-7°-W	
238	601	Q-8	2.00	-	0.11	N-13°-W	
239	600	Q-8	-	0.75	0.20	N-5°-W	
240	598	Q-8	1.73	-	0.41	N-33°-W	
241	599	Q-8	-	1.05	0.42	N-55°-W	常滑産壺1
242	596	Q-8	-	-	0.25	-	
243	736・737 ・738	P-8・P-9	4.22	1.70	0.70	N-8°-E	在地産(鉢5、鍋1、土釜1)、常滑産壺19、瓦1 鉄貨1、古銅戸瓶1、礫10、板碑2、石臼4、土鍋1
244	739	P-9	0.83	-	0.79	-	在地産(鉢1、壺1)、土鍋1
245	745	P-9	1.65	1.30	1.13	-	在地産鉢1、常滑産壺壺1、礫1、土鍋3、砥石1
246	771	P-9	3.05	1.90	0.90	N-90°-W	在地産(皿2、鉢3)、常滑産壺1、板碑1、礫7 古銅戸(緑釉小皿2、尊式花瓶1)、粘土塊1
247	768	P-9	1.90	1.20	0.83	N-33°-E	
248	767	P-9	1.55	1.20	0.08	-	在地産皿2、礫3
249	777	P-9	1.43	0.71	0.25	-	
250	779	P-9	0.80	-	0.47	-	
251	734	P-9・P-10	-	1.10	0.51	N-0°	
252	730	P-9・P-10	3.82	1.53	0.73	N-82°-W	
253	731	O-9-O-10-P-9	-	0.57	0.75	N-10°-E	
254	772	P-9	-	1.03	0.66	N-15°-W	礫1
255	732	P-9・P-10	2.80	2.02	0.89	-	在地産(皿6、土釜2)、瓦1、礫12、砥石1
256	735	P-10	-	1.33	0.85	-	
257	733	P-10	2.77	-	0.85	N-78°-E	在地産鉢1、板碑1、須恵器1、鉄製品1、礫11
258	764	P-9	3.05	1.20	1.01	-	在地産(皿2、鍋1)、鉄貨1、土鍋1、鉄棒2
259	762	Q-9・Q-10	2.63	1.53	0.40	N-3°-W	在地産鍋1、常滑産壺1、須恵器1、磨石?1、礫1
260	760	Q-10	1.29	0.84	0.15	N-47°-W	
261	703	P-11	3.45	2.28	0.22	-	土師器壺1
262	704	P-11	1.15	-	0.17	-	
263	756	Q-11	1.13	-	0.17	-	
264	75	R-11	2.10	1.68	0.69	-	在地産鍋1
265	76	R-11	1.30	0.97	0.20	-	常滑産壺?1

第12表 B区土壌一覧(4)

新番号	旧番号	グリッド	長辺	短辺	深さ	主軸方向	主な出土遺物(数字は破片数)
266	74	R-11	1.28	1.00	0.28	N-59°-W	
267	72・73	R-11	-	-	1.01	N-89°-E	在地産(皿2、鉢1)、常滑産壺1、罌1、板碑1
268	753	Q-12	1.05	0.93	0.32	-	
269	754	Q-12	1.48	1.35	0.57	-	
270	66	Q-12・R-12	1.04	-	0.92	N-35°-E	
271	65	Q-12・R-12	2.96	1.47	0.26	N-52°-W	板碑1、罌2、河原石2
272	64	R-12	1.57	-	0.55	-	
273	63	Q-12	2.63	1.62	1.13	N-0°	
274	62	R-12	2.42	1.37	1.05	-	
275	71	R-12	0.85	-	0.57	-	
276	67	R-12	-	1.50	0.58	N-13°-E	在地産皿1
277	68	R-12	1.73	1.55	0.90	-	
278	69	R-12	-	-	-	-	
279	70	R-12	-	-	1.13	-	
280	61	R-12	2.70	-	0.70	N-85°-W	常滑産壺1、緑泥片岩製砥石1
281	860	Q-13	1.07	0.63	0.27	-	
282	861	Q-13	0.65	-	0.18	-	
283	862	Q-13	1.22	1.10	0.32	-	在地産皿1
284	863	Q-13	1.13	0.62	0.62	-	罌2、黒色土器1
285	864	Q-13	0.94	0.64	0.22	N-17°-W	
286	865	Q-13	1.12	0.72	0.66	-	罌1
287	868	Q-13	0.69	0.60	0.26	N-90°-E	
288	869	Q-13	1.26	0.90	0.37	-	
289	870	Q-13	0.71	0.51	0.14	-	
290	871	Q-13	1.05	0.95	0.23	-	
291	872	Q-13	0.82	0.52	0.21	-	
292	873	Q-13	1.43	0.71	0.07	N-90°-E	
293	60	R-13	1.08	-	0.33	-	
294	なし	R-13	1.05	-	0.43	-	
295	58・59	R-13	1.62	1.30	0.70	N-81°-E	瀬戸・美濃産皿、磨石1、罌片1
296	55	Q-13・R-13	1.83	0.75	0.50	N-28°-W	
297	54	Q-13・R-13	1.19	0.75	0.34	N-8°-E	須恵器1
298	56	R-13	2.20	0.98	0.35	-	
299	57	R-13	0.93	0.70	0.48	N-13°-W	
300	53	R-13	1.62	0.58	0.16	N-75°-E	常滑産壺1
301	716	P-12	1.23	-	0.54	-	常滑産壺2、小罌多数
302	782	P-12	0.84	0.60	0.18	N-44°-W	在地産鍋2
303	なし	P-12	-	0.87	0.30	N-22°-W	
304	なし	P-12	-	0.75	0.40	N-22°-W	
305	700	P-12・P-13	0.90	0.78	0.13	N-10°-W	在地産皿6、銭貨1、板碑1、小罌6、瓦1
306	753	P-12	0.63	-	0.28	-	
307	712	P-12	0.77	0.48	0.28	-	青磁1、板碑12、小罌多数
308	711	P-12	1.13	0.88	0.68	-	板碑1、壺1、小罌多数
309	721	P-12	0.75	0.68	0.28	-	
310	720	P-12	-	0.38	0.28	N-5°-W	釘1
311	750	P-13	0.78	-	0.28	-	銭貨6、罌1
312	729	P-13	1.13	0.69	0.20	N-16°-W	銭貨6
313	709	P-12	0.88	0.55	0.38	N-18°-E	瀬戸・美濃産小皿1、銭貨6、板碑6、瓦1
314	719	P-12	-	0.39	0.37	-	瓦1
315	710	P-12	1.04	0.72	0.42	-	在地産壺1、板碑2、瓦2、壺大罌2
316	717	P-12	0.94	-	0.54	-	

第13表 B区土壌一覽(5)

新番号	旧番号	グリッド	長辺	短辺	深さ	主軸方向	主な出土遺物(数字は破片数)
317	714	P-12	1.41	0.85	0.42	N-5'-E	在地産銅1、常滑産甕2、古瀬戸平鍋1、 錢貨6、奉大罎2、小罎多数
318	723	P-12	0.93	0.78	0.14	N-2'-W	
319	728	P-12	0.97	-	0.10	-	板碑1
320	727	P-12	1.48	1.03	0.11	-	錢貨6
321	726	P-12	-	0.48	0.08	-	
322	718	P-12	1.18	0.54	0.35	N-8'-W	板碑1
323	751	P-12・Q-12	1.24	0.98	0.24	N-40'-W	在地産(皿1、鍋1)、板碑1、罎1
324	725	P-12	1.04	0.57	0.24	N-73'-E	
325	724	P-12	1.00	0.93	0.38	-	錢貨6、罎2
326	722	P-12	0.54	0.47	0.22	-	在地産皿4、板碑3、罎1
327	752	Q-12	1.22	0.93	0.18	N-42'-E	
328	337	Q-4	1.34	0.96	0.33	N-19'-E	
329	303	Q-4	1.40	1.26	0.51	N-90'-E	在地産皿1、在地産鉢1、板碑1
330	308	Q-4	1.22	1.12	0.45	N-90'-E	在地産(皿1、鉢1、鍋1)、木製品1
331	306	Q-4・R-4	1.70	1.55	0.36	N-14'-E	陶器壺1、土師器8、黒色土器1
332	347	Q-4・R-4	1.30	-	-	-	
333	307	Q-4・R-4	2.80	1.60	0.38	N-9'-E	在地産(皿1、鉢1)、土師器3
334	304	R-4	1.05	0.88	0.76	-	土師器1、黒色土器1
335	317	R-4	0.84	0.54	0.08	N-29'-E	
336	325	Q-4	1.80	0.40	0.09	N-69'-W	
337	338	Q-4・R-4	-	1.10	0.10	-	土師器26
338	324	R-4	1.10	0.70	0.20	N-12'-E	
339	326	Q-4・R-4	-	1.15	0.11	-	
340	327	Q-4・R-4	1.82	0.85	0.12	N-5'-E	在地産皿1、石臼1
341	314	R-4	-	-	0.05	-	土師器6
342	328	Q-4・R-4	-	0.90	0.11	-	
343	313	R-4	2.08	1.00	0.30	N-7'-W	在地産皿1、板碑1
344	315	R-4	-	-	0.28	N-30'-W	在地産(皿1、鉢1)、常滑産甕1
345	312	R-4	-	1.02	0.24	N-9'-W	罎1
346	316	R-4	1.40	1.22	0.40	-	
347	311	R-4	-	0.92	0.27	N-81'-E	在地産(鉢1、鍋1)
348	309	R-4	0.94	0.90	0.25	N-80'-E	
349	310	R-4	1.40	-	0.36	N-18'-W	錢貨2、木製品1
350	329	R-4・R-5	1.20	0.74	0.31	-	
351	322	R-4	0.90	0.82	0.45	N-90'-E	土師器1
352	323	R-4	1.64	1.50	1.15	N-47'-W	
353	330	R-4	1.90	-	0.90	N-10'-W	
354	321	R-5	1.20	0.90	0.33	-	
355	342	Q-5	1.30	1.10	0.14	-	
356	360	Q-5	0.74	0.30	0.09	-	
357	301	S-4	0.85	0.85	0.23	-	
358	300	S-4	1.70	1.65	0.45	-	板碑1、罎1
359	302	S-4	1.00	1.00	0.47	-	石製品1、石臼か?
360	319	S-4	1.03	-	0.35	-	土師器1
361	320	S-4	1.16	1.05	0.23	-	
362	349	R-5	0.95	0.65	0.44	-	
363	471	R-5	1.68	0.78	0.14	N-90'-E	
364	473	S-5	0.90	0.90	0.28	-	
365	386	S-5	1.80	0.65	0.09	N-0'	
366	388	S-5	2.65	0.80	0.22	N-2'-E	
367	472	S-5・S-6	1.25	0.83	0.31	N-90'-E	

第14表 B区土壌一覽(6)

新番号	旧番号	グリッド	長辺	短辺	深さ	主軸方向	主な出土遺物(数字は破片数)
368	474	S-5	1.80	0.60	0.10	N-88°-W	
369	357	R-5	1.00	0.87	0.22	-	
370	353	R-5	2.15	0.70	0.07	N-12°-W	在地産皿1
371	354	R-5	1.75	1.00	0.39	N-0°	在地産(皿2、鍋1)
372	356	R-5	1.40	0.90	0.35	N-0°	在地産皿3、粘土塊1、木製品1
373	381	R-5	1.90	0.82	0.14	N-5°-W	
374	382	R-5	0.90	0.56	0.15	N-5°-W	
375	345	R-5	1.10	0.97	0.56	-	
376	394	R-5	1.72	0.70	0.10	N-18°-W	
377	361	Q-5・R-5	2.30	0.80	0.22	N-0°	
378	362	Q-5	0.85	0.67	0.21	N-85°-E	
379	363	Q-5	0.70	0.55	0.14	N-0°	
380	367	Q-5	0.75	0.70	0.16	-	
381	365	Q-5	0.95	0.90	0.15	-	
382	376	Q-6	0.90	0.80	0.23	N-73°-E	
383	374	Q-5	2.30	1.26	0.13	N-8°-W	在地産皿1、板碑1
384	373	Q-5	3.05	1.05	0.26	N-90°-E	
385	372	Q-5	-	1.20	0.19	N-85°-W	
386	371	Q-5	0.85	0.50	0.07	N-8°-E	
387	370	Q-5・Q-6	1.22	0.92	0.16	N-8°-E	
388	369	Q-5	-	-	0.14	-	
389	368	Q-5	2.31	0.85	0.10	N-80°-W	
390	375	Q-5	3.10	1.88	0.22	N-8°-W	土師器1、罨1
391	435	Q-6	3.10	-	0.08	N-3°-E	
392	436	Q-6	1.70	1.10	0.30	N-3°-W	板碑3、土師器1
393	441	Q-6	3.46	1.44	0.19	N-24°-E	河原石1
394	438	Q-6	-	0.86	0.24	N-11°-E	
395	437	Q-6	-	0.60	0.31	-	
396	434	Q-6	-	1.06	0.20	N-18°-E	
397	433	Q-6	0.82	0.62	0.15	-	
398	439	Q-6	0.74	0.44	0.17	N-22°-E	
399	431	Q-6	1.40	0.70	0.12	N-10°-E	
400	430	Q-6	-	1.20	0.09	N-6°-E	在地産(皿4、鉢1、鍋1)、土師器2
401	419	Q-6	3.64	-	0.13	N-8°-E	在地産鍋2、瀬戸・美濃産摺鉢1、罨4
402	417	Q-6	1.70	0.86	0.12	N-11°-E	在地産鍋1
403	418	Q-6	-	0.80	0.05	N-12°-E	
404	442	Q-6	-	0.70	0.18	N-14°-E	
405	377	Q-6	1.20	0.60	0.05	N-80°-E	在地産(皿1、鉢1、鍋1)、土師器1、罨1
406	379	Q-6	-	0.85	0.20	-	
407	378	Q-6	1.50	0.90	0.21	N-0°	
408	424	Q-6	-	0.90	0.18	-	
409	429	Q-6・R-6	-	-	-	-	
410	427	R-6	1.86	1.00	0.11	N-90°-E	在地産皿1
411	426	R-6	1.80	0.76	0.12	N-90°-E	
412	421	Q-6・R-6	-	0.75	0.30	-	罨2
413	420	Q-6・R-6	-	1.06	0.31	-	
414	422	Q-6	-	0.70	0.31	N-0°	
415	415	Q-6・R-6	1.66	-	0.11	N-7°-E	
416	413	R-6	1.00	0.62	0.34	-	常滑産鉢1、粘土塊3
417	425	R-6	0.86	0.72	0.38	-	在地産皿1、罨1、土師器1
418	411	Q-6	1.04	0.92	0.32	N-90°-E	
419	475	Q-6	1.02	0.90	0.16	N-0°	

第15表 B区土壌一覧(7)

新番号	旧番号	グリッド	長辺	短辺	深さ	主軸方向	主な出土遺物(数字は破片数)
420	476	Q-6	-	0.80	0.09	N-0°	
421	477	Q-6・R-6	1.40	0.86	0.22	N-11°-W	
422	384	R-6	0.94	0.76	0.17	N-62°-E	
423	383	R-6	2.28	0.70	0.13	N-25°-W	
424	387	R-6	1.98	0.86	0.05	N-24°-W	
425	398	R-6	1.08	0.80	0.08	-	
426	397	R-6	1.00	0.74	0.23	N-32°-W	在地産皿1、銭貨1、板碑1、礫片6
427	396	R-6	2.70	0.72	0.25	N-40°-W	在地産(皿2、鍋2)、土師器1
428	395	R-6	2.08	0.68	0.38	N-81°-E	在地産皿2、板碑2、礫片2
429	608	R-6	0.70	-	0.17	-	
430	607	R-6・S-6	1.90	0.70	0.38	N-77°-E	
431	390	R-6	2.94	0.90	0.21	N-35°-W	在地産皿4、陶器1、粘土塊?1、土師器1、石臼1
432	402	R-6	3.36	1.00	0.04	N-80°-W	
433	392	R-6	3.64	0.84	0.41	N-10°-W	在地産(皿2、鍋1)、銭貨1、土師器2
434	401	R-6	3.90	0.76	0.26	N-16°-E	在地産(皿1、鍋1)、板碑2、礫1
435	403	R-6	-	0.94	0.03	N-90°-E	
436	405	R-6	-	1.00	0.08	N-86°-W	
437	407	R-6	-	1.00	0.08	N-80°-W	
438	236	R-6	-	0.96	0.26	N-3°-W	在地産(皿1、焙烙1)、板碑1、礫3、木製品2
439	406	R-6	0.76	0.70	-	-	
440	207	R-6	1.90	0.80	0.19	N-80°-W	土師器1
441	206	R-6	-	-	0.18	-	在地産(皿2、鍋1)、板碑1、礫片1
442	205	R-6	2.08	0.92	0.15	N-3°-E	在地産鉢1
443	196	R-6	1.44	0.90	0.38	N-87°-E	在地産(皿4、鉢1、鍋3)、瀬戸・美濃産皿1、礫1
444	197	R-6	-	0.94	0.31	N-85°-E	
445	195	R-6	2.40	1.08	0.12	N-5°-E	
446	348	R-6	-	1.40	0.12	N-84°-E	
447	194	R-6・S-6	3.00	0.94	0.15	N-14°-W	
448	609	R-6	1.16	0.80	0.07	N-74°-E	
449	165	S-6	2.23	1.10	0.10	N-90°-E	在地産焙烙3、瀬戸・美濃産鉄軸壺1、常滑産壺1
450	164	S-6	-	1.04	0.19	N-90°-E	在地産(皿1、鉢1、鍋2)、板碑2、礫片1
451	192	S-6	2.35	1.35	0.31	N-90°-E	
452	193	S-6	2.80	0.95	0.29	N-0°	板碑1
453	191	T-6	1.10	0.65	0.54	N-0°	在地産(皿1、鉢1、鍋1)、板碑1
454	145	T-7	1.90	-	0.29	-	
455	109	T-7	-	0.70	0.24	N-0°	
456	79	T-7	1.95	-	0.09	N-74°-W	
457	81	T-7	1.10	0.70	0.05	N-3°-E	
458	80	T-7	-	-	0.19	-	
459	110	T-7	1.17	0.88	0.29	N-0°	
460	93	T-7	2.00	1.00	0.15	N-90°-W	
461	141	T-7	-	-	-	-	
462	111	S-7・T-7	1.10	-	0.11	-	
463	112	S-7	-	0.90	0.25	-	
464	146	T-7	1.10	0.95	0.30	-	
465	646	T-7	-	-	0.13	N-0°	
466	147	T-7	2.10	0.80	0.22	N-0°	
467	150	S-7・T-7	1.90	0.97	0.09	N-18°-E	板碑6、石臼1
468	157	S-7・T-7	-	-	0.08	N-0°	
469	148	T-7	1.60	0.83	0.11	N-20°-E	
470	144	T-7	-	0.85	0.14	N-8°-E	
471	143	T-7	1.20	-	0.11	-	

第16表 B区土塊一覽(8)

新番号	旧番号	グリッド	長辺	短辺	深さ	主軸方向	主な出土遺物(数字は破片数)
472	149	S-7・T-7	-	0.78	0.17	N-0°	在地産(皿2、鍋1)
473	151	S-7	1.33	0.65	0.16	N-0°	
474	152	S-7	1.20	0.90	0.12	N-90°-E	在地産皿2、鏝2
475	153	S-7	1.47	0.68	0.05	N-5°-E	板碑1、礫片1
476	154	S-7	1.65	0.74	0.21	N-10°-E	
477	156	S-7	2.08	0.80	0.13	N-5°-W	
478	155	S-7	1.72	0.77	0.35	N-83°-E	在地産皿6
479	163	S-6・S-7	1.40	1.08	0.10	-	
480	160	S-6・S-7	1.92	0.48	0.13	N-85°-W	在地産皿1、常滑産壺1
481	159	S-7	-	0.85	0.25	N-8°-W	在地産(皿3、鉢1)、銭貨1、石臼1、木製品2
482	161	S-7	1.97	0.78	0.32	N-82°-E	
483	162	S-7	2.45	1.03	0.22	N-11°-W	
484	166	S-7	-	0.85	0.17	N-90°-E	
485	171	S-7	1.28	0.75	0.16	N-0°	在地産皿1
486	172	S-7	1.87	0.83	0.13	N-65°-E	
487	175	S-7	1.22	0.83	0.23	N-12°-E	
488	140	S-7	1.97	-	0.17	N-12°-E	磁石1
489	173	S-7	1.85	0.75	0.15	N-10°-E	
490	177	S-7	0.75	0.75	0.61	-	
491	176	S-7	1.60	1.10	0.39	N-12°-E	在地産(皿1、鍋1)、小礫1、粘土塊1
492	178	S-7	2.15	0.88	0.30	N-88°-W	
493	641	S-7	1.00	0.85	0.36	N-75°-E	
494	103	S-7	1.42	0.90	0.13	N-0°	
495	114	S-7	2.38	0.60	0.25	N-10°-E	
496	113	S-7・S-8	1.95	0.95	0.26	N-87°-E	
497	644	S-7	-	-	-	-	
498	643	S-7	1.57	0.58	0.15	N-6°-E	
499	296	S-7	-	0.80	0.32	-	
500	294	S-7	1.50	0.83	0.21	N-20°-E	在地産鉢1、鏝1
501	295	S-7	0.65	0.53	0.21	N-90°-E	在地産皿1
502	174	S-7	1.57	0.75	0.23	N-6°-E	刀子1
503	167	S-7	1.10	1.05	0.42	-	在地産焙烙1、銭貨1、
504	168	S-7	0.80	0.38	0.31	N-0°	
505	169	S-7	1.55	0.95	0.16	N-3°-E	瀬戸・美濃産鉄軸轆1
506	170	S-7	-	0.72	0.14	N-15°-W	
507	158	S-6・S-7	1.94	0.85	0.28	N-8°-W	在地産皿4
508	181	S-6	1.20	1.20	0.10	-	在地産焙烙1
509	180	S-6	1.43	0.90	0.10	N-82°-W	常滑産壺1
510	179	S-6・S-7	2.09	0.88	0.17	N-14°-E	銭貨3
511	198	R-6・S-7	1.40	1.00	0.18	N-84°-W	
512	210	R-6	0.74	0.42	0.16	N-14°-W	銭貨6
513	199	R-6・R-7	-	0.78	0.27	N-74°-E	在地産皿1
514	352	R-7	-	0.10	-	-	在地産(皿1、鍋3)、瓦1、礫1
515	202	R-7	-	0.96	0.13	N-7°-E	在地産(皿1、鉢2、鍋1)、白磁碗?1
516	201	R-6・R-7	3.40	1.26	0.41	N-86°-W	在地産鍋3、粘土塊?8点
517	229	R-6・R-7	2.60	0.96	0.07	N-77°-W	在地産(皿3、鍋5)、瀬戸・美濃産摺鉢1
518	227	R-7	0.94	0.88	-	-	
519	226	R-7	-	-	0.06	-	
520	228・230	R-7	-	-	0.19	-	在地産皿1、木製品1
521	237	R-6	-	-	0.14	-	
522	211	R-6	-	0.72	0.11	N-85°-W	
523	213	R-6	1.52	0.88	0.16	N-86°-W	

第17表 B区土壌一覽(9)

新番号	旧番号	グリッド	長辺	短辺	深さ	主軸方向	主な出土遺物(数字は破片数)
524	217	R-6・R-7	--	--	0.04	--	
525	212	R-6	--	--	0.15	--	板碑1
526	219	R-6・R-7	2.40	1.00	0.07	N-76°-E	土師器1
527	220	R-6	--	--	0.08	--	在地産焙烙1
528	218	R-6・R-7	2.80	0.68	0.16	N-17°-E	板碑1
529	232	R-7	--	--	0.06	--	
530	234	R-7	--	1.10	0.20	N-90°-E	
531	200	R-6・S-6	--	--	0.06	--	
532	221	R-6・R-7	2.40	0.92	0.10	N-74°-W	
533	222	R-7	1.72	0.50	0.29	N-10°-E	在地産銅1、礫1
534	224	R-7	--	1.00	0.07	--	
535	233	R-7	1.60	0.86	0.24	N-90°-E	在地産皿2、粘土塊2
536	なし	R-7	--	--	0.26	--	
537	235	R-7	1.86	0.90	0.10	N-0°	
538	234	R-7	--	1.05	0.24	N-90°-E	
539	203	R-7	--	--	0.24	N-90°-E	
540	204	R-7	0.82	0.68	0.69	N-46°-E	
541	216	R-7	--	--	0.04	--	
542	215	R-7	1.25	0.94	0.05	N-3°-E	
543	206・647	R-7・S-7	3.00	1.06	0.26	N-89°-E	
544	350	R-7	--	0.84	0.08	N-65°-W	
545	299	R-7	--	--	0.11	--	
546	282	R-7	--	1.00	0.25	N-7°-E	
547	287	R-7	1.56	0.90	--	N-90°-E	
548	249	R-7	2.44	1.40	0.07	N-8°-E	在地産皿2、礫石1
549	280	R-7	1.70	0.80	0.08	N-5°-W	鏡貨1
550	281	R-7	2.10	--	0.12	N-74°-W	
551	297	R-7	--	1.20	0.12	N-90°-E	
552	298	R-7	--	1.00	0.07	N-86°-E	
553	640	R-7・S-7	2.18	0.70	0.13	N-90°-E	
554	293	S-7	2.15	0.80	0.21	N-82°-W	
555	642	S-7・S-8	--	1.00	0.18	N-81°-W	
556	291	S-7・S-8	1.25	0.77	0.07	N-90°-E	
557	292	R-7・S-7	2.36	1.20	0.25	N-4°-E	
558	289	R-7・S-7	1.92	0.90	0.31	N-1°-E	
559	288	R-7	--	1.04	0.30	N-90°-E	
560	540	R-7・R-8・S-8	1.75	1.05	0.27	N-0°	
561	290	R-7・S-7	--	--	0.13	--	
562	285	R-7・R-8	--	1.16	0.08	N-8°-E	
563	なし	R-7	--	--	0.16	--	
564	286	R-7	--	0.90	0.07	N-85°-W	
565	247	R-7	2.20	--	0.16	N-0°	
566	246	R-7	1.80	1.00	0.21	N-0°	
567	248	R-7	--	--	0.17	--	
568	241	R-7	--	1.08	0.24	N-4°-W	
569	242	R-7	--	0.90	0.06	N-85°-E	
570	245	R-7・R-8	2.10	1.30	0.28	N-80°-E	在地産皿2
571	284	R-7・R-8	1.60	1.10	0.07	N-4°-E	
572	445	Q-7	--	--	0.12	--	
573	223	R-6・R-7	--	1.34	0.16	N-16°-E	在地産皿1、破片1、土師器1
574	225	R-7	2.06	0.94	0.22	N-85°-E	
575	208	R-7	2.10	1.04	0.16	N-86°-W	在地産皿5、鉄滓7

第18表 B区土壌一覽(0)

新番号	旧番号	グリッド	長辺	短辺	深さ	主軸方向	主な出土遺物(数字は破片数)
576	209	R-7	-	1.10	0.10	N-5°-E	
577	446	Q-7	-	0.54	0.06	N-9°-E	
578	240	R-7	-	-	0.20	N-0°	
579	239	R-7	2.04	1.02	0.13	N-5°-E	在地産皿2、礫2
580	238	R-7	-	-	0.11	N-9°-E	在地産焙烙2、板碑1
581	587	Q-7	-	1.15	0.12	N-6°-E	在地産皿1
582	585	Q-7	2.00	0.94	0.39	N-81°-W	在地産(鉢1、鍋1)、石臼1、礫4、砥石1
583	586	Q-7	-	1.30	0.25	N-84°-W	土師器1、礫1
584	611	Q-7	1.30	1.00	0.16	N-10°-E	
585	610	Q-7	-	0.80	0.05	N-25°-W	
586	499	Q-7	2.75	0.90	0.13	N-4°-E	
587	493	Q-7	1.90	0.94	0.22	N-5°-E	
588	494	Q-7	2.20	0.85	0.12	N-16°-W	在地産鍋1
589	497	Q-7	1.36	1.00	0.10	-	
590	495	Q-7	1.86	0.90	0.17	N-90°-E	
591	496	Q-6・Q-7	1.60	-	0.10	N-9°-E	
592	492	Q-7	1.00	0.80	0.49	-	
593	620	Q-7	-	-	0.19	-	
594	490	Q-7	-	-	0.25	-	
595	487	Q-7	-	0.80	0.36	N-3°-E	在地産(鉢1、鍋2)、礫1
596	484	Q-7	-	1.20	0.19	N-20°-E	礫1
597	485	Q-7	-	1.06	0.14	-	
598	483	Q-7	-	0.75	0.24	N-7°-E	
599	486	Q-7	-	-	0.16	-	
600	488	Q-7	3.40	0.92	0.28	N-3°-W	在地産(皿1、鍋2)、板碑1、礫1
601	616	Q-7	1.54	1.40	0.29	-	
602	612	Q-7	-	-	0.17	N-0°	
603	615	Q-7	-	-	0.14	-	
604	617・619	Q-7	-	-	0.12	-	板碑1
605	624	Q-7	-	-	0.08	-	
606	614	Q-7	-	-	0.28	-	
607	613	Q-7	1.02	0.92	0.59	-	
608	459	Q-7	1.88	0.90	0.19	N-9°-E	礫片2
609	443	Q-6・Q-7	-	0.76	0.40	N-11°-E	
610	444	Q-6・Q-7	-	0.80	0.40	N-9°-E	在地産鍋1、礫1、土師器1
611	447	Q-6・Q-7	1.74	0.90	0.27	N-33°-W	在地産皿1、磁羅架付皿1、板碑2、鉄片1
612	450	Q-6・Q-7	-	1.36	0.22	-	
613	451	Q-6・Q-7	-	-	0.35	-	在地産(皿3、在地産鍋2)、常滑産埴1、石臼2、砥石1、粘土塊1
614	448	Q-7	1.65	1.20	0.30	N-14°-W	
615	452	Q-7	1.20	-	0.34	-	常滑産埴1、石臼1、礫1、須恵器1
616	453	Q-7	0.72	-	-	-	礫1
617	454	Q-7	0.98	0.92	0.71	-	円礫1、砥石1、木製品1
618	455	Q-7	-	0.52	0.28	-	
619	412	Q-7	-	0.86	0.35	-	在地産皿1
620	456	Q-7	-	-	0.10	-	
621	457	Q-7	2.90	0.70	0.27	N-24°-W	在地産(皿5、鉢1、鍋1)、錢貨1、板碑1
622	449	Q-7	-	0.74	0.13	-	
623	460	Q-7	-	-	0.12	-	
624	458	Q-7	-	-	0.09	-	土器1
625	628	Q-7・Q-8	-	-	0.01	N-90°-E	
626	621	Q-7	-	-	0.23	N-90°-E	板碑1

第19表 B区土壌一覧(0)

新番号	旧番号	グリップ	長辺	短辺	深さ	主軸方向	主な出土遺物(数字は破片数)
627	623	Q-7	—	—	0.08	N-90°-E	
628	622	Q-7	1.50	0.60	0.07	N-10°-E	在地産皿1、鉄輪1
629	627	Q-7・Q-8	—	—	0.03	N-90°-E	
630	635	Q-8	2.05	0.95	0.16	N-3°-E	在地産(皿1、鍋1)
631	なし	Q-8	—	—	0.21	—	
632	636	Q-8	1.43	0.95	0.14	N-90°-W	
633	634	Q-8	—	0.98	0.28	—	
634	626	Q-7・Q-8	3.94	1.40	0.26	N-7°-E	在地産皿2、銭貨1、金属塊1
635	632	Q-8	—	—	0.12	N-5°-E	
636	631	Q-7・Q-8	1.74	1.05	0.12	N-78°-E	
637	482	Q-7	—	0.70	1.2.60	N-12°-E	常滑産甕1
638	489	Q-7	2.50	0.94	0.19	N-77°-E	在地産皿1
639	618	Q-7	—	1.06	0.14	N-7°-E	
640	625・630	Q-7	—	1.00	0.08	N-68°-E	
641	588	Q-7・Q-8	1.50	0.90	0.38	N-0°	
642	243・589	R-7	5.00	0.80	0.25	N-4°-E	在地産(皿2、鏡3)、板磚1、鉄滓1、礫1
643	583	Q-8	2.67	1.00	0.35	N-0°	
644	582	Q-8・R-8	2.27	1.05	0.20	N-19°-E	
645	553	R-8	1.83	0.97	0.24	N-0°	
646	550	R-8	—	1.05	0.25	N-0°	在地産皿1
647	551	R-8	1.68	0.80	0.12	N-0°	
648	552	R-8	—	—	—	N-0°	
649	549	R-8	1.90	1.05	0.13	N-3°-E	在地産皿1
650	595	Q-8	2.10	0.90	0.30	N-5°-E	
651	594	Q-8	—	0.97	0.24	N-10°-W	在地産(皿1、鉢1)、礫1
652	629	Q-7	—	—	0.11	N-0°	
653	521	R-8	—	0.60	0.08	N-17°-E	
654	520	R-8	2.43	0.95	0.21	N-7°-E	
655	548	R-8	2.85	0.87	0.19	N-85°-E	
656	511	R-8	2.55	1.00	0.21	N-5°-E	
657	512	R-8	2.65	0.90	0.13	N-10°-E	
658	517	R-8	—	—	0.10	N-0°	在地産鉢1、礫片1
659	516	R-8	—	0.90	0.05	—	
660	514	R-8	1.45	—	0.07	N-3°-E	
661	513	R-8	1.08	0.85	—	—	
662	509	R-8	—	0.85	0.12	—	
663	510	R-8	0.85	0.62	0.05	—	瀬戸・美濃産鉄種小壺1
664	508	R-8	1.45	—	0.12	—	
665	507	R-8	1.65	0.80	0.07	N-19°-E	在地産皿1
666	505	R-8	2.05	—	0.05	N-5°-E	
667	504	R-8	2.60	0.85	0.08	N-5°-E	
668	645	R-8	0.97	0.58	0.14	N-0°	
669	502	R-8	—	1.15	0.08	—	
670	506	R-8・S-8	—	0.93	0.17	N-75°-W	
671	518	R-8・S-8	3.68	0.60	0.12	N-90°-E	
672	519	R-8	1.68	0.70	0.25	N-3°-W	
673	186	R-8	—	0.85	0.22	N-0°	
674	522	R-8	(2.04)	(0.87)	0.10	N-5°-E	
675	523	R-8	1.04	0.95	0.28	—	
676	503	R-8	—	0.70	0.12	N-0°	
677	86	S-8	0.75	0.75	0.53	—	
678	85	S-8	—	0.85	0.31	—	

第20表 B区土壌一覧(1)

新番号	旧番号	グリッド	長辺	短辺	深さ	主軸方向	主な出土遺物(数字は破片数)
679	501	S-8	0.95	0.70	0.21	N-5°-E	
680	274	S-8・S-9	1.75	0.74	0.09	N-90°-E	在地産区1
681	272	R-9	-	0.80	0.11	N-0°	
682	271	R-9・S-9	1.40	0.93	0.43	N-8°-E	
683	584	Q-8	2.30	1.27	0.51	N-66°-W	在地産(皿2、鉢1、鍋2)、板碑1
684	593	Q-8	-	1.05	0.41	N-90°-E	
685	592	Q-8	-	1.00	0.33	N-18°-W	在地産(皿1、鍋1)、青銅製品1、粘土塊2
686	591	Q-8	-	-	-	-	
687	590	Q-8	-	1.02	0.22	N-90°-E	
688	561	Q-9・R-9	1.64	0.70	0.13	N-79°-W	在地産皿7、土師器1、隼片1
689	560	Q-9	-	1.00	0.22	N-77°-W	
690	559	Q-9	1.62	0.92	0.23	N-82°-W	
691	558	Q-9	-	1.22	0.26	N-90°-E	在地産区1
692	572	Q-9	-	1.28	0.04	N-5°-E	
693	573	Q-9	-	1.20	0.08	N-82°-E	
694	562	Q-9	-	-	0.15	-	在地産区1
695	571	Q-9	-	-	0.23	-	
696	570	Q-8・Q-9	2.90	1.10	0.23	N-85°-W	
697	574	Q-9	2.40	1.08	0.15	N-81°-W	在地産(皿1、鍋1)
698	563	Q-9	-	-	0.12	-	
699	557	Q-9	0.90	0.70	0.23	N-87°-E	
700	575	Q-9	-	-	0.28	N-81°-W	磁石1、隼1
701	569	Q-9	1.74	0.84	0.26	N-5°-E	瀬戸・美濃産小皿1
702	568	Q-9	-	-	0.04	-	
703	567	Q-9	-	-	0.06	-	
704	565	Q-9	-	1.06	0.18	N-6°-W	
705	566	Q-9	2.60	-	0.20	N-5°-W	
706	564	Q-9	-	-	0.19	N-8°-E	
707	555	Q-9	0.86	0.70	0.20	-	
708	554	Q-9・R-9	2.30	0.90	0.22	N-87°-W	
709	270	R-9	-	0.62	0.07	N-90°-E	
710	542	Q-9・R-9	1.60	0.75	0.25	N-85°-W	在地産区1
711	539	R-9	1.60	0.90	0.17	N-70°-W	
712	543	R-9	1.56	0.80	0.12	N-80°-W	
713	545	R-9	2.20	0.90	0.10	N-3°-E	
714	546	R-9	-	1.07	0.11	N-0°	
715	544	R-9	1.92	0.94	0.16	N-3°-E	在地産皿5、板碑1
716	535	R-9	1.90	0.82	0.34	N-12°-E	磁石1
717	536	R-9	1.88	0.78	0.30	N-7°-E	
718	534	R-9	1.85	0.85	0.30	N-11°-E	
719	547	R-9	0.85	0.85	0.24	-	
720	538	R-9	1.65	0.97	0.24	N-78°-W	
721	537	R-9	1.43	0.80	0.25	N-13°-E	
722	533	R-9	1.45	0.80	0.09	N-80°-W	
723	528	R-9	1.88	1.10	0.07	N-85°-W	
724	524	R-8・R-9	-	1.00	0.11	N-83°-W	
725	525	R-8	1.90	0.90	0.09	N-20°-E	
726	526	R-8	1.55	0.90	0.34	-	
727	527	R-8	-	-	0.08	-	
728	530	R-8	-	0.85	0.17	N-77°-E	
729	531	R-8	1.58	0.80	0.32	N-90°-E	
730	532	R-8	-	-	0.10	N-72°-W	

第21表 B区土壌一覧(13)

新番号	旧番号	グリッド	長辺	短辺	深さ	主軸方向	主な出土遺物(数字は破片数)
731	529	R-8・R-9	2.15	0.95	0.10	N-5'-E	
732	577	R-8	-	0.32	0.14	-	
733	576	R-8	1.75	0.82	0.30	N-4'-E	
734	578	R-8	-	0.70	0.11	N-90'-W	
735	580	R-8	-	1.28	0.11	N-90'-W	
736	581	R-8	0.85	0.85	0.18	-	在地産皿1、土師器1
737	275	R-9	2.20	0.97	0.20	N-7'-E	青磁1、釘1
738	276	R-9	-	-	0.17	N-7'-E	
739	277	R-9	1.93	0.96	0.21	N-90'-E	在地産皿1、砥石1
740	278	R-9	2.14	0.90	0.21	N-82'-W	
741	273	R-9	2.20	1.00	0.23	N-7'-E	在地産皿1、常滑産窯1
742	279	R-9	1.75	-	0.17	-	
743	500	R-9	2.15	1.05	0.23	N-2'-E	在地産(皿2、鉢1)、磁石1、土師器2、鏡片1
744	264	R-9	1.57	0.74	0.13	N-13'-E	在地産皿1
745	263	R-9	1.72	0.95	0.18	N-84'-W	土師器1
746	262	R-9	-	-	0.11	-	
747	260	R-9	2.30	0.89	0.23	N-5'-W	青銅製銅口1
748	261	R-9	1.80	0.60	0.20	N-5'-W	板碑1
749	259	R-9	1.95	0.81	0.15	N-4'-E	板碑1
750	269	R-9	1.77	0.80	0.11	N-3'-W	
751	258	R-9	-	1.30	0.27	N-87'-W	在地産香炉1
752	257	R-9	-	0.60	0.26	-	
753	251	R-9・S-9	2.20	1.00	0.40	N-0'	
754	250	S-9	2.05	0.80	0.12	N-82'-W	
755	266	R-9	1.25	0.65	0.08	N-6'-E	
756	252	R-9・S-9	2.05	1.01	0.29	N-0'	
757	267	R-9・S-9	-	0.95	-	N-10'-W	
758	265	R-9	1.33	0.76	0.18	N-13'-E	
759	253	S-9	1.42	0.85	0.21	N-87'-E	
760	254	R-9・S-9	-	0.75	0.10	-	
761	255	R-9・S-9	1.53	0.70	0.22	N-13'-E	
762	256	S-9	-	0.75	0.07	N-13'-E	
763	83	S-9	1.18	-	0.99	-	
764	82	S-9	0.85	-	0.63	-	
765	648	S-8	-	0.75	-	N-10'-E	
766	139	S-8	5.12	0.95	0.56	N-16'-E	在地産鍋1、砥石1
767	87	S-8	2.20	0.93	0.28	N-13'-E	在地産(皿4、鍋1)
768	89	S-8	2.07	0.87	0.50	N-83'-W	磨石1
769	88	S-8	1.68	-	0.24	N-86'-E	
770	104	S-8	1.90	-	0.21	N-90'-W	
771	105	S-8	2.00	0.90	0.38	N-90'-W	
772	130	S-8	-	0.85	0.20	N-90'-W	
773	129	S-8	2.00	1.03	0.21	N-0'	
774	102	S-8	-	-	0.18	-	
775	127	S-8	-	0.90	0.09	-	
776	125	S-8	2.25	1.00	0.19	N-0'	常滑産窯1
777	128	S-8	-	-	0.04	N-90'-W	
778	126	S-8	-	0.75	0.18	N-90'-W	
779	123	S-8	1.00	0.85	0.14	N-10'-E	
780	124	S-8	1.65	0.90	0.21	N-85'-E	
781	122	S-8	2.00	0.81	0.19	N-83'-W	
782	116	S-8	2.33	1.00	0.24	N-85'-W	在地産皿1、常滑産窯1

第22表 B区土坑一覧04

新番号	旧番号	グリッド	長辺	短辺	深さ	主軸方向	主な出土遺物(数字は破片数)
783	115	S-8・T-8	2.85	-	0.20	N-90°-W	
784	120	S-8	3.83	0.80	0.18	N-10°-W	
785	132	S-8	1.70	0.95	0.14	N-0°	
786	133	S-8	-	-	0.09	N-90°-W	
787	135	S-8	-	-	-	N-83°-E	在地産Ⅰ
788	134	S-8	1.90	0.89	0.35	N-83°-E	瀬戸・美濃産鉄軸Ⅰ
789	106	S-8	1.88	0.67	0.10	N-90°-W	
790	108	S-8	-	1.00	0.36	N-13°-E	
791	136	S-8・S-9	2.24	1.05	0.22	N-0°	
792	137	S-8	-	-	0.15	-	古瀬戸藤軸小皿Ⅰ
793	119	S-8	2.18	0.82	0.26	N-10°-E	在地産Ⅱ2、瀬戸・美濃産鐙Ⅰ、板碑Ⅰ
794	118	S-8	2.40	0.65	0.22	-	
795	117	S-8・S-9	0.86	0.63	0.23	N-0°	
796	121	S-8	2.24	0.95	0.25	N-20°-E	在地皿Ⅰ、
797	90	T-8	-	1.20	0.16	N-0°	砥石Ⅰ
798	91	T-8	-	1.00	0.08	N-0°	
799	96	T-8	1.60	0.85	0.21	N-10°-E	
800	97	T-8	-	0.92	0.13	N-0°	
801	99	T-8	-	0.67	0.20	N-90°-W	
802	92	T-8	2.32	1.00	0.17	N-5°-E	
803	98	T-8・T-9	2.75	0.85	0.27	N-68°-E	
804	100	T-8・T-9	-	0.97	0.25	N-2°-W	
805	107	T-9	1.86	0.75	0.06	-	
806	95	T-9	1.85	-	0.23	N-0°	
807	94	S-9・T-9	2.73	1.05	0.22	N-0°	在地産Ⅱ2
808	185	U-10	-	1.65	0.53	N-72°-W	石臼Ⅰ
809	189	T-10	-	1.25	0.39	N-0°	
810	190	T-10	1.46	-	0.45	-	常滑産Ⅱ、板碑Ⅰ
811	なし	S-9・T-9	2.22	1.39	36.20	-	
812	77	R-10	-	1.20	0.89	-	在地産(Ⅱ2、鉢Ⅰ、焙烙Ⅰ)、石臼?Ⅰ
813	761	Q-10	2.92	1.45	0.80	-	在地産(鉢Ⅳ、鉢Ⅱ)、常滑産Ⅱ2、板碑Ⅰ、須恵器Ⅰ、砥石Ⅱ、磚Ⅵ
814	781	Q-10	-	1.18	0.60	-	
815	138	S-9	-	1.20	0.07	N-10°-E	
816	142	S-9	1.55	-	0.21	-	
817	541	R-8・S-8	-	-	0.20	-	
818	556	Q-9	-	0.85	0.20	N-86°-W	
819	603	Q-8	1.35	1.10	0.38	N-0°	
820	604	Q-8	-	0.90	0.21	N-90°-E	
821	639	P-7	-	0.63	0.07	N-0°	
822	491	Q-7	-	-	0.49	-	
823	131	S-8	-	-	-	-	

第21号溝

U-9・U-10グリッドに位置する(第245図)。溝の南側の上場は調査区域外にかかっているため、幅は不明である。深さは約0.7mである。遺物はほとんど出土しなかったため、時期は特定できなかった。

第22号溝

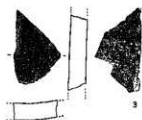
Q-12グリッドに位置し、東西方向にのびる(第210図・第212図)。幅は約0.3m、深さは0.3mである。遺物は出土せず、時期も特定できなかった。

第256図 溝出土遺物(1)

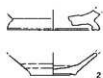
第6号溝



第9号溝



第11号溝



第13号溝



第14号溝



第15号溝



第18号溝

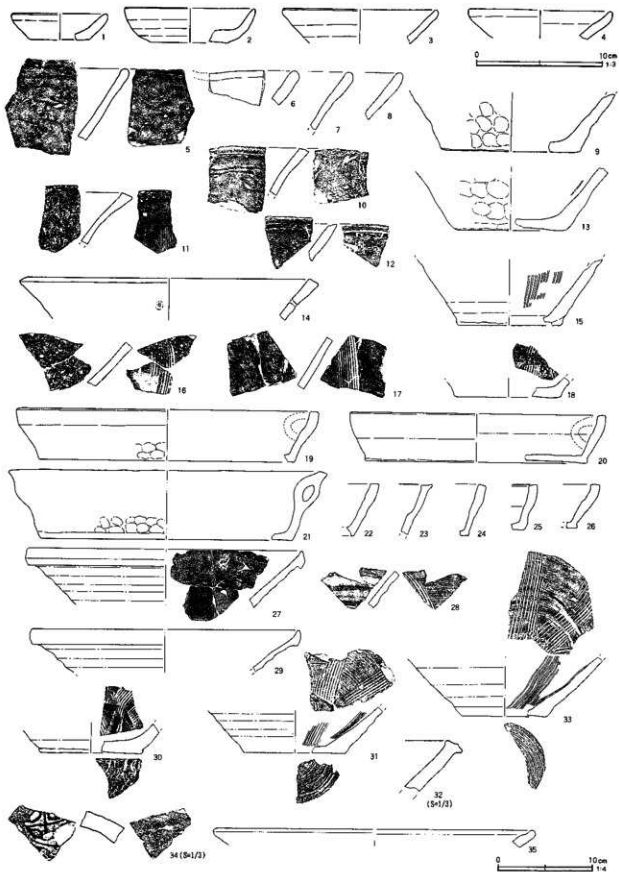


0 10cm 1:4

0 10cm 1:8

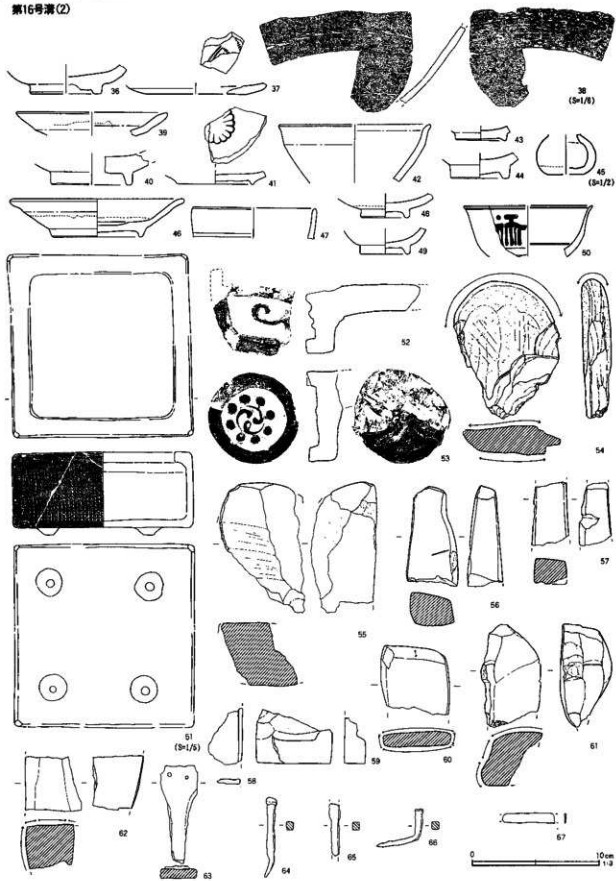
第257图 清出土遺物(2)

第16号溝(1)



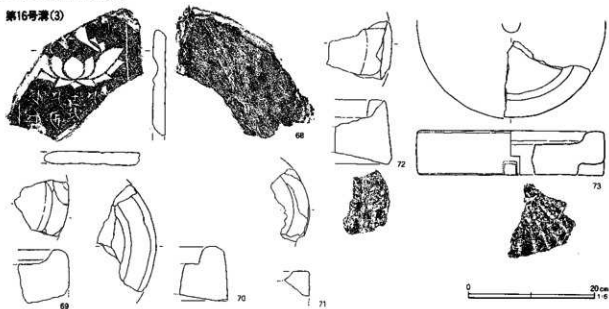
第258图 清出土遗物(3)

第16号清(2)

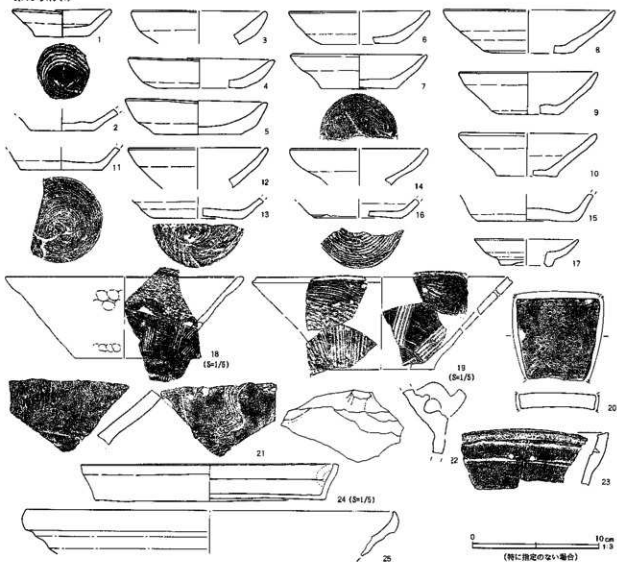


第259回 溝出土遺物(4)

第16号溝(3)

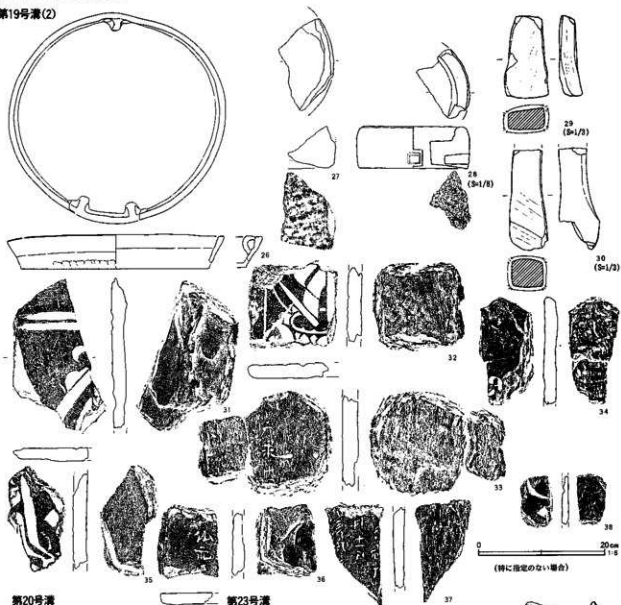


第19号溝(1)



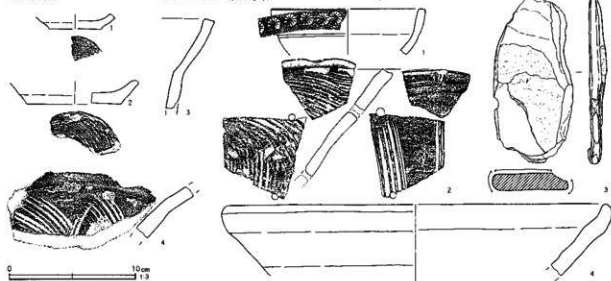
第260岡 溝出土遺物(5)

第19号溝(2)



第20号溝

第23号溝



第23表 溝出土遺物観察表(1)

番号	種類	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存	備考
SD6-1	陶器	菊花皿	(13.6)	—	—	—	B	褐	15	K-8グリッド 瀬戸・美濃産 長石軸
SD9-1	石製品	硯	—	4.8	1.7	—	—	—	—	N-8グリッド 背面を砥石として利用
SD9-2	瓦	平瓦	—	—	1.9	A	B	灰	—	N-8グリッド 凹面はミガキ調整 良く焼成される
SD9-3	瓦	平瓦	—	—	1.8	A	B	灰	—	N-8グリッド 凹面はミガキ調整 良く焼成される
SD11-1	須恵器	壺	—	(9.6)	—	AE	B	灰	25	N-9グリッド
SD11-2	在地産土器	皿	—	4.8	—	—	B	淡褐	70	N-9グリッド 底部調整AF
SD11-3	在地産土器	皿	—	4.5	—	—	B	明褐	100	O-10グリッド 底部調整A
SD11-4	在地産土器	鉢	(29.0)	—	—	CF	B	灰	—	O-10グリッド 横目13条—単位
SD11-5	在地産土器	鉢	—	(12.8)	—	CDH	C	暗褐	25	グリッド不明 外面指頭整形
SD11-6	在地産土器	鉢	—	—	—	C	B	灰	—	P-10グリッド 横目6条—単位
SD11-7	在地産土器	鉢	—	(11.0)	—	BC	B	灰褐	35	グリッド不明 横目10条—単位 器表面の剝離が著しい
SD11-8	陶器	小皿	10.7	4.3	2.8	—	B	灰白	90	P-11グリッド 瀬戸・美濃産 鉄軸 底部調整A
SD11-9	陶器	壺	—	—	—	A	B	灰	—	P-11グリッド 常滑産
SD11-10	陶器	壺	—	—	—	AC	B	赤褐	—	N-8グリッド 常滑産 頸れ口2辺を砥石として利用
SD11-11	瓦	丸瓦	—	—	1.9	A	B	淡褐	—	N-9グリッド 凹面布目圧痕あり 凸面はミガキ調整
SD11-12	瓦	平瓦	—	—	2.0	A	B	淡褐	—	N-6グリッド 凹凸面ともミガキ調整
SD13-1	在地産土器	皿	—	(7.2)	—	CF	C	暗褐	25	T-9グリッド 底部調整A 内面に漆のような物質が付着
SD13-2	在地産土器	鉢	—	(9.9)	—	CDH	B	褐灰	20	T-9グリッド
SD13-3	在地産土器	鉢	(34.0)	—	—	CD	B	褐灰	15	S K621出土破片と接合
SD14-19	在地産土器	鉢	(30.7)	—	—	CF	B	褐	25	グリッド不明 外面は木口状工具によるナブ調整と指頭整形
SD14-20	陶器	壺	—	—	—	A	B	灰	—	グリッド不明 砥石として利用 糸が付着
SD14-21	瓦	平瓦	—	—	1.9	A	B	灰	—	グリッド不明 凹面布目圧痕あり 凸面はミガキ調整
SD15-1	在地産土器	鉢	—	—	—	C	B	褐	—	グリッド不明
SD15-2	在地産土器	鉢	—	—	—	CF	B	明褐	—	S-4グリッド
SD15-3	陶器	壺	—	—	—	A	B	灰	—	S-4グリッド 砥石として利用
SD15-4	石製品	砥石	7.4	3.7	3.2	—	—	—	—	S-4グリッド 凝灰岩 79.55g
SD15-5	石製品	板石	—	—	1.1	—	—	—	—	S-4グリッド
SD16-1	在地産土器	皿	7.6	4.8	2.1	CF	B	明褐	50	グリッド不明
SD16-2	在地産土器	皿	(10.3)	(6.0)	(2.7)	C	B	明褐	25	P-6グリッド
SD16-3	在地産土器	皿	(12.2)	—	—	BF	B	明褐	20	R-10グリッド
SD16-4	在地産土器	皿	(11.2)	—	—	F	B	褐	20	S-10グリッド
SD16-5	在地産土器	鉢	—	—	—	CDH	B	暗褐	—	S-10グリッド 外面指頭整形
SD16-6	在地産土器	鉢	—	—	—	CDH	C	暗褐	—	グリッド不明 片口部分
SD16-7	在地産土器	鉢	—	—	—	CD	B	灰	—	R-5グリッド 外面指頭整形
SD16-8	在地産土器	鉢	—	—	—	CDH	C	灰褐	—	R-10グリッド 外面指頭整形
SD16-9	在地産土器	鉢	—	(14.6)	—	CDH	C	灰褐	25	S-5グリッド 底部調整A 外面指頭整形
SD16-10	在地産土器	鉢	—	—	—	C	B	褐	—	P-5グリッド 横目は残存せず
SD16-11	在地産土器	鉢	—	—	—	C	B	灰	—	R-10グリッド 外面指頭整形
SD16-12	在地産土器	鉢	(27.0)	—	—	C	B	赤褐	—	P-6グリッド 外面木口状工具による整形
SD16-13	在地産土器	鉢	—	(11.6)	—	DFH	B	褐	25	T-9グリッド 底部調整A 横目あり 外面指頭整形
SD16-14	在地産土器	鉢	(30.1)	—	—	C	B	褐	20	S-4、S-5グリッド 焼成後に穿孔

第24表 溝出土遺物観察表(2)

番号	種類	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存	備考
SD16-15	在地産土器	鉢	—	(10.8)	—	CF	B	褐	20	P-9、Q-9グリッド 掘目7条—単位
SD16-16	在地産土器	鉢	—	—	—	B	B	褐	—	R-10、S-10グリッド 掘目10条—単位
SD16-17	在地産土器	鉢	—	—	—	C	B	褐	—	R-4、R-5グリッド 掘目9条—単位
SD16-18	在地産土器	鉢	—	(10.8)	—	C	B	灰	20	S-9グリッド 掘目8条—単位
SD16-19	在地産土器	焙烙	(32.0)	(27.0)	(5.4)	CF	B	褐	—	Q-5グリッド
SD16-20	在地産土器	焙烙	(27.0)	(23.4)	(5.1)	CF	B	褐	15	R-10グリッド
SD16-21	在地産土器	焙烙	(33.8)	(26.5)	(7.2)	CDF	B	褐	15	R-10グリッド
SD16-22	在地産土器	焙烙	—	—	—	CF	B	褐	—	S-4、S-5グリッド
SD16-23	在地産土器	焙烙	—	—	—	CH	B	褐	—	R-10グリッド
SD16-24	在地産土器	焙烙	—	—	5.4	C	B	赤褐	—	P-6グリッド
SD16-25	在地産土器	焙烙	—	—	4.7	CF	B	褐	—	Q-10グリッド
SD16-26	在地産土器	焙烙	—	—	4.6	CF	B	褐	—	R-4、R-5グリッド
SD16-27	陶器	擂鉢	(29.0)	—	—	A	B	褐	15	Q-5グリッド 瀬戸・美濃産 鉄軸
SD16-28	陶器	擂鉢	—	—	—	B	B	褐	—	P-6グリッド 瀬戸・美濃産 鉄軸
SD16-29	陶器	擂鉢	(28.3)	—	—	B	褐	灰	—	R-10グリッド 瀬戸・美濃産 鉄軸
SD16-30	陶器	擂鉢	—	(10.7)	—	A	B	灰白	25	T-9グリッド 瀬戸・美濃産 鉄軸 掘目8条—単位 底部調整A
SD16-31	陶器	擂鉢	—	(10.8)	—	A	B	灰白	25	P-7、Q-8グリッド 瀬戸・美濃産 鉄軸 掘目8条—単位 底部調整A
SD16-32	陶器	鉢	—	—	—	A	B	褐	—	P-8、Q-8グリッド 常滑産
SD16-33	陶器	擂鉢	—	(8.9)	—	A	B	褐	25	P-8、Q-8グリッド 瀬戸・美濃産 鉄軸 掘目9～10条—単位 底部調整A
SD16-34	陶器	壺	—	—	—	B	灰	—	—	P-8、Q-8、SD19(N-10)グリッド 瀬戸産？ 押印文あり SD16-35と同一個体？
SD16-35	陶器	壺	(33.8)	—	—	B	灰	—	—	R-10グリッド 瀬戸産？ SD16-34と同一個体？
SD16-36	舶載磁器	青磁碗	—	(5.5)	—	B	灰白	25	S-9グリッド 龍泉窯系	
SD16-37	舶載磁器	青磁皿	—	8.0	—	B	灰白	—	—	P-7グリッド 同安窯系 底部調整B
SD16-38	陶器	壺	—	—	—	A	B	灰	—	P-5グリッド他 常滑産
SD16-39	陶器	狭み皿	(12.0)	—	—	B	褐	灰	15	P-7グリッド 瀬戸・美濃産 灰軸
SD16-40	磁器	青磁碗？	—	(6.5)	—	B	灰白	25	R-4、R-5グリッド 高台タタミ付き 以外は施軸	
SD16-41	陶器	皿	—	(6.0)	—	B	灰白	25	R-5グリッド 灰軸 輪トチンの跡あり 見込みに菊花の押印あり	
SD16-42	陶器	天目茶碗	(11.7)	—	—	B	褐	20	P-5グリッド 瀬戸・美濃産 鉄軸	
SD16-43	陶器	天目茶碗	—	3.9	—	B	灰白	100	P-6グリッド 瀬戸・美濃産 鉄軸 底部調整B	
SD16-44	陶器	天目茶碗	—	4.5	—	B	褐	灰	100	P-6グリッド 瀬戸・美濃産 鉄軸 タタミ付以外化粧掛け
SD16-45	陶器	壺	—	2.0	—	A	B	褐	50	グリッド不明 瀬戸・美濃産 緑軸 ままごと道具
SD16-46	陶器	皿	13.5	6.8	3.0	B	淡褐	40	S-4、S-5グリッド 瀬戸・美濃産 長石軸 底部調整B 見込み中心部も施軸	
SD16-47	陶器	碗	(9.5)	—	—	B	淡褐	15	P-6グリッド 瀬戸・美濃産 鉄軸・灰軸掘分け跡	
SD16-48	陶器	碗	—	3.7	—	B	褐	70	R-5グリッド 瀬戸・美濃産 灰軸 底部調整B	
SD16-49	陶器	碗	—	3.9	—	B	灰褐	70	Q-5グリッド 瀬戸・美濃産 灰軸 底部調整B	
SD16-50	磁器	染付碗	(10.2)	—	—	B	白	20	R-4、R-5グリッド 瀬戸・美濃産	
SD16-51	在地産土器	暖房具	24.0	—	—	CG	B	茶褐	90	P-8、Q-8グリッド

第25表 溝出土遺物観察表(3)

番号	種類	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存	備考
S D16-52	瓦	軒平瓦	-	-	2.2	A	B	明褐	-	R-10グリッド 掘りの瓦 凹面布目直置き 瓦当面の接合方法観察出来ず
S D16-53	枝瓦	軒丸瓦	6.8	-	2.0	A	A	黒灰	-	P-7グリッド 左巻き三巴文
S D16-54	石製品	砥石	10.8	8.0	2.3	-	-	-	-	R-10グリッド 結晶片岩 257.00g
S D16-55	石製品	砥石	10.2	6.5	4.9	-	-	-	-	Q-5グリッド 凝灰岩 230.95g
S D16-56	石製品	砥石	7.9	4.1	2.6	-	-	-	100	P-8, Q-8グリッド 凝灰岩 96.58g
S D16-57	石製品	砥石	5.0	3.0	2.0	-	-	-	-	R-10グリッド 凝灰岩 46.76g
S D16-58	石製品	碗	-	-	-	-	-	-	-	P-6グリッド
S D16-59	石製品	碗	-	-	-	-	-	-	-	P-8, Q-8グリッド
S D16-60	石製品	砥石	-	5.4	1.2	-	-	-	-	P-8, Q-8グリッド 結晶片岩 81.52g
S D16-61	石製品	砥石	8.1	4.7	4.2	-	-	-	-	S-4, S-5グリッド 凝灰岩 143.08g
S D16-62	石製品	砥石	4.1	4.5	3.1	-	-	-	-	S-10グリッド 凝灰岩 102.34g
S D16-63	鉄製品	不明	-	-	0.7	-	-	-	-	P-5グリッド X線で2ヶ所の嵌止めあり
S D16-64	鉄製品	釘	6.3	0.5	0.6	-	-	-	100	Q-5グリッド
S D16-65	鉄製品	釘	-	0.5	0.6	-	-	-	-	Q-5グリッド
S D16-66	鉄製品	釘	5.8	0.5	0.5	-	-	-	100	Q-5グリッド
S D16-67	鉄製品	刀子	-	0.7	0.2	-	-	-	-	P-6グリッド
S D16-68	石製品	板碑	-	-	2.0	-	-	-	-	Q-8グリッド
S D16-69	石製品	石臼 (29.2)	-	-	-	-	-	-	-	P-9, P-10, Q-9グリッド 上白
S D16-70	石製品	石臼 (30.0)	-	-	-	-	-	-	-	Q-5グリッド 上白
S D16-71	石製品	茶臼? (19.6)	-	-	-	-	-	-	-	T-9グリッド 上白
S D16-72	石製品	石臼 (32.5)	-	-	-	-	-	-	-	P-5グリッド 上白
S D16-73	石製品	石臼 (30.0)	-	-	-	-	-	-	-	P-5グリッド 上白
S D17-1	在地産土器	鉄面飾り	-	-	-	C F	B	明褐	100	S-3グリッド 火舎等の把手部分の飾り
S D18-1	在地産土器	鉢	-	-	-	C	B	褐	-	
S D19-1	在地産土器	皿	7.7	4.2	2.1	-	B	明褐	60	S-8グリッド 底部調整A
S D19-2	在地産土器	皿	-	5.0	-	C	B	褐	100	S-8グリッド
S D19-3	在地産土器	皿 (10.6)	-	-	-	B C F	B	褐	20	S-8グリッド
S D19-4	在地産土器	皿	11.3	7.2	2.3	B F	B	明褐	50	S-8グリッド
S D19-5	在地産土器	皿	10.9	7.0	2.7	B F	B	褐	50	S-8グリッド 底部調整A
S D19-6	在地産土器	皿 (11.2)	(6.0)	(2.6)	-	C F	B	淡褐	25	S-8グリッド 底部調整A
S D19-7	在地産土器	皿 (10.6)	(6.1)	(2.7)	-	C F	B	赤褐	30	S-8グリッド 底部調整A
S D19-8	在地産土器	皿 (13.6)	(5.8)	(3.4)	-	C F	B	褐	20	S-8グリッド 底部調整A B
S D19-9	在地産土器	皿	10.9	4.9	3.3	C F	B	赤褐	50	S-8グリッド 底部調整A F
S D19-10	在地産土器	皿 (10.6)	(4.7)	(3.4)	-	B C F	B	明褐	25	S-8グリッド 底部調整A
S D19-11	在地産土器	皿	-	6.5	-	C F	B	明褐	70	S-8グリッド 底部調整A
S D19-12	在地産土器	皿 (11.0)	-	-	-	B C	B	赤褐	25	S-8グリッド 口縁部に油灰痕あり
S D19-13	在地産土器	皿	-	7.0	-	B C	B	明褐	50	S-8グリッド 底部調整A
S D19-14	在地産土器	皿 (11.0)	-	-	-	C F	B	褐	25	S-8グリッド
S D19-15	在地産土器	皿	-	7.8	-	C	B	明褐	35	S-8グリッド 底部調整A
S D19-16	在地産土器	皿	-	7.0	-	C F	B	暗褐	35	S-8グリッド 底部調整A
S D19-17	舶載磁器	白磁皿 (8.0)	(4.0)	(2.1)	-	A	白	25	S-8グリッド 貫物の隙間に黒い煤が入る	
S D19-18	在地産土器	鉢 (31.9)	(13.0)	(10.8)	-	C F	C	褐	20	S-8, S-9, S D16(P-7) S D16(P-8, Q-8) 胎土・焼成は焙烙に近似 攪目6条一単位・7条一単位
S D19-19	在地産土器	鉢 (33.5)	(14.1)	(12.3)	-	C	B	灰褐	-	S-9グリッド 底部調整C 焼成後に穿孔 S D23-2と同一個体?
S D19-20	陶器	甕	-	-	-	A	B	灰	-	S-8, S D16(Q-5)グリッド 常滑産 砥石として利用
S D19-21	在地産土器	鉢	-	-	-	C F	C	暗褐	-	S-9グリッド 攪目6条一単位 胎土・焼成は焙烙に近似
S D19-22	在地産土器	土釜	-	-	-	C H	C	灰褐	-	S-9グリッド

第26表 溝出土遺物観察表(4)

番号	種類	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存	備考	
S D19-23	在地産土器	焙烙	—	—	—	C F	B	灰	—	S-9グリッド 焼成後の穿孔あり	
S D19-24	在地産土器	焙烙	(34.0)	(31.0)	(5.0)	C F	B	褐	35	S-8、S-9グリッド 耳の部分は残存せず	
S D19-25	陶器	撞鉢	(29.0)	—	—	—	B	褐灰	—	S-8グリッド 瀬戸・美濃産 鉄釉	
S D19-26	在地産土器	焙烙	34.3	29.8	5.3	C	B	灰	90	S-8グリッド SK767 底部を欠損する	
S D19-27	石製品	石臼	(24.0)	—	—	—	—	—	—	S-8グリッド 上臼 安山岩	
S D19-28	石製品	石臼	(24.0)	(23.0)	(8.9)	—	—	—	—	S-10グリッド 上臼 安山岩	
S D19-29	石製品	砥石	6.4	3.5	1.6	—	—	—	100	S-8グリッド 凝灰岩 46.88g	
S D19-30	石製品	砥石	7.9	3.0	2.2	—	—	—	—	S-8グリッド 凝灰岩 81.22g	
S D19-31	石製品	板碑	—	—	2.4	—	—	—	—	S-8グリッド	
S D19-32	石製品	板碑	—	—	2.2	—	—	—	—	S-8グリッド	
S D19-33	石製品	板碑	—	—	2.4	—	—	—	—	S-9グリッド	
S D19-34	石製品	板碑	—	—	2.0	—	—	—	—	S-8、S D20 (S-9) グリッド	
S D19-35	石製品	板碑	—	—	2.2	—	—	—	—	S-8グリッド	
S D19-36	石製品	板碑	—	—	1.8	—	—	—	—	S-8グリッド	
S D19-37	石製品	板碑	—	—	1.8	—	—	—	—	S-8グリッド	
S D19-38	石製品	板碑	—	—	1.0	—	—	—	—	S-8グリッド	
S D20-1	在地産土器	皿	—	(4.1)	—	—	C	暗褐	25	S-8グリッド 底部調整A	
S D20-2	在地産土器	皿	—	(7.5)	—	—	C	灰	30	S-8グリッド 底部調整A	
S D20-3	在地産土器	皿	—	—	—	—	C	B	褐	—	T-8グリッド
S D20-4	在地産土器	鉢	—	—	—	—	C	B	灰	—	S-9グリッド SE5
S D23-1	在地産土器	香炉	(11.7)	—	—	—	C	B	灰褐	25	グリッド不明 口縁部に花の押印あり
S D23-2	在地産土器	鉢	—	—	—	—	C	B	灰	—	口縁部はS D11出土 2ヶ所に焼成後穿孔 外面木口状工具による調整
S D23-3	石製品	砥石	13.1	6.2	1.3	—	—	—	90	グリッド不明 中砥 緑泥片岩 板碑の転用? 173.39g	
S D23-4	在地産土器	鉢	(30.0)	—	—	—	C	B	淡褐	15	グリッド不明

第23号溝

S-10グリッドに位置する(第246図・第247図)。前述したように第19号溝と同一の溝になる可能性がある。幅は約1.4m、深さは0.8mある。遺物は数点出土し、4点を図化することができた(第260図)。1は在地産香炉である。口縁部に花の押印がある。2は在地産鉢の口縁部破片である。2か所に焼成後の穿孔がある。外面は粗い木口状工具によるナデ調整で、内面には撞目がある。3は緑泥片岩製の砥石である。板碑の転用の可能性もある。4は在地産鉢の口縁部破片である。撞目はつかないものと思われる。

第24号溝

S-9グリッドに位置する(第240図)。幅は約0.25m、深さは約0.08mある。遺物は出土せず、時期も特定できなかった。

第25号溝

S-8グリッドに位置する(第240図・第242図)。重複する土壌よりも古い。遺物は出土しなかったが、土壌よりも古いので、時期は中世と思われる。

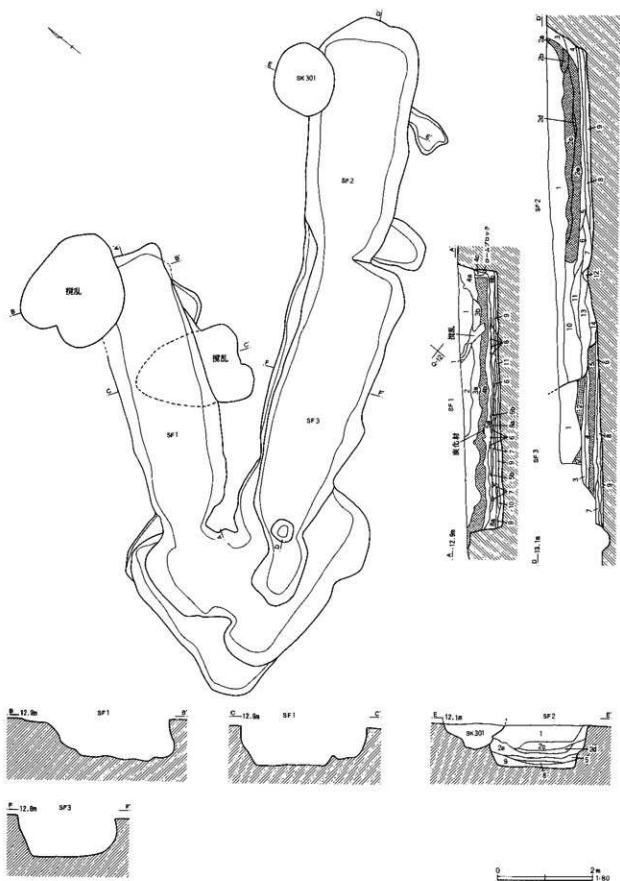
第26号溝

T-8・T-9グリッドに位置する(第244図)。南半分は調査区域外のにびているため幅は不明である。深さは約0.5mある。前述したように第16号溝の南辺になる可能性がある。遺物は数点しかなく、図化できなかった。

第27号溝

S-8グリッドに位置する(第242図)。第19号溝や重複する土壌よりも古い。幅は約0.45cm、深さは約0.1mである。遺物は出土しなかったが、土壌よりも古いので、時期は中世と思われる。

第261图 第1号炭烧窑~第3号炭烧窑



(4) 炭焼窯

P-11・Q-11グリッドで重複する3基の炭焼窯を検出した(第261図)。すべて地下式で、平面形態は羽子板状である。炭化室と前庭部(作業場)からなる。煙道は先端部の中央にある。土層観察から(古)第1号炭焼窯→第3号炭焼窯→第2号炭焼窯(新)という新旧関係であることが判った。第3号炭焼窯には天井が2枚あった。また、それぞれの窯は炭と焼土の著しい層が何枚かあり、第1号炭焼窯は6回、第2号炭焼窯は3回、第3号炭焼窯(古)は3回、第3号炭焼窯(新)は2回、最低操業していた。第2号炭焼窯は中世の土壌基である第301号土壌よりも古いことが土層観察で確認できた。炭焼窯出土の炭化材の樹種同定と¹⁴C年代測定を行い、結果は附欄に収録した。

SF1

- 1 層 Hae10YR34 暗褐色 しまりあり 焼土粒子(2mm)を少量含む
- 2 層 Hae10YR34 暗褐色 しまりあり 焼土粒子(3mm)を少量、0-4°粒子(2mm)を極少量含む
- 3a 層 Hae10YR25 黒褐色 しまりあり 焼土粒子(1mm)を少量、0-4°粒子(1mm)を少量、0-4°粒子(2mm)を少量に含む
- 3b 層 Hae10YR34 暗褐色 しまりあり 焼土粒子(1mm)を少量、0-4°粒子(2mm)を少量含む
- 4a 層 Hae10YR34 暗褐色 しまり強い 0-4°粒子(3mm)を少量に含む
- 4b 層 Hae10YR34 暗褐色 焼土粒子(1-2mm)を少量、0-4°粒子(2-3mm)を少量に含む
- 4c 層 Hae10YR34 暗褐色 しまり非常に強い 3-4°粒子(1cm)を含む
- 5a 層 Hae10YR32 黒褐色 しまりあり 焼土粒子(5mm)を少量、木炭片(長さ1-4cm)を少量、0-4°粒子(3mm)を少量、灰色7°粒子(1cm)および灰色粒子(3mm)を少量に含む
- 5b 層 Hae10YR25 黒褐色 しまりあり 焼土粒子および焼土7°粒子を極少量、木炭片を少量、0-4°粒子を少量に含む
- 6 層 Hae10YR8 赤褐色 しまりあり 焼土粒子および焼土7°粒子からなる0-4°粒子(7mm)、灰色7°粒子(1cm)を含む
- 7 層 Hae10YR4 赤褐色 しまりあり 焼土7°粒子からなる0-4°粒子(7mm)を少量、黒褐色17°粒子(1cm)を中や少量に含む
- 8a 層 Hae10YR25 黒褐色 しまりあり 黒褐色土からなる 焼土粒子(3mm)を少量、0-4°粒子を中や少量に含む 木炭片を含む
- 8b 層 Hae10YR1.7/1 灰色 しまりあり 黒褐色土からなる 焼土粒子(3mm)、灰色粒子(3mm)を少量、灰色粒子(3mm)を中や少量、木炭片を少量含む
- 9 層 Hae10YR4 褐色 しまりあり 褐色土と焼土からなる 0-4°粒子、灰色土を少量含む
- 10 層 Hae10YR2 黒褐色 しまりあり 焼土粒子を中や少量、木炭片を少量、0-4°粒子を少量に含む
- 11 層 Hae10YR4 褐色 しまりあり 褐色土と焼土からなる 木炭片および0-4°粒子を少量に含む 厚さの1m付近は炭化物7°粒子が多い

SF2

- 1 層 Hae10YR34 暗褐色 しまりあり 0-4°粒子(3mm)、3-4°粒子(1-2mm)を少量含む
- 2 層 Hae10YR45 鈍黄褐色 しまりあり 焼土、炭化物を少量含む
- 3 層 Hae10YR32 黒褐色 しまりあり 焼土粒子(5mm)、0-4°粒子(5mm)を少量含む
- 4 層 Hae10YR45 鈍黄褐色 しまりあり 焼土を極少量に含む
- 5 層 Hae10YR56 黄褐色 しまりあり 7°土からなる0-4°土

(5) グリッド出土遺物

紙面の都合上、1のみ古墳時代初頭で、その他は中世以降の製品である。

1は土師器の器台である。風化が著しく、細かい調整は観察できない。2~5・7・8は在地産皿である。6は在地産鍋である。9~11は在地産鉢で、横目がある。9の外周は細かい木口状工具によるナデ調整と指頭調整である。10・11の外周には粘土紐の巻き上げ痕が残る。12は常滑産の片口鉢の底部破片である。山茶碗系の片口鉢1類とされるものであるが、口縁部を欠くのでくわしい時期は判らない。13は瀬戸・美濃産銅皿の底部付近の破片である。14は瀬戸・美濃産銅鉢の口縁部破片である。片口部分で、鉄軸が全体に施軸される。15は白磁の小杯である。体部は面取りしてあ

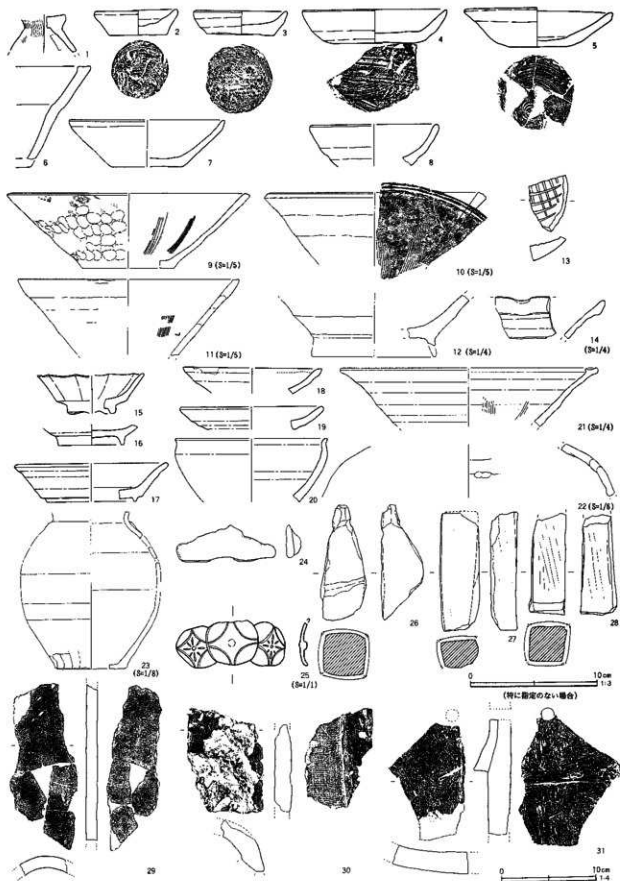
SF2

- 1 層 Hae10YR25 黒褐色 しまりあり 0-4°粒子(2-5mm)、焼土、炭化物を少量含む
- 2a 層 Hae10YR44 褐色 しまりあり 2c~e層より粗く、2b層より細かい0-4°粒子(2mm)からなる
- 2b 層 Hae10YR45 鈍黄褐色 しまりあり 0-4°粒子(2mm)を少量含む
- 2c 層 Hae10YR44 褐色 しまりあり 7°土からなる
- 2d 層 Hae10YR44 褐色 しまりあり 2c、2e層より粗い
- 2e 層 Hae10YR44 褐色 しまりあり 7°土からなる 2c層より粗い
- 3 層 Hae10YR45 鈍黄褐色 しまりあり 7°土から2次厚化したものか 焼土、炭化物は含まない
- 4 層 Hae10YR45 鈍黄褐色 しまりあり 焼土、炭化物を少量含む
- 5 層 Hae10YR34 暗褐色 しまりあり 0-4°粒子(2-5mm)、焼土、炭化物、木炭を少量に含む
- 6 層 Hae10YR34 暗褐色 しまりあり 3層より粗い 焼土、0-4°粒子(5mm)を少量、木炭を少量含む
- 7 層 Hae10YR45 鈍黄褐色 しまりや中強い 焼土、0-4°粒子(5mm)を極少量、木炭を少量含む
- 8 層 Hae10YR2 黒褐色 しまり強い 0-4°粒子(5-8mm)を少量、焼土、黒色土粒子、灰色土(5mm)、木炭を少量に含む
- 9 層 Hae10YR32 黒褐色 しまり強い 0-4°粒子(5-8mm)を少量含む 焼土、灰色土粒子、炭化物(5mm)、木炭は8層より少ない
- 10 層 Hae10YR25 黒褐色 しまりあり 焼土、炭化物、0-4°粒子(3mm)を少量含む
- 11 層 Hae10YR25 黒褐色 しまりあり 焼土、炭化物、0-4°粒子(3mm)を少量含む
- 12 層 Hae10YR25 鈍黄褐色 しまりあり 焼土、炭化物、0-4°粒子(5mm)を少量含む
- 13 層 Hae10YR35 暗褐色 しまりあり 焼土、炭化物、0-4°粒子(3mm)を11層より少量に含む
- 14 層 Hae10YR55 鈍黄褐色 しまりあり 焼土、0-4°粒子(5-8mm)を少量に含む

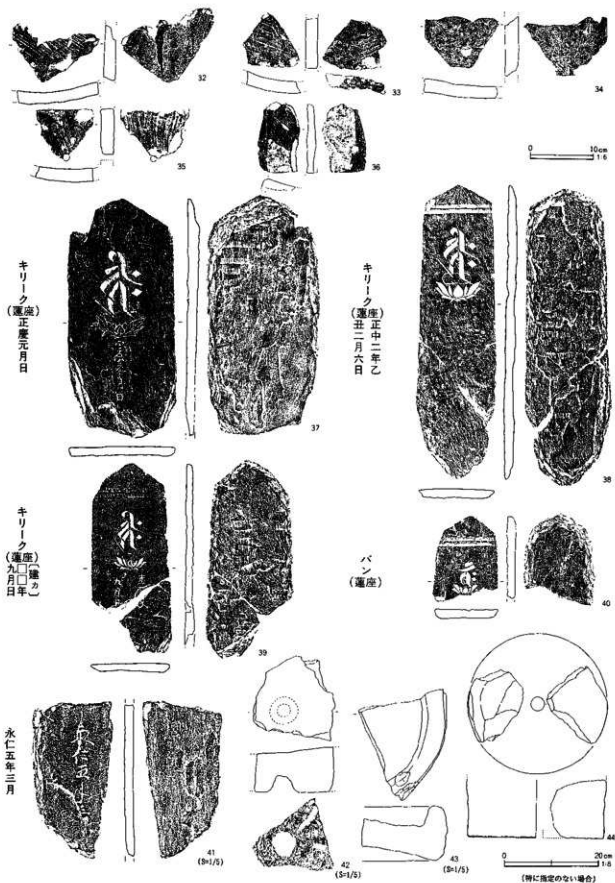
SF3

- 1 層 Hae10YR34 暗褐色 しまりあり 0-4°粒子(3mm)、3-4°粒子(1-2mm)を少量含む
- 2 層 Hae10YR45 鈍黄褐色 しまりあり 焼土、炭化物を少量含む
- 3 層 Hae10YR32 黒褐色 しまりあり 焼土粒子(5mm)、0-4°粒子(5mm)を少量含む
- 4 層 Hae10YR45 鈍黄褐色 しまりあり 焼土を極少量に含む
- 5 層 Hae10YR56 黄褐色 しまりあり 7°土からなる0-4°土
- 6 層 Hae10YR45 鈍黄褐色 しまり強い 焼土粒子(5mm)を極少量、炭化物を少量含む
- 7 層 Hae10YR54 鈍黄褐色 しまり強い 6層より多量に焼土粒子(5mm)を含む 炭化物は極少量含む
- 8 層 Hae10YR44 褐色 しまり強い 6層より焼土は少ないが炭化物は多量に含む
- 9 層 Hae10YR44 褐色 しまり強い 焼土粒子(5mm)を少量含む 炭化物は極少量に含む

第262図 B区中世・近世グリッド出土遺物(1)



第263図 B区中世・近世グリッド出土遺物(2)



第27表 グリッド出土遺物観察表(1)

番号	種類	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	土師器	器台	—	—	—	C	B	赤褐	70	P-13グリッド
2	在地産土器	皿	6.3	4.5	2.0	B C F	B	明褐	95	S-5グリッド 底部調整A
3	在地産土器	皿	7.2	5.4	1.9	F	B	褐	100	S-6グリッド 内外面に油灰痕あり 底部調整A
4	在地産土器	皿	(11.3)	(6.5)	(2.6)	C F	B	明褐	35	T-7グリッド 底部調整A F
5	在地産土器	皿	11.5	5.2	3.1	—	B	褐	70	S-6グリッド 重みが著しい 底部調整A
6	在地産土器	鍋	—	—	—	C F	B	褐	—	P-8グリッド
7	在地産土器	皿	(12.2)	(5.1)	(3.7)	B C F	B	褐	25	S-8グリッド 底部調整A
8	在地産土器	皿	(10.0)	—	—	B	B	淡褐	35	P-13グリッド
9	在地産土器	鉢	31.4	12.4	10.0	C F	B	褐	50	グリッド不明 樋目5条一単位 底部調整C ハケ目調整後指調整形
10	在地産土器	鉢	(28.0)	—	—	C	B	灰	20	S-8グリッド 樋目9条一単位
11	在地産土器	鉢	(29.5)	—	—	C F	B	褐	20	グリッド不明 外面指調整形
12	陶器	片口鉢	—	(13.0)	—	A D	B	灰白	20	グリッド不明 常滑産
13	陶器	細皿	—	—	—	B	B	灰褐	—	Q-10グリッド 瀬戸・美濃産 灰釉
14	陶器	擂鉢	—	—	—	B	B	灰白	—	グリッド不明 瀬戸・美濃産 鉄釉
15	舶載磁器	白磁小杯	(8.4)	(3.4)	(3.0)	—	B	灰褐	25	P-7グリッド
16	陶器	小皿	—	5.2	—	B	B	灰白	80	Q-9グリッド 瀬戸・美濃産 全面灰釉
17	陶器	皿	(11.8)	(7.0)	(3.0)	—	B	淡褐	20	O-12グリッド 瀬戸・美濃産 灰釉 底部調整B
18	陶器	縁釉小皿	(11.2)	—	—	—	B	灰白	25	R-6グリッド 古瀬戸 灰釉
19	陶器	皿	(11.3)	—	—	—	B	灰褐	25	O-13グリッド 長石釉
20	陶器	天目茶碗	(12.0)	—	—	—	B	灰褐	20	O-12グリッド 瀬戸・美濃産 鉄釉
21	陶器	擂鉢	(27.2)	—	—	—	B	灰	15	T-9グリッド 瀬戸・美濃産 鉄釉 樋目7条一単位
22	陶器	壺	—	—	—	A	B	灰白	—	Q-12グリッド 常滑産
23	陶器	壺	—	(13.6)	—	—	B	赤茶	25	グリッド不明 常滑産 藻掛 砂底
24	鉄製品	火打鎌	7.8	2.8	6.0	—	—	—	100	R-5グリッド
25	青銅製品	飾り金具	2.9	1.3	1.0	—	—	—	95	R-8グリッド
26	石製品	砥石	9.1	3.5	3.4	—	—	—	100	P-5グリッド 凝灰岩 101.16g
27	石製品	砥石	9.4	3.1	2.2	—	—	—	100	N-6グリッド 凝灰岩 90.24g
28	石製品	砥石	8.0	2.7	2.7	—	—	—	90	M-8グリッド 凝灰岩 114.16g
29	瓦	丸瓦	—	—	1.2	A	B	赤褐	—	P-13グリッド 凹面ナデ調整 凸面樋目 叩き後ナデ調整
30	瓦	丸瓦	—	—	1.8	A	B	灰褐	—	P-13グリッド 凹面余切り痕と布目圧痕 凸面ナデ調整
31	瓦	平瓦	—	—	2.3	A	B	灰褐	—	O-5グリッド 掛りの瓦 凹面ナデ調整 凸面ナデ調整 目釘穴1ヶ所あり
32	瓦	平瓦	—	—	1.9	A	B	灰褐	—	Q-12グリッド 凹面余切り痕あり 凸面ヘラ削り 凹凸面離れ砂付着
33	瓦	平瓦	—	—	2.0	A	B	灰褐	—	Q-12グリッド 凹面余切り痕あり 凸面ヘラ削り 凹凸面離れ砂付着
34	瓦	平瓦	—	—	2.2	A	B	褐	—	P-13グリッド 凹面余切り痕あり 凸面ヘラ削り 凹凸面離れ砂付着
35	瓦	平瓦	—	—	2.1	A	B	灰	—	R-9グリッド 凹面余切り痕 凸面ヘラ削り 凹凸面離れ砂付着 目釘穴1ヶ所あり
36	瓦	平瓦	—	—	—	A	B	灰白	—	P-7グリッド 製斗瓦の可能性あり 凹面ナデ調整
37	石製品	板碑	—	22.6	2.0	—	—	—	—	P-12グリッド
38	石製品	板碑	61.6	16.0	2.0	—	—	—	100	P-12グリッド

第28表 グリッド出土遺物観察表(2)

番号	種類	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存	備考
39	石製品	板碑	—	16.0	1.6	—	—	—	—	P-12グリッド
40	石製品	板碑	—	13.6	2.0	—	—	—	—	P-12グリッド
41	石製品	板碑	—	10.6	1.2	—	—	—	—	グリッド不明
42	石製品	石臼	—	—	—	—	—	—	—	R-5グリッド 安山岩
43	石製品	石臼	(28.0)	—	—	—	—	—	20	Q-10グリッド 上白 安山岩
44	石製品	石臼	(30.0)	—	—	—	—	—	20	N-10グリッド 上白 安山岩

り、7角か8角になるものと思われる。16は瀬戸・美濃産皿の底部破片である。全面に灰釉が施釉される。大窯の1～3段階頃(16世紀前半)の製品と思われる。17は瀬戸・美濃産皿である。全体に灰釉が施釉される。第36号住居跡の攪乱部分から出土した。18は古瀬戸の縁袖小皿の口縁部破片である。19は瀬戸・美濃産皿の口縁部破片である。全体に長石釉が施釉される。17世紀初頭頃の製品と思われる。20は瀬戸・美濃産の天目茶碗である。全体に鉄釉が施釉される。大窯段階の製品と思われる。第36号住居跡の攪乱部分から出土した。21は瀬戸・美濃産の播鉢である。全体に鉄釉が施釉される。口縁部の形態やロクロ目がきついことから播鉢Ⅰ類で、古瀬戸後期Ⅲ～Ⅳ期(15世紀前半)の製品と思われる。22は常滑産壺の胴部破片である。外面に押印等は見られない。23は常滑産の壺である。肩部には釉が顕著で、「藻掛け」と呼ばれているような釉である。底部は砂が付着している。破片は第16号溝付近に広く散在していた。24は鉄製の火打ち鎌である。錆が著しく、X線をかけたが、紐通しの孔は確認できなかった。25は青銅製の飾り金具になるものと思われる。裏面に鋸止の突起がある。26～28は凝灰岩製の砥石である。26は上端部に括れがあり、提げ砥になるものと思われる。29～36は瓦で、調整や胎土等から中世のものと思われる。29・30は丸瓦である。29は凸面は縄目叩き後ナデ調整で、凹面はナデ調整される。30は凸面はナデ調整で、凹面は糸切り痕と布目圧痕が残る。31～36は平瓦である。31は凹面に突起のある「掛かりの瓦」である。目釘孔が焼成前に1か所あけられている。凹面・凸面ともにナデ調整である。32は凹面に糸

切り痕が残る、凸面はヘラ削り調整される。凹面・凸面ともに離れ砂が付着する。33は凹面に糸切り痕が残る、凸面はヘラ削り調整される。凹面・凸面ともに離れ砂が付着する。34は凹面に糸切り痕が残る、凸面はヘラ削り調整される。凹面・凸面ともに離れ砂が付着する。35は凹面に糸切り痕が残る、凸面はヘラ削り調整される。凹面・凸面ともに離れ砂が付着する。目釘孔が焼成前に1か所あけられている。36は製斗瓦になる可能性もある。凹面はナデ調整で、凸面は剝離が著しく観察できない。これらの瓦の中で、29・30・32～34はP-12グリッド付近で検出された中世の土壌墓群に伴うものと思われる。37～41は板碑である。37は基部を欠損し、二条線は浅い線彫りである。主尊はキリークで、紀年は「正慶元月日」(1332)である。蓮座は鎌倉末～南北朝初期に多いと言われる線彫りで、紀年とも合致する。基部は欠損する。38は完形である。主尊はキリークで、紀年は「正中二年乙丑二月六日」(1325)である。39は基部を欠損する。主尊はキリークで、紀年は「(建カ)□□年 九月日」である。40は上半部の破片で、主尊はバンである。41は紀年部分の破片で、紀年は「永仁五年三月」(1297)である。これらの板碑の中で、37～40はP-12グリッドの表土掘削の段階で出土したものであり、P-12グリッド付近で検出された中世の土壌墓群に伴うものと思われる。42～44は石臼の破片である。すべて上白で、石材は安山岩である。42には芯棒の孔があるが、貫通していないので、供給口は別にある形態と思われる。43はふくみ部分が約2.5cm窪んでいる。

第29表 遺構番号新旧対照表

住居跡 (S J)		
新番号	旧番号	グリッド
S J 1	2次S J 1	B-3・B-4
S J 2	2次S J 2	B-4
S J 3	2次S J 3	B-4・C-4
S J 4	2次S J 4	C-5
S J 5	2次S J 5	C-4・C-5
S J 6	2次S J 6	C-5
S J 7	2次S J 7	C-5・C-6
S J 8	2次S J 8	C-6
S J 9	2次S J 9	C-6・C-7
S J 10	2次S J 10	C-8・D-8
S J 11	2次S J 11	C-8・D-8
S J 12	2次S J 12	D-9
S J 13	2次S J 13	D-10・E-10
S J 14	2次S J 17	D-10・E-10
S J 15	2次S J 14	B-4・B-5
S J 16	2次S J 16	B-4
S J 17	1次S J 15	P-6・P-7
S J 18	1次S J 22	O-6・O-7
S J 19	1次S J 24	O-6・O-7
S J 20	1次S J 23	P-7・P-8
S J 21	1次S J 17	O-7
S J 22	1次S J 19	O-7・P-7
S J 23	1次S J 18	O-7・O-8
S J 24	1次S J 25	O-7・O-8
S J 25	1次S J 21	O-8
S J 26	1次S J 20	P-8
S J 27	1次S J 16	N-6・N-7
S J 28	1次S J 35	M-8
S J 29	1次S J 36	M-8
S J 30	1次S J 34	M-8・N-8
S J 31	1次S J 30	N-10・O-10
S J 32	1次S J 32	N-11・O-11
S J 33	1次S J 33	P-12・P-13
S J 34	1次S J 26	O-13・P-13
S J 35	1次S J 29	N-13・O-13
S J 36	1次S J 27	O-12
S J 37	1次S J 31	O-11・P-11
S J 38	1次S J 28	O-10・O-11
性格不明遺構 (S X)		
新番号	旧番号	グリッド
S X 1	2次S X 1	D-8
S X 2	2次S J 15	A-3・B-3
陥穴 (S C)		
新番号	旧番号	グリッド
S C 1	S K J 9	Q-4

溝 (S D)		
新番号	旧番号	グリッド
S D 1	2次S D 1	B-1・B-2
S D 2	2次S D 2	B-2・B-3・B-4
S D 3	2次S D 3	D-6
S D 4	2次S D 4	D-10・E-10
S D 5	2次S D 5	E-10・E-11
S D 6	1次S D 21	K-8・K-9・L-10・M-10
S D 7	1次S D 22	K-10・L-10・M-10
S D 8	1次S D 23	L-8・M-9
S D 9	1次S D 9	L-7・M-8・N-8・O-8・P-8・Q-9・R-9・S-9・T-9
S D 10	1次S D 19	N-8・N-9・N-10・N-11・N-12・O-12
S D 11	1次S D 6	N-8・N-9・N-10・O-10・P-10・Q-10・R-10
S D 12	1次S D 20	P-10・O-11・O-12・N-13
S D 13	1次S D 18	O-5
S D 14	1次S D 17	O-3・O-4・O-5・O-6・O-7・O-8・O-9・O-10・P-10・Q-10・R-10
S D 15	1次S D 15	S-4・R-4・Q-4・P-5・P-6・P-7
S D 16	1次S D 10	S-4・R-5・Q-5・P-5・P-6・P-7・P-8・Q-9・R-10・S-10・T-9
S D 17	1次S D 16	S-4・S-5
S D 18	1次S D 14	S-5・T-6
S D 19	1次S D 11	S-8・S-9
S D 20	1次S D 12	S-8・T-8・S-9
S D 21	1次S D 8	U-9・U-10
S D 22	1次S D 23	Q-12
S D 23	1次S D 7	S-10
S D 24	-	S-9
S D 25	-	S-8
S D 26	1次S D 18	T-8・T-9
S D 27	1次S D 13	S-8

VI 結語

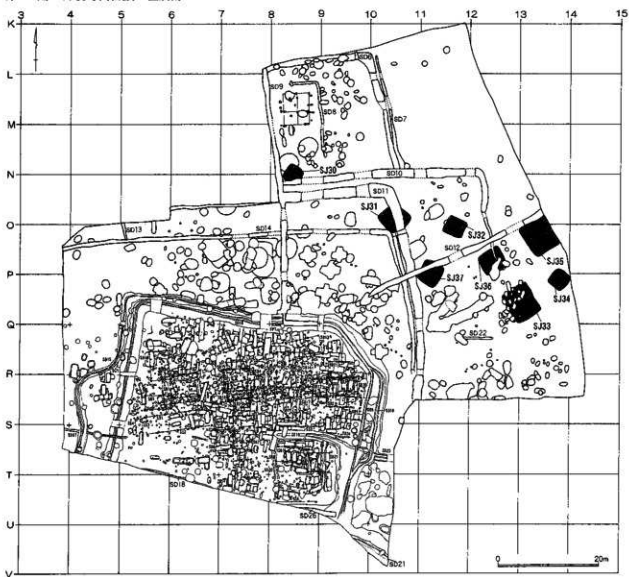
1. 古墳時代初頭の集落について

今回の調査で古墳時代初頭の住居跡はB区で8軒検出された。集落はM-8グリッドからP-13グリッドにかけて展開している。A区では当該期の土壌が検出されているので、集落はさらに北西方向に拡がる可能性がある。

住居の形態は隅丸長方形か隅丸方形である。楕円形に近い隅丸方形のものは無い。大きさには大中小の3種類ある。大型の住居は隅丸長方形、中型・小型の住居は隅丸方形の傾向がある。大型に属するものは第33

号住居跡・第35号住居跡で、1辺は7~9mある。中型に属するものは第31号住居跡・第36号住居跡・第37号住居跡で、1辺は6m前後ある。小型に属するものは第30号住居跡・第32号住居跡・第34号住居跡で、1辺は4m前後ある。主軸については、第33号住居跡・第36号住居跡がN-30°-W、第34号住居跡・第37号住居跡がN-29°-E~N-33°-Eと近似している。大中小の住居が組み合わせて同時存在した可能性がある。出土遺物は第36号住居跡を除くとさほど多くはな

第264図 古墳時代初頭の住居跡



く、器種別に分類する程の点数が無い。同じ区画整理事業によって調査された隣接遺跡一向原遺跡・戸崎前遺跡で多くの未発表資料があるため、編年的な細かい位置付けはそれらの報告書に譲りたい。

ここでは先学の研究成果に照らし合わせて、今後の課題と大まかな位置付けについて述べてい。本遺跡の立地する地域で古墳時代初頭の土器編年を行った書上元博氏は以下のように段階区分された(書上1994)。

- 1段階：土器組成への小型器台形土器の参入に象徴される段階
- 2段階：畿内系の定型化した小型丸底壺・小型丸底鉢の参入に象徴される段階
- 3段階：「柱状脚部高環」、「無透孔屈折脚高環」の参入に象徴される段階

鍵となるのは器台と外来系土器であろう。今回の調査で器台はグリッド出土遺物(第262図)に掲載したものの1点しかなく、住居跡からは出土しなかった。また、小型丸底壺も出土しなかった。外来系土器については、搬入品は無い。

問題となるのは第34号住居跡から出土した高環(第135図3)である。坏部下端に段を持ち、脚部は内彎する形態である。東海地方西部の編年で欠山式とされる高環の形態に似ている。しかし、口縁部内側は面取りを意識しているが丸味を帯びる部分が多く、内面のミガキ調整は横方向である。脚部の横線文は無い。形態は近似しているが成形・調整の細かな点では異なる。共存する高環をみると、2は坏部下端に段は無く、脚部はやや内彎するが外側に開く。4は坏部下端に段があるが、脚部を欠損し、全体の形態は解らない。その他の共存遺物には口縁部が内彎する壺5と台付甕6がある。遺物の出土状態をみると、高環2は覆土中から小破片で散在して出土した。高環3は床面から12cm程浮いて、横倒しの状態で出土した。住居の深さは16cm程と浅く、出土遺物は全て床面近くと言ってもよいであろう。ある程度一括性のある土器群としておきたい。このような内彎する脚部の高環は県内では大宮市吉

野原遺跡第6号住居跡10(笹森他1986)、蓮田市ささら遺跡第8号住居跡5(藤原他1983)、上尾市尾山台A3区第4号住居跡8(埼玉考古学会他1996)、滑川町屋田遺跡第5号住居跡8(立石他1984)で出土している(註1)。

吉野原遺跡の高環は脚部外面はミガキ調整されるが、坏部は横方向のミガキ調整がわずかに観察出来る程度である。外面と坏部内面は赤彩される。器形は坏部と脚部の高さを比較すると、2:3の比率で坏部が浅い。脚部に透かし孔はない。共存遺物には台付甕、肩部に無節斜行縄文+「S」字状結節文が施文される甕、肩部に無節羽状縄文+「S」字状結節文が施文される甕、口縁部に無節羽状縄文+口縁部に縄文が施文される高環、手づくね土器などがある。

ささら遺跡の高環は坏部外面は縦方向のミガキ調整、内面は工具によるナデ調整である。赤彩は施されない。器形は坏部と脚部の高さを比較すると、20:19の比率で若干脚部が短い。脚部に透かし孔は3か所ある。共存遺物には「く」の字状口縁部の台付甕、口縁部が直線的に外に開く釜などがある。

屋田遺跡の高環は坏部外面は縦方向のミガキ調整、内面はナデ調整である。赤彩は施されない。器形は坏部と脚部の高さを比較すると、13:10の比率で、若干脚部が短い。脚部に透かし孔は3か所ある。共存遺物には器台、鉢、「く」の字状口縁部の台付甕などがある。

器形全体が解る資料では葉前堂根遺跡とささら遺跡と屋田遺跡がいわゆる「欠山式」と言われている形態に近い。ささら遺跡・屋田遺跡の高環は内面をミガキ調整していない点、屋田遺跡は器台が共存している点に着目するならば、本遺跡の高環が一番古い様相を持っている。東海地方の編年とこの地域の編年の併行関係が今後の課題であろう。今回出土した土器群は、器台がわずかにしか見られないこと、外来系の高環が出土していることから先に挙げた稲荷台編年の1段階がそれ以前に相当するものと思われる。

2. 炭焼窯について

炭焼窯は3基検出されたが、その中の第2号炭焼窯は中世の土壇墓である第301号土壇よりも古かった。伊奈町から上尾市にかけてはこれまで炭焼窯が数多く調査されており、近年では古代の所産とする見方が強くなってきている(赤石1987・小宮山1994)。筆者も大山遺跡第9次の報告書でその見解に首肯した(金子他1997)。しかし、炭焼窯の年代を特定できる根拠はこれまでの調査ではなく、あくまで状況証拠からの推論であった(註2)。今回の調査でも遺物は出土しなかったが、遺構の重複関係から炭焼窯の時期を考える手掛かりを得ることができた。これはたいへん大きな成果である。また、¹⁴C年代測定では年代幅はあるが、7世紀末から10世紀後半の実年代がでた。中世のある時点よりも確実に古く、古代へ遡る可能性が強くなってきたと言えよう。

薬師堂根遺跡で検出された炭焼窯は地下式で、炭化室と前底部(作業場)からなる。この地域ではこの形

態の炭焼窯の検出例が多く、向原遺跡・原遺跡・小室天神前遺跡・大山遺跡・赤羽遺跡・谷津下I遺跡・十二番耕地I遺跡・愛宕山遺跡・三番耕地遺跡・八番耕地遺跡・高台山遺跡などの調査例がある。大山遺跡と北遺跡では長方形土壇の形態の炭焼窯も検出されている。

大山遺跡では平安時代の大規模な製鉄関連遺構が検出されており、製錬→精錬→加工(鑄造・鍛冶)の各段階が行われていた。製錬炉は4群16基検出され、台地斜面に構築された整型炉である。製鉄では大量の炭が必要であり、この地域で検出された多くの炭焼窯は製鉄遺跡に供給したのであろう。ただし、本遺跡は大山遺跡から約5km離れており、河川でみても綾瀬川の流域にあたる(大山遺跡は原市沼川の流域)。蓮田市椿山遺跡や白阿町宮山遺跡にも製鉄関連の遺跡があるので、未発見の製鉄関連遺跡に炭を供給していた可能性もある。今後の調査に期待したい。

3. 中世の遺構群について

(1) 遺物について

中世の遺物は量的には余り多くなかった。テンバコで約16箱であった。磁器・陶器・土器は合計1168点あり、点数及び比率は以下の通りである。

舶載磁器	6点	1% (註3)
国産陶器	154点	13%
在地産土器	1,008点	86%

また、用途別では以下の通りである。

供膳具	552点	47%
(青磁4点、白磁2点、古瀬戸・美濃産陶器27点、山茶碗1点、在地産土器皿518点)		
調理具・煮炊具	509点	44%
(瀬戸・美濃産播鉢16点、銅皿1点、常滑産鉢2点、在地産鉢193点、在地産鍋・釜・焙烙297点)		
貯蔵具	109点	9%
(瀬美産壺3点、常滑産壺104点、在地産壺2点)		

舶載磁器・国産陶器が少なく、在地産皿が多い(全体の44%)のが特徴であろう。

この他に銭貨が102点、板碑が271点、石臼が53点、砥石が54点あった。

磁器・陶器・土器・板碑を年代順に並べたものが第267図・第268図である。

古いものは13世紀代の所産で同安窯系青磁皿・常滑産片口鉢1類・山茶碗などがある。小破片などで確定できないが、第16号溝出土の瀬美産壺(第265号土壇出土常滑産壺1)もこのぐらいの時期のものと思われる。

14世紀代の遺物としては在地産鉢・壺と板碑がある。第244号土壇出土の壺は胴部径に対して器高が高く、全く同じ形態の出土例はない。浅野晴樹氏の分類で言うところの「上野型」に近似し、14世紀代とされ

る(浅野1983)。栃木県小山城跡出土のものは口径が胴部径の半分ぐらいで小さく、やや器形が異なる(小山市1980)。本遺跡では15世紀代の古瀬戸段階の皿等を覆土から出土する土壌よりも新しい土壌からこの壺は出土した。古い壺を引き続き蔵骨器として使用したのか、15世紀代にもこのような壺があったのか、今後の課題として残された。

15世紀代の遺物は最も種類が多く、量的にも多い。第19号溝から出土した白磁皿とグリッド出土の白磁小杯は森田勉氏により白磁のD群とされたものである(森田1882)。古瀬戸では瓶子・壺・尊式花瓶・平碗・皿・搦鉢などの器種がある。藤澤良祐氏による古瀬戸後期II~IV段階の製品である(藤澤1997)。在地産では皿・鉢・鍋・土釜・香炉等がある。鉢には隈目入りのものが多い。量的には鉢の破片が多く、鍋・土釜は少ない。

16世紀代の遺物は瀬戸・美濃産皿・天目茶碗・搦鉢、在地産皿・鍋・鉢・焙烙等がある。量的には焙烙の破片が多い。

以上の遺物は一括して出土したものが無く、断片的である。特に在地産皿については15世紀のものと16世紀のものを明確に分けることができなかつた。

銭貨は102点あり、開元通寶が最も古く、永業通寶が最も新しい(註4)。銭種別の枚数では、1位が永業通寶0枚、2位が弘武通寶(9枚)、3位が開元通寶・熙寧元寶(各8枚)である(第30表)。遺構別の枚数では第14号溝の★印の地点(第26図)が最も多く、18枚出土した(第32表)。また、土壌からは6枚出土した場合が多く、いわゆる「六道銭」である(第31表・第32表)。寛永通寶は3枚出土したが、いずれも「新寛永銭」である。本遺跡出土のものは径が比較的小さく、重量も軽い。

板碑は破片も含めて271点出土した。グリッド別で見ると、SD19とSD20によって方形に区画されたS-8・S-9グリッドが56点と最も多く、次いで中世の土壌羂群があるP-12・P-13グリッド付近が41点、Q-5グリッドが26点となっている。遺構別では

SD16が52点と最も多く、次いでSD19が39点、SE27が8点、SE39が6点となっている。溝からは小破片の板碑が多く、井戸からは比較的大型の破片が多く出土した。板碑の年号の判るものは10点あり、グリッド出土の永仁5年(1297)が一番古く、第32号土壌出土の永正13年(1516)が一番新しかった。その中の8点は12世紀末から13世紀代に納まっている。13世紀代は各地で最も盛んに板碑が造られた時期といえる。伊奈町では確認されている90基のうちの30基、上尾市では確認されている491基のうちの200基がこの年代に納まるものである(伊奈町史編集室1996、上尾市教育委員会1979)。ただし、本遺跡では板碑は多く出土したが、同時期の土器や陶磁器は少ない。

石臼は茶臼も含めて53点出土した。茶臼と思われる破片は11点あり、その多くは井戸から出土した。石材は目の細かい砂岩製の茶臼が1点あるが、安山岩が主流である。いずれもすり合わせ部がすり減っており、使い込まれたものである。

(2) 遺構について

中世の遺構は掘立柱建物跡・土壇・櫛列・溝によって形成されている。前述したように、溝の中で第16号溝は堀と言った方がよい規模のものであった。この第16号溝の内側は削平されており、まわりよりも全体に1m程低くなっていた。第16号溝は何度か掘り直されており、この区画を境にして遺構のあり方が大きく異なっている。また、第16号溝よりも古いと思われる第15号溝は途中から第16号溝に重複して、同じような位置で区画を形成していたようである。これらを考え合わせると、この区画は遺跡が構築された当初からあった可能性が高い。ただし、当初から溝の内側が削平されていたかどうかは解らない。

このように、溝と削平によって遺構を区画する類別は多く、「段切り状遺構」と呼ばれている。この「段切り状遺構」には、台地の中央部を溝によって区画し、その中を削平するものと、丘陵の斜面地を削平し、平坦面を造り出すものとの大きく二種類ある。本遺跡は

前者に相当し、近隣の類別としては上尾市西通1遺跡(田中他1985)がある。県外では東京都板橋区五反田遺跡(高尾他1991)、千葉県千葉市西屋敷遺跡(谷1979)、千葉県成田市島内遺跡(小林1984)などがある。後者の例は東京都町田市小山田No.1遺跡(北原他1984)、東京都多摩ニュータウンNo.457遺跡(川島他1982)、東京都多摩ニュータウンNo.692遺跡(斉藤他1988)などがある。

掘立柱建物跡は21棟しか確認できなかった。ピットの数はたいへん多いので、復元できなかった建物が多数あった。建物跡は土壌よりも古いものも新しいものもあった。また、ある段階に第16号溝の内側は削平されているので、壊されて残っていない建物跡も多くあったものと思われる。

第16号溝は鬼門にあたる北東隅が隅切りされており、東西方向の1辺は約53mある(第275図)。南北方向は約10度、東にふれている。南辺は検出されなかったが、調査区の冊巻沿いに帯状の凹地があり、現在の地籍図の地割にも溝が残っている(第276図)。よって、第18号溝と第26号溝が第16号溝の南辺とすると、南北方向の1辺は約40mと推定される。地割を見ると南辺は★印の部分で途切れている。調査区の土壌の分布を見ると、S-5グリッドとS-6グリッドには土壌があまり無い。この付近に土橋等による出入り口があったのではないだろうか。

第16号溝の内部では、さらに溝によって方形に区画された部分がある。第19号溝・第20号溝・第27号溝によって区画された部分で、1辺約12m、南北方向はほぼ磁北を向いている。このような区画は「方形区画溝遺構」(中井1991・橋口1992)や「方形周溝の区画」(荒川1993・1997)と呼ばれている。この小区画の中では掘立柱建物跡3棟と土壌43基と井戸5基が検出された。第19号溝と第27号溝は重複しており、第19号溝が新しい。よって、区画には第20号溝と第27号溝で構成される古段階と、第19号溝と第9号溝・16号溝と第26号溝で構成される新段階の大きく2時期ある。おそらく、第1号掘立柱建物跡と第8号掘立柱建物跡は古段


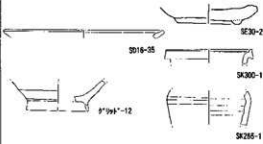
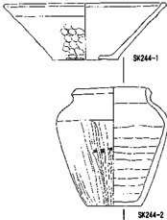
階の区画に伴い、第21号掘立柱建物跡は新段階の区画に伴うものと思われる。第20号溝・第27号溝からは遺物はほとんど出土しなかった。一方、第19号溝からは遺物は多く出土し、特に在地産皿が目立った。また、在地産鍔は焙烙の形態のものが多く、第19号溝は16世紀代に機能していたものと思われる。このような方形区画の空間の性格については「墳墓堂」・「仏堂」・「神社」など宗教的な性格が推測されている(中井1991・橋口1992・荒川1993)。この区画の中で検出された第21号掘立柱建物跡は2間×2間の規模で、「堂」として考えても差し支えないように思える。土壌群は掘立柱建物跡の外にも拡がっているので、新潟県宝積寺館跡(田中他1990)のように建物内部に納まる墓墳にはならないようである。

井戸は計46基検出された(第277図)。その中の40基は第15号溝・第16号溝の内側にあった。また、第15号溝・第16号溝と重複する井戸が11基あったが、いずれも溝の方が新しくあった。


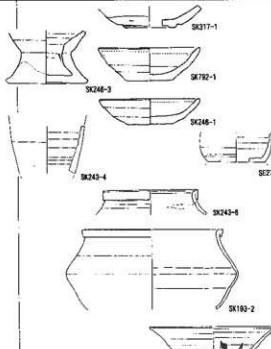
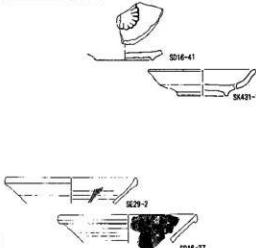
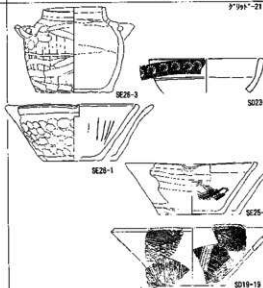
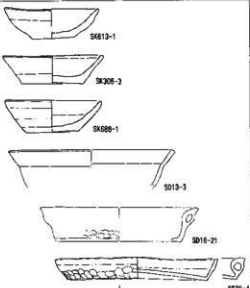
土壌の形態には円形・楕円形・正方形・長方形・十字形・不整形のものがある。

円形・楕円形の土壌の中で、P-12グリッド付近で検出された一群は中世の土壌基である(第214図)。しかし、それ以外の円形・楕円形の土壌の時期は不明で、中世に遡らない可能性が高い。P-12グリッド付近で検出された一群は27基の土壌から成る。この土壌基群はさらに北へ拡がると思われるが、攪乱により破壊されていた。この攪乱からは人骨や瀬戸・美濃産の皿や天目茶碗が出土した。遺構確認時にはこの土壌基群のある部分はやや高くなっており、塚のようにも見えた。一番高い場所の標高は約13m、低い場所の標高は約12.6m、その比高差は40cmあった。区画整理事業に伴い作成された地形図でもこの付近は一段高く、13.5mの等高線が入っている(第274図)。しかし、重機による表土掘削で、塚であったとしても盛土はほとんど残っていなかった。土壌からは人骨や副葬された鉄貨・在地産皿・板硝子などが出土した。また、覆土には親指大の小石がたいへん多く入っており、拳大の礫や瓦や

第265図 出土遺物の編年図(1)

	1200	1300	1400																																				
舶載磁器		 SO16-37 SO16-36																																					
国産陶器	 SE30-2 SO16-25 SK300-1 F794-12 SK285-1																																						
在地産土器			 SK244-1 SK244-2																																				
板碑			<table border="0"> <tr> <td></td> <td>永仁五年 (1297)</td> <td>元応三年 (1321)</td> <td>正中二年 (1325)</td> <td>嘉暦元年 (1326)</td> <td>正應元年 (1332)</td> <td>延文三年 (1358)</td> <td>応安二年 (1369)</td> <td>水徳三年 (1383)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>SE27</td> <td>P</td> <td>SE6</td> <td>P</td> <td>SE12</td> <td>SE27</td> <td>SE12</td> </tr> <tr> <td></td> <td>グリッド</td> <td>5</td> <td>12</td> <td>1</td> <td>12</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>グリッド</td> <td></td> <td>グリッド</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		永仁五年 (1297)	元応三年 (1321)	正中二年 (1325)	嘉暦元年 (1326)	正應元年 (1332)	延文三年 (1358)	応安二年 (1369)	水徳三年 (1383)			SE27	P	SE6	P	SE12	SE27	SE12		グリッド	5	12	1	12	5	2	4				グリッド		グリッド			
	永仁五年 (1297)	元応三年 (1321)	正中二年 (1325)	嘉暦元年 (1326)	正應元年 (1332)	延文三年 (1358)	応安二年 (1369)	水徳三年 (1383)																															
		SE27	P	SE6	P	SE12	SE27	SE12																															
	グリッド	5	12	1	12	5	2	4																															
			グリッド		グリッド																																		

第266図 出土遺物の編年図(2)

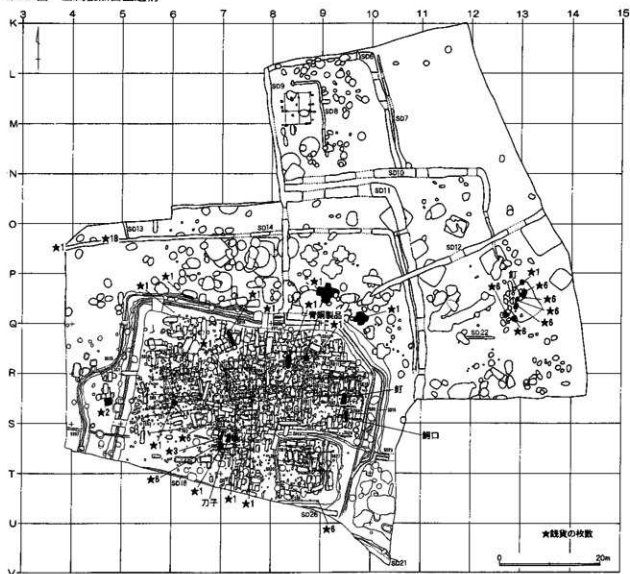
1400	1500	1600
		<p>舶載磁器</p>
		<p>国産陶器</p>
		<p>在地産土器</p>
<p>享和二十口年 (1413~) SD19 ↓ 36</p>	<p>永正十三生 (1516) SK322 ↓ 1</p>	<p>板碑</p>

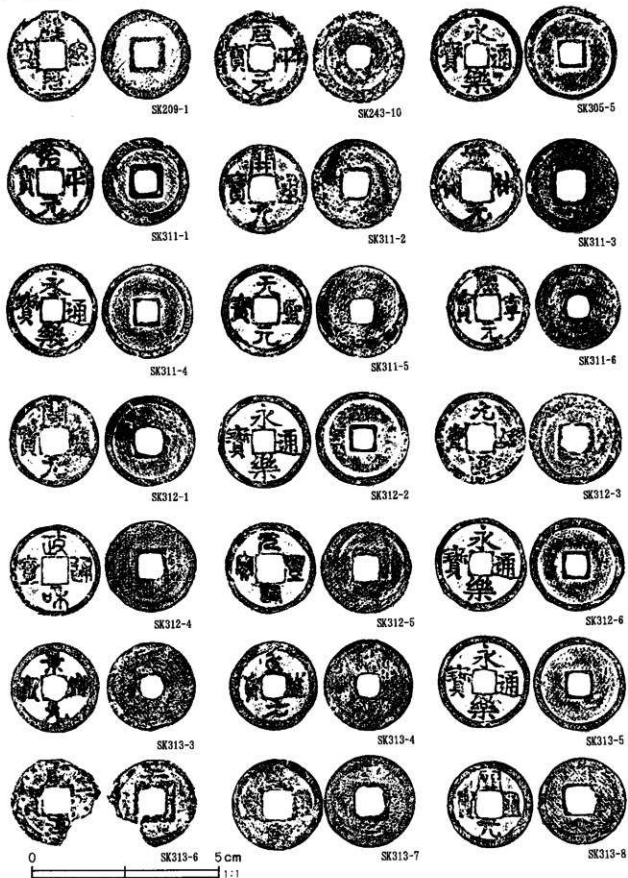
板碑や常滑産瓦の破片も混じていた。第307号土壇と第315号土壇では、遺構確認時に板碑の基部が立った状態で検出された。その下に蔵骨器があるのではないかと期待されたが、この一群の土壇基からは蔵骨器は検出されなかった。この2基の板碑は完形でこの場所に立っていたのか、基部のみを墓壇の目印として立てたのかのどちらかであろう。第322号土壇からは基部を欠損した板碑が表を上にして覆土の上層から出土した。この板碑には「永正十三年（1516）」の年号が彫られていた。出土した人骨は歯の部分が多く、第325号土壇を除き骨は破片になっていた。人骨については分

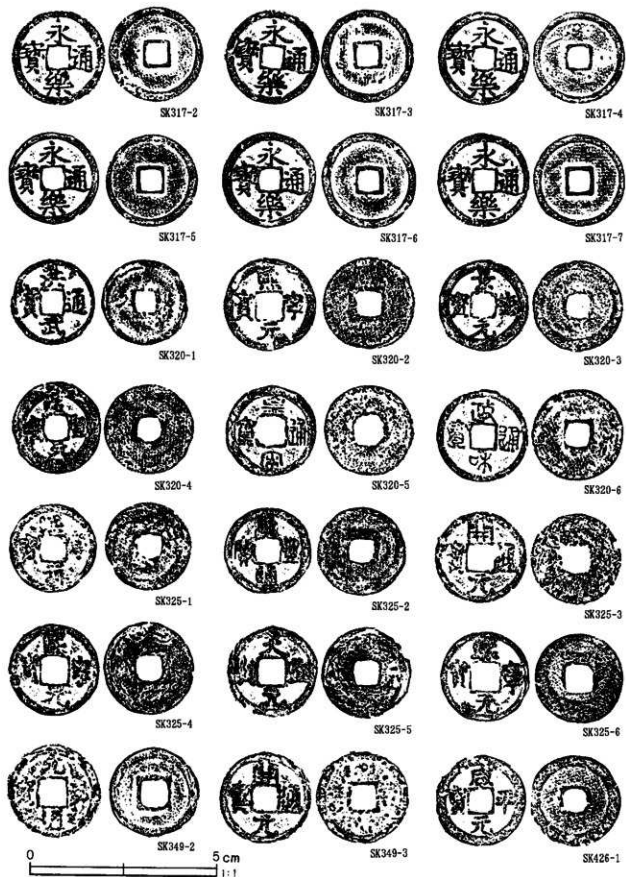
析を行い、結果を附編に収録した。銭貨は第305号土壇から1枚、第311号土壇・第312号土壇・第313号土壇・第317号土壇・第320号土壇・第325号土壇から6枚検出された。銭貨のくわしい内容は第31表にまとめたが、初陣年代の一番古いものは開元通寶で新しいものは永楽通寶であった。第305号土壇からは完形に近い在産皿が3点まとめて出土した。板碑の年号や銭貨が6枚副葬されているので、P-12グリッド付近で検出された土壇墓群は16世紀代のものと思われる。

正方形・長方形の土壇は第15号溝・第16号溝の内側や隣接した外側に多く検出され、7割近くは中世の土

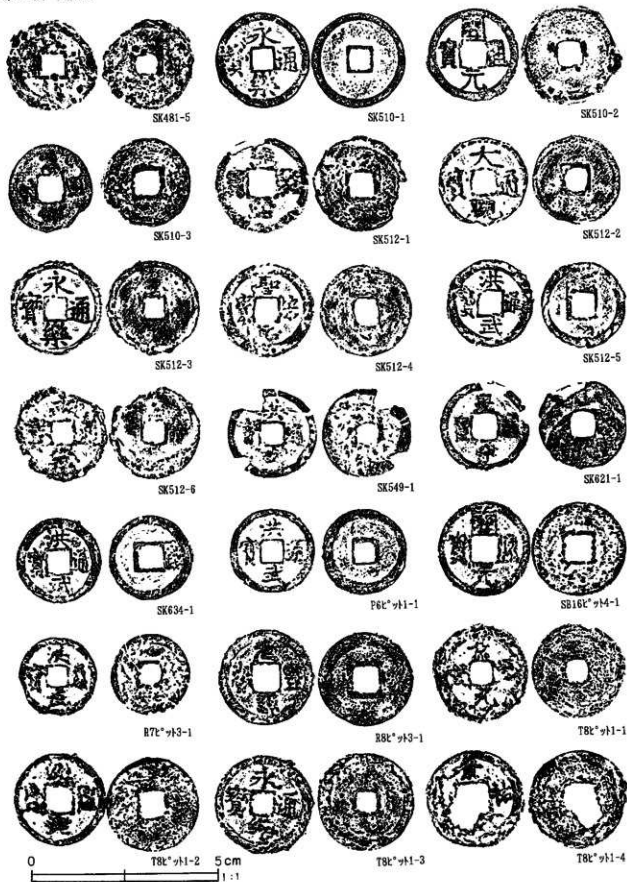
第267図 金属製品出土遺構



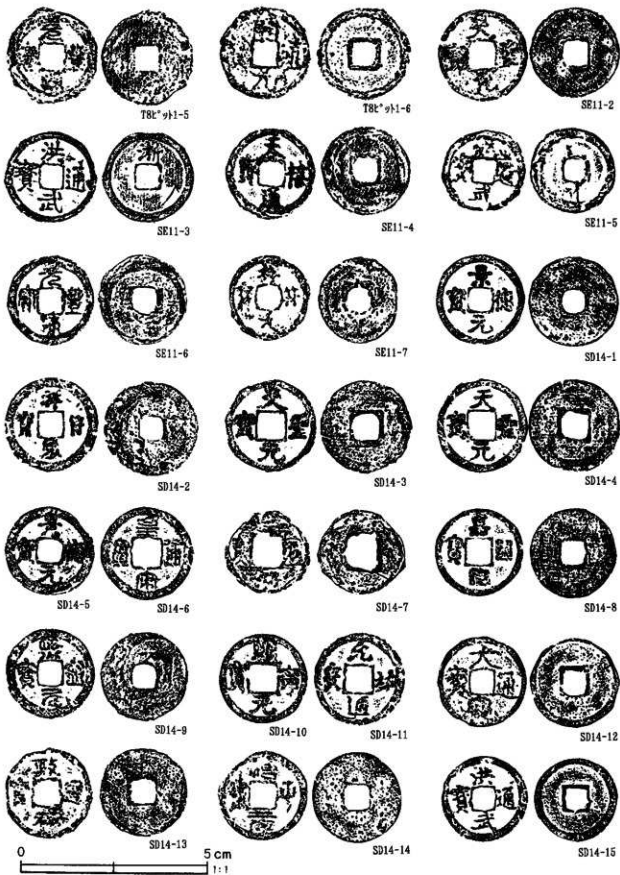




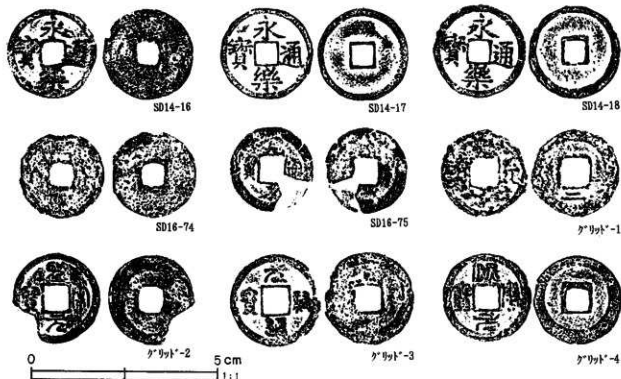
第270図 錢貨(3)



第271图 钱货(4)



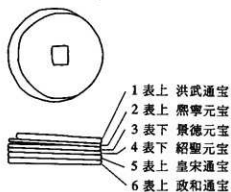
第272図 銭貨(5)



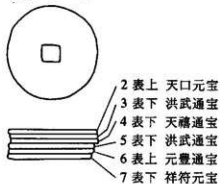
第30表 銭種別出土数

銭貨名	初鑄年代	枚数
開元通宝	唐 (621)	8
至道元宝	北宋 (995)	1
咸平元宝	北宋 (998)	2
景德元宝	北宋 (1004)	3
祥符元宝	北宋 (1008)	1
祥符通宝	北宋 (1008)	1
天禧通宝	北宋 (1017)	1
天聖元宝	北宋 (1023)	4
景祐元宝	北宋 (1034)	2
皇宋通宝	北宋 (1039)	5
嘉祐通宝	北宋 (1056)	1
治平元宝	北宋 (1064)	2
熙寧元宝	北宋 (1068)	8
元豐通宝	北宋 (1078)	6
元祐通宝	北宋 (1086)	5
紹聖元宝	北宋 (1094)	1
聖宋元宝	北宋 (1101)	2
大觀通宝	北宋 (1107)	2
政和通宝	北宋 (1111)	3
咸淳元宝	南宋 (1265)	1
洪武通宝	明 (1368)	9
永樂通宝	明 (1408)	18
寬永通宝		3

SK320 (1~6)



SE11 (2~7)



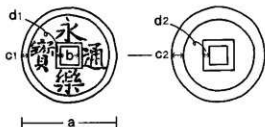
第31表 錢貨一覽(1)

遺構番号-遺物番号	錢種	a	b	c 1	d 1	c 2	d 2	厚(mm)	重量(g)	備考
S K209-1	開元元寶	24.0	6.5	2.0	1.0	3.0	1.0	1.5	2.89	同版なし
S K243-10	咸平元寶	25.0	6.0	3.0	0.5	3.5	1.5	1.0	3.02	
S K258	元祐通寶	23.0	6.0	2.0	0.5	2.0	0.1	0.5	1.02	
S K305-5	永樂通寶	25.5	6.0	2.0	0.3	2.0	0.5	1.0	2.65	
S K311-1	治平元寶	23.0	6.5	1.5	0.5	3.0	1.0	1.5	3.21	
S K311-2	開元通寶	24.0	7.0	1.5	0.5	3.0	1.0	0.5	2.83	
S K311-3	景祐元寶	25.0	7.5	2.5	0.5	3.5	1.5	1.0	2.91	
S K311-4	永樂通寶	24.5	5.5	2.0	0.5	2.0	1.0	1.0	3.02	
S K311-5	天聖元寶	24.0	6.0	2.0	0.5	3.5	3.5	1.0	3.04	
S K311-6	開元元寶	22.5	6.0	2.0	0.5	4.0	2.0	1.0	2.95	
S K312-1	開元通寶	24.5	7.5	2.0	0.5	3.0	1.0	1.0	2.70	
S K312-2	永樂通寶	25.0	5.5	2.0	0.5	2.5	1.0	1.0	3.20	
S K312-3	元祐通寶	24.5	7.0	2.0	1.0	3.0	1.5	1.0	2.87	
S K312-4	政和通寶	25.0	6.5	2.0	0.5	2.5	1.0	1.0	2.82	
S K312-5	元豐通寶	24.5	7.0	2.0	0.5	2.5	2.0	1.0	3.23	
S K312-6	永樂通寶	25.0	5.5	2.0	0.5	2.0	0.5	1.0	2.93	
S K313-3	景祐元寶	24.0	6.5	3.0	0.5	3.0	1.5	1.0	3.04	
S K313-4	至道元寶	23.5	5.5	3.5	0.5	2.5	2.0	1.0	2.95	
S K313-5	永樂通寶	25.0	6.5	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	2.30	
S K313-6	咸淳元寶	22.0	7.0	1.5	0.5	2.0	1.0	0.5	1.55	
S K313-7	皇宋通寶	25.0	8.0	2.5	1.0	3.0	1.0	1.0	2.28	
S K313-8	開元通寶	23.5	7	2.0	1.5	2.0	1	1	1.98	
S K317-2	永樂通寶	25.0	6.0	2.0	0.5	2.5	0.5	1.0	2.58	
S K317-3	永樂通寶	25.0	6.0	2.0	0.5	2.5	1.0	1.0	3.48	
S K317-4	永樂通寶	25.0	6.0	2.5	0.5	2.5	1.0	1.0	2.82	
S K317-5	永樂通寶	24.5	6.0	2.0	0.5	2.0	1.0	1.0	3.31	
S K317-6	永樂通寶	25.0	6.0	2.5	0.5	2.5	1.0	1.5	4.01	
S K317-7	永樂通寶	24.5	6.0	2.5	0.5	1.5	0.5	1.0	2.82	
S K320-1	洪武通寶	22.0	6.0	1.5	0.5	2.0	1.0	1.5	3.27	
S K320-2	開元元寶	25.0	7.0	3.0	0.5	3.5	2.5	1.0	3.04	
S K320-3	景祐元寶	24.0	6.5	3.0	0.5	3.0	1.5	1.0	2.81	
S K320-4	紹聖元寶	24.0	7.0	3.0	0.5	5.5	1.5	1.0	2.85	
S K320-5	皇宋通寶	24.0	8.5	2.5	0.5	4.0	1.5	1.0	2.64	
S K320-6	政和通寶	24.5	6.5	1.5	0.5	2.5	0.5	1.0	2.78	
S K325-1	開元元寶	23.0	7.0	2.5	1.5	4.0	2.0	1.0	1.84	
S K325-2	元豐通寶	23.0	6.5	2.0	1.5	3.0	1.5	0.5	2.70	
S K325-3	開元通寶	24.0	7.0	1.5	0.5	3.0	2.0	0.5	1.79	
S K325-4	開元元寶	24.0	7.0	2.5	0.5	1.5	1.0	1.0	3.56	
S K325-5	天聖元寶	23.5	6.5	2.0	1.0	2.0	1.5	1.0	3.10	
S K325-6	開元元寶	24.0	7.5	2.0	0.5	3.0	1.0	1.0	3.30	
S K349-2	元祐通寶	24.0	6.5	2.0	0.5	3.0	1.0	1.0	3.14	
S K349-3	開元通寶	25.0	7.5	2.0	0.5	3.0	1.0	0.5	1.92	
S K426-1	咸平元寶	24.5	6.5	3.0	0.5	3.5	1.5	1.0	1.89	
S K481-5	—	24.0	5.5	3.0	1.0	2.5	1.0	2.0	3.33	
S K503	皇宋通寶	24.0	6.5	3.5	1.0	4.0	1.0	0.5	1.63	
S K510-1	永樂通寶	25.0	5.5	1.5	0.5	1.5	0.5	1.5	2.91	
S K510-2	開元通寶	24.0	6.5	2.0	0.5	2.0	1.0	0.5	2.66	
S K510-3	—	24.0	6.5	3.0	1.0	4.0	1.5	0.5	2.03	
S K512-1	元豐通寶	25.0	6.5	2.0	1.0	3.0	1.0	1.5	2.57	
S K512-2	大觀通寶	23.5	6.5	1.0	0.5	1.0	1.5	1.0	2.47	
S K512-3	永樂通寶	24.5	6.0	1.5	0.5	2.0	1.0	1.5	3.46	
S K512-4	聖宗元寶	24.0	6.5	2.5	0.5	4.0	1.0	1.0	2.45	
S K512-5	洪武通寶	22.5	6.0	2.0	0.5	2.5	1.0	0.5	2.13	
S K512-6	永樂通寶	23.0	5.5	2.0	0.5	1.5	0.5	0.5	2.13	
S K549-1	洪武通寶	24.0	6.0	2.0	0.5	2.5	1.0	2.0	2.04	
S K621-1	皇宋通寶	24.0	6.5	2.5	1.0	—	—	1.0	1.52	
S K634-1	洪武通寶	23.0	6.0	3.0	0.5	2.0	1.0	1.5	2.91	

第32表 銭貨一覧(2)

遺構番号-遺物番号	銭種	a	b	c 1	d 1	c 2	d 2	厚(mm)	重量(g)	備考
P 6ビット1-1	洪武通宝	23.0	5.5	2.0	0.5	3.0	1.0	1.5	1.85	
S B16ビット4-1	開元通宝	25.0	7.0	2.0	0.5	2.5	1.0	1.0	2.14	
R 7ビット3-1	洪武通宝	21.0	5.5	1.5	0.5	2.0	1.0	1.5	1.85	
R 8ビット3-1	元豊通宝	25.0	6.5	2.5	0.5	3.5	1.0	1.0	2.22	
T 8ビット1-1	景元元宝	25.0	6.0	3.0	0.5	3.5	1.5	1.0	2.56	
T 8ビット1-2	—	24.5	6.5	2.0	0.5	2.0	1.0	1.0	2.47	
T 8ビット1-3	永樂通宝	26.0	5.5	2.0	0.5	3.0	1.5	1.0	2.74	
T 8ビット1-4	景祐元宝	25.0	8.5	4.0	0.5	4.5	1.0	1.0	2.42	
T 8ビット1-5	元豊通宝	24.0	6.5	3.0	1.0	3.0	2.0	1.0	3.53	
T 8ビット1-6	開元通宝	24.0	6.5	3.5	1.0	2.5	1.5	1.0	2.46	
S E11-2	天口元宝	24.5	6.5	3.0	1.0	2.5	1.5	1.0	3.25	
S E11-3	洪武通宝	24.0	6.0	1.5	0.5	2.5	0.2	1.0	2.58	背面に「新」の字あり
S E11-4	天鑑通宝	23.5	7.0	2.0	0.5	2.5	0.5	1.0	2.91	
S E11-5	洪武通宝	22.0	6.0	2.0	0.5	3.5	1.0	1.5	2.48	
S E11-6	元豊通宝	23.0	6.0	2.5	1.0	3.0	1.0	1.0	2.44	
S E11-7	祥符元宝	21.0	6.5	1.5	0.5	2.5	1.0	0.5	1.38	
S D14-1	景德元宝	24.0	6.5	1.5	0.5	2.0	1.0	1.0	3.12	
S D14-10	熙寧元宝	23.5	7.5	1.5	0.5	—	—	—	5.52	
S D14-2	祥符通宝	25.0	6.0	2.5	0.5	3.5	1.0	1.0	3.05	
S D14-3	天聖元宝	24.0	7.5	2.0	0.5	3.5	0.5	1.0	2.31	
S D14-4	天聖元宝	24.5	7.0	2.5	0.5	3.5	1.0	1.0	2.51	
S D14-5	景祐元宝	23.5	6.5	2.5	0.5	—	—	1.0	—	
S D14-6	皇宋通宝	24.5	8.0	2.5	1.0	—	—	1.0	—	
S D14-7	皇祐通宝	23.0	7.5	2.0	1.0	2.5	1.0	1.0	1.42	
S D14-8	景祐通宝	23.5	6.5	1.5	0.5	2.0	1.0	1.5	3.63	
S D14-9	熙寧元宝	24.0	6.0	2.5	0.5	3.0	3.0	1.0	3.08	
S D14-10	熙寧元宝	23.5	7.5	1.5	0.5	—	—	—	5.52	
S D14-11	元祐通宝	24.5	7	2	1	—	—	1.0	—	
S D14-12	大觀通宝	24.0	6.0	1.5	0.3	2.0	0.5	1.0	2.42	
S D14-13	政和通宝	23.0	6.5	2.0	1.0	2.0	0.5	0.5	2.20	
S D14-14	治平元宝	24.0	6.5	2.0	0.5	3.0	2.0	1.5	3.39	
S D14-15	洪武通宝	22.0	6.5	2.0	0.3	2.0	0.5	1.0	2.46	
S D14-16	永樂通宝	24.5	6.0	3.0	0.5	2.0	0.5	1.5	4.08	
S D14-17	永樂通宝	24.5	5.5	1.5	0.5	2.0	0.5	1.0	1.54	
S D14-18	永樂通宝	24.0	6.0	2.0	1.0	2.5	1.0	1.0	2.78	
S D14	不明	—	—	—	—	—	—	—	0.17	図版なし
S D16	不明	29.0	4.0	3.0	2.0	5.0	1.0	2.5	5.04	図版なし
S D16-74	寛永通宝	22.0	7.0	2.0	0.5	3.0	1.0	0.5	0.71	P-6グリッド
S D16-75	寛永通宝	22.0	6.0	2.5	0.5	3.5	1.5	0.5	1.52	S-4グリッド
Q-8グリッド	不明	—	—	—	—	—	—	—	1.17	図版なし
R-6グリッド	元祐通宝	24.0	7.0	1.5	0.5	3.0	1.5	1.0	2.52	第272図-グリッド 3
R-7グリッド	熙寧元宝	24.0	6.5	2.5	0.5	3.0	0.5	1.0	3.35	第272図-グリッド 4
R-8グリッド	不明	—	—	—	—	—	—	—	0.41	図版なし
R-8グリッド	不明	—	—	—	—	—	—	—	—	図版なし
表採	寛永通宝	—	—	—	—	—	—	—	1.07	図版なし
表採	□元通宝	22.5	7.0	1.5	0.5	3.0	1.0	0.5	1.88	第272図-グリッド 1
表採	聖宋元宝	23.0	6.5	2.0	0.5	4.0	0.5	1.0	2.24	背面に「二」の字あり 第272図-グリッド 2

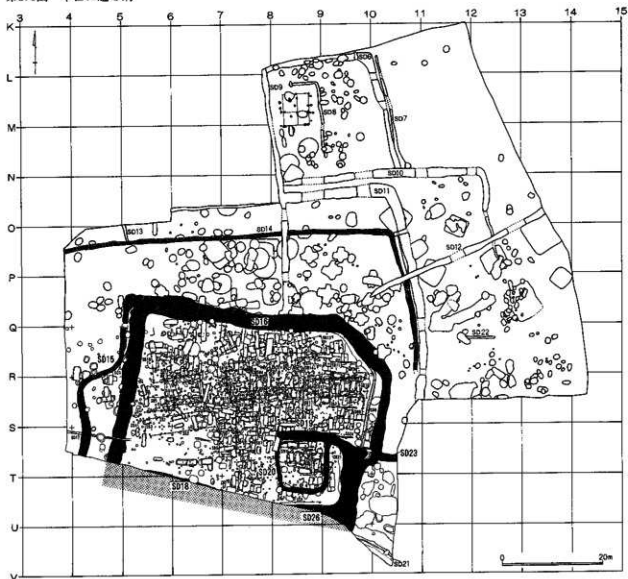
〈銭貨の計測方法〉



墳墓になるものと思われる。掘立柱建物跡との新旧関係は、土壌の方が古い場合も新しい場合もある。土壌の主軸は南北方向をとるものと、東西方向をとるものが多い。この二者を比較すると、南北方向をとる土壌の方が新しい傾向がある。人骨が出土した土壌は無かった。出土遺物は少なかったが、大半は覆土中に混入した破片であった。副葬品と考えられるのは完形の在地産皿や古瀬戸の緑軸小皿や銭貨があるが、量は少ない。副葬品として考えられる皿は第613号土壌出土在地産皿(第232図・第254図)、第792号土壌出土緑軸小皿(第242図・第255図)である。銭貨は第209号土壌・

第426号土壌・第481号土壌・第503号土壌・第549号土壌・第621号土壌・第634号土壌から1枚、第349号土壌から2枚、第510号土壌から3枚、第512号土壌から6枚出土した。銭貨のくわい内容は第31表にまとめたが、初辨年代の一番古いものは開元通寶で新しいものは永楽通寶であった。磁石も多数出土しており、副葬品であった可能性もある。炭化した木製容器の破片と思われるものが第330号土壌・第349号土壌・第372号土壌・第438号土壌・第481号土壌・第520号土壌・第617号土壌から出土した。ただし、釘は第310号土壌・第737号土壌から1点ずつしか出土していないので、前述し

第273図 中世に遡る溝



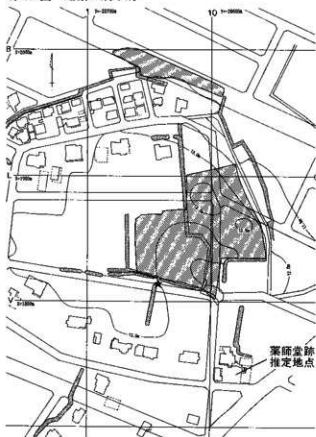
た木製容器は棺になる可能性は低い。

この形態の土壌の最下層には黒色土層が薄く堆積するものが多いので、ムシロのようなものにくるんで埋葬したのではないだろうか。

第15号溝と第16号溝で区画された中をよく見ると、土壌が希薄な部分がある(第280図)。墓道のような部分と思われる。また、土壌はいくつかの群に分かれるようである。ここではA群～I群の9群に分け、それぞれの群で主軸方向と規模を図化してみた(第279図・第281図)。平面形態が長方形で、短辺が1m前後、長辺が2m前後の土壌は墓塚としてよいのではないだろうか。

十字形の土壌は8基検出された(第276図)。第189号土壌・第192号土壌・第193号土壌・第197号土壌・第243号土壌・第251号土壌・第252号土壌・第253号土壌・第258号土壌・第813号土壌・第814号土壌がそれにあたる。この他に第230号土壌～第233号土壌、第811号土壌もこの形態をとっていたものと思われる。これらの土壌はいずれも深さが1m前後あり、覆土も締まっていた。ただし、当初から十字形であったかどうかは疑問の残るところである。第251号土壌～第253号土壌、第813号土壌・第814号土壌では長方形の土壌が重複していたことが土層観察によって確認できた(第209図、第249図)。その他の十字形の土壌では遺構の重複を土層で観察できなかった。数回掘り直した結果、最終的には十字の形態で使用し、廃棄された可能性が考えられる。また、これらの十字形土壌と隣接して検出された第246号土壌・第247号土壌・第255号土壌～第257号土壌・第259号土壌も長方形であるが深さが1m前後あり、近似した性格のものと思われる。これらの土壌をここでは「地下式墳」として考えたい。しかし、天井が崩落した痕跡はどの土壌にも観察できなかった。もともと天井が無かったのか、数度の掘り直して天井が無くなったのか、いくつか可能性が考えられる。このような十字形や天井の無い地下式墳は少ないながら報告例がある。県内では伊奈町大山遺跡(谷井他1979)、志木市城山遺跡第46号土壌(佐々木1987)、県

第274図 地割に残る溝



外では群馬県浜町屋敷C地点(飯田他1985)、栃木県古沢遺跡(木下他1992)、栃木県金山遺跡(津野1997)などで報告されている。天井と竪杭を持つ、一般的な形態の地下式墳は、今回の調査では1基しか検出されなかった。それはR-4グリッドの第352号土壌である。第16号溝と重複しているが、第352号土壌の方が古かった。地下式墳と考えられる土壌の覆土上層からは15世紀前半の古瀬戸製品が出土している。また、第244号土壌からは時期に幅を持たせて報告したが、14世紀に多く見られる形態の在地产壺が出土している。よって、これらの土壌は14世紀が中心で、15世紀中頃には使われなくなったと考えたい。また、地下式墳には墓説、倉庫説があるが、本遺跡では墓の性格をとりたい。

これらの地下式墳と考えられる十字形の土壌群はO-8グリッド～P-9グリッド付近に集中している。丁度、第16号溝の鬼門の方位にあたり、おそらく意図的にこの一画に造ったものと思われる。地下式墳と建物との間に互列規則があることは以前より指摘されて

いる(田中信1989)。今回の調査では残念ながら建物との関連は導き出せなかったが、土壇、溝、地下式墳、建物はある規制の中で構築されて行ったことは確かであろう。

出土遺物から遺跡は13世紀～16世紀にかけて存在していたことが同えた。しかし、同じ場所で遺構が密に重複し、年代を考える手掛かりとなる遺構出土の遺物が少ないため、時期別の遺構変遷図は作成することができなかった。大まかには次のように考えた。

13世紀代は遺物がわずかに出土するのみで、確実な遺構は確認できなかった。青磁は伝世した可能性もある。山茶碗や常滑産片口鉢は日常品として使われた場

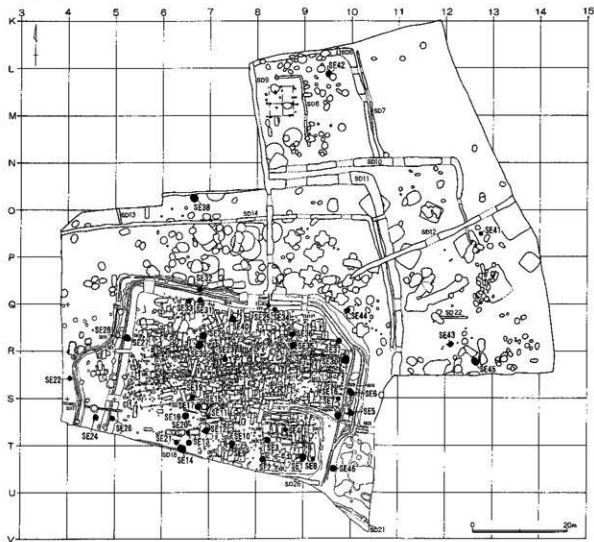
合は生活場所、蔵骨器として使われた場合は墓地として遺跡の性格が考えられる。

14世紀代は板碑が多く、在地産の鉢や壺が少量出土した。板碑は廃棄された状態で出土したので、もともとのような形で存在していたのかは不明である。地下式墳と考えられる十字形土壇と長方形土壇はこの段階に機能していた可能性が高い。

15世紀代は舶載白磁・国産陶器・在地産土釜・鉢などが出土し、遺物量・種類ともに豊富である。第16号溝で囲まれた遺構群はこの段階に機能していたと思われる。

16世紀代は板碑と在地産皿・鉢・焙烙などがある。

第275図 井戸



第16号溝で囲まれた遺構群はこの段階にも機能していたと思われる。また、P-12グリッド付近の土壌墓群もこの段階のものと思われる。

第19号溝と第20号溝で構成される方形区画溝とその中の孤立柱建物跡は16世紀を中心に、15世紀にも存在していた可能性が高い。

特に15世紀～16世紀は長方形の土壌墓が密に構築されていた。共同墓地が、はっきりした区画の中で検出されたことが本調査の大きな成果であろう。

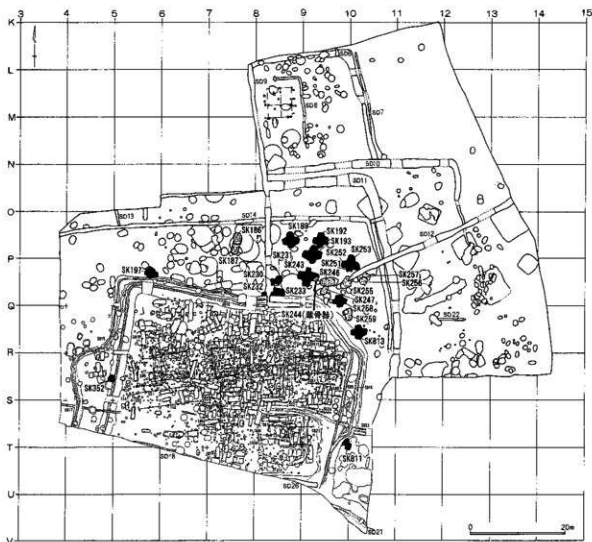
註1 隣接する向原遺跡第9号住居跡1（浜野1984）は坏部のみであるが、内野脚になるものと思われる。

註2 原遺跡（細田1985）では近世の井戸を壊して炭焼窯が築かれていたと報告された。

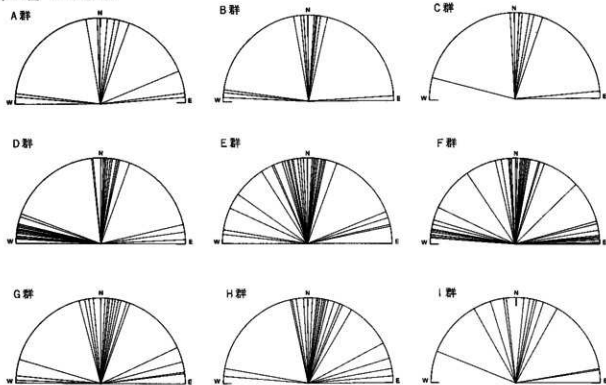
註3 小破片のため図化できなかったが、中国産の染付の可能性のある破片が2点ある。1点は第611号土壌から出土した皿の口縁部破片で、花折枝が描かれている。小野正敏氏の染付皿E群XI類の文様に似ている（小野1882）。もう1点は第19号溝から出土した破片で、渦状の密な唐草文が描かれている。近世の肥前磁器にも模倣した文様があり、今回は産地や時期の判定はできなかった。

註4 荒川正夫氏からは本遺跡出土の銭貨は本銭で、模倣銭はほとんど含まれていないのではないかと御教示をいただいた。

第276図 地下式土壌と関連遺構



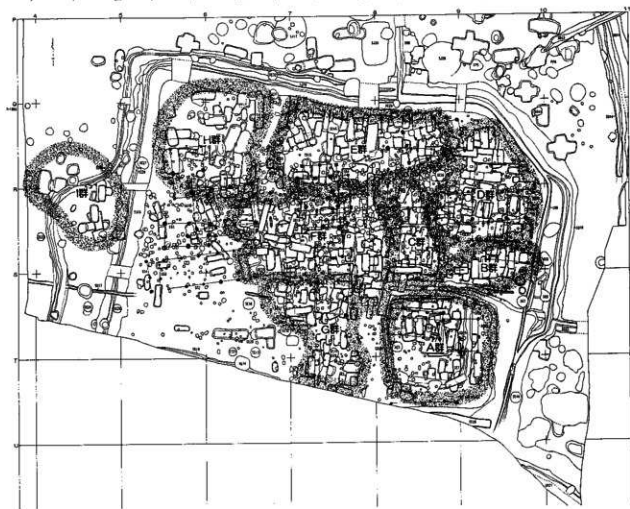
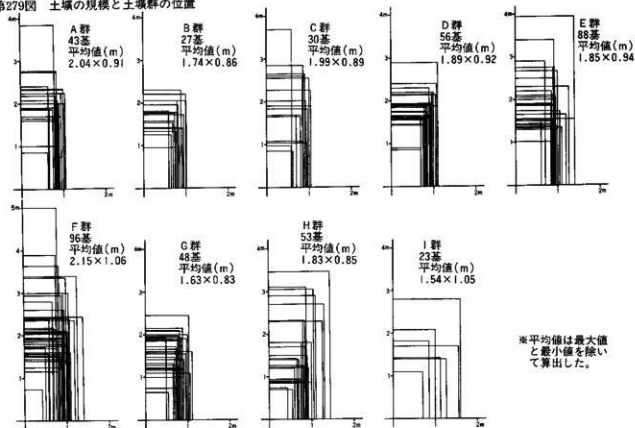
第277図 土壌の主軸



第278図 土壌の希薄な部分



第279図 土壌の規模と土壌群の位置



引用・参考文献

- 青木美代子他 1984 「赤羽・伊奈氏居跡跡」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第31集
- 赤石光實 1977 「砂ヶ谷戸1・2遺跡 東上遺跡」 越前市文化財調査報告書第9集
- 赤石光實 1987 「谷津下1遺跡」 上尾市教育委員会
- 上尾市教育委員会 1979 「1尾の板碑」 上尾市文化財調査報告書 第7集
- 上尾市教育委員会 1996 「黒山台」 上尾市史編さん調査報告書第10集
- 浅野研樹 1983 「東西における中世在地系土器について」 国史民俗博物館研究報告第31集
- 荒川正夫 1993 「中世における「河溝に囲まれた小規模集落」の問題点について」 『期古論集』 真陽社
- 荒川正夫 1997 「下戸塚遺跡の調査 第4部 中近世層—中世—」 早稲田大学校地埋蔵文化財調査室編
- 伊奈町史編纂室 1996 「伊奈の板碑」 伊奈町史資料調査報告書第13集
- 丸崎 武 1985 「中世地下式壇の研究」 『古代探果II』 早稲田大学出版会
- 小野正敏 1982 「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」 貿易陶磁研究No.2
- 小山市 1980 『小山市史』
- 曹上元博 1994 「稲荷台遺跡」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第139集
- 金子直行 1996 「大山遺跡 第9次」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第180集
- 金子直行 1997 「宇前前遺跡」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第187集
- 金子直行他 1987 「北・八幡谷・相野谷」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第66集
- 川島雅人 1982 「多摩ニュータウンNo.457遺跡」 『多摩ニュータウン遺跡 昭和61年度』 東京都埋蔵文化財センター
- 北沢実博他 1984 「東京都町田市小山田遺跡群VI (小山田No.27・3・2・1遺跡)」 小山田遺跡調査会
- 鶴橋小泉文化振興事業団 1992 「古沢遺跡」
- 小宮山克巳 1994 「八喜新地遺跡」 上尾市遺跡調査会調査報告書 第11集
- 青藤 素 1988 「多摩ニュータウンNo.692遺跡」 『多摩ニュータウン遺跡 昭和61年度』 東京都埋蔵文化財センター
- 青藤 弘 1996 「地下式壇と葬送儀礼—栃木県下の事例を中心に—」 研究紀要第4号 鶴橋小泉文化振興事業団
- 佐々木保俊 1987 「城山遺跡 長勢跡地点」
- 笹森紀子 1986 「吉野原遺跡 下加南遺跡」 大宮市遺跡調査会報告 別冊3
- 鈴木 敬他 1994 「火山遺跡」 小坂井町教育委員会
- 岡 晴彦 1985 「新町間教内遺跡C地点」 鶴橋小泉埋蔵文化財調査事業団
- 瀬戸市埋蔵文化財センター 1997 「古瀬戸をめぐる中世瀬戸の世界」の記録、 鶴橋小泉埋蔵文化財センター研究紀要第5集
- 高尾栄市他 1991 「五反田遺跡II」 五反田遺跡調査会
- 立石盛河 1984 「黒田・寺ノ台」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第32集
- 田中耕作 1990 「2光船跡・宝塚寺船跡」 新発田市埋蔵文化財調査報告書第13集
- 田中 信 1989 「地下式坑道群の配列規則について」 『愛宕神社古墳北遺跡』 川越市遺跡調査会報告書第6集
- 田中広明他 1985 「西通1遺跡」 上尾市文化財調査報告 第22集
- 谷 旬 1979 「千葉市西総教遺跡」 千葉県文化財センター
- 谷井 彪他 1979 「大山」 埼玉県遺跡発掘調査報告書 第23集
- 谷井 彪他 1981 「小堂天神前遺跡」 埼玉県立博物館
- 谷口 栄 1986 「五反田遺跡1」 円福寺西方遺跡調査会
- 津野 仁 1997 「金山遺跡V」 鶴橋小泉文化振興事業団
- 中井 均 1991 「中世の居館・寺そして村落」 『中世の城と考古学』
- 中田 英 1977 「地下式編研究の現状について」 『神奈川考古 第2号』 神奈川考古同人会
- 橋本定志 1992 「中世居館と方形形土庫遺構」 郷土考古紀要 XIX
- 浜野一重 1984 「向原・上新田・百瀬」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第41集
- 浜野美代子 1997 「東町二丁目遺跡」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第186集
- 半田敏三 1979 「本邦地下式壇の累計学的研究」 『伊知波良 2』
- 藤原高志他 1983 「ささら・帆立・馬込新屋敷・馬込大原」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第24集
- 古坂 豊他 1983 「花崎遺跡」 加須市遺跡調査会
- 細田 勝 1985 「原・丸山」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第42集
- 細田 勝 1991 「在家遺跡」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第107集
- 村田幸人 1997 「原ノ谷塚」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第179集
- 森田 勉 1982 「14～16世紀の白磁の分類と編年」 貿易陶磁研究No.2
- 小林清隆 1985 「成田市島内遺跡」 千葉県文化財センター

附編 I 薬師堂根遺跡の自然科学分析

1. 薬師堂根遺跡出土木材および炭化材の樹種同定

株式会社 古環境研究所

1. 試料

試料は、掘立柱建物跡出土の柱材1点と、炭焼き跡出土の炭化材5点の計6点である。

2. 方法

木材はカミソリを用いて新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、生物顕微鏡によって60～600倍で観察した。炭化材は割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって75～750倍で観察した。樹種同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

3. 結果

結果は表1に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

a. コナラ属クヌギ節 *Quercus sect. Aegilops* ブナ科

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、1～数列配列する環孔材である。晩材部では厚壁で丸い小道管が、単独でおよそ放射方向に配列する。早材から晩材にか

けて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属クヌギ節に同定される。コナラ属クヌギ節にはクヌギ、アベマキなどがあり、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ15m、径60cmに達する。材は強靱で弾力に富み、器具、農具などに用いられる。

b. 環孔材 *ring-porous wood*

横断面：やや大型の道管が、年輪のはじめに配列する環孔材である。早材から晩材にかけて道管の径は徐々に減少する。

放射断面：道管と放射組織が存在する。

接線断面：放射組織は1～6細胞幅のものが存在する。

以上の形質より環孔材に同定される。なお本試料は、変形しており保存状態が悪く、広範囲の観察が出来なかったため、環孔材の同定にとどまる。

表1 薬師堂根遺跡出土木材及び炭化材の樹種同定結果

試料	樹種 (和名 / 学名)
木材 (柱材)	
T7グリッド ビット1	環孔材 <i>ring-porous wood</i>
炭化材	
S F 1 C区 大型炭化物2 (南)	コナラ属クヌギ節 <i>Quercus sect. Aegilops</i>
S F 1 B区一括	コナラ属クヌギ節 <i>Quercus sect. Aegilops</i>
S F 2 D区一括	コナラ属クヌギ節 <i>Quercus sect. Aegilops</i>
S F 3 ベルト内	コナラ属クヌギ節 <i>Quercus sect. Aegilops</i>
S F 3 (古)A区一括	コナラ属クヌギ節 <i>Quercus sect. Aegilops</i>

参考文献

- 佐伯浩・原田浩 (1985) 針葉樹材の細胞。木材の構造、文永堂出版、p. 20-48。
 佐伯浩・原田浩 (1985) 広葉樹材の細胞。木材の構造、文永堂出版、p. 49-100。

2. 薬師堂根遺跡出土炭化材の年代測定

1) ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (1950年 AD) から何年前 (BP) かを計算した値。 ^{14}C の半減期は5,568年を用いた。

2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

3) 補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正值を加えた上で算出した年代。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を補正することにより、暦年代 (西暦) を算出した。補正には年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値を使用した。この補正は10,000年 BP より古い試料には適用できない。

5) 測定No

本試料の測定は、Beta Analytic Inc. (Florida, U.S.A.) において行われた。
 Beta-は同社の測定Noを意味する。

1. 試料と方法

No	試料	試料の種類	前処理・調整	測定法
1	S F 1	炭化材	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン処理	β -線計数法
2	S F 2	炭化材	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン処理	β -線計数法
3	S E 3	炭化材	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン処理	β -線計数法

2. 測定結果

試料名	^{14}C 年代 (年 BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 ^{14}C 年代 (年 BP)	暦年代	測定No Beta-
No 1	1360 ± 50	-27.4	1320 ± 50	交点 AD 685 2 σ AD 645 TO 800 1 σ AD 665 TO 770	110015
No 2	1150 ± 70	-27.9	1110 ± 70	交点 AD 970 2 σ AD 780 TO 1035 1 σ AD 880 TO 1005	110016
No 3	1340 ± 50	-27.0	1310 ± 50	交点 AD 690 2 σ AD 650 TO 855 1 σ AD 665 TO 775	110017

(2 σ : 95% probability, 1 σ : 68% probability)

附編Ⅱ 薬師堂根遺跡出土の人骨について

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

北足立郡伊奈町薬師堂根遺跡は、綾瀬川に面した台地上に立地する。今回の発掘調査により、縄文時代・古墳時代・平安時代の他、中近世の遺構・遺物が多数検出されている。

今回は、主に中世の土壌から出土した、人骨とみられる骨片や歯について鑑定を行う。

1. 試料

試料は、中世の第305号土壌・第308号土壌・第312号土壌・第314号土壌・第315号土壌・第317号土壌・第325号土壌・P-12グリッド・第36号住居跡の攪乱部分から出土した、人骨あるいは人の歯とみられる破片28点である。試料は、ビニール袋・シャーレなどに入っており、1点に複数の破片が収納されているものがあった。なお、第36号住居跡の試料は保存状態が極めて悪いため、当社にてバインダー処理を施した。

2. 方法

同定は、早稲田大学金子浩昌先生にお願いした。肉眼及びルーペ・実体鏡にて観察を行い、その結果に基づき種類・部位等を同定した。

3. 結果

今回の試料は、ほとんどが人骨と見られ、ヒトの臼歯なども含まれていた。保存状態が極めて悪く、焼骨も生の状態の骨も大部分が破片化していた。そのため、部位や性別・年齢等の所見を得ることができたものは、第325号土壌の大腿骨やいくつかの遺構から出土した歯以外非常に少ない。

以下に鑑定結果を遺構別に述べる。

第305号土壌

№11は右上顎臼歯1、№12は右上顎臼歯2であった。焼けていない。

第308号土壌

右上顎臼歯1(№1)である。焼けておらず、破片化が著しい。

第312号土壌

全ての試料は歯であった。いずれも焼けていない。切歯・犬歯・前臼歯・臼歯等が見られるが、1体分の歯列が全て揃ってはいない。また、左下顎臼歯1は2点あり、2体以上の個体が混在する可能性がある。咬耗度から見て17～35才位かと思われるが、詳細は不明である。

№5は、左上顎臼歯2。

№6は、左下顎臼歯1。

№7は、左下顎切歯1。

№8は、左下顎前臼歯1。

№9は、左下顎前臼歯3および左下顎前臼歯4、右下顎臼歯2、各1点。

№10は、左下顎臼歯1。

№11は、右下顎前臼歯3、右下顎前臼歯4、右上顎臼歯2、左上顎前臼歯4および左上顎臼歯1、各1点。

№12は、左上顎切歯、左上顎犬歯、左上顎前臼歯3および左上顎臼歯1(？)、各1点。

第314号土壌

№1～5は、全て肋骨・四肢骨等の破片？であった。焼骨と見られるが、焼けた痕跡は顕著ではない。

第315号土壌

一括試料は、全て肋骨・四肢骨等の破片?であった。焼骨であり、変形・破片化が著しい。

第317号土壌

A区一括試料および一括試料のほとんどは、肋骨・四肢骨等の破片?であった。焼けた痕跡は顕著ではない。なお、一括試料には、右上顎前臼歯3・左下顎臼歯3、各1点が含まれていた。

第325号土壌

Na5と6の試料が接合したため、一括して取り扱った。Na5の大型の試料は、成人男子(?)の左大腿骨で、遠位端を欠失しており、現存長約12cmである。他

にこの試料と同一個体であったか、これに関連すると見られるやや大型の破片が多数あったが、接合はしなかった。全ての試料は、焼けていない。

P-12グリッド

Na1～6・22は、全て肋骨・四肢骨等の破片?であった。焼骨であり、変形・破片化が著しい。

第36号住居跡攪乱部分

攪乱試料およびNa8攪乱試料は、いずれも肋骨・四肢骨等の破片?であった。そのうち攪乱試料には、左下顎臼歯2が1点ふくまれていた。骨片・歯とも、焼けた痕跡は顕著ではない。